

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011111001
開設科目名	西洋哲学特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	脇條 靖弘			区分	
授業の概要					
哲学の特定の問題を一つ取り上げ、諸哲学者の議論を手掛りにその解決の道を探究する。					
授業の一般目標					
一つの哲学的問題について深く探究する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: とりあげた問題とその解決の試みを理解する。					
思考・判断の観点: その問題について哲学的考察を加える。					
成績評価方法(総合)					
レポートによる。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
yasu@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011111002
開設科目名	西洋哲学講読			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	脇條 靖弘			区分	
授業の概要					
この授業では、英語で書かれた現代の哲学の文献を読みます。					
授業の一般目標					
英語圏の哲学の文献を読むのに慣れる。哲学用語やそれが表現する哲学に特有の概念を理解し、議論の展開を追うことができるようになる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 哲学用語や概念を理解する。					
思考・判断の観点: 哲学的議論の展開を追うことができる。					
成績評価方法(総合)					
レポートによる。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
yasu@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011111003
開設科目名	西洋哲学演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	脇條 靖弘			区分	
授業の概要					
哲学、倫理学を専門分野とする3,4年生が各自の卒論のテーマに関する研究の発表を行います。					
授業の一般目標					
各人が卒論テーマに関する研究を深める。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 発表の趣旨を理解する。					
思考・判断の観点: 他人の発表内容に関心を持つ。					
成績評価方法(総合)					
授業内での発表もしくはレポートによる。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
yasu@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011111004
開設科目名	倫理学原理論			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	円谷 裕二			区分	
授業の概要					
フランスの哲学者メルロ=ポンティ(1908-1961)を取り上げながら、彼の現象学や存在論について考察する。特に彼の身体論・真理論・言語論・芸術論などに焦点を絞りながら、デカルトやカントやヘーゲルやベルクソンやハイデッガーなどの哲学と比較しつつその哲学的意義を際立たせる。					
授業の一般目標					
心と身体 精神と物質、特殊と普遍 思考と感覚 具体と抽象、理論と実践 時間と永遠など、ギリシア以来の西洋哲学に特有な二元論的なものの見方が、いかに世界についての一面的な捉え方にすぎないかを十分に理解し、それを通して、世界と自己の真相に迫ること。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 幾人かの哲学者の考えを比較することによって哲学的な知識と理解を深めること。					
思考・判断の観点: 哲学的な知識と理解を踏まえながら、自ら考え、判断することの大切さを自覚すること。					
成績評価方法(総合)					
レポートによる。但し、講義回数の半分以上に出席した者のみにレポート提出を認める。					
教科書					
参考書					
『知覚の現象学』 / メルロ=ポンティ					
『意味と無意味』 / メルロ=ポンティ					
『シーニュ』 / メルロ=ポンティ					
『見えるものと見えないもの』 / メルロ=ポンティ					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011111005
開設科目名	西洋倫理学演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	古荘 真敬			区分	
授業の概要					
ベルクソンの講演・論文集『思想と動くもの』を読み進めていながら、彼の哲学の根本問題を明らかにすることを試みます。					
授業の一般目標					
ベルクソンは何を、如何に、何故、問おうとしているのか。彼の「問い」の輪郭を浮かび上がらせること。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: ベルクソンの「問い」の根本を理解すること。また、哲学史上の関連する他の論考についての基礎知識を得ること。					
思考・判断の観点: ベルクソンの「問い」を、みずからの「問い」との繋がりにおいて批判的に吟味すること。					
成績評価方法(総合)					
授業内での発表報告によって評価します。					
教科書					
La pensee et le mouvant / Henri Bergson : PUF					
参考書					
メッセージ					
教科書の予習が必須です。					
連絡先					
furusho[a]yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
水曜日 12:50 から 14:20					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011111006
開設科目名	中国哲学史			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	高木 智見			区分	
授業の概要					
<p>まず古代中国を学ぶ目的や意義を明示し、さらに中国の新石器時代から漢代にかけての歴史・文化を、最新の出土資料ならびに伝来文献を用いて概観したうえで、諸子百家の思想を理解することにつとめる。中国の学問は、哲学、歴史、文学というように明確に区分できず、全てが渾然一体となっている。この授業では、将来どの専門に進む場合にも必要な中国文化の本質に関する基本的知識を提供する。</p>					
授業の一般目標					
<p>中国文化が形成された先秦時代の各段階、すなわち原始村落(新石器時代)、邑制国家(夏殷周)、領域国家(春秋戦国)、統一帝国(秦漢以降)について明確なイメージを描き出し、中国古代の思想や文化を歴史的な脈に即して理解できるようにする。ただし、今年度は文献資料の分析・紹介に重点を置く。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 中国古代について全般的な知識を獲得する。 漢文や中国語の原初の段階にさかのぼって、それらに慣れ親しむ。</p> <p>思考・判断の観点: 中国古代の理解を例として、他者理解の前提は、自己の価値観から自由になるということであるという異文化理解の観点を学ぶ</p> <p>関心・意欲の観点: いま盛んに持て囃されているのは、アメリカと現代であるが、中国、古代という対極にある世界にも、豊かで、深く、すばらしい文化があったことを感じ取り、人間の文化・社会全体に対する見方を広げる。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>基本的にレポートによる。講義の内容を咀嚼したうえで、論理力および構想力により、どれほど自らの意見を表現し得ているかによって評価する。</p>					
教科書					
参考書					
メッセージ					
<p>原史料に直接触れて、古代中国の世界を身近に感じられる講義を目指す。</p>					
連絡先					
<p>satakagi@yamaguchi.u.ac.jp</p>					
オフィスアワー					
<p>人文学部5階</p> <p>火曜日16時から17時</p>					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011111007
開設科目名	中国思想史論			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	高木 智見			区分	
授業の概要					
<p>先秦時代の様々な個別の事象を、大きな歴史的背景の中に位置づけて理解する。言うまでもなく、先秦時代は、時代・地域・民族という三重の意味で異文化世界に属する。そのような世界の人々の行動や言説を理解するには、一旦、現代人としての価値観を棚上げにして、当時の人々の論理に即して理解する必要がある。本講義は、このような意味において、異文化理解の一つの試みである。本年度は、前年に引き続き、当時の戦争の具体的な状況を明らかにすることにより、国家ならびに支配者と民衆の関係を、その親和的側面に着目して考察する予定である。画像石などの画像資料を多用することにここがけたい。この講義は、私の日々の研究の内容をそのまま提示して、研究論文の作成の一例としても見てもらいたい。</p>					
授業の一般目標					
<p>講義を通じて、つまり史料の解説を通じて、先秦時代というはるか彼方の世界の人々が作りあげていた社会に入り込み、実際に体験して、再び現代世界に戻ってくるといった実感を持つことが出来るようにしたい。先秦時代は、中国文化の「核心」が形成された時期であり、この時代に対する十全な理解がなければ、真の意味での中国理解はできない、というのが私の考えである。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:左伝や国語などの伝来文献、金文や木竹簡などの出土文献を日常的に読むことによって、史料から何をどのように汲み取るのかということを理解する</p> <p>思考・判断の観点:構想に基づき史料を読み込み、立論していく過程を示し、研究論文作成に必要な一連の事柄を理解する。</p> <p>関心・意欲の観点:思想史学、歴史学、文学、考古学のいずれの分野であろうと、古代中国の様々な事象に対して、興味を感じることができるようになる。</p>					
成績評価方法(総合)					
レポートにおけるテーマの選択、構想力、論理力などを見て、総合的に判断する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
何を語っているのかではなく、史料をどのように読み、そこから何を語ろうとしているのか、その過程を見ていただきたい。					
連絡先					
人文学部五階510					
オフィスアワー					
火曜日16時から17時					
時					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011111008
開設科目名	中国思想史論			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	黄 晓芬			区分	
授業の概要					
<p>古代中国における都城と陵墓の造営は、明確な思想的背景をもち、自然景観との調和を注意深くはかり、計画性の高い設計に基づいたものである。本授業は、考古学資料を素材に文献の考察に加えて、陰陽死生を表象する二つの神聖空間を具体的に解析し、古代中国人の世界観と創造力を探究しようとするものである。</p> <p>前期の授業科目は、国家形成期における大型環壕・城郭集落から周、秦、漢、唐時代の都城建設に至るまで、史的な考察に焦点をしぼり、中国古代都城の特質を考える。</p>					
授業の一般目標					
中国思想史の面白さと奥深さを認識することができる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 中国思想史の基礎知識と概念を伝授し、モノ(遺跡・遺物)を通して理解することができる。					
思考・判断の観点: 人間の思想と社会を深く理解するため、歴史的感覚が不可欠であることを説明することができる。					
関心・意欲の観点: 現代における新日の社会問題を考える時、なにかよいヒントを提供することができる。					
技能・表現の観点: 問題意識や物事の洞察力などを少しずつ身につけることができる。					
成績評価方法(総合)					
レポート提出:問題意識、思考力、文章力を見て総合的に判断する。					
教科書					
参考書					
中国古代制度史研究 / 楊寬:上海古籍出版社, 1993					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011111009
開設科目名	中国思想史料講読			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	高木 智見			区分	
授業の概要					
<p>司馬遷の『史記』を精読する。昨年に引き続き、孔子世家を読む。テキストは瀧川亀太郎の『史記会注考証』を使用し、当然のことながら、史記集解、史記索隱、史記正義、さらに考証の見解と論理をその引用書物にわたって詳しく検討する。中国古来のいわゆる注疏の学を、史部の書の読解を通じて学ぶ。</p>					
授業の一般目標					
<p>自分の力で古代中国の資料を読み進める様々な能力ならびに意欲を獲得する。一見難しい漢文史料には、歴代学者達の真理の追求に対するすざましいエネルギーが、充ち満ちている。それを感じ取ることも重要な目標である。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 古代中国語の文法、語彙の理解の方法、調べ方など古典理解の一般的方法を身に付けて、他の分野や時代の書物に臨んでも、自分なりの対処が出来るようになる力を獲得したい。</p> <p>思考・判断の観点: 一つの文字や単語の理解の仕方如何で、全文の解釈が変わってしまうといった古代中国語理解の困難さを面白いと感じられるような思考力を養う。</p> <p>関心・意欲の観点: いわゆる漢文史料を見ても、調べれば理解できるという自信をつける</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>日常的な授業への取り組み姿勢、ならびにレポートによって、古代世界を理解しようとする積極性を基準にする</p>					
教科書					
参考書					
メッセージ					
<p>古典は、帰納的な意味解釈を重ねていけば、誰でも理解できます。難しくはありません。要するに、自分の頭で自分の読み方をすれば良いのであって、やる気と根性のみが問題です。</p>					
連絡先					
<p>人文学部5階510研究室</p>					
オフィスアワー					
<p>火曜16時から17時</p>					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011111010
開設科目名	中国思想史料講読			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	黄 曉芬			区分	
授業の概要					
<p>適当な中国思想史の文献を選び、たび重ねて読むことにする。</p> <p>例えば、史籍や関連論文、または1993年湖南省荊門市で発見された『郭店楚墓竹簡』には、『礼記』緇衣篇や『五行』と類似する内容など、儒家系史料が豊富に含まれている。それら伝世の儒家系文献と出土文献とを精読・対照することによって、儒家思想の歴史的立場について考える。</p>					
授業の一般目標					
中国思想史の文献を繰り返し精読し、史料の読み解く力を少しずつ身につけることができる。					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 古代漢語の語彙と文法を習得し、史料解読の方法を少しずつ身に付けることができる。</p> <p>思考・判断の観点: 古典の面白さを理解することができる。</p>					
成績評価方法(総合)					
レポート提出: 古典の読解力、文章の表現力を見て総合的に判断する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011111011
開設科目名	中国思想演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	高木 智見			区分	
授業の概要					
中国哲学の論文作成を目指す学生が、具体的なテーマの決定、先行研究の有無の確認ならびに検索方法、関連史・資料の収集、論文の構想ならびに論理構成などについて、それぞれの段階において報告し、参加者全員で討論しつつ授業を進めていく。					
授業の一般目標					
与えられたものを型どおりに消化する姿勢ではなく、各自が何を知りたいのか自分自身に問いかけ、求める物を明確にした上で、自らの力でそれを追求するという積極的な姿勢が望まれる。卒論の完成度は、この授業への取り組み方によって大きく異なるはずである。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 自らのテーマを確定することが出来る。 史料状況を明確に把握する。 過去の研究の蓄積を把握、消化する。					
思考・判断の観点: 自分の考えを明確にして、論理的に文章表現できるようにする。					
関心・意欲の観点: 自らが問題を発見し、自らの力で解決していく積極的な姿勢をもてるようにする。					
成績評価方法(総合)					
日常的な授業における姿勢、ならびにレポートの完成度により、判断する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
メッセージ 研究は、積極性とねばり強さだけでほとんどが決まる。					
連絡先					
人文棟五階高木研究室					
オフィスアワー					
火曜日16時から17時					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011111012
開設科目名	中国思想演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	高木 智見			区分	
授業の概要					
中国語によって書かれた論文を読み進め、中国語の語学的能力を向上させるとともに、引用されている古代漢文をも丁寧に読み、その読解能力をも養う。					
授業の一般目標					
中国語の論文に対する抵抗感を少なくする。やさしく書かれたテキストを用いる予定であるが、ある程度難しい論文でも、最後まで読み切る能力と意欲を作り出す。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 現代中国語の文法、語彙の理解の方法、調べ方などに加えて、古代漢語理解の一般的方法を身に付けて、他の分野や時代の書物に臨んでも、自分なりの対処が出来るようになる力を獲得する					
思考・判断の観点: 中国語の文章の論理展開に慣れ、自分で読みとることが可能になるようにする。					
関心・意欲の観点: 中国語の文章や漢文史料を見ても、調べれば理解できるという自信をつける					
成績評価方法(総合)					
日常的な授業への取り組み姿勢、ならびにレポートによって、受講生の学問に対する積極性を判断して、評価する					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
人文5階 高木研究室					
オフィスアワー					
火曜日15時から16時					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011111013
開設科目名	日本倫理思想史			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	豊澤 一			区分	
授業の概要					
近世の倫理思想 近世日本の倫理思想の諸相を概観します。前年度は伊藤仁斎まで解説しました。従って、荻生徂徠からはじめます。次いで、指定教科書にしたがって「国学の思想」「庶民の思想」等を対象とします。近代に及ぶかも知れませんが、福沢諭吉、中村正直等、明六社の思想家たちから。					
授業の一般目標					
日本の過去の倫理思想を理解します。そのことによって自己の考え方、ものの感じ方をとらえかえし、自己認識を深めます。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 近世の多様な思想を理解し、学外者に説明できる。					
思考・判断の観点: 日本の過去の諸思想を先入見を取り払って批判できる。					
態度の観点: 日本の過去の諸思想を先入見を取り払って理解し、追体験できる。					
技能・表現の観点: 近世の多様な思想を理解し、学外者に説明できる。					
成績評価方法(総合)					
各授業時間の最後に10分程度を費やして、授業内レポートを課します(40点)。 期末試験を実施します(60点) レポート提出に替えることもあります。					
教科書					
日本倫理思想史 / 佐藤正英: 東京大学出版会, 2003					
参考書					
メッセージ					
一見奇妙に思われる思想も詳しく聴いて(読んで)みると、賛否は別ですが、なるほどと思わないでもありません。					
連絡先					
人文学部棟 409 号研究室 TEL: (内線)5218 / e-mail: toyosawa@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
木曜日 12:50 ~ 14:20					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011111014
開設科目名	日本思想論			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	柏木 寧子			区分	
授業の概要					
<p>ハビアンを読む 本年度は、主にハビアン(1565-1621頃)の著書を読みながら、超越をめぐる日本人の思索について理解を深めます。ハビアンははじめ臨済宗を学び、19歳のとき受洗し(ハビアンは洗礼名)、イエズス会修道士となって神学を学びます。41歳のとき著した『妙貞問答』では、二人の尼僧の問答を通じて、仏法・儒教・神道の排斥ならびにキリスト教護教論を展開しますが、のちイエズス会を脱会し、晩年にはキリスト批判の書『破提字子(はたいうす)』を著します。これら著書の読解は、キリスト教思想の基本的知識を踏まえる準備作業だけでも大変かもしれませんが、できるだけの接近を試みます。諸思想の比較に挑んだハビアンの思索は、私達自身が伝統的諸思想を捉え返し、自身の超越観・宗教観とはどのようなものであるか、考えていくための手がかりにもなるだろうと思います。</p>					
授業の一般目標					
まず、不足する知識を参考書によって補いつつ、テキストの意味および論理構成を知ること。さらに、超越をめぐる日本人の思索について、テキストを手がかりに理解を深めること。					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:ハビアン(あるいはその周辺)が何を問おうとしたのか、問いを理解し、説明することができるようになる。</p> <p>思考・判断の観点:ハビアン(あるいはその周辺)が上記の問いについてどのように考えたか、思考の理路を自らたどり、批判することができるようになる。</p> <p>関心・意欲の観点:共感にせよ反感にせよ、少なくともどこか一箇所、受講者自身の問題関心に触れる(かする)点を発見し、テキストと対話する意欲をもつことができるようになる。</p> <p>態度の観点:なじみないテーマや文章であっても、投げ出さず、恣意的裁断をせず、ねばりよく読解する態度をもてるようになる。</p> <p>技能・表現の観点:自らの思考を、筋道立てて文章表現することができるようになる。</p>					
成績評価方法(総合)					
(1)授業内の小レポート(論理的な思考と文章表現、および自発的に問いを見出し追求する姿勢を求めます)。(2)期末試験(基本的な知識と理解を求めます)。なお、出席が所定の回数に満たない場合は期末試験を受けることができません。					
教科書					
参考書					
<p>『キリシタン書 排耶書』(日本思想大系25) / 海老沢有道ほか校注:岩波書店,1970</p> <p>『キリシタン教理書』(キリシタン文学双書 キリシタン研究第30輯) / 海老沢有道ほか編著:教文館,1993</p> <p>『南蛮寺興廢記・妙貞問答』(東洋文庫14) / 海老沢有道訳:平凡社,1964</p> <p>『岩波キリスト教辞典』 / 大貫隆ほか編:岩波書店,2002</p> <p>『吉利支丹文学集1・2』(東洋文庫567・570) / 新村出・柗源一校註:平凡社</p>					
メッセージ					
やむをえない事情があって欠席する場合は届け出てください。					
連絡先					
kashiwg@yamaguchi-u.ac.jp 人文学部4階410研究室					
オフィスアワー					
水曜13:00-14:00 ほかの曜日・時間帯でも可能ですので、あらかじめメール等で面会の希望をお知らせください。					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011111015
開設科目名	日本思想論			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	豊澤 一			区分	
授業の概要					
<p>本居宣長の思想に焦点をあわせ、その内実と彼のみていた思想的風景(古代像、先行する国学やその他の学問思想、アジアの宗教、宣長の後世・現代との関係)などを往還しながら、考えていきます。日本の思想家といわれながら、あらためて見ていくと、その印象は「日本的」という形容詞が的確なのか、どうか異なって見えてくることもたしかです。宣長の古代像(神々の世界)、人情のとらえかた(物語や和歌)を、宣長なりの日本の思想文化の歴史的展開のとらえ方と関連させながら、その志向していたものを解いてみます。</p>					
授業の一般目標					
<p>本居宣長の理解を深めることを通して、日本の思想とくに近世思想への問題意識と知識をひろげることがめざします。</p>					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
<p>「小テスト・授業内レポート」「宿題・授業外レポート」「出席」を、4:3:3の割合で評価します。</p>					
教科書					
参考書					
<p>日本の思想 / 清水正之:放送大学教育振興会, 2008 国学の他者像 誠実と虚偽 / 清水正之:ペリかん社, 2005</p>					
メッセージ					
<p>授業内で、感想・疑問点を書いてもらう3回ほどの小レポートを課します。</p>					
連絡先					
<p>豊澤 一(内線:5218, e-mail: toyosawa@yamaguchi-u.ac.jp)</p>					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011111016
開設科目名	日本思想文献講読			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	豊澤 一			区分	
授業の概要					
前期に引き続き、日本思想大系・日本儒林叢書等に載っている 17 世紀の儒学者の比較的短い文章を読みます。惺窩・羅山から浅見綱斎、太宰春台等まで。彼らがどのような問題と取り組み、どう解答したかを内面的に読み取っていきます。					
授業の一般目標					
藤樹、闇斎、祖考、仁斎、徂徠等は、いわば大思想家ですが、それより少し劣るかに扱われる諸思想家の著作を読みます。むしろこちらの方が当時の常識先入主を露わに示していて、後世のわたくしたちとの共通点が見えやすいでしょう。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 近世儒者の多様な思想を内面的に理解し、他の人に説明できる。					
思考・判断の観点: 近世儒者の発想と現在の我々のそれとの異同を考え、自己理解を深めることができる。					
関心・意欲の観点: 自己自身の思想とは異なる思想に興味を持ち、その意味を考える					
態度の観点: 異質な物の存在に敬意を払い、自己との同異を考える。					
成績評価方法(総合)					
レポーター、司会者の担当を決めます。学期末にはレポートの提出を求めます。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
人文学部棟 409 号研究室 TEL: (内線:5218) e-mail: toyosawa@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
木曜日 12:50 ~ 14:20					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011111017
開設科目名	日本思想文献講読			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	柏木 寧子			区分	
授業の概要					
小林秀雄『感想』を読む 前期に引き続き、小林秀雄(1902-1983)の未完のベルクソン論を読みます。1958年から5年にわたって連載され、第56回で中断した『感想』と題する論考です。前期シラバスを参照して下さい。後期は後半(『感想(下)』)を読みます。					
授業の一般目標					
恣意を排し、かつ主体的にテキストを読む姿勢・素養を涵養すること。小林が要約するベルクソンの哲学自体について、この授業で問題にすることはできませんが、少なくとも、ベルクソンに依りつつ小林が展開する議論について、その理路をたどれるようになること。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: テキストの著者が何を問おうとしているのか、基本的な問いのありかを理解し、説明できるようになる。					
思考・判断の観点: 上記の問いをめくりテキストがどのような議論を展開しているか、思考の理路を自らたどり直すことができるようになる。					
関心・意欲の観点: 共感にせよ反発にせよ、少なくともどこか一箇所、受講者の問題関心に触れる(かする)点を発見し、テキストと対話する意欲をもつことができるようになる。					
態度の観点: なじみないテーマや文章であっても、投げ出さず、恣意的裁断をひかえ、しばし著者の議論につき合うねばりづよさをもつことができるようになる。知らない言葉があったら辞書をひき、一読してわからなければ再読三読し、理路が見えにくければ図解化を試みるなど、手間・工夫をいとわず読み通すことができるようになる。					
技能・表現の観点: 自らの思考を、筋道立てて文章表現することができるようになる。					
成績評価方法(総合)					
(1)授業内の報告(テキストの精読、自分なりの視点を定めて問いを発見する姿勢、および論理的な思考と文章表現を求めます)。(2)宿題とそれをふまえての授業参加。(3)期末レポート(ただし、授業内の報告を所定の回数以上行った場合は課しません)。なお、出席が所定の回数に満たない場合は単位を取得できません。					
教科書					
『小林秀雄全作品 別巻2 感想(下)』/小林秀雄:新潮社,2005					
参考書					
『時間と自由』(岩波文庫)/ベルクソン著、中村文郎訳:岩波書店,2001					
『思想と動くもの』(岩波文庫)/ベルクソン著、河野与一訳:岩波書店,1998					
『精神のエネルギー』(レグルス文庫)/ベルクソン著、宇波章彦訳:第三文明社,1992					
『物質と記憶』(ちくま学芸文庫)/ベルクソン著、合田正人・松本力訳:筑摩書房,2007					
『意識に直接与えられたものについての談論』(ちくま学芸文庫)/ベルクソン著、合田正人・平井靖史訳:筑摩書房,2002					
メッセージ					
初回授業には必ず出席して下さい。報告者の順番を割り振ります。やむを得ず欠席した場合は、二回目の授業以前に受講意思を告げに来て下さい(テキストを入手し、予習の上授業に臨んで下さい)。 無断欠席はしないで下さい。 授業の進め方、一回の講読分量、レジュメの作成の仕方など、要望・意見・質問はいつでも遠慮なくお寄せ下さい。					
連絡先					
kashiwg@yamaguchi-u.ac.jp 人文学部4階410研究室					
オフィスアワー					
水曜 13:00-14:00 ほかの曜日・時間帯でも可能ですので、あらかじめメール等で面会の希望をお知らせください。					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011111018
開設科目名	日本思想論演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	豊澤 一			区分	
授業の概要					
前期と同じ。日本思想を卒業論文のテーマとする3、4年生を対象として、研究を具体的に指導します。受講生は、各自のテーマについて定期的に発表します。他の受講生は、その発表を聴いて知見を共有するとともに、そのテーマについて討論します。また、期末レポートを相互に批評します。					
授業の一般目標					
前期と同じ。					
論文執筆の作法を身につけることを目指します。					
日本思想に関する知見を広め、幅広い考え方ができることを目指します。					
学友の前で研究の成果を発表し、質疑応答の場を経験することによって、他者に開かれたより柔軟な態度を涵養することを目指します。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
前期と同じ。					
各自のテーマに応じた研究成果発表を課します。					
その成果を文章化する期末レポートを課します。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
テキストを内在的に理解するのが基本です。					
連絡先					
409号研究室					
TEL:(内線)5218					
e-mail: toyosawa@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
木曜日 12:50～14:20					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011111019
開設科目名	日本思想論演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	柏木 寧子			区分	
授業の概要					
<p>『ブッダの真理のことは』を読む 本年度は、様々な仏典の中でも最も古いものの一つと言われ、広く知られてもいる『真理のことは』(ダンマパダ)を読みます。日本の仏教思想文献を読む際、引用されている諸経典を参照するのは常の作業手順ですが、『法華経』や浄土三部経などの大乘仏典が自ずから多くなり、いわゆる原始仏教経典はこれまで授業でも読んでできませんでした。『法句経』の漢訳名でも知られるこの基本的経典を、注釈を頼りに読みながら、釈迦仏の思想がいかに日本に受容されたのか(あるいは変容を経て受容されたのか)、考えたいと思います。</p>					
授業の一般目標					
<p>恣意を排し、かつ主体的にテキストを読む姿勢・素養を涵養すること。いわゆる原始仏教の基本的問題関心のありかを知り、理解すること。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 釈迦仏は何を追求しようとしたのか、基本的な問いのありかを理解し、説明することができるようになる。</p> <p>思考・判断の観点: 簡潔なテキストの背後あるいは基底にどのような思考が踏まえられているのか、注釈を参照しつつ、テキストに含まれる理路を自分なりに構成し、説明することができるようになる。</p> <p>関心・意欲の観点: 共感にせよ反発にせよ、少なくともどこか一箇所、受講者自身の問題関心に触れる(かする)点を発見し、テキストと対話する意欲をもつことができるようになる。</p> <p>態度の観点: なじみないテーマや文体であっても、投げ出さず、恣意的裁断をひかえ、ねばりよく読解する態度をもてるようになる。</p> <p>技能・表現の観点: 自らの思考を、筋道立てて文章表現することができるようになる。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>(1)授業内の報告(テキストの精読、自分なりの視点を定めて問いを発見する姿勢、および論理的な思考と文章表現を求めます)。(2)宿題とそれをふまえての授業参加。(3)期末レポート(ただし、授業内の報告を所定の回数以上行った場合は課しません)。なお、出席が所定の回数に満たない場合は単位を取得できません。</p>					
教科書					
『ブッダの真理のことは 感興のことは』(岩波文庫) / 中村元訳: 岩波書店, 1978					
参考書					
<p>パーリ語『ダンマパダ』その(一)～その(五) 全5冊 / ウ・ウェーブツラ大僧正ほか監修・北嶋泰観編集: ダンマパダ(法句経)を学ぶ会, 1992</p> <p>『パーリ語仏典 ダンマパダ』アップグレード版 全1巻 / ウ・ヴィッジャーナンダ大長老監修・北嶋泰観訳注: 中山書房仏書林, 2000</p> <p>NHK 宗教の時間 「ダンマパダ」をよむ 上 ブッダの教え「今ここに」 / 片山一良: NHK出版, 2007</p> <p>NHK 宗教の時間 「ダンマパダ」をよむ 下 ブッダの教え「今ここに」 / 片山一良: NHK出版, 2007</p>					
メッセージ					
<p>初回授業には必ず出席して下さい。報告者の順番を割り振ります。初回にやむを得ず欠席した場合は、二回目の授業以前に受講意思を告げに来て下さい(資料を受け取り、次の回に読む箇所を確認し、予習をして授業に臨んで下さい)。</p> <p>無断欠席はしないで下さい。</p> <p>報告の仕方、レジュメの作り方、一回あたりに読み進める分量など、要望・意見・質問はいつでも遠慮なくお寄せ下さい。</p>					
連絡先					
kashiwg@yamaguchi-u.ac.jp 人文学部4階410 研究室					
オフィスアワー					
水曜 13:00-14:00 ほかの曜日・時間帯でも可能ですので、あらかじめメール等で面会の希望をお知らせください。					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011111020
開設科目名	日本思想論演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	柏木 寧子			区分	
授業の概要					
卒業論文演習 日本思想に関わるテーマで卒業論文を執筆する3・4年次生を対象として、各自の研究を具体的に指導します。受講生には、数週間毎に研究の途中経過を口頭報告すること、当番の回以外にも出席して議論に参加すること、を課します。時には受講生同士、互いの期末レポートを読み合い、質疑応答を行う機会も設けます。					
授業の一般目標					
2年間で各自の卒業論文を仕上げるために必要・十分なもろもろの過程を積み重ねること。柔軟な発想、精密な推論、広い視野、有機的な関心、明晰な文章、等々を獲得すること。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 受講者自身の問題関心を自覚するとともに、論文とはいかなる文章であるかを知り、卒業論文で取り組むべきテーマを適切に設定することができるようになる。また、論文執筆のための具体的手順を知り、自らに与えられた時間を適切に各手順に割り当て、計画を立てることができるようになる。					
思考・判断の観点: 論文執筆のために必須の(かつ中心的な)一手順である、各人のテキスト読解を、より広く深く精密なものへと鍛え上げるべく、受講者間の相互批評や教員による助言も活用しつつ、地道に努力することができるようになる。					
関心・意欲の観点: この思想史研究、この論文執筆が自身の現在および未来にどのような意味をもち得るかを知り(研究を職とするわけでもなくとも、皆さんの現在・未来に何かしら意味をもつものであってほしいと思います)、主体性をもって取り組むことができるようになる。					
態度の観点: 論文執筆の諸作業の中に不得手のものがあったり、また、まとまった時間をとるのに苦心する状況にあっても、投げ出さず、最後まで努力を続けることができるようになる。					
技能・表現の観点: 論文執筆の作法に従って論文を完成できるようになる。					
成績評価方法(総合)					
(1)授業中の口頭発表。(2)期末レポート(3000字程度)。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
無断欠席はしないで下さい。研究上の疑問等は授業時間外でも随時相談に来て下さい。教員からの連絡(メール等)を受け取れる状態にしておいて下さい。					
連絡先					
kashiwg@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
水曜 13:00-14:00 ほかの曜日・時間帯でも可能ですので、あらかじめメール等で面会の希望をお知らせください。					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011111021
開設科目名	宗教学概論			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	ALAM DJUMALI			区分	
授業の概要					
<p>「現代日本、バリ、ジャワ、アボリジニに見る宗教的(精神的)世界」をテーマとする。この4地域の宗教について、それぞれ、3回から4回の授業を行う。</p> <p>これらの具体的な宗教事例を通して、宗教とは何か、そのメカニズムと捉え方について、考えていく。世界宗教として知られる制度化した宗教というより、民間信仰や自然宗教、そして「文化としての宗教」や「生活の中の宗教」の存在、役割、諸側面のほうに注目する。全体として宗教現象には、人間の行為、思考、生活様式、観念、規範などに関する、どのようなパターン・傾向・枠組みがあるのかを探っていく。</p> <p>毎回の授業は、おおよそ次の段取りで行う。</p> <p>小テスト/小レポート(約10分)。</p> <p>講義(約45分)。</p> <p>グループディスカッション+代表者発言+解説・総括(約30分)。</p> <p>テキスト/教科書は用いないが、各テーマについて毎回、レジュメ(ときには参考資料のコピー)を事前に配布し、予習を促す。</p>					
授業の一般目標					
<p>宗教という言葉が、いろいろな側面、定義、解釈、見方があって理解しにくくなったいま、宗教を、一方では人間にとつての普遍的な心の機能・メカニズムとして位置づけ、他方では個々の固有な文化現象として捉え、ダイナミックかつ包括的・本質的な枠組みと視点に親しむこと。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:宗教学に関する主要な課題について一定の理解と知識を身につけること。</p> <p>思考・判断の観点:個々の宗教現象について、一定の視点から分析できるようになること。</p> <p>関心・意欲の観点:授業中の良識ある態度(私語しないこと、遅刻と途中退室しないこと、居眠りしないこと、など)。</p> <p>態度の観点:授業中の良識ある態度(私語しないこと、遅刻と途中退室しないこと、居眠りしないこと、など)。</p> <p>技能・表現の観点:レポートによる記述力と表現力。</p> <p>その他の観点:宗教現象を捉える感性と感受性を磨くこと。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>* 授業内小レポート/小テストを12回課す。</p> <p>* 中間レポートと最終レポートをそれぞれ1回課す。</p> <p>* 中間レポートと最終レポートは、「文章を中心とするレポート」と「描写・描画を中心とするレポート」のいずれかを選択できるようにする。</p> <p>* 参加者は一学期を通して、何回の授業・レポート/小テストに参加する必要があるのかについては、最初の授業のときに知らせる(一定の余裕がある)。</p>					
教科書					
参考書					
メッセージ					
<p>授業はできるだけ体系的にわかりやすく、範囲を限定して行う。授業に出ることによって参加者が、毎回または全体として、宗教学に関する一定の内容と枠組みを身につけることを目指す。そのためには、参加者のほうも、毎回の授業に出席し、多少の復習をする必要がある。</p>					
連絡先					
<p>ジュマリア・アラム / 電子メール:djumali@yamaguchi-u.ac.jp / ホームページ:http://alam.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/ / 電話(研究室):083-933-5220 / 研究室:人文学部413号室</p>					
オフィスアワー					
<p>随時</p>					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011111022
開設科目名	比較宗教論・特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	ALAM DJUMALI			区分	
授業の概要					
<p>前期の宗教学特殊講義は「宗教と女性」をテーマとする。</p> <p>次のような問いを出発点とする。「ジェンダー／性差とは何か」「シャーマン(巫女など)や呪術師・妖術師(魔女など)の担い手とされるのはなぜ女性が多いのか」「なぜどの文化圏にも『母なる大地』という概念・思想が存在するのか」(なぜ女性＝自然なのか)「宗教と女性はどう関係するのか」</p> <p>全体として、次のようなテーマを扱う。「女子割礼」「優生学と不妊手術」「中世の魔女狩りに見る宗教と女性の関係」「日本における女性シャーマン」「柳田国男による日本の宗教と女性の関係」「現代日本の生活から見る宗教と女性」「日本の新宗教に見る宗教と女性」「女性性と現代組織のメカニズム」「女性の聖性に介入する科学(生殖医療など)」「現代映画に見る女性性」</p> <p>毎回の授業は、おおよそ次の段取りで行う。</p> <p>小テスト/小レポート(約10分)。</p> <p>講義(約45分、映像資料を交える場合が多い)。</p> <p>講義(約30分、解説・総括)、またはグループディスカッション+代表者発言+解説・総括(約30分)。</p> <p>テキスト/教科書は用いないが、各テーマについて毎回、レジュメ(ときには参考資料のコピー)を事前に配布し、予習を促す。</p>					
授業の一般目標					
<p>「宗教と女性」の課題について、資料的な情報を知って考えるだけでなく、深く想像して顧みながら、その本質の体系化を試みる。最終的には、宗教学という学問分野から見た「宗教とは何か?」および「宗教と女性の関係とは?」という課題について、一定の図式と枠組みを身につけ、個々の宗教とジェンダーにまつわる現象を一定の視点をもって捉えたり分析したりできるようになることを目指す。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:宗教学と「宗教学から見たジェンダー問題」に関する主要な課題について一定の理解と知識を身につけること。</p> <p>思考・判断の観点:個々の宗教とジェンダー現象について、一定の視点から分析できるようになること。</p> <p>関心・意欲の観点:日常生活における身近な宗教現象について関心を抱くこと。</p> <p>態度の観点:授業中の良識ある態度(私語しないこと、遅刻と途中退室しないこと、居眠りしないこと、など)。</p> <p>技能・表現の観点:宗教とジェンダー現象に関する記述力を養うこと。</p> <p>その他の観点:宗教とジェンダー現象を捉える感性を磨くこと。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>* 授業内小レポート/小テストを12回課す。</p> <p>* 中間レポートと最終レポートをそれぞれ1回課す。</p> <p>* 中間レポートと最終レポートは、「文章を中心とするレポート」と「描写・描画を中心とするレポート」のいずれかを選択できるようにする。</p> <p>* 参加者は一学期を通して、何回の授業・レポート/小テストに参加する必要があるのかについては、最初の授業のときに知らせる(一定の余裕がある)。</p>					
教科書					
参考書					
メッセージ					
<p>授業はできるだけ体系的にわかりやすく、範囲を限定して行う。授業に出ることによって参加者が、毎回または全体として、宗教学に関する一定の内容と枠組みを身につけることを目指す。そのためには、参加者のほうも、毎回の授業に出席し、多少の復習をする必要がある。</p>					
連絡先					
<p>ジュマリ・アラム / 電子メール: djumali@yamaguchi-u.ac.jp / ホームページ: http://alam.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/ / 電話(研究室): 083-933-5220 / 研究室: 人文学部413号室</p>					
オフィスアワー					
随時					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011111023
開設科目名	宗教学文献講読			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	ALAM DJUMALI			区分	
授業の概要					
この授業で扱う資料は、文献資料と映像資料の両方である。					
文献資料のほうは、現代日本の成立宗教と民俗宗教(民間信仰)に焦点を絞る。					
映像資料のほうは、現代日本の生活の中の宗教(都会の暮らし、農村の暮らし、教育・学校の問題、女性・ジェンダー問題、少数民族、差別問題、科学と倫理の問題、絵画・舞踊・演劇・お笑い、スポーツ・格闘技・レジャー、など)に焦点を絞る。					
こうした二つの宗教的領域について、資料を通して捉え、宗教学的な「解釈」「読み」「分析」を行い、「宗教とは何か?」という究極的な課題に対して、その本質とメカニズムを、動的に、また自らの生活に顧みて共感しながら、一定の理解を試みる。					
毎回の授業は、おおよそ次の段取りで行う。					
一定の問いに対する小グループディスカッション。					
代表者・参加者からの発言。					
フリーディスカッションと解説。					
翌週の資料の配布または説明					
映像資料の場合は、演習室(人文412号室)に共同視聴用のDVDを一枚おくので、学生は時間を選んで当日までその部屋で視聴して予習するという方式になる。					
授業の一般目標					
宗教が人間と社会の生活にいかにか深く浸透し、不可避的に伴うものであり、また根源的な役割を果たしているということを、一定の分析的な体系と枠組みをもって捉えらるようになること。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 宗教学のアプローチと枠組みを身につけること。					
思考・判断の観点: 個々の宗教現象について、一定の視点から分析できるようになること。					
関心・意欲の観点: 日常生活における身近な宗教現象について関心を抱くこと。					
態度の観点: 授業中の良識ある態度(私語しないこと、遅刻と途中退室しないこと、居眠りしないこと、など)。					
技能・表現の観点: 宗教学の理論・学説および宗教現象に関する記述力を養うこと。					
その他の観点: 宗教現象を捉える感性を磨くこと。					
成績評価方法(総合)					
* 中間レポートと最終レポートをそれぞれ1回課す。					
* 中間レポートと最終レポートは、「文章を中心とするレポート」と「描写・描画を中心とするレポート」のいずれかを選択できるようにする。					
* 参加者は一学期を通して、何回の授業・レポート/小テストに参加する必要があるのかについては、最初の授業のときに知らせる(一定の余裕がある)。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
授業はできるだけ体系的にわかりやすく、範囲を限定して行う。授業に出ることによって参加者が、毎回または全体として、宗教学に関する一定の内容と枠組みを身につけることを目指す。そのためには、参加者のほうも、毎回の授業に出席し、多少の復習をする必要がある。					
連絡先					
ジュマリア・アラム / 電子メール:djumali@yamaguchi-u.ac.jp / ホームページ:http://alam.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/ / 電話(研究室):083-933-5220 / 研究室:人文学部413号室					

オフィスアワー
随時

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011111024
開設科目名	宗教学研究実習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	ALAM DJUMALI			区分	
授業の概要					
山口県内で行われる祭りや儀式(神道系、仏教系、民俗宗教系、生活宗教系など)の見学・観察を通して、宗教に関する理解を深める。					
授業の一般目標					
宗教が人間と社会の生活にいかにか深く浸透し、不可避免的に伴うものであり、一方では人間生活にとって根源的な役割を果たしているが、他方では形骸化に陥ったり社会・文化的な問題をもたらしたりする場合がある、ということを一定の分析的な体系と枠組みをもって捉えらるようになること。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 宗教学のアプローチと枠組みを身につけること。					
思考・判断の観点: 個々の宗教現象について、一定の視点から分析できるようになること。					
関心・意欲の観点: 日常生活における身近な宗教現象について関心を抱くこと。					
態度の観点: 授業中または実習中は、明るく元気に積極的に振る舞い、ただし節度を守ること。					
技能・表現の観点: 宗教学の理論・学説および宗教現象に関する記述力を養うこと。					
その他の観点: 宗教現象を捉える感性を磨くこと。					
成績評価方法(総合)					
最終レポートを課す。最終レポートは、「文章を中心とするレポート」と「描写・描画を中心とするレポート」のいずれかを選択できるようにする。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
できるだけ、県内を旅し、人々と交流し、生活の根底に流れる見えない力に触れてみるという、有意義かつ楽しい授業にしたいと思います。					
連絡先					
ジユマリ・アラム / 電子メール:djumali@yamaguchi-u.ac.jp / ホームページ:http://alam.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/ / 電話(研究室):083-933-5220 / 研究室:人文学部413号室					
オフィスアワー					
随時					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011111025
開設科目名	芸術論概説			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	藤川 哲			区分	
授業の概要					
<p>西欧の代表的な美術館のコレクションを紹介します。いくつかの美術館を見ていくうちに、古代エジプトやギリシア、ローマから中世、ルネサンス、バロックを経て、近代の印象派や現代美術までの流れを自然と把握できるようになっているでしょう。また、それぞれの美術館を代表する作品の作者や時代、表現様式などについて理解を深め、それぞれの美術館コレクションの成り立ちを社会背景とともに読み解きます。</p>					
授業の一般目標					
<p>一、西欧の代表的な美術館コレクションについて詳しく知る。 二、西欧美術史の流れを理解する。 三、美術館コレクションとその社会背景について理解する。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 西欧美術史上の代表作について、所蔵館と制作された時代、表現の特徴などを専門用語等を用いて説明ができる。 思考・判断の観点: 都市の歴史や文化風土の結晶という観点から美術館コレクションを考察し、論じることができる。 関心・意欲の観点: 自ら美術作品の鑑賞体験と幅広い読書体験とを養うことに努める。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>試験: 100点満点×0.7(計70点) 課題レポート: 10点 出席: 13回 = 13点(欠席毎マイナス1点 例: 欠席3回=出席点10点) 最初の1回をカウントしない 授業態度等の調整点: 全回出席者にプラス2点 そのほか授業への参加度をオピニオンシートの回答等をもとに5～10点の範囲で加算</p>					
教科書					
参考書					
<p>西洋美術史ハンドブック / 高階秀爾ほか編: 新書館, 1997 カラー版西洋美術史(増補新装版) / 高階秀爾監修: 美術出版社, 2002 世界美術大全集 西洋編(全28巻+別巻) / 青柳正規ほか: 小学館, 1995 講談社版 世界の美術館(全24巻) / 矢代幸雄ほか: 講談社, 1965 NHK ルーブル美術館 / 高階秀爾監修: 日本放送出版協会, 1985</p>					
メッセージ					
<p>2008年度から新たに始めた内容ですが、とても好評です。多くの学生が「高校までに教科書などで見たことはあったが詳しい解説を聞いてよかった」、「1度は自分の目で本物を見てみたい」という感想を書いてくれました。今年度は、ミラノの代わりにヴェネツィアを紹介することし、チューリッヒの代わりにパリを1回増やしました。</p>					
連絡先					
fujikawa@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
人文学部の研究室417にて水曜日午後					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011111026
開設科目名	西洋哲学特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	青山 拓央			区分	
授業の概要					
人間が何かを選択する際、歴史上の分岐点では何が起きているのか。この問題を、様相(可能性)や言語や時間の観点から、哲学的なパズルとしてではなく、リアリティのある問題として解説・検討します。質疑応答等での、活発な参加を期待します。					
授業の一般目標					
概要に記した問題を素材に、さまざまな論点を伝えることで、学生が個々の論点を発展させることを目標にします。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 分析哲学を中心に、哲学の基本的な道具立てを学ぶ。					
思考・判断の観点: 可能世界論などの学習成果を、自分自身の思考(レポート)に役立てる。					
関心・意欲の観点: 質疑応答等、授業への積極的な参加が期待される。					
技能・表現の観点: 論理的なレポートの作成に取り組む。					
成績評価方法(総合)					
初回の授業で説明しますが、レポートでの採点を行なう予定です。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011111027
開設科目名	宗教学演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	ALAM DJUMALI			区分	
授業の概要					
<p>参加者各自が研究したい、または関心のある宗教現象を取り上げ、宗教学的な考察と分析を行う。宗教学の領域範囲内の自由発表形式となるが、宗教学的な視点・枠組み・理論・方法論が十分に活かされるように、プレゼンテーションの準備段階または初回のプレゼンテーションで、個別的な指導やアドバイスをを行い、実際のプレゼンテーションや次回のプレゼンテーションにおいて反映されるようにする。</p>					
授業の一般目標					
<p>宗教が人間と社会の生活にいかにか深く浸透し、不可避的に伴うものであり、一方では人間生活にとって根源的な役割を果たしているが、他方では形骸化に陥ったり社会・文化的な問題をもたらしたりする場合がある、ということを一定の分析的な体系と枠組みをもって捉えらるようになること。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:宗教学のアプローチと枠組みを身につけること。 思考・判断の観点:個々の宗教現象について、一定の視点から分析できるようになること。 関心・意欲の観点:日常生活における身近な宗教現象について関心を抱くこと。 態度の観点:宗教に関するいろいろな課題について積極的に知ろうとすること。また授業中はできるだけ気楽に、明るく、元気に、積極的に参加すること。 技能・表現の観点:宗教学の理論・学説および宗教現象に関する記述力を養うこと。 その他の観点:宗教現象を捉える感性を磨くこと。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>最終レポートを課す。最終レポートは、「文章を中心とするレポート」と「描写・描画を中心とするレポート」のいずれかを選択できるようにする。</p>					
教科書					
参考書					
メッセージ					
<p>日常生活のあらゆる場面を「様式と媒体」の次元として見て、その背後にある精神的な世界とのつながりを語る事ができたら、それだけで、それは立派な宗教学的考察になります。</p>					
連絡先					
<p>ジュマリ・アラム / 電子メール: djumali@yamaguchi-u.ac.jp / ホームページ: http://alam.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/ / 電話(研究室): 083-933-5220 / 研究室: 人文学部 413 号室</p>					
オフィスアワー					
<p>随時</p>					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011112001
開設科目名	芸術論特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	藤川 哲			区分	
授業の概要					
この講義では、国内外で開催されている国際美術展の現況について解説します。デジタル画像やビデオの上映を交えながら国際美術展の歴史、代表的な国際美術展を紹介したのち、特に1990年代以降の地球規模化をめぐる今後の課題について、ヨーロッパとアジアとの対比の中で考察します。					
授業の一般目標					
一、国際美術展の現況について理解する。 二、国際美術展の歴史について理解する。 三、地球時代の現代美術に対する問題意識をもつ。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 代表的な国際美術展について説明できる。					
思考・判断の観点: 国際美術展の地球規模化について肯定的な側面と課題とを指摘できる。					
関心・意欲の観点: 自ら国際美術展を見に出かける。あるいは、インターネット上の関連サイト、新聞、雑誌で国際美術展に関する情報を収集する。					
成績評価方法(総合)					
期末試験の成績を基礎として、中間レポートの提出の有無や出席点などを加えて総合的に評価します。詳しくは講義最初のオリエンテーションで説明します。					
教科書					
参考書					
ヴェネツィアと日本：美術をめぐる交流 / 石井元章:ブリュッケ, 1999 12人の挑戦 大観から日比野まで / 水戸芸術館現代美術センター企画・監修: 茨城新聞社, 2002 ヴェネチア・ビエンナーレ 日本参加の40年 / 国際交流基金, 毎日新聞社編: 国際交流基金, 1995 アートマネジメント / 伊東正伸ほか: 武蔵野美術大学出版局, 2003 記録集 横浜会議 2004「なぜ、国際展か?」 / 加藤慶ほか編集: BankART1929, 2005					
メッセージ					
特殊講義ですので、普通講義よりも専門的な内容になります。国際美術展は講師が専攻している研究課題です。最新の知見をご紹介しますが、その反面講義中に出てくる言葉は耳慣れないものが増えるでしょう。今年度は、2008年に調査したシドニーや光州の国際美術展を紹介します。					
連絡先					
fujikawa@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
人文学部の研究室 417 にて水曜日午後					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011112002
開設科目名	芸術論特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	田中 均			区分	
授業の概要					
<p>「ツアー・パフォーマンス」研究</p> <p>「ツアー・パフォーマンス」とは、演劇集団PortBが2006年から行っている新しい形態の演劇です。観客は客席に座って舞台を見るのではなく、さまざまな演出が仕掛けられた都市空間の中を移動する、というのがその基本的な特徴です。</p> <p>この授業では「ツアー・パフォーマンス」についていくつかの側面から美学的に分析します。</p> <p>また、現代演劇についての理解を深めるため、山口情報芸術センター（YCAM）で滞り制作中のアーティストによるレクチャー・ワークショップを予定しています。</p> <p>注意：この科目は「美学」の授業であり、「美術史」の授業ではありません。</p>					
授業の一般目標					
「ツアー・パフォーマンス」の基本的な特徴を理解する。					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:「ツアー・パフォーマンス」のいくつかの特徴を挙げることができる。</p> <p>思考・判断の観点:「ツアー・パフォーマンス」と他のいくつかの芸術ジャンルとの違いを判断できる。</p> <p>技能・表現の観点:「ツアー・パフォーマンス」について自らの思考を表現することができる。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>中間試験を受験すること、学期末のレポート(下記参照)を提出すること、授業に50%以上出席することが単位認定の必要条件です。</p> <p>レポート題目(予定):美学・芸術学に関する書物、あるいは芸術現象の一つ以上とりあげ、簡潔に紹介した上で、問題提起・批判・補足など、独自の考察を加えること。ただし、その考察を、授業において取りあげた理論一つ以上と関連づけること。</p> <p>分量:2000字程度</p> <p>注意:レポートは「感想文」や大学入試の「小論文」とは異なります。授業用のハンドアウトだけを読んで思いついたことを書くのではなく、論じたい対象について、自ら本・論文などの資料にあたって調べ、それをもとに論理的・批判的な議論を展開することが必要です。</p> <p>(レポートの添削を希望する場合は、最終週の授業の前後(詳しくは授業中に指定します)までに提出して下さい。一週間以内に添削して返却しますので、修正のうえ、再提出して下さい)</p>					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
tanakahi@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
木曜 12:50～14:20(事前に連絡して下さい)					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011112003
開設科目名	美術史実習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	藤川 哲			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011112004
開設科目名	美術史実習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	田中 均			区分	
授業の概要					
演劇理論を読む					
<p>「演劇」とは、劇場の中で俳優が戯曲に従って演技することである、という常識は近年急速に解体しつつあります。この授業では、演劇というジャンルの可能性について論じたいいくつかの文献を講読します。</p> <p>映像資料を適宜参照するほか、授業の枠内で舞台公演を見学する可能性があります。その場合は積極的に参加して下さい。</p>					
<p>注意:この科目は「美学」の授業であり、「美術史」の授業ではありません。</p> <p>(下のメッセージも読んで下さい)</p>					
授業の一般目標					
演劇というジャンルが多様な可能性を持つことを理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 演劇についてのいくつかの理論を説明することができる。					
思考・判断の観点: 演劇についていくつかの議論を読み、その立場の違いを区別することができる。					
技能・表現の観点: 演劇について自らの思考を表現することができる。					
成績評価方法(総合)					
授業中の報告と学期末のレポートによって評価します。					
教科書					
参考書					
演劇論の変貌 今日演劇をどうとらえるか / 毛利三彌(編):論創社,2007					
ポストドラマ演劇 / ハンス=ティース・レーマン:同学社,2002					
メッセージ					
講読という授業の性格上、受講者には積極的な議論への参加と十分な予習を求めます。					
連絡先					
tanakahi@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
木曜 12:50～14:20(事前に連絡して下さい)					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011112005
開設科目名	美術史・芸術論演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	藤川 哲			区分	
授業の概要					
受講者の研究テーマによる発表と、発表に対する質問、討論を中心とした演習です。					
授業の一般目標					
一、自分の考えを持ち、それを人にわかりやすく発表できる。					
二、人の発表を聞いて、建設的な発言、討議ができる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 自らの研究テーマについて幅広く知識を身につける。					
思考・判断の観点: 他の受講生の研究テーマも含めた美学・美術史の全体像の中に、自らの研究テーマを位置づける。					
関心・意欲の観点: 自分の関心の所在を見定め、必要な文献を収集し、研究の進行過程を文章で記録する。					
成績評価方法(総合)					
発表内容、期末レポート、討論での発言や授業の参加度などにより総合的に判断します。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
まず、なるべくたくさん論文を読みましょ。それから、自分の研究課題にあった論文が探し出せるようになりましょ。そして、自分で調べたことをきちんと文章化したり、発表できるようになりましょ。					
連絡先					
fujikawa@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
人文学部の研究室 417 にて水曜日午後					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011112006
開設科目名	美術史・芸術論演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	田中 均			区分	
授業の概要					
この授業では、二つのことを行います。 受講者の卒業論文の研究について、構想の報告、先行研究の批判的紹介、論文の一部の発表を行います。 最近の美学の重要な文献として、ニコラ・ブリオ『関係性の美学』の英訳を講読します。					
注意: には、担当教員が指導する学生だけが参加できますが、 にはそれ以外の学生も参加できます。					
授業の一般目標					
卒業論文を書くために必要な諸段階について理解する。 英語で文献を読むことの意義について考える。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 『関係性の美学』のいくつかの論点を説明することができる。					
思考・判断の観点: 先行研究を踏まえて自らの研究の独自性を判断することができる。					
技能・表現の観点: 自らの研究成果を論文として適切に表現することができる。					
成績評価方法(総合)					
受講者の報告内容に従って採点します。					
教科書					
参考書					
レポート・論文の書き方 上級 改訂版 / 櫻井雅夫:慶應義塾大学出版会, 2003					
レポート・論文の書き方入門 第三版 / 河野哲也:慶應義塾大学出版会, 2002					
新版 論理トレーニング / 野矢茂樹:産業図書, 2006					
メッセージ					
連絡先					
tanakahi@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
木曜 12:50～14:20(事前に連絡して下さい)					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011112007
開設科目名	日本史概論			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	橋本 義則			区分	
授業の概要					
日本の古代宮都(宮殿と都城)は律令を基本とした日本における古代統一国家の首都である。そしてその構造は古代国家の政治体制を直接的に反映していると考えられる。それゆえに宮都の構造上の変化は古代国家の政治体制、さらに国家自身の変化をも意味することになる。本授業では、このような観点のもと、飛鳥時代から平安時代の宮都をめぐる諸問題を具体的に取り上げて古代宮都の実態をできる限り明らかにするとともに、さらに日本の古代についても考えを及ぼしてみたい。今学期は特に平城宮と平城京を中心に奈良時代の宮都について述べることとする。					
授業の一般目標					
宮都の歴史的展開過程を理解することを通じて、日本古代の歴史を再確認するとともに、研究上の常識や通説を疑い学問・研究する姿勢を養う。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 授業で講じられた、奈良時代の宮都個々について正確に説明できる。					
思考・判断の観点: 授業で講じられた、奈良時代の宮都の変遷について歴史的観点から論理的に説明できる。					
関心・意欲の観点: 歴史及び歴史学への興味・関心をいだく。					
態度の観点: 学問上の常識や通説を疑う姿勢を養う。					
技能・表現の観点: 正しい日本語(書き言葉)で自分の意見を論理的に表現できる。					
成績評価方法(総合)					
学期末定期試験による。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
高等学校で日本史の授業を受講し、飛鳥・奈良・平安の各時代について高等学校修了程度の予備知識をもっていることが望ましい。また講義レジュメのダウンロードと受講のためにノートパソコンを携行することが必要。					
連絡先					
y-hasi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室:人文学部3階					
オフィスアワー					
時間のあるときはいつでも					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011112008
開設科目名	古文書・古記録			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	橋本 義則			区分	
授業の概要					
<p>この授業では平安時代の貴族が記した日記を翻刻されたテキストに従いつつ読み進めていきます。撰録時代に活躍した藤原実資の日記『小右記』を読んでいます。この授業は史料講読に準ずる内容のものであり、それと同様に受講者が分担して史料を読み、それに基づく解説を行います。担当した箇所についてはレジュメの作成が必須です。また、レジュメの作成に当たっては当時の貴族の世界を詳しく知るために図面や系図、あるいは儀式書や法制書などからの引用が必要になってきます。授業では受講生全員が担当の有無に関わりなく、毎回十分な下調べをした上で出席することが必要で、しばしば指名して意見を求めます。</p>					
授業の一般目標					
平安時代の標準的史料である貴族の日記を読解する力を養成する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 平安時代の貴族の日記を読みこなすための基礎的知識を獲得する。					
思考・判断の観点: 様々な史料を用いて日記の内容を論理的に解釈する力を身につける。					
関心・意欲の観点: 古代貴族の日常生活に関心・興味を抱く。					
態度の観点: 学問上の常識や通説を疑う姿勢を養う。					
技能・表現の観点: 1,古代の典型的漢文史料を正しく訓読・読み下し及び解釈できる。2,正しい日本語(書き言葉)で自分の意見を論理的に表現できる。					
成績評価方法(総合)					
1,学期末試験期間に試験を実施する。2,出席が所定の回数に満たないものには試験を受ける資格を与えない。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
<p>本授業では授業時に受講生全員がパソコンを持ち込み、使用することが期待される。毎回の担当者はあらかじめワードを用いて報告に必要な配布資料を作成し、授業時に参加者全員にワードのファイルで配布することが義務づけられる。また資料の作成に当たってはスキャナーなどの周辺機器の活用も必要とされる。</p>					
連絡先					
y-hasi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室:人文学部3階					
オフィスアワー					
時間のあるときはいつでも					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011112009
開設科目名	古文書・古記録			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	真木 隆行			区分	
授業の概要					
<p>題目: 中世の古文書(前期)</p> <p>概要: 中世文書の写真コピーを使い、文書様式の基礎も踏まえながら読解を行う。</p>					
授業の一般目標					
<p>(1)中世の古文書について、くずし字判読能力を養う。</p> <p>(2)中世の古文書について、内容解釈力を養う。</p> <p>(3)中世の文書様式の基礎を学ぶ。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:(1)中世のくずし字をある程度判読できる。</p> <p>(2)中世の古文書を読解するために必要な知識を得る。</p> <p>思考・判断の観点:より深く、より興味深い内容解釈ができるよう努める。</p> <p>技能・表現の観点:古文書の釈文を正確に記し、読点・返り点・送り仮名を適切に付すことができる。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>定期試験において、3通の古文書を出題する。</p> <p>そのうち1通目と2通目は、授業時間内に検討済みのものからそのまま出題する(片方は、くずし字を楷書体に改めるのみ、もう片方は、楷書体に改めた上で、それに読点・返り点・送り仮名をつける)。3通目は、未検討の古文書から出題し、楷書体に改める。採点は減点方式とし、80点以上を優、70～79点を良、60～69点を可、59点以下を不可とする。</p>					
教科書					
参考書					
<p>『くずし字用例辞典』(厚くて、漢和辞典タイプのもの) / 児玉幸多:東京堂出版</p> <p>『くずし字解読辞典』(薄くて、入筆形検索タイプのもの) / 児玉幸多:東京堂出版</p>					
メッセージ					
はじめは慣れないかもしれませんが、復習を繰り返せば、確実に読めるようになります。					
連絡先					
オフィスアワー					
<p>木曜日の放課後、または金曜日の放課後。</p> <p>真木研究室は、人文学部棟4階(415号室)。</p>					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011112010
開設科目名	古文書・古記録			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	田中 誠二			区分	
授業の概要					
<p>1. 近世のくずし字で書かれた史料を読解する能力を養う授業である。</p> <p>2. 近世の基本的用語の読み・意味を説明する。</p>					
授業の一般目標					
<p>1. 1年間で、近世史料の簡単なくずし字であれば、読解できるようにする。</p> <p>2. 近世の基本的用語の読み・意味を説明できるようにする。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:くずし字を読めるように訓練をする。これに尽きる。目と耳をつかって徹底的に慣れる。</p> <p>関心・意欲の観点:自分でやらなければ、くずし字をよめるようにはならない。読めるようになるという意欲がたいせつであり、予習・復習が欠かせない。</p>					
成績評価方法(総合)					
定期試験によって成績評価を行う。減点法による足きり(41箇所以上間違いがあれば不可とする)がある。					
教科書					
参考書					
くずし字用例辞典 / 児玉幸多編・東京堂出版					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					
月曜・金曜の昼休み。					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011112011
開設科目名	日本政治・社会史論			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	田中 誠二			区分	
授業の概要					
秋藩中期の藩財政について、仕組・馳走米・和市変動・貨幣・家臣団財政・家臣の「経済」論といった観点から解明していく。					
授業の一般目標					
日本近世社会の基本的骨格が理解できるようにする。研究法についても参考になるようにする。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 日本近世社会の基本的骨格が理解できるようにする。					
思考・判断の観点: 研究法についても参考になるようにする。					
成績評価方法(総合)					
レポートを提出し、その内容によって成績評価をする。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					
月曜と金曜の昼休み。					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011112012
開設科目名	日本政治・社会史論			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	真木 隆行			区分	
授業の概要					
論題:「安徳天皇の誕生」					
概要:					
安徳天皇(1178-85)は、1180年に平氏政権によって擁立されたが、1183年には都落ちし、1185年の壇浦合戦においてその幼い一生を終えた(8歳)ことで知られている。講義では、彼の誕生以前に遡り、その母親である中宮徳子の妊娠後の安産祈願の様子から明らかにし、更には皇子出産、出産後の成長儀礼、皇太子としての擁立、天皇としての受禪や即位などの様子について、具体的に明らかにする。					
また、当該問題に関する「平家物語」の叙述の虚像と実像を確認しながら、史料を読解する眼を養う。					
授業の一般目標					
(1)当該問題について理解を深める。					
(2)歴史学の研究方法の一端を理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 基本的な事実関係や諸論点について理解する。					
思考・判断の観点: 史料・先行研究・通説・講義内容、これらを独自の視点で捉え直し、自分なりの見解を導き出す。					
関心・意欲の観点: 関心あるテーマに即してとことん問題を掘り下げる。					
技能・表現の観点: 自分なりの見解を論理的にとりまとめて論述できる。					
成績評価方法(総合)					
出席状況、授業内コメント票の記載内容、定期試験、以上から総合的見地に立って評価する。					
(原則として、5回分の欠席が発覚した段階で受験資格を失うこととする)					
試験では、講義内容を踏まえ、その内容を各自で構成し直し、論述文としての体裁を整えて論述する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					
木曜日の放課後、または金曜日の放課後。					
真木研究室は、人文学部棟4階(415号室)。					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011112013
開設科目名	日本史史料講読			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	田中 誠二			区分	
授業の概要					
秋藩法制史料を精読する。基本的用語の読み・意味を正確に身につけさせ、時代背景・機構・変化を読み取っていく。					
授業の一般目標					
1. 秋藩法制史料を講読し、近世法制の内容や権力機構・時代背景を理解する。 2. 近世の基本的用語の読み・意味を知り、近世史料を用いて研究・考察する力を培う。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1. 近世の基本的用語の読み・意味を正確に理解する。 2. 近世の法制について理解を深める。					
思考・判断の観点: 法制史料に現れる一定の法則性を把握し、それを論理的に説明できる力を培う。					
成績評価方法(総合)					
定期試験によって成績評価を行う。減点法による足きり(41箇所以上の間違いがあれば不可とする)がある。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					
月曜・金曜の昼休み。					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011112014
開設科目名	日本史史料講読			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	織藤 厚			区分	
授業の概要					
日本近現代史を学ぶに必要な基本的資料の読解力を養成する。					
授業の一般目標					
基本的文献・資料の読解と分析の力をつける。					
授業の到達目標					
関心・意欲の観点: 日本近現代史に関連する歴史事実への関心と歴史研究の可能性への期待値を上げることを目指す。					
成績評価方法(総合)					
論述試験及び出席点で評価					
教科書					
十五年戦争小史 / 江口圭一:青木書店, 1986					
侵略戦争 / 織藤厚:筑摩書房, 1999					
総力戦体制研究 / 織藤厚:三一書房, 1981					
近代日本政軍関係の研究 / 織藤厚:岩波書店, 2005					
日本陸軍の総力戦政策 / 織藤厚:大学教育出版, 1999					
参考書					
メッセージ					
歴史を「現代としての過去」として捉えよう!					
連絡先					
koketsu@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
Wed.AM10:00-12:00					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011112015
開設科目名	日本史史料講読			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	橋本 義則			区分	
授業の概要					
<p>古代の史料を正確に読み解く力を身につけるために、その代表的な史料、つまり典型的な漢文史料を選んで読み進めてゆきます。この授業では『類聚三代格』を読んでいます。授業で『類聚三代格』を取り上げた理由は、それが奈良時代から平安時代に出された諸種多様な法令を集大成したものであり、また奈良・平安時代の最も典型的な漢文史料であることにあります。授業では受講者が分担して史料解読の報告を行い、解読の正否を含めて検討を加えます。本授業の受講生は、全員が3～4回程度報告することになります。報告に当たっては丹念な史料収集を行った上でのレジュメの作成が義務づけられます。また授業では報告者を含めた受講生全員に積極的に発言を求めたり、あるいは指名して意見を求めたりします。従って受講生は担当の有無に関わりなく、毎回十分な調べをした上で出席することが必要となります。なお、この授業は外国語の授業と同じ、所謂語学の授業でもありますから、史料を読解する力を養うため根気強く辞書を引くことが必須となります。</p>					
授業の一般目標					
典型的な漢文史料を読解する力を養成する。					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 奈良時代・平安時代の法制史料(法律)を正確に解釈するための基礎的知識を獲得する。 思考・判断の観点: 様々な史料を用いて法制史料(法律)の内容を論理的に解釈する力を身につける。 関心・意欲の観点: 古代法制書の世界、政治制度の変遷に関心・興味を抱く。 態度の観点: 学問上の常識や通説を疑う姿勢を養う。 技能・表現の観点: 1. 古代の典型的漢文史料を正しく訓読・読み下し及び解釈できる。2. 正しい日本語(書き言葉)で自分の意見を論理的に表現できる。</p>					
成績評価方法(総合)					
1. 学期末試験期間に試験を実施する。2. 出席が所定の回数に満たないものには試験を受ける資格を与えない。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
<p>本授業では授業時に受講生全員がパソコンを持ち込み、使用することが期待される。毎回の担当者はあらかじめワードを用いて報告に必要な配布資料を作成し、授業時に参加者全員にワードのファイルで配布することが義務づけられる。また資料の作成に当たってはスキャナーなどの周辺機器の活用も必要とされる</p>					
連絡先					
y-hasi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室:人文学部3階					
オフィスアワー					
時間のあるときはいつでも					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011112016
開設科目名	日本史史料講読			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	真木 隆行			区分	
授業の概要					
<p>題目：貴族日記『勤仲記』を読む(16)</p> <p>概要：『勤仲記』の輪読をおこなう。今年度は、弘安7(1284)7月条以降の記事を検討する予定。</p> <p>『勤仲記』は、鎌倉後期中流貴族、勤解由小路兼仲(1244～1308)の日記であり、質量共に鎌倉時代を代表する記録史料の一つである。兼仲は、摂関家の家司をつとめ、朝廷では蔵人・弁官を歴任し、やがて公卿となって権中納言まで昇進する。今回対象とする弘安7年には、兼仲は五位蔵人に昇進している。したがって後宇多天皇の周辺にもたらされた情報や、院政をおこなっている龜山院や、関白鷹司兼平との交渉など、国家の中枢に関する情報を窺い知ることができる。</p> <p>テキストには史料大成本を使用するとともに、兼仲の自筆本の写真版コピーで校訂を行いながら輪読する。</p>					
授業の一般目標					
<p>(1)史料の読解力を養う。</p> <p>(2)日本中世史の研究方法の一端を学ぶ。</p> <p>(3)関心ある論点を見つけ、とことん問題を掘り下げる。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:(1)中世の史料を読解できる。</p> <p>(2)中世の史料を読解するために必要な知識を得る。</p> <p>思考・判断の観点:より深く、より興味深い内容解釈ができるよう努める。</p> <p>関心・意欲の観点:関心ある論点を見つけて十分に調査し、とことん問題を掘り下げる。</p> <p>技能・表現の観点:漢文体史料の書き下し文や内容解釈文を適切に書く。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>定期試験を実施する。</p> <p>授業時間内に検討した史料を抜粋し、それに基づき出題する。</p>					
教科書					
参考書					
メッセージ					
ゼミナール形式で行います。基本的事項の説明にとどまるのではなく、なんらかの検討課題を独自に発見し、深く掘り下げられた報告を求めます。					
連絡先					
オフィスアワー					
<p>木曜日の放課後、または金曜日の放課後</p> <p>真木研究室は、人文学部棟4階(415号室)。</p>					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011112017
開設科目名	日本史演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	田中 誠二			区分	
授業の概要					
日本近世史を専攻する学生が、日本史上の諸問題について、各自の立てた主題に従って報告を行い、研究内容を深化させる授業である。					
授業の一般目標					
1. 各自の立てた主題について、研究史を整理する。 2. 史料を提示し、正確に解釈し、立論する。 3. 自分の見解を論理的に述べる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1. 時代背景について理解を深める。 2. 各自の主題についての基礎知識を得る。					
思考・判断の観点: 1. 各自の主題について、研究史の現状を把握し、自分の見解を論理的に述べる力を養う。 2. 史料を使って論証する力を養う。					
技能・表現の観点: 1. 考察した結果を述べたり、文章で適切に表現できる。					
成績評価方法(総合)					
定期試験にかえてレポートを提出し、その内容によって成績評価を行う。授業での報告内容も加味した成績評価を行う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					
月曜と金曜の昼休み。					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011112018
開設科目名	日本史演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	橋本 義則			区分	
授業の概要					
受講生は自らが関心を持つ日本古代史上の種々のテーマについて、具体的な史料を用いながら調査・研究を進め、毎々その成果を報告してもらいます。報告終了後、まず提示された史料解釈の妥当性を中心にして検討を行い、さらにその研究史上における問題や論理の展開などについて討議、検討を加えます。この過程を通じてよりよい卒業論文の作成を目指したいと考えています。					
授業の一般目標					
受講生は自らが関心を持つ日本古代史上の種々のテーマについて、具体的な史料を用いながら調査・研究を進め、毎々その成果を報告してもらいます。報告終了後、まず提示された史料解釈の妥当性を中心にして検討を行い、さらにその研究史上における問題や論理の展開などについて討議、検討を加えます。この過程を通じてよりよい卒業論文の作成を目指したいと考えています。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 卒業論文作成に必要な日本古代史に関する知識を獲得する。					
思考・判断の観点: 卒業論文作成に必要な論理的考察力を獲得する。					
関心・意欲の観点: 卒業論文作成に当たり、自らの興味・関心に基づいて、問題を設定する力をつける。					
態度の観点: 卒業論文の作成を通じて、自ら学問上の常識や通説を疑い、解決しようとする姿勢を養う。					
技能・表現の観点: 1. 論文作成に必要な史料を正確に解釈できる。2. 正しい日本語(書き言葉)で自分の意見を論理的に表現できる。					
成績評価方法(総合)					
1. 学期末に半期かかって報告した研究内容についてレポートを提出する。2. レポートの分量については別途指示する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
本授業では授業時に受講生全員がパソコンを持ち込み、使用することが必須とされる。また毎回の研究報告発表者はあらかじめワープロソフト(ワード)を用いて報告に必要な配布資料を作成し、授業時に教官および受講生全員に資料をワードのファイルで配布することが義務付けられます。また資料の作成に当たってはスキャナーなどの周辺機器の活用も必要とされる。					
連絡先					
y-hasi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室:人文学部3階					
オフィスアワー					
時間のあるときはいつでも					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011112019
開設科目名	日本史演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	真木 隆行			区分	
授業の概要					
日本中世史を専攻する3回生と4回生を対象とし、卒業論文の作成に向けた指導を行う。報告担当者は各自の関心を深めて、充実した研究報告を行う。報告担当者以外の参加者も、報告内容をめぐって活発に議論し、中世史の諸問題を掘り下げていてもらいたい。					
授業の一般目標					
卒業論文作成につながるような研究成果を重ねる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: (1)関係史料や先行研究について把握する。 (2)関心ある事象の時代背景を把握する。					
思考・判断の観点: 史料・先行研究・通説などを独自の視点で捉え直し、自分なりの見解を導き出す。					
関心・意欲の観点: 関心あるテーマを見つけ、とことん問題を掘り下げる。					
態度の観点: 一研究者としての専門家意識を育む。					
技能・表現の観点: 自分なりの見解を論理的にとりまとめ、よりよい報告や論述ができる。					
成績評価方法(総合)					
演習時間内の報告内容と、提出レポートで評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
いい卒業論文を読ませてください。					
連絡先					
連絡先の電話やE-mailは、今年度の研究室名簿参照。 なお、ゼミの無断欠席が厳禁であることは、全国的な常識。やむを得ず欠席すべき所用がある場合には、本人が直接に事前連絡すること。但し、緊急事態の場合はやむを得ないが、その場合にもきちんと事後報告すること。					
オフィスアワー					
ご来訪ご質問は、不在時以外は基本的にいつでも歓迎する。					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011112020
開設科目名	東洋史概説			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	滝野 正二郎			区分	
授業の概要					
本授業は二部に大別される。初めの5回は概論部分であり、東洋・アジア概念、史学史、時代区分、中国史史料の概説、中国の地理環境などについて説明し、6回目からは中国都市史の概説を行う。					
授業の一般目標					
1. 東洋史学の成立、中国史史料、中国の地理環境について一応の理解を得る。 2. 中国の都市に関する通史を理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1. 東洋史学の成立、中国史史料、中国の地理環境について一応の理解を得る。 2. 中国の都市に関する通史を理解する。					
思考・判断の観点: 1. 東洋史という学問の成立について考える。 2. 都市という存在について歴史的に考える					
関心・意欲の観点: 1. 東洋史の学問のなりたちに関心を持つ。 2. 都市という存在について通時的な関心を持つ。					
態度の観点: 1. 学問のなりたちについて理解しようとする態度を持つ。 2. 都市を歴史的に理解しようとする態度を持つ。					
技能・表現の観点: 自分の認識した事実を文章で表現する技能を持つ。					
成績評価方法(総合)					
論説筆記試験による期末試験で成績を評価する。					
教科書					
参考書					
中国都市史 / 斯波義信: 東京大学出版会, 2002 中国の城郭都市 : 殷周から明清まで / 愛宕元: 中央公論社, 1991 中国中世都市紀行 : 宋代の都市と都市生活 / 伊原弘: 中央公論社, 1988 民族の世界史 漢民族と中国社会 / 橋本萬太郎編: 山川出版社, 1983 中国農村の市場・社会構造 / G.W. スキナー 著 今井・中村訳: 法律文化社, 1979					
メッセージ					
連絡先					
研究室: 人文学部 517 号室, 電話: 内線 5229, E-mail: stakino@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
月曜 9:10 時限					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011112021
開設科目名	中国社会 経済史論			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	馬 彪			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011112022
開設科目名	アジア文化交流史			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	滝野 正二郎			区分	
授業の概要					
長崎華商泰益号を中心として華僑による商業活動および東アジアにおける華僑ネットワークを検討する。					
授業の一般目標					
長崎華商泰益号による商業活動等を分析し、中国人による商業経営の方式を知るとともに、東アジアにおける華僑ネットワークを理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 中国人による商業経営に関して知識を得るとともに在外華商のネットワークを理解する。					
思考・判断の観点: 国民国家の枠にとらわれない人間の歴史に関して考え、「一国史観」を相対化する。					
関心・意欲の観点: 華僑など「マージナル・マン」ともいえる人々の活動に関心を持つ。					
態度の観点: 国家にとらわれない態度で歴史に向き合うことができる。					
技能・表現の観点: 知り得たこと、認識したことを論理的な文章で表現することができる。					
成績評価方法(総合)					
学期末レポートによって評価する。					
教科書					
参考書					
華僑 / 斯波義信: 岩波書店, 1995					
華僑経済史 / 須山卓: 近藤出版社, 1972					
華僑社会経済論序説 / 市川信愛: 九州大学出版会, 1987					
長崎華商経営の史的研究 / 山岡由佳: ミネルヴァ書房, 1995					
長崎華商と東アジア交易網の形成 / 廖赤陽: 汲古書院, 2000					
メッセージ					
漢文史料、ときには漢文で書かれた文書や蘇州号碼(中国の略数字)で書かれた帳簿なども提示しつつ授業を進めるので漢文史料に興味のある学生諸君の受講を望みます。					
連絡先					
研究室: 人文学部 517					
電話: 内線 5229					
E-mail: stakino@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
月曜日 9・10 時限					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011112023
開設科目名	東洋史史料講読			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	滝野 正二郎			区分	
授業の概要					
<p>本授業は、漢籍の点校本を受講学生が中心となって読み、担当教官がそれに解説を加えるという形式で授業を進めていく。</p> <p>本年度は葉夢珠撰「閩世編」を取り上げる。葉夢珠は清初(この書を著したのは1690年頃)江蘇省上海県の人。その伝記は不詳であるが、明の遺民的な立場でこの書を著しており、清初江南社会に関する貴重な叙述を残すとともに、明極末期の主要な問題についても言及している。本年度はその中の「水利」・「災祥」・「田産」の部分を読み、明清時代漢文史料の基礎的な読解能力を涵養するとともに、当時の江南士大夫社会の諸問題について検討する。</p>					
授業の一般目標					
<p>(1)漢文史料の基礎的読解力を涵養する。</p> <p>(2)明清時代史料の基礎的な収集・操作力を涵養する。</p> <p>(3)明清時代地域社会の基本的な視点について理解する。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 明清時代の地域社会および史料読解に必要な知識・理解力をもつ。</p> <p>思考・判断の観点: 史料から歴史的事実を思考し、判断して抜き出す能力をもつ。</p> <p>関心・意欲の観点: 原史料に関心を持つ。</p> <p>態度の観点: 原史料を自分の力で読んでいこうとする態度をもつ。</p> <p>技能・表現の観点: 漢文史料を読解する技能をもつ。</p>					
成績評価方法(総合)					
期末試験と分担部分に関する発表によって評価する。					
教科書					
閩世編 / 葉夢珠撰 來新夏点校: 上海古籍出版社, 1981					
参考書					
清国行政法 / 織田萬編: 大安, 1965					
清実録: 中華書局, 1985					
光緒欽定大清会典・会典事例 / 崑岡等: 中華書局, 1963					
嘉慶松江府志					
同治上海県志					
メッセージ					
<p>歴史学の基礎は正確な史料読解、史料操作である。この史料講読という授業はその能力を養成する授業である。歴史学コースの東洋史分野を専攻しようとする学生にとって本授業は必須である。積極的な参加を期待する。</p> <p>上述のように、本分野を専攻しようとする学生にとって不可欠であり、また、予め分担を決め、学生が中心となって授業を進めていくので、欠席・中途脱落は厳に慎むこと。</p>					
連絡先					
<p>研究室: 人文学部 517、</p> <p>内線 5229、</p> <p>E-mail: stakino@yamaguchi-u.ac.jp</p>					
オフィスアワー					
月曜日 9・10 時限					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011112024
開設科目名	東洋史史料講読			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	滝野 正二郎			区分	
授業の概要					
<p>本授業は、漢籍の点校本を受講学生が中心となって読み、担当教官がそれに解説を加えるという形式で授業を進めていく。</p> <p>この授業では司馬光撰『資治通鑑』を取り上げる。本書は中国の歴史書の中で編年体の代表的な作品とされる。ここではその三国時代の部分を読み、正史『三国志』と対照しながら読解を進めていく。</p>					
授業の一般目標					
漢文史料(標点本正史レベル)の基礎的読解力を涵養する。					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:中国史史料の読解に必要な初歩的知識をもつ。</p> <p>思考・判断の観点:史料から歴史的事実を思考し、判断して抜き出す。</p> <p>関心・意欲の観点:原史料に関心を持つ。</p> <p>態度の観点:原史料を自分の力で読んでいこうとする態度をもつ。</p> <p>技能・表現の観点:漢文史料を読解する初歩的的技能をもつ。</p>					
成績評価方法(総合)					
期末試験と分担部分に関する発表によって評価する。					
教科書					
資治通鑑 / 司馬光撰: 中華書局, 1956					
参考書					
三国志 / 陳寿: 中華書局, 1982					
メッセージ					
<p>歴史学の基礎は正確な史料読解、史料操作である。この史料講読という授業はその能力を養成する授業である。歴史学コースの東洋史分野を専攻しようとする学生にとって本授業は必須である。積極的な参加を期待している。</p> <p>上述のように、本分野を専攻しようとする学生にとって不可欠であり、また、予め分担を決め、学生が中心となって授業を進めていくので、欠席・中途脱落は厳に慎むこと。</p>					
連絡先					
<p>研究室: 人文学部 517、</p> <p>電話: 内線 5229、</p> <p>E-mail: stakino@yamaguchi-u.ac.jp</p>					
オフィスアワー					
月曜日 9・10 時限					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011112025
開設科目名	中国史演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	滝野 正二郎			区分	
授業の概要					
清代行政文書の研究。清代の行政文書「奏摺」を読み、そこから清代中期の時代像を構築する。					
授業の一般目標					
清朝の行政文書を読み、その基礎的読解力を獲得するとともに、中国清代の社会の性質、社会と国家の関係について理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 清朝の行政文書に関する基礎的知識を獲得する。					
清代の社会の性質、社会と国家の関係について理解する。					
思考・判断の観点: 中国清代の社会の性質、社会と国家の関係について考える。					
関心・意欲の観点: 清代の社会、行政、社会と国家の関係に関心を持つ。					
態度の観点: 行政文書から社会を見通す態度をもつ。					
技能・表現の観点: 1. 清朝の行政文書を扱う基礎的技能を獲得する。					
2. 自らの考えを論理的に表明する技能を持つ。					
3. 自らの考えを論理的に文章にする技能を持つ。					
成績評価方法(総合)					
授業中の発表と期末レポートで評価する。					
教科書					
宮中档乾隆朝奏摺 / 国立故宫博物院: 国立故宫博物院, 1982					
参考書					
清国行政法 / 織田萬編: 大安, 1965					
清実録: 中華書局, 1985					
光緒欽定大清会典・会典事例 / 崑岡等: 中華書局, 1963					
乾隆朝軍機処随手登記档 / 中国第一歴史档案館編: 広西師範大学出版社, 2000					
メッセージ					
受講生諸君の積極的な史料調査、発表、議論参加が必須である。					
連絡先					
研究室: 人文学部 517、					
内線 5229、					
E-mail: stakino@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
月曜日 9・10 時限					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011112026
開設科目名	西洋史概説			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	尼川 創二			区分	
授業の概要					
<p>14世紀から15世紀のヨーロッパに訪れたのは、飢饉・黒死病・戦争を契機とする大不況である。このなかで西ヨーロッパの農奴制は解体過程に入る。西ヨーロッパの封建領主のかなりの部分が没落してゆく。しかし、領主制は消滅したわけではなく、15世紀の末には、再編成されるのである。他方、東ヨーロッパでは、農民は「再販農奴制」のなかに組み込まれてゆく。</p> <p>国制史的には、14世紀から16世紀初頭の時期は封建国家(人的結合国家)から絶対主義国家(近代国家の初期非段階)への過渡期にあたる。イタリアでは、コンパクトながら、高度の行政技術を持つ巨大都市国家が出現する。しかし、のちのヨーロッパ国家制度に最も大きな影響を与えたのは、フランスとイングランドという二つの大国における国家形態の変化であった。両国では、財政官僚制度と司法官僚制度の整備を通じて王権の伸長と凝集力の大きい国家組織の確立のための並々ならぬ努力がなされ、かなりの成果が得られた。人々の基本的忠誠の対象は、家族・共同体・教会から国家へと徐々に変わっていったのである。</p>					
授業の一般目標					
<p>この講義では、ヨーロッパのとりわけ14世紀から16世紀初頭までの時期を見てゆく。この時期にヨーロッパは崩壊の度を強めてゆき、明暗ともに強烈なヨーロッパ近代社会がその姿を徐々に現わそうとしていた。農奴制とその解体、領主制の再編成、「再販農奴制」の出現、封建国家から絶対主義国家への移行など、言葉は難しいが、できるだけやさしく、面白く語ってみたい。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 授業の一般目標の点について、知識を持ち、理解する。</p> <p>思考・判断の観点: 授業の一般目標の点について、自分で深く考える。</p> <p>関心・意欲の観点: ヨーロッパ封建社会の政治社会的崩壊について強い関心を持つ。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>期末試験を行なう。100点満点。ノートなどの持ち込みは不可。無断欠席はマイナス5点。遅刻はマイナス2点。</p>					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
<p>人文学部4階407号室 amak@yamaguchi-u.ac.jp</p>					
オフィスアワー					
<p>木14:20 - 16:10</p>					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011112027
開設科目名	ヨーロッパ史			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	尼川 創二			区分	
授業の概要					
【19世紀末までのロシア史の展開】9世紀のキエフ国家の成立から反体制知識人たちが「人民主義」の革命運動を開始し挫折した19世紀末のロシア帝国の状況までのロシア史を通観するが、ロシアの反体制知識人たちが常に意識した西ヨーロッパの国家・社会の歴史とロシアのそれとの対比も絶えず行うようにしたい。					
授業の一般目標					
専制政治と農奴制を特徴とするロシア帝国が何ゆえ、またどのようにして形成されたのか、そして19世紀末に始まりもなく挫折する人民主義者の革命運動がいかなる問題点を内包していたかについての理解を深める。西ヨーロッパとロシアでの国家・社会の形成課程および反体制運動の類似点と相違点にも留意する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 授業の一般目標の点について知識をもち、理解する。					
思考・判断の観点: 授業の一般目標の点について自分で深く考えて見る。					
関心・意欲の観点: 授業の一般目標の点について自分で深く考えて見る。					
成績評価方法(総合)					
授業外レポート100点、無断欠席1回につきマイナス5点、遅刻1回につきマイナス2点。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
人文学部4階407号室 amak@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
月14:10 - 16:10					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011112028
開設科目名	ヨーロッパ史			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	阿河 雄二郎			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011112029
開設科目名	アメリカ史			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	近藤 淳子			区分	
授業の概要					
<p>アメリカの多文化主義に焦点をあて、その歴史の変遷について考察する。</p> <p>アメリカは移民から構成される多民族・多文化国家である。アメリカの文化や価値観を宗教・政治・経済・外交・ジェンダー・環境などの分野から分析し、移民国家が内包する諸問題を理解するとともに、国家の統合と共生の問題について考察する。授業ではビデオを使って歴史的事実を検証し、また受講生が調べた移民の文化についてのプレゼンテーションを行うことによって理解を深めていく。</p>					
授業の一般目標					
アメリカの多文化主義が内包する諸問題を理解するとともに、問題を解決する能力を養う。					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 多民族・多文化国家がもつ諸問題への理解を深める。</p> <p>思考・判断の観点: 歴史的事実にもとづく歴史解釈を形成していく力を身につける。</p> <p>関心・意欲の観点: 文化的価値観の多様性が現代社会に与える影響への関心をもつことの重要性を認識する。</p> <p>態度の観点: 自分の見解を述べるによりディスカッション能力を養う。</p> <p>技能・表現の観点: プレゼンテーションを行うことによって自己の歴史解釈を表現する力を身につける。</p>					
成績評価方法(総合)					
授業出席、プレゼンテーション、レポートで評価する。プレゼンテーションでは資料を収集し分析する能力と説明能力を重視する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
アメリカの全体像を知るのに役立ちます。					
連絡先					
携帯アドレス: kondo-jan@docomo.ne.jp					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011112030
開設科目名	西洋史学講読			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	尼川 創二			区分	
授業の概要					
ドイツの通史を講読する。テキストとして、高等学校のテキストで写真や図表が多数挿入されている、R.H.Tenbrock,K.Kluxen und H.E.Stier 編の Zeiten und Menschen の第4巻 Europa und die Welt. Das 20 Jahrhundert.を使用する。授業では、単に独文和訳で終わるのではなく、歴史を研究していく上で重要と思われる事項について教員から補足説明をしたり、受講生に用語等をさらに踏み込んで調べてもらうことしたい。					
授業の一般目標					
講読に際しては、辞書を何度も何度も引くようになるが、まずはこの忍耐を要する作業を乗り切ることである。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: ドイツ語の読解能力を高め、ドイツや国際関係の歴史について理解を深める。					
成績評価方法(総合)					
期末試験100点、無断欠席1回につきマイナス5点、遅刻1回につきマイナス2点。					
教科書					
Zeiten und Menschen . Bd4 . Europa und die Welt. Das 20 Jahrhundert. / R . H . Tenbrock,K.Kluxen und H.E.Stier , 1966					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
人文学部4階407号室 amak@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
月14:10 - 16:10					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011112031
開設科目名	西洋史学講読			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	尼川 創二			区分	
授業の概要					
<p>学生諸君はおそらくフランス語を学び始めたばかりであろうから、史料や研究書ではなく、比較的平易なフランスの高等学校の歴史教科書を読んでいく。テキストは Jean- Michel Lambin (dir.), Histoire Seconde, Paris, Hachette, 2001 である。</p>					
授業の一般目標					
<p>辞書を用いて初・中級程度のフランス語の文章を正確にそして早く読み取ることができるようになる。これが第1の目標である。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:(1)フランス語の読解能力を高める。 (2)ヨーロッパ史、特にフランス史の基礎知識を習得する。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>期末試験100点、無断欠席1回につきマイナス5点、遅刻1回につきマイナス2点</p>					
教科書					
<p>Histoire Seconde. / Jean-Michel Lambin: Hachette, 2001</p>					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
<p>人文学部4階409号室 amak@yamaguchi-u.ac.jp</p>					
オフィスアワー					
<p>月14:10 - 16:10</p>					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011112032
開設科目名	西洋史演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	尼川 創二			区分	
授業の概要					
3・4年生を対象としている。毎回各自が興味をもっているテーマについて発表してもらい、それぞれの発表ののち、研究史の把握、問題点の抽出、素材の用い方、論のはこび方、等々について出席者全員で討議し、検討する。					
授業の一般目標					
学生の自発的な研究意欲を高めるとともに、相互批判を通じてそれぞれの研究を改善し深化させていくこと、					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 各自の発表テーマについての知識・理解が充分であること。					
思考・判断の観点: 問題点を見出すことができ、それについて深く考え、的確な判断をくだせること。					
関心・意欲の観点: 研究対象に強い関心をもっていること。					
技能・表現の観点: 適切な発表の仕方を心得ていること。					
成績評価方法(総合)					
平常点が90点。レポートが10点。無断欠席1回につきマイナス5点。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
人文学部4階409号室 amak@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
月14:10 - 16:10					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011112033
開設科目名	考古学概説			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	中村 友博			区分	
授業の概要					
日本考古学のなかで、石器時代の一般的な知識を講義する。					
授業の一般目標					
日本列島における先史文化を考古学がどのように解明してきたか、その成果と到達点を学習する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 考古学独自の専門用語について理解するとともに、日本先史文化が周辺文化とどのように共通し、また相違するのか、理解を深める。					
思考・判断の観点: 考古学独自の方法について、その長所と短所を考える。					
関心・意欲の観点: 日本列島の先史文化に関心を持つ。					
成績評価方法(総合)					
日本考古学の基礎的な知識を習得しているかどうかを試験によって判定する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
tomo@yamaguchi-u.ac.jp、研究室:人文学部3階					
オフィスアワー					
月曜日;16時10分～17時40分。					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011112034
開設科目名	中国社会・経済史論			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	馬 彪			区分	
授業の概要					
<p>新中国成立後、中国古代文字資料の出土は飛躍的に増加したが、これに伴って、様々な中国古代学の領域において、学問的深化が実現されることとなった。文字学(漢字学)も、出土文字資料の増加によって、大きな発展を遂げるようになった領域の一つである。今回は、『説文解字』を中心とする伝統的漢字学の基礎の上に、出土文字資料の研究による古文字学上の成果がどのように打建てられていったのかを述べていきたい。また、逆に、出土文字資料の解読に古文字学が果たした足跡をも見ていきたい。</p>					
授業の一般目標					
<p>文字資料の出土が、中国の伝統的学問たる文字学にどのような点で影響を与えたのかを理解すること。それと同時に、文字学が、出土文献の解読にどのように貢献したかを理解すること。</p>					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011113001
開設科目名	社会学概論			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	横田 尚俊			区分	
授業の概要					
社会学における基本概念と理論的視角、並びにそれらを通して現実の社会や具体的な社会現象がどのように分析・解明されるのかという点を学ぶ。前期には、現代社会学の礎を築いたともいえる M.ウェーバーや E.デュルケムの学説や、産業化・近代化、脱工業化と消費社会化、グローバル化と階層構造の変容(階層格差の拡大)といった現代産業社会の構造と変動について、詳しい資料を配付しながら説明する。					
授業の一般目標					
1 社会学の基本概念や理論的視角を学ぶ。 2 社会学の概念と方法を用いて、現代社会の構造と変動を解明する。 3 現代社会が抱える諸問題に関心を向ける。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
定期試験 50% 出席 40% 小レポート・授業への参加度 10%					
教科書					
社会学講義 / 富永健一:中央公論新社, 1995					
参考書					
社会学小辞典 / 浜嶋朗ほか:有斐閣, 1997 現代社会学講義 / 佐藤慶幸:有斐閣, 1999 社会学(第4版) / A.ギデンズ:而立書房, 2004 はじめて学ぶ社会学 / 土井文博ほか:ミネルヴァ書房, 2007					
メッセージ					
社会学概論の講義内容は、前期と後期で相互に関連しているもので、できれば年間を通して受講することが望ましい。特に1年生の人にとっては、少し難しい内容が含まれているかもしれませんが、これから謎を少しずつ解き明かしていくつもりで、どうかひるまずに受講してください。					
連絡先					
メール・アドレス n.y@yamaguchi-u.ac.jp 研究室 人文棟3階307室					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011113002
開設科目名	現代社会論			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	小谷 典子			区分	
授業の概要					
個人と社会とを連結する「生活構造」に視点をおいて、戦後日本の地域社会の変動と現状を具体的に分析していくとともに、現代都市の諸問題を解明する。					
授業の一般目標					
自分が住んでいる地域社会を生活構造の視点から現状分析していき、どのような地域問題をかかえているかを考える					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 生活者として生活から社会理解する					
思考・判断の観点: 地域社会の課題に対していかに行動すべきかを考える					
関心・意欲の観点: 身近な地域社会の課題について関心を持つ					
態度の観点: 身の回りの出来事に対して好奇心を持つ					
成績評価方法(総合)					
授業中に実施する小レポート、出席と期末試験で総合的に評価する					
教科書					
参考書					
メッセージ					
できれば前期・後期続けて受講してください					
連絡先					
5236					
オフィスアワー					
月曜日 14時 15時					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011113003
開設科目名	現代社会論			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	横田 尚俊			区分	
授業の概要					
<p>「阪神淡路大震災」のもとで生じた人の生や生活、地域社会等の崩壊の中で、どのように人は自立していくのであろうか。苦しみ(pathos)や受難の中で「弱い存在」者の自立と新たな人間の共同を模索する実践思想について考える。</p> <p>現代社会における生存の痛み suffering の問題を、(受難・苦痛と自立)、(自立と支援)・人間の他者に対する(相克と共同存在)を論じ、新たな「市民社会」を卓望する。</p>					
授業の一般目標					
<p>1)現代社会を苦しみ(pathos)、生存の痛み suffering という観点や視点で捉えることを学ぶ。</p> <p>2)現代に多く生起する諸問題への実践者や観察者のテーマや課題の設定の仕方を学ぶ。</p> <p>3)テキストから、現代的テーマを学ぶ。</p>					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
<p>出席30%</p> <p>授業時間内に提出するリアクション・ペーパー30%</p> <p>最後の授業でのテスト40%</p>					
教科書					
銀河鉄道の夜 / 宮沢賢治:角川書店(文庫), 1996					
参考書					
<p>ボランティアが社会を変える - 支え合いの実践知 / 似田貝香門編:関西看護出版, 2007</p> <p>自立支援の実践知 - 阪神・淡路大震災と共同・市民社会 / 似田貝香門編:東信堂, 2008</p>					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011113004
開設科目名	現代政治社会論			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	纈纈 厚			区分	
授業の概要					
本年度は歴史認識、歴史和解、戦争責任、戦後責任をキーワードにして、日本近現代史研究における現代的な課題を念頭に据えつつ、講義を進める。					
授業の一般目標					
歴史事実の解析から現代社会の現実を理解する力を養う					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 日本史の基礎知識を習得するために基本用語の解説を施す。毎回の出欠票に質問などを記述し、知識・理解の進具合を確認する。					
関心・意欲の観点: 当テーマに関する事件やエピソードを紹介し、身近な問題として捉えられる視点を養成する					
態度の観点: 自ら積極的に関わることなくして同テーマは抽象度の高い領域となる恐れがある。よって、積極的且つ真摯に学ぼうとする態度が特に求められる。					
技能・表現の観点: 毎回提出予定のミニレポートに講義への感想や質問などを記述させる。					
その他の観点: 毎回の授業後提出を課しているミニレポートへの記述内容を参考とする。					
成績評価方法(総合)					
レポートと論述私見					
教科書					
侵略戦争 歴史事実と歴史認識 / 纈纈厚: 筑摩書房, 1999					
日本海軍の終戦工作 / 纈纈厚: 中央公論社, 1996					
近代日本政軍関係の研究 / 纈纈厚: 岩波書店, 2005					
帝国日本の原型とその再登場 / 纈纈厚: 凱風社, 2009					
「聖断」虚構と昭和天皇 / 纈纈厚: 新日本出版社, 2007					
参考書					
メッセージ					
歴史事実の正しい理解から、あるべき歴史認識が生まれる					
連絡先					
koketsu@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
Wed.AM10:00-12:00					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011113005
開設科目名	コミュニティ論			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	横田 尚俊			区分	
授業の概要					
地震、噴火、風水害、大火災といった災害が社会を襲った場合、人々や集団・組織はどのように対応するのか。災害情報の収集・伝達はどのように行われるのか。災害は地域社会にどのような影響を及ぼすのか。この授業では、これら災害の社会過程をめぐるテーマに検討を加えるとともに、災害社会学の基本的な視座や研究枠組みについて説明する。					
授業の一般目標					
1 災害社会学の基本的視座や研究方法を理解する。 2 災害の特質を現代社会の構造・変動との関連で捉え、災害に強い社会をどう構築していくかという課題について考える。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
定期試験 50% 出席 40% 小レポート・授業への参加度 10%					
教科書					
災害社会学入門 / 大矢根淳ほか: 弘文堂, 2007					
参考書					
平成20年版 防災白書 / 国土交通省: ぎょうせい, 2008 復興コミュニティ論入門 / 浦野正樹ほか: 弘文堂, 2007 防災の社会学 / 吉原直樹ほか: 東信堂, 2009 都市防災 / 吉井博明: 講談社, 1996					
メッセージ					
時間的に余裕があれば、テーマに関連するビデオ映像なども積極的に利用したい。					
連絡先					
メール・アドレス n.y@yamaguchi-u.ac.jp 研究室 人文棟3階307室					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011113006
開設科目名	社会学演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	小谷 典子			区分	
授業の概要					
社会学の理論や研究方法を学び、現代社会が抱える諸問題について、テキストに基づき、各自レポートし、それぞれの研究課題について議論しながら、現代社会に関する関心を深める。					
授業の一般目標					
現代社会の構造と変動を、都市社会に視点を置いて理解する。そこから派生する関心ある社会問題を見つけ出し、社会学的な分析方法を身につける					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 現代社会の研究に関する知識と理解を深める					
思考・判断の観点: 現代社会の現状を判断する					
関心・意欲の観点: 現代社会に関する関心を深める					
研究テーマを明確化する					
成績評価方法(総合)					
出席、課題報告、最終レポートで総合的に評価する					
教科書					
参考書					
メッセージ					
小谷を指導教員とする4年生は必ず受講すること					
連絡先					
5236					
オフィスアワー					
月曜日 14時 15時					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011113007
開設科目名	社会学演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	横田 尚俊			区分	
授業の概要					
現代社会における家族の構造と変動 および家族問題の諸相について考察する。家族社会学の文献を読みながら、受講生による報告、討論によって授業を進めていく。並行して、4年生には各自の卒論テーマに基づく報告をしてもらい、他の受講生との間で質疑・応答を行う。					
授業の一般目標					
1 家族社会学の基本的視点や研究成果について理解を深める。 2 家族の構造と変動 現代の家族問題などについて理解を深めるとともに、さまざまなデータを参照しながら、それらを考察できるようにする。 3 卒業論文のテーマを設定し、論文作成に必要な文献・データを収集する(4年生)。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
出席 40%					
報告・授業参加度 40%					
課題レポート(必須) 20%					
教科書					
迷走する家族 / 山田昌弘・有斐閣, 2005					
参考書					
少子社会日本 / 山田昌弘・岩波書店, 2007					
社会学小辞典 / 浜嶋朗ほか・有斐閣, 1997					
メッセージ					
初回の授業で、テキストの入手方法や授業の進め方などについて説明するので、必ず初回に出席すること。時間的余裕があれば、テーマに関連するビデオ映像なども利用したい。					
連絡先					
メール・アドレス n.y@yamaguchi-u.ac.jp					
研究室 人文棟3階 307 室					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011113008
開設科目名	現代政治社会学演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	篠原 厚			区分	
授業の概要					
日本近現代史関連の論文を叙述する力を養成する。					
授業の一般目標					
課題設定の方法と論文叙述のスキル習得を目指す。					
授業の到達目標					
思考・判断の観点: 資料・文献に自在にアクセスできる能力と習慣を身につけ、自ら分析する能動的な姿勢を養う。					
成績評価方法(総合)					
報告内容とレポート内容及び出席と参加姿勢					
教科書					
参考書					
メッセージ					
本当に書きたいテーマを見つけること					
連絡先					
koketsu@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
Wed.AM10:00-12:00					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011113009
開設科目名	社会学調査実習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	小谷 典子			区分	
授業の概要					
社会学的社会調査の計画と実査をふまえ、各自で調査調査結果の分析ができるようにする。そのために調査方法を学び、仮説の検証のための社会調査を実施する。					
授業の一般目標					
問題意識を明確にし、社会調査の計画をし、調査票の作成、聞き取り調査、調査結果の分析をし、レポートを作成する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 社会調査の概要について理解する					
思考・判断の観点: 仮説の検証の方法の有効性を考える					
関心・意欲の観点: 社会現象を切り取る方法に関心を持つ					
態度の観点: 共同作業による協調性を身につける					
技能・表現の観点: 社会調査の実践の技術を身につける					
その他の観点: データ入力・分析作業などを根気強く行う					
成績評価方法(総合)					
出席と、社会調査実習への参加、調査結果を取りまとめたレポートを総合的に評価する					
教科書					
参考書					
『社会調査へのアプローチ』 / 大谷信介ほか編; ミネルヴァ書房, 1999					
メッセージ					
出席と実習への参加を義務とする					
連絡先					
5236					
オフィスアワー					
月曜日 14時 15時					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011113010
開設科目名	社会心理学概論			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	高橋 征仁			区分	
授業の概要					
社会心理学は、社会学や心理学のみならず、人類学、政治学等々の学問からなる非常に学際的な研究領域である。この講義では、「ケータイ」という日常的な題材を取り上げながら、これまでの社会心理学研究における基本的問題や知見について紹介していく。					
授業の一般目標					
1)社会心理学の基礎概念について学ぶ 2)社会心理学の学説史を学ぶ 3)社会心理学の多様なアプローチについて学ぶ 4)現代社会の諸問題と社会心理学のかかわりを考える					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
学期末試験6割、授業内レポート2割、授業外レポート2割で評価を行う					
教科書					
ケータイ学入門/岡田朋之・松田美佐編:有斐閣,2002					
参考書					
メッセージ					
日常生活を科学することの楽しさと難しさを味わいましょう					
連絡先					
オフィスアワー					
金曜日5・6時限					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011113011
開設科目名	コミュニケーション論			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	高橋 征仁			区分	
授業の概要					
<p>現在、青少年における「規範意識の低下」が声高に叫ばれている。しかし、この指摘は、はたして本当だろうか？この授業では、規範をめぐるコミュニケーションや道徳意識の形成プロセスに焦点を当てながら、社会と個人のダイナミックな関係について考察を深めていく。</p>					
授業の一般目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 古典的コミュニケーション・モデル(モノ・メタファー)の限界を認識する。 2. メディアの基本機能と新しいコミュニケーション論の基礎を検討する。 3. 道徳意識の生成と変容に関して、新しいコミュニケーション論の視点から再構築を行う。 					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
毎週提出する授業課題レポート4割、学期末の課題レポート6割で評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
コミュニケーションに対する甘い幻想も、シニカルな諦めも、ともに打ち砕きながら、現実のコミュニケーション・プロセスについての理解を深めていきましょう。					
連絡先					
オフィスアワー					
金曜日 5・6 時限					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011113012
開設科目名	現代社会意識論			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	辻 正二			区分	
授業の概要					
<p>我が国は、1994年に高齢化率14%を超え、高齢社会に突入した。この高齢化は、今後もますます進行し、我が国の社会全体に大きな影響を及ぼしつつある。現在の我が国の深刻な社会問題(産業の空洞化、犯罪の凶悪化など)の中には国際化や情報化といった別の要因も関係しているが、高齢化の要因も無視できない。ところが、高齢化については、福祉や社会保障制度などに関しては論議されているが、高齢社会全体についてはあまり論議されていないのが実情である。この講義では、現在に高齢者が抱えている問題やこれまであまり触れられなかったエイジズム(老人差別)、高齢者と時間、生涯現役社会の構築といったことについて触れながら、社会老年学の知識を深めることを目指している。</p>					
授業の一般目標					
<p>1)高齢化がもたらす意味とその社会心理学的諸問題についての知識を身につける。 2)高齢化社会の問題への対応を考え、それへの適切なあり方を考える態度を学ぶ。 3)生涯現役に向けての諸方策を捉え、あるべき方向性を考える。</p>					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
高齢社会の抱えている課題とその解決法に関して知識・理解力、想像力がどの程度あるかを問いたいと思います。					
教科書					
エイジングの社会心理学 / 辻正二・船津衛:北樹出版,2003					
参考書					
高齢者ラベリングの社会学 / 辻正二:恒星社厚生閣,2000					
高齢社会白書 / 内閣府,2008					
メッセージ					
授業は、テキストと資料を使って進行します。講義の前にテキストは必ず読んでおいてください。					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011113013
開設科目名	社会心理学演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	辻 正二			区分	
授業の概要					
3年生と4年生を対象にした演習形態の授業です。授業では、逸脱行動論の代表的な文献の幾つかを外書購読や訳書の購読から、それらの理論の特徴と問題点を洗い出し、現在の逸脱行動のなかで捉えることを学びます。					
授業の一般目標					
(1)レポートの課題を通して専門的な知識を学ぶとともに解釈の仕方やプレゼンテーションの方法について学ぶ。					
(2)専門的な知識を深めるとともに議論に参加し、自分の見解を述べる姿勢を身につける。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
演習の課題を受けて、レポート発表の資料を作成すること、発表にあたってのプレゼンテーション、演習での議論の参加度などを総合的に評価します。					
教科書					
アウトサードーズ/ハワード・ベッカー:新泉社,1993					
社会理論と社会構造/R.K. マートン.:みすず書房,1963					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011113014
開設科目名	社会心理学演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	高橋 征仁			区分	
授業の概要					
シンボリック相互作用論を代表する論著である A.L.ストラウスの『鏡と仮面』について、精読する。					
授業の一般目標					
1) 多少難しいテキストを精読する作業を通じて、テキストを批判的に読解する力を身につける。 2) アイデンティティ、相互行為、言語、時間などの基礎概念について、より深い理解を達成する。 3) 自分の卒論執筆に必要な基礎的なノウハウを身につけるとともに、自分独自の問題関心を養う。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
学期末の課題レポート6割 授業での発表2割 授業での討論2割で評価を行う。					
教科書					
『鏡と仮面 アイデンティティの社会心理学』 / A.L.ストラウス:世界思想社, 2001					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					
金曜日 5・6 時限					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011113015
開設科目名	社会心理学調査実習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	辻 正二			区分	
授業の概要					
社会心理学調査実習は、既に学んできた社会調査法の知識と技法を生かして、具体的にフィールドワークなどの実習経験の中で社会調査を学ぶことを主たる狙いとする。					
授業の一般目標					
(1)社会調査のための基礎的な知識を身につけ、問題意識、仮説、調査地の選定、調査票の作成等をおこなう。					
(2)調査地との関係を形成して、実際にフィールドワークを経験し、調査研究の体得を行う。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
調査の知識と技法を身につけているか、調査の企画ができるかといったことが評価の対象となります。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011113016
開設科目名	比較社会文化論			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	山本 真弓			区分	
授業の概要					
<p>ことばは単にコミュニケーションの手段ではなく、個人のアイデンティティや、文学などを通じた言語共同体の文化そのものを形成している。このようなことばの多面的な側面を、世界のさまざまなことばを通じて紹介し、ことばと人間とのかかわり、ことばと社会とのかかわり、ことばの政治性などについて明らかにしていく。ここでは、ことばの言語学的側面ではなく、社会的政治的側面に焦点を置いた講義を行なう。</p>					
授業の一般目標					
<p>日本社会に生きていると、ことばについてさまざまな誤解や幻想を抱いている。それは、日本社会がいわゆる単一言語社会と形容されるような言語状況にあることと無関係ではない。したがって、ここでは多言語社会と形容されるさまざまな地域の事例を通じて、ことばをめぐる人間の能力の可能性を認識することを目標とする。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 言語は社会や政治と切り離されて存在しているものではないことを、論理的に理解する。</p> <p>思考・判断の観点: ヨーロッパ近代言語学の成果の背景を踏まえて、言語とはなにか？について、自らの視点で考える。</p> <p>関心・意欲の観点: 自らの問題として考えつつも、身の回りの事象のみにとらわれず、積極的に異なる言語状況にある社会を知ろうとする。</p> <p>態度の観点: 出席と質問(最後に質問票を配布する)</p>					
成績評価方法(総合)					
出席および授業内レポートと定期試験を総合して評価する。					
教科書					
言語的近代を超えて / 山本真弓編著: 明石書店, 2004					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011113017
開設科目名	アジア比較社会論			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	山本 真弓			区分	
授業の概要					
国境を越える人的移動について、移民政策、外国人政策の観点から考える。また、その特殊性を理解するために、資料(たとえば、法務省が出している資料など)はできるだけ英語で読み、日本語の概念が英語で表現された場合のギャップをとおして、日本の政策の特性を探る。					
授業の一般目標					
1. 戦後日本の外国人政策を構成する基本的な考え方を理解すること。2. 1945年から現在までの日本社会の構成員の変化を認識すること。3. 日本の外国人政策を相対化する視点をもつこと(諸外国との比較)。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 専門的用語や法務省独特の概念について理解すること。					
思考・判断の観点: 資料のうえで、日本語と英語を往来することで、日本社会の特質を考えること。					
成績評価方法(総合)					
定期試験による。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011113018
開設科目名	生活文化論			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	坪郷 英彦			区分	
授業の概要					
人間の暮らしをものの視点から考察する。文化人類学の物質文化研究、民俗学の民具研究の諸成果を示し、さらに現代の視点からの検討を加えながら授業を進めていきます。 今年のテーマとしては「住まい」を取りあげる。					
授業の一般目標					
人類が作り出した様々なものを社会的、システムの、技術的に読み解く力を養う。人類の基本的な自然に対する対応の仕方を理解し、現在の地球環境問題に接する視点と態度を養う。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 基本的理論、用語の説明ができる。					
思考・判断の観点: 日常を機能・システムの視点から読み解くことができる。					
関心・意欲の観点: 技術文化の表層と本質的な部分を読み分けることができる。					
態度の観点: 日常のもの・ことに新たな視点で接することができる。					
技能・表現の観点: 自分の考えを正確に論述できる。					
成績評価方法(総合)					
出席と期末レポート及び数度の授業内レポートにより評価を行います。特に出席と期末レポートを重視します。 出席が70%に満たない場合は評価の対象になりません。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
技術など専門的な言葉が出てきますが、できるだけ視覚情報を使って理解を助けます。					
連絡先					
Email: hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp 電話 5239 、研究室 213					
オフィスアワー					
木曜日 12:00～14:00					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011113019
開設科目名	現代民俗論			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	坪郷 英彦			区分	
授業の概要					
<p>民衆文化のさまざまな現象のなかでも信仰・心意・芸能の問題に焦点をすえて紹介する予定である。また、既成宗教の枠組では理解できない民衆宗教(民間信仰)を研究という視点からと宗教実践者の立場から、民衆文化(民俗文化)がいかなる意味をもっているかを全国各地とりわけ瀬戸内周辺の事例をとりあげつつ考えてみる。</p> <p>前期集中講義を予定。</p>					
授業の一般目標					
<p>日本人に培われてきた民衆の文化を理解するために、日本の民俗の事例(とくに民衆宗教・新興宗教)について基礎的な知識を紹介する。また民衆の文化を研究してきた民族学、民俗学の思考法についても歴史学とりわけ社会史の延長線上でふれたい。</p>					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
<p>評価法については集中授業の最初に説明する。</p>					
教科書					
<p>近世のアウトローと周縁社会 / 西海賢二: 臨川書店</p>					
参考書					
<p>近世の遊行聖と木食観正 / 西海賢二: 吉川弘文館 江戸の漂泊聖 / 西海賢二: 吉川弘文館 生活のなかの行道 / 西海賢二: ベネッセコーポレーション</p>					
メッセージ					
<p>瀬戸内文化を世界に皆さんと発信しましょう。</p>					
連絡先					
<p>学部内担当教員 坪郷 E-mail <hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp> 電話 5239 研究室 213</p>					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011113020
開設科目名	現代民俗論			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	湯川 洋司			区分	
授業の概要					
現代民俗論は、民俗を通じて現代社会のありようについて考えることをめざしています。 この授業では、「農山漁村史と現代」と題して、現在の日本社会が形成された様相について、地方農山漁村の近代の歴史と近代化の進展を民俗をはじめとする諸資料を手がかりにして具体的に考察し、現代日本社会の来し方を振り返るとともに、今後の農山漁村の行方を検討する。					
授業の一般目標					
民俗から現代社会を理解する方法があることが理解できる。 民俗または民俗学から現代社会について考える視点をもつことができる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 農山漁村の近代史の概要を説明できる。 思考・判断の観点: 民俗と近代史とがかわる事例をあげて、その説明ができる。					
成績評価方法(総合)					
毎回実施する小テスト、期末試験、授業外レポートにより、評価する。					
教科書					
参考書					
山口県史資料編民俗2 / 湯川洋司ほか: 山口県, 2006					
メッセージ					
地方の暮らしから日本の現代社会を知り、考えよう。					
連絡先					
yukawa@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
研究室: 人文学部棟2階210室, 必要に応じていつでも訪ねてください。					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011113021
開設科目名	文化人類学演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	坪郷 英彦			区分	
授業の概要					
文化人類学の基本的文献を読みます。今年はルースベネディクトの「文化の型」(講談社学術文庫)を取り上げます。ベネディクトは「菊と刀」を書いた人類学者ですが、この本が代表作で、文化相対主義を明確に位置づけたものです。具体的民族のパーソナリティに入り込んだ分析を読み進めていきます。					
授業の一般目標					
文化人類学の基礎概念である文化相対主義の考え方を理解する。本を読み解く力を身につける。発表の方法態度を身につける。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 文化人類学の基本的考え方を理解する					
思考・判断の観点: 文章を読み、自分の言葉で表現することができる。					
関心・意欲の観点: 自らの研究目標を見つける。					
態度の観点: 演習の授業に積極的に参加する。					
技能・表現の観点: コンピュータを使ったプレゼンテーションを身につける。					
成績評価方法(総合)					
授業の参加態度、理解度を中心に評価を行います。出席70%以下は欠格条項となります。					
教科書					
文化の型/ルース・ベネディクト:講談社学術文庫, 2008					
参考書					
メッセージ					
積極的な授業態度を望みます。プレゼンテーション能力も高めてください。その都度アドバイスをします。2年生の履修も歓迎します。					
連絡先					
E-mail hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp 電話 5239 研究室 213					
オフィスアワー					
木曜日 12:00～14:00					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011113022
開設科目名	文化人類学演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	坪郷 英彦			区分	
授業の概要					
ゼミ所属の4年生に対して卒業論文作成に向けて研究の基本的な方法、文献の読み方などを一人一人の進め方に沿いながらアドバイスしていきます。					
授業の一般目標					
はっきりした卒業論文のテーマ設定、研究の手順設定を学生一人一人が行うこと。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
出席点と授業への積極的参加態度によって評価します。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
E-mail hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp 電話 5239 研究室 213					
オフィスアワー					
木曜日 12:00～14:00					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011113023
開設科目名	現代政治社会学演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	山本 真弓			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011113024
開設科目名	現代政治社会学演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	山本 真弓			区分	
授業の概要					
共通のテキストを分担購読しながら、「責任」「自己責任」という概念について、詳細に検討していく。裁判員制度、刑事裁判における被害者参加制度、死刑執行件数の急増など、近年の司法改革と国民参加という観点から、「責任」について考察する。					
授業の一般目標					
現代社会の諸問題を様々な視点から考察した文章を読み解くなかで、各自が卒業論文のテーマとする課題を見つけてゆくこと					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 考えるうえで最小限必要な法律上の概念、近代法の理念を正確に理解すること。					
思考・判断の観点: 根拠のある主張ができること。					
関心・意欲の観点: 関連する新聞記事、雑誌記事などを読むように心がけていること。					
態度の観点: 討論に積極的に参加すること。					
技能・表現の観点: 日本語で自分の考えを論理的に表現する力を身につけること。					
成績評価方法(総合)					
出席、および授業への参加、ならびに最後のレポートを含めて総合的に判断する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011113025
開設科目名	民俗学演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	湯川 洋司			区分	
授業の概要					
民俗学の基本的問題を理解し、民俗学に対する自らの関心を深め強める一助とする。受講生各自が関心を持つテーマについて自ら調べて、その内容を発表し、全員で討論して理解と興味がさらに深まるようにする。					
授業の一般目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 民俗学の扱う領域、課題を知る。 2. 民俗学にかかわるテーマを発表し検討し合うことで、民俗学への関心を強める。 3. 受講生との討論を通じて、相互に啓発しあう人間(友人)関係を築く。 					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 民俗学の基本的概念について説明できる。					
思考・判断の観点: 民俗学上の特定テーマを基本的概念や用語を用いて説明できる。					
態度の観点: 他者の発表をよく聞いて、積極的に発言することができる。					
技能・表現の観点: 民俗学の概念や用語を用いて、民俗学的内容を論じた文章が作成できる。					
成績評価方法(総合)					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 他の受講生の発表を聞いたり、自ら発表したりすることができたか。 2. 発表当番の責任を十分に果たしたどうか。 3. 内容や表現のしっかりしたレポートを作成し提出できたか。 					
教科書					
参考書					
メッセージ					
授業時間外の予習と復習が大事です。自ら知る、探るという精神をぜひ発揮してください。					
連絡先					
yukawa@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
必要があればいつでも研究室を訪ねてください					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011113026
開設科目名	民俗調査実習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	湯川 洋司			区分	
授業の概要					
民俗調査を実施するためのテーマと調査項目を用意するとともに、聞き書きや写真撮影法、地図の見方読み方、民具の作図法など、民俗資料を収集する技法を習得することを目的にします。先行文献を参考にして、調査対象地域を決めるとともに、調査対象に関する予備知識を蓄積します。そのうえで、自らの関心に基づき、調査テーマを決定し、調査項目等の作成を進めて、夏季休暇中に3泊4日程度の現地調査を実施します。					
授業の一般目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 民俗調査の実施に関する一連の手順を理解する。 2. フィールドワークを実施するために必要な調査項目票等を作成する。 3. フィールドワークを実施するために必要な技能を学習する。 					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 民俗調査の手順が分かる。					
関心・意欲の観点: 知りたいと思うテーマを明確に設定できる。					
態度の観点: テーマに接近するための方法をよく考え、準備できる。					
技能・表現の観点: 聞きたいこと知りたいことを明確に整理し、分かりやすく発表できる					
成績評価方法(総合)					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 調査のための準備に積極的に取り組んだか。 2. 各作業が確実に実行できたか。 					
教科書					
参考書					
民俗調査ハンドブック / 上野和男[ほか]編, 吉川弘文館, 1974					
メッセージ					
好奇心を形にする授業です。					
連絡先					
yukawa@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
研究室: 人文学部棟 2階210号室, いつでも随時訪ねてください。					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011114001
開設科目名	比較考古学			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	中村 友博			区分	
授業の概要					
縄紋・弥生過渡期の土器研究;縄紋土器がどのように弥生土器にとって変わったのかを、東北地方から九州地方まで具体的な出土品を検討しながら講義する。今回は、縄紋晩期の亀ヶ岡式土器を山内清男の大洞体系を使用して検討するところから始める。					
授業の一般目標					
日本考古学で発達した土器型式学を具体的に学習する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 専門用語の定義を承知している。					
思考・判断の観点: 体系的に理解するように努める。					
関心・意欲の観点: 学説の効力に関心を向ける。					
態度の観点: 研究に興味をもつことができる。					
技能・表現の観点: 考古資料の表現方法に関心をもつ。					
成績評価方法(総合)					
期末に専門的なレポートを提出し、その内容によって判定する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
tomo@yamaguchi-u.ac.jp、研究室;人文学部3階					
オフィスアワー					
月曜日;16時10分～17時40分。					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011114002
開設科目名	比較考古学			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	中村 友博			区分	
授業の概要					
動物の考古学;遺跡出土の動物遺体から、遺跡を残した人々の生活環境、狩猟活動や家畜利用技術、動物にかかわる文化について考察する。					
授業の一般目標					
考古資料に基づいて人間の動物利用の歴史を考える。特に狩猟・採集社会から農耕社会への移行の実相や、日本人の殺生、肉食の忌避、賤視観の誕生とその変遷について理解を深める。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 動物考古学に対する基礎的知識を習得し、動物遺存体から人間の文化にかかわる情報をいかに引き出すかという方法の理解につとめたい。					
思考・判断の観点: 「日本人は古代仏教に帰依して以降、幕末・明治に西洋文化の影響を受けるまで肉食を忌避し続けた」という主として文献史をもとにした食生活史観を、動物遺存体の分析によって再検討し、各自の評価を問いたい。					
関心・意欲の観点: 旧来の考古学の枠組みに対して、新しい枠組みへの興味の示し方を評価する。					
態度の観点: 講義中、理解を見る質問票、小レポートを課し、積極的かかわりを評価する。					
技能・表現の観点: レポートの章立て、他者に情報を伝える表現技術、論理構造などを重視する。					
成績評価方法(総合)					
講義中の質問票、不定期のレポートにより、出席点にかえる。集中講義終了後にレポートを提出。					
教科書					
環境考古学への招待(岩波新書930)/松井 章:岩波書店					
参考書					
環境考古学マニュアル/松井 章:同成社,2003					
メッセージ					
連絡先					
国立文化財機構 奈良文化財研究所 埋蔵文化財センター(奈良市二条町2-9-1)					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011114003
開設科目名	東アジア考古学			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	村田 裕一			区分	
授業の概要					
卒業論文作成に向けての演習である。卒業論文では、自らが設定したテーマにそって研究を進め、論理を展開する必要がある。膨大な考古資料の中から、特定の資料を検索・抽出し、適切で正確かつ効果的な資料操作を行い、自説を構築しなければならない。授業では、受講生の研究の進捗状況を確認するとともに、考古学的方法論の指導、具体的な資料操作方法についての指導を行うことで、よりよい卒業論文をなすための手助けを行う。					
授業の一般目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 卒業論文作成に必要な基礎研究を積み重ねる。 2. 受講生全員による討議を行うことで、問題抽出能力、問題解決能力、資料解釈における多角的な視点の形成を行う。 3. 積極的に討議に参加することで、発表者以外も、討議の成果を自分の研究に反映する。 					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: A. 発表内容について討議できる。					
技能・表現の観点: A. 論旨構築に必要な考古資料を抽出できる。					
B. 抽出した考古資料を、適切に資料操作できる。資料操作は、考古学的手法・統計学的手法・理化学的手法などによる資料分析のことである。					
C. 資料操作の過程、結果を図版・分析表などを効果的に使って説明できる。					
D. 資料操作の結果に基づいて論旨を構築・発表できる。					
成績評価方法(総合)					
授業態度・授業への参加度 10%、受講者の発表(プレゼン)・授業内での制作作品 90%。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
大学内外所蔵の遺跡発掘調査報告書を基本文献として、研究を開始することになります。研究の進展にしたい、学外の調査研究機関に資料調査に行く必要も生じます。研究は一朝一夕に進展するものではなく、各自の日頃の取り組みが重要なので地道に努力することが大切です。途中何度も突き当たる壁を自ら乗り越えてゆく気概が必要ですが、教官の助言が有効な場合もあります。相談は随時受け付けます。研究発表は十分な準備を行い、全力で行ってください。授業の性格上、無断欠席はしないでください。					
連絡先					
E-mail: h-murata@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
水曜日7・8時限					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011114004
開設科目名	考古学演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	中村 友博			区分	
授業の概要					
卒業論文作成のための演習である。研究発表の向上をはかるために、問題の明確さ、資料の実体化、収集、検索能力、説得力、口頭発表の仕方を習得する。					
授業の一般目標					
調査、分析、成果を発表し、卒業論文を完成させる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 従来の研究を掌握し、学説を理解する。					
思考・判断の観点: 問題設定を適切に行い、資料を実体化する。					
関心・意欲の観点: 興味をもって、集中して取り組む。					
態度の観点: 問題を共有化する。					
技能・表現の観点: 資料を図表で表現する。					
成績評価方法(総合)					
授業中の平常をもって評価する。自己の能力をフルに活用して問題を解決するかどうか、決め手であり、計画的に課題を消化し、まとめる能力を重視する。また口頭発表であるから、文章能力よりも態度の要素が入るので注意すること。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
tomo@yamaguchi-u.ac.jp、研究室:人文学部3階					
オフィスアワー					
月曜日:16時10分～17時40分。					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011114005
開設科目名	考古学演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	村田 裕一			区分	
授業の概要					
卒業論文作成に向けての演習である。卒業論文では、自らが設定したテーマにそって研究を進め、論理を展開する必要がある。膨大な考古資料の中から、特定の資料を検索・抽出し、適切で正確かつ効果的な資料操作を行い、自説を構築しなければならない。授業では、受講生の研究の進捗状況を確認するとともに、考古学的方法論の指導、具体的な資料操作方法についての指導を行うことで、よりよい卒業論文をなすための手助けを行う。					
授業の一般目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 卒業論文作成に必要な基礎研究を積み重ねる。 2. 受講生全員による討議を行うことで、問題抽出能力、問題解決能力、資料解釈における多角的な視点の形成を行う。 3. 積極的に討議に参加することで、発表者以外も、討議の成果を自分の研究に反映する。 					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: A. 発表内容について討議できる。					
技能・表現の観点: A. 論旨構築に必要な考古資料を抽出できる。					
B. 抽出した考古資料を、適切に資料操作できる。資料操作は、考古学的手法・統計学的手法・理化学的手法などによる資料分析のことである。					
C. 資料操作の過程、結果を図版・分析表などを効果的に使って説明できる。					
D. 資料操作の結果に基づいて論旨を構築・発表できる。					
成績評価方法(総合)					
授業態度・授業への参加度 10%、受講者の発表(プレゼン)・授業内での制作作品 90%。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
大学内外所蔵の遺跡発掘調査報告書を基本文献として、研究を開始することになります。研究の進展にしたい、学外の調査研究機関に資料調査に行く必要も生じます。研究は一朝一夕に進展するものではなく、各自の日頃の取り組みが重要なので地道に努力することが大切です。途中何度も突き当たる壁を自ら乗り越えてゆく気概が必要ですが、教官の助言が有効な場合もあります。相談は随時受け付けます。研究発表は十分な準備を行い、全力で行ってください。授業の性格上、無断欠席はしないでください。					
連絡先					
E-mail: h-murata@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
水曜日7・8時限					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011114006
開設科目名	考古学実習			単位	4単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	中村 友博			区分	
授業の概要					
この授業では野外の発掘調査に不可欠な測量法を実習する。測量機器の操作方法、身のこなし方、計算法、作図法の実技を習得する。ただし、雨天の場合は、室内作業を実習する。					
授業の一般目標					
発掘調査に必要な測量ができるようになる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 測量の原理を理解する。					
思考・判断の観点: 状況に応じた測量法を習得する。					
関心・意欲の観点: 実技・作業の身のこなし方に興味を持つ。					
態度の観点: 危険回避行動を身につける。					
チーム・ワークを習得する。					
技能・表現の観点: 線画による表現法を学ぶ。					
成績評価方法(総合)					
実習中の平常で評価・採点する。判定基準は実技ができるか、できないかであって、器用・不器用、上手・下手は経験と個性が影響するから、この授業では重要ではない。要するに、全員できるようになって欲しいし、全員できるまでやらせるので、資格のように判定する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
受講生は、考古学専攻の3年生に限る。					
また、授業前に全員そろって、機材を用意しておくこと。さらに、授業中は交通事故などに注意すること。					
連絡先					
tomo@yamaguchi-u.ac.jp、研究室:人文学部3階					
オフィスアワー					
月曜日;16時10分～17時40分。					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011121001
開設科目名	西洋哲学特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	脇條 靖弘			区分	
授業の概要					
哲学の特定の問題を一つ取り上げ、諸哲学者の議論を手掛りにその解決の道を探究する。					
授業の一般目標					
一つの哲学的問題について深く探究する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: とりあげた問題とその解決の試みを理解する。					
思考・判断の観点: その問題について哲学的考察を加える。					
成績評価方法(総合)					
レポートによる。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
yasu@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011121002
開設科目名	西洋哲学講読			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	脇條 靖弘			区分	
授業の概要					
この授業では、英語で書かれた現代の哲学の文献を読みます。					
授業の一般目標					
英語圏の哲学の文献を読むのに慣れる。哲学用語やそれが表現する哲学に特有の概念を理解し、議論の展開を追うことができるようになる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 哲学用語や概念を理解する。					
思考・判断の観点: 哲学的議論の展開を追うことができる。					
成績評価方法(総合)					
レポートによる。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
yasu@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011121003
開設科目名	西洋哲学演習			単位	2単位
対象学生				学年	3～3
担当教員	脇條 靖弘			区分	
授業の概要					
哲学、倫理学を専門分野とする3,4年生が各自の卒論のテーマに関する研究の発表を行います。					
授業の一般目標					
各人が卒論テーマに関する研究を深める。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 発表の趣旨を理解する。					
思考・判断の観点: 他人の発表内容に関心を持つ。					
成績評価方法(総合)					
授業内での発表もしくはレポートによる。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
yasu@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011121004
開設科目名	西洋倫理学特講義			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	円谷 裕二			区分	
授業の概要					
フランスの哲学者メルロ=ポンティ(1908-1961)を取り上げながら、彼の現象学や存在論について考察する。特に彼の身体論・真理論・言語論・芸術論などに焦点を絞りながら、デカルトやカントやヘーゲルやベルクソンやハイデッガーなどの哲学と比較しつつその哲学的意義を際立たせる。					
授業の一般目標					
心と身体 精神と物質、特殊と普遍 思考と感覚 具体と抽象、理論と実践 時間と永遠など、ギリシア以来の西洋哲学に特有な二元論的なものの見方が、いかに世界についての一面的な捉え方にすぎないかを十分に理解し、それを通して、世界と自己の真相に迫ること。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 幾人かの哲学者の考えを比較することによって哲学的な知識と理解を深めること。					
思考・判断の観点: 哲学的な知識と理解を踏まえながら、自ら考え、判断することの大切さを自覚すること。					
成績評価方法(総合)					
レポートによる。但し、講義回数の半分以上に出席した者のみにレポート提出を認める。					
教科書					
参考書					
『知覚の現象学』 / メルロ=ポンティ					
『意味と無意味』 / メルロ=ポンティ					
『シーニュ』 / メルロ=ポンティ					
『見えるものと見えないもの』 / メルロ=ポンティ					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011121005
開設科目名	西洋倫理学演習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	古荘 真敬			区分	
授業の概要					
ベルクソンの講演・論文集『思想と動くもの』を読み進めていながら、彼の哲学の根本問題を明らかにすることを試みます。					
授業の一般目標					
ベルクソンは何を、如何に、何故、問おうとしているのか。彼の「問い」の輪郭を浮かび上がらせること。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: ベルクソンの「問い」の根本を理解すること。また、哲学史上の関連する他の論考についての基礎知識を得ること。					
思考・判断の観点: ベルクソンの「問い」を、みずからの「問い」との繋がりにおいて批判的に吟味すること。					
成績評価方法(総合)					
授業内での発表報告によって評価します。					
教科書					
La pensee et le mouvant / Henri Bergson : PUF					
参考書					
メッセージ					
教科書の予習が必須です。					
連絡先					
furusho[a]yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
水曜日 12:50 から 14:20					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011121006
開設科目名	中国哲学史			単位	
対象学生				学年	1～3
担当教員	高木 智見			区分	
授業の概要					
<p>まず古代中国を学ぶ目的や意義を明示し、さらに中国の新石器時代から漢代にかけての歴史・文化を、最新の出土資料ならびに伝来文献を用いて概観したうえで、諸子百家の思想を理解することにつとめる。中国の学問は、哲学、歴史、文学というように明確に区分できず、全てが渾然一体となっている。この授業では、将来どの専門に進む場合にも必要な中国文化の本質に関する基本的知識を提供する。</p>					
授業の一般目標					
<p>中国文化が形成された先秦時代の各段階、すなわち原始村落(新石器時代)、邑制国家(夏殷周)、領域国家(春秋戦国)、統一帝国(秦漢以降)について明確なイメージを描き出し、中国古代の思想や文化を歴史的な脈に即して理解できるようにする。ただし、今年度は文献資料の分析・紹介に重点を置く。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 中国古代について全般的な知識を獲得する。 漢文や中国語の原初の段階にさかのぼって、それらに慣れ親しむ。</p> <p>思考・判断の観点: 中国古代の理解を例として、他者理解の前提は、自己の価値観から自由になるということであるという異文化理解の観点を学ぶ</p> <p>関心・意欲の観点: いま盛んに持て囃されているのは、アメリカと現代であるが、中国、古代という対極にある世界にも、豊かで、深く、すばらしい文化があったことを感じ取り、人間の文化・社会全体に対する見方を広げる。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>基本的にレポートによる。講義の内容を咀嚼したうえで、論理力および構想力により、どれほど自らの意見を表現し得ているかによって評価する。</p>					
教科書					
参考書					
メッセージ					
<p>原史料に直接触れて、古代中国の世界を身近に感じられる講義を目指す。</p>					
連絡先					
<p>satakagi@yamaguchi.u.ac.jp</p>					
オフィスアワー					
<p>人文学部5階</p> <p>火曜日16時から17時</p>					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011121007
開設科目名	中国思想史特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	高木 智見			区分	
授業の概要					
<p>先秦時代の様々な個別の事象を、大きな歴史的背景の中に位置づけて理解する。言うまでもなく、先秦時代は、時代・地域・民族という三重の意味で異文化世界に属する。そのような世界の人々の行動や言説を理解するには、一旦、現代人としての価値観を棚上げにして、当時の人々の論理に即して理解する必要がある。本講義は、このような意味において、異文化理解の一つの試みである。本年度は、前年に引き続き、当時の戦争の具体的な状況を明らかにすることにより、国家ならびに支配者と民衆の関係を、その親和的側面に着目して考察する予定である。画像石などの画像資料を多用することにここがけたい。この講義は、私の日々の研究の内容をそのまま提示して、研究論文の作成の一例としても見てもらいたい。</p>					
授業の一般目標					
<p>講義を通じて、つまり史料の解説を通じて、先秦時代というはるか彼方の世界の人々が作りあげていた社会に入り込み、実際に体験して、再び現代世界に戻ってくるといった実感を持つことが出来るようにしたい。先秦時代は、中国文化の「核心」が形成された時期であり、この時代に対する十全な理解がなければ、真の意味での中国理解はできない、というのが私の考えである。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 左伝や国語などの伝来文献、金文や木竹簡などの出土文献を日常的に読むことによって、史料から何をどのように汲み取るのかということを理解する</p> <p>思考・判断の観点: 構想に基づき史料を読み込み、立論していく過程を示し、研究論文作成に必要な一連の事柄を理解する。</p> <p>関心・意欲の観点: 思想史学、歴史学、文学、考古学のいずれの分野であろうと、古代中国の様々な事象に対して、興味を感じることができるようになる。</p>					
成績評価方法(総合)					
レポートにおけるテーマの選択、構想力、論理力などを見て、総合的に判断する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
何を語っているのかではなく、史料をどのように読み、そこから何を語ろうとしているのか、その過程を見ていただきたい。					
連絡先					
人文学部五階510					
オフィスアワー					
火曜日16時から17時					
時					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011121008
開設科目名	中国思想史特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	黄 晓芬			区分	
授業の概要					
<p>古代中国における都城と陵墓の造営は、明確な思想的背景をもち、自然景観との調和を注意深くはかり、計画性の高い設計に基づいたものである。本授業は、考古学資料を素材に文献の考察に加えて、陰陽死生を表象する二つの神聖空間を具体的に解析し、古代中国人の世界観と創造力を探究しようとするものである。</p> <p>前期の授業科目は、国家形成期における大型環壕・城郭集落から周、秦、漢、唐時代の都城建設に至るまで、史的な考察に焦点をしぼり、中国古代都城の特質を考える。</p>					
授業の一般目標					
中国思想史の面白さと奥深さを認識することができる。					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 中国思想史の基礎知識と概念を伝授し、モノ(遺跡・遺物)を通して理解することができる。</p> <p>思考・判断の観点: 人間の思想と社会を深く理解するため、歴史的感覚が不可欠であることを説明することができる。</p> <p>関心・意欲の観点: 現代における新日の社会問題を考える時、なにかよいヒントを提供することができる。</p> <p>技能・表現の観点: 問題意識や物事の洞察力などを少しずつ身につけることができる。</p>					
成績評価方法(総合)					
レポート提出: 問題意識、思考力、文章力を見て総合的に判断する。					
教科書					
参考書					
中国古代制度史研究 / 楊寬: 上海古籍出版社, 1993					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011121009
開設科目名	中国思想史講読			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	高木 智見			区分	
授業の概要					
<p>司馬遷の『史記』を精読する。昨年に引き続き、孔子世家を読む。テキストは瀧川亀太郎の『史記会注考証』を使用し、当然のことながら、史記集解、史記索隱、史記正義、さらに考証の見解と論理をその引用書物にわたって詳しく検討する。中国古来のいわゆる注疏の学を、史部の書の読解を通じて学ぶ。</p>					
授業の一般目標					
<p>自分の力で古代中国の資料を読み進める様々な能力ならびに意欲を獲得する。一見難しい漢文史料には、歴代学者達の真理の追求に対するすざましいエネルギーが、充ち満ちている。それを感じ取ることも重要な目標である。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 古代中国語の文法、語彙の理解の方法、調べ方など古典理解の一般的方法を身に付けて、他の分野や時代の書物に臨んでも、自分なりの対処が出来るようになる力を獲得したい。</p> <p>思考・判断の観点: 一つの文字や単語の理解の仕方如何で、全文の解釈が変わってしまうといった古代中国語理解の困難さを面白いと感じられるような思考力を養う。</p> <p>関心・意欲の観点: いわゆる漢文史料を見ても、調べれば理解できるという自信をつける</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>日常的な授業への取り組み姿勢、ならびにレポートによって、古代世界を理解しようとする積極性を基準にする</p>					
教科書					
参考書					
メッセージ					
<p>古典は、帰納的な意味解釈を重ねていけば、誰でも理解できます。難しくはありません。要するに、自分の頭で自分の読み方をすれば良いのであって、やる気と根性のみが問題です。</p>					
連絡先					
<p>人文学部5階510研究室</p>					
オフィスアワー					
<p>火曜16時から17時</p>					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011121010
開設科目名	中国思想史講読			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	黄 曉芬			区分	
授業の概要					
<p>適当な中国思想史の文献を選び、たび重ねて読むことにする。</p> <p>例えば、史籍や関連論文、または1993年湖南省荊門市で発見された『郭店楚墓竹簡』には、『礼記』緇衣篇や『五行』と類似する内容など、儒家系史料が豊富に含まれている。それら伝世の儒家系文献と出土文献とを精読・対照することによって、儒家思想の歴史的な位置について考える。</p>					
授業の一般目標					
中国思想史の文献を繰り返し精読し、史料の読み解く力を少しずつ身につけることができる。					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 古代漢語の語彙と文法を習得し、史料解読の方法を少しずつ身に付けることができる。</p> <p>思考・判断の観点: 古典の面白さを理解することができる。</p>					
成績評価方法(総合)					
レポート提出: 古典の読解力、文章の表現力を見て総合的に判断する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011121011
開設科目名	中国思想史演習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	高木 智見			区分	
授業の概要					
中国哲学の論文作成を目指す学生が、具体的なテーマの決定、先行研究の有無の確認ならびに検索方法、関連史・資料の収集、論文の構想ならびに論理構成などについて、それぞれの段階において報告し、参加者全員で討論しつつ授業を進めていく。					
授業の一般目標					
与えられたものを型どおりに消化する姿勢ではなく、各自が何を知りたいのか自分自身に問いかけ、求める物を明確にした上で、自らの力でそれを追求するという積極的な姿勢が望まれる。卒論の完成度は、この授業への取り組み方によって大きく異なるはずである。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 自らのテーマを確定することが出来る。 史料状況を明確に把握する。 過去の研究の蓄積を把握、消化する。					
思考・判断の観点: 自分の考えを明確にして、論理的に文章表現できるようにする。					
関心・意欲の観点: 自らが問題を発見し、自らの力で解決していく積極的な姿勢をもてるようにする。					
成績評価方法(総合)					
日常的な授業における姿勢、ならびにレポートの完成度により、判断する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
メッセージ 研究は、積極性とねばり強さだけでほとんどが決まる。					
連絡先					
人文棟五階高木研究室					
オフィスアワー					
火曜日16時から17時					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011121012
開設科目名	中国思想史演習			単位	2単位
対象学生				学年	3～3
担当教員	高木 智見			区分	
授業の概要					
中国語によって書かれた論文を読み進め、中国語の語学的能力を向上させるとともに、引用されている古代漢文をも丁寧に読み、その読解能力をも養う。					
授業の一般目標					
中国語の論文に対する抵抗感を少なくする。やさしく書かれたテキストを用いる予定であるが、ある程度難しい論文でも、最後まで読み切る能力と意欲を作り出す。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 現代中国語の文法、語彙の理解の方法、調べ方などに加えて、古代漢語理解の一般的方法を身に付けて、他の分野や時代の書物に臨んでも、自分なりの対処が出来るようになる力を獲得する					
思考・判断の観点: 中国語の文章の論理展開に慣れ、自分で読みとることが可能になるようにする。					
関心・意欲の観点: 中国語の文章や漢文史料を見ても、調べれば理解できるという自信をつける					
成績評価方法(総合)					
日常的な授業への取り組み姿勢、ならびにレポートによって、受講生の学問に対する積極性を判断して、評価する					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
人文5階 高木研究室					
オフィスアワー					
火曜日15時から16時					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011121013
開設科目名	日本倫理思想史			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	豊澤 一			区分	
授業の概要					
近世の倫理思想 近世日本の倫理思想の諸相を概観します。前年度は伊藤仁斎まで解説しました。従って、荻生徂徠からはじめます。次いで、指定教科書にしたがって「国学の思想」「庶民の思想」等を対象とします。近代に及ぶかも知れませんが、福沢諭吉、中村正直等、明六社の思想家たちから。					
授業の一般目標					
日本の過去の倫理思想を理解します。そのことによって自己の考え方、ものの感じ方をとらえかえし、自己認識を深めます。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 近世の多様な思想を理解し、学外者に説明できる。					
思考・判断の観点: 日本の過去の諸思想を先入見を取り払って批判できる。					
態度の観点: 日本の過去の諸思想を先入見を取り払って理解し、追体験できる。					
技能・表現の観点: 近世の多様な思想を理解し、学外者に説明できる。					
成績評価方法(総合)					
各授業時間の最後に10分程度を費やして、授業内レポートを課します(40点)。 期末試験を実施します(60点) レポート提出に替えることもあります。					
教科書					
日本倫理思想史 / 佐藤正英: 東京大学出版会, 2003					
参考書					
メッセージ					
一見奇妙に思われる思想も詳しく聴いて(読んで)みると、賛否は別ですが、なるほどと思わないでもありません。					
連絡先					
人文学部棟 409 号研究室 TEL: (内線)5218 / e-mail: toyosawa@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
木曜日 12:50 ~ 14:20					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011121014
開設科目名	日本思想史特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	柏木 寧子			区分	
授業の概要					
<p>ハビアンを読む 本年度は、主にハビアン(1565-1621頃)の著書を読みながら、超越をめぐる日本人の思索について理解を深めます。ハビアンははじめ臨済宗を学び、19歳のとき受洗し(ハビアンは洗礼名)、イエズス会修道士となって神学を学びます。41歳のとき著した『妙貞問答』では、二人の尼僧の問答を通じて、仏法・儒教・神道の排斥ならびにキリスト教護教論を展開しますが、のちイエズス会を脱会し、晩年にはキリスト批判の書『破提字子(はたいうす)』を著します。これら著書の読解は、キリスト教思想の基本的知識を踏まえる準備作業だけでも大変かもしれませんが、できるだけの接近を試みます。諸思想の比較に挑んだハビアンの思索は、私達自身が伝統的諸思想を捉え返し、自身の超越観・宗教観とはどのようなものであるか、考えていくための手がかりにもなるだろうと思います。</p>					
授業の一般目標					
まず、不足する知識を参考書によって補いつつ、テキストの意味および論理構成を知ること。さらに、超越をめぐる日本人の思索について、テキストを手がかりに理解を深めること。					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:ハビアン(あるいはその周辺)が何を問おうとしたのか、問いを理解し、説明することができるようになる。</p> <p>思考・判断の観点:ハビアン(あるいはその周辺)が上記の問いについてどのように考えたか、思考の理路を自らたどり、批判することができるようになる。</p> <p>関心・意欲の観点:共感にせよ反発にせよ、少なくともどこか一箇所、受講者自身の問題関心に触れる(かする)点を発見し、テキストと対話する意欲をもつことができるようになる。</p> <p>態度の観点:なじみないテーマや文章であっても、投げ出さず、恣意的裁断をせず、ねばりよく読解する態度をもてるようになる。</p> <p>技能・表現の観点:自らの思考を、筋道立てて文章表現することができるようになる。</p>					
成績評価方法(総合)					
(1)授業内の小レポート(論理的な思考と文章表現、および自発的に問いを見出し追求する姿勢を求めます)。(2)期末試験(基本的な知識と理解を求めます)。なお、出席が所定の回数に満たない場合は期末試験を受けることができません。					
教科書					
参考書					
<p>『キリシタン書 排耶書』(日本思想大系25) / 海老沢有道ほか校注:岩波書店,1970</p> <p>『キリシタン教理書』(キリシタン文学双書 キリシタン研究第30輯) / 海老沢有道ほか編著:教文館,1993</p> <p>『南蛮寺興廢記・妙貞問答』(東洋文庫14) / 海老沢有道訳:平凡社,1964</p> <p>『岩波キリスト教辞典』 / 大貫隆ほか編:岩波書店,2002</p> <p>『吉利支丹文学集1・2』(東洋文庫567・570) / 新村出・柗源一校註:平凡社</p>					
メッセージ					
やむをえない事情があって欠席する場合は届け出てください。					
連絡先					
kashiwg@yamaguchi-u.ac.jp 人文学部4階410研究室					
オフィスアワー					
水曜13:00-14:00 ほかの曜日・時間帯でも可能ですので、あらかじめメール等で面会の希望をお知らせください。					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011121015
開設科目名	日本思想史特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	豊澤 一			区分	
授業の概要					
<p>本居宣長の思想に焦点をあわせ、その内実と彼のみていた思想的風景(古代像、先行する国学やその他の学問思想、アジアの宗教、宣長の後世・現代との関係)などを往還しながら、考えていきます。日本の思想家といわれながら、あらためて見ていくと、その印象は「日本的」という形容詞が的確なのか、どうか異なって見えてくることもたしかです。宣長の古代像(神々の世界)、人情のとらえかた(物語や和歌)を、宣長なりの日本の思想文化の歴史的展開のとらえ方と関連させながら、その志向していたものを解いてみます。</p>					
授業の一般目標					
<p>本居宣長の理解を深めることを通して、日本の思想とくに近世思想への問題意識と知識をひろげることをめざします。</p>					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
<p>「小テスト・授業内レポート」「宿題・授業外レポート」「出席」を、4:3:3の割合で評価します。</p>					
教科書					
参考書					
<p>日本の思想 / 清水正之:放送大学教育振興会, 2008 国学の他者像 誠実と虚偽 / 清水正之:ペリかん社, 2005</p>					
メッセージ					
<p>授業内で、感想・疑問点を書いてもらう3回ほどの小レポートを課します。</p>					
連絡先					
<p>豊澤 一(内線:5218, e-mail:toyosawa@yamaguchi-u.ac.jp)</p>					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011121016
開設科目名	日本思想史講読			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	豊澤 一			区分	
授業の概要					
日本思想大系・日本儒林叢書等に載っている17世紀の儒学者の比較的短い文章を読みます。惺窩・羅山から浅見訶斎、太宰春台等まで。彼らがどのような問題と取り組み、どう解答したかを内在的に読み取っていきます。					
授業の一般目標					
藤樹、闇斎、祖考、仁斎、徂徠等は、いわば大思想家ですが、それより少し劣るかに扱われる諸思想家の著作を読みます。むしろこちらの方が当時の常識、先入主を露わに示していて、後世のわたくしたちとの共通点が見えやすいでしょう。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 近世儒者の多様な思想を内在的に理解し、他の人に説明できる。					
思考・判断の観点: 近世儒者の発想と現在の我々のそれとの異同を考え、自己理解を深めることができる。					
関心・意欲の観点: 自己自身の思想とは異なる思想に興味を持ち、その意味を考える					
態度の観点: 異質な物の存在に敬意を払い、自己との同異を考える。					
成績評価方法(総合)					
レポーター、司会者の担当を決めます。学期末にはレポートの提出を求めます。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
人文学部棟 409 号研究室 TEL: (内線:5218) e-mail: toyosawa@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
木曜日 12:50 ~ 14:20					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011121017
開設科目名	日本思想史講読			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	柏木 寧子			区分	
授業の概要					
<p>小林秀雄『感想』を読む 小林秀雄(1902-1983)の未完のベルグソン論を読みます。1958年から5年にわたって連載され、第56回で中断した『感想』と題する論考です。連載第1回で小林は、母の死の数日後の「妙な経験」、また、そのしばらく後の「忘れ難い経験」を語り、それらの余韻の中でベルグソンと改めて出会ったことを語っています。小林が「事実の直接的経験」と呼ぶものが何か、ベルグソンの哲学の中に分け入りながら小林が追究したかったものとは何か、考えていきたいと思ひます。なお、前期は前半(『感想(上)』)、後期は後半(『感想(下)』)を読みます。</p>					
授業の一般目標					
<p>恣意を排し、かつ主体的にテキストを読む姿勢・素養を涵養すること。小林が要約するベルグソンの哲学自体について、この授業で問題にすることはできませんが、少なくとも、ベルグソンに依りつつ小林が展開する議論について、その理路をたどれるようになること。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: テキストの著者が何を問おうとしているのか、基本的な問いのありかを理解し、説明できるようになる。 思考・判断の観点: 上記の問いをめくりテキストがどのような議論を展開しているか、思考の理路を自らたどり直すことができるようになる。 関心・意欲の観点: 共感にせよ反発にせよ、少なくともどこか一箇所、受講者の問題関心に触れる(かする)点を発見し、テキストと対話する意欲をもつことができるようになる。 態度の観点: なじみないテーマや文章であっても、投げ出さず、恣意的判断をひかえ、しばし著者の議論につき合うねばりつよさをもつことができるようになる。知らない言葉があったら辞書をひき、一読してわからなければ再読三読し、理路が見えにくければ図解化を試みるなど、手間・工夫をいとわず読み通すことができるようになる。 技能・表現の観点: 自らの思考を、筋道立てて文章表現することができるようになる。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>(1)授業内の報告(テキストの精読、自分なりの視点を定めて問いを発見する姿勢、および論理的な思考と文章表現を求めます)。(2)宿題とそれをふまえての授業参加。(3)期末レポート(ただし、授業内の報告を所定の回数以上行った場合は課しません)。なお、出席が所定の回数に満たない場合は単位を取得できません。</p>					
教科書					
『小林秀雄全作品 別巻1 感想(上)』/小林秀雄:新潮社,2005					
参考書					
『時間と自由』(岩波文庫)/ベルグソン著、中村文郎訳:岩波書店,2001					
『思想と動くもの』(岩波文庫)/ベルグソン著、河野与一訳:岩波書店,1998					
『精神のエネルギー』(レグルス文庫)/ベルグソン著、宇波章彦訳:第三文明社,1992					
『物質と記憶』(ちくま学芸文庫)/ベルグソン著、合田正人・松本力訳:筑摩書房,2007					
『意識に直接与えられたものについての試論』(ちくま学芸文庫)/ベルグソン著、合田正人・平井靖史訳:筑摩書房,2002					
メッセージ					
<p>初回授業には必ず出席して下さい。報告者の順番を割り振ります。やむを得ず欠席した場合は、二回目の授業以前に受講意思を告げに来て下さい(テキストを入手し、予習の上授業に臨んで下さい)。 無断欠席はしないで下さい。 授業の進め方、一回の講読分量、レジュメの作成の仕方など、要望・意見・質問はいつでも遠慮なくお寄せ下さい。</p>					
連絡先					
kashiwg@yamaguchi-u.ac.jp 人文学部4階410研究室					
オフィスアワー					
水曜13:00-14:00 ほかの曜日・時間帯でも可能ですので、あらかじめメール等で面会の希望をお知らせください。					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011121018
開設科目名	日本思想史演習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	豊澤 一			区分	
授業の概要					
<p>日本思想を卒業論文のテーマとする3、4年生を対象として、研究を具体的に指導します。受講生は、各自のテーマについて定期的に発表します。他の受講生は、その発表を聴いて知見を共有するとともに、そのテーマについて討論します。また、期末レポートを相互に批評します。</p>					
授業の一般目標					
<p>論文執筆の作法を身につけることを目指します。</p> <p>日本思想に関する知見を広め、幅広い考え方ができることを目指します。</p> <p>学友の前で研究の成果を発表し、質疑応答の場を経験することによって、他者に開かれたより柔軟な態度を涵養することを目指します。</p>					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
<p>各自のテーマに応じた研究成果発表を課します。</p> <p>その成果を文章化する期末レポートを課します。</p>					
教科書					
参考書					
メッセージ					
<p>テキストを内在的に理解するのが基本です。</p>					
連絡先					
<p>409号研究室 TEL:(内線)5218 e-mail:toyosawa@yamaguchi-u.ac.jp</p>					
オフィスアワー					
<p>木曜日 12:50～14:20</p>					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011121019
開設科目名	日本思想史演習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	柏木 寧子			区分	
授業の概要					
<p>『ブッダの真理のことは』を読む 本年度は、様々な仏典の中でも最も古いものの一つと言われ、広く知られてもいる『真理のことは』(ダンマパダ)を読みます。日本の仏教思想文献を読む際、引用されている諸経典を参照するのは常の作業手順ですが、『法華経』や浄土三部経などの大乘仏典が自ずから多くなり、いわゆる原始仏教経典はこれまで授業でも読んでできませんでした。『法句経』の漢訳名でも知られるこの基本的経典を、注釈を頼りに読みながら、釈迦仏の思想がいかに日本に受容されたのか(あるいは変容を経て受容されたのか)、考えたいと思います。</p>					
授業の一般目標					
<p>恣意を排し、かつ主体的にテキストを読む姿勢・素養を涵養すること。いわゆる原始仏教の基本的問題関心のありかを知り、理解すること。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 釈迦仏は何を追求しようとしたのか、基本的な問いのありかを理解し、説明することができるようになる。</p> <p>思考・判断の観点: 簡潔なテキストの背後あるいは基底にどのような思考が踏まえられているのか、注釈を参照しつつ、テキストに含まれる理路を自分なりに構成し、説明することができるようになる。</p> <p>関心・意欲の観点: 共感にせよ反発にせよ、少なくともどこか一箇所、受講者自身の問題関心に触れる(かする)点を発見し、テキストと対話する意欲をもつことができるようになる。</p> <p>態度の観点: なじみないテーマや文体であっても、投げ出さず、恣意的裁断をひかえ、ねばりよく読解する態度をもてるようになる。</p> <p>技能・表現の観点: 自らの思考を、筋道立てて文章表現することができるようになる。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>(1)授業内の報告(テキストの精読、自分なりの視点を定めて問いを発見する姿勢、および論理的な思考と文章表現を求めます)。(2)宿題とそれをふまえての授業参加。(3)期末レポート(ただし、授業内の報告を所定の回数以上行った場合は課しません)。なお、出席が所定の回数に満たない場合は単位を取得できません。</p>					
教科書					
<p>『ブッダの真理のことは 感興のことは』(岩波文庫) / 中村元訳: 岩波書店, 1978</p>					
参考書					
<p>パーリ語『ダンマパダ』その(一)～その(五) 全5冊 / ウ・ウェーブッラ大僧正ほか監修・北嶋泰観編集: ダンマパダ(法句経)を学ぶ会, 1992</p> <p>『パーリ語仏典 ダンマパダ』アップグレード版 全1巻 / ウ・ヴィッジャーナンダ大長老監修・北嶋泰観訳注: 中山書房仏書林, 2000</p> <p>NHK 宗教の時間 「ダンマパダ」をよむ 上 ブッダの教え「今ここに」 / 片山一良: NHK出版, 2007</p> <p>NHK 宗教の時間 「ダンマパダ」をよむ 下 ブッダの教え「今ここに」 / 片山一良: NHK出版, 2007</p>					
メッセージ					
<p>初回授業には必ず出席して下さい。報告者の順番を割り振ります。初回にやむを得ず欠席した場合は、二回目の授業以前に受講意思を告げに来て下さい(資料を受け取り、次の回に読む箇所を確認し、予習をして授業に臨んで下さい)。</p> <p>無断欠席はしないで下さい。</p> <p>報告の仕方、レジュメの作り方、一回あたりに読み進める分量など、要望・意見・質問はいつでも遠慮なくお寄せ下さい。</p>					
連絡先					
<p>kashiwg@yamaguchi-u.ac.jp 人文学部4階410 研究室</p>					
オフィスアワー					
<p>水曜 13:00-14:00 ほかの曜日・時間帯でも可能ですので、あらかじめメール等で面会の希望をお知らせください。</p>					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011121020
開設科目名	日本思想史演習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	柏木 寧子			区分	
授業の概要					
卒業論文演習 日本思想に関わるテーマで卒業論文を執筆する3・4年次生を対象として、各自の研究を具体的に指導します。受講生には、数週間毎に研究の途中経過を口頭報告すること、当番の回以外にも出席して議論に参加すること、を課します。時には受講生同士、互いの期末レポートを読み合い、質疑応答を行う機会も設けます。					
授業の一般目標					
2年間で各自の卒業論文を仕上げるために必要・十分なもろもろの過程を積み重ねること。柔軟な発想、精密な推論、広い視野、有機的な関心、明晰な文章、等々を獲得すること。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 受講者自身の問題関心を自覚するとともに、論文とはいかなる文章であるかを知り、卒業論文で取り組むべきテーマを適切に設定することができるようになる。また、論文執筆のための具体的手順を知り、自らに与えられた時間を適切に各手順に割り当て、計画を立てることができるようになる。					
思考・判断の観点: 論文執筆のために必須の(かつ中心的な)手順である、各人のテキスト読解を、より広く深く精密なものへと鍛え上げるべく、受講者間の相互批評や教員による助言も活用しつつ、地道に努力することができるようになる。					
関心・意欲の観点: この思想史研究、この論文執筆が自身の現在および未来にどのような意味をもち得るかを知り(研究を職とするわけでもなくとも、皆さんの現在・未来に何かしら意味をもつものであってほしいと思います)、主体性をもって取り組むことができるようになる。					
態度の観点: 論文執筆の諸作業の中に不得手のものがあったり、また、まとまった時間をとるのに苦心する状況にあっても、投げ出さず、最後まで努力を続けることができるようになる。					
技能・表現の観点: 論文執筆の作法に従って論文を完成できるようになる。					
成績評価方法(総合)					
(1)授業中の口頭発表。(2)期末レポート(3000字程度)。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
無断欠席はしないで下さい。研究上の疑問等は授業時間外でも随時相談に来て下さい。教員からの連絡(メール等)を受け取れる状態にしておいて下さい。					
連絡先					
kashiwg@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
水曜 13:00-14:00 ほかの曜日・時間帯でも可能ですので、あらかじめメール等で面会の希望をお知らせください。					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011121021
開設科目名	宗教学概論			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	ALAM DJUMALI			区分	
授業の概要					
<p>「現代日本、バリ、ジャワ、アボリジニに見る宗教的(精神的)世界」をテーマとする。この4地域の宗教について、それぞれ、3回から4回の授業を行う。</p> <p>これらの具体的な宗教事例を通して、宗教とは何か、そのメカニズムと捉え方について、考えていく。世界宗教として知られる制度化した宗教というより、民間信仰や自然宗教、そして「文化としての宗教」や「生活の中の宗教」の存在、役割、諸側面のほうに注目する。全体として宗教現象には、人間の行為、思考、生活様式、観念、規範などに関する、どのようなパターン・傾向・枠組みがあるのかを探っていく。</p> <p>毎回の授業は、おおよそ次の段取りで行う。</p> <p>小テスト/小レポート(約10分)。</p> <p>講義(約45分)。</p> <p>グループディスカッション+代表者発言+解説・総括(約30分)。</p> <p>テキスト/教科書は用いないが、各テーマについて毎回、レジュメ(ときには参考資料のコピー)を事前に配布し、予習を促す。</p>					
授業の一般目標					
<p>宗教という言葉が、いろいろな側面、定義、解釈、見方があって理解しにくくなったいま、宗教を、一方では人間にとつての普遍的な心の機能・メカニズムとして位置づけ、他方では個々の固有な文化現象として捉え、ダイナミックかつ包括的・本質的な枠組みと視点に親しむこと。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:宗教学に関する主要な課題について一定の理解と知識を身につけること。</p> <p>思考・判断の観点:個々の宗教現象について、一定の視点から分析できるようになること。</p> <p>関心・意欲の観点:授業中の良識ある態度(私語しないこと、遅刻と途中退室しないこと、居眠りしないこと、など)。</p> <p>態度の観点:授業中の良識ある態度(私語しないこと、遅刻と途中退室しないこと、居眠りしないこと、など)。</p> <p>技能・表現の観点:レポートによる記述力と表現力。</p> <p>その他の観点:宗教現象を捉える感性と感受性を磨くこと。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>* 授業内小レポート/小テストを12回課す。</p> <p>* 中間レポートと最終レポートをそれぞれ1回課す。</p> <p>* 中間レポートと最終レポートは、「文章を中心とするレポート」と「描写・描画を中心とするレポート」のいずれかを選択できるようにする。</p> <p>* 参加者は一学期を通して、何回の授業・レポート/小テストに参加する必要があるのかについては、最初の授業のときに知らせる(一定の余裕がある)。</p>					
教科書					
参考書					
メッセージ					
<p>授業はできるだけ体系的にわかりやすく、範囲を限定して行う。授業に出ることによって参加者が、毎回または全体として、宗教学に関する一定の内容と枠組みを身につけることを目指す。そのためには、参加者のほうも、毎回の授業に出席し、多少の復習をする必要がある。</p>					
連絡先					
<p>ジュマリア・アラム / 電子メール:djumali@yamaguchi-u.ac.jp / ホームページ:http://alam.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/ / 電話(研究室):083-933-5220 / 研究室:人文学部413号室</p>					
オフィスアワー					
<p>随時</p>					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011121022
開設科目名	宗教学特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	ALAM DJUMALI			区分	
授業の概要					
前期の宗教学特殊講義は「宗教と女性」をテーマとする。					
次のような問いを出発点とする。「ジェンダー／性差とは何か」「シャーマン(巫女など)や呪術師・妖術師(魔女など)の担い手とされるのはなぜ女性が多いのか」「なぜどの文化圏にも『母なる大地』という概念・思想が存在するのか」(なぜ女性＝自然なのか)「宗教と女性はどう関係するのか」					
全体として、次のようなテーマを扱う。「女子割礼」「優生学と不妊手術」「中世の魔女狩りに見る宗教と女性の関係」「日本における女性シャーマン」「柳田国男による日本の宗教と女性の関係」「現代日本の生活から見る宗教と女性」「日本の新宗教に見る宗教と女性」「女性性と現代組織のメカニズム」「女性の聖性に介入する科学(生殖医療など)」「現代映画に見る女性性」					
毎回の授業は、おおよそ次の段取りで行う。 小テスト/小レポート(約10分)。 講義(約45分、映像資料を交える場合が多い)。 講義(約30分、解説・総括)、またはグループディスカッション+代表者発言+解説・総括(約30分)。					
テキスト/教科書は用いないが、各テーマについて毎回、レジュメ(ときには参考資料のコピー)を事前に配布し、予習を促す。					
授業の一般目標					
「宗教と女性」の課題について、資料的な情報を知って考えるだけでなく、深く想像して顧みながら、その本質の体系化を試みる。最終的には、宗教学という学問分野から見た「宗教とは何か?」および「宗教と女性の関係とは?」という課題について、一定の図式と枠組みを身につけ、個々の宗教とジェンダーにまつわる現象を一定の視点をもって捉えたり分析したりできるようになることを目指す。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 宗教学と「宗教学から見たジェンダー問題」に関する主要な課題について一定の理解と知識を身につけること。					
思考・判断の観点: 個々の宗教とジェンダー現象について、一定の視点から分析できるようになること。					
関心・意欲の観点: 日常生活における身近な宗教現象について関心を抱くこと。					
態度の観点: 授業中の良識ある態度(私語しないこと、遅刻と途中退室しないこと、居眠りしないこと、など)。					
技能・表現の観点: 宗教とジェンダー現象に関する記述力を養うこと。					
その他の観点: 宗教とジェンダー現象を捉える感性を磨くこと。					
成績評価方法(総合)					
* 授業内小レポート/小テストを12回課す。					
* 中間レポートと最終レポートをそれぞれ1回課す。					
* 中間レポートと最終レポートは、「文章を中心とするレポート」と「描写・描画を中心とするレポート」のいずれかを選択できるようにする。					
* 参加者は一学期を通して、何回の授業・レポート/小テストに参加する必要があるのかについては、最初の授業のときに知らせる(一定の余裕がある)。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
授業はできるだけ体系的にわかりやすく、範囲を限定して行う。授業に出ることによって参加者が、毎回または全体として、宗教学に関する一定の内容と枠組みを身につけることを目指す。そのためには、参加者のほうも、毎回の授業に出席し、多少の復習をする必要がある。					
連絡先					
ジュマリ・アラム / 電子メール: djumali@yamaguchi-u.ac.jp / ホームページ: http://alam.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/ / 電話(研究室): 083-933-5220 / 研究室: 人文学部413号室					
オフィスアワー					
随時					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011121023
開設科目名	宗教学講読			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	ALAM DJUMALI			区分	
<p>授業の概要</p> <p>この授業で扱う資料は、文献資料と映像資料の両方である。</p> <p>文献資料のほうは、現代日本の成立宗教と民俗宗教(民間信仰)に焦点を絞る。</p> <p>映像資料のほうは、現代日本の生活の中の宗教(都会の暮らし、農村の暮らし、教育・学校の問題、女性・ジェンダー問題、少数民族、差別問題、科学と倫理の問題、絵画・舞踊・演劇・お笑い、スポーツ・格闘技・レジャー、など)に焦点を絞る。</p> <p>こうした二つの宗教的領域について、資料を通して捉え、宗教学的な「解釈」「読み」「分析」を行い、「宗教とは何か?」という究極的な課題に対して、その本質とメカニズムを、動的に、また自らの生活に顧みて共感しながら、一定の理解を試みる。</p> <p>毎回の授業は、おおよそ次の段取りで行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 一定の問いに対する小グループディスカッション。 代表者・参加者からの発言。 フリーディスカッションと解説。 翌週の資料の配布または説明 <p>映像資料の場合は、演習室(人文412号室)に共同視聴用のDVDを一枚おくので、学生は時間を選んで当日までその部屋で視聴して予習するという方式になる。</p>					
<p>授業の一般目標</p> <p>宗教が人間と社会の生活にいかにか深く浸透し、不可避的に伴うものであり、また根源的な役割を果たしているということを、一定の分析的な体系と枠組みをもって捉えらるようになること。</p>					
<p>授業の到達目標</p> <p>知識・理解の観点:宗教学のアプローチと枠組みを身につけること。</p> <p>思考・判断の観点:個々の宗教現象について、一定の視点から分析できるようになること。</p> <p>関心・意欲の観点:日常生活における身近な宗教現象について関心を抱くこと。</p> <p>態度の観点:授業中の良識ある態度(私語しないこと、遅刻と途中退室しないこと、居眠りしないこと、など)。</p> <p>技能・表現の観点:宗教学の理論・学説および宗教現象に関する記述力を養うこと。</p> <p>その他の観点:宗教現象を捉える感性を磨くこと。</p>					
<p>成績評価方法(総合)</p> <ul style="list-style-type: none"> * 中間レポートと最終レポートをそれぞれ1回課す。 * 中間レポートと最終レポートは、「文章を中心とするレポート」と「描写・描画を中心とするレポート」のいずれかを選択できるようにする。 * 参加者は一学期を通して、何回の授業・レポート/小テストに参加する必要があるのかについては、最初の授業のときに知らせる(一定の余裕がある)。 					
教科書					
参考書					
<p>メッセージ</p> <p>授業はできるだけ体系的にわかりやすく、範囲を限定して行う。授業に出ることによって参加者が、毎回または全体として、宗教学に関する一定の内容と枠組みを身につけることを目指す。そのためには、参加者のほうも、毎回の授業に出席し、多少の復習をする必要がある。</p>					
<p>連絡先</p> <p>ジュマリア・アラム / 電子メール: djumali@yamaguchi-u.ac.jp / ホームページ: http://alam.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/ / 電話(研究室): 083-933-5220 / 研究室: 人文学部413号室</p>					

オフィスアワー
随時

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011121024
開設科目名	宗教学実習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	ALAM DJUMALI			区分	
授業の概要					
山口県内で行われる祭りや儀式(神道系、仏教系、民俗宗教系、生活宗教系など)の見学・観察を通して、宗教に関する理解を深める。					
授業の一般目標					
宗教が人間と社会の生活にいかにか深く浸透し、不可避的に伴うものであり、一方では人間生活にとって根源的な役割を果たしているが、他方では形骸化に陥ったり社会・文化的な問題をもたらしたりする場合がある、ということを一定の分析的な体系と枠組みをもって捉えらるようになること。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 宗教学のアプローチと枠組みを身につけること。					
思考・判断の観点: 個々の宗教現象について、一定の視点から分析できるようになること。					
関心・意欲の観点: 日常生活における身近な宗教現象について関心を抱くこと。					
態度の観点: 授業中または実習中は、明るく元気に積極的に振る舞い、ただし節度を守ること。					
技能・表現の観点: 宗教学の理論・学説および宗教現象に関する記述力を養うこと。					
その他の観点: 宗教現象を捉える感性を磨くこと。					
成績評価方法(総合)					
最終レポートを課す。最終レポートは、「文章を中心とするレポート」と「描写・描画を中心とするレポート」のいずれかを選択できるようにする。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
できるだけ、県内を旅し、人々と交流し、生活の根底に流れる見えない力に触れてみるという、有意義かつ楽しい授業にしたいと思います。					
連絡先					
ジユマリ・アラム / 電子メール:djumali@yamaguchi-u.ac.jp / ホームページ:http://alam.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/ / 電話(研究室):083-933-5220 / 研究室:人文学部413号室					
オフィスアワー					
随時					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011121025
開設科目名	美学・美術史概論			単位	2単位
対象学生				学年	1～3
担当教員	藤川 哲			区分	
授業の概要					
<p>西欧の代表的な美術館のコレクションを紹介します。いくつかの美術館を見ていくうちに、古代エジプトやギリシア、ローマから中世、ルネサンス、バロックを経て、近代の印象派や現代美術までの流れを自然と把握できるようになっているでしょう。また、それぞれの美術館を代表する作品の作者や時代、表現様式などについて理解を深め、それぞれの美術館コレクションの成り立ちを社会背景とともに読み解きます。</p>					
授業の一般目標					
<p>一、西欧の代表的な美術館コレクションについて詳しく知る。 二、西欧美術史の流れを理解する。 三、美術館コレクションとその社会背景について理解する。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 西欧美術史上の代表作について、所蔵館と制作された時代、表現の特徴などを専門用語等を用いて説明ができる。 思考・判断の観点: 都市の歴史や文化風土の結晶という観点から美術館コレクションを考察し、論じることができる。 関心・意欲の観点: 自ら美術作品の鑑賞体験と幅広い読書体験とを養うことに努める。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>試験: 100点満点×0.7(計70点) 課題レポート: 10点 出席: 13回 = 13点(欠席毎マイナス1点 例: 欠席3回=出席点10点) 最初の1回をカウントしない 授業態度等の調整点: 全回出席者にプラス2点 そのほか授業への参加度をオピニオンシートの回答等をもとに5～10点の範囲で加算</p>					
教科書					
参考書					
<p>西洋美術史ハンドブック / 高階秀爾ほか編: 新書館, 1997 カラー版西洋美術史(増補新装版) / 高階秀爾監修: 美術出版社, 2002 世界美術大全集 西洋編(全28巻+別巻) / 青柳正規ほか: 小学館, 1995 講談社版 世界の美術館(全24巻) / 矢代幸雄ほか: 講談社, 1965 NHK ルーブル美術館 / 高階秀爾監修: 日本放送出版協会, 1985</p>					
メッセージ					
<p>2008年度から新たに始めた内容ですが、とても好評です。多くの学生が「高校までに教科書などで見たことはあったが詳しい解説を聞いてよかった」、「1度は自分の目で本物を見てみたい」という感想を書いてくれました。今年度は、ミラノの代わりにヴェネツィアを紹介することし、チューリッヒの代わりにパリを1回増やしました。</p>					
連絡先					
fujikawa@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
人文学部の研究室417にて水曜日午後					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011121026
開設科目名	美学・美術史特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	藤川 哲			区分	
授業の概要					
この講義では、国内外で開催されている国際美術展の現況について解説します。デジタル画像やビデオの上映を交えながら国際美術展の歴史、代表的な国際美術展を紹介したのち、特に1990年代以降の地球規模化をめぐる今後の課題について、ヨーロッパとアジアとの対比の中で考察します。					
授業の一般目標					
一、国際美術展の現況について理解する。 二、国際美術展の歴史について理解する。 三、地球時代の現代美術に対する問題意識をもつ。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 代表的な国際美術展について説明できる。					
思考・判断の観点: 国際美術展の地球規模化について肯定的な側面と課題とを指摘できる。					
関心・意欲の観点: 自ら国際美術展を見に出かける。あるいは、インターネット上の関連サイト、新聞、雑誌で国際美術展に関する情報を収集する。					
成績評価方法(総合)					
期末試験の成績を基礎として、中間レポートの提出の有無や出席点などを加えて総合的に評価します。詳しくは講義最初のオリエンテーションで説明します。					
教科書					
参考書					
ヴェネツィアと日本：美術をめぐる交流 / 石井元章:ブリュッケ, 1999 12人の挑戦 大観から日比野まで / 水戸芸術館現代美術センター企画・監修: 茨城新聞社, 2002 ヴェネチア・ビエンナーレ 日本参加の40年 / 国際交流基金, 毎日新聞社編: 国際交流基金, 1995 アートマネジメント / 伊東正伸ほか: 武蔵野美術大学出版局, 2003 記録集 横浜会議 2004「なぜ、国際展か？」 / 加藤慶ほか編集: BankART1929, 2005					
メッセージ					
特殊講義ですので、普通講義よりも専門的な内容になります。国際美術展は講師が専攻している研究課題です。最新の知見をご紹介しますが、その反面講義中に出てくる言葉は耳慣れないものが増えるでしょう。今年度は、2008年に調査したシドニーや光州の国際美術展を紹介します。					
連絡先					
fujikawa@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
人文学部の研究室 417 にて水曜日午後					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011121027
開設科目名	美学・美術史特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	田中 均			区分	
授業の概要					
<p>「ツアー・パフォーマンス」研究</p> <p>「ツアー・パフォーマンス」とは、演劇集団PortBが2006年から行っている新しい形態の演劇です。観客は客席に座って舞台を見るのではなく、さまざまな演出が仕掛けられた都市空間の中を移動する、というのがその基本的な特徴です。</p> <p>この授業では「ツアー・パフォーマンス」についていくつかの側面から美学的に分析します。</p> <p>また、現代演劇についての理解を深めるため、山口情報芸術センター（YCAM）で滞り制作中のアーティストによるレクチャー・ワークショップを予定しています。</p> <p>注意：この科目は「美学」の授業であり、「美術史」の授業ではありません。</p>					
授業の一般目標					
「ツアー・パフォーマンス」の基本的な特徴を理解する。					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:「ツアー・パフォーマンス」のいくつかの特徴を挙げることができる。</p> <p>思考・判断の観点:「ツアー・パフォーマンス」と他のいくつかの芸術ジャンルとの違いを判断できる。</p> <p>技能・表現の観点:「ツアー・パフォーマンス」について自らの思考を表現することができる。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>中間試験を受験すること、学期末のレポート(下記参照)を提出すること、授業に50%以上出席することが単位認定の必要条件です。</p> <p>レポート題目(予定):美学・芸術学に関する書物、あるいは芸術現象の一つ以上とりあげ、簡潔に紹介した上で、問題提起・批判・補足など、独自の考察を加えること。ただし、その考察を、授業において取りあげた理論一つ以上と関連づけること。</p> <p>分量:2000字程度</p> <p>注意:レポートは「感想文」や大学入試の「小論文」とは異なります。授業用のハンドアウトだけを読んで思いついたことを書くのではなく、論じたい対象について、自ら本・論文などの資料にあたって調べ、それをもとに論理的・批判的な議論を展開することが必要です。</p> <p>(レポートの添削を希望する場合は、最終週の授業の前後(詳しくは授業中に指定します)までに提出して下さい。一週間以内に添削して返却しますので、修正のうえ、再提出して下さい)</p>					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
tanakahi@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
木曜 12:50～14:20(事前に連絡して下さい)					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011121028
開設科目名	美学・美術史講読			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	藤川 哲			区分	
授業の概要					
日本美術交流史に関する本を読みます。毎週1章ずつ全員が読んできて、意見交換を行います。					
授業の一般目標					
一、日本美術交流史について基本的な人名、事項名を理解する。 二、日本美術交流史における問題系を把握し、各自の課題を発見する。 三、日本美術交流史データベースの構築					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 基本的な人名、事項名について説明できる。					
思考・判断の観点: 日本美術交流史における問題系を理解した上で、独自の課題を設定できる。					
関心・意欲の観点: 自ら設定した課題について探究し、調べた結果を報告できる。					
成績評価方法(総合)					
1.各担当回における発表内容、2.その他の回における議論への参加度、3.日本美術交流史データベース構築への貢献度、によって総合的に評価します。					
教科書					
参考書					
西洋絵画の到来 日本人を魅了したモネ、ルノワール、セザンヌなど / 宮崎克己:日本経済新聞社, 2007 日本美術 誕生 近代日本の「ことば」と戦略 / 佐藤道信:講談社, 1996 眼の神殿 「美術」受容史ノート / 北沢憲昭:美術出版社, 1989 ジャポニスム 幻想の日本(新装版) / 馬淵明子:ブリュッケ, 2004 日本美術の流出 / 瀬木慎一:駸々堂出版, 1985					
メッセージ					
近代日本における西洋美術との接触について探究します。現在の私たちの美術をめぐって、さまざまな点で見直すきっかけになるとと思います。					
連絡先					
fujikawa@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
人文学部の研究室 417 にて水曜日午後					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011121029
開設科目名	美学・美術史講読			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	田中 均			区分	
授業の概要					
演劇理論を読む 「演劇」とは、劇場の中で俳優が戯曲に従って演技することである、という常識は近年急速に解体しつつあります。この授業では、演劇というジャンルの可能性について論じたいいくつかの文献を講読します。 映像資料を適宜参照するほか、授業の枠内で舞台公演を見学する可能性があります。その場合は積極的に参加して下さい。 注意:この科目は「美学」の授業であり、「美術史」の授業ではありません。 (下のメッセージも読んで下さい)					
授業の一般目標					
演劇というジャンルが多様な可能性を持つことを理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 演劇についてのいくつかの理論を説明することができる。					
思考・判断の観点: 演劇についていくつかの議論を読み、その立場の違いを区別することができる。					
技能・表現の観点: 演劇について自らの思考を表現することができる。					
成績評価方法(総合)					
授業中の報告と学期末のレポートによって評価します。					
教科書					
参考書					
演劇論の変貌 今日演劇をどうとらえるか / 毛利三彌(編):論創社,2007 ポストドラマ演劇 / ハンス＝ティース・レーマン:同学社,2002					
メッセージ					
講読という授業の性格上、受講者には積極的な議論への参加と十分な予習を求めます。					
連絡先					
tanakahi@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
木曜 12:50～14:20(事前に連絡して下さい)					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011121030
開設科目名	美学・美術史演習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	藤川 哲			区分	
授業の概要					
受講者の研究テーマによる発表と、発表に対する質問、討論を中心とした演習です。					
授業の一般目標					
一、自分の考えを持ち、それを人にわかりやすく発表できる。					
二、人の発表を聞いて、建設的な発言、討議ができる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 自らの研究テーマについて幅広く知識を身につける。					
思考・判断の観点: 他の受講生の研究テーマも含めた美学・美術史の全体像の中に、自らの研究テーマを位置づける。					
関心・意欲の観点: 自分の関心の所在を見定め、必要な文献を収集し、研究の進行過程を文章で記録する。					
成績評価方法(総合)					
発表内容、期末レポート、討論での発言や授業の参加度などにより総合的に判断します。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
まず、なるべくたくさん論文を読みましょ。それから、自分の研究課題にあった論文が探し出せるようになりましょ。そして、自分で調べたことをきちんと文章化したり、発表できるようになりましょ。					
連絡先					
fujikawa@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
人文学部の研究室 417 にて水曜日午後					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011121031
開設科目名	美学・美術史演習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	田中 均			区分	
授業の概要					
この授業では、二つのことを行います。 受講者の卒業論文の研究について、構想の報告、先行研究の批判的紹介、論文の一部の発表を行います。 最近の美学の重要な文献として、ニコラ・ブリオ『関係性の美学』の英訳を講読します。					
注意: には、担当教員が指導する学生だけが参加できますが、 にはそれ以外の学生も参加できます。					
授業の一般目標					
卒業論文を書くために必要な諸段階について理解する。 英語で文献を読むことの意義について考える。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 『関係性の美学』のいくつかの論点を説明することができる。					
思考・判断の観点: 先行研究を踏まえて自らの研究の独自性を判断することができる。					
技能・表現の観点: 自らの研究成果を論文として適切に表現することができる。					
成績評価方法(総合)					
受講者の報告内容に従って採点します。					
教科書					
参考書					
レポート・論文の書き方 上級 改訂版 / 櫻井雅夫:慶應義塾大学出版会, 2003					
レポート・論文の書き方入門 第三版 / 河野哲也:慶應義塾大学出版会, 2002					
新版 論理トレーニング / 野矢茂樹:産業図書, 2006					
メッセージ					
連絡先					
tanakahi@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
木曜 12:50～14:20(事前に連絡して下さい)					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011121032
開設科目名	日本史概論			単位	
対象学生				学年	2～3
担当教員	橋本 義則			区分	
授業の概要					
日本の古代宮都(宮殿と都城)は律令を基本とした日本における古代統一国家の首都である。そしてその構造は古代国家の政治体制を直接的に反映していると考えられる。それゆえに宮都の構造上の変化は古代国家の政治体制、さらに国家自身の変化をも意味することになる。本授業では、このような観点のもと、飛鳥時代から平安時代の宮都をめぐる諸問題を具体的に取り上げて古代宮都の実態をできる限り明らかにするとともに、さらに日本の古代についても考えを及ぼしてみたい。今学期は特に平城宮と平城京を中心に奈良時代の宮都について述べることとする。					
授業の一般目標					
宮都の歴史的展開過程を理解することを通じて、日本古代の歴史を再確認するとともに、研究上の常識や通説を疑い学問・研究する姿勢を養う。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 授業で講じられた、奈良時代の宮都個々について正確に説明できる。					
思考・判断の観点: 授業で講じられた、奈良時代の宮都の変遷について歴史的観点から論理的に説明できる。					
関心・意欲の観点: 歴史及び歴史学への興味・関心をいだく。					
態度の観点: 学問上の常識や通説を疑う姿勢を養う。					
技能・表現の観点: 正しい日本語(書き言葉)で自分の意見を論理的に表現できる。					
成績評価方法(総合)					
学期末定期試験による。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
高等学校で日本史の授業を受講し、飛鳥・奈良・平安の各時代について高等学校修了程度の予備知識をもっていることが望ましい。また講義レジュメのダウンロードと受講のためにノートパソコンを携行することが必要。					
連絡先					
y-hasi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室:人文学部3階					
オフィスアワー					
時間のあるときはいつでも					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011121033
開設科目名	西洋哲学特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	青山 拓央			区分	
授業の概要					
人間が何かを選択する際、歴史上の分岐点では何が起きているのか。この問題を、様相(可能性)や言語や時間の観点から、哲学的なパズルとしてではなく、リアリティのある問題として解説・検討します。質疑応答等での、活発な参加を期待します。					
授業の一般目標					
概要に記した問題を素材に、さまざまな論点を伝えることで、学生が個々の論点を発展させることを目標にします。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 分析哲学を中心に、哲学の基本的な道具立てを学ぶ。					
思考・判断の観点: 可能世界論などの学習成果を、自分自身の思考(レポート)に役立てる。					
関心・意欲の観点: 質疑応答等、授業への積極的な参加が期待される。					
技能・表現の観点: 論理的なレポートの作成に取り組む。					
成績評価方法(総合)					
初回の授業で説明しますが、レポートでの採点を行なう予定です。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011121034
開設科目名	宗教学演習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	ALAM DJUMALI			区分	
授業の概要					
<p>参加者各自が研究したい、または関心のある宗教現象を取り上げ、宗教学的な考察と分析を行う。宗教学の領域範囲内の自由発表形式となるが、宗教学的な視点・枠組み・理論・方法論が十分に活かされるように、プレゼンテーションの準備段階または初回のプレゼンテーションで、個別的な指導やアドバイスをを行い、実際のプレゼンテーションや次回のプレゼンテーションにおいて反映されるようにする。</p>					
授業の一般目標					
<p>宗教が人間と社会の生活にいかに深く浸透し、不可避的に伴うものであり、一方では人間生活にとって根源的な役割を果たしているが、他方では形骸化に陥ったり社会・文化的な問題をもたらしたりする場合がある、ということを一定の分析的な体系と枠組みをもって捉えらるようになること。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:宗教学のアプローチと枠組みを身につけること。 思考・判断の観点:個々の宗教現象について、一定の視点から分析できるようになること。 関心・意欲の観点:日常生活における身近な宗教現象について関心を抱くこと。 態度の観点:宗教に関するいろいろな課題について積極的に知ろうとすること。また授業中はできるだけ気楽に、明るく、元気に、積極的に参加すること。 技能・表現の観点:宗教学の理論・学説および宗教現象に関する記述力を養うこと。 その他の観点:宗教現象を捉える感性を磨くこと。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>最終レポートを課す。最終レポートは、「文章を中心とするレポート」と「描写・描画を中心とするレポート」のいずれかを選択できるようにする。</p>					
教科書					
参考書					
メッセージ					
<p>日常生活のあらゆる場面を「様式と媒体」の次元として見て、その背後にある精神的な世界とのつながりを語る事ができたら、それだけで、それは立派な宗教学的考察になります。</p>					
連絡先					
<p>ジュマリ・アラム / 電子メール: djumali@yamaguchi-u.ac.jp / ホームページ: http://alam.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/ / 電話(研究室): 083-933-5220 / 研究室: 人文学部 413 号室</p>					
オフィスアワー					
<p>随時</p>					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011122001
開設科目名	古文書・古記録			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	橋本 義則			区分	
授業の概要					
<p>この授業では平安時代の貴族が記した日記を翻刻されたテキストに従いつつ読み進めて行きます。撰録時代に活躍した藤原実資の日記『小右記』を読んでいます。この授業は史料講読に準ずる内容のものであり、それと同様に受講者が分担して史料を読み、それに基づく解説を行います。担当した箇所についてはレジュメの作成が必須です。また、レジュメの作成に当たっては当時の貴族の世界を詳しく知るために図面や系図、あるいは儀式書や法制書などからの引用が必要になってきます。授業では受講生全員が担当の有無に関わりなく、毎回十分な下調べをした上で出席することが必要で、しばしば指名して意見を求めます。</p>					
授業の一般目標					
平安時代の標準的史料である貴族の日記を読解する力を養成する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 平安時代の貴族の日記を読みこなすための基礎的知識を獲得する。					
思考・判断の観点: 様々な史料を用いて日記の内容を論理的に解釈する力を身につける。					
関心・意欲の観点: 古代貴族の日常生活に関心・興味を抱く。					
態度の観点: 学問上の常識や通説を疑う姿勢を養う。					
技能・表現の観点: 1,古代の典型的漢文史料を正しく訓読・読み下し及び解釈できる。2,正しい日本語(書き言葉)で自分の意見を論理的に表現できる。					
成績評価方法(総合)					
1,学期末試験期間に試験を実施する。2,出席が所定の回数に満たないものには試験を受ける資格を与えない。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
<p>本授業では授業時に受講生全員がパソコンを持ち込み、使用することが期待される。毎回の担当者はあらかじめワードを用いて報告に必要な配布資料を作成し、授業時に参加者全員にワードのファイルで配布することが義務づけられる。また資料の作成に当たってはスキャナーなどの周辺機器の活用も必要とされる。</p>					
連絡先					
y-hasi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室:人文学部3階					
オフィスアワー					
時間のあるときはいつでも					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011122002
開設科目名	古文書・古記録			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	真木 隆行			区分	
授業の概要					
<p>題目: 中世の古文書(前期)</p> <p>概要: 中世文書の写真コピーを使い、文書様式の基礎も踏まえながら読解を行う。</p>					
授業の一般目標					
<p>(1)中世の古文書について、くずし字判読能力を養う。</p> <p>(2)中世の古文書について、内容解釈力を養う。</p> <p>(3)中世の文書様式の基礎を学ぶ。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:(1)中世のくずし字をある程度判読できる。</p> <p>(2)中世の古文書を読解するために必要な知識を得る。</p> <p>思考・判断の観点:より深く、より興味深い内容解釈ができるよう努める。</p> <p>技能・表現の観点:古文書の釈文を正確に記し、読点・返り点・送り仮名を適切に付すことができる。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>定期試験において、3通の古文書を出題する。</p> <p>そのうち1通目と2通目は、授業時間内に検討済みのものからそのまま出題する(片方は、くずし字を楷書体に改めるのみ、もう片方は、楷書体に改めた上で、それに読点・返り点・送り仮名をつける)。3通目は、未検討の古文書から出題し、楷書体に改める。採点は減点方式とし、80点以上を優、70～79点を良、60～69点を可、59点以下を不可とする。</p>					
教科書					
参考書					
<p>『くずし字用例辞典』(厚くて、漢和辞典タイプのもの) / 児玉幸多:東京堂出版</p> <p>『くずし字解読辞典』(薄くて、入筆形検索タイプのもの) / 児玉幸多:東京堂出版</p>					
メッセージ					
はじめは慣れないかもしれませんが、復習を繰り返せば、確実に読めるようになります。					
連絡先					
オフィスアワー					
<p>木曜日の放課後、または金曜日の放課後。</p> <p>真木研究室は、人文学部棟4階(415号室)。</p>					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011122003
開設科目名	古文書・古記録			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	田中 誠二			区分	
授業の概要					
<p>1. 近世のくずし字で書かれた史料を読解する能力を養う授業である。</p> <p>2. 近世の基本的用語の読み・意味を説明する。</p>					
授業の一般目標					
<p>1. 1年間で、近世史料の簡単なくずし字であれば、読解できるようにする。</p> <p>2. 近世の基本的用語の読み・意味を説明できるようにする。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:くずし字を読めるように訓練をする。これに尽きる。目と耳をつかって徹底的に慣れる。</p> <p>関心・意欲の観点:自分でやらなければ、くずし字をよめるようにはならない。読めるようになるという意欲がたいせつであり、予習・復習が欠かせない。</p>					
成績評価方法(総合)					
定期試験によって成績評価を行う。減点法による足きり(41箇所以上間違いがあれば不可とする)がある。					
教科書					
参考書					
くずし字用例辞典 / 児玉幸多編・東京堂出版					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					
月曜・金曜の昼休み。					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011122004
開設科目名	日本史特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	田中 誠二			区分	
授業の概要					
秋藩中期の藩財政について、仕組・馳走米・和市変動・貨幣・家臣団財政・家臣の「経済」論といった観点から解明していく。					
授業の一般目標					
日本近世社会の基本的骨格が理解できるようにする。研究法についても参考になるようにする。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 日本近世社会の基本的骨格が理解できるようにする。					
思考・判断の観点: 研究法についても参考になるようにする。					
成績評価方法(総合)					
レポートを提出し、その内容によって成績評価をする。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					
月曜と金曜の昼休み。					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011122005
開設科目名	日本史特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	纈纈 厚			区分	
授業の概要					
本年度は歴史認識、歴史和解、戦争責任、戦後責任をキーワードにして、日本近現代史研究における現代的な課題を念頭に据えつつ、講義を進める。					
授業の一般目標					
歴史事実の解析から現代社会の現実を理解する力を養う					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 日本史の基礎知識を習得するために基本用語の解説を施す。毎回の出欠票に質問などを記述し、知識・理解の進具合を確認する。					
関心・意欲の観点: 当テーマに関する事件やエピソードを紹介し、身近な問題として捉えられる視点を養成する					
態度の観点: 自ら積極的に関わることなくして同テーマは抽象度の高い領域となる恐れがある。よって、積極的且つ真摯に学ぼうとする態度が特に求められる。					
技能・表現の観点: 毎回提出予定のミニレポートに講義への感想や質問などを記述させる。					
その他の観点: 毎回の授業後提出を課しているミニレポートへの記述内容を参考とする。					
成績評価方法(総合)					
レポートと論述私見					
教科書					
侵略戦争 歴史事実と歴史認識 / 纈纈厚: 筑摩書房, 1999					
日本海軍の終戦工作 / 纈纈厚: 中央公論社, 1996					
近代日本政軍関係の研究 / 纈纈厚: 岩波書店, 2005					
帝国日本の原型とその再登場 / 纈纈厚: 凱風社, 2009					
「聖断」虚構と昭和天皇 / 纈纈厚: 新日本出版社, 2007					
参考書					
メッセージ					
歴史事実の正しい理解から、あるべき歴史認識が生まれる					
連絡先					
koketsu@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
Wed.AM10:00-12:00					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011122006
開設科目名	日本史特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	真木 隆行			区分	
授業の概要					
論題:「安徳天皇の誕生」					
概要:					
安徳天皇(1178-85)は、1180年に平氏政権によって擁立されたが、1183年には都落ちし、1185年の壇浦合戦においてその幼い一生を終えた(8歳)ことで知られている。講義では、彼の誕生以前に遡り、その母親である中宮徳子の妊娠後の安産祈願の様子から明らかにし、更には皇子出産、出産後の成長儀礼、皇太子としての擁立、天皇としての受禪や即位などの様子について、具体的に明らかにする。					
また、当該問題に関する「平家物語」の叙述の虚像と実像を確認しながら、史料を読解する眼を養う。					
授業の一般目標					
(1)当該問題について理解を深める。					
(2)歴史学の研究方法の一端を理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 基本的な事実関係や諸論点について理解する。					
思考・判断の観点: 史料・先行研究・通説・講義内容、これらを独自の視点で捉え直し、自分なりの見解を導き出す。					
関心・意欲の観点: 関心あるテーマに即してとことん問題を掘り下げる。					
技能・表現の観点: 自分なりの見解を論理的にとりまとめて論述できる。					
成績評価方法(総合)					
出席状況、授業内コメント票の記載内容、定期試験、以上から総合的見地に立って評価する。					
(原則として、5回分の欠席が発覚した段階で受験資格を失うこととする)					
試験では、講義内容を踏まえ、その内容を各自で構成し直し、論述文としての体裁を整えて論述する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					
木曜日の放課後、または金曜日の放課後。					
真木研究室は、人文学部棟4階(415号室)。					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011122007
開設科目名	日本史史料講読			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	田中 誠二			区分	
授業の概要					
秋藩法制史料を精読する。基本的用語の読み・意味を正確に身につけさせ、時代背景・機構・変化を読み取っていく。					
授業の一般目標					
1. 秋藩法制史料を講読し、近世法制の内容や権力機構・時代背景を理解する。 2. 近世の基本的用語の読み・意味を知り、近世史料を用いて研究・考察する力を培う。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1. 近世の基本的用語の読み・意味を正確に理解する。 2. 近世の法制について理解を深める。					
思考・判断の観点: 法制史料に現れる一定の法則性を把握し、それを論理的に説明できる力を培う。					
成績評価方法(総合)					
定期試験によって成績評価を行う。減点法による足きり(41箇所以上の間違いがあれば不可とする)がある。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					
月曜・金曜の昼休み。					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011122008
開設科目名	日本史史料講読			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	織藤 厚			区分	
授業の概要					
日本近現代史を学ぶに必要な基本的資料の読解力を養成する。					
授業の一般目標					
基本的文献・資料の読解と分析の力をつける。					
授業の到達目標					
関心・意欲の観点: 日本近現代史に関連する歴史事実への関心と歴史研究の可能性への期待値を上げることを目指す。					
成績評価方法(総合)					
論述試験及び出席点で評価					
教科書					
十五年戦争小史 / 江口圭一: 青木書店, 1986					
侵略戦争 / 織藤厚: 筑摩書房, 1999					
総力戦体制研究 / 織藤厚: 三一書房, 1981					
近代日本政軍関係の研究 / 織藤厚: 岩波書店, 2005					
日本陸軍の総力戦政策 / 織藤厚: 大学教育出版, 1999					
参考書					
メッセージ					
歴史を「現代としての過去」として捉えよう!					
連絡先					
koketsu@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
Wed.AM10:00-12:00					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011122009
開設科目名	日本史史料講読			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	橋本 義則			区分	
授業の概要					
<p>古代の史料を正確に読み解く力を身につけるために、その代表的な史料、つまり典型的な漢文史料を選んで読み進めてゆきます。この授業では『類聚三代格』を読んでいます。授業で『類聚三代格』を取り上げた理由は、それが奈良時代から平安時代に出された諸種多様な法令を集大成したものであり、また奈良・平安時代の最も典型的な漢文史料であることにあります。授業では受講者が分担して史料解読の報告を行い、解読の正否を含めて検討を加えます。本授業の受講生は、全員が3～4回程度報告することになります。報告に当たっては丹念な史料収集を行った上でのレジュメの作成が義務づけられます。また授業では報告者を含めた受講生全員に積極的に発言を求めたり、あるいは指名して意見を求めたりします。従って受講生は担当の有無に関わりなく、毎回十分な調べをした上で出席することが必要となります。なお、この授業は外国語の授業と同じ、所謂語学の授業でもありますから、史料を読解する力を養うため根気強く辞書を引くことが必須となります。</p>					
授業の一般目標					
典型的な漢文史料を読解する力を養成する。					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 奈良時代・平安時代の法制史料(法律)を正確に解釈するための基礎的知識を獲得する。</p> <p>思考・判断の観点: 様々な史料を用いて法制史料(法律)の内容を論理的に解釈する力を身につける。</p> <p>関心・意欲の観点: 古代法制書の世界、政治制度の変遷に関心・興味を抱く。</p> <p>態度の観点: 学問上の常識や通説を疑う姿勢を養う。</p> <p>技能・表現の観点: 1. 古代の典型的漢文史料を正しく訓読・読み下し及び解釈できる。2. 正しい日本語(書き言葉)で自分の意見を論理的に表現できる。</p>					
成績評価方法(総合)					
1. 学期末試験期間に試験を実施する。2. 出席が所定の回数に満たないものには試験を受ける資格を与えない。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
<p>本授業では授業時に受講生全員がパソコンを持ち込み、使用することが期待される。毎回の担当者はあらかじめワードを用いて報告に必要な配布資料を作成し、授業時に参加者全員にワードのファイルで配布することが義務づけられる。また資料の作成に当たってはスキャナーなどの周辺機器の活用も必要とされる</p>					
連絡先					
y-hasi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室:人文学部3階					
オフィスアワー					
時間のあるときはいつでも					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011122010
開設科目名	日本史史料講読			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	真木 隆行			区分	
授業の概要					
<p>題目：貴族日記『勤仲記』を読む(16)</p> <p>概要：『勤仲記』の輪読をおこなう。今年度は、弘安7(1284)7月条以降の記事を検討する予定。</p> <p>『勤仲記』は、鎌倉後期中流貴族、勤解由小路兼仲(1244～1308)の日記であり、質量共に鎌倉時代を代表する記録史料の一つである。兼仲は、摂関家の家司をつとめ、朝廷では蔵人・弁官を歴任し、やがて公卿となって権中納言まで昇進する。今回対象とする弘安7年には、兼仲は五位蔵人に昇進している。したがって後宇多天皇の周辺にもたらされた情報や、院政をおこなっている龜山院や、関白鷹司兼平との交渉など、国家の中枢に関する情報を窺い知ることができる。</p> <p>テキストには史料大成本を使用するとともに、兼仲の自筆本の写真版コピーで校訂を行いながら輪読する。</p>					
授業の一般目標					
<p>(1)史料の読解力を養う。</p> <p>(2)日本中世史の研究方法の一端を学ぶ。</p> <p>(3)関心ある論点を見つけ、とことん問題を掘り下げる。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:(1)中世の史料を読解できる。</p> <p>(2)中世の史料を読解するために必要な知識を得る。</p> <p>思考・判断の観点:より深く、より興味深い内容解釈ができるよう努める。</p> <p>関心・意欲の観点:関心ある論点を見つけて十分に調査し、とことん問題を掘り下げる。</p> <p>技能・表現の観点:漢文体史料の書き下し文や内容解釈文を適切に書く。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>定期試験を実施する。</p> <p>授業時間内に検討した史料を抜粋し、それに基づき出題する。</p>					
教科書					
参考書					
メッセージ					
ゼミナール形式で行います。基本的事項の説明にとどまるのではなく、なんらかの検討課題を独自に発見し、深く掘り下げられた報告を求めます。					
連絡先					
オフィスアワー					
<p>木曜日の放課後、または金曜日の放課後</p> <p>真木研究室は、人文学部棟4階(415号室)。</p>					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011122011
開設科目名	日本史演習			単位	
対象学生				学年	3～3
担当教員	田中 誠二			区分	
授業の概要					
日本近世史を専攻する学生が、日本史上の諸問題について、各自の立てた主題に従って報告を行い、研究内容を深化させる授業である。					
授業の一般目標					
1. 各自の立てた主題について、研究史を整理する。 2. 史料を提示し、正確に解釈し、立論する。 3. 自分の見解を論理的に述べる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1. 時代背景について理解を深める。 2. 各自の主題についての基礎知識を得る。					
思考・判断の観点: 1. 各自の主題について、研究史の現状を把握し、自分の見解を論理的に述べる力を養う。 2. 史料を使って論証する力を養う。					
技能・表現の観点: 1. 考察した結果を述べたり、文章で適切に表現できる。					
成績評価方法(総合)					
定期試験にかえてレポートを提出し、その内容によって成績評価を行う。授業での報告内容も加味した成績評価を行う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					
月曜と金曜の昼休み。					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011122012
開設科目名	日本史演習			単位	
対象学生				学年	3～3
担当教員	篠崎 厚			区分	
授業の概要					
日本近現代史関連の論文を叙述する力を養成する。					
授業の一般目標					
課題設定の方法と論文叙述のスキル習得を目指す。					
授業の到達目標					
思考・判断の観点: 資料・文献に自在にアクセスできる能力と習慣を身につけ、自ら分析する能動的な姿勢を養う。					
成績評価方法(総合)					
報告内容とレポート内容及び出席と参加姿勢					
教科書					
参考書					
メッセージ					
本当に書きたいテーマを見つけること					
連絡先					
koketsu@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
Wed.AM10:00-12:00					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011122013
開設科目名	日本史演習			単位	
対象学生				学年	3～3
担当教員	橋本 義則			区分	
授業の概要					
受講生は自らが関心を持つ日本古代史上の種々のテーマについて、具体的な史料を用いながら調査・研究を進め、毎々その成果を報告してもらいます。報告終了後、まず提示された史料解釈の妥当性を中心にして検討を行い、さらにその研究史上における問題や論理の展開などについて討議、検討を加えます。この過程を通じてよりよい卒業論文の作成を目指したいと考えています。					
授業の一般目標					
受講生は自らが関心を持つ日本古代史上の種々のテーマについて、具体的な史料を用いながら調査・研究を進め、毎々その成果を報告してもらいます。報告終了後、まず提示された史料解釈の妥当性を中心にして検討を行い、さらにその研究史上における問題や論理の展開などについて討議、検討を加えます。この過程を通じてよりよい卒業論文の作成を目指したいと考えています。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 卒業論文作成に必要な日本古代史に関する知識を獲得する。					
思考・判断の観点: 卒業論文作成に必要な論理的考察力を獲得する。					
関心・意欲の観点: 卒業論文作成に当たり、自らの興味・関心に基づいて、問題を設定する力をつける。					
態度の観点: 卒業論文の作成を通じて、自ら学問上の常識や通説を疑い、解決しようとする姿勢を養う。					
技能・表現の観点: 1. 論文作成に必要な史料を正確に解釈できる。2. 正しい日本語(書き言葉)で自分の意見を論理的に表現できる。					
成績評価方法(総合)					
1. 学期末に半期かかって報告した研究内容についてレポートを提出する。2. レポートの分量については別途指示する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
本授業では授業時に受講生全員がパソコンを持ち込み、使用することが必須とされる。また毎回の研究報告発表者はあらかじめワープロソフト(ワード)を用いて報告に必要な配布資料を作成し、授業時に教官および受講生全員に資料をワードのファイルで配布することが義務付けられます。また資料の作成に当たってはスキャナーなどの周辺機器の活用も必要とされる。					
連絡先					
y-hasi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室:人文学部3階					
オフィスアワー					
時間のあるときはいつでも					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011122014
開設科目名	日本史演習			単位	
対象学生				学年	3～3
担当教員	真木 隆行			区分	
授業の概要					
日本中世史を専攻する3回生と4回生を対象とし、卒業論文の作成に向けた指導を行う。報告担当者は各自の関心を深めて、充実した研究報告を行う。報告担当者以外の参加者も、報告内容をめぐって活発に議論し、中世史の諸問題を掘り下げていてもらいたい。					
授業の一般目標					
卒業論文作成につながるような研究成果を重ねる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: (1)関係史料や先行研究について把握する。 (2)関心ある事象の時代背景を把握する。					
思考・判断の観点: 史料・先行研究・通説などを独自の視点で捉え直し、自分なりの見解を導き出す。					
関心・意欲の観点: 関心あるテーマを見つけ、とことん問題を掘り下げる。					
態度の観点: 一研究者としての専門家意識を育む。					
技能・表現の観点: 自分なりの見解を論理的にとりまとめ、よりよい報告や論述ができる。					
成績評価方法(総合)					
演習時間内の報告内容と、提出レポートで評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
いい卒業論文を読ませてください。					
連絡先					
連絡先の電話やE-mailは、今年度の研究室名簿参照。 なお、ゼミの無断欠席が厳禁であることは、全国的な常識。やむを得ず欠席すべき所用がある場合には、本人が直接に事前連絡すること。但し、緊急事態の場合はやむを得ないが、その場合にもきちんと事後報告すること。					
オフィスアワー					
ご来訪ご質問は、不在時以外は基本的にいつでも歓迎する。					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011122015
開設科目名	東洋史概論			単位	
対象学生				学年	1～3
担当教員	滝野 正二郎			区分	
授業の概要					
本授業は二部に大別される。初めの5回は概論部分であり、東洋・アジア概念、史学史、時代区分、中国史史料の概説、中国の地理環境などについて説明し、6回目からは中国都市史の概説を行う。					
授業の一般目標					
1. 東洋史学の成立、中国史史料、中国の地理環境について一応の理解を得る。 2. 中国の都市に関する通史を理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1. 東洋史学の成立、中国史史料、中国の地理環境について一応の理解を得る。 2. 中国の都市に関する通史を理解する。					
思考・判断の観点: 1. 東洋史という学問の成立について考える。 2. 都市という存在について歴史的に考える					
関心・意欲の観点: 1. 東洋史の学問のなりたちに関心を持つ。 2. 都市という存在について通時的な関心を持つ。					
態度の観点: 1. 学問のなりたちについて理解しようとする態度を持つ。 2. 都市を歴史的に理解しようとする態度を持つ。					
技能・表現の観点: 自分の認識した事実を文章で表現する技能を持つ。					
成績評価方法(総合)					
論説筆記試験による期末試験で成績を評価する。					
教科書					
参考書					
中国都市史 / 斯波義信: 東京大学出版会, 2002 中国の城郭都市 : 殷周から明清まで / 愛宕元: 中央公論社, 1991 中国中世都市紀行 : 宋代の都市と都市生活 / 伊原弘: 中央公論社, 1988 民族の世界史 漢民族と中国社会 / 橋本萬太郎編: 山川出版社, 1983 中国農村の市場・社会構造 / G.W. スキナー 著 今井・中村訳: 法律文化社, 1979					
メッセージ					
連絡先					
研究室: 人文学部 517 号室, 電話: 内線 5229, E-mail: stakino@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
月曜 9:10 時限					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011122016
開設科目名	東洋史特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	馬 彪			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011122017
開設科目名	東洋史特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	滝野 正二郎			区分	
授業の概要					
長崎華商泰益号を中心として華僑による商業活動および東アジアにおける華僑ネットワークを検討する。					
授業の一般目標					
長崎華商泰益号による商業活動等を分析し、中国人による商業経営の方式を知るとともに、東アジアにおける華僑ネットワークを理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 中国人による商業経営に関して知識を得るとともに在外華商のネットワークを理解する。					
思考・判断の観点: 国民国家の枠にとらわれない人間の歴史に関して考え、「一国史観」を相対化する。					
関心・意欲の観点: 華僑など「マージナル・マン」ともいえる人々の活動に関心を持つ。					
態度の観点: 国家にとらわれない態度で歴史に向き合うことができる。					
技能・表現の観点: 知り得たこと、認識したことを論理的な文章で表現することができる。					
成績評価方法(総合)					
学期末レポートによって評価する。					
教科書					
参考書					
華僑 / 斯波義信: 岩波書店, 1995					
華僑経済史 / 須山卓: 近藤出版社, 1972					
華僑社会経済論序説 / 市川信愛: 九州大学出版会, 1987					
長崎華商経営の史的研究 / 山岡由佳: ミネルヴァ書房, 1995					
長崎華商と東アジア交易網の形成 / 廖赤陽: 汲古書院, 2000					
メッセージ					
漢文史料、ときには漢文で書かれた文書や蘇州号碼(中国の略数字)で書かれた帳簿なども提示しつつ授業を進めるので漢文史料に興味のある学生諸君の受講を望みます。					
連絡先					
研究室: 人文学部 517					
電話: 内線 5229					
E-mail: stakino@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
月曜日 9・10 時限					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011122018
開設科目名	東洋史史料講読			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	滝野 正二郎			区分	
授業の概要					
<p>本授業は、漢籍の点校本を受講学生が中心となって読み、担当教官がそれに解説を加えるという形式で授業を進めていく。</p> <p>本年度は葉夢珠撰「閩世編」を取り上げる。葉夢珠は清初(この書を著したのは1690年頃)江蘇省上海県の人。その伝記は不詳であるが、明の遺民的な立場でこの書を著しており、清初江南社会に関する貴重な叙述を残すとともに、明極末期の主要な問題についても言及している。本年度はその中の「水利」・「災祥」・「田産」の部分を読み、明清時代漢文史料の基礎的な読解能力を涵養するとともに、当時の江南士大夫社会の諸問題について検討する。</p>					
授業の一般目標					
<p>(1)漢文史料の基礎的読解力を涵養する。</p> <p>(2)明清時代史料の基礎的な収集・操作力を涵養する。</p> <p>(3)明清時代地域社会の基本的な視点について理解する。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 明清時代の地域社会および史料読解に必要な知識・理解力をもつ。</p> <p>思考・判断の観点: 史料から歴史的事実を思考し、判断して抜き出す能力をもつ。</p> <p>関心・意欲の観点: 原史料に関心を持つ。</p> <p>態度の観点: 原史料を自分の力で読んでいこうとする態度をもつ。</p> <p>技能・表現の観点: 漢文史料を読解する技能をもつ。</p>					
成績評価方法(総合)					
期末試験と分担部分に関する発表によって評価する。					
教科書					
閩世編 / 葉夢珠撰 來新夏点校: 上海古籍出版社, 1981					
参考書					
清国行政法 / 織田萬編: 大安, 1965					
清実録: 中華書局, 1985					
光緒欽定大清会典・会典事例 / 崑岡等: 中華書局, 1963					
嘉慶松江府志					
同治上海県志					
メッセージ					
<p>歴史学の基礎は正確な史料読解、史料操作である。この史料講読という授業はその能力を養成する授業である。歴史学コースの東洋史分野を専攻しようとする学生にとって本授業は必須である。積極的な参加を期待する。</p> <p>上述のように、本分野を専攻しようとする学生にとって不可欠であり、また、予め分担を決め、学生が中心となって授業を進めていくので、欠席・中途脱落は厳に慎むこと。</p>					
連絡先					
研究室: 人文学部 517,					
内線 5229,					
E-mail: stakino@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
月曜日 9・10 時限					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011122019
開設科目名	東洋史史料講読			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	滝野 正二郎			区分	
授業の概要					
<p>本授業は、漢籍の点校本を受講学生が中心となって読み、担当教官がそれに解説を加えるという形式で授業を進めていく。</p> <p>この授業では司馬光撰『資治通鑑』を取り上げる。本書は中国の歴史書の中で編年体の代表的な作品とされる。ここではその三国時代の部分を読み、正史『三国志』と対照しながら読解を進めていく。</p>					
授業の一般目標					
漢文史料(標点本正史レベル)の基礎的読解力を涵養する。					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:中国史史料の読解に必要な初歩的知識をもつ。</p> <p>思考・判断の観点:史料から歴史的事実を思考し、判断して抜き出す。</p> <p>関心・意欲の観点:原史料に関心を持つ。</p> <p>態度の観点:原史料を自分の力で読んでいこうとする態度をもつ。</p> <p>技能・表現の観点:漢文史料を読解する初歩的技能をもつ。</p>					
成績評価方法(総合)					
期末試験と分担部分に関する発表によって評価する。					
教科書					
資治通鑑 / 司馬光撰: 中華書局, 1956					
参考書					
三国志 / 陳寿: 中華書局, 1982					
メッセージ					
<p>歴史学の基礎は正確な史料読解、史料操作である。この史料講読という授業はその能力を養成する授業である。歴史学コースの東洋史分野を専攻しようとする学生にとって本授業は必須である。積極的な参加を期待している。</p> <p>上述のように、本分野を専攻しようとする学生にとって不可欠であり、また、予め分担を決め、学生が中心となって授業を進めていくので、欠席・中途脱落は厳に慎むこと。</p>					
連絡先					
<p>研究室: 人文学部 517、</p> <p>電話: 内線 5229、</p> <p>E-mail: stakino@yamaguchi-u.ac.jp</p>					
オフィスアワー					
月曜日 9・10 時限					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011122020
開設科目名	東洋史演習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	滝野 正二郎			区分	
授業の概要					
清代行政文書の研究。清代の行政文書「奏摺」を読み、そこから清代中期の時代像を構築する。					
授業の一般目標					
清朝の行政文書を読み、その基礎的読解力を獲得するとともに、中国清代の社会の性質、社会と国家の関係について理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 清朝の行政文書に関する基礎的知識を獲得する。					
清代の社会の性質、社会と国家の関係について理解する。					
思考・判断の観点: 中国清代の社会の性質、社会と国家の関係について考える。					
関心・意欲の観点: 清代の社会、行政、社会と国家の関係に関心を持つ。					
態度の観点: 行政文書から社会を見通す態度をもつ。					
技能・表現の観点: 1. 清朝の行政文書を扱う基礎的技能を獲得する。					
2. 自らの考えを論理的に表明する技能を持つ。					
3. 自らの考えを論理的に文章にする技能を持つ。					
成績評価方法(総合)					
授業中の発表と期末レポートで評価する。					
教科書					
宮中档乾隆朝奏摺 / 国立故宫博物院: 国立故宫博物院, 1982					
参考書					
清国行政法 / 織田萬編: 大安, 1965					
清実録: 中華書局, 1985					
光緒欽定大清会典・会典事例 / 崑岡等: 中華書局, 1963					
乾隆朝軍機処随手登記档 / 中国第一歴史档案館編: 広西師範大学出版社, 2000					
メッセージ					
受講生諸君の積極的な史料調査、発表、議論参加が必須である。					
連絡先					
研究室: 人文学部 517、					
内線 5229、					
E-mail: stakino@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
月曜日 9・10 時限					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011122021
開設科目名	西洋史概論			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	尼川 創二			区分	
授業の概要					
<p>14世紀から15世紀のヨーロッパに訪れたのは、飢饉・黒死病・戦争を契機とする大不況である。このなかで西ヨーロッパの農奴制は解体過程に入る。西ヨーロッパの封建領主のかなりの部分が没落してゆく。しかし、領主制は消滅したわけではなく、15世紀の末には、再編成されるのである。他方、東ヨーロッパでは、農民は「再販農奴制」のなかに組み込まれてゆく。</p> <p>国制史的には、14世紀から16世紀初頭の時期は封建国家(人的結合国家)から絶対主義国家(近代国家の初期非段階)への過渡期にあたる。イタリアでは、コンパクトながら、高度の行政技術を持つ巨大都市国家が出現する。しかし、のちのヨーロッパ国家制度に最も大きな影響を与えたのは、フランスとイングランドという二つの大国における国家形態の変化であった。両国では、財政官僚制度と司法官僚制度の整備を通じて王権の伸長と凝集力の大きい国家組織の確立のための並々ならぬ努力がなされ、かなりの成果が得られた。人々の基本的忠誠の対象は、家族・共同体・教会から国家へと徐々に変わっていったのである。</p>					
授業の一般目標					
<p>この講義では、ヨーロッパのとりわけ14世紀から16世紀初頭までの時期を見てゆく。この時期にヨーロッパは崩壊の度を強めてゆき、明暗ともに強烈なヨーロッパ近代社会がその姿を徐々に現わそうとしていた。農奴制とその解体、領主制の再編成、「再販農奴制」の出現、封建国家から絶対主義国家への移行など、言葉は難しいが、できるだけやさしく、面白く語ってみたい。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 授業の一般目標の点について、知識を持ち、理解する。</p> <p>思考・判断の観点: 授業の一般目標の点について、自分で深く考える。</p> <p>関心・意欲の観点: ヨーロッパ封建社会の政治社会的崩壊について強い関心を持つ。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>期末試験を行なう。100点満点。ノートなどの持ち込みは不可。無断欠席はマイナス5点。遅刻はマイナス2点。</p>					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
<p>人文学部4階407号室 amak@yamaguchi-u.ac.jp</p>					
オフィスアワー					
<p>木14:20 - 16:10</p>					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011122022
開設科目名	西洋史特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	尼川 創二			区分	
授業の概要					
【19世紀末までのロシア史の展開】9世紀のキエフ国家の成立から反体制知識人たちが「人民主義」の革命運動を開始し挫折した19世紀末のロシア帝国の状況までのロシア史を通観するが、ロシアの反体制知識人たちが常に意識した西ヨーロッパの国家・社会の歴史とロシアのそれとの対比も絶えず行うようにしたい。					
授業の一般目標					
専制政治と農奴制を特徴とするロシア帝国が何ゆえ、またどのようにして形成されたのか、そして19世紀末に始まりもなく挫折する人民主義者の革命運動がいかなる問題点を内包していたかについての理解を深める。西ヨーロッパとロシアでの国家・社会の形成課程および反体制運動の類似点と相違点にも留意する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 授業の一般目標の点について知識をもち、理解する。					
思考・判断の観点: 授業の一般目標の点について自分で深く考えて見る。					
関心・意欲の観点: 授業の一般目標の点について自分で深く考えて見る。					
成績評価方法(総合)					
授業外レポート100点、無断欠席1回につきマイナス5点、遅刻1回につきマイナス2点。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
人文学部4階407号室 amak@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
月14:10 - 16:10					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011122023
開設科目名	西洋史特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	阿河 雄二郎			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開講期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011122024
開講科目名	西洋史特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	近藤 淳子			区分	
授業の概要					
<p>アメリカの多文化主義に焦点をあて、その歴史の変遷について考察する。</p> <p>アメリカは移民から構成される多民族・多文化国家である。アメリカの文化や価値観を宗教・政治・経済・外交・ジェンダー・環境などの分野から分析し、移民国家が内包する諸問題を理解するとともに、国家の統合と共生の問題について考察する。授業ではビデオを使って歴史的事実を検証し、また受講生が調べた移民の文化についてのプレゼンテーションを行うことによって理解を深めていく。</p>					
授業の一般目標					
アメリカの多文化主義が内包する諸問題を理解するとともに、問題を解決する能力を養う。					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 多民族・多文化国家がもつ諸問題への理解を深める。</p> <p>思考・判断の観点: 歴史的事実にもとづく歴史解釈を形成していく力を身につける。</p> <p>関心・意欲の観点: 文化的価値観の多様性が現代社会に与える影響への関心をもつことの重要性を認識する。</p> <p>態度の観点: 自分の見解を述べることによりディスカッション能力を養う。</p> <p>技能・表現の観点: プレゼンテーションを行うことによって自己の歴史解釈を表現する力を身につける。</p>					
成績評価方法(総合)					
授業出席、プレゼンテーション、レポートで評価する。プレゼンテーションでは資料を収集し分析する能力と説明能力を重視する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
アメリカの全体像を知るのに役立ちます。					
連絡先					
携帯アドレス: kondo-jan@docomo.ne.jp					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011122025
開設科目名	西洋史学講読			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	尼川 創二			区分	
授業の概要					
ドイツの通史を講読する。テキストとして、高等学校のテキストで写真や図表が多数挿入されている、R.H.Tenbrock,K.Kluxen und H.E.Stier 編の Zeiten und Menschen の第4巻 Europa und die Welt. Das 20 Jahrhundert.を使用する。授業では、単に独文和訳で終わるのではなく、歴史を研究していく上で重要と思われる事項について教員から補足説明をしたり、受講生に用語等をさらに踏み込んで調べてもらうこともしたい。					
授業の一般目標					
講読に際しては、辞書を何度も何度も引くようになるが、まずはこの忍耐を要する作業を乗り切ることである。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: ドイツ語の読解能力を高め、ドイツや国際関係の歴史について理解を深める。					
成績評価方法(総合)					
期末試験100点、無断欠席1回につきマイナス5点、遅刻1回につきマイナス2点。					
教科書					
Zeiten und Menschen . Bd4 . Europa und die Welt. Das 20 Jahrhundert. / R . H . Tenbrock,K.Kluxen und H.E.Stier , 1966					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
人文学部4階407号室 amak@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
月14:10 - 16:10					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011122026
開設科目名	西洋史学講読			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	尼川 創二			区分	
授業の概要					
<p>学生諸君はおそらくフランス語を学び始めたばかりであろうから、史料や研究書ではなく、比較的平易なフランスの高等学校の歴史教科書を読んでいく。テキストは Jean- Michel Lambin (dir.), Histoire Seconde, Paris, Hachette, 2001 である。</p>					
授業の一般目標					
<p>辞書を用いて初・中級程度のフランス語の文章を正確にそして早く読み取ることができるようになる。これが第1の目標である。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:(1)フランス語の読解能力を高める。 (2)ヨーロッパ史、特にフランス史の基礎知識を習得する。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>期末試験100点、無断欠席1回につきマイナス5点、遅刻1回につきマイナス2点</p>					
教科書					
<p>Histoire Seconde. / Jean-Michel Lambin: Hachette, 2001</p>					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
<p>人文学部4階409号室 amak@yamaguchi-u.ac.jp</p>					
オフィスアワー					
<p>月14:10 - 16:10</p>					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011122027
開設科目名	西洋史演習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	尼川 創二			区分	
授業の概要					
3・4年生を対象としている。毎回各自が興味をもっているテーマについて発表してもらい、それぞれの発表ののち、研究史の把握、問題点の抽出、素材の用い方、論のはこび方、等々について出席者全員で討議し、検討する。					
授業の一般目標					
学生の自発的な研究意欲を高めるとともに、相互批判を通じてそれぞれの研究を改善し深化させていくこと、					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 各自の発表テーマについての知識・理解が充分であること。					
思考・判断の観点: 問題点を見出すことができ、それについて深く考え、的確な判断をくだせること。					
関心・意欲の観点: 研究対象に強い関心をもっていること。					
技能・表現の観点: 適切な発表の仕方を心得ていること。					
成績評価方法(総合)					
平常点が90点。レポートが10点。無断欠席1回につきマイナス5点。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
人文学部4階409号室 amak@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
月14:10 - 16:10					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011122028
開設科目名	考古学概論			単位	
対象学生				学年	2～3
担当教員	中村 友博			区分	
授業の概要					
日本考古学のなかで、石器時代の一般的な知識を講義する。					
授業の一般目標					
日本列島における先史文化を考古学がどのように解明してきたか、その成果と到達点を学習する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 考古学独自の専門用語について理解するとともに、日本先史文化が周辺文化とどのように共通し、また相違するのか、理解を深める。					
思考・判断の観点: 考古学独自の方法について、その長所と短所を考える。					
関心・意欲の観点: 日本列島の先史文化に関心を持つ。					
成績評価方法(総合)					
日本考古学の基礎的な知識を習得しているかどうかを試験によって判定する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
tomo@yamaguchi-u.ac.jp、研究室: 人文学部3階					
オフィスアワー					
月曜日; 16時10分～17時40分。					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011122029
開設科目名	考古学特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	中村 友博			区分	
授業の概要					
縄紋・弥生過渡期の土器研究;縄紋土器がどのように弥生土器にとって変わったのかを、東北地方から九州地方まで具体的な出土品を検討しながら講義する。今回は、縄紋晩期の亀ヶ岡式土器を山内清男の大洞体系を使用して検討するところから始める。					
授業の一般目標					
日本考古学で発達した土器型式学を具体的に学習する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 専門用語の定義を承知している。					
思考・判断の観点: 体系的に理解するように努める。					
関心・意欲の観点: 学説の効力に関心を向ける。					
態度の観点: 研究に興味をもつことができる。					
技能・表現の観点: 考古資料の表現方法に関心をもつ。					
成績評価方法(総合)					
期末に専門的なレポートを提出し、その内容によって判定する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
tomo@yamaguchi-u.ac.jp、研究室;人文学部3階					
オフィスアワー					
月曜日;16時10分～17時40分。					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	101112203
開設科目名	考古学実習			単位	4単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	中村 友博			区分	
授業の概要					
この授業では野外の発掘調査に不可欠な測量法を実習する。測量機材の操作方法と身のこなし方、計算法、作図法を習得する。ただし雨天の場合は、室内作業を実習する。					
授業の一般目標					
発掘調査に必要な作業ができるようになる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 測量の原理を幾何学的に理解する。					
思考・判断の観点: 状況に応じた測量法を習得する。					
関心・意欲の観点: 実技・作業の身のこなし方に興味をもつ。					
態度の観点: 危険回避行動を身につける。					
チーム・ワークを習得する。					
技能・表現の観点: 線画の表現法を学ぶ					
成績評価方法(総合)					
実習の平常点で評価・採点する。判定基準は実技ができるか、できないかであって、器用・不器用、上手・下手は個性と経験によるからこの授業では重視しない。要するに、全員できるようになってほしいし、全員出来るまでやらせるので、資格のように判定する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
考古学専攻の3年生に限る。授業前に全員揃って機材を用意すること。また授業中は交通事項などに注意すること。					
連絡先					
tomo@yamaguchi-u.ac.jp					
研究室: 人文学部3階					
オフィスアワー					
月曜日; 16時10分～17時40分。					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011122030
開設科目名	考古学特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	中村 友博			区分	
授業の概要					
動物の考古学;遺跡出土の動物遺体から、遺跡を残した人々の生活環境、狩猟活動や家畜利用技術、動物にかかわる文化について考察する。					
授業の一般目標					
考古資料に基づいて人間の動物利用の歴史を考える。特に狩猟・採集社会から農耕社会への移行の実相や、日本人の殺生、肉食の忌避、賤視観の誕生とその変遷について理解を深める。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 動物考古学に対する基礎的知識を習得し、動物遺存体から人間の文化にかかわる情報をいかに引き出すかという方法の理解につとめたい。					
思考・判断の観点: 「日本人は古代仏教に帰依して以降、幕末・明治に西洋文化の影響を受けるまで肉食を忌避し続けた」という主として文献史をもとにした食生活史観を、動物遺存体の分析によって再検討し、各自の評価を問いたい。					
関心・意欲の観点: 旧来の考古学の枠組みに対して、新しい枠組みへの興味の示し方を評価する。					
態度の観点: 講義中、理解を見る質問票、小レポートを課し、積極的かかわりを評価する。					
技能・表現の観点: レポートの章立て、他者に情報を伝える表現技術、論理構造などを重視する。					
成績評価方法(総合)					
講義中の質問票、不定期のレポートにより、出席点にかえる。集中講義終了後にレポートを提出。					
教科書					
環境考古学への招待(岩波新書930)/松井 章:岩波書店					
参考書					
環境考古学マニュアル/松井 章:同成社,2003					
メッセージ					
連絡先					
国立文化財機構 奈良文化財研究所 埋蔵文化財センター(奈良市二条町2-9-1)					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011122031
開設科目名	考古学演習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	村田 裕一			区分	
授業の概要					
<p>授業は、講義と演習を取り混ぜた運営スタイルにより構成する。</p> <p>縄文時代から弥生時代への転換過程は、大陸からもたらされた文化要素を様々な形で受容することで成し遂げられる。講義では、特に石器と鉄器という物質文化に注目し、弥生社会の形成過程を概観する。具体的には、日本列島内における大陸系磨製石器の成立とその生産・流通、鉄器の流入と生産、石器から鉄器への転換過程といった問題について探求する。新来の要素の影響下に形成された弥生時代社会の一側面を描き出す。本講義は、上記の総合的テーマで複数年次にわたり継続的に取り組んでいるものであるが、取り扱う個別のテーマ(考古資料および地域)は、毎年・開講学期毎に異なる。</p>					
授業の一般目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 考古学の基礎の一つであるところの実測図に盛り込まれた情報を正確に読みとることができる力を養う。 2. 遺物および遺構のデータの基礎的な操作方法、すなわち考古学の方法論の基礎について習得する。 3. 学術論文を批判的に読解する力を養う。 4. 石器と鉄器を軸に描き出した弥生時代社会について学ぶ。 					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:A. 実測図に盛り込まれた情報を正確に読みとることができる。</p> <p>B. 石器と鉄器を軸に描き出した弥生時代社会の事例を説明できる。</p> <p>思考・判断の観点:A. 学術論文を批判的に読解し問題点を抽出できる。</p> <p>B. 遺物および遺構のデータの基礎的な操作方法、すなわち考古学の方法論を、自分の選んだ考古学的題材に適用できる。</p> <p>関心・意欲の観点:A. 自分が関心を持つ考古資料をあげることができる。</p>					
成績評価方法(総合)					
小テスト・授業内レポート20%、宿題・授業外レポート60%、授業中の発表・資料操作の成果20%。					
教科書					
参考書					
<p>石器入門事典 - 先土器 - - 縄文 - / 加藤晋平・鶴丸俊明・鈴木道之助: 柏書房, 1991</p> <p>倭人と鉄の考古学 / 村上恭通: 青木書店, 1998</p> <p>考古資料大観 第9巻 弥生・古墳時代 石器・石製品・骨角器 / 北条芳隆・禰宜田佳男監修: 小学館, 2002</p>					
メッセージ					
<p>石器や鉄器などの、個別の遺物について詳細に解説する場合や、あるいは統計学的手法の解説を行ったりする場合には、講義内容がやや難しくなることもあるかもしれませんが。解説のわかりにくいところ、あるいは意図のわかりにくいところなどは、講義時間の内外に関わらずどんどん質問してください。</p>					
連絡先					
E-mail: h-murata@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
水曜日7・8時限					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011122032
開設科目名	東洋史特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	馬 彪			区分	
授業の概要					
<p>新中国成立後、中国古代文字資料の出土は飛躍的に増加したが、これに伴って、様々な中国古代学の領域において、学問的深化が実現されることとなった。文字学(漢字学)も、出土文字資料の増加によって、大きな発展を遂げるようになった領域の一つである。今回は、『説文解字』を中心とする伝統的漢字学の基礎の上に、出土文字資料の研究による古文字学上の成果がどのように打建てられていったのかを述べていきたい。また、逆に、出土文字資料の解読に古文字学が果たした足跡をも見ていきたい。</p>					
授業の一般目標					
<p>文字資料の出土が、中国の伝統的学問たる文字学にどのような点で影響を与えたのかを理解すること。それと同時に、文字学が、出土文献の解読にどのように貢献したかを理解すること。</p>					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011123001
開設科目名	社会学概論			単位	2単位
対象学生				学年	1～3
担当教員	横田 尚俊			区分	
授業の概要					
社会学における基本概念と理論的視角、並びにそれらを通して現実の社会や具体的な社会現象がどのように分析・解明されるのかという点を学ぶ。前期には、現代社会学の礎を築いたともいえる M.ウェーバーや E.デュルケムの学説や、産業化・近代化、脱工業化と消費社会化、グローバル化と階層構造の変容(階層格差の拡大)といった現代産業社会の構造と変動について、詳しい資料を配付しながら説明する。					
授業の一般目標					
1 社会学の基本概念や理論的視角を学ぶ。 2 社会学の概念と方法を用いて、現代社会の構造と変動を解明する。 3 現代社会が抱える諸問題に関心を向ける。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
定期試験 50% 出席 40% 小レポート・授業への参加度 10%					
教科書					
社会学講義 / 富永健一:中央公論新社, 1995					
参考書					
社会学小辞典 / 浜嶋朗ほか:有斐閣, 1997 現代社会学講義 / 佐藤慶幸:有斐閣, 1999 社会学(第4版) / A.ギデンズ:而立書房, 2004 はじめて学ぶ社会学 / 土井文博ほか:ミネルヴァ書房, 2007					
メッセージ					
社会学概論の講義内容は、前期と後期で相互に関連しているもので、できれば年間を通して受講することが望ましい。特に1年生の人にとっては、少し難しい内容が含まれているかもしれませんが、これから謎を少しずつ解き明かしていくつもりで、どうかひるまずに受講してください。					
連絡先					
メール・アドレス n.y@yamaguchi-u.ac.jp 研究室 人文棟3階307室					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011123002
開設科目名	現代社会論			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	小谷 典子			区分	
授業の概要					
個人と社会とを連結する「生活構造」に視点を置いて、戦後日本の地域社会の変動と現状を具体的に分析していくとともに、現代都市の諸問題を解明する。					
授業の一般目標					
自分が住んでいる地域社会を生活構造の視点から現状分析していき、どのような地域問題をかかえているかを考える					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 生活者として生活から社会理解する					
思考・判断の観点: 地域社会の課題に対していかに行動すべきかを考える					
関心・意欲の観点: 身近な地域社会の課題について関心を持つ					
態度の観点: 身の回りの出来事に対して好奇心を持つ					
成績評価方法(総合)					
授業中に実施する小レポート、出席と期末試験で総合的に評価する					
教科書					
参考書					
メッセージ					
できれば前期・後期続けて受講してください					
連絡先					
5236					
オフィスアワー					
月曜日 14時 15時					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011123003
開設科目名	現代社会論			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	横田 尚俊			区分	
授業の概要					
<p>「阪神淡路大震災」のもとで生じた人の生や生活、地域社会等の崩壊の中で、どのように人は自立していくのであろうか。苦しみ(pathos)や受難の中で「弱い存在」者の自立と新たな人間の共同を模索する実践思想について考える。</p> <p>現代社会における生存の痛み suffering の問題を、(受難・苦痛と自立)、(自立と支援)・人間の他者に対する(相克と共同存在)を論じ、新たな「市民社会」を卓望する。</p>					
授業の一般目標					
<p>1)現代社会を苦しみ(pathos)、生存の痛み suffering という観点や視点で捉えることを学ぶ。</p> <p>2)現代に多く生起する諸問題への実践者や観察者のテーマや課題の設定の仕方を学ぶ。</p> <p>3)テキストから、現代的テーマを学ぶ。</p>					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
<p>出席30%</p> <p>授業時間内に提出するリアクション・ペーパー30%</p> <p>最後の授業でのテスト40%</p>					
教科書					
銀河鉄道の夜 / 宮沢賢治:角川書店(文庫), 1996					
参考書					
<p>ボランティアが社会を変える - 支え合いの実践知 / 似田貝香門編:関西看護出版, 2007</p> <p>自立支援の実践知 - 阪神・淡路大震災と共同・市民社会 / 似田貝香門編:東信堂, 2008</p>					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011123004
開設科目名	コミュニティ論			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	横田 尚俊			区分	
授業の概要					
地震、噴火、風水害、大火災といった災害が社会を襲った場合、人々や集団・組織はどのように対応するのか。災害情報の収集・伝達はどのように行われるのか。災害は地域社会にどのような影響を及ぼすのか。この授業では、これら災害の社会過程をめぐるテーマに検討を加えるとともに、災害社会学の基本的な視座や研究枠組みについて説明する。					
授業の一般目標					
1 災害社会学の基本的視座や研究方法を理解する。 2 災害の特質を現代社会の構造・変動との関連で捉え、災害に強い社会をどう構築していくかという課題について考える。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
定期試験 50% 出席 40% 小レポート・授業への参加度 10%					
教科書					
災害社会学入門 / 大矢根淳ほか: 弘文堂, 2007					
参考書					
平成20年版 防災白書 / 国土交通省: ぎょうせい, 2008 復興コミュニティ論入門 / 浦野正樹ほか: 弘文堂, 2007 防災の社会学 / 吉原直樹ほか: 東信堂, 2009 都市防災 / 吉井博明: 講談社, 1996					
メッセージ					
時間的に余裕があれば、テーマに関連するビデオ映像なども積極的に利用したい。					
連絡先					
メール・アドレス n.y@yamaguchi-u.ac.jp 研究室 人文棟3階307室					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011123005
開設科目名	社会学演習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	小谷 典子			区分	
授業の概要					
社会学の理論や研究方法を学び、現代社会が抱える諸問題について、テキストに基づき、各自レポートし、それぞれの研究課題について議論しながら、現代社会に関する関心を深める。					
授業の一般目標					
現代社会の構造と変動を、都市社会に視点を置いて理解する。そこから派生する関心ある社会問題を見つけ出し、社会学的な分析方法を身につける					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 現代社会の研究に関する知識と理解を深める					
思考・判断の観点: 現代社会の現状を判断する					
関心・意欲の観点: 現代社会に関する関心を深める					
研究テーマを明確化する					
成績評価方法(総合)					
出席、課題報告、最終レポートで総合的に評価する					
教科書					
参考書					
メッセージ					
小谷を指導教員とする4年生は必ず受講すること					
連絡先					
5236					
オフィスアワー					
月曜日 14時 15時					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011123006
開設科目名	社会学演習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	横田 尚俊			区分	
授業の概要					
<p>現代社会における家族の構造と変動 および家族問題の諸相について考察する。家族社会学の文献を読みながら、受講生による報告、討論によって授業を進めていく。並行して、4年生には各自の卒論テーマに基づく報告をしてもらい、他の受講生との間で質疑・応答を行う。</p>					
授業の一般目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1 家族社会学の基本的視点や研究成果について理解を深める。 2 家族の構造と変動 現代の家族問題などについて理解を深めるとともに、さまざまなデータを参照しながら、それらを考察できるようにする。 3 卒業論文のテーマを設定し、論文作成に必要な文献・データを収集する(4年生)。 					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
<p>出席 40%</p> <p>報告・授業参加度 40%</p> <p>課題レポート(必須) 20%</p>					
教科書					
迷走する家族 / 山田昌弘・有斐閣, 2005					
参考書					
<p>少子社会日本 / 山田昌弘・岩波書店, 2007</p> <p>社会学小辞典 / 浜嶋朗ほか・有斐閣, 1997</p>					
メッセージ					
<p>初回の授業で、テキストの入手方法や授業の進め方などについて説明するので、必ず初回に出席すること。時間的余裕があれば、テーマに関連するビデオ映像なども利用したい。</p>					
連絡先					
<p>メール・アドレス n.y@yamaguchi-u.ac.jp</p> <p>研究室 人文棟3階 307 室</p>					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011123007
開設科目名	社会学調査実習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	小谷 典子			区分	
授業の概要					
社会学的社会調査の計画と実査をふまえ、各自で調査調査結果の分析ができるようにする。そのために調査方法を学び、仮説の検証のための社会調査を実施する。					
授業の一般目標					
問題意識を明確にし、社会調査の計画をし、調査票の作成、聞き取り調査、調査結果の分析をし、レポートを作成する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 社会調査の概要について理解する					
思考・判断の観点: 仮説の検証の方法の有効性を考える					
関心・意欲の観点: 社会現象を切り取る方法に関心を持つ					
態度の観点: 共同作業による協調性を身につける					
技能・表現の観点: 社会調査の実践の技術を身につける					
その他の観点: データ入力・分析作業などを根気強く行う					
成績評価方法(総合)					
出席と、社会調査実習への参加、調査結果を取りまとめたレポートを総合的に評価する					
教科書					
参考書					
『社会調査へのアプローチ』 / 大谷信介ほか編; ミネルヴァ書房, 1999					
メッセージ					
出席と実習への参加を義務とする					
連絡先					
5236					
オフィスアワー					
月曜日 14時 15時					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011123008
開設科目名	社会心理学概論			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	高橋 征仁			区分	
授業の概要					
社会心理学は、社会学や心理学のみならず、人類学、政治学等々の学問からなる非常に学際的な研究領域である。この講義では、「ケータイ」という日常的な題材を取り上げながら、これまでの社会心理学研究における基本的問題や知見について紹介していく。					
授業の一般目標					
1)社会心理学の基礎概念について学ぶ 2)社会心理学の学説史を学ぶ 3)社会心理学の多様なアプローチについて学ぶ 4)現代社会の諸問題と社会心理学のかかわりを考える					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
学期末試験6割、授業内レポート2割、授業外レポート2割で評価を行う					
教科書					
ケータイ学入門/岡田朋之・松田美佐編:有斐閣,2002					
参考書					
メッセージ					
日常生活を科学することの楽しさと難しさを味わいましょう					
連絡先					
オフィスアワー					
金曜日5・6時限					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011123009
開設科目名	コミュニケーション論			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	高橋 征仁			区分	
授業の概要					
<p>現在、青少年における「規範意識の低下」が声高に叫ばれている。しかし、この指摘は、はたして本当だろうか？この授業では、規範をめぐるコミュニケーションや道徳意識の形成プロセスに焦点を当てながら、社会と個人のダイナミックな関係について考察を深めていく。</p>					
授業の一般目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 古典的コミュニケーション・モデル(モノ・メタファー)の限界を認識する。 2. メディアの基本機能と新しいコミュニケーション論の基礎を検討する。 3. 道徳意識の生成と変容に関して、新しいコミュニケーション論の視点から再構築を行う。 					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
毎週提出する授業課題レポート4割、学期末の課題レポート6割で評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
コミュニケーションに対する甘い幻想も、シニカルな諦めも、ともに打ち砕きながら、現実のコミュニケーション・プロセスについての理解を深めていきましょう。					
連絡先					
オフィスアワー					
金曜日5・6時限					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011123010
開設科目名	現代社会意識論			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	辻 正二			区分	
授業の概要					
<p>我が国は、1994年に高齢化率14%を超え、高齢社会に突入した。この高齢化は、今後もますます進行し、我が国の社会全体に大きな影響を及ぼしつつある。現在の我が国の深刻な社会問題(産業の空洞化、犯罪の凶悪化など)の中には国際化や情報化といった別の要因も関係しているが、高齢化の要因も無視できない。ところが、高齢化については、福祉や社会保障制度などに関しては論議されているが、高齢社会全体についてはあまり論議されていないのが実情である。この講義では、現在に高齢者が抱えている問題やこれまであまり触れられなかったエイジズム(老人差別)、高齢者と時間、生涯現役社会の構築といったことについて触れながら、社会老年学の知識を深めることを目指している。</p>					
授業の一般目標					
<p>1)高齢化がもたらす意味とその社会心理学的諸問題についての知識を身につける。 2)高齢化社会の問題への対応を考え、それへの適切なあり方を考える態度を学ぶ。 3)生涯現役に向けての諸方策を捉え、あるべき方向性を考える。</p>					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
高齢社会の抱えている課題とその解決法に関して知識・理解力、想像力がどの程度あるかを問いたいと思います。					
教科書					
エイジングの社会心理学 / 辻正二・船津衛:北樹出版,2003					
参考書					
高齢者ラベリングの社会学 / 辻正二:恒星社厚生閣,2000					
高齢社会白書 / 内閣府,2008					
メッセージ					
授業は、テキストと資料を使って進行します。講義の前にテキストは必ず読んでおいてください。					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011123011
開設科目名	社会心理学演習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	辻 正二			区分	
授業の概要					
3年生と4年生を対象にした演習形態の授業です。授業では、逸脱行動論の代表的な文献の幾つかを外書購読や訳書の購読から、それらの理論の特徴と問題点を洗い出し、現在の逸脱行動のなかで捉えることを学びます。					
授業の一般目標					
(1)レポートの課題を通して専門的な知識を学ぶとともに解釈の仕方やプレゼンテーションの方法について学ぶ。					
(2)専門的な知識を深めるとともに議論に参加し、自分の見解を述べる姿勢を身につける。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
演習の課題を受けて、レポート発表の資料を作成すること、発表にあたってのプレゼンテーション、演習での議論の参加度などを総合的に評価します。					
教科書					
アウトサードーズ/ハワード・ベッカー:新泉社,1993					
社会理論と社会構造/R.K. マートン.:みすず書房,1963					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011123012
開設科目名	社会心理学演習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	高橋 征仁			区分	
授業の概要					
シンボリック相互作用論を代表する論著である A.L.ストラウスの『鏡と仮面』について、精読する。					
授業の一般目標					
1) 多少難しいテキストを精読する作業を通じて、テキストを批判的に読解する力を身につける。 2) アイデンティティ、相互行為、言語、時間などの基礎概念について、より深い理解を達成する。 3) 自分の卒論執筆に必要な基礎的なノウハウを身につけるとともに、自分独自の問題関心を養う。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
学期末の課題レポート6割 授業での発表2割 授業での討論2割で評価を行う。					
教科書					
『鏡と仮面 アイデンティティの社会心理学』 / A.L.ストラウス:世界思想社, 2001					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					
金曜日 5・6 時限					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011123013
開設科目名	社会心理学調査実習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	辻 正二			区分	
授業の概要					
社会心理学調査実習は、既に学んできた社会調査法の知識と技法を生かして、具体的にフィールドワークなどの実習経験の中で社会調査を学ぶことを主たる狙いとする。					
授業の一般目標					
(1)社会調査のための基礎的な知識を身につけ、問題意識、仮説、調査地の選定、調査票の作成等をおこなう。 (2)調査地との関係を形成して、実際にフィールドワークを経験し、調査研究の体得を行う。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
調査の知識と技法を身につけているか、調査の企画ができるかといったことが評価の対象となります。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011123014
開設科目名	比較社会文化論			単位	2単位
対象学生				学年	1～3
担当教員	山本 真弓			区分	
授業の概要					
<p>ことばは単にコミュニケーションの手段ではなく、個人のアイデンティティや、文学などを通じた言語共同体の文化そのものを形成している。このようなことばの多面的な側面を、世界のさまざまなことばを通じて紹介し、ことばと人間とのかかわり、ことばと社会とのかかわり、ことばの政治性などについて明らかにしていく。ここでは、ことばの言語学的側面ではなく、社会的政治的側面に焦点を置いた講義を行なう。</p>					
授業の一般目標					
<p>日本社会に生きていくと、ことばについてさまざまな誤解や幻想を抱いている。それは、日本社会がいわゆる単一言語社会と形容されるような言語状況にあることと無関係ではない。したがって、ここでは多言語社会と形容されるさまざまな地域の事例を通じて、ことばをめぐる人間の能力の可能性を認識することを目標とする。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 言語は社会や政治と切り離されて存在しているものではないことを、論理的に理解する。 思考・判断の観点: ヨーロッパ近代言語学の成果の背景を踏まえて、言語とはなにか？について、自らの視点で考える。 関心・意欲の観点: 自らの問題として考えつつも、身の回りの事象のみにとらわれず、積極的に異なる言語状況にある社会を知ろうとする。 態度の観点: 出席と質問(最後に質問票を配布する)</p>					
成績評価方法(総合)					
出席および授業内レポートと定期試験を総合して評価する。					
教科書					
言語的近代を超えて / 山本真弓編著: 明石書店, 2004					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011123015
開設科目名	アジア比較社会論			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	山本 真弓			区分	
授業の概要					
国境を越える人的移動について、移民政策、外国人政策の観点から考える。また、その特殊性を理解するために、資料(たとえば、法務省が出している資料など)はできるだけ英語で読み、日本語の概念が英語で表現された場合のギャップをとおして、日本の政策の特性を探る。					
授業の一般目標					
1. 戦後日本の外国人政策を構成する基本的な考え方を理解すること。2. 1945年から現在までの日本社会の構成員の変化を認識すること。3. 日本の外国人政策を相対化する視点をもつこと(諸外国との比較)。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 専門的用語や法務省独特の概念について理解すること。					
思考・判断の観点: 資料のうえで、日本語と英語を往来することで、日本社会の特質を考えること。					
成績評価方法(総合)					
定期試験による。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011123016
開設科目名	生活文化論			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	坪郷 英彦			区分	
授業の概要					
<p>民衆文化のさまざまな現象のなかでも信仰・心意・芸能の問題に焦点をすえて紹介する予定である。また、既成宗教の枠組では理解できない民衆宗教(民間信仰)を研究という視点からと宗教実践者の立場から、民衆文化(民俗文化)がいかなる意味をもっているかを全国各地とりわけ瀬戸内周辺の事例をとりあげつつ考えてみる。</p> <p>前期集中講義を予定。</p>					
授業の一般目標					
<p>日本人に培われてきた民衆の文化を理解するために、日本の民俗の事例(とくに民衆宗教・新興宗教)について基礎的な知識を紹介する。また民衆の文化を研究してきた民族学、民俗学の思考法についても歴史学とりわけ社会史の延長線上でふれたい。</p>					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
<p>評価法については集中授業の最初に説明する。</p>					
教科書					
<p>近世のアウトローと周縁社会 / 西海賢二: 臨川書店</p>					
参考書					
<p>近世の遊行聖と木食観正 / 西海賢二: 吉川弘文館 江戸の漂泊聖 / 西海賢二: 吉川弘文館 生活のなかの行道 / 西海賢二: ベネッセコーポレーション</p>					
メッセージ					
<p>瀬戸内文化を世界に皆さんと発信しましょう。</p>					
連絡先					
<p>学部内担当教員 坪郷 E-mail <hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp > 電話 5239 研究室 213</p>					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011123017
開設科目名	現代民俗論			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	坪郷 英彦			区分	
授業の概要					
<p>民衆文化のさまざまな現象のなかでも信仰・心意・芸能の問題に焦点をすえて紹介する予定である。また、既成宗教の枠組では理解できない民衆宗教(民間信仰)を研究という視点からと宗教実践者の立場から、民衆文化(民俗文化)がいかなる意味をもっているかを全国各地とりわけ瀬戸内周辺の事例をとりあげつつ考えてみる。</p> <p>前期集中講義を予定。</p>					
授業の一般目標					
<p>日本人に培われてきた民衆の文化を理解するために、日本の民俗の事例(とくに民衆宗教・新興宗教)について基礎的な知識を紹介する。また民衆の文化を研究してきた民族学、民俗学の思考法についても歴史学とりわけ社会史の延長線上でふれたい。</p>					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
<p>評価法については集中授業の最初に説明する。</p>					
教科書					
<p>近世のアウトローと周縁社会 / 西海賢二: 臨川書店</p>					
参考書					
<p>近世の遊行聖と木食観正 / 西海賢二: 吉川弘文館 江戸の漂泊聖 / 西海賢二: 吉川弘文館 生活のなかの行道 / 西海賢二: ベネッセコーポレーション</p>					
メッセージ					
<p>瀬戸内文化を世界に皆さんと発信しましょう。</p>					
連絡先					
<p>学部内担当教員 坪郷 E-mail <hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp> 電話 5239 研究室 213</p>					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011123018
開設科目名	現代民俗論			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	湯川 洋司			区分	
授業の概要					
現代民俗論は、民俗を通じて現代社会のありようについて考えることをめざしています。 この授業では、「農山漁村史と現代」と題して、現在の日本社会が形成された様相について、地方農山漁村の近代の歴史と近代化の進展を民俗をはじめとする諸資料を手がかりにして具体的に考察し、現代日本社会の来し方を振り返るとともに、今後の農山漁村の行方を検討する。					
授業の一般目標					
民俗から現代社会を理解する方法があることが理解できる。 民俗または民俗学から現代社会について考える視点をもつことができる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 農山漁村の近代史の概要を説明できる。 思考・判断の観点: 民俗と近代史とがかわる事例をあげて、その説明ができる。					
成績評価方法(総合)					
毎回実施する小テスト、期末試験、授業外レポートにより、評価する。					
教科書					
参考書					
山口県史資料編民俗2 / 湯川洋司ほか: 山口県, 2006					
メッセージ					
地方の暮らしから日本の現代社会を知り、考えよう。					
連絡先					
yukawa@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
研究室: 人文学部棟2階210室, 必要に応じていつでも訪ねください。					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011123019
開設科目名	文化人類学演習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	坪郷 英彦			区分	
授業の概要					
文化人類学の基本的文献を読みます。今年はルースベネディクトの「文化の型」(講談社学術文庫)を取り上げます。ベネディクトは「菊と刀」を書いた人類学者ですが、この本が代表作で、文化相対主義を明確に位置づけたものです。具体的民族のパーソナリティに入り込んだ分析を読み進めていきます。					
授業の一般目標					
文化人類学の基礎概念である文化相対主義の考え方を理解する。本を読み解く力を身につける。発表の方法態度を身につける。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 文化人類学の基本的考え方を理解する					
思考・判断の観点: 文章を読み、自分の言葉で表現することができる。					
関心・意欲の観点: 自らの研究目標を見つける。					
態度の観点: 演習の授業に積極的に参加する。					
技能・表現の観点: コンピュータを使ったプレゼンテーションを身につける。					
成績評価方法(総合)					
授業の参加態度、理解度を中心に評価を行います。出席70%以下は欠格条項となります。					
教科書					
文化の型/ルース・ベネディクト:講談社学術文庫, 2008					
参考書					
メッセージ					
積極的な授業態度を望みます。プレゼンテーション能力も高めてください。その都度アドバイスをします。2年生の履修も歓迎します。					
連絡先					
E-mail hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp 電話 5239 研究室 213					
オフィスアワー					
木曜日 12:00～14:00					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011123020
開設科目名	文化人類学演習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	山本 真弓			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011123021
開設科目名	民俗学演習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	湯川 洋司			区分	
授業の概要					
民俗学の基本的問題を理解し、民俗学に対する自らの関心を深め強める一助とする。受講生各自が関心を持つテーマについて自ら調べて、その内容を発表し、全員で討論して理解と興味がさらに深まるようにする。					
授業の一般目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 民俗学の扱う領域、課題を知る。 2. 民俗学にかかわるテーマを発表し検討し合うことで、民俗学への関心を強める。 3. 受講生との討論を通じて、相互に啓発しあう人間(友人)関係を築く。 					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 民俗学の基本的概念について説明できる。					
思考・判断の観点: 民俗学上の特定テーマを基本的概念や用語を用いて説明できる。					
態度の観点: 他者の発表をよく聞いて、積極的に発言することができる。					
技能・表現の観点: 民俗学の概念や用語を用いて、民俗学的内容を論じた文章が作成できる。					
成績評価方法(総合)					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 他の受講生の発表を聞いたり、自ら発表したりすることができたか。 2. 発表当番の責任を十分に果たしたどうか。 3. 内容や表現のしっかりしたレポートを作成し提出できたか。 					
教科書					
参考書					
メッセージ					
授業時間外の予習と復習が大事です。自ら知る、探るという精神をぜひ発揮してください。					
連絡先					
yukawa@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
必要があればいつでも研究室を訪ねてください					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011123022
開設科目名	民俗調査実習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	湯川 洋司			区分	
授業の概要					
民俗調査を実施するためのテーマと調査項目を用意するとともに、聞き書きや写真撮影法、地図の見方読み方、民具の作図法など、民俗資料を収集する技法を習得することを目的にします。先行文献を参考にして、調査対象地域を決めるとともに、調査対象に関する予備知識を蓄積します。そのうえで、自らの関心に基づき、調査テーマを決定し、調査項目等の作成を進めて、夏季休暇中に3泊4日程度の現地調査を実施します。					
授業の一般目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 民俗調査の実施に関する一連の手順を理解する。 2. フィールドワークを実施するために必要な調査項目票等を作成する。 3. フィールドワークを実施するために必要な技能を学習する。 					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 民俗調査の手順が分かる。					
関心・意欲の観点: 知りたいと思うテーマを明確に設定できる。					
態度の観点: テーマに接近するための方法をよく考え、準備できる。					
技能・表現の観点: 聞きたいこと知りたいことを明確に整理し、分かりやすく発表できる					
成績評価方法(総合)					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 調査のための準備に積極的に取り組んだか。 2. 各作業が確実に実行できたか。 					
教科書					
参考書					
民俗調査ハンドブック / 上野和男[ほか]編, 吉川弘文館, 1974					
メッセージ					
好奇心を形にする授業です。					
連絡先					
yukawa@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
研究室: 人文学部棟 2階210号室, いつでも随時訪ねてください。					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011210001
開設科目名	文学概論			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	宮原 一成			区分	
授業の概要					
<p>文体論的アプローチを借りながら、文や文章を「文学的」にしているものは何かを考えていきます。講義という分類の授業ですが、学生にも作業を求めたりして、教員 - 学生の双方向のコミュニケーションを取り入れたいと思います。なお、教科書名は『英語の作法』で、収録されている作品例は英語文学ばかりですが、講義内容はできるだけ英語文学に偏らないよう配慮します。</p>					
授業の一般目標					
<p>文学を構成する要素について、基礎的な概念を身につける。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 修辞や文学作法の基礎用語や概念を使えるようになる。 思考・判断の観点: 上記で覚えた概念を、様々なテキストから見いだせるようになる。 関心・意欲の観点: 「文学的な文章」を、日常の中から見つけたり、自分でついたりする。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>ミニレポート8回(1回5点) + 学期末筆記試験60点。無断欠席が3回を超えると「不合格」とする。30分を超える遅刻は欠席扱い。</p>					
教科書					
<p>『英語の作法』 / 斎藤兆史: 東京大学出版会, 2000</p>					
参考書					
メッセージ					
<p>教科書名は『英語の作法』ですが、英語を自力で読みこなす必要はない授業です。</p>					
連絡先					
<p>miyahara@yamaguchi-u.ac.jp</p>					
オフィスアワー					
<p>受講生には初回授業時に知らせます。</p>					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011210002
開設科目名	日本語学			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	林 伸一			区分	
授業の概要					
日本語学の基礎的な項目を学ぶ、いわゆる文法といわれる統語論、意味論をはじめ、日本語音声学の基礎を学ぶ。					
授業の一般目標					
1、品詞の区分けについて理解する					
2、類義語の意味的な差異を説明できる					
3、日本語を音声記号で書けるようにする					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 日本語の専門的な知識を身につけ、理解する					
思考・判断の観点: 自分の頭で考え、正誤判断できる					
関心・意欲の観点: 身の回りの言語的な問題(日本語の乱れなど)に関心を持ち、辞書や文法書などで積極的・意欲的に調べる					
態度の観点: わかったふりをしないで他者の発言を傾聴する態度を養う					
技能・表現の観点: 言語表現の技能を身につけ、自己表現できるようにする					
その他の観点: ペア・ワークに積極的に参加する					
成績評価方法(総合)					
出席率とレポートなどの課題で評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
留学生の参加を歓迎する					
連絡先					
hayashix@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
木曜日 10時～12時					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011210003
開設科目名	日本語史			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	磯部 佳宏			区分	
授業の概要					
～ 文法史～ 主として、平安時代の文法と、現代語の文法を比較しながら、その歴史的变化について考える。					
授業の一般目標					
日本語の文法を通史的に概観することにより、日本語文法の本質的な特徴や問題点を考察する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 日本語の文法史に関する基本的な知識が身に付いているかを判断する。					
思考・判断の観点: 日本語の文法史に関する基本的な知識を使って、思考力を判断する。					
関心・意欲の観点: 授業に対する取り組みを判断する。					
成績評価方法(総合)					
期末試験を主たる評価の対象とする。 毎回、授業時に用紙を配布し、出席の確認を兼ねて、指示する内容について記入してもらう。					
教科書					
日本語史 / 沖森卓也: おうふう, 1989					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011210004
開設科目名	日本語学特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	林 伸一			区分	
授業の概要					
<p>日本語教授法の一つとして考えた構成的グループ・エンカウンターについて体験的に理解する。実施の手順、留意点、効果などについて検討する。特にインストラクションの進め方、シェアリングのまとめかたなどについて、実際場面に近づけた形で実施しながら、授業参加者同士でディスカッションする。日本語教師になるための資質についても検討し、解説を加える。</p> <p>特に「言語と文化」の中では異文化間理解、「言語と教育」の分野では、第二言語習得の問題、「言語と心理」の中ではカウンセリングの分野を重点的に扱う。</p>					
授業の一般目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1、授業参加者間の人間関係・リレーションづくりを大切にす。 2、授業を通しての自己理解、他者理解、相互理解を促進する。 3、日本語教師・国語教師の役割と心構えなど教師論について考える。 4、日本語を教えるとは、どういう意味をもつのかを検討する。 5、適切なエクササイズを進め方、実施方法について考える。 					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 1、構成的グループ・エンカウンターとは何か説明できる。</p> <p>2、人間関係づくり・リレーションづくりの大切さを体験的に理解する。</p> <p>思考・判断の観点: 1、「言語と文化」の関係について考える。</p> <p>2、「言語と教育」の関係について考える。</p> <p>3、「言語と心理」の関係について考える。</p> <p>関心・意欲の観点: 1、外国人に日本語を教えることに関心と意欲をもつ。</p> <p>2、日本人同士の中にある異文化に関心と興味をもつ。</p> <p>3、異文化とのコミュニケーションに意欲と関心をもつ。</p> <p>態度の観点: 1、恥ずかしがらずに自己開示する。</p> <p>2、他者理解につとめ、他者を尊重する。</p> <p>技能・表現の観点: 1、他者の立場を尊重しながらも、自己主張する。</p> <p>2、自分の考えを率直に簡潔に言い、書ける。</p> <p>3、適切な質問力を身につける。</p> <p>その他の観点: 外国人留学生と日本人学生の交流を促進する</p>					
成績評価方法(総合)					
主に授業内レポートと学期末課題レポートおよび出席により評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					

教員志望者、留学生の参加を歓迎する。

連絡先

E-mail: hayashix@yamaguchi-u.ac.jp

携帯: 090-6415-8203

オフィスアワー

人文学部2階210-2号室、オフィスアワー: 木曜11時~12時

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011210005
開設科目名	日本語学特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	磯部 佳宏			区分	
授業の概要					
～ 文法論と文法学史～ 近世以前の文法学史を概観するとともに、近代以降の代表的な文法論を紹介しながら、日本語の文法研究史と、その特徴について考察する。					
授業の一般目標					
日本語の文法論と文法学史に関する基礎知識を身に付けるとともに、日本語の文法研究に関する諸問題について考える。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 日本語の文法論と文法学史に関する基本的な知識が身に付いているかを判断する。					
思考・判断の観点: 日本語の文法論と文法学史に関する基本的な知識を使って、思考力を判断する。					
関心・意欲の観点: 授業に対する取り組みを判断する。					
成績評価方法(総合)					
期末試験を主たる評価の対象とする。 毎回、授業時に用紙を配布し、出席の確認を兼ねて、指示する内容について記入してもらう。					
教科書					
国語文法論 / 渡辺実: 笠間書院, 1974					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011210006
開設科目名	日本語学特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	添田 建治郎			区分	
授業の概要					
日本語アクセントの機能、特徴、その成立と変遷などについて論述する。					
授業の一般目標					
日本語アクセントの意義について理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 日本語アクセントの機能、特徴、その成立と変遷などについての理解を深める。					
思考・判断の観点: 日本語アクセントの機能、特徴、その成立と変遷などに関わる知見をもとに積極的に疑問・意見を持ち、その解決をはかる。					
関心・意欲の観点: 上記の疑問・意見を質問カードに寄せ、教員との意見交換のなかから自身の考えを組み立てる。					
成績評価方法(総合)					
試験が60%、出席と質問カードの内容(授業内レポートに相当するものです)により授業への意欲をはかります、これが40%					
教科書					
愉快的な日本語講座 / 添田建治郎:小学館, 2005					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
0847-34-1961					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011210007																																
開設科目名	日本語学講読			単位	2単位																																
対象学生				学年	4～4																																
担当教員	林 伸一			区分																																	
授業の概要																																					
<p>一方的な講義形式ではなく、テーマごとに参加者の発表形式で進めていく。</p> <p>日本語教師または国語教師としての教育実習のリハーサルになるような発表を試みる。</p> <p>発表は、模擬授業形式で、教案・教材をあらかじめ準備し、参加者を学習者に見立てて行なう。</p>																																					
<table> <tr> <td>小テスト・授業内レポート</td> <td>20%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>宿題・授業外レポート</td> <td>10%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>授業態度・授業への参加度</td> <td>20%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>受講者の発表(プレゼン)・授業内での制作作品</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>演習</td> <td>評価に加えず</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>出席</td> <td>40%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>評価に加えず</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>100%</td> <td>0%</td> <td></td> </tr> </table>						小テスト・授業内レポート	20%			宿題・授業外レポート	10%			授業態度・授業への参加度	20%			受講者の発表(プレゼン)・授業内での制作作品		10%		演習	評価に加えず			出席	40%			その他	評価に加えず			合計	100%	0%	
小テスト・授業内レポート	20%																																				
宿題・授業外レポート	10%																																				
授業態度・授業への参加度	20%																																				
受講者の発表(プレゼン)・授業内での制作作品		10%																																			
演習	評価に加えず																																				
出席	40%																																				
その他	評価に加えず																																				
合計	100%	0%																																			
授業の一般目標																																					
<p>授業の一般目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、先輩の研究論文を先行研究として読み解いていく。 2、すでに発表された論文でも批判的に読む。 3、プレゼンテーションのしかたを体験的に学ぶ。 4、フィードバックのしかたを体験的に学ぶ。 																																					
授業の到達目標																																					
<p>知識・理解の観点: 1、引用のしかたを学ぶ</p> <p>2、参考文献の提示のしかたを学ぶ</p> <p>思考・判断の観点: 1、先行研究を基に自論を展開できるようにする</p> <p>2、先行研究を鵜呑みにするのではなく批判的に読む</p> <p>関心・意欲の観点: 1、自分の関心のある分野でレポートを書いてみる</p> <p>2、振り返りを意欲的に実行する</p> <p>態度の観点: 1、まじめに課題に取り組む態度を養う。</p> <p>2、不明な点をじっくり調べる態度を養う。</p> <p>技能・表現の観点: 技能・表現の観点:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、板書の仕方を工夫する 2、ハンドアウトの作り方を工夫し、わかりやすくする 3、パネルの提示の仕方を工夫する 																																					
成績評価方法(総合)																																					
<p>成績評価方法(総合)</p> <p>出席と発表 レポートを重視し、テストはしない。</p>																																					
教科書																																					

参考書**メッセージ**

メッセージ 日本語教師、国語教師を目指す人を歓迎する。
外国人留学生、日本人の海外派遣留学生の参加を歓迎する。

連絡先

連絡先: 人文棟 2階 210-2 号室、hayashix@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

オフィスアワー 木曜 3-4 時限目

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011210008
開設科目名	日本語学講読			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	吹屋 葉子			区分	
授業の概要					
<p>普段意識することなく用いその仕組みや機能を整理することが困難な「母語」(現代日本語)を、客観的な視点で観察・分析し、自分自身、また社会全体の言語生活について考えるきっかけとする。</p>					
授業の一般目標					
<p>現在、高等学校の国語教育では、いわゆる「古典」の学習、その中でも「古典文法」の学習が大きなウエイトを占めている。しかし、これらは受験勉強に直結する形の学習であり、「諸作品の中から言葉の規則性を導き出す」「歴史的社会的視点で言葉の体系を捉える」といった言語学的アプローチはなされていない。また、「現代日本語の文法」については、小中学校である程度の学習がなされるだけで、文法的な見方を特に必要としない母語であることもあり、その規則や体系を整理する機会はほとんどないままである。</p> <p>しかし、今後社会人として様々な人とコミュニケーションを取ったり意見を交わしたりする場面が増すことを想定し、自らが「今」用いている日本語のしくみについて、ここで客観的に分析・考察することは大いに有用であると考えられる。</p> <p>本授業では、「現代日本語」を母語としてだけでなく世界の言語の中の一つとしてとらえ、その規則性・体系性について学ぶことによって、より充実した言語生活を送れるようになることを目標とする。</p>					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 現代日本語の文法体系が理解できること					
思考・判断の観点: 客観的な視点で取り組めること					
関心・意欲の観点: 現代日本語の諸事象を観察し考察できること					
態度の観点: 論理的に意見が構築できること					
技能・表現の観点: 適切な表現を用いてレポートが書けること					
成績評価方法(総合)					
<p>まず、「現代日本語」を客観的に分析・考察できているかを見る。これは、授業の中で出される小課題や期末レポートへの取り組みで評価する。また、その際、適切な用語選択ができているか、論理的で説得力のある文章になっているかといった表現面も併せて評価する。</p> <p>また、「言語の四技能」(話す・聞く・読む・書く)という観点で、日本語の総合的な力をつけるために、クラスの中での話し合いや意見発表も随時行う予定である。それらへの取り組みも評価に加算する。</p>					
教科書					
国語教師が知っておきたい日本語文法 / 山田敏弘著:くろしお出版					
参考書					
メッセージ					
<p>使用教科書の題名には「国語教師」という表現がありますが、教師を目指す学生のみを対象とするものではありません。自分を取り巻く言語環境に興味を持ち、客観的に捉え直してみたいと思う学生の受講を希望します。また、授業の中では「外国人が学ぶ日本語」という視点も取り入れたいと考えていますので、留学生の受講も歓迎します。</p>					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011210009
開設科目名	日本語学演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	林 伸一			区分	

授業の概要

卒業研究論文のテーマの立て方、研究計画書の書き方、目次の立て方、データの集め方などの実際の卒論生の事例を検討しながら進めていく。

授業の到達目標

成績評価方法(観点別)

知識・理解 思考・判断 関心・意欲 態度 技能・表現 その他 評価割合(%) JABEE 収集資料

定期試験(中間・期末試験)	評価に加えず	
小テスト・授業内レポート	20%	
宿題・授業外レポート	20%	
授業態度・授業への参加度	20%	
受講者の発表(プレゼン)・授業内での制作作品		20%
演習	10%	
出席	10%	
その他	評価に加えず	
合計	100%	0%

授業の一般目標

- 1、卒業研究のテーマの立て方を具体的に考える。
- 2、研究計画書を個々人が実際に書いてみる。
- 3、研究計画に沿って、目次を書いてみる。
- 4、データの集め方、先行研究の集め方を検討する。
- 5、データの整理の仕方、分析の仕方を検討する。

授業の到達目標

知識・理解の観点: 1、引用の仕方

2、図や表のタイトルのつけかた

3、参考文献の示し方

思考・判断の観点: 1、一般論と具体例を区別する

2、論理の展開に一貫性があるかどうかを考える

3、説得力のある文章を考える

関心・意欲の観点: 1、自分の関心・意欲を明確にする

2、前向きに困難に対処する

3、目標を立てて動機付けする

態度の観点: 1、積極的に授業に参加する

2、わからないことをそのままにしないで調べる

3、不明な点は質問する

技能・表現の観点: 1、口頭での発表力をつける

2、図や表でわかりやすく表現する能力をつける

3、コンピューターを使いこなす

その他の観点: 後輩は、先輩の卒業研究のしかたを学ぶ

成績評価方法(総合)

授業内の質問感想カードを毎回提出、期末の授業外レポート及び授業内での発表や出席・授業態度を重視する

教科書**参考書****メッセージ**

日本人だからといって読み書き能力が十分とは限らない。しっかりした文章が書けるようになるう。

連絡先

連絡先 hayashix@yamaguchi-u.ac.jp 携帯:090 - 6415 - 8203

オフィスアワー

オフィスアワー木曜日:11時-12時

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011210010
開設科目名	日本語学演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	磯部 佳宏			区分	
授業の概要					
～ 中古仮名文学の語法・語彙～ 『源氏物語』宇治十帖を演習形式で講読し、その語法・語彙について考察する。					
授業の一般目標					
中古仮名文学の語法・語彙について、自発的に問題点を探し、調査を行い、資料を作成して発表を行う。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 問題点の設定と取り組み。					
思考・判断の観点: 発表資料のまとめ方。					
関心・意欲の観点: 質疑応答への参加度。					
技能・表現の観点: 口頭発表における技術・表現。					
成績評価方法(総合)					
授業時の口頭発表 質疑応答への参加度。テキストの現代語訳 期末レポート。					
教科書					
青表紙本源氏物語 45 橋姫 / 秋山虔: 新典社					
参考書					
源氏物語(新日本古典文学大系) / 柳井滋他: 岩波書店 源氏物語(新編日本古典文学全集) / 阿部研次他: 小学館 源氏物語索引(新日本古典文学大系) / 柳井滋他: 岩波書店, 1999					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011210011
開設科目名	日本語学演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	磯部 佳宏			区分	
授業の概要					
卒業論文作成のための演習。					
授業の一般目標					
学生各自のテーマにより、卒業論文を作成する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 日本語学に関する基本的な知識の確認。					
思考・判断の観点: 問題への取り組み方法。					
関心・意欲の観点: 自発的な研究意欲。					
技能・表現の観点: 資料の取り扱い方、参考文献の検索方法。					
成績評価方法(総合)					
卒業論文に対する取り組みを評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011210012
開設科目名	日本文学概論			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	平野 芳信			区分	
授業の概要					
日本文学をその起源としての和歌に求め、言語を表現媒体とする時間芸術としての文学(小説が中心になると思われますが、)について述語を中心に講述します。					
授業の一般目標					
各項目(述語)に即して具体的な作品を分析しますが、あくまでも日本文学における伝達媒体としての言語の本質を明らかにすることを最終的な目標としています。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
定期試験 100%					
出席 欠格条件					
教科書					
参考書					
メッセージ					
講義でふれた具体的な作品を実際に読むことを希望します。					
連絡先					
個人研究室電話番号:933 - 5262 Eメールアドレス:y-hirano@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
追って、指示します。					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011210013
開設科目名	日本文学史			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	尾崎 千佳			区分	
授業の概要					
[近世文学の諸相とその展開] 徳川政権下約三百年間の文芸を、時代環境や作品・作家の性格に即したトピックごとに講じます。近世という時代は、広範な作者と読者の層に支えられて、多種多様な文芸作品を生み出しました。それらの抱え込む、伝統と革新／雅と俗／人情と義理といった、相反する命題の諸相について、代表的作品を読み解きつつ、考えてゆきたいと思います。					
授業の一般目標					
近世文学史上の代表的作家と作品について、基礎知識の習得を目指します。あわせて、文学史が時代の場合や思潮と絡み合いながら展開することを学び、古典作品研究のあり方とその意義について、各自の考察を促します。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 近世前期小説史上の主要作家・作品について基礎知識を習得する。					
思考・判断の観点: 近世前期文学の展開を促した諸条件について理解する。					
関心・意欲の観点: 自らの課題を持ち積極的能動的に授業に参加することができる。					
成績評価方法(総合)					
期末試験 80%、アンケート票記入による授業態度 20%、出欠は欠格条件(4回の無断欠席で期末試験受験資格失効)					
教科書					
年表資料近世文学史 / 松崎仁・白石梯三・谷脇理史:笠間書院, 1977					
参考書					
日本文学新史(近世) / 松田修編:至文堂, 1990					
近世の日本文学 / 長島弘明・清登典子:放送大学教育振興会, 2003					
メッセージ					
連絡先					
研究室: 人文 508 電話: 083-933-5257 E-mail: ozaki@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011210014
開設科目名	日本文学特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	森野 正弘			区分	
授業の概要					
平安時代における物語文学の代表的作品である『源氏物語』を読み解きながら、そこに孕まれている問題について取り上げ、研究史のうえで営まれてきた読みについて検討を加える。					
授業の一般目標					
古典文学について研究・考察する力を身につける。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 古典文学作品に書かれた内容を正確に読み取るための知識を得ることができる。					
思考・判断の観点: 古典文学作品に書かれた内容や研究論文を通じて多面的な物の見方・考え方ができるようになる。					
成績評価方法(総合)					
期末試験による。					
教科書					
参考書					
新編日本古典文学全集『源氏物語』(全6冊)/阿部研次生ほか:小学館,1995					
源氏物語事典/林田孝和ほか:大和書房,2002					
源氏物語の鑑賞と基礎知識(全43冊)/鈴木一雄・監修:至文堂,1998					
人物で読む源氏物語(全20冊)/上原作和・編集:勉誠出版,2005					
角川文庫ソフィア『源氏物語・付現代語訳』(全10冊)/玉上琢彌:角川書店,1998					
メッセージ					
出席状況80%未満の者は欠格とします。授業開始後15分を過ぎてからの入室は出席として認めません。					
連絡先					
morino@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
水曜日5・6時限					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011210015
開設科目名	日本文学特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	小野 美典			区分	
授業の概要					
<p>昨年に引き続き『平家物語』を取り上げて、その文学的特質を解説する。半期という短い期間なので、著名な章段を取り上げて、その読解をもとに『平家物語』の文学的特質を考察していくことにする。また、本文に係る資料も可能な限り取り上げて、中世の文学研究に必要な基礎資料に関する解説もあわせて行いたい。取り上げる章段は、以下の予定。(鱈 富士川、経世都落)</p>					
授業の一般目標					
『平家物語』の特質を知ることが第一の目標とする。また、中世文学研究に必要な基礎知識の獲得も第二の目標とする。					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点： 『平家物語』の特質に関する理解を深める。 『平家物語』研究の現状と課題について理解を深める。 中世文学研究の基礎資料に関する知識を深める。</p> <p>思考・判断の観点： 『平家物語』の本文を読み解く。 歴史資料を読み解く。</p> <p>関心・意欲の観点： 『平家物語』に関する興味を深める。 同時代の他の資料への関心を深める。</p> <p>態度の観点： 注釈の施されていない資料を積極的に読むとする。</p> <p>技能・表現の観点： 自分の調査・考察したことを的確に文章で表現する。</p>					
成績評価方法(総合)					
レポートによって評価する。なお、出席は3分の2以上出席していることが評価の前提となる。その出席条件を満たした者に関して、レポート内容で成績評価を行う。出席状況を点数化して評価に加点することはない。なお、講義中の授業への参加態度も、若干の考慮に入れる。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
半期という短い期間ですが、『平家物語』の世界に興味を持ってもらえたら幸いです。お互いに楽しく授業を進めましょう。					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011210016
開設科目名	日本文学講読			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	平野 芳信			区分	
授業の概要					
森絵都の『永遠の出口』を精読します。					
授業の一般目標					
『永遠の出口』は児童文学者であった森絵都が、その殻を破って大人の読者に向けて発表した最初の作品です。主人公の10歳から18歳までの9年間で描かれていて、児童文学であって、児童文学ではない不思議なテイストを味わいながら読みたいと思います					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
宿題・授業外レポート 40%					
授業態度・授業への参加度 10%					
受講者の発表(プレゼン)・授業内での制作作品 40%					
出席 10%					
教科書					
文庫 永遠の出口 / 森絵都:集英社					
参考書					
メッセージ					
講読日誌を作成していただきますので、ノートを1冊準備しておくように。					
連絡先					
個人研究室 933 - 5262					
y-hirano@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
追って、指示します。					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011210017
開設科目名	日本文学講読			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	森野 正弘			区分	
授業の概要					
『伊勢物語』の講読					
授業の一般目標					
古典文学を読解する力を身につける。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 古典文学作品に書かれた内容を正確に読み取るための知識を得ることができる。					
思考・判断の観点: 古典文学作品に書かれた内容を通じて多面的な物の見方・考え方ができるようになる。					
関心・意欲の観点: 古典文学作品に関連する歴史的文化的事項について自発的に調べることができるようになる。					
成績評価方法(総合)					
発表内容とレポートによる。					
教科書					
新編日本古典文学全集『竹取物語・伊勢物語・大和物語・平中物語』 / 福井貞助ほか:小学館, 1994					
参考書					
角川ソフィア文庫『新版伊勢物語・付現代語訳』 / 石田穰二: 訳注: 角川書店, 2003					
伊勢物語を読む / 宇都木敏郎: 未知谷, 1997					
新日本古典文学大系『竹取物語・伊勢物語』 / 秋山虔: 校注: 岩波書店, 1997					
別冊国文学・竹取物語 / 伊勢物語必携 / 鈴木日出男: 編: 学燈社, 1988					
伊勢物語の表現史 / 室伏信助: 編: 笠間書院, 2004					
メッセージ					
出席状況 80% 未満の者は欠格とする。					
連絡先					
morino@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
水曜日 5・6 時限					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011210018
開設科目名	日本文学講読			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	尾崎 千佳			区分	
授業の概要					
<p>〔西鶴『世間胸算用』を読む〕元禄五年(1692)刊『世間胸算用』は、西鶴生存中最後に出版された小説で、多彩な語り口と緻密な構成によって、その傑作のひとつに数えられる作品である。話の舞台は大晦日、話の形式はオムニバス。最も劇的な一日をやり過ごす町人たちの、したたかで明るく、ほんの少し悲しい姿が、巧みに描き出されている。前期は、巻一 四「鼠の文づかひ」を精読したい。</p>					
授業の一般目標					
<p>1.西鶴浮世草子作品を通して、近世文学読解の基本的あり方を習得する。 2.西鶴浮世草子作品を通して、中古中世文学の咀嚼の上になる近世文学の醍醐味を感得する。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:近世文学読解のための文献調査法の基礎を習得する。 思考・判断の観点:作品の主題を的確に把握できる。 態度の観点:他の参加者の解釈について積極的に意見を述べるができる。 技能・表現の観点:調査結果に基づいたみずからの解釈について適切に発表することができる。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>担当の発表資料と発表内容を最重視し、期末レポートとして発表資料の修正版を課す。試験は行わない。授業時の質疑も評価に加える。</p>					
教科書					
<p>西鶴影印叢刊『世間胸算用』 / 西島孜哉編; 和泉書院, 1998 対訳西鶴全集 13『世間胸算用』 / 麻生磯次・富士昭雄校注; 明治書院, 1984</p>					
参考書					
<p>大晦日を笑う『世間胸算用』 / 広嶋進; 清文堂出版, 2005</p>					
メッセージ					
<p>西鶴の小説には現代劇にもよく通じる面白さがあり、そのリアルな語り口と息もつかせぬ急展開が魅力です。</p>					
連絡先					
<p>研究室: 人文 508 電話: 933-5257 E-mail: ozaki@yamaguchi-u.ac.jp</p>					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011210019
開設科目名	日本文学演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	平野 芳信			区分	
授業の概要					
卒業論文作成の直接的な指導、助言を行うための演習を実施します。					
授業の一般目標					
この演習を通して、ゼミ構成員各自が、卒業論文作成のための具体的な方法を体得していただきたい。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
授業態度・授業への参加度 30%					
受講者の発表(プレゼン)・授業内での制作作品 30%					
演習 30%					
出席 10%					
教科書					
参考書					
メッセージ					
発表の順番はあくまでも予定です。就職活動等々によって、変更があることを承知しておいてください。					
なお、4年生用の時間ですので、2、3年生は受講しないように。					
連絡先					
個人研究室 933 - 5262					
y-hirano@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
追って、指示します。					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011210020
開設科目名	日本文学演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	平野 芳信			区分	
授業の概要					
<p>明治以降の近代小説の代表的作品について、一種の共同研究・共同作業を行います。分担を決め、各自に作品それぞれの個性に応じて、テクスチュアル・クリティシズム、作家論、背景論、作品論、テキスト論等々を発表していただきます。</p>					
授業の一般目標					
<p>端的にいえば、このゼミナールにおけるいろいろな作業を通じて、将来の卒業論文作成の具体的方法を体得していただくことを目標としています。</p>					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
<p>宿題 / 授業外レポート = 50%</p> <p>授業態度や授業への参加度 = 10%</p> <p>受講者の発表(プレゼン)や授業内での製作作業(作品) = 30%</p> <p>出席 = 10%</p>					
教科書					
参考書					
メッセージ					
<p>個人研究室 933 - 5262</p> <p>y-hirano@yamaguchi-u.ac.jp</p>					
連絡先					
オフィスアワー					
<p>追って指示します。</p>					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011210021
開設科目名	日本文学演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	森野 正弘			区分	
授業の概要					
『源氏物語』の研究					
授業の一般目標					
古典文学の研究を進めていくうえで必要な基礎知識の習得、及び分析力・論理的思考力を身につける。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 古典文学作品に書かれた内容を正確に読み取るための知識を得ることができる。					
思考・判断の観点: 古典文学作品に書かれた内容や研究論文を通じて多面的な物の見方・考え方ができるようになる。					
関心・意欲の観点: 自発的に古典文学作品を読み進め、関連する事項について調査することができるようになる。					
態度の観点: 古典文学作品に提起されている問題を主体的に考え、自ら探究することができるようになる。					
技能・表現の観点: 考察した結果を文章や口頭で適切に表現できるようになる。					
成績評価方法(総合)					
発表内容とレポートによる。					
教科書					
新編日本古典文学全集『源氏物語』(全6冊) / 阿部秋生ほか: 小学館, 1994					
新日本古典文学大系『源氏物語』(全5冊) / 柳井滋ほか: 岩波書店, 1993					
参考書					
新日本古典文学大系別巻『源氏物語索引』 / 柳井滋ほか: 岩波書店, 1999					
源氏物語事典 / 林田孝和ほか: 大和書房, 2002					
人物で読む源氏物語(全20巻) / 上原作和・編集: 勉誠出版, 2005					
源氏物語の鑑賞と基礎知識(全43冊) / 鈴木一雄・監修: 至文堂, 1998					
別冊国文学『新・源氏物語必携』 / 秋山虔・編: 学燈社, 1997					
メッセージ					
『源氏物語』の「何について」考察したいのか、各自あらかじめ考えてきたうえで第1回目の授業に臨んでください。八割以上出席すること。					
連絡先					
morino@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
水曜日 5・6 時限					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011210022
開設科目名	日本文学演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	森野 正弘			区分	
授業の概要					
中古文学を研究対象としている4年生のための演習					
授業の一般目標					
中古文学の研究を進めていくうえで必要な知識・方法を習得する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 中古文学を研究するための知識を得ることができる。					
思考・判断の観点: 中古文学の研究を通じて多面的な物の見方・考え方ができるようになる。					
関心・意欲の観点: 自発的に中古文学の研究を進め、関連する事項について調査することができるようになる。					
態度の観点: 中古文学に内在している問題を主体的に考え、自ら探究することができるようになる。					
技能・表現の観点: 考察した結果を文章や口頭で適切に表現できるようになる。					
成績評価方法(総合)					
発表内容とレポートによる。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
morino@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
水曜日 5・6時限					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011210023
開設科目名	日本文学演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	尾崎 千佳			区分	
授業の概要					
<p>【『大坂独吟集』重安独吟百韻註釈】延宝三年(1675)刊『大坂独吟集』は、談林俳諧の盟主・西山宗因が評語を付し点をかけた百韻十巻を集める、談林俳諧の代表的作品である。謡曲の文句取りを駆使した軽妙な表現と、古典作品の大胆なパロディが生む笑いを精読して、談林俳諧の意義と達成につき考察を深めたい。前期は、下巻所収の重安独吟「薬喰や」百韻の初折表から二折表をとりあげる。連句と評語が織りなす、師弟のコラボレーションにも注目したい。また、実作にもチャレンジして、連歌・俳諧の精神や作法を実践的に習得しよう。</p>					
授業の一般目標					
<p>1.近世文学の読解に必要な、文献調査法の習得から、古典註釈の基礎を学ぶ。 2.詠作と鑑賞が同時に繰り返される「座」の文芸＝俳諧連句の作法と精神を知り、談林俳諧の意義と達成につき、考察を深める。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:1.近世文学読解のために必要な文献調査の方法を習得する。 2.古典文学註釈の基礎を習得する。 思考・判断の観点:1.俳諧連句の作法と精神を理解する。 2.中古中世文学との比較を通して、近世文学の到達点を理解する。 態度の観点:1.他の参加者の解釈について、積極的に意見を述べることができる。 技能・表現の観点:1.調査結果に基づいたみずからの解釈について、適切に発表することができる。 2.意欲的に実作に参加し、連歌・俳諧の精神や作法を実践的に会得することができる。</p>					
成績評価方法(総合)					
発表時の資料と内容を最重視し、期末レポートとして発表資料の修正版提出を課す。試験は行わない。授業時の質疑応答も評価に加える。					
教科書					
近世文学資料類従古俳諧編 29『大坂独吟集』 / 乾裕幸他解説: 勉誠社, 1976					
参考書					
新日本古典文学大系 69『初期俳諧集』 / 乾裕幸他校注: 岩波書店, 1991 新版連句への招待 / 乾裕幸・白石悌三: 和泉書院, 1989					
メッセージ					
俳諧は、さまざまな読みの試みが可能な文芸です。多くの方にとっては未知の分野でしょうが、初心者でも十分対応できますので、臆せず受講してください。頭が柔らかくなります。					
連絡先					
研究室: 人文 508 電話: 933-5257 E-mail: ozaki@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011210024
開設科目名	日本文学演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	尾崎 千佳			区分	
授業の概要					
卒業論文執筆に向け、作品作家の選定・先行研究の検索と収集・研究史の把握・論文テーマの設定について、個別に指導する。					
授業の一般目標					
卒業論文執筆のための具体的方法を習得する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1.とりあげる作家や作品を選定することができる。					
2.先行研究を収集し整理することができる。					
思考・判断の観点: 1.研究史を把握し問題を提起することができる。					
2.論文テーマをみずから設定することができる。					
態度の観点: 1.論文作成にむけたスケジュールをみずから設定し管理することができる。					
技能・表現の観点: 1.選定した作家や作品について適切に説明することができる。					
2.研究史とその問題点について適切に説明することができる。					
3.設定した論文テーマについて適切に説明することができる。					
成績評価方法(総合)					
レポート(1)(2)(3)(4)の内容と姿勢により評価する。試験は行わない。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
研究室: 人文 508 電話: 933-5257 E-mail: ozaki@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011211001
開設科目名	中国語学概説			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	富平 美波			区分	
授業の概要					
中国語学に関する基礎知識のうち、前期の講義(中国語学概説)では、下記の諸点について、紹介する。					
1. 現代中国の共通語と方言					
2. 現代中国語の音声					
3. 発音表記法の発達(ピンイン方案の成立に至るまで)					
授業の一般目標					
(1) 現代中国語の共通語とその形成の歴史について理解する。					
(2) 現代中国語の方言分布について理解する。					
(3) 中国語の音声・音韻について基本知識を会得する。					
(4) 中国語の発音表記法について基本知識を会得する。					
(5) 中国語学の諸問題について主体的に学習・考察する態度を養成する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: (1)中国が多民族・多言語国家であることを理解する。					
(2)現代中国語の共通語とその形成の歴史について簡単な説明ができる。					
(3)現代中国語の方言分布について説明できる。					
(4)中国語の音声的特徴について簡単な説明ができる。					
(5)中国に於ける発音表記法の発達について簡単な説明ができる。					
関心・意欲の観点: 中国語の諸特徴について問題意識を持ち、関心を持ったテーマについて主体的に学習・考察することができる。					
技能・表現の観点: 関心を持ったテーマについて主体的に学習・考察して成果を、文章にまとめることができる。正しいレポートの体裁とはどのようなものか、基本的知識を身に付ける。					
成績評価方法(総合)					
おしまいに、授業内容に関連を持つテーマを選んでレポートしてもらい、また、授業中に設問に答えてもらうほか、随時、感想や質問を自由に書いてもらう機会を作る。これらにより授業への理解度と主体的学習への意欲を評価する。なお、出席が3分の2に満たない者には単位を与えない。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
研究室:人文学部5階515室 tel:933-5251					
オフィスアワー					
月曜日:12:50～14:20					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011211002
開設科目名	中国語学特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	更科 慎一			区分	
授業の概要					
中国語音声学入門 現代中国語(普通話)の発音を調音音声学的に探求する。世界の言語の中での中国語の音声的特徴、及び日本語との違いなどがよくわかることに重点を置いて授業を進めていきたい。					
授業の一般目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・調音音声学の基本的な原理を理解する。 ・国際音声字母のうち諸言語の記述に高い頻度で現れるもの、及び中国語と関連する部分について、実際に発音できる。 ・現代中国語の発音について、区別の勘所がわかる。 					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 言語音の発出原理に関する基本的知識を身につけている。					
常用される国際音声字母を見ておおむね理解することができる。					
思考・判断の観点: 自身の母語や現代中国語の発音について、音声学の観点から分析することができる。					
技能・表現の観点: 現代中国語音が正確に発音でき、聞き分けられる。					
国際音声字母によって自身の母語と中国語の音を表記することができる。					
成績評価方法(総合)					
学期末に提出させるレポートによるほか、授業への参加度も一定程度考慮する。					
教科書					
参考書					
実践音声学入門 / J.C.キャットフォード:大修館書店, 2006					
一般音声学講義 / 城生佰太郎:勉誠出版, 2008					
中国文化叢書 1・言語 / 牛島徳次, 香坂順一, 藤堂明保:大修館書店, 1967					
メッセージ					
連絡先					
更科慎一 研究室:人文516、電話:933-5250					
オフィスアワー					
月曜日 12:50-16:00					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011211003
開設科目名	中国語学特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	富平 美波			区分	
授業の概要					
<p>授業のテーマは、「中国語の中古音について」。中国語の発音の歴史を一般に上古音 中古音 近代音 現代音と区分するが、その中で最も重要なのは中古音である。これは隋唐時代の中国語標準音を指すものである。中古音がなぜ重要かという、現代中国語方言の大部分はこの中古音を共通の祖先としそこから変化してきたものなので、現代の中国語方言を分類したり特徴を説明したりするのに中古音の知識は欠かせない。また日本語で用いられる漢字音も中古音と密接な関係があり、漢字音を体系的に理解するにも中古音の知識は欠かせない。この授業では、はじめにカールグレンの研究によって大まかな中古音の音価推定を紹介し、それと「普通話」を含むいくつかの主要な方言音を比較対照し、各地方言音と中古音との関係、および方言間の発音の相違・特徴を明らかにする。</p>					
授業の一般目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1) 中国語古代音のなかで、最も重要な位置を占める中古音を声母・韻母に分けて理解する。 2) 古代音はピンインでなく音声記号で示されるので、その記号のよみ方についても勉強する。 3) 南方の主要な方言(広東語・福建語など)の発音を学び、北京語(標準語)との違いの大きさを感じてもらう。 4) 中古音を基として現代の主要な方言音を比較し、方言間の発音の相違と特徴を観察する。 					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 中古音を知ることによって、現代音との相違、あるいは現代までの発音の歴史を説明することができる。</p> <p>思考・判断の観点: 中古音の知識を基にして、歴史的観点からの方言特徴などについて意見を述べることができる。</p> <p>関心・意欲の観点: 中国語の歴史だけでなく、方言の分類・分布に対しても興味や関心を高められる。</p> <p>態度の観点: 中国の方言だけでなく、日本語で用いられる独特の日本漢字音についても積極的に考えることができる。</p>					
成績評価方法(総合)					
<ol style="list-style-type: none"> 1) 授業の中で小テストを1回、授業の最後に試験を1回行う。 2) 方言分類に関する授業内レポートを作成し、提出する。 3) 以上を、下記の観点・割合で評価する。 4) なお、出席が所定の回数に満たないものは、単位を与えない。 					
教科書					
参考書					
<p>中国語語音史 中古音から現代音まで / 佐藤昭: 白帝社, 2002</p> <p>中国の諸言語 - 歴史と現況 / ラムゼイ: 大修館書店, 1990</p> <p>音韻のはなし - 中国音韻学の基本知識 / 李思敬: 光生館, 1987</p>					
メッセージ					
質問大歓迎。不明なこと、疑問のこと、なんでもかまいませんので、遠慮なく質問すること。					
連絡先					
a-satou@kitakyu-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011211004
開設科目名	中国語学講読			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	更科 慎一			区分	
授業の概要					
周振鶴、游汝傑著「方言与中国文化」を読む。					
授業の一般目標					
(1)中国語の方言の形成史と、その文化的背景について理解を深める。 (2)現代中国語の論文文体に慣れ、読解と翻訳の実力を増強する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1.中国語の方言の特徴について言語学的に述べるができる。 2.中国語の方言の成立に文化的諸要素がどのように関わったかを説明することができる。 3.中国語学の基本的用語を理解することができる。					
技能・表現の観点: 1.現代中国語文を正しい発音で音読することができる。 2.現代中国語文を的確に日本語に訳すことができる。 3.中国語学や中国文化に特有の事物について、必要な文献を検索し、参照することができる。					
成績評価方法(総合)					
レポート(上記「授業計画」を参照)の提出を課する。 いわゆる出席点はない。全体の2/3以上出席しない学生には、単位を与えない。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
なるべく多くの漢字の発音を覚え、また語彙を増やすよう心がけてください。地理や歴史に対する関心を持つことも大事です。					
連絡先					
研究室 人文研究棟516室 電話 083-933-5250					
オフィスアワー					
月曜日 12:50-16:00					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011211005
開設科目名	中国語学演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	富平 美波			区分	
授業の概要					
中国語の文法と特徴ある表現について文献を読解しつつ学ぶ。中国語を学ぶ外国人を対象に現代中国語で書かれた教科書を選んで講読し、中国語文法に関する知識を身につけるとともに、現代中国語の読解能力を高める。					
授業の一般目標					
中国語の文法及び特徴的表現形式について一定の理解を得させ、あわせて現代中国語で書かれた語学関係の文献の読解能力を養う。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 中国語文法の特徴及び特徴ある表現形式のいくつかを知る。					
初級レベルでは学ばない現代中国語の表現形式のいくつかをマスターする。					
思考・判断の観点: 現代中国語の文章が読解できる。					
関心・意欲の観点: 中国語文法について関心を持ち、自主的に学習できる。					
成績評価方法(総合)					
毎回の授業における課題の達成度と学期末のレポートにより、授業内容に対する理解度と主体的学習態度を評価する。なお、出席が3分の2に満たない者には単位を与えない。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
中国語辞典は必須です。持参してください。					
連絡先					
研究室: 人文学部5階 Tel.933-5251					
オフィスアワー					
月曜日 12:50-14:20					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011211006
開設科目名	中国語学演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	富平 美波			区分	
授業の概要					
4年生を対象とする授業である。 受講者は、各自、中国語学に関する研究テーマを1つ選び、調査研究を行い、互いに研究の進行状況と成果を発表し合い、討論を交わす。					
授業の一般目標					
中国語学に関して、独自に課題を発見し、調査を行い、考察を加え、報告を行う力を養う。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 自分の選んだ研究領域に関する基礎知識をマスターし、それについて説明することができる。					
思考・判断の観点: 自分の選んだ研究テーマに関連する先行研究の論点を把握し、内容の中で理解できなかった点を指摘し、疑問の解決法を考えることができる。					
関心・意欲の観点: 中国語に関して、問題意識を持ち、主体的な調査・考察を行う姿勢が身に付いている。					
態度の観点: 1.常に少しずつでも、自分の選んだ研究テーマに関して調査・考察を進める。 2.他人の報告を熱心に聞き、問題を提起できる。					
技能・表現の観点: 自分の選んだ研究テーマについて、わかりやすい研究報告ができる。					
成績評価方法(総合)					
授業中に行う研究発表と学期末のレポートにより評価する。また、授業への参加度として、他の受講者の研究発表に対して行った発言、毎回の研究進捗報告を評価に加える。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
人文学部5階 Tel.933-5251					
オフィスアワー					
月曜日 12:50-14:20					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011211007
開設科目名	中国語学演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	更科 慎一			区分	
授業の概要					
卒業論文演習である。卒業論文を執筆する受講者を指導する。					
授業の一般目標					
卒論執筆に向けて、テーマを選び、先行研究文献の検索・収集・消化を行う。その過程で、問題を見つけ、他の受講者や担当教員を対象に報告を行うと同時に、他の受講者の報告に対し適切な意見と助言を提示する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1.決定したテーマに関連した先行研究を踏まえて、テーマの研究状況について説明することができる。					
2.学術論文執筆の基本的ルールを身につける。					
思考・判断の観点: 1.テーマにおける問題のありかを指摘することができる。					
2.論理的な思考様式によって問題を処理することができる。					
関心・意欲の観点: 1.科学の趣旨を理解し、学問に敬意を払う。					
態度の観点: 1.テーマに関する研究史の中に自分の研究を位置づけることができる。					
技能・表現の観点: 1.必要な文献を検索し、適切に引用することができる。					
成績評価方法(総合)					
(1)研究の進捗状況を報告するためのレジュメと口頭発表					
(2)討論への参加態度					
(3)学期末レポートによる。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
卒論のテーマそのものが今すぐ社会に役立つことはないかもしれませんが、社会のニーズは時代によってころころと変わるからです。しかし、卒論執筆の過程で要求される集中力、情報収集力、論理的思考能力、文章力、そして何よりも「知ろうとする意志」は、いつの時代も必要とされるものです。よい卒論を書いてください。					
連絡先					
研究室 人文研究棟516室 電話 083-933-5250					
オフィスアワー					
月曜日 12:50-16:00					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011211008
開設科目名	中国文学史			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	根ヶ山 徹			区分	
授業の概要					
<p>中国古代から清朝(民国以前)までの文学について概観する。</p> <p>中国文学は、「漢文」・「唐詩」・「宋詞」・「元曲」ということばに代表されるように、長い歴史を有するのみならず、ジャンルも多種多様にわたる。この授業では、古代から清朝に至るまでの重要な作品を紹介し、さまざまな観点から分析する。</p>					
授業の一般目標					
中国の各時代の作家と文学作品に関して、基本的知識を身につけ、個々の作品の読解を通じて、中国文化に対する理解を深めることを目標とする。					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:中国古典文学の主要なジャンルと作品、また特質について説明できる。</p> <p>思考・判断の観点:中国古典文学の歴史的展開を説明できる。</p> <p>関心・意欲の観点:中国古典文学を通して、ひろく中国の文化について関心を抱く。</p> <p>態度の観点:授業で紹介した参考文献に目を通す。</p> <p>技能・表現の観点:中国古典文学の読解が可能になる。</p>					
成績評価方法(総合)					
期末試験の成績により評価する。					
教科書					
中国文学概論 / 岩城秀夫: 朋友書店, 1995					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011211009
開設科目名	中国文学特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	阿部 泰記			区分	
授業の概要					
包拯伝説の歴史的展開について講じる。包拯は北宋時代の官吏で、毅然とした態度で奸臣に立ち向かいその野望を挫いたため、民衆に慕われてその業績が文学に取材されて伝説的な人物となり、現代中国でも「包公」と言えば知らない人はいないし、崇拜の対象ともなっている。本講義ではこうした文学を媒体とした包拯の伝説を具体的に紹介していく。					
授業の一般目標					
1.中国の政治と文学の関係について理解を深める。 2.伝説が文学を媒体として拡散することを理解する。 3.伝説が事実として認識される事象について理解する。 4.中国の物語のジャンルについて知る。 5.伝説と信仰との関係について考える。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1.包拯という人物の業績について知る。 2.包拯の伝説に取材した文学を知る。 3.包拯を祀った廟の分布を知る。					
思考・判断の観点: 1.民衆がなぜ包拯を慕うのかを考える。 2.民衆にとって文学とは何かを考える。					
関心・意欲の観点: 1.包拯について図書館で文献を調べてみる。 2.インターネットで包拯に取材した文学や包公廟について検索してみる。					
態度の観点: 1.授業を真剣に聞く態度をやしなう。 2.授業の内容をノートする態度をやしなう。					
技能・表現の観点: 1.手際よくノートする訓練をする。 2.中国のインターネットを検索する能力を身につける。					
成績評価方法(総合)					
1.出席・レポート提出ができない者は評価の対象外である。 2.どれだけ授業を理解できたかを評価の基準とする。					
教科書					
参考書					
包公伝説の形成と展開 / 阿部泰記: 東京 : 汲古書院, 2004 中国の公案小説 / 莊司格一: 東京 : 研文出版, 1988					
メッセージ					
連絡先					
abey@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011211010
開設科目名	中国文学特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	李 文相			区分	
授業の概要					
<p>17世紀中葉の朝鮮時代、南道地方で発祥したパンソリには、14世紀末葉から500年間続いた朝鮮時代の儒教社会を生きた庶民の積もった恨(ハン)を解く不思議な魅力がある。</p> <p>パンソリの叙事的な語りの背景には儒教思想が主流を成しており、至る所に漢文や漢詩、諺の例えなど、中国文化の影響が大きい。</p>					
授業の一般目標					
<p>パンソリを通じて朝鮮時代の民衆の人生観に触れ、朝鮮時代における中国文化との関わりについて理解する。韓国の文化と中国の文化を関連付けながら日本文化の理解に役立て東アジアに対して幅広い知識と教養を身につける。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:パンソリの辞説を通じて朝鮮時代の中国文化との関わりについて理解する。</p> <p>思考・判断の観点:儒教思想や人々の人生観について理解する。</p> <p>関心・意欲の観点:パンソリの鑑賞を通じて中国文化との接点を見出す。</p> <p>態度の観点:中国と朝鮮文化の関わりを知り、日本文化への影響を総合的に捉える。</p> <p>技能・表現の観点:東アジア文化圏の拡がりに興味を持つ。</p>					
成績評価方法(総合)					
レポートの提出、出席状況					
教科書					
参考書					
メッセージ					
パンソリ芸術の感性にふれながら楽しい雰囲気中国文化との関わりについて考えましょう。					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011211011
開設科目名	中国文学講読			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	根ヶ山 徹			区分	
授業の概要					
湯頭祖の『牡丹亭還魂記』を、兪為民校注本によって読む。					
授業の一般目標					
古代漢語で書かれた原文を読解し、分析する能力を養うことを目標とする。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 中国戯曲演劇史のなかでの、『牡丹亭還魂記』の位置づけを理解する。					
思考・判断の観点: 作品の主題を的確に把握できる。					
関心・意欲の観点: 明代の白話文学の特質について関心をいだく。					
態度の観点: 出典などについて、適切に調べることができる。					
技能・表現の観点: 本文・注釈についての解釈を、適切に発表することができる。					
成績評価方法(総合)					
教科書					
牡丹亭 / 湯頭祖撰・兪為民導読・黄山書社, 2001					
参考書					
戯曲集(下) / 田中謙二編・平凡社, 1970					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011211012
開設科目名	中国文学演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	阿部 泰記			区分	
授業の概要					
本演習では、受講者が選定した研究テーマに関する研究方法を学習する。					
授業の一般目標					
1.物語の媒体となる文学の形式を理解する。 2.物語の主題を考察する。 3.物語の現代的意義を考察する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1.物語文学の代表的な作品を知る。 2.物語文学の文体を知る。					
思考・判断の観点: 1.物語文学の主題を考える。 2.物語文学の歴史を考える。					
関心・意欲の観点: 1.物語文学のおもしろさを感じる。 2.物語文学をすすんで読むようになる。					
態度の観点: 1.物語文学の読解につとめる。 2.辞書を丹念に調べる。					
技能・表現の観点: 1.流暢な日本語に翻訳できる。 2.中国語と日本語の表現に注意する。					
成績評価方法(総合)					
予習による評価					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
abey@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011211013
開設科目名	中国文学演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	阿部 泰記			区分	
授業の概要					
中国の物語文学を読解する。中国の物語は語り物や演劇で上演された。本演習では、古代から現代にいたる間の代表的な物語文学を取り上げて、その研究方法を学習する。					
授業の一般目標					
1.物語の媒体となる文学の形式を理解する。 2.物語の主題を考察する。 3.物語の現代的意義を考察する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1.物語文学の代表的な作品を知る。 2.物語文学の文体を知る。					
思考・判断の観点: 1.物語文学の主題を考える。 2.物語文学の歴史を考える。					
関心・意欲の観点: 1.物語文学のおもしろさを感じる。 2.物語文学をすすんで読むようになる。					
態度の観点: 1.物語文学の読解につとめる。 2.辞書を丹念に調べる。					
技能・表現の観点: 1.流暢な日本語に翻訳できる。 2.中国語と日本語の表現に注意する。					
成績評価方法(総合)					
予習による評価 ノート提出					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
abey@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011211014
開設科目名	中国文学演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	根ヶ山 徹			区分	
授業の概要					
本授業は卒業論文指導。					
授業の一般目標					
一年間を通じて着実に研究を進め、「論文」の名に値するレベルに到達することを目標とする。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 自らの研究テーマについて幅広い知識を身につける。					
思考・判断の観点: 中国文学史の中に、自らの研究テーマを位置づける。					
関心・意欲の観点: 研究テーマについて、問題の所在を見だし、必要な文献を収集する。					
態度の観点: 先行研究を踏まえて、論点を定める。					
技能・表現の観点: 第三者を納得させることができるように論証する。					
成績評価方法(総合)					
報告内容により判断する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011211015
開設科目名	中国語演習(会話)			単位	2単位
対象学生				学年	4~4
担当教員	田 梅			区分	
授業の概要					
本演習は応用会話能力を高めることを目指す。発音、語彙、文法など共通教育で習得した項目の確認、整理と拡充をしながら、具体的な場面を設定した対話を繰り返し読んで、暗誦して、それからグループ或はペアの形式で発表する。					
授業の一般目標					
1. 基本的な会話が流暢にする。 2. よく使う慣用型、文型を身につけて、状況に応じて正しいコミュニケーションの方法、技法を習得する。 3. 関心することについて質問と答えの方法など十分理解し、運用できる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 慣用型、文型を身につけて、正しいコミュニケーションの方法、技法ができる。					
思考・判断の観点: 中国と日本、中国語と日本語の異なる発想、規則、習慣など判断、区別、運用できる。					
関心・意欲の観点: 中国語の言葉の背景や中国の文化、事情に理解、関心を抱く。					
態度の観点: 授業中の勉強だけでなく、授業外の予習、復習も自発的に勉強できる。					
技能・表現の観点: 関心することについての質問、答えの方法が運用できる。日常生活についての会話が流暢に話せる。					
成績評価方法(総合)					
授業外の宿題と授業中の小テスト、板書を評価する。 受講態度と予習発表の正しさを評価する。 期末に試験を実施する。 出席が3分の2に満たない者には単位が与えない。					
教科書					
実用中国語 10 課 2 / 劉愛莉・王桂紅ら: 白帝社, 2008					
参考書					
メッセージ					
中国語初級1・2A/Bを習得した者に限り。 中国語演(作文)も履修する者が望ましい。					
連絡先					
共通教育本棟 3階 内線: 5591 E-mail: tian@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
月曜日: 16:00 ~ 18:00 火曜日: 16:00 ~ 18:00					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011211016
開設科目名	中国語演習(作文)			単位	2単位
対象学生				学年	4~4
担当教員	田 梅			区分	
授業の概要					
<p>本授業は基本的な文法を習得し、辞書の助けで易しい文章の大体の内容が理解できるレベルの学生を対象とする。中国のセンテンスをどう組み立てるのか勉強して、和文中訳、中文和訳、誤文訂正など多くの練習をして、短文、作文及び表現能力を高めることを目指す。</p>					
授業の一般目標					
<p>1 常用単文の組み立て。 2 常用複文の組み立て。 3 常用虚詞のくみだて。 4 作文で正確の表現能力を習得する。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:慣用型、文型を身につけて、訳文、短文の方法、形式を運用できる。 思考・判断の観点:中国と日本、中国語と日本語の異なる発想、規則、習慣など判断、区別、運用できる 関心・意欲の観点:中国、中国語、中国事情に理解、関心を持つ。 態度の観点:授業中の勉強だけでなく、授業外の前習、復習も自発的に勉強できる 技能・表現の観点:自分の考え、感心することなど正しく表現できる短文、作文をできる。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>授業外の宿題と授業中の小テスト、板書を評価する。 受講態度と予習発表の正しさを評価する。 期末に試験を実施する。 出席が3分の2に満たない者には単位が与えない。</p>					
教科書					
大学生のための現代中国語12話 / 杉野元子・黄漢青:白帝社, 2008					
参考書					
メッセージ					
<p>中国語初級1・2A/Bを習得した者に限り。 中国語演(会話)も履修する者が望ましい。</p>					
連絡先					
<p>共通教育本棟3階 田研究室 内 線:5591 E-mail:tian@yamaguchi-u.ac.jp</p>					
オフィスアワー					
<p>月曜日:16:00~18:00 火曜日:16:00~18:00</p>					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011211017
開設科目名	中国語演習(時事中国語)			単位	2単位
対象学生				学年	4~4
担当教員	林 宇萍			区分	
授業の概要					
中国の現代生活に関して概説し、中国語の応用能力を向上させる。					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
セレクト10時事中国語:朝日出版社,2008					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011212001
開設科目名	現代英米語概説			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	太田 聡			区分	
授業の概要					
英語学：言語学がまったくはじめての学生にもわかりやすく、英語言語学の全体像を紹介する。同時に、英文法の基本的かつ重要なトピックスを厳選したサブテキストを用いて、英文法の要点を今一度学ぶ時間にもしたい(授業のはじめの20分をこれに充てる)。					
授業の一般目標					
英語学研究(そして英語教員になるため)に必要な基礎知識をまんべんなく身に付ける。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 統語論、意味論、形態論、音声学、音韻論、語用論、英語史、社会言語学、心理言語学といった英語言語学の全領域をカバーする基礎知識を学び、重要概念や分析方法などが理解できるようになる。また、英語のネイティブスピーカーの「感覚」を理解しながら、英語の運用に欠かせない英文法のエッセンスをしっかりと掴む。					
思考・判断の観点: ことばの音、形、意味を生み出すさまざまな法則に気づき、自らも思考・分析ができるようになる。					
関心・意欲の観点: 英語の構造の分析を通して、ことばの中に見られる原理・原則や制約の働きに関心を持つ。					
態度の観点: 「ことばは暗記するもの」という考え方を捨て去る。					
技能・表現の観点: 本文の英文読解や付属のCDの聞き取りを通して、英語で考え、英語で発表するための素地を作る。					
成績評価方法(総合)					
毎回教科書にある Comprehension Check と Exercises を宿題とし、その出来具合によって主に評価する。また、サブテキストに関連した簡単なテストを随時行う。なお、出席も重視し、欠席1回につき5点ずつ期末評点から減点する。					
教科書					
First Steps in English Linguistics / 影山太郎他: ころしお出版, 2004 ハートで感じる英文法 / 大西泰斗, ポール・マクベイ: 日本放送出版協会, 2005					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
ohta@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011212002
開設科目名	英語生成文法			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	赤羽 仁志			区分	
授業の概要					
<p>高校までに学習した英語の構文を現代の文法理論の一つである生成文法により捉え直しながら、英文法の理解を深める。授業では、様々な問題を提供してくれる補文を内蔵した構文を特に取り上げる。</p>					
授業の一般目標					
<p>生成文法における言語分析を通して英文法についての理解を深め、また、科学的思考力を養成する。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:英語の補文構造に関する様々な特徴を理解する。 思考・判断の観点:具体的な文法現象について構造的に分析し、説明することができる。 技能・表現の観点:専門用語を理解しながら、文章により論理的に説明ができる。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>期末試験により評価する。出席状況を加味することがある。</p>					
教科書					
参考書					
<p>英語の文法 / 村田勇三郎 成田圭市:大修館書店 英語学へのファーストステップ [改訂版] 英語構文論入門 / 有村兼彬 北峯裕土、小林敏彦、福田稔、古川武史:英宝社 英語類義語加詞の構文辞典 / 小野経男:大修館書店 英語の構文 / 田中智之 寺田寛:英朝社 スタンダード英文法 / 中島平三:大修館書店</p>					
メッセージ					
<p>高等学校レベルの英文法の参考書を通読しておくことを勧める。</p>					
連絡先					
<p>akahane@yamaguchi-u.ac.jp</p>					
オフィスアワー					
<p>特に設けず、アポイントメントによる。</p>					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011212003
開設科目名	英語学特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	赤羽 仁志			区分	
授業の概要					
英語と日本語には様々な相違点が見出せる。例えば、英語では Mary bought a book. を A book bought Mary. のように語順を変えることができないのに対し、日本語では「花子が本を買った。」を「本を花子が買った。」とすることができる。このような表面的相違は、根本的にどのようなところから生ずるのか。生成文法の「原理とパラメタのアプローチ」の枠組みを前提に、英語と日本語の文法の比較を行う。					
授業の一般目標					
日・英語比較統語論の基礎を学ぶことにより、英語と日本語の理解を深める。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 英語と日本語の文法現象について理解する。					
思考・判断の観点: 日本語と英語の文法現象について、理論的に分析することができる。					
関心・意欲の観点: 言語の普遍性と体系的多様性に関心を持つ。					
成績評価方法(総合)					
期末試験により評価する。出席状況も加味することがある。					
教科書					
参考書					
Japanese Syntax in Comparative Grammar / 長谷川信子: くらしお出版, 1993					
The Oxford Handbook of Japanese Linguistics / Shigeru Miyagawa, Mamoru Saito: Oxford Univ Pr, 2008					
構造から見る日本語文法 / 三原健一: 開拓社, 2008					
新日本語の統語構造 ミニマリストプログラムとその応用 / 三原健一、平岩健: 松柏社, 2006					
Japanese Linguistics / Natsuko Tsujimura: Routledge, 2005					
メッセージ					
連絡先					
akahane@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
特に設けず、アポイントメントによる。					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011212004
開設科目名	英語学特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	和田 尚明			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011212005
開設科目名	英語学演習(文法と意味)			単位	2単位
対象学生				学年	4~4
担当教員	岩部 浩三			区分	
授業の概要					
英語学の専門論文を読み、内容を解説します。意味論・語用論の分野から論文を選んで使用します。					
授業の一般目標					
英語の論文に慣れ、自分で読めるようになる。あわせて、意味論・語用論の研究内容に触れ、関心を持つ。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 英語で書かれた論文の内容を把握して、専門的な概念などを例を用いて日本語で説明できる。さまざまな現象を理論的に整理することができる。					
関心・意欲の観点: 疑問点を明確にし、質問できる。論文の一部分だけでなく、全体を見る目を持ち、常に予習を進めながら授業に臨む。					
技能・表現の観点: 英語の専門論文を自力で読めるようになる。内容を適切な日本語で表現できる。					
成績評価方法(総合)					
定期試験の結果を重視します。また、演習における理解度や質問、全体を理解しようとする意欲を評価します。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
iwabe@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
金曜日 12:50-14:20 メールで事前にご連絡ください					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011212006
開設科目名	英語学演習(文法と意味)			単位	2単位
対象学生				学年	4~4
担当教員	赤羽 仁志			区分	
授業の概要					
英語で書かれたテキストの講読を行いながら、「ミニマリスト・プログラム」と呼ばれる生成文法の最近の枠組みを理解し、それをベースに英語の統語現象について考える基礎を養う。					
授業の一般目標					
英語の専門文献を読む力を養う。 統語論の議論の仕方を理解する。 英語の統語現象について説明ができるようになる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 文法範疇、統語構造、空範疇、主要部移動、演算子移動について理解する。					
思考・判断の観点: 統語現象がどのような仕組みにより生ずるのか(生じないのか)説明できる。					
技能・表現の観点: 専門的内容を分かり易く説明できる。					
成績評価方法(総合)					
授業への貢献(発表を含む)と期末レポートにより評価する。					
教科書					
Syntax: A minimalist introduction / Andrew Radford: Cambridge University Press, 1997					
参考書					
生成文法 / 渡辺明: 東京大学出版会, 2009					
Linguistics: An Introduction 2nd Ed. / Andrew Radford, Martin Atkinson, David Britain, Harald Clahsen, Andrew Spencer: Cambridge University Press, 2009					
Transformational Grammar: A First Course / Andrew Radford: Cambridge University Press, 1988					
チョムスキー 理論辞典 / 原口庄輔 中村捷編: 研究社					
Syntactic Theory and the Acquisition of English Syntax: The Nature of Early Child Grammars of English / Andrew Radford: Blackwell Pub, 1990					
メッセージ					
連絡先					
akahane@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
特に設けず、アポイントメントによる。					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011212007
開設科目名	英語学演習(形態と音声)			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	太田 聡			区分	
授業の概要					
<p>英語学をある程度学ぶと、英語の構造を日本語のそれと比較したくなるものです。この授業では、日本語を生成文法の枠組みで分析した優れた入門書をテキストにして、普段我々が使っている日本語の中にどのような構造や原理や制約があるのかを考察していきます。</p> <p>授業での解説や発表は、基本的に、英語で行います(行ってもらいます)。</p>					
授業の一般目標					
日本語の音韻・形態・統語・意味構造が、英語のそれらとどのように異なり、また、共通しているのかが分かるようになる。					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:日本語の構造と、その分析方法を知る。</p> <p>思考・判断の観点:諸制約や原理を使って、可能なパターンと不可能なパターンなどを説明できるようになる。</p> <p>関心・意欲の観点:自らもデータ収集を行って、テキストには載っていない例も、覚えた原理・原則などを当てはめて説明ができるかどうかを考える。</p> <p>態度の観点:質問等を積極的に行う。</p> <p>技能・表現の観点:理論の内容を理解するのみならず、問題点などにも気づき、それを分かりやすく指摘・発表できるようになる。</p>					
成績評価方法(総合)					
授業内での発表や、小テスト、および、課題レポートの出来具合によって総合的に評価する。出席を重視し、欠席1回につき、期末評点から5点ずつ減点する。					
教科書					
An Introduction to Japanese Linguistics (2nd ed.) / Natsuko Tsujimura : Blackwell , 2006					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
ohta@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011212008
開設科目名	英文学史			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	池園 宏			区分	
授業の概要					
<p>英文学の歴史を時代の流れに沿って体系的に講義する。作家や作品の単なる羅列に止まらず、具体的な作品の読み方や文学用語などを広く解説する英文学概論の性格を持った授業である。配布プリント等によりできるだけ多くの作品の原典に触れる機会を提供しながら、各々の時代の文学思潮や文人たちの具体的な創作活動について説明する。</p>					
授業の一般目標					
<p>英文学の包括的内容を習得し、英文学研究の基礎固めを行う。同時に、様々な文学作品の内容やその時代的背景を学ぶことにより、広い意味での異文化理解を深める。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 英文学史の具体的な流れ、及び主要な作家や作品について説明できる。</p> <p>思考・判断の観点: 作家や作品がどのような歴史的背景の中に位置づけられるかを論理的に思考できる。</p> <p>関心・意欲の観点: 英文学に対する積極的な関心を持つ。</p> <p>態度の観点: 常に問題意識を持って議論に参加できる。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>(1) 授業の中で小テストを複数回実施する。</p> <p>(2) 学期末に試験を1回実施する。</p> <p>(3) 出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。</p>					
教科書					
イギリス文学史 / 川崎寿彦: 成美堂, 1988					
参考書					
メッセージ					
<p>(1) 英語学・英米文学コース2年生、及び同コース3年生で英米文学専攻の学生は前後期を通じて受講すること。</p> <p>(2) 毎回出欠確認をするので、欠席や遅刻をしないこと。</p>					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011212009
開設科目名	英米文学特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	宮原 一成			区分	
授業の概要					
20世紀、特にその後半の英語圏文学において、とみに急増した「現在時制の語り」を用いた作品について、その文体的効果を、個別的そして包括的に考えていきます。					
授業の一般目標					
文章の内容ばかりでなく、その文体にも目配りすることで、文学というコミュニケーションのあり方や背景的状况について深く考察できるようになる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 現行の基本的な時間論、文体論、及び現代英文学作品の基礎知識を把握している。					
思考・判断の観点: 文体の効果について理論を立て、もしくは先行研究を適切に取舍選択し、自分なりの一貫した思考を紡ぐことができる。					
態度の観点: 継続して課題に取り組む姿勢をもつ。					
技能・表現の観点: 思考結果を、首尾一貫した日本語論説文形式で表現できる。					
成績評価方法(総合)					
数回の小レポートと、学期末筆記試験。無断欠席が三回を超えると、単位は出さない。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
miyahara@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
初回授業時に知らせます。					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011212010
開設科目名	英米文学特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	皆尾 麻弥			区分	
授業の概要					
Nathaniel Hawthorne(1804-1864)の短編を読む。					
授業の一般目標					
『緋文字』等の長編小説が有名である Hawthorne であるが、その短編もまた、同時代の作家であるメルヴィルやポーによって高く評価された。格調高い文章の凝縮した彼の短編を丹念に読むことによって、彼が生涯持ち続けたテーマ、彼の作品の特徴などを、考察する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 作品の具体的内容を理解する。					
思考・判断の観点: 作家が一つ一つの言葉にこめた思いを正確に捉える。文章の裏に隠された意味を考えて読む。					
関心・意欲の観点: Hawthorne の作品を積極的に読む。					
成績評価方法(総合)					
学期末にレポートを提出					
教科書					
Selected Tales and Sketches / Nathaniel Hawthorne: Penguin					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011212011
開設科目名	英米文学特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	伊豆 大和			区分	
授業の概要					
20世紀前半のアメリカ小説について、それぞれの作品のテーマ・意義等を検討する。					
授業の一般目標					
外国文学を読み、研究することはどういふことをするのか。 このことについての意識・認識を高める。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: アメリカ文学についての知識・理解の確認					
思考・判断の観点: 講義内容を各自の論理・思考で表現する能力の確認					
関心・意欲の観点: 講義内容に対する興味・関心の度合いの確認					
成績評価方法(総合)					
期末試験により評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011212012
開設科目名	英米文学演習(小説)			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	池園 宏			区分	
授業の概要					
18世紀イギリスの文人 Oliver Goldsmith の小説 The Vicar of Wakefield を読む。作品の解釈や分析のみならず、英文法や発音など総合的な英語力の養成も行う。					
授業の一般目標					
(1)テキストを丹念に解釈することにより、Goldsmith の作家像及び 18 世紀英文学における位置づけを理解する。					
(2)英文法力や英文解釈力を身につける。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 作家や作品の具体的内容を説明できる。					
思考・判断の観点: 作品に盛り込まれた諸テーマを分析できる。					
関心・意欲の観点: 小説を読み解く行為に関心を持つ。					
態度の観点: 常に問題意識を持って議論に参加できる。					
成績評価方法(総合)					
(1)試験は学期末に1回実施する。					
(2)出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。					
教科書					
The Vicar of Wakefield / Oliver Goldsmith: Penguin, 1982					
参考書					
メッセージ					
(1)一年間を通して一人の作家に取り組むため、前後期を通して受講すること。					
(2)毎回出欠確認をするので、欠席や遅刻をしないこと。					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011212013
開設科目名	英米文学演習(劇)			単位	2単位
対象学生				学年	4~4
担当教員	田中 晋			区分	
授業の概要					
英詩入門コース。チャオサーから現代に至るイギリスの名詩を、自然、愛、美、宗教、思想、その他の分野に亘って精しく鑑賞する。					
授業の一般目標					
英詩の世界に親しみその諸相を知り、言葉の魅力に触れて、英文学理解の上での基礎的必要知識を備える。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 英詩の語法を理解し、名詩の本質を知る。					
思考・判断の観点: 自分の解釈をもって教室に出る。					
関心・意欲の観点: 自ら多くの詩に親しむ。					
態度の観点: 積極的に授業に参加する。					
技能・表現の観点: はっきりした声で発表ができる。					
成績評価方法(総合)					
期末試験の結果に平常点(出席、受講態度等)を加味する。					
教科書					
Seasonal Poems of England / Peter Milward 編・川崎寿彦注: 南雲堂					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011212014
開設科目名	英米文学講読			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	宮原 一成			区分	
授業の概要					
英語文学作品をきちんと訳読し、鑑賞します。作品の持つテーマについて各自考察してもらいます。題材は、現代英国人作家 Susan Hill の作品を二作収めた短篇集を使用します。					
授業の一般目標					
文化背景と感情・思考・会話の流れという、各種の文脈がすべてそろった文芸作品という絶好の読解教材を読みこなすことを通じて、真の読解力を錬成する。					
英語小説を読むための技法をいくつか習得する。					
作品世界やテーマについて、自分なりの所見を持つ。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 丹念に調べて、英文の意味を、流れの中で正確に理解できる。					
思考・判断の観点: 作品に込められたテーマについて、自分なりの所見を言語化できる。					
態度の観点: 自分の所見を積極的に発表し、議論に寄与できる。					
技能・表現の観点: 効果的・機能的な翻訳ができる。					
成績評価方法(総合)					
毎回の試読の出来と発表内容、及び他人の発表に対する建設的なコメントの3点から評価する。学期末試験は実施しない。無断欠席が3回を超えたら「不合格」とする。					
教科書					
『A Bit of Singing and Dancing』 / Susan Hill: 南雲堂, 1985					
参考書					
メッセージ					
まずは、構文理解と文法知識の再確認を優先しますが、内容テーマに関わる意見発表は大歓迎です。					
連絡先					
miyahara@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
初回授業時に知らせます。					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011212015
開設科目名	英米文学講読			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	皆尾 麻弥			区分	
授業の概要					
Henry James(1843 - 1916) の中篇 The Aspern Papers(1888)を読む					
授業の一般目標					
James の文章の魅力・特徴・表現の手法等にも注目しながら、正確に読む。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: テキストを正確に読むことができる					
思考・判断の観点: 難解な表現や文章を、知識と想像力によって解釈することができる					
関心・意欲の観点: James の作品に好奇心を持つ					
成績評価方法(総合)					
学期末にレポートを提出。普段の授業への取り組みも評価の対象になります。					
教科書					
The Aspern Papers and the Turn of the Screw / Henry James: Penguin					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011212016
開設科目名	英語演習(会話)			単位	2単位
対象学生				学年	4~4
担当教員	EDWARDS NATHANIEL TYLER			区分	
授業の概要					
<p>1) Students will work together in pairs and groups to complete a variety of fun and interesting English activities.</p> <p>2) Students will increase their vocabulary on different useful topics.</p> <p>3) Students will learn and practice new study techniques.</p> <p>4) Students will ask and answer questions, using their own opinions.</p> <p>5) Students will use English to make plans, and to give short presentations.</p> <p>6) Students will learn how to use word and sentence stress.</p> <p>7) Students will write and perform role plays in different situations, and use gestures.</p>					
授業の一般目標					
This course is for students who wish to improve their English speaking, listening, communication, and presentation skills.					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
Final Written and Oral Exam: 30% of Final Grade.					
Homework and Reports: 30%					
Attitude and Participation: 20%					
Presentations: 20%					
教科書					
Synergy 4 / Adrian Tennant: MacMillan, 2006					
参考書					
メッセージ					
Bring your dictionary and textbook to every class.					
連絡先					
ca72@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
14:30 16:00 (木)					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011212017
開設科目名	英語演習(会話)			単位	2単位
対象学生				学年	4~4
担当教員	EDWARDS NATHANIEL TYLER			区分	
授業の概要					
<p>1) Students will work together in pairs and groups to complete a variety of fun and interesting English activities.</p> <p>2) Students will increase their vocabulary on different useful topics.</p> <p>3) Students will learn and practice new study techniques.</p> <p>4) Students will ask and answer questions, using their own opinions.</p> <p>5) Students will use English to make plans, and to give short presentations.</p> <p>6) Students will learn how to use word and sentence stress.</p> <p>7) Students will write and perform role plays in different situations, and use gestures.</p>					
授業の一般目標					
This course is for students who wish to improve their English speaking, listening, communication, and presentation skills.					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
Final Written and Oral Exam: 30% of Final Grade.					
Homework and Reports: 30%					
Attitude and Participation: 20%					
Presentations: 20%					
教科書					
Move Ahead / Nicholas Sampson : MacMillan Language House , 1999					
参考書					
メッセージ					
Bring your dictionary and textbook to every class.					
連絡先					
ca72@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
14:30 16:00 (木)					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011212018
開設科目名	英語演習(会話)			単位	2単位
対象学生				学年	4~4
担当教員	EDWARDS NATHANIEL TYLER			区分	
授業の概要					
<p>1) Students will work together in pairs and groups to complete a variety of fun and interesting English activities.</p> <p>2) Students will increase their vocabulary on different useful topics.</p> <p>3) Students will learn and practice new study techniques.</p> <p>4) Students will ask and answer questions, using their own opinions.</p> <p>5) Students will use English to make plans, and to give short presentations.</p> <p>6) Students will learn how to use word and sentence stress.</p> <p>7) Students will write and perform role plays in different situations, and use gestures.</p>					
授業の一般目標					
This course is for students who wish to improve their English speaking, listening, communication, and presentation skills.					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
Final Written and Oral Exam: 30% of Final Grade.					
Homework and Reports: 30%					
Attitude and Participation: 20%					
Presentations: 20%					
教科書					
Impact Issues 1 / Richard R. Day: Pearson Longman , 2009					
参考書					
メッセージ					
Bring your dictionary and textbook to every class.					
連絡先					
ca72@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
14:30 16:00 (木)					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011212019
開設科目名	英語演習(作文)			単位	2単位
対象学生				学年	4~4
担当教員	EDWARDS NATHANIEL TYLER			区分	
授業の概要					
<p>1) Students will read many different types of English writing as models for their own writing.</p> <p>2) Useful writing skills and strategies will be reviewed and practiced.</p> <p>3) Key grammar points will be reviewed and practiced.</p> <p>4) Students will increase their vocabulary on a variety of topics.</p> <p>5) Students will learn and use new study techniques.</p> <p>6) Students will also practice some speaking and listening by discussing their writing in pairs and small groups.</p>					
授業の一般目標					
This course is for students who wish to improve their English writing and reading skills, using a variety of different types of writing.					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
Final Written Exam: 20% of Final Grade.					
Homework and Reports: 60%					
Attitude and Participation: 20%					
教科書					
Reading Challenge 2 / Casey Malarcher, Andrea Janzen : Compass Publishing , 2005					
参考書					
メッセージ					
Bring your dictionary and textbook to every class.					
連絡先					
ca72@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
14:30 16:00 (木)					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011212020
開設科目名	英米事情			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	EDWARDS NATHANIEL TYLER			区分	
授業の概要					
<p>1) Students will work together in groups to complete discussion activities.</p> <p>2) Students will ask and answer questions, using their own opinions.</p> <p>3) Students will increase their vocabulary and knowledge related to the society and culture of English-speaking countries.</p> <p>4) Students will improve their reading by reading about the society and culture of English-speaking countries.</p> <p>5) Students will learn and practice new study techniques.</p> <p>6) Students will improve their writing by writing short reports.</p>					
授業の一般目標					
This course is for students who wish to learn more about daily life, society, and culture in English-speaking countries. This course includes speaking, listening, reading, and writing practice.					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
Final Written Exam: 30% of Final Grade.					
Homework and Reports: 50%					
Attitude and Participation: 20%					
教科書					
New York Streets / Tsuyoshi Kanamori, Braven Smillie: Kinseido, 2009					
参考書					
メッセージ					
Bring your dictionary and textbook to every class.					
連絡先					
ca72@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
14:30 16:00 (木)					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011213001
開設科目名	現代ドイツ語概説			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	本田 義昭			区分	
授業の概要					
現代ドイツ語の諸相について概説します。前期は、「世界中のドイツ語」、「ドイツ語の特徴」、「ドイツ語と英語との関係」、「ドイツ語の方言」などのテーマを扱う予定です。					
授業の一般目標					
現代ドイツ語についての基礎的知識を養う。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 現代ドイツ語についての基礎的知識を養う。					
思考・判断の観点: 言語が異なることが思考形式の違いにも影響を及ぼしていることを認識する。					
関心・意欲の観点: 言語と文化との関係を学ぶことで、異文化への関心を深める。					
成績評価方法(総合)					
平素の学習、特に授業への積極的参加を重視します。次のいずれかの場合は失格とします。1)最初の6回中3回欠席, 2)連続3回欠席, 3)通算4回欠席。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
共通教育で習うドイツ語を、別の観点から眺めてみませんか？					
連絡先					
honda@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011213002
開設科目名	ドイツ語学特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	下寄 正利			区分	
授業の概要					
ドイツ語の特徴を、英語と比較しつつ、様々な観点から論じてゆく。					
授業の一般目標					
ドイツ語の特徴について理解しているとともに、ドイツ語学の基本的なところがある程度身に付いている。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: ドイツ語の特徴について理解しているとともに、ドイツ語学の基本的なところがある程度身に付いている。					
成績評価方法(総合)					
期末テストにより評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011213003
開設科目名	ドイツ語学演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	下寄 正利			区分	
授業の概要					
ドイツ語の時制動詞の問題について、いくつかの文法書(原書)を読みつつ考察する。					
授業の一般目標					
ドイツ語の時制動詞の問題点について、概略を理解している。あまり難しいものでなければ、ドイツ語の原書を一人で読みこなせるほど、ドイツ語読解力がついている。授業で得た知識をもとに、自分なりの論を展開できる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: ドイツ語の時制動詞の問題点について、概略を理解している。					
思考・判断の観点: 授業で得た知識をもとに、自分なりの論を展開できる。					
関心・意欲の観点: ドイツ語あるいは言語全般について、常に関心を持っている。					
態度の観点: 分からないことについては、自ら様々な文献にあたり、調べることができる。					
技能・表現の観点: あまり難しいものでなければ、ドイツ語の原書を一人で読みこなせるほど、ドイツ語読解力がついている。					
成績評価方法(総合)					
演習店とレポートによる。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011213004
開設科目名	ドイツ文学史			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	坂本 貴志			区分	
授業の概要					
ドイツ文学、ヨーロッパ文化に関する様々なテーマを取り上げて、視覚的イメージを多く参照しつつ、文化的思想的背景をふまえながら紹介する。					
授業の一般目標					
未知なる世界に対して目を開く。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
期末レポートによる。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011213005
開設科目名	ドイツ文学演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	坂本 貴志			区分	
授業の概要					
ゲーテ『ファウスト』を読む。					
授業の一般目標					
『ファウスト』を、ルネサンスを経由して近代に伝わった、古代からの伝統的思想内容(ヘルメス思想、新プラトン主義、オルフェウス教など)を手がかりにして理解するように試みる。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
授業内レポートと期末のレポートによる。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011213006
開設科目名	ドイツ文学演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	HINTEREDER EMDE FRANZ			区分	
授業の概要					
ドイツ文学にはドイツやヨーロッパの文化に織り込まれています。この演習ではドイツ文化について様々な側面から勉強していきます。ドイツ関係の情報やニュース、又は、文学・芸術作品などの文献や資料を読みながら、討論や発表していきます。					
授業の一般目標					
ドイツ語の文献や資料を分析して、レポートや発表にまとめることを身につけて、ドイツ語圏文化の総合的な知識や理解が目標です。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: ヨーロッパの文化を背景とするドイツ語圏の文化を理解する。					
思考・判断の観点: 資料を文化的背景に関連づけて理解できること。					
技能・表現の観点: ドイツ語の資料を分野に従って収集・分析して、発表ができること。					
成績評価方法(総合)					
授業での発表:40%、授業内外のドイツ語のレポート:40%、授業への参加や積極的な態度:20%					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
電話 933 - 5687					
mail emde@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
月曜日 12:50 ~ 14:20					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011213007
開設科目名	ドイツ語演習(時事ドイツ語・ドイツ事情)			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	HINTEREDER EMDE FRANZ			区分	
授業の概要					
<p>色々なドイツ文化圏やヨーロッパに関する今日的な話題を取り上げているエッセイや新聞記事やインターネットのホームページなどの資料を解読する。ドイツ社会における問題(少子化、失業など)、大学や一般教育の危機や、いまはやりのファッションやライフスタイルなどを扱うテキストを通じて、今日のドイツ人の生活感や考え方を考察する。</p>					
授業の一般目標					
<p>文学理解に欠かせない、現代ドイツの歴史、社会や日常生活を様々なメディアを通じて勉強する。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:ドイツやヨーロッパの社会や文化への関心や理解を深める。 関心・意欲の観点:自発的にドイツ語の資料を読み進め、積極的にドイツ語の語彙や読解力を増やし、内容について討論をする。 技能・表現の観点:資料の収集や纏め、そして発表の方法を取得する。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>小テスト・授業内レポート:30%、宿題・授業外レポート:30%、授業態度・参加:10%、発表・プレゼンテーション:30%</p>					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
<p>電話 933 - 5687 mail emde@yamaguchi-u.ac.jp</p>					
オフィスアワー					
<p>月曜日 12:50～14:20</p>					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011213008
開設科目名	ドイツ語演習(会話)			単位	2単位
対象学生				学年	4~4
担当教員	DOBRA FELICITAS VIKTORIA			区分	
授業の概要					
2年生で学んだドイツ語の知識をもとに、実践的な演習をもとにして、ドイツ語による日常会話ができるようにする。					
授業の一般目標					
ディスカッションを通して与えられた問題を解決する・子供時代の夢、思い出を話す・自分の将来の夢、希望を話す・気持ち、興味を表現する・ドイツの過去、現代社会における家庭の役割を学び、日本のそれと比較する等、自分の考えをドイツ語で表現できるようになる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 教科書には聴解と発音の訓練用のCDが付属している。音声練習が学生の理解を助け、聴解力を鍛えるであろう。自分自身が話すときにはなまりがあるにしても、大きな声ではっきりと話すように努めるべきである。					
思考・判断の観点: 学生は語彙を増やし、会話文の構造を習得し、自分の生活の中から取り出した情報を会話文型の中に組み入れることができるようにならなければならない。一学期終わったところで、教科書の会話文をお手本にして自分自身の文章を作って、コミュニケーションを行うことができるようになる。パートナー練習は、授業の一つの構成要素である。宿題は学習効果を高め、一步一步段階的にコミュニケーション・テストの会話構成部分を習得させる。多くの自主性が要求される。					
関心・意欲の観点: 学生と教師は、感情を合わせ会って話すように努める。緊張は、楽しい練習プリントや歌および自由会話練習(プリント無し)によって緩和されるであろう。授業は学生と教師双方によって楽しいものに形成されていくべきである。					
技能・表現の観点: 学生は、コミュニケーションにとって重要な表現を表情豊かに話すことを学ぶ。					
態度の観点: 班別のチームワークでは学生同士でお互いに協力し政策的に授業参加すること。					
技能・表現の観点: 学生は、コミュニケーションにとって重要な表現を表情豊かに話すことを学ぶ。					
その他の観点: 本授業を履修する以上、規則正しい出席と教科書の購入は必須である					
成績評価方法(総合)					
会話テスト / 出席 / レポート / 授業の態度					
教科書					
モデル3問大発見のドイツ語 Modelle 3 / 史哉平高 / アンドレアスリースランド / 郁美藁谷 / 木村語郎クリストフ / マルコラインデル:三修者, 2006					
参考書					
メッセージ					
辞書か電子辞書持って来て下さい。だれど会話が一番です。					
連絡先					
dobra@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
山口 吉田 研究室 ドーブラ 共通教育 3F 水曜日 12:30~13:30					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011213009
開設科目名	ドイツ語演習(作文)			単位	2単位
対象学生				学年	4~4
担当教員	本田 義昭			区分	
授業の概要					
ドイツ語の初級文法で学んだ事項を応用して、ドイツ語の文章を作成する練習を積み重ねて行きます。					
授業の一般目標					
ドイツ語の文章を作成する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: ドイツ語の文の構造および各文法事項に関する知識を深める。					
思考・判断の観点: 日本語とは異なる発想に触れて、世界を複眼的に見れるようになる。					
関心・意欲の観点: 自分が思っていることをドイツ語という形で発信する積極性を養う。					
技能・表現の観点: ドイツ語の文を作成する能力を養う。					
成績評価方法(総合)					
平素の学習、特に授業への積極的参加を重視します。次のいずれかの場合は失格とします。1)最初の6回中3回欠席, 2)連続3回欠席, 3)通算4回欠席。					
教科書					
作文でマイスター / 江坂哲也:白水社, 2003					
参考書					
メッセージ					
ドイツ語の基本文を暗記していると、購読や会話にも非常に役立ちます。授業への積極的な参加を期待しています。					
連絡先					
honda@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011213010
開設科目名	現代フランス語概説			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	武本 雅嗣			区分	
授業の概要					
この授業は、現代フランス語の中・上級文法のクラスである。初級文法をすでに学んでいることを前提に講義を行っていく。今年度は、冠詞・代名詞・前置詞・時制・法について解説する(来年度は、様々な構文を取り上げる)。英語とも比較しながら分析していく。					
授業の一般目標					
現代フランス語についての理解を深める。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: フランス語の冠詞・代名詞・前置詞・時制・法について深く理解する。					
思考・判断の観点: 英語との異同を考察し、分析できる。					
成績評価方法(総合)					
期末試験: 80%					
授業態度や授業への参加度: 20%					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
人文612研究室					
オフィスアワー					
火曜日 16:10～17:40					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011213011
開設科目名	フランス語学特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	武本 雅嗣			区分	
授業の概要					
<p>この授業では、まず、習得のための語学ではなく、研究対象として言語を観察するための基本的な事項を確認し、言語学的観点からのフランス語研究について概観する。そして、フランス語を日本語と比較・対照しながら、言語と話し手・聞き手の関係、あるいは言語と世界のありかたが、双方の言語でどのように違うかということを考える。具体的には、人称代名詞、動詞の時制、法、そして名詞句の定・不定といった文法事項をあつかいながら、フランス語が、言語によって構築される世界の中に、話し手、聞き手、それ以外のものやできごとを明示的に位置づけようとする言語であるのについて、日本語では、そのような位置づけは発話の現場の状況に依存する傾向が強いことを考察する。そして、言語の違いが、事態のとらえかたといったより深い部分での違いにつながることを確認したい。</p>					
授業の一般目標					
<p>言語の違いが、表面的な単語や文法のしくみの違いを超えて、言語によってどのように世界を構築してゆくかということについての違いに関わるものであることを理解し、最終的には、その違いが、言語による「世界観」の違いであるということの理解にいたることを目標とする。</p>					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 一般言語学的観点からのフランス語研究とは何かということについての知識と、方法論の理解					
思考・判断の観点: フランス語的発想を言語の面からとらえる。					
関心・意欲の観点: 文法項目を、単なる規則としてではなく、納得して理解する。					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
<p>「言語学とは何か」といった基本的なレベルから出発して、フランス語を題材にしながら、なるべく深い話ができればと思っています。講読などはないので、フランス語の読解能力などは問いませんが、最低初級文法レベルの知識は必要です。</p>					
連絡先					
<p>質問などがあれば、以下のアドレスまで問い合わせてください。</p> <p>tomonori@ipcku.kansai-u.ac.jp</p>					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011213012
開設科目名	フランス語学演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	武本 雅嗣			区分	
授業の概要					
今年度は、Le gerondif en francais を読んでいく。					
授業の一般目標					
フランス語で書かれた論文を読むことによって、フランス語学の知識を深めるだけでなく、論文の書き方や議論の展開の仕方も学んでいく。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 論文を正確に読める。					
思考・判断の観点: 疑問点を解決する					
関心・意欲の観点: 議論に参加できる。					
成績評価方法(総合)					
レポート:60%					
授業内発表:40%					
教科書					
参考書					
メッセージ					
毎回予習してくること。					
連絡先					
人文612 研究室					
オフィスアワー					
火曜日 16:10～17:40					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011213013
開設科目名	フランス文学特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	井上 三朗			区分	
授業の概要					
<p>講義題目を、「ジュリアン・グリーン」の青春時代とし、フランソワ・モーリアックとともに、20世紀フランスのカトリックの代表的な作家である、ジュリアン・グリーン</p> <p>の青春時代を概観する。はじめに、グリーンの子ども時代、思春期および留学時代をごく簡単に説明したあと、1922年7月から1924年11月までの、彼の青春時代を検討する。まず外的・表面的な生をたどり、次に感情生活、それから肉体生活、そして信仰生活を瞥見したい。そうすることによって、ひとりの人間が青春時代をどのように生きたのかを、具体的に知りたい。</p>					
授業の一般目標					
<p>この授業は、ひとりの作家の生涯の一時期に焦点を合わせたものであり、評伝の一環をなす。伝記研究は、文学研究のひとつの方法である。作家の生涯と作品との関連を明らかにすることによって、文学研究の参考材料を提供することができれば幸いである。また、ひとりの人間が青春時代をどのように生きたかを、具体的に知ることによって、生きる指針を得ることができれば幸いである。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:キリスト教(カトリック)文学がいかなるものであるのかを、知ることができる。</p> <p>思考・判断の観点:ひとりの人間として生きるとは何であるのかを、考えることができる。</p> <p>関心・意欲の観点:自伝の文学に関心を持つことができる。</p>					
成績評価方法(総合)					
試験の点数と平常点との総合。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
授業への積極的な参加を望む。					
連絡先					
613研究室。					
オフィスアワー					
14時30分～16時00分。					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011213014
開設科目名	フランス文学講読(小説)			単位	2単位
対象学生				学年	4~4
担当教員	井上 三朗			区分	
授業の概要					
20世紀の小説家・批評家である、アンドレ・モロワの短編小説『捕虜の帰還』と『雪の中の少女』とをテキストとして用いる。これらの作品を味読・精読することで、小説を読むことによるこびを味わいたい。授業では、発音の練習と文法の説明を徹底的におこなう。また、時間的余裕があれば、作品の分析もおこないたいと思っている。					
授業の一般目標					
小説のフランス語に慣れるとともに、フランス語の読解力の養成を目指す。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 小説のフランス語の読解力を養うことができる。アンドレ・モロワの作品世界を知ることができる。					
思考・判断の観点: 短編小説の作り方について考えることができる。					
関心・意欲の観点: 小説を読むよるこびを味わうことによって、文学に興味を持つことができる。					
成績評価方法(総合)					
定期試験の点数(50点)と平常点(50点)との総合。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
授業への積極的な参加を望む。					
連絡先					
613研究室。					
オフィスアワー					
14時30分~16時00分。					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011213015
開設科目名	フランス語演習(時事フランス語・フランス事情)			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	井上 三朗			区分	
授業の概要					
比較的可成り平易なフランス語で書かれたテキストを教科書として用い、最新の社会背景や文化問題など、フランスで起こったさまざまな時事問題を学ぶ。現代のフランス事情を知り、現代フランスがかかえている諸問題について考える。授業では、発音の練習や文法の復習・説明を徹底的におこなう。					
授業の一般目標					
時事フランス語の読解力の養成を目指す。現代のフランス事情への関心を高めることも目指す。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 時事フランス語の読解力を養うことができる。現代のフランス事情を知ることができる。					
思考・判断の観点: 異文化に触れることによって、相対的・批判的な視点を持つことができる。					
関心・意欲の観点: 日本人の価値観とは異なった価値観に対して興味を持つことができる。					
成績評価方法(総合)					
定期試験の点数(50点)と平常点(50点)との総合。					
教科書					
ヴァリエテ・フランセーズ2009 / クリスチャン・ボームルー : 朝日出版社, 2009					
参考書					
メッセージ					
授業への積極的な参加と毎回の予習とを望む。					
連絡先					
613研究室。					
オフィスアワー					
14時30分～16時00分。					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011213016
開設科目名	フランス語演習(会話)			単位	2単位
対象学生				学年	4~4
担当教員	Beausir Jean Claude			区分	
授業の概要					
このコースは初級フランス語を総合的にレベルアップさせ、フランス語での基礎的なコミュニケーションに積極的に参加できるような理解力と表現力を習得することを目標としています。					
授業の一般目標					
この講座は、フランス語を学ぶ学生のために簡単な挨拶や日常会話を取り入れながら、初級～中級フランス語を習得して伝達力を伸ばすことを目指します。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 漠然とした曖昧な知識ではなくフランス語自体の仕組み、文法を芯から理解することを目標としています。					
関心・意欲の観点: フランス語以外のこと(文化、歴史、音楽、雑学)などにも自分から興味を持ち視野を広げ柔軟性のある思考力を養います。					
成績評価方法(総合)					
一回の会話定期考査と平均点(授業態度、出席状況など)を総合的に評価します。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011213017
開設科目名	フランス語演習(作文)			単位	2単位
対象学生				学年	4~4
担当教員	平山 豊			区分	
授業の概要					
動詞の直説法、条件法、接続法のさまざまな時制に基づく文例を、単純な文型から順次複雑な文型へと進める。更には平叙文、疑問文、否定文、命令文など文の種類も授業ごとの基軸単位になる。またニュアンス表現や語法にも留意しながら作文をする。					
授業の一般目標					
日本語の文を出発点に、一語一語の逐語訳ではなく、フランス語の文法規則を踏まえた、自然なフランス語を作る練習をする。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 動詞の活用、慣用表現、慣用語法の習得。					
思考・判断の観点: 異なった視点による物事の把握					
技能・表現の観点: 正確な表現の実現。					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
仏作文のキー・ポイント / 戸部松美:三修社, 2008					
フランス語作文の基礎 / 中原俊夫:白水社, 2008					
1からはじめるフランス語作文 / 山田博志、フランク・ヴィラン:白水社, 2008					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011214001
開設科目名	言語学特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	平野 尊誠			区分	
授業の概要					
前期は、日本語と英語の連体修飾構造もしくは関係節構造(修飾節と被修飾語を含めてこのように呼ぶことにする)を、統語的観点から取り扱う。いわゆる先行詞は、関係節の中の主語、目的語、間接目的語、時間・場所・道具などを表す副詞的なものが可能である。この観点から日本語と英語のこの構造の類似点と相違点について理解する。					
授業の一般目標					
1.日本語の連体修飾構造と英語の関係節構造が同じ言語現象であることを理解する。2.それらを構造的に捉える。3.類似点と相違点を形式化できるか。4.他の言語との比較に繋げる。5.これらを基に、言語学的に考察する能力を養う。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 内容を理解できるか。					
思考・判断の観点: 科学的観点に立った思考が出来るか。					
関心・意欲の観点: このような現象を形式的に捉える意欲はあるか。					
態度の観点: 授業に参加できるか。					
技能・表現の観点: 考察したことを分かり易く説明できるか。					
成績評価方法(総合)					
学期末試験を中心に、小テストの結果を加味して評価する。					
教科書					
An introduction to Japanese linguistics. / Tsujimura, Natsuko:Blackwell, 1996					
Introduction to typology. / Whaley, Lindsay J.:Sage, 1997					
参考書					
Language universals and linguistic typology. (2nd edition) / Comrie, Bernard:Univ. of Chicago Press., 1989					
メッセージ					
必ず予習をしてください。講義が終わった段階で、内容が理解できればそれでいい。					
連絡先					
人文617研究室					
mail-address:hirano01@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
未定					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011214002
開設科目名	言語学特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	和田 学			区分	
授業の概要					
<p>かな漢字変換など身近な技術の背景となる自然言語処理の基礎について学ぶ。また、自然言語処理の技術を学ぶことで、日ごろ意識することなく使っている「ことば」の特質についても目を向ける。</p>					
授業の一般目標					
<p>自然言語処理の基礎を理解すると同時に、言語に対し分析的思考が行えるようにする。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 自然言語処理の基礎を理解する。 思考・判断の観点: 言語に対し、分析的思考が行えるようにする。 態度の観点: 身近な技術の背景に目を向ける。</p>					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
kinjo@n-junshin.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011214003
開設科目名	言語学演習(音声と音韻)			単位	2単位
対象学生				学年	4~4
担当教員	平野 尊誠			区分	
授業の概要					
音声学を学ぶ。音声学は言語学の基本となる領域であり、これを理解していることで、その後の言語研究を有機的に進めることができる。演習では、調音音声学を中心に取り扱い、国際音声字母で表わされた音声の聞き取り練習と発音練習を行う。					
授業の一般目標					
辞書も文法書もない言語の分析は、まず音声を聞き取り、それを音声字母で表記することから始まる。その後、当該言語の文字を作り、単語をリストし、文法を記述する。言語研究の方法の第一歩を学ぶことを第一の目標とする。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 音声字母の内容の理解					
関心・意欲の観点: 未知の言語への関心					
態度の観点: 何度も練習する。					
成績評価方法(総合)					
テストに日頃の授業態度を加味して評価する。					
教科書					
音声学 / マルンベリ(大橋保夫訳) : 白水社, 1970					
参考書					
音声学 / 服部四郎: 岩波書店, 1951					
世界音声記号辞典 / Pullum & Ladusaw (土田滋 他訳) : 三省堂, 2003					
音声学 / 城生佰太郎: アポロン音楽工業, 1988					
メッセージ					
練習することが大事。恥ずかしがらないで練習しましょう。					
連絡先					
人文617研究室 mail-address:hirano01@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
未定					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011214004
開設科目名	言語学演習(意味と統語)			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	平野 尊識			区分	
授業の概要					
<p>英文で書かれた言語学の概説書を読むことにより、日本語を介さずに直接言語学に触れること、言語学の考え方、言語の分析を理解する。前期は語構成について学ぶ。</p>					
授業の一般目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 英語で書かれた言語学関係の文献を読みこなすこと。 2. 内容を理解すること。 3. 練習問題を解くこと。 4. 言語学の各分野に興味を持つこと。 					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 語形成、形態論の理解</p> <p>思考・判断の観点: 文に構造があるように、語にも構造があることを練習問題を通して理解する。</p> <p>関心・意欲の観点: 語形成論の学習によって、言語と言語学に興味を持つように。</p> <p>態度の観点: 予習をして演習に参加すること。</p> <p>技能・表現の観点: 内容を分かり易く説明できるか。</p>					
成績評価方法(総合)					
試験を中心に評価する。					
教科書					
Linguistics: An introduction. / Radford, Atkinson, Britain, Clahsen and Spencer: Cambridge Univ. Press., 1999					
参考書					
メッセージ					
予習をして演習に参加する。					
連絡先					
<p>人文617研究室</p> <p>mail-address:hirano01@yamaguchi-u.ac.jp</p>					
オフィスアワー					
未定					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011214005
開設科目名	言語学演習(言語理論)			単位	2単位
対象学生				学年	4~4
担当教員	平野 尊識			区分	
授業の概要					
この演習は卒業論文の作成を目的とするものである。従って受講者は4年生に限定される。前期は特に今までの復習と疑問点の整理に重点を置く。受講生には、疑問点の整理、興味を持っている言語現象の整理が要求される。					
授業の一般目標					
言語学的知識の整理。疑問点の解決。興味がある言語現象を発見できるように援助する。言語学関係の文献を読んで、理解できること。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 積み上げてきた言語学的知識の理解					
思考・判断の観点: 問題点を理論的に処理する能力。					
関心・意欲の観点: 問題点の発見、解決に向けての積極的取組み。					
態度の観点: 人の話にも興味を持って耳を傾けられるか。					
技能・表現の観点: 第3者に分かりやすく説明できること。					
その他の観点: オリジナリティーが見られるか。					
成績評価方法(総合)					
予習、復習、授業への取組などを総合的に判断して評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
卒業論文は他人が書くものではない。4年間の学問の仕上げである。積極的に取り組むこと。 Yamaguchi University hopes you to do duty.					
連絡先					
人文6階、617研究室 mail-address:hirano01@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011214006
開設科目名	言語学特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	乾 秀行			区分	
授業の概要					
日本語の系統をめぐる問題は、明治以来日本語に関する最も大きな問題の一つとして言語学者の間だけでなく広く一般の関心を集めてきました。それは日本文化の発祥や日本民族の起源という、多くの人にとって興味のある問題と密接に関連しているからです。そこで本講義では、従来の日本語系統論の議論を検証するため、前期は比較言語学的観点および言語類型論的観点からこの問題に迫ってみることにします。					
授業の一般目標					
1. 今までの日本語系統論について整理する。 2. 比較言語学について理解を深める。 3. 言語類型論について理解を深める。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
出席点、小レポート、期末レポート。					
教科書					
世界言語のなかの日本語ー日本語系統論の新たな地平 / 松本克己: 三省堂, 2007					
参考書					
メッセージ					
ノートパソコンを使用します。					
連絡先					
f1566@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011214007
開設科目名	言語情報処理学特殊講義			単位	2 単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	PHILLIPS JOHN DAVID			区分	
授業の概要					
<p>This is a course in Machine Translation - making a computer translate from one language into another.</p> <p>Concentrating on the linguistic aspects of the problem, we will look at how to describe English and Japanese grammar in a form which a computer can use, and at how a computer can translate using these descriptions.</p>					
授業の一般目標					
An understanding of the basic problems and techniques of Machine Translation from a linguist's point of view.					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
Written examination. 期末試験					
教科書					
参考書					
「自然言語処理の基礎」 / 吉村賢治:サイエンス社 , 200 An introduction to machine translation / W.J Hutchins & H.L. Somers: Academic Press , 1992					
メッセージ					
授業では英語をよく使う。					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011214008
開設科目名	言語情報処理学特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	PHILLIPS JOHN DAVID			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011214009
開設科目名	個別言語演習(その他の地域)			単位	2単位
対象学生				学年	4~4
担当教員	乾 秀行			区分	
授業の概要					
<p>エチオピアで話されている言語の言語特徴を見ていくことを通して、言語の多様性を理解することを目的とします。言語が音声、形態、文法、意味に関してどのような構造や体系を作り上げているかを一緒に考えてみましょう。</p> <p>また、言語はその話されている地域の文化から言語構造だけを切り離して独立して存在できません。言語と文化の関係を正しく理解することも言語学の立派な勉強になります。</p>					
授業の一般目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 言語の多様性について理解を深める。 2. 構造と体系について考える。 3. エチオピアの文化を理解する。 					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
出席点、課題、期末テスト。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
f1566@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011214010
開設科目名	言語学演習(言語理論)			単位	2単位
対象学生				学年	4~4
担当教員	乾 秀行			区分	
授業の概要					
卒業論文を書くためのゼミ生(3,4年)対象のゼミ演習です。言語学の論文を演習発表形式で読むことを通して、データの集め方、論文の書き方などについて、指導をします。					
授業の一般目標					
1. 言語データの取り扱い方について学習する。 2. 論文の書き方について学習する。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
出席点、発表、期末レポート。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
ゼミ生は必ず履修してください。					
連絡先					
オフィスアワー					
f1566@yamaguchi-u.ac.jp					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011214011
開設科目名	言語情報処理学演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	PHILLIPS JOHN DAVID			区分	
授業の概要					
初心者向けのプログラミングの授業。基礎からプログラミングを学ぶ。					
授業の一般目標					
「プロログ」というプログラミング言語で、プログラミングを基礎から応用までを学ぶ。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
一週間おきに実施するプログラミングの宿題で判定する。					
教科書					
「Introduction to Prolog Prolog 入門」 / 岡田朋子: 授業で配布します。					
参考書					
「PROLOG を楽しむ」 / 松田紀之: オーム社, 平成5年					
「楽しいプログラミング II」 / 上田和紀: 岩波新書, 1992					
「Prolog 入門」 / 古川康一: オーム社, 1986					
「Prolog のソフトウェア作法」 / 黒川利明: 岩波新書, 1989					
メッセージ					
授業では英語をよく使う。					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011214012
開設科目名	言語情報処理学演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	PHILLIPS JOHN DAVID			区分	
授業の概要					
<p>プロログプログラミング(上級) Advanced programming in Prolog 英語新聞記事の言語処理</p> <p>基本英語を必要とするが、上手である必要はない。 初級プロログを必要とする。</p>					
授業の一般目標					
<p>一年分の新聞記事からなされる大きい文書の中で単語や文法等を捜したり数えたりして、 受講者が実際の文書での英語の使い方を調査する。</p>					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
一週間おきに実施するプログラミングの宿題で判定する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
<p>基本英語を必要とするが、上手である必要はない。 初級プロログを必要とする。</p>					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011214013
開設科目名	言語情報処理学演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	乾 秀行			区分	
授業の概要					
言語情報学コースの学生対象の授業です。TeXによる言語学の論文の書き方を演習形式で習得していきます。					
授業の一般目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. TeXで言語学の論文を書けるようになる。 2. コンピュータに強くなる。 3. 論理的な思考ができるようになる。 					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
出席点、課題、期末レポート。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
毎回ノートパソコンを使います。					
連絡先					
f1566@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011214014
開設科目名	言語学演習(音声と音韻)			単位	2単位
対象学生				学年	4~4
担当教員	乾 秀行			区分	
授業の概要					
<p>世界言語の様々な音声を音声分析ソフトを使って分析する授業です。日本語の母音の数は5つですが、もっとたくさんの母音を持つ言語を話す人々は、それらの音を区別しています。また、日本人には難しい英語のrとlの違いなどもよく耳にする話です。中国語や朝鮮語には有気音と呼ばれる強い息を伴う閉鎖音があります。このように、それぞれの言語には、音に関して様々な特徴があります。この授業では一般音声学的視点に立って、人間の言語音すべてを対象に、まず調音音声学的観点から言語音の出し方をマスターし、つぎにその言語音の違いを音響音声学的に調べてみましょう。</p>					
授業の一般目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 一般音声学の知識を身につける。 2. 音声分析ソフトを使って分析する。 3. 世界の言語の多様性を理解する。 					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
出席点、発表、期末レポート。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
ノートパソコンを使います。					
連絡先					
f1566@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011220001
開設科目名	文学概論			単位	
対象学生				学年	2~3
担当教員	宮原 一成			区分	
授業の概要					
<p>文体論的アプローチを借りながら、文や文章を「文学的」にしているものは何かを考えていきます。講義という分類の授業ですが、学生にも作業を求めたりして、教員 - 学生の双方向のコミュニケーションを取り入れたいと思います。なお、教科書名は『英語の作法』で、収録されている作品例は英語文学ばかりですが、講義内容はできるだけ英語文学に偏らないよう配慮します。</p>					
授業の一般目標					
<p>文学を構成する要素について、基礎的な概念を身につける。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 修辞や文学作法の基礎用語や概念を使えるようになる。 思考・判断の観点: 上記で覚えた概念を、様々なテキストから見いだせるようになる。 関心・意欲の観点: 「文学的な文章」を、日常の中から見つけたり、自分でついたりする。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>ミニレポート8回(1回5点) + 学期末筆記試験60点。無断欠席が3回を超えると「不合格」とする。30分を超える遅刻は欠席扱い。</p>					
教科書					
<p>『英語の作法』 / 斎藤兆史: 東京大学出版会, 2000</p>					
参考書					
メッセージ					
<p>教科書名は『英語の作法』ですが、英語を自力で読みこなす必要はない授業です。</p>					
連絡先					
<p>miyahara@yamaguchi-u.ac.jp</p>					
オフィスアワー					
<p>受講生には初回授業時に知らせます。</p>					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011220002
開設科目名	日本語学			単位	2単位
対象学生				学年	1～3
担当教員	林 伸一			区分	
授業の概要					
日本語学の基礎的な項目を学ぶ、いわゆる文法といわれる統語論、意味論をはじめ、日本語音声学の基礎を学ぶ。					
授業の一般目標					
1、品詞の区分けについて理解する					
2、類義語の意味的な差異を説明できる					
3、日本語を音声記号で書けるようにする					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 日本語の専門的な知識を身につけ、理解する					
思考・判断の観点: 自分の頭で考え、正誤判断できる					
関心・意欲の観点: 身の回りの言語的な問題(日本語の乱れなど)に関心を持ち、辞書や文法書などで積極的・意欲的に調べる					
態度の観点: わかつたふりをしないで他者の発言を傾聴する態度を養う					
技能・表現の観点: 言語表現の技能を身につけ、自己表現できるようにする					
その他の観点: ペア・ワークに積極的に参加する					
成績評価方法(総合)					
出席率とレポートなどの課題で評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
留学生の参加を歓迎する					
連絡先					
hayashix@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
木曜日 10時 12時					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011220003
開設科目名	日本語史			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	磯部 佳宏			区分	
授業の概要					
～ 文法史～ 主として、平安時代の文法と、現代語の文法を比較しながら、その歴史的变化について考える。					
授業の一般目標					
日本語の文法を通史的に概観することにより、日本語文法の本質的な特徴や問題点を考察する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 日本語の文法史に関する基本的な知識が身に付いているかを判断する。					
思考・判断の観点: 日本語の文法史に関する基本的な知識を使って、思考力を判断する。					
関心・意欲の観点: 授業に対する取り組みを判断する。					
成績評価方法(総合)					
期末試験を主たる評価の対象とする。 毎回、授業時に用紙を配布し、出席の確認を兼ねて、指示する内容について記入してもらう。					
教科書					
日本語史 / 沖森卓也: おうふう, 1989					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011220004
開設科目名	日本語学特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	林 伸一			区分	
授業の概要					
<p>日本語教授法の一つとして考えた構成的グループ・エンカウンターについて体験的に理解する。実施の手順、留意点、効果などについて検討する。特にインストラクションの進め方、シェアリングのまとめかたなどについて、実際場面に近づけた形で実施しながら、授業参加者同士でディスカッションする。日本語教師になるための資質についても検討し、解説を加える。</p> <p>特に「言語と文化」の中では異文化間理解、「言語と教育」の分野では、第二言語習得の問題、「言語と心理」の中ではカウンセリングの分野を重点的に扱う。</p>					
授業の一般目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1、授業参加者間の人間関係・リレーションづくりを大切にす。 2、授業を通しての自己理解、他者理解、相互理解を促進する。 3、日本語教師・国語教師の役割と心構えなど教師論について考える。 4、日本語を教えるとは、どういう意味をもつのかを検討する。 5、適切なエクササイズの進め方、実施方法について考える。 					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 1、構成的グループ・エンカウンターとは何か説明できる。</p> <p>2、人間関係づくり・リレーションづくりの大切さを体験的に理解する。</p> <p>思考・判断の観点: 1、「言語と文化」の関係について考える。</p> <p>2、「言語と教育」の関係について考える。</p> <p>3、「言語と心理」の関係について考える。</p> <p>関心・意欲の観点: 1、外国人に日本語を教えることに関心と意欲をもつ。</p> <p>2、日本人同士の中にある異文化に関心と興味をもつ。</p> <p>3、異文化とのコミュニケーションに意欲と関心をもつ。</p> <p>態度の観点: 1、恥ずかしがらずに自己開示する。</p> <p>2、他者理解につとめ、他者を尊重する。</p> <p>技能・表現の観点: 1、他者の立場を尊重しながらも、自己主張する。</p> <p>2、自分の考えを率直に簡潔に言い、書ける。</p> <p>3、適切な質問力を身につける。</p> <p>その他の観点: 外国人留学生と日本人学生の交流を促進する</p>					
成績評価方法(総合)					
主に授業内レポートと学期末課題レポートおよび出席により評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					

教員志望者、留学生の参加を歓迎する。

連絡先

E-mail: hayashix@yamaguchi-u.ac.jp

携帯: 090-6415-8203

オフィスアワー

人文学部2階210-2号室、オフィスアワー: 木曜11時~12時

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011220005
開設科目名	日本語学特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	磯部 佳宏			区分	
授業の概要					
～ 文法論と文法学史～ 近世以前の文法学史を概観するとともに、近代以降の代表的な文法論を紹介しながら、日本語の文法研究史と、その特徴について考察する。					
授業の一般目標					
日本語の文法論と文法学史に関する基礎知識を身に付けるとともに、日本語の文法研究に関する諸問題について考える。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 日本語の文法論と文法学史に関する基本的な知識が身に付いているかを判断する。					
思考・判断の観点: 日本語の文法論と文法学史に関する基本的な知識を使って、思考力を判断する。					
関心・意欲の観点: 授業に対する取り組みを判断する。					
成績評価方法(総合)					
期末試験を主たる評価の対象とする。 毎回、授業時に用紙を配布し、出席の確認を兼ねて、指示する内容について記入してもらう。					
教科書					
国語文法論 / 渡辺実: 笠間書院, 1974					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011220006
開設科目名	日本語学特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	添田 建治郎			区分	
授業の概要					
日本語アクセントの機能、特徴、その成立と変遷などについて論述する。					
授業の一般目標					
日本語アクセントの意義について理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 日本語アクセントの機能、特徴、その成立と変遷などについての理解を深める。					
思考・判断の観点: 日本語アクセントの機能、特徴、その成立と変遷などに関わる知見をもとに積極的に疑問・意見を持ち、その解決をはかる。					
関心・意欲の観点: 上記の疑問・意見を質問カードに寄せ、教員との意見交換のなかから自身の考えを組み立てる。					
成績評価方法(総合)					
試験が60%、出席と質問カードの内容(授業内レポートに相当するものです)により授業への意欲をはかります、これが40%					
教科書					
愉快的な日本語講座 / 添田建治郎:小学館, 2005					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
0847-34-1961					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011220007																																
開設科目名	日本語学講読			単位	2単位																																
対象学生				学年	2～3																																
担当教員	林 伸一			区分																																	
授業の概要																																					
<p>一方的な講義形式ではなく、テーマごとに参加者の発表形式で進めていく。</p> <p>日本語教師または国語教師としての教育実習のリハーサルになるような発表を試みる。</p> <p>発表は、模擬授業形式で、教案・教材をあらかじめ準備し、参加者を学習者に見立てて行なう。</p>																																					
<table> <tr> <td>小テスト・授業内レポート</td> <td>20%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>宿題・授業外レポート</td> <td>10%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>授業態度・授業への参加度</td> <td>20%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>受講者の発表(プレゼン)・授業内での制作作品</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>演習</td> <td>評価に加えず</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>出席</td> <td>40%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>評価に加えず</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>100%</td> <td>0%</td> <td></td> </tr> </table>						小テスト・授業内レポート	20%			宿題・授業外レポート	10%			授業態度・授業への参加度	20%			受講者の発表(プレゼン)・授業内での制作作品		10%		演習	評価に加えず			出席	40%			その他	評価に加えず			合計	100%	0%	
小テスト・授業内レポート	20%																																				
宿題・授業外レポート	10%																																				
授業態度・授業への参加度	20%																																				
受講者の発表(プレゼン)・授業内での制作作品		10%																																			
演習	評価に加えず																																				
出席	40%																																				
その他	評価に加えず																																				
合計	100%	0%																																			
授業の一般目標																																					
<p>授業の一般目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、先輩の研究論文を先行研究として読み解いていく。 2、すでに発表された論文でも批判的に読む。 3、プレゼンテーションのしかたを体験的に学ぶ。 4、フィードバックのしかたを体験的に学ぶ。 																																					
授業の到達目標																																					
<p>知識・理解の観点: 1、引用のしかたを学ぶ</p> <p>2、参考文献の提示のしかたを学ぶ</p> <p>思考・判断の観点: 1、先行研究を基に自論を展開できるようにする</p> <p>2、先行研究を鵜呑みにするのではなく批判的に読む</p> <p>関心・意欲の観点: 1、自分の関心のある分野でレポートを書いてみる</p> <p>2、振り返りを意欲的に実行する</p> <p>態度の観点: 1、まじめに課題に取り組む態度を養う。</p> <p>2、不明な点をじっくり調べる態度を養う。</p> <p>技能・表現の観点: 技能・表現の観点:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、板書の仕方を工夫する 2、ハンドアウトの作り方を工夫し、わかりやすくする 3、パネルの提示の仕方を工夫する 																																					
成績評価方法(総合)																																					
<p>成績評価方法(総合)</p> <p>出席と発表 レポートを重視し、テストはしない。</p>																																					
教科書																																					

参考書**メッセージ**

メッセージ 日本語教師、国語教師を目指す人を歓迎する。
外国人留学生、日本人の海外派遣留学生の参加を歓迎する。

連絡先

連絡先: 人文棟 2階 210-2 号室、hayashix@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

オフィスアワー 木曜 3-4 時限目

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011220008
開設科目名	日本語学講読			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	吹屋 葉子			区分	
授業の概要					
<p>普段意識することなく用いその仕組みや機能を整理することが困難な「母語」(現代日本語)を、客観的な視点で観察・分析し、自分自身、また社会全体の言語生活について考えるきっかけとする。</p>					
授業の一般目標					
<p>現在、高等学校の国語教育では、いわゆる「古典」の学習、その中でも「古典文法」の学習が大きなウエイトを占めている。しかし、これらは受験勉強に直結する形の学習であり、「諸作品の中から言葉の規則性を導き出す」「歴史的社会的視点で言葉の体系を捉える」といった言語学的アプローチはなされていない。また、「現代日本語の文法」については、小中学校である程度の学習がなされるだけで、文法的な見方を特に必要としない母語であることもあり、その規則や体系を整理する機会はほとんどないままである。</p> <p>しかし、今後社会人として様々な人とコミュニケーションを取ったり意見を交わしたりする場面が増すことを想定し、自らが「今」用いている日本語のしくみについて、ここで客観的に分析・考察することは大いに有用であると考えられる。</p> <p>本授業では、「現代日本語」を母語としてだけでなく世界の言語の中の一つとしてとらえ、その規則性・体系性について学ぶことによって、より充実した言語生活を送れるようになることを目標とする。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:現代日本語の文法体系が理解できること</p> <p>思考・判断の観点:客観的な視点で取り組めること</p> <p>関心・意欲の観点:現代日本語の諸事象を観察し考察できること</p> <p>態度の観点:論理的に意見が構築できること</p> <p>技能・表現の観点:適切な表現を用いてレポートが書けること</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>まず、「現代日本語」を客観的に分析・考察できているかを見る。これは、授業の中で出される小課題や期末レポートへの取り組みで評価する。また、その際、適切な用語選択ができているか、論理的で説得力のある文章になっているかといった表現面も併せて評価する。</p> <p>また、「言語の四技能」(話す・聞く・読む・書く)という観点で、日本語の総合的な力をつけるために、クラスの中での話し合いや意見発表も随時行う予定である。それらへの取り組みも評価に加算する。</p>					
教科書					
国語教師が知っておきたい日本語文法 / 山田敏弘著:くろしお出版					
参考書					
メッセージ					
<p>使用教科書の題名には「国語教師」という表現がありますが、教師を目指す学生のみを対象とするものではありません。自分を取り巻く言語環境に興味を持ち、客観的に捉え直してみたいと思う学生の受講を希望します。また、授業の中では「外国人が学ぶ日本語」という視点も取り入れたいと考えていますので、留学生の受講も歓迎します。</p>					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011220009
開設科目名	日本語学演習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	林 伸一			区分	

授業の概要

卒業研究論文のテーマの立て方、研究計画書の書き方、目次の立て方、データの集め方などの実際の卒論生の事例を検討しながら進めていく。

授業の到達目標

成績評価方法(観点別)

知識・理解 思考・判断 関心・意欲 態度 技能・表現 その他 評価割合(%) JABEE 収集資料

定期試験(中間・期末試験)	評価に加えず	
小テスト・授業内レポート	20%	
宿題・授業外レポート	20%	
授業態度・授業への参加度	20%	
受講者の発表(プレゼン)・授業内での制作作品		20%
演習	10%	
出席	10%	
その他	評価に加えず	
合計	100%	0%

授業の一般目標

- 1、卒業研究のテーマの立て方を具体的に考える。
- 2、研究計画書を個々人が実際に書いてみる。
- 3、研究計画に沿って、目次を書いてみる。
- 4、データの集め方、先行研究の集め方を検討する。
- 5、データの整理の仕方、分析の仕方を検討する。

授業の到達目標

知識・理解の観点: 1、引用の仕方

2、図や表のタイトルのつけかた

3、参考文献の示し方

思考・判断の観点: 1、一般論と具体例を区別する

2、論理の展開に一貫性があるかどうかを考える

3、説得力のある文章を考える

関心・意欲の観点: 1、自分の関心・意欲を明確にする

2、前向きに困難に対処する

3、目標を立てて動機付けする

態度の観点: 1、積極的に授業に参加する

2、わからないことをそのままにしないで調べる

3、不明な点は質問する

技能・表現の観点: 1、口頭での発表力をつける

2、図や表でわかりやすく表現する能力をつける

3、コンピューターを使いこなす

その他の観点: 後輩は、先輩の卒業研究のしかたを学ぶ

成績評価方法(総合)

授業内の質問感想カードを毎回提出、期末の授業外レポート及び授業内での発表や出席・授業態度を重視する

教科書**参考書****メッセージ**

日本人だからといって読み書き能力が十分とは限らない。しっかりした文章が書けるようになるう。

連絡先

連絡先 hayashix@yamaguchi-u.ac.jp 携帯:090 - 6415 - 8203

オフィスアワー

オフィスアワー木曜日:11時-12時

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011220010
開設科目名	日本語学演習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	磯部 佳宏			区分	
授業の概要					
～ 中古仮名文学の語法・語彙～ 『源氏物語』宇治十帖を演習形式で講読し、その語法・語彙について考察する。					
授業の一般目標					
中古仮名文学の語法・語彙について、自発的に問題点を探し、調査を行い、資料を作成して発表を行う。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 問題点の設定と取り組み。					
思考・判断の観点: 発表資料のまとめ方。					
関心・意欲の観点: 質疑応答への参加度。					
技能・表現の観点: 口頭発表における技術・表現。					
成績評価方法(総合)					
授業時の口頭発表 質疑応答への参加度。テキストの現代語訳 期末レポート。					
教科書					
青表紙本源氏物語 45 橋姫 / 秋山虔: 新典社					
参考書					
源氏物語(新日本古典文学大系) / 柳井滋他: 岩波書店 源氏物語(新編日本古典文学全集) / 阿部研次他: 小学館 源氏物語索引(新日本古典文学大系) / 柳井滋他: 岩波書店, 1999					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011220011
開設科目名	日本文学概論			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	平野 芳信			区分	
授業の概要					
日本文学をその起源としての和歌に求め、言語を表現媒体とする時間芸術としての文学(小説が中心になると思われますが、)について述語を中心に講述します。					
授業の一般目標					
各項目(述語)に即して具体的な作品を分析しますが、あくまでも日本文学における伝達媒体としての言語の本質を明らかにすることを最終的な目標としています。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
定期試験 100%					
出席 欠格条件					
教科書					
参考書					
メッセージ					
講義でふれた具体的な作品を実際に読むことを希望します。					
連絡先					
個人研究室電話番号:933 - 5262 Eメールアドレス:y-hirano@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
追って、指示します。					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011220012
開設科目名	日本文学史			単位	
対象学生				学年	2～3
担当教員	尾崎 千佳			区分	
授業の概要					
[近世文学の諸相とその展開] 徳川政権下約三百年間の文芸を、時代環境や作品・作家の性格に即したトピックごとに講じます。近世という時代は、広範な作者と読者の層に支えられて、多種多様な文芸作品を生み出しました。それらの抱え込む、伝統と革新／雅と俗／人情と義理といった、相反する命題の諸相について、代表的作品を読み解きつつ、考えてゆきたいと思います。					
授業の一般目標					
近世文学史上の代表的作家と作品について、基礎知識の習得を目指します。あわせて、文学史が時代の場合や思潮と絡み合いながら展開することを学び、古典作品研究のあり方とその意義について、各自の考察を促します。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 近世前期小説史上の主要作家・作品について基礎知識を習得する。					
思考・判断の観点: 近世前期文学の展開を促した諸条件について理解する。					
関心・意欲の観点: 自らの課題を持ち積極的能動的に授業に参加することができる。					
成績評価方法(総合)					
期末試験 80%、アンケート票記入による授業態度 20%、出欠は欠格条件(4回の無断欠席で期末試験受験資格失効)					
教科書					
年表資料近世文学史 / 松崎仁・白石梯三・谷脇理史:笠間書院, 1977					
参考書					
日本文学新史(近世) / 松田修編:至文堂, 1990					
近世の日本文学 / 長島弘明・清登典子:放送大学教育振興会, 2003					
メッセージ					
連絡先					
研究室: 人文 508 電話: 083-933-5257 E-mail: ozaki@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011220013
開設科目名	日本文学特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	森野 正弘			区分	
授業の概要					
平安時代における物語文学の代表的作品である『源氏物語』を読み解きながら、そこに孕まれている問題について取り上げ、研究史のうえで営まれてきた読みについて検討を加える。					
授業の一般目標					
古典文学について研究・考察する力を身につける。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 古典文学作品に書かれた内容を正確に読み取るための知識を得ることができる。					
思考・判断の観点: 古典文学作品に書かれた内容や研究論文を通じて多面的な物の見方・考え方ができるようになる。					
成績評価方法(総合)					
期末試験による。					
教科書					
参考書					
新編日本古典文学全集『源氏物語』(全6冊)/阿部研次生ほか:小学館,1995					
源氏物語事典/林田孝和ほか:大和書房,2002					
源氏物語の鑑賞と基礎知識(全43冊)/鈴木一雄・監修:至文堂,1998					
人物で読む源氏物語(全20冊)/上原作和・編集:勉誠出版,2005					
角川文庫ソフィア『源氏物語・付現代語訳』(全10冊)/玉上琢彌:角川書店,1998					
メッセージ					
出席状況80%未満の者は欠格とします。授業開始後15分を過ぎてからの入室は出席として認めません。					
連絡先					
morino@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
水曜日5・6時限					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011220014
開設科目名	日本文学特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	小野 美典			区分	
授業の概要					
<p>昨年に引き続き『平家物語』を取り上げて、その文学的特質を解説する。半期という短い期間なので、著名な章段を取り上げて、その読解をもとに『平家物語』の文学的特質を考察していくことにする。また、本文に係る資料も可能な限り取り上げて、中世の文学研究に必要な基礎資料に関する解説もあわせて行いたい。取り上げる章段は、以下の予定。(鱈 富士川、経世都落)</p>					
授業の一般目標					
『平家物語』の特質を知ることが第一の目標とする。また、中世文学研究に必要な基礎知識の獲得も第二の目標とする。					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点： 『平家物語』の特質に関する理解を深める。 『平家物語』研究の現状と課題について理解を深める。 中世文学研究の基礎資料に関する知識を深める。</p> <p>思考・判断の観点： 『平家物語』の本文を読み解く。 歴史資料を読み解く。</p> <p>関心・意欲の観点： 『平家物語』に関する興味を深める。 同時代の他の資料への関心を深める。</p> <p>態度の観点： 注釈の施されていない資料を積極的に読むとする。</p> <p>技能・表現の観点： 自分の調査・考察したことを的確に文章で表現する。</p>					
成績評価方法(総合)					
レポートによって評価する。なお、出席は3分の2以上出席していることが評価の前提となる。その出席条件を満たした者に関して、レポート内容で成績評価を行う。出席状況を点数化して評価に加点することはしない。なお、講義中の授業への参加態度も、若干の考慮に入れる。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
半期という短い期間ですが、『平家物語』の世界に興味を持ってもらえたら幸いです。お互いに楽しく授業を進めましょう。					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011220015
開設科目名	日本文学講読			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	平野 芳信			区分	
授業の概要					
森絵都の『永遠の出口』を精読します。					
授業の一般目標					
『永遠の出口』は児童文学者であった森絵都が、その殻を破って大人の読者に向けて発表した最初の作品です。主人公の10歳から18歳までの9年間で描かれていて、児童文学であって、児童文学ではない不思議なテイストを味わいながら読みたいと思います					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
宿題・授業外レポート 40%					
授業態度・授業への参加度 10%					
受講者の発表(プレゼン)・授業内での制作作品 40%					
出席 10%					
教科書					
文庫 永遠の出口 / 森絵都:集英社					
参考書					
メッセージ					
講読日誌を作成していただきますので、ノートを1冊準備しておくように。					
連絡先					
個人研究室 933 - 5262					
y-hirano@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
追って、指示します。					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011220016
開設科目名	日本文学講読			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	森野 正弘			区分	
授業の概要					
『伊勢物語』の講読					
授業の一般目標					
古典文学を読解する力を身につける。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 古典文学作品に書かれた内容を正確に読み取るための知識を得ることができる。					
思考・判断の観点: 古典文学作品に書かれた内容を通じて多面的な物の見方・考え方ができるようになる。					
関心・意欲の観点: 古典文学作品に関連する歴史的文化的事項について自発的に調べることができるようになる。					
成績評価方法(総合)					
発表内容とレポートによる。					
教科書					
新編日本古典文学全集『竹取物語・伊勢物語・大和物語・平中物語』 / 福井貞助ほか:小学館, 1994					
参考書					
角川ソフィア文庫『新版伊勢物語・付現代語訳』 / 石田穰二: 訳注: 角川書店, 2003					
伊勢物語を読む / 宇都木敏郎: 未知谷, 1997					
新日本古典文学大系『竹取物語・伊勢物語』 / 秋山虔: 校注: 岩波書店, 1997					
別冊国文学・竹取物語 / 伊勢物語必携 / 鈴木日出男: 編: 学燈社, 1988					
伊勢物語の表現史 / 室伏信助: 編: 笠間書院, 2004					
メッセージ					
出席状況 80% 未満の者は欠格とする。					
連絡先					
morino@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
水曜日 5・6 時限					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011220017
開設科目名	日本文学講読			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	尾崎 千佳			区分	
授業の概要					
<p>〔西鶴『世間胸算用』を読む〕元禄五年(1692)刊『世間胸算用』は、西鶴生存中最後に出版された小説で、多彩な語り口と緻密な構成によって、その傑作のひとつに数えられる作品である。話の舞台は大晦日、話の形式はオムニバス。最も劇的な一日をやり過ごす町人たちの、したたかで明るく、ほんの少し悲しい姿が、巧みに描き出されている。前期は、巻一 四「鼠の文づかひ」を精読したい。</p>					
授業の一般目標					
<p>1.西鶴浮世草子作品を通して、近世文学読解の基本的あり方を習得する。 2.西鶴浮世草子作品を通して、中古中世文学の咀嚼の上になる近世文学の醍醐味を感得する。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:近世文学読解のための文献調査法の基礎を習得する。 思考・判断の観点:作品の主題を的確に把握できる。 態度の観点:他の参加者の解釈について積極的に意見を述べることができる。 技能・表現の観点:調査結果に基づいたみずからの解釈について適切に発表することができる。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>担当の発表資料と発表内容を最重視し、期末レポートとして発表資料の修正版を課す。試験は行わない。授業時の質疑も評価に加える。</p>					
教科書					
<p>西鶴影印叢刊『世間胸算用』 / 西島孜哉編;和泉書院,1998 対訳西鶴全集 13『世間胸算用』 / 麻生磯次・富士昭雄校注;明治書院,1984</p>					
参考書					
<p>大晦日を笑う『世間胸算用』 / 広嶋進;清文堂出版,2005</p>					
メッセージ					
<p>西鶴の小説には現代劇にもよく通じる面白さがあり、そのリアルな語り口と息もつかせぬ急展開が魅力です。</p>					
連絡先					
<p>研究室: 人文 508 電話: 933-5257 E-mail: ozaki@yamaguchi-u.ac.jp</p>					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011220018
開設科目名	日本文学演習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	平野 芳信			区分	
授業の概要					
卒業論文作成の直接的な指導、助言を行うための演習を実施します。					
授業の一般目標					
この演習を通して、ゼミ構成員各自が、卒業論文作成のための具体的な方法を体得していただきたい。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
授業態度・授業への参加度 30%					
受講者の発表(プレゼン)・授業内での制作作品 30%					
演習 30%					
出席 10%					
教科書					
参考書					
メッセージ					
発表の順番はあくまでも予定です。就職活動等々によって、変更があることを承知しておいてください。					
なお、4年生用の時間ですので、2、3年生は受講しないように。					
連絡先					
個人研究室 933 - 5262					
y-hirano@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
追って、指示します。					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011220019
開設科目名	日本文学演習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	森野 正弘			区分	
授業の概要					
『源氏物語』の研究					
授業の一般目標					
古典文学の研究を進めていくうえで必要な基礎知識の習得、及び分析力・論理的思考力を身につける。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 古典文学作品に書かれた内容を正確に読み取るための知識を得ることができる。					
思考・判断の観点: 古典文学作品に書かれた内容や研究論文を通じて多面的な物の見方・考え方ができるようになる。					
関心・意欲の観点: 自発的に古典文学作品を読み進め、関連する事項について調査することができるようになる。					
態度の観点: 古典文学作品に提起されている問題を主体的に考え、自ら探究することができるようになる。					
技能・表現の観点: 考察した結果を文章や口頭で適切に表現できるようになる。					
成績評価方法(総合)					
発表内容とレポートによる。					
教科書					
新編日本古典文学全集『源氏物語』(全6冊) / 阿部秋生ほか: 小学館, 1994					
新日本古典文学大系『源氏物語』(全5冊) / 柳井滋ほか: 岩波書店, 1993					
参考書					
新日本古典文学大系別巻『源氏物語索引』 / 柳井滋ほか: 岩波書店, 1999					
源氏物語事典 / 林田孝和ほか: 大和書房, 2002					
人物で読む源氏物語(全20巻) / 上原作和・編集: 勉誠出版, 2005					
源氏物語の鑑賞と基礎知識(全43冊) / 鈴木一雄・監修: 至文堂, 1998					
別冊国文学『新・源氏物語必携』 / 秋山虔・編: 学燈社, 1997					
メッセージ					
『源氏物語』の「何について」考察したいのか、各自あらかじめ考えてきたうえで第1回目の授業に臨んでください。八割以上出席すること。					
連絡先					
morino@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
水曜日 5・6 時限					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011220020
開設科目名	日本文学演習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	尾崎 千佳			区分	
授業の概要					
<p>【『大坂独吟集』重安独吟百韻註釈】延宝三年(1675)刊『大坂独吟集』は、談林俳諧の盟主・西山宗因が評語を付し点をかけた百韻十巻を集める、談林俳諧の代表的作品である。謡曲の文句取りを駆使した軽妙な表現と、古典作品の大胆なパロディが生む笑いを精読して、談林俳諧の意義と達成につき考察を深めたい。前期は、下巻所収の重安独吟「薬喰や」百韻の初折表から二折表をとりあげる。連句と評語が織りなす、師弟のコラボレーションにも注目したい。また、実作にもチャレンジして、連歌・俳諧の精神や作法を実践的に習得しよう。</p>					
授業の一般目標					
<p>1.近世文学の読解に必要な、文献調査法の習得から、古典註釈の基礎を学ぶ。 2.詠作と鑑賞が同時に繰り返される「座」の文芸＝俳諧連句の作法と精神を知り、談林俳諧の意義と達成につき、考察を深める。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:1.近世文学読解のために必要な文献調査の方法を習得する。 2.古典文学註釈の基礎を習得する。 思考・判断の観点:1.俳諧連句の作法と精神を理解する。 2.中古中世文学との比較を通して、近世文学の到達点を理解する。 態度の観点:1.他の参加者の解釈について、積極的に意見を述べることができる。 技能・表現の観点:1.調査結果に基づいたみずからの解釈について、適切に発表することができる。 2.意欲的に実作に参加し、連歌・俳諧の精神や作法を実践的に会得することができる。</p>					
成績評価方法(総合)					
発表時の資料と内容を最重視し、期末レポートとして発表資料の修正版提出を課す。試験は行わない。授業時の質疑応答も評価に加える。					
教科書					
近世文学資料類従古俳諧編 29『大坂独吟集』 / 乾裕幸他解説: 勉誠社, 1976					
参考書					
新日本古典文学大系 69『初期俳諧集』 / 乾裕幸他校注: 岩波書店, 1991 新版連句への招待 / 乾裕幸・白石悌三: 和泉書院, 1989					
メッセージ					
俳諧は、さまざまな読みの試みが可能な文芸です。多くの方にとっては未知の分野でしょうが、初心者でも十分対応できますので、臆せず受講してください。頭が柔らかくなります。					
連絡先					
研究室: 人文 508 電話: 933-5257 E-mail: ozaki@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011221001
開設科目名	中国語学概説			単位	
対象学生				学年	2～3
担当教員	富平 美波			区分	
授業の概要					
中国語学に関する基礎知識のうち、前期の講義(中国語学概説)では、下記の諸点について、紹介する。					
1. 現代中国の共通語と方言					
2. 現代中国語の音声					
3. 発音表記法の発達(ピンイン方案の成立に至るまで)					
授業の一般目標					
(1) 現代中国語の共通語とその形成の歴史について理解する。					
(2) 現代中国語の方言分布について理解する。					
(3) 中国語の音声・音韻について基本知識を会得する。					
(4) 中国語の発音表記法について基本知識を会得する。					
(5) 中国語学の諸問題について主体的に学習・考察する態度を養成する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: (1)中国が多民族・多言語国家であることを理解する。					
(2)現代中国語の共通語とその形成の歴史について簡単な説明ができる。					
(3)現代中国語の方言分布について説明できる。					
(4)中国語の音声的特徴について簡単な説明ができる。					
(5)中国に於ける発音表記法の発達について簡単な説明ができる。					
関心・意欲の観点: 中国語の諸特徴について問題意識を持ち、関心を持ったテーマについて主体的に学習・考察することができる。					
技能・表現の観点: 関心を持ったテーマについて主体的に学習・考察して成果を、文章にまとめることができる。正しいレポートの体裁とはどのようなものか、基本的知識を身に付ける。					
成績評価方法(総合)					
おしまいに、授業内容に関連を持つテーマを選んでレポートしてもらい、また、授業中に設問に答えてもらうほか、随時、感想や質問を自由に書いてもらう機会を作る。これらにより授業への理解度と主体的学習への意欲を評価する。なお、出席が3分の2に満たない者には単位を与えない。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
研究室:人文学部5階515室 tel:933-5251					
オフィスアワー					
月曜日:12:50～14:20					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011221002
開設科目名	中国語学特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	更科 慎一			区分	
授業の概要					
中国語音声学入門 現代中国語(普通話)の発音を調音音声学的に探求する。世界の言語の中での中国語の音声的特徴、及び日本語との違いなどがよくわかることに重点を置いて授業を進めて行きたい。					
授業の一般目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・調音音声学の基本的な原理を理解する。 ・国際音声字母のうち諸言語の記述に高い頻度で現れるもの、及び中国語と関連する部分について、実際に発音できる。 ・現代中国語の発音について、区別の勘所がわかる。 					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 言語音の発出原理に関する基本的知識を身につけている。					
常用される国際音声字母を見ておおむね理解することができる。					
思考・判断の観点: 自身の母語や現代中国語の発音について、音声学の観点から分析することができる。					
技能・表現の観点: 現代中国語音が正確に発音でき、聞き分けられる。					
国際音声字母によって自身の母語と中国語の音を表記することができる。					
成績評価方法(総合)					
学期末に提出させるレポートによるほか、授業への参加度も一定程度考慮する。					
教科書					
参考書					
実践音声学入門 / J.C.キャットフォード:大修館書店, 2006					
一般音声学講義 / 城生佰太郎:勉誠出版, 2008					
中国文化叢書 1・言語 / 牛島徳次, 香坂順一, 藤堂明保:大修館書店, 1967					
メッセージ					
連絡先					
更科慎一 研究室:人文516、電話:933-5250					
オフィスアワー					
月曜日 12:50-16:00					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011221003
開設科目名	中国語学特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	富平 美波			区分	
授業の概要					
<p>授業のテーマは、「中国語の中古音について」。中国語の発音の歴史を一般に上古音 中古音 近代音 現代音と区分するが、その中で最も重要なのは中古音である。これは隋唐時代の中国語標準音を指すものである。中古音がなぜ重要かというと、現代中国語方言の大部分はこの中古音を共通の祖先としそこから変化してきたものなので、現代の中国語方言を分類したり特徴を説明したりするのに中古音の知識は欠かせない。また日本語で用いられる漢字音も中古音と密接な関係があり、漢字音を体系的に理解するにも中古音の知識は欠かせない。この授業では、はじめにカールグレンの研究によって大まかな中古音の音価推定を紹介し、それと「普通話」を含むいくつかの主要な方言音を比較対照し、各地方言音と中古音との関係、および方言間の発音の相違・特徴を明らかにする。</p>					
授業の一般目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1) 中国語古代音のなかで、最も重要な位置を占める中古音を声母・韻母に分けて理解する。 2) 古代音はピンインでなく音声記号で示されるので、その記号のよみ方についても勉強する。 3) 南方の主要な方言(広東語・福建語など)の発音を学び、北京語(標準語)との違いの大きさを感じてもらう。 4) 中古音を基として現代の主要な方言音を比較し、方言間の発音の相違と特徴を観察する。 					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 中古音を知ることによって、現代音との相違、あるいは現代までの発音の歴史を説明することができる。</p> <p>思考・判断の観点: 中古音の知識を基にして、歴史的観点からの方言特徴などについて意見を述べることができる。</p> <p>関心・意欲の観点: 中国語の歴史だけでなく、方言の分類・分布に対しても興味や関心を高められる。</p> <p>態度の観点: 中国の方言だけでなく、日本語で用いられる独特の日本漢字音についても積極的に考えることができる。</p>					
成績評価方法(総合)					
<ol style="list-style-type: none"> 1) 授業の中で小テストを1回、授業の最後に試験を1回行う。 2) 方言分類に関する授業内レポートを作成し、提出する。 3) 以上を、下記の観点・割合で評価する。 4) なお、出席が所定の回数に満たないものは、単位を与えない。 					
教科書					
参考書					
<p>中国語語音史 中古音から現代音まで / 佐藤昭: 白帝社, 2002</p> <p>中国の諸言語 - 歴史と現況 / ラムゼイ: 大修館書店, 1990</p> <p>音韻のはなし - 中国音韻学の基本知識 / 李思敬: 光生館, 1987</p>					
メッセージ					
質問大歓迎。不明なこと、疑問のこと、なんでもかまいませんので、遠慮なく質問すること。					
連絡先					
a-satou@kitakyu-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011221004
開設科目名	中国語学講読			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	更科 慎一			区分	
授業の概要					
周振鶴、游汝傑著「方言与中国文化」を読む。					
授業の一般目標					
(1)中国語の方言の形成史と、その文化的背景について理解を深める。 (2)現代中国語の論文文体に慣れ、読解と翻訳の実力を増強する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1.中国語の方言の特徴について言語学的に述べるができる。 2.中国語の方言の成立に文化的諸要素がどのように関わったかを説明することができる。 3.中国語学の基本的用語を理解することができる。					
技能・表現の観点: 1.現代中国語文を正しい発音で音読することができる。 2.現代中国語文を的確に日本語に訳すことができる。 3.中国語学や中国文化に特有の事物について、必要な文献を検索し、参照することができる。					
成績評価方法(総合)					
レポート(上記「授業計画」を参照)の提出を課する。 いわゆる出席点はない。全体の2/3以上出席しない学生には、単位を与えない。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
なるべく多くの漢字の発音を覚え、また語彙を増やすよう心がけてください。地理や歴史に対する関心を持つことも大事です。					
連絡先					
研究室 人文研究棟516室 電話 083-933-5250					
オフィスアワー					
月曜日 12:50-16:00					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011221005
開設科目名	中国語学演習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	富平 美波			区分	
授業の概要					
中国語の文法と特徴ある表現について文献を読解しつつ学ぶ。中国語を学ぶ外国人を対象に現代中国語で書かれた教科書を選んで講読し、中国語文法に関する知識を身につけるとともに、現代中国語の読解能力を高める。					
授業の一般目標					
中国語の文法及び特徴的表現形式について一定の理解を得させ、あわせて現代中国語で書かれた語学関係の文献の読解能力を養う。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 中国語文法の特徴及び特徴ある表現形式のいくつかを知る。					
初級レベルでは学ばない現代中国語の表現形式のいくつかをマスターする。					
思考・判断の観点: 現代中国語の文章が読解できる。					
関心・意欲の観点: 中国語文法について関心を持ち、自主的に学習できる。					
成績評価方法(総合)					
毎回の授業における課題の達成度と学期末のレポートにより、授業内容に対する理解度と主体的学習態度を評価する。なお、出席が3分の2に満たない者には単位を与えない。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
中国語辞典は必須です。持参してください。					
連絡先					
研究室: 人文学部5階 Tel.933-5251					
オフィスアワー					
月曜日 12:50-14:20					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011221006
開設科目名	中国文学史			単位	2単位
対象学生				学年	1～3
担当教員	根ヶ山 徹			区分	
授業の概要					
<p>中国古代から清朝(民国以前)までの文学について概観する。</p> <p>中国文学は、「漢文」・「唐詩」・「宋詞」・「元曲」ということばに代表されるように、長い歴史を有するのみならず、ジャンルも多種多様にわたる。この授業では、古代から清朝に至るまでの重要な作品を紹介し、さまざまな観点から分析する。</p>					
授業の一般目標					
中国の各時代の作家と文学作品に関して、基本的知識を身につけ、個々の作品の読解を通じて、中国文化に対する理解を深めることを目標とする。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 中国古典文学の主要なジャンルと作品、また特質について説明できる。					
思考・判断の観点: 中国古典文学の歴史的展開を説明できる。					
関心・意欲の観点: 中国古典文学を通して、ひろく中国の文化について関心を抱く。					
態度の観点: 授業で紹介した参考文献に目を通す。					
技能・表現の観点: 中国古典文学の読解が可能になる。					
成績評価方法(総合)					
期末試験の成績により評価する。					
教科書					
中国文学概論 / 岩城秀夫:朋友書店, 1995					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011221007
開設科目名	中国文学特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	阿部 泰記			区分	
授業の概要					
包拯伝説の歴史的展開について講じる。包拯は北宋時代の官吏で、毅然とした態度で奸臣に立ち向かいその野望を挫いたため、民衆に慕われてその業績が文学に取材されて伝説的な人物となり、現代中国でも「包公」と言えば知らない人はいないし、崇拜の対象ともなっている。本講義ではこうした文学を媒体とした包拯の伝説を具体的に紹介していく。					
授業の一般目標					
1.中国の政治と文学の関係について理解を深める。 2.伝説が文学を媒体として拡散することを理解する。 3.伝説が事実として認識される事象について理解する。 4.中国の物語のジャンルについて知る。 5.伝説と信仰との関係について考える。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1.包拯という人物の業績について知る。 2.包拯の伝説に取材した文学を知る。 3.包拯を祀った廟の分布を知る。					
思考・判断の観点: 1.民衆がなぜ包拯を慕うのかを考える。 2.民衆にとって文学とは何かを考える。					
関心・意欲の観点: 1.包拯について図書館で文献を調べてみる。 2.インターネットで包拯に取材した文学や包公廟について検索してみる。					
態度の観点: 1.授業を真剣に聞く態度をやしなう。 2.授業の内容をノートする態度をやしなう。					
技能・表現の観点: 1.手際よくノートする訓練をする。 2.中国のインターネットを検索する能力を身につける。					
成績評価方法(総合)					
1.出席・レポート提出ができない者は評価の対象外である。 2.どれだけ授業を理解できたかを評価の基準とする。					
教科書					
参考書					
包公伝説の形成と展開 / 阿部泰記: 東京 : 汲古書院, 2004 中国の公案小説 / 莊司格一: 東京 : 研文出版, 1988					
メッセージ					
連絡先					
abey@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011221008
開設科目名	中国文学特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	李 文相			区分	
授業の概要					
<p>17世紀中葉の朝鮮半島時代、南道地方で発祥したパンソリには、14世紀末葉から500年間続いた朝鮮半島時代の儒教社会を生きた庶民の積もった恨(ハン)を解く不思議な魅力がある。</p> <p>パンソリの叙事的な語り背景には儒教思想が主流を成しており、至る所に漢文や漢詩、諺の例えなど、中国文化の影響が大きい。</p>					
授業の一般目標					
<p>パンソリを通じて朝鮮半島時代の民衆の人生観に触れ、朝鮮半島における中国文化との関わりについて理解する。韓国の文化と中国の文化を関連付けながら日本文化の理解に役立て東アジアに対して幅広い知識と教養を身につける。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:パンソリの辞説を通じて朝鮮半島時代の中国文化との関わりについて理解する。</p> <p>思考・判断の観点:儒教思想や人々の人生観について理解する。</p> <p>関心・意欲の観点:パンソリの鑑賞を通じて中国文化との接点を見出す。</p> <p>態度の観点:中国と朝鮮文化の関わりを知り、日本文化への影響を総合的に捉える。</p> <p>技能・表現の観点:東アジア文化圏の拡がりに興味を持つ。</p>					
成績評価方法(総合)					
レポートの提出、出席状況					
教科書					
参考書					
メッセージ					
パンソリ芸術の感性にふれながら楽しい雰囲気中国文化との関わりについて考えましょう。					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011221009
開設科目名	中国文学講読			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	根ヶ山 徹			区分	
授業の概要					
湯頭祖の『牡丹亭還魂記』を、兪為民校注本によって読む。					
授業の一般目標					
古代漢語で書かれた原文を読解し、分析する能力を養うことを目標とする。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 中国戯曲演劇史のなかでの、『牡丹亭還魂記』の位置づけを理解する。					
思考・判断の観点: 作品の主題を的確に把握できる。					
関心・意欲の観点: 明代の白話文学の特質について関心をいだく。					
態度の観点: 出典などについて、適切に調べることができる。					
技能・表現の観点: 本文・注釈についての解釈を、適切に発表することができる。					
成績評価方法(総合)					
教科書					
牡丹亭 / 湯頭祖撰・兪為民導読・黄山書社, 2001					
参考書					
戯曲集(下) / 田中謙二編・平凡社, 1970					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011221010
開設科目名	中国文学演習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	阿部 泰記			区分	
授業の概要					
本演習では、受講者が選定した研究テーマに関する研究方法を学習する。					
授業の一般目標					
1.物語の媒体となる文学の形式を理解する。 2.物語の主題を考察する。 3.物語の現代的意義を考察する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1.物語文学の代表的な作品を知る。 2.物語文学の文体を知る。					
思考・判断の観点: 1.物語文学の主題を考える。 2.物語文学の歴史を考える。					
関心・意欲の観点: 1.物語文学のおもしろさを感じる。 2.物語文学をすすんで読むようになる。					
態度の観点: 1.物語文学の読解につとめる。 2.辞書を丹念に調べる。					
技能・表現の観点: 1.流暢な日本語に翻訳できる。 2.中国語と日本語の表現に注意する。					
成績評価方法(総合)					
予習による評価					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
abey@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011221011
開設科目名	中国語演習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	田 梅			区分	
授業の概要					
本演習は応用会話能力を高めることを目指す。発音、語彙、文法など共通教育で習得した項目の確認、整理と拡充をしながら、具体的な場面を設定した対話を繰り返し読んで、暗誦して、それからグループ或はペアの形式で発表する。					
授業の一般目標					
1. 基本的な会話が流暢にする。 2. よく使う慣用型、文型を身につけて、状況に応じて正しいコミュニケーションの方法、技法を習得する。 3. 関心することについて質問と答えの方法など十分理解し、運用できる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 慣用型、文型を身につけて、正しいコミュニケーションの方法、技法ができる。					
思考・判断の観点: 中国と日本、中国語と日本語の異なる発想、規則、習慣など判断、区別、運用できる。					
関心・意欲の観点: 中国語の言葉の背景や中国の文化、事情に理解、関心を抱く。					
態度の観点: 授業中の勉強だけでなく、授業外の予習、復習も自発的に勉強できる。					
技能・表現の観点: 関心することについての質問、答えの方法が運用できる。日常生活についての会話が流暢に話せる。					
成績評価方法(総合)					
授業外の宿題と授業中の小テスト、板書を評価する。 受講態度と予習発表の正しさを評価する。 期末に試験を実施する。 出席が3分の2に満たない者には単位が与えない。					
教科書					
実用中国語10課 2 / 劉愛莉・王桂紅ら:白帝社, 2008					
参考書					
メッセージ					
中国語初級1・2A/Bを習得した者に限り。 中国語演(作文)も履修する者が望ましい。					
連絡先					
共通教育本棟 3階 内線: 5591 E-mail: tian@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
月曜日: 16:00～18:00 火曜日: 16:00～18:00					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011221012
開設科目名	中国語演習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	田 梅			区分	
授業の概要					
<p>本授業は基本的な文法を習得し、辞書の助けで易しい文章の大体の内容が理解できるレベルの学生を対象とする。中国のセンテンスをどう組み立てるのか勉強して、和文中訳、中文和訳、誤文訂正など多くの練習をして、短文、作文及び表現能力を高めることを目指す。</p>					
授業の一般目標					
<p>1 常用単文の組み立て。 2 常用複文の組み立て。 3 常用虚詞のくみだて。 4 作文で正確の表現能力を習得する。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:慣用型、文型を身につけて、訳文、短文の方法、形式を運用できる。 思考・判断の観点:中国と日本、中国語と日本語の異なる発想、規則、習慣など判断、区別、運用できる 関心・意欲の観点:中国、中国語、中国事情に理解、関心を持つ。 態度の観点:授業中の勉強だけでなく、授業外の前習、復習も自発的に勉強できる 技能・表現の観点:自分の考え、感心することなど正しく表現できる短文、作文をできる。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>授業外の宿題と授業中の小テスト、板書を評価する。 受講態度と予習発表の正しさを評価する。 期末に試験を実施する。 出席が3分の2に満たない者には単位が与えない。</p>					
教科書					
大学生のための現代中国語12話 / 杉野元子・黄漢青:白帝社, 2008					
参考書					
メッセージ					
<p>中国語初級1・2A/Bを習得した者に限り。 中国語演(会話)も履修する者が望ましい。</p>					
連絡先					
<p>共通教育本棟3階 田研究室 内 線:5591 E-mail:tian@yamaguchi-u.ac.jp</p>					
オフィスアワー					
<p>月曜日:16:00～18:00 火曜日:16:00～18:00</p>					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011221013
開設科目名	中国語演習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	林 宇萍			区分	
授業の概要					
中国の現代生活に関して概説し、中国語の応用能力を向上させる。					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
セレクト10時事中国語:朝日出版社,2008					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011222001
開設科目名	言語学特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	平野 尊誠			区分	
授業の概要					
<p>前期は、日本語と英語の連体修飾構造もしくは関係節構造(修飾節と被修飾語を含めてこのように呼ぶことにする)を、統語的観点から取り扱う。いわゆる先行詞は、関係節の中の主語、目的語、間接目的語、時間・場所・道具などを表す副詞的なものが可能である。この観点から日本語と英語のこの構造の類似点と相違点について理解する。</p>					
授業の一般目標					
<p>1.日本語の連体修飾構造と英語の関係節構造が同じ言語現象であることを理解する。2.それらを構造的に捉える。3.類似点と相違点を形式化できるか。4.他の言語との比較に繋げる。5.これらを基に、言語学的に考察する能力を養う。</p>					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 内容を理解できるか。					
思考・判断の観点: 科学的観点に立った思考が出来るか。					
関心・意欲の観点: このような現象を形式的に捉える意欲はあるか。					
態度の観点: 授業に参加できるか。					
技能・表現の観点: 考察したことを分かり易く説明できるか。					
成績評価方法(総合)					
学期末試験を中心に、小テストの結果を加味して評価する。					
教科書					
An introduction to Japanese linguistics. / Tsujimura, Natsuko:Blackwell, 1996					
Introduction to typology. / Whaley, Lindsay J.:Sage, 1997					
参考書					
Language universals and linguistic typology. (2nd edition) / Comrie, Bernard:Univ. of Chicago Press., 1989					
メッセージ					
必ず予習をしてください。講義が終わった段階で、内容が理解できればそれでいい。					
連絡先					
人文617研究室					
mail-address:hirano01@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
未定					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011222002
開設科目名	言語学特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	林 伸一			区分	
授業の概要 <p>日本語教授法の一つとして考えた構成的グループ・エンカウンターについて体験的に理解する。実施の手順、留意点、効果などについて検討する。特にインストラクションの進め方、シェアリングのまとめかたなどについて、実際場面に近づけた形で実施しながら、授業参加者同士でディスカッションする。日本語教師になるための資質についても検討し、解説を加える。</p> <p>特に「言語と文化」の中では異文化間理解、「言語と教育」の分野では、第二言語習得の問題、「言語と心理」の中ではカウンセリングの分野を重点的に扱う。</p>					
授業の一般目標 <ol style="list-style-type: none"> 1、授業参加者間の人間関係・リレーションづくりを大切にす。 2、授業を通しての自己理解、他者理解、相互理解を促進する。 3、日本語教師・国語教師の役割と心構えなど教師論について考える。 4、日本語を教えるとは、どういう意味をもつのかを検討する。 5、適切なエクササイズを進め方、実施方法について考える。 					
授業の到達目標 <p>知識・理解の観点: 1、構成的グループ・エンカウンターとは何か説明できる。</p> <p>2、人間関係づくり・リレーションづくりの大切さを体験的に理解する。</p> <p>思考・判断の観点: 1、「言語と文化」の関係について考える。</p> <p>2、「言語と教育」の関係について考える。</p> <p>3、「言語と心理」の関係について考える。</p> <p>関心・意欲の観点: 1、外国人に日本語を教えることに関心と意欲をもつ。</p> <p>2、日本人同士の中にある異文化に関心と興味をもつ。</p> <p>3、異文化とのコミュニケーションに意欲と関心をもつ。</p> <p>態度の観点: 1、恥ずかしがらずに自己開示する。</p> <p>2、他者理解につとめ、他者を尊重する。</p> <p>技能・表現の観点: 1、他者の立場を尊重しながらも、自己主張する。</p> <p>2、自分の考えを率直に簡潔に言い、書ける。</p> <p>3、適切な質問力を身につける。</p> <p>その他の観点: 外国人留学生と日本人学生の交流を促進する</p>					
成績評価方法(総合) <p>主に授業内レポートと学期末課題レポートおよび出席により評価する。</p>					
教科書					
参考書					
メッセージ					

教員志望者、留学生の参加を歓迎する。

連絡先

E-mail: hayashix@yamaguchi-u.ac.jp

携帯: 090-6415-8203

オフィスアワー

人文学部2階210-2号室、オフィスアワー: 木曜11時~12時

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011222003
開設科目名	言語学特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	磯部 佳宏			区分	
授業の概要					
～ 文法論と文法学史～ 近世以前の文法学史を概観するとともに、近代以降の代表的な文法論を紹介しながら、日本語の文法研究史と、その特徴について考察する。					
授業の一般目標					
日本語の文法論と文法学史に関する基礎知識を身に付けるとともに、日本語の文法研究に関する諸問題について考える。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 日本語の文法論と文法学史に関する基本的な知識が身に付いているかを判断する。					
思考・判断の観点: 日本語の文法論と文法学史に関する基本的な知識を使って、思考力を判断する。					
関心・意欲の観点: 授業に対する取り組みを判断する。					
成績評価方法(総合)					
期末試験を主たる評価の対象とする。 毎回、授業時に用紙を配布し、出席の確認を兼ねて、指示する内容について記入してもらう。					
教科書					
国語文法論 / 渡辺実: 笠間書院, 1974					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011222004
開設科目名	言語学特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	更科 慎一			区分	
授業の概要					
中国語音声学入門 現代中国語(普通話)の発音を調音音声学的に探求する。世界の言語の中で中国語の音声的特徴、及び日本語との違いなどがよくわかることに重点を置いて授業を進めて行きたい。					
授業の一般目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・調音音声学の基本的な原理を理解する。 ・国際音声字母のうち諸言語の記述に高い頻度で現れるもの、及び中国語と関連する部分について、実際に発音できる。 ・現代中国語の発音について、区別の勘所がわかる。 					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 言語音の発出原理に関する基本的知識を身につけている。 常用される国際音声字母を見ておおむね理解することができる。</p> <p>思考・判断の観点: 自身の母語や現代中国語の発音について、音声学の観点から分析することができる。</p> <p>技能・表現の観点: 現代中国語音が正確に発音でき、聞き分けられる。 国際音声字母によって自身の母語と中国語の音を表記することができる。</p>					
成績評価方法(総合)					
学期末に提出させるレポートによるほか、授業への参加度も一定程度考慮する。					
教科書					
参考書					
実践音声学入門 / J.C.キャットフォード:大修館書店, 2006 一般音声学講義 / 城生佰太郎:勉誠出版, 2008 中国文化叢書 1・言語 / 牛島徳次, 香坂順一, 藤堂明保:大修館書店, 1967					
メッセージ					
連絡先					
更科慎一 研究室:人文516、電話:933-5250					
オフィスアワー					
月曜日 12:50-16:00					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011222005
開設科目名	言語学特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	赤羽 仁志			区分	
授業の概要					
<p>高校までに学習した英語の構文を現代の文法理論の一つである生成文法により捉え直しながら、英文法の理解を深める。授業では、様々な問題を提供してくれる補文を内蔵した構文を特に取り上げる。</p>					
授業の一般目標					
<p>生成文法における言語分析を通して英文法についての理解を深め、また、科学的思考力を養成する。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 英語の補文構造に関する様々な特徴を理解する。 思考・判断の観点: 具体的な文法現象について構造的に分析し、説明することができる。 技能・表現の観点: 専門用語を理解しながら、文章により論理的に説明ができる。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>期末試験により評価する。出席状況を加味することがある。</p>					
教科書					
参考書					
<p>英語の文法 / 村田勇三郎 成田圭市:大修館書店 英語学へのファーストステップ [改訂版] 英語構文論入門 / 有村兼彬 北峯裕土、小林敏彦、福田稔、古川武史:英宝社 英語類義語加詞の構文辞典 / 小野経男:大修館書店 英語の構文 / 田中智之 寺田寛:英朝社 スタンダード英文法 / 中島平三:大修館書店</p>					
メッセージ					
<p>高等学校レベルの英文法の参考書を通読しておくことを勧める。</p>					
連絡先					
<p>akahane@yamaguchi-u.ac.jp</p>					
オフィスアワー					
<p>特に設けず、アポイントメントによる。</p>					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011222006
開設科目名	言語学特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	和田 学			区分	
授業の概要					
<p>かな漢字変換など身近な技術の背景となる自然言語処理の基礎について学ぶ。また、自然言語処理の技術を学ぶことで、日ごろ意識することなく使っている「ことば」の特質についても目を向ける。</p>					
授業の一般目標					
<p>自然言語処理の基礎を理解すると同時に、言語に対し分析的思考が行えるようにする。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 自然言語処理の基礎を理解する。 思考・判断の観点: 言語に対し、分析的思考が行えるようにする。 態度の観点: 身近な技術の背景に目を向ける。</p>					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
kinjo@n-junshin.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011222007
開設科目名	言語学演習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	平野 尊識			区分	
授業の概要					
音声学を学ぶ。音声学は言語学の基本となる領域であり、これを理解していることで、その後の言語研究を有機的に進めることができる。演習では、調音音声学を中心に取り扱い、国際音声字母で表わされた音声の聞き取り練習と発音練習を行う。					
授業の一般目標					
辞書も文法書もない言語の分析は、まず音声を聞き取り、それを音声字母で表記することから始まる。その後、当該言語の文字を作り、単語をリストし、文法を記述する。言語研究の方法の第一歩を学ぶことを第一の目標とする。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 音声字母の内容の理解。					
関心・意欲の観点: 未知の言語への関心。					
態度の観点: 何度も練習する。					
成績評価方法(総合)					
テストに日頃の授業態度を加味して評価する。					
教科書					
音声学 / マルンベリ(大橋保夫訳) : 白水社, 1970					
参考書					
音声学 / 服部四郎: 岩波書店, 1951					
世界音声記号辞典 / Pullum & Ladusaw (土田滋 他訳) : 三省堂, 2003					
音声学 / 城生佰太郎: アポロン音楽工業, 1988					
メッセージ					
練習することが大事。恥ずかしがらないで練習しましょう。					
連絡先					
人文617研究室 mail-address:hirano01@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
未定					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011222008
開設科目名	言語学演習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	平野 尊識			区分	
授業の概要					
<p>英文で書かれた言語学の概説書を読むことにより、日本語を介さずに直接言語学に触れること、言語学の考え方、言語の分析を理解する。前期は語構成について学ぶ。</p>					
授業の一般目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 英語で書かれた言語学関係の文献を読みこなすこと。 2. 内容を理解すること。 3. 練習問題を解くこと。 4. 言語学の各分野に興味を持つこと。 					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 語形成、形態論の理解</p> <p>思考・判断の観点: 文に構造があるように、語にも構造があることを練習問題を通して理解する。</p> <p>関心・意欲の観点: 語形成論の学習によって、言語と言語学に興味を持つように。</p> <p>態度の観点: 予習をして演習に参加すること。</p> <p>技能・表現の観点: 内容を分かり易く説明できるか。</p>					
成績評価方法(総合)					
試験を中心に評価する。					
教科書					
Linguistics: An introduction. / Radford, Atkinson, Britain, Clahsen and Spencer: Cambridge Univ. Press. , 1999					
参考書					
メッセージ					
予習をして演習に参加する。					
連絡先					
<p>人文617研究室</p> <p>mail-address:hirano01@yamaguchi-u.ac.jp</p>					
オフィスアワー					
未定					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011222009
開設科目名	言語学演習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	磯部 佳宏			区分	
授業の概要					
～ 中古仮名文学の語法・語彙～ 『源氏物語』宇治十帖を演習形式で講読し、その語法・語彙について考察する。					
授業の一般目標					
中古仮名文学の語法・語彙について、自発的に問題点を探し、調査を行い、資料を作成して発表を行う。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 問題点の設定と取り組み。					
思考・判断の観点: 発表資料のまとめ方。					
関心・意欲の観点: 質疑応答への参加度。					
技能・表現の観点: 口頭発表における技術・表現。					
成績評価方法(総合)					
授業時の口頭発表 質疑応答への参加度。テキストの現代語訳 期末レポート。					
教科書					
青表紙本源氏物語 45 橋姫 / 秋山虔: 新典社					
参考書					
源氏物語(新日本古典文学大系) / 柳井滋他: 岩波書店 源氏物語(新編日本古典文学全集) / 阿部研次他: 小学館 源氏物語索引(新日本古典文学大系) / 柳井滋他: 岩波書店, 1999					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011222010
開設科目名	言語学演習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	本田 義昭			区分	
授業の概要					
基本的には1年次でドイツ語を履修していない学生のためのドイツ語速習コースですが、1年次でドイツ語を学んだ学生も初級文法の復習のために受講して構いません。ただし、受講できるのは2年生のみです。					
授業の一般目標					
ドイツ語の基礎力を養成するとともに、ドイツ語やドイツ語圏の国々の文化に関心を持つこと。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: ドイツ語の初歩を理解する。					
関心・意欲の観点: ドイツ語やドイツ語圏の国々の文化に強い関心を持つ。					
技能・表現の観点: ドイツ語の基本的な表現ができるようになる。					
成績評価方法(総合)					
平素の学習、特に授業への積極的参加を重視します。次のいずれかの場合は失格とします。1)最初の6回中3回欠席, 2)連続3回欠席, 3)通算4回欠席。					
教科書					
明るく楽しくドイツ語を！[三訂版] / 在間進 / 納屋昌宏 / 清野智昭:三修社					
参考書					
メッセージ					
自ら問題意識を持って授業に臨むと、進歩も速いです。授業への積極的な参加を期待しています。					
連絡先					
honda@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011223001
開設科目名	現代英米語概説			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	太田 聡			区分	
授業の概要					
英語学：言語学がまったくはじめての学生にもわかりやすく、英語言語学の全体像を紹介する。同時に、英文法の基本的かつ重要なトピックスを厳選したサブテキストを用いて、英文法の要点を今一度学ぶ時間にもしたい(授業のはじめの20分をこれに充てる)。					
授業の一般目標					
英語学研究(そして英語教員になるため)に必要な基礎知識をまんべんなく身に付ける。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 統語論、意味論、形態論、音声学、音韻論、語用論、英語史、社会言語学、心理言語学といった英語言語学の全領域をカバーする基礎知識を学び、重要概念や分析方法などが理解できるようになる。また、英語のネイティブスピーカーの「感覚」を理解しながら、英語の運用に欠かせない英文法のエッセンスをしっかりと掴む。					
思考・判断の観点: ことばの音、形、意味を生み出すさまざまな法則に気づき、自らも思考・分析ができるようになる。					
関心・意欲の観点: 英語の構造の分析を通して、ことばの中に見られる原理・原則や制約の働きに関心を持つ。					
態度の観点: 「ことばは暗記するもの」という考え方を捨て去る。					
技能・表現の観点: 本文の英文読解や付属のCDの聞き取りを通して、英語で考え、英語で発表するための素地を作る。					
成績評価方法(総合)					
毎回教科書にある Comprehension Check と Exercises を宿題とし、その出来具合によって主に評価する。また、サブテキストに関連した簡単なテストを随時行う。なお、出席も重視し、欠席1回につき5点ずつ期末評点から減点する。					
教科書					
First Steps in English Linguistics / 影山太郎他: ころしお出版, 2004 ハートで感じる英文法 / 大西泰斗, ポール・マクベイ: 日本放送出版協会, 2005					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
ohta@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011223002
開設科目名	英語生成文法			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	赤羽 仁志			区分	
授業の概要					
<p>高校までに学習した英語の構文を現代の文法理論の一つである生成文法により捉え直しながら、英文法の理解を深める。授業では、様々な問題を提供してくれる補文を内蔵した構文を特に取り上げる。</p>					
授業の一般目標					
<p>生成文法における言語分析を通して英文法についての理解を深め、また、科学的思考力を養成する。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 英語の補文構造に関する様々な特徴を理解する。 思考・判断の観点: 具体的な文法現象について構造的に分析し、説明することができる。 技能・表現の観点: 専門用語を理解しながら、文章により論理的に説明ができる。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>期末試験により評価する。出席状況を加味することがある。</p>					
教科書					
参考書					
<p>英語の文法 / 村田勇三郎、成田圭市:大修館書店 英語学へのファーストステップ [改訂版] 英語構文論入門 / 有村兼彬、北峯裕士、小林敏彦、福田稔、古川武史:英宝社 英語類義語加詞の構文辞典 / 小野経男:大修館書店 英語の構文 / 田中智之、寺田寛:英朝社 スタンダード英文法 / 中島平三:大修館書店</p>					
メッセージ					
<p>高等学校レベルの英文法の参考書を通読しておくことを勧める。</p>					
連絡先					
<p>akahane@yamaguchi-u.ac.jp</p>					
オフィスアワー					
<p>特に設けず、アポイントメントによる。</p>					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011223003
開設科目名	英語学特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	赤羽 仁志			区分	
授業の概要					
英語と日本語には様々な相違点が見出せる。例えば、英語では Mary bought a book. を A book bought Mary. のように語順を変えることができないのに対し、日本語では「花子が本を買った。」を「本を花子が買った。」とすることができる。このような表面的相違は、根本的にどのようなところから生ずるのか。生成文法の「原理とパラメタのアプローチ」の枠組みを前提に、英語と日本語の文法の比較を行う。					
授業の一般目標					
日・英語比較統語論の基礎を学ぶことにより、英語と日本語の理解を深める。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 英語と日本語の文法現象について理解する。					
思考・判断の観点: 日本語と英語の文法現象について、理論的に分析することができる。					
関心・意欲の観点: 言語の普遍性と体系的多様性に関心を持つ。					
成績評価方法(総合)					
期末試験により評価する。出席状況も加味することがある。					
教科書					
参考書					
Japanese Syntax in Comparative Grammar / 長谷川信子: くらしお出版, 1993					
The Oxford Handbook of Japanese Linguistics / Shigeru Miyagawa, Mamoru Saito: Oxford Univ Pr, 2008					
構造から見る日本語文法 / 三原健一: 開拓社, 2008					
新日本語の統語構造 ミニマリストプログラムとその応用 / 三原健一、平岩健: 松柏社, 2006					
Japanese Linguistics / Natsuko Tsujimura: Routledge, 2005					
メッセージ					
連絡先					
akahane@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
特に設けず、アポイントメントによる。					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011223004
開設科目名	英語学特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	和田 尚明			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011223005
開設科目名	英語学演習(文法と意味)			単位	2単位
対象学生				学年	2~3
担当教員	岩部 浩三			区分	
授業の概要					
英語学の専門論文を読み、内容を解説します。意味論・語用論の分野から論文を選んで使用します。					
授業の一般目標					
英語の論文に慣れ、自分で読めるようになる。あわせて、意味論・語用論の研究内容に触れ、関心を持つ。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 英語で書かれた論文の内容を把握して、専門的な概念などを例を用いて日本語で説明できる。さまざまな現象を理論的に整理することができる。					
関心・意欲の観点: 疑問点を明確にし、質問できる。論文の一部分だけでなく、全体を見る目を持ち、常に予習を進めながら授業に臨む。					
技能・表現の観点: 英語の専門論文を自力で読めるようになる。内容を適切な日本語で表現できる。					
成績評価方法(総合)					
定期試験の結果を重視します。また、演習における理解度や質問、全体を理解しようとする意欲を評価します。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
iwabe@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
金曜日 12:50-14:20 メールで事前にご連絡ください					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011223006
開設科目名	英語学演習(文法と意味)			単位	2単位
対象学生				学年	2~3
担当教員	赤羽 仁志			区分	
授業の概要					
英語で書かれたテキストの講読を行いながら、「ミニマリスト・プログラム」と呼ばれる生成文法の最近の枠組みを理解し、それをベースに英語の統語現象について考える基礎を養う。					
授業の一般目標					
英語の専門文献を読む力を養う。 統語論の議論の仕方を理解する。 英語の統語現象について説明ができるようになる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 文法範疇、統語構造、空範疇、主要部移動、演算子移動について理解する。					
思考・判断の観点: 統語現象がどのような仕組みにより生ずるのか(生じないのか)説明できる。					
技能・表現の観点: 専門的内容を分かり易く説明できる。					
成績評価方法(総合)					
授業への貢献(発表を含む)と期末レポートにより評価する。					
教科書					
Syntax: A minimalist introduction / Andrew Radford: Cambridge University Press, 1997					
参考書					
生成文法 / 渡辺明: 東京大学出版会, 2009					
Linguistics: An Introduction 2nd Ed. / Andrew Radford, Martin Atkinson, David Britain, Harald Clahsen, Andrew Spencer: Cambridge University Press, 2009					
Transformational Grammar: A First Course / Andrew Radford: Cambridge University Press, 1988					
チョムスキー 理論辞典 / 原口庄輔 中村捷編: 研究社					
Syntactic Theory and the Acquisition of English Syntax: The Nature of Early Child Grammars of English / Andrew Radford: Blackwell Pub, 1990					
メッセージ					
連絡先					
akahane@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
特に設けず、アポイントメントによる。					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011223007
開設科目名	英語学演習(形態と音声)			単位	2単位
対象学生				学年	2~3
担当教員	太田 聡			区分	
授業の概要					
<p>英語学をある程度学ぶと、英語の構造を日本語のそれと比較したくなるものです。この授業では、日本語を生成文法の枠組みで分析した優れた入門書をテキストにして、普段我々が使っている日本語の中にどのような構造や原理や制約があるのかを考察していきます。</p> <p>授業での解説や発表は、基本的に、英語で行います(行ってもらいます)。</p>					
授業の一般目標					
日本語の音韻・形態・統語・意味構造が、英語のそれらとどのように異なり、また、共通しているのかが分かるようになる。					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:日本語の構造と、その分析方法を知る。</p> <p>思考・判断の観点:諸制約や原理を使って、可能なパターンと不可能なパターンなどを説明できるようになる。</p> <p>関心・意欲の観点:自らもデータ収集を行って、テキストには載っていない例も、覚えた原理・原則などを当てはめて説明ができるかどうかを考える。</p> <p>態度の観点:質問等を積極的に行う。</p> <p>技能・表現の観点:理論の内容を理解するのみならず、問題点などにも気づき、それを分かりやすく指摘・発表できるようになる。</p>					
成績評価方法(総合)					
授業内での発表や、小テスト、および、課題レポートの出来具合によって総合的に評価する。出席を重視し、欠席1回につき、期末評点から5点ずつ減点する。					
教科書					
An Introduction to Japanese Linguistics (2nd ed.) / Natsuko Tsujimura : Blackwell , 2006					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
ohta@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011223008
開設科目名	英文学史			単位	
対象学生				学年	2～3
担当教員	池園 宏			区分	
授業の概要					
<p>英文学の歴史を時代の流れに沿って体系的に講義する。作家や作品の単なる羅列に止まらず、具体的な作品の読み方や文学用語などを広く解説する英文学概論の性格を持った授業である。配布プリント等によりできるだけ多くの作品の原典に触れる機会を提供しながら、各々の時代の文学思潮や文人たちの具体的な創作活動について説明する。</p>					
授業の一般目標					
<p>英文学の包括的内容を習得し、英文学研究の基礎固めを行う。同時に、様々な文学作品の内容やその時代的背景を学ぶことにより、広い意味での異文化理解を深める。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 英文学史の具体的な流れ、及び主要な作家や作品について説明できる。</p> <p>思考・判断の観点: 作家や作品がどのような歴史的背景の中に位置づけられるかを論理的に思考できる。</p> <p>関心・意欲の観点: 英文学に対する積極的な関心を持つ。</p> <p>態度の観点: 常に問題意識を持って議論に参加できる。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>(1) 授業の中で小テストを複数回実施する。</p> <p>(2) 学期末に試験を1回実施する。</p> <p>(3) 出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。</p>					
教科書					
イギリス文学史 / 川崎寿彦: 成美堂, 1988					
参考書					
メッセージ					
<p>(1) 英語学・英米文学コース2年生、及び同コース3年生で英米文学専攻の学生は前後期を通じて受講すること。</p> <p>(2) 毎回出欠確認をするので、欠席や遅刻をしないこと。</p>					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011223009
開設科目名	英米文学特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	宮原 一成			区分	
授業の概要					
20世紀、特にその後半の英語圏文学において、とみに急増した「現在時制の語り」を用いた作品について、その文体的効果を、個別的そして包括的に考えていきます。					
授業の一般目標					
文章の内容ばかりでなく、その文体にも目配りすることで、文学というコミュニケーションのあり方や背景的状况について深く考察できるようになる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 現行の基本的な時間論、文体論、及び現代英文学作品の基礎知識を把握している。					
思考・判断の観点: 文体の効果について理論を立て、もしくは先行研究を適切に取舍選択し、自分なりの一貫した思考を紡ぐことができる。					
態度の観点: 継続して課題に取り組む姿勢をもつ。					
技能・表現の観点: 思考結果を、首尾一貫した日本語論説文形式で表現できる。					
成績評価方法(総合)					
数回の小レポートと、学期末筆記試験。無断欠席が三回を超えると、単位は出さない。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
miyahara@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
初回授業時に知らせます。					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011223010
開設科目名	英米文学特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	皆尾 麻弥			区分	
授業の概要					
Nathaniel Hawthorne(1804-1864)の短編を読む。					
授業の一般目標					
『緋文字』等の長編小説が有名である Hawthorne であるが、その短編もまた、同時代の作家であるメルヴィルやポーによって高く評価された。格調高い文章の凝縮した彼の短編を丹念に読むことによって、彼が生涯持ち続けたテーマ、彼の作品の特徴などを、考察する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 作品の具体的内容を理解する。					
思考・判断の観点: 作家が一つ一つの言葉にこめた思いを正確に捉える。文章の裏に隠された意味を考えて読む。					
関心・意欲の観点: Hawthorne の作品を積極的に読む。					
成績評価方法(総合)					
学期末にレポートを提出					
教科書					
Selected Tales and Sketches / Nathaniel Hawthorne: Penguin					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011223011
開設科目名	英米文学特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	伊豆 大和			区分	
授業の概要					
20世紀前半のアメリカ小説について、それぞれの作品のテーマ・意義等を検討する。					
授業の一般目標					
外国文学を読み、研究することはどういふことをするのか。 このことについての意識・認識を高める。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: アメリカ文学についての知識・理解の確認					
思考・判断の観点: 講義内容を各自の論理・思考で表現する能力の確認					
関心・意欲の観点: 講義内容に対する興味・関心の度合いの確認					
成績評価方法(総合)					
期末試験により評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011223012
開設科目名	英米文学演習(小説)			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	池園 宏			区分	
授業の概要					
18世紀イギリスの文人 Oliver Goldsmith の小説 The Vicar of Wakefield を読む。作品の解釈や分析のみならず、英文法や発音など総合的な英語力の養成も行う。					
授業の一般目標					
(1)テキストを丹念に解釈することにより、Goldsmith の作家像及び 18 世紀英文学における位置づけを理解する。					
(2)英文法力や英文解釈力を身につける。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 作家や作品の具体的内容を説明できる。					
思考・判断の観点: 作品に盛り込まれた諸テーマを分析できる。					
関心・意欲の観点: 小説を読み解く行為に関心を持つ。					
態度の観点: 常に問題意識を持って議論に参加できる。					
成績評価方法(総合)					
(1)試験は学期末に1回実施する。					
(2)出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。					
教科書					
The Vicar of Wakefield / Oliver Goldsmith : Penguin , 1982					
参考書					
メッセージ					
(1)一年間を通して一人の作家に取り組むため、前後期を通して受講すること。					
(2)毎回出欠確認をするので、欠席や遅刻をしないこと。					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011223013
開設科目名	英米文学演習(詩・劇)			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	田中 晋			区分	
授業の概要					
英詩入門コース。チャオサーから現代に至るイギリスの名詩を、自然、愛、美、宗教、思想、その他の分野に亘って精しく鑑賞する。					
授業の一般目標					
英詩の世界に親しみその諸相を知り、言葉の魅力に触れて、英文学理解の上での基礎的必要知識を備える。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 英詩の語法を理解し、名詩の本質を知る。					
思考・判断の観点: 自分の解釈をもって教室に出る。					
関心・意欲の観点: 自ら多くの詩に親しむ。					
態度の観点: 積極的に授業に参加する。					
技能・表現の観点: はっきりした声で発表ができる。					
成績評価方法(総合)					
期末試験の結果に平常点(出席、受講態度等)を加味する。					
教科書					
Seasonal Poems of England / Peter Milward 編・川崎寿彦注: 南雲堂					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011223014
開設科目名	英米文学講読			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	宮原 一成			区分	
授業の概要					
英語文学作品をきちんと訳読し、鑑賞します。作品の持つテーマについて各自考察してもらいます。題材は、現代英国人作家 Susan Hill の作品を二作収めた短篇集を使用します。					
授業の一般目標					
文化背景と感情・思考・会話の流れという、各種の文脈がすべてそろった文芸作品という絶好の読解教材を読みこなすことを通じて、真の読解力を錬成する。					
英語小説を読むための技法をいくつか習得する。					
作品世界やテーマについて、自分なりの所見を持つ。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 丹念に調べて、英文の意味を、流れの中で正確に理解できる。					
思考・判断の観点: 作品に込められたテーマについて、自分なりの所見を言語化できる。					
態度の観点: 自分の所見を積極的に発表し、議論に寄与できる。					
技能・表現の観点: 効果的・機能的な翻訳ができる。					
成績評価方法(総合)					
毎回の試読の出来と発表内容、及び他人の発表に対する建設的なコメントの3点から評価する。学期末試験は実施しない。無断欠席が3回を超えたら「不合格」とする。					
教科書					
『A Bit of Singing and Dancing』 / Susan Hill: 南雲堂, 1985					
参考書					
メッセージ					
まずは、構文理解と文法知識の再確認を優先しますが、内容テーマに関わる意見発表は大歓迎です。					
連絡先					
miyahara@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
初回授業時に知らせます。					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011223015
開設科目名	英米文学講読			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	皆尾 麻弥			区分	
授業の概要					
Henry James(1843 - 1916) の中篇 The Aspern Papers(1888)を読む					
授業の一般目標					
James の文章の魅力・特徴・表現の手法等にも注目しながら、正確に読む。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: テキストを正確に読むことができる					
思考・判断の観点: 難解な表現や文章を、知識と想像力によって解釈することができる					
関心・意欲の観点: James の作品に好奇心を持つ					
成績評価方法(総合)					
学期末にレポートを提出。普段の授業への取り組みも評価の対象になります。					
教科書					
The Aspern Papers and the Turn of the Screw / Henry James: Penguin					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011223016
開設科目名	英会話			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	EDWARDS NATHANIEL TYLER			区分	
授業の概要					
<p>1) Students will work together in pairs and groups to complete a variety of fun and interesting English activities.</p> <p>2) Students will increase their vocabulary on different useful topics.</p> <p>3) Students will learn and practice new study techniques.</p> <p>4) Students will ask and answer questions, using their own opinions.</p> <p>5) Students will use English to make plans, and to give short presentations.</p> <p>6) Students will learn how to use word and sentence stress.</p> <p>7) Students will write and perform role plays in different situations, and use gestures.</p>					
授業の一般目標					
This course is for students who wish to improve their English speaking, listening, communication, and presentation skills.					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
Final Written and Oral Exam: 30% of Final Grade.					
Homework and Reports: 30%					
Attitude and Participation: 20%					
Presentations: 20%					
教科書					
Synergy 4 / Adrian Tennant: MacMillan, 2006					
参考書					
メッセージ					
Bring your dictionary and textbook to every class.					
連絡先					
ca72@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
14:30 16:00 (木)					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011223017
開設科目名	英会話			単位	2単位
対象学生				学年	3～3
担当教員	EDWARDS NATHANIEL TYLER			区分	
授業の概要					
<p>1) Students will work together in pairs and groups to complete a variety of fun and interesting English activities.</p> <p>2) Students will increase their vocabulary on different useful topics.</p> <p>3) Students will learn and practice new study techniques.</p> <p>4) Students will ask and answer questions, using their own opinions.</p> <p>5) Students will use English to make plans, and to give short presentations.</p> <p>6) Students will learn how to use word and sentence stress.</p> <p>7) Students will write and perform role plays in different situations, and use gestures.</p>					
授業の一般目標					
This course is for students who wish to improve their English speaking, listening, communication, and presentation skills.					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
Final Written and Oral Exam: 30% of Final Grade.					
Homework and Reports: 30%					
Attitude and Participation: 20%					
Presentations: 20%					
教科書					
Move Ahead / Nicholas Sampson : MacMillan Language House , 1999					
参考書					
メッセージ					
Bring your dictionary and textbook to every class.					
連絡先					
ca72@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
14:30 16:00 (木)					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011223018
開設科目名	英会話			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	EDWARDS NATHANIEL TYLER			区分	
授業の概要					
<p>1) Students will work together in pairs and groups to complete a variety of fun and interesting English activities.</p> <p>2) Students will increase their vocabulary on different useful topics.</p> <p>3) Students will learn and practice new study techniques.</p> <p>4) Students will ask and answer questions, using their own opinions.</p> <p>5) Students will use English to make plans, and to give short presentations.</p> <p>6) Students will learn how to use word and sentence stress.</p> <p>7) Students will write and perform role plays in different situations, and use gestures.</p>					
授業の一般目標					
This course is for students who wish to improve their English speaking, listening, communication, and presentation skills.					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
Final Written and Oral Exam: 30% of Final Grade.					
Homework and Reports: 30%					
Attitude and Participation: 20%					
Presentations: 20%					
教科書					
Synergy 4 / Adrian Tennant: MacMillan, 2006					
参考書					
メッセージ					
Bring your dictionary and textbook to every class.					
連絡先					
ca72@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
14:30 16:00 (木)					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011223019
開設科目名	英作文			単位	2 単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	EDWARDS NATHANIEL TYLER			区分	
授業の概要					
<p>1) Students will read many different types of English writing as models for their own writing.</p> <p>2) Useful writing skills and strategies will be reviewed and practiced.</p> <p>3) Key grammar points will be reviewed and practiced.</p> <p>4) Students will increase their vocabulary on a variety of topics.</p> <p>5) Students will learn and use new study techniques.</p> <p>6) Students will also practice some speaking and listening by discussing their writing in pairs and small groups.</p>					
授業の一般目標					
This course is for students who wish to improve their English writing and reading skills, using a variety of different types of writing.					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
<p>Final Written Exam: 20% of Final Grade.</p> <p>Homework and Reports: 60%</p> <p>Attitude and Participation: 20%</p>					
教科書					
Reading Challenge 2 / Casey Malarcher, Andrea Janzen : Compass Publishing , 2005					
参考書					
メッセージ					
Bring your dictionary and textbook to every class.					
連絡先					
ca72@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
14:30 16:00 (木)					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011223020
開設科目名	英米事情			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	EDWARDS NATHANIEL TYLER			区分	
授業の概要					
<p>1) Students will work together in groups to complete discussion activities.</p> <p>2) Students will ask and answer questions, using their own opinions.</p> <p>3) Students will increase their vocabulary and knowledge related to the society and culture of English-speaking countries.</p> <p>4) Students will improve their reading by reading about the society and culture of English-speaking countries.</p> <p>5) Students will learn and practice new study techniques.</p> <p>6) Students will improve their writing by writing short reports.</p>					
授業の一般目標					
This course is for students who wish to learn more about daily life, society, and culture in English-speaking countries. This course includes speaking, listening, reading, and writing practice.					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
Final Written Exam: 30% of Final Grade.					
Homework and Reports: 50%					
Attitude and Participation: 20%					
教科書					
New York Streets / Tsuyoshi Kanamori, Braven Smillie: Kinseido, 2009					
参考書					
メッセージ					
Bring your dictionary and textbook to every class.					
連絡先					
ca72@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
14:30 16:00 (木)					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011224001
開設科目名	ヨーロッパ言語概説(ドイツ)			単位	2単位
対象学生				学年	1～3
担当教員	本田 義昭			区分	
授業の概要					
現代ドイツ語の諸相について概説します。前期は、「世界中のドイツ語」、「ドイツ語の特徴」、「ドイツ語と英語との関係」、「ドイツ語の方言」などのテーマを扱う予定です。					
授業の一般目標					
現代ドイツ語についての基礎的知識を養う。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 現代ドイツ語についての基礎的知識を養う。					
思考・判断の観点: 言語が異なることが思考形式の違いにも影響を及ぼしていることを認識する。					
関心・意欲の観点: 言語と文化との関係を学ぶことで、異文化への関心を深める。					
成績評価方法(総合)					
平素の学習、特に授業への積極的参加を重視します。次のいずれかの場合は失格とします。1)最初の6回中3回欠席, 2)連続3回欠席, 3)通算4回欠席。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
共通教育で習うドイツ語を、別の観点から眺めてみませんか？					
連絡先					
honda@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011224002
開設科目名	ドイツ語学特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	下寄 正利			区分	
授業の概要					
ドイツ語の特徴を、英語と比較しつつ、様々な観点から論じてゆく。					
授業の一般目標					
ドイツ語の特徴について理解しているとともに、ドイツ語学の基本的なところがある程度身に付いている。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: ドイツ語の特徴について理解しているとともに、ドイツ語学の基本的なところがある程度身に付いている。					
成績評価方法(総合)					
期末テストにより評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011224003
開設科目名	ドイツ語学演習			単位	
対象学生				学年	2～3
担当教員	下寄 正利			区分	
授業の概要					
ドイツ語の時制動詞の問題について、いくつかの文法書(原書)を読みつつ考察する。					
授業の一般目標					
ドイツ語の時制動詞の問題点について、概略を理解している。あまり難しいものでなければ、ドイツ語の原書を一人で読みこなせるほど、ドイツ語読解力がついている。授業で得た知識をもとに、自分なりの論を展開できる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: ドイツ語の時制動詞の問題点について、概略を理解している。					
思考・判断の観点: 授業で得た知識をもとに、自分なりの論を展開できる。					
関心・意欲の観点: ドイツ語あるいは言語全般について、常に関心を持っている。					
態度の観点: 分からないことについては、自ら様々な文献にあたり、調べることができる。					
技能・表現の観点: あまり難しいものでなければ、ドイツ語の原書を一人で読みこなせるほど、ドイツ語読解力がついている。					
成績評価方法(総合)					
演習店とレポートによる。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011224004
開設科目名	ヨーロッパ文学入門(ドイツ)			単位	
対象学生				学年	2~3
担当教員	坂本 貴志			区分	
授業の概要					
ドイツ文学、ヨーロッパ文化に関する様々なテーマを取り上げて、視覚的イメージを多く参照しつつ、文化的思想的背景をふまえながら紹介する。					
授業の一般目標					
未知なる世界に対して目を開く。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
期末レポートによる。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011224005
開設科目名	ドイツ文学演習			単位	
対象学生				学年	2～3
担当教員	坂本 貴志			区分	
授業の概要					
ゲーテ『ファウスト』を読む。					
授業の一般目標					
『ファウスト』を、ルネサンスを経由して近代に伝わった、古代からの伝統的思想内容(ヘルメス思想、新プラトン主義、オルフェウス教など)を手がかりにして理解するように試みる。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
授業内レポートと期末のレポートによる。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011224006
開設科目名	ドイツ文学演習			単位	
対象学生				学年	2～3
担当教員	HINTEREDER EMDE FRANZ			区分	
授業の概要					
ドイツ文学にはドイツやヨーロッパの文化に織り込まれています。この演習ではドイツ文化について様々な側面から勉強していきます。ドイツ関係の情報やニュース、又は、文学・芸術作品などの文献や資料を読みながら、討論や発表していきます。					
授業の一般目標					
ドイツ語の文献や資料を分析して、レポートや発表にまとめることを身につけて、ドイツ語圏文化の総合的な知識や理解が目標です。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: ヨーロッパの文化を背景とするドイツ語圏の文化を理解する。					
思考・判断の観点: 資料を文化的背景に関連づけて理解できること。					
技能・表現の観点: ドイツ語の資料を分野に従って収集・分析して、発表ができること。					
成績評価方法(総合)					
授業での発表:40%、授業内外のドイツ語のレポート:40%、授業への参加や積極的な態度:20%					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
電話 933 - 5687					
mail emde@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
月曜日 12:50 ~ 14:20					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011224007
開設科目名	ドイツ語講読			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	本田 義昭			区分	
授業の概要					
基本的には1年次でドイツ語を履修していない学生のためのドイツ語速習コースですが、1年次でドイツ語を学んだ学生も初級文法の復習のために受講して構いません。ただし、受講できるのは2年生のみです。					
授業の一般目標					
ドイツ語の基礎力を養成するとともに、ドイツ語やドイツ語圏の国々の文化に関心を持つこと。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: ドイツ語の初歩を理解する。					
関心・意欲の観点: ドイツ語やドイツ語圏の国々の文化に強い関心を持つ。					
技能・表現の観点: ドイツ語の基本的な表現ができるようになる。					
成績評価方法(総合)					
平素の学習、特に授業への積極的参加を重視します。次のいずれかの場合は失格とします。1)最初の6回中3回欠席, 2)連続3回欠席, 3)通算4回欠席。					
教科書					
明るく楽しくドイツ語を！[三訂版] / 在間進 / 納屋昌宏 / 清野智昭:三修社					
参考書					
メッセージ					
自ら問題意識を持って授業に臨むと、進歩も速いです。授業への積極的な参加を期待しています。					
連絡先					
honda@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011224008
開設科目名	ドイツ語講読			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	HINTEREDER EMDE FRANZ			区分	
授業の概要					
<p>色々なドイツ文化圏やヨーロッパに関する今日的な話題を取り上げているエッセイや新聞記事やインターネットのホームページなどの資料を解読する。ドイツ社会における問題(少子化、失業など)、大学や一般教育の危機や、いまはやりのファッションやライフスタイルなどを扱うテキストを通じて、今日のドイツ人の生活感や考え方を考察する。</p>					
授業の一般目標					
<p>文学理解に欠かせない、現代ドイツの歴史、社会や日常生活を様々なメディアを通じて勉強する。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:ドイツやヨーロッパの社会や文化への関心や理解を深める。 関心・意欲の観点:自発的にドイツ語の資料を読み進め、積極的にドイツ語の語彙や読解力を増やし、内容について討論をする。 技能・表現の観点:資料の収集や纏め、そして発表の方法を取得する。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>小テスト・授業内レポート:30%、宿題・授業外レポート:30%、授業態度・参加:10%、発表・プレゼンテーション:30%</p>					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
<p>電話 933 - 5687 mail emde@yamaguchi-u.ac.jp</p>					
オフィスアワー					
<p>月曜日 12:50～14:20</p>					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011224009
開設科目名	ドイツ語会話			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	DOBRA FELICITAS VIKTORIA			区分	
授業の概要					
<p>本授業は、まず第一に基礎的なコミュニケーション能力を身につけさせる、言い換えれば、一年目に学んだことを復習し、確かなものにするを目的とする。文型は、より意識的に応用されなければならない。これらの文型は、学生によってパートナー練習やグループ練習の中で練習され、学生の生活やさまざまなコミュニケーションの状況に関連する文例によって補強される。教科書の文章は、ドイツ事情を伝える内容である。各課の終わりに、日本語による文法の説明がある。</p>					
授業の一般目標					
<p>学生は提示された文型に従って、簡単な会話を行える程度の知識を習得することができる。話すことと発音練習がこの授業の重点である。文法は授業の目的ではないが、目標に到達するために通らねばならぬ道である。したがって、各課の文法も教授され、習得されたかどうか吟味される。文法は、コミュニカティブに有意な練習を通じて伝えられる。学生は教科書の中に描写されたいくつかのシチュエーションによって、文化間の相違を確認することができる。授業の重点は、教科書の題名に示唆されている「問題発見」にある。学生は、これまでに学んできたことを思い出しながら、世界についての自己の知識を活用して、比較的最近に学んだ新しい言語で言い表すことができる。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:教科書には聴解と発音の訓練用のCDが付属している。音声練習が学生の理解を助け、聴解力を鍛えるであろう。自分自身が話すときにはなまりがあるにしても、大きな声ではっきりと話すように努めるべきである。</p> <p>思考・判断の観点:学生は語彙を増やし、会話文の構造を習得し、自分の生活の中から取り出した情報を会話文型の中に組み入れることができるようにならなければならない。一学期終わったところで、教科書の会話文をお手本にして自分自身の文章を作って、コミュニケーションを行うことができるようになる。パートナー練習は、授業の一つの構成要素である。宿題は学習効果を高め、一步一步段階的にコミュニケーション・テストの会話構成部分を習得させる。多くの自主性が要求される。</p> <p>関心・意欲の観点:学生と教師は、感情を通わせ会って話すように努める。緊張は、楽しい練習プリントや歌および自由会話練習(プリント無し)によって緩和されるであろう。授業は学生と教師双方によって楽しいものに形成されていくべきである。</p> <p>態度の観点:班別のチームワークでは、学生同士でお互いに協力し、積極的に授業に参加すること。</p> <p>技能・表現の観点:学生は、コミュニケーションにとって重要な表現を表情豊かに話すことを学ぶ。</p> <p>その他の観点:本授業を履修する以上、規則正しい出席と教科書の購入は必須である。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>期末試験: 筆記テスト(L.6)と会話テスト(Lektion 1-5)(どちらも定期試験期間中に実施)</p>					
教科書					
<p>モデル問大発見のドイツ語2 Modelle 2 / アンドレアスリースランド藁谷郁美木村クリストフごろう平高史也; 三修者, 2005</p>					
参考書					
メッセージ					
<p>辞書持をでも電子辞書を持って来てください。</p>					
連絡先					

dobra@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

山口吉田研究室

オフィスアウア - :水曜日:12:30時~13:30時

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011224010
開設科目名	ドイツ語会話			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	DOBRA FELICITAS VIKTORIA			区分	
授業の概要					
2年生で学んだドイツ語の知識をもとに、実践的な演習をもとにして、ドイツ語による日常会話ができるようにする。					
授業の一般目標					
ディスカッションを通して与えられた問題を解決する・子供時代の夢、思い出を話す・自分の将来の夢、希望を話す・気持ち、興味を表現する・ドイツの過去、現代社会における家庭の役割を学び、日本のそれと比較する等、自分の考えをドイツ語で表現できるようになる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 教科書には聴解と発音の訓練用のCDが付属している。音声練習が学生の理解を助け、聴解力を鍛えるであろう。自分自身が話すときにはなまりがあるにしても、大きな声ではっきりと話すように努めるべきである。					
思考・判断の観点: 学生は語彙を増やし、会話文の構造を習得し、自分の生活の中から取り出した情報を会話文型の中に組み入れることができるようにならなければならない。一学期終わったところで、教科書の会話文をお手本にして自分自身の文章を作って、コミュニケーションを行うことができるようになる。パートナー練習は、授業の一つの構成要素である。宿題は学習効果を高め、一步一步段階的にコミュニケーション・テストの会話構成部分を習得させる。多くの自主性が要求される。					
関心・意欲の観点: 学生と教師は、感情を合わせ会って話すように努める。緊張は、楽しい練習プリントや歌および自由会話練習(プリント無し)によって緩和されるであろう。授業は学生と教師双方によって楽しいものに形成されていくべきである。					
技能・表現の観点: 学生は、コミュニケーションにとって重要な表現を表情豊かに話すことを学ぶ。					
態度の観点: 班別のチームワークでは学生同士でお互いに協力し政策的に授業参加すること。					
技能・表現の観点: 学生は、コミュニケーションにとって重要な表現を表情豊かに話すことを学ぶ。					
その他の観点: 本授業を履修する以上、規則正しい出席と教科書の購入は必須である					
成績評価方法(総合)					
会話テスト / 出席 / レポート / 授業の態度					
教科書					
モデル3問大発見のドイツ語 Modelle 3 / 史哉平高 / アンドレアスリースランド / 郁美藁谷 / 木村語郎クリストフ / マルコラインデル:三修者, 2006					
参考書					
メッセージ					
辞書か電子辞書持って来て下さい。ただ会話が一番です。					
連絡先					
dobra@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
山口 吉田 研究室 ドーブラ 共通教育 3F 水曜日 12:30～13:30					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011224011
開設科目名	ドイツ語作文			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	本田 義昭			区分	
授業の概要					
ドイツ語の初級文法で学んだ事項を応用して、ドイツ語の文章を作成する練習を積み重ねて行きます。					
授業の一般目標					
ドイツ語の文章を作成する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: ドイツ語の文の構造および各文法事項に関する知識を深める。					
思考・判断の観点: 日本語とは異なる発想に触れて、世界を複眼的に見れるようになる。					
関心・意欲の観点: 自分が思っていることをドイツ語という形で発信する積極性を養う。					
技能・表現の観点: ドイツ語の文を作成する能力を養う。					
成績評価方法(総合)					
平素の学習、特に授業への積極的参加を重視します。次のいずれかの場合は失格とします。1)最初の6回中3回欠席, 2)連続3回欠席, 3)通算4回欠席。					
教科書					
作文でマイスター / 江坂哲也:白水社, 2003					
参考書					
メッセージ					
ドイツ語の基本文を暗記していると、購読や会話にも非常に役立ちます。授業への積極的な参加を期待しています。					
連絡先					
honda@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011224012
開設科目名	ヨーロッパ言語概説(フランス)			単位	
対象学生				学年	2~3
担当教員	武本 雅嗣			区分	
授業の概要					
この授業は、現代フランス語の中・上級文法のクラスである。初級文法をすでに学んでいることを前提に講義を行っていく。今年度は、冠詞・代名詞・前置詞・時制・法について解説する(来年度は、様々な構文を取り上げる)。英語とも比較しながら分析していく。					
授業の一般目標					
現代フランス語についての理解を深める。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: フランス語の冠詞・代名詞・前置詞・時制・法について深く理解する。					
思考・判断の観点: 英語との異同を考察し、分析できる。					
成績評価方法(総合)					
期末試験: 80%					
授業態度や授業への参加度: 20%					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
人文612 研究室					
オフィスアワー					
火曜日 16:10 ~ 17:40					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011224013
開設科目名	フランス語学特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	武本 雅嗣			区分	
授業の概要					
<p>この授業では、まず、習得のための語学ではなく、研究対象として言語を観察するための基本的な事項を確認し、言語学的観点からのフランス語研究について概観する。そして、フランス語を日本語と比較・対照しながら、言語と話し手・聞き手の関係、あるいは言語と世界のありかたが、双方の言語でどのように違うかということを考える。具体的には、人称代名詞、動詞の時制、法、そして名詞句の定・不定といった文法事項をあつかいながら、フランス語が、言語によって構築される世界の中に、話し手、聞き手、それ以外のものやできごとを明示的に位置づけようとする言語であるのについて、日本語では、そのような位置づけは発話の現場の状況に依存する傾向が強いことを考察する。そして、言語の違いが、事態のとらえかたといったより深い部分での違いにつながることを確認したい。</p>					
授業の一般目標					
<p>言語の違いが、表面的な単語や文法のしくみの違いを超えて、言語によってどのように世界を構築してゆくかということについての違いに関わるものであることを理解し、最終的には、その違いが、言語による「世界観」の違いであるということの理解にいたることを目標とする。</p>					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 一般言語学的観点からのフランス語研究とは何かということについての知識と、方法論の理解					
思考・判断の観点: フランス語的発想を言語の面からとらえる。					
関心・意欲の観点: 文法項目を、単なる規則としてではなく、納得して理解する。					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
<p>「言語学とは何か」といった基本的なレベルから出発して、フランス語を題材にしながら、なるべく深い話ができればと思っています。講読などはないので、フランス語の読解能力などは問いませんが、最低初級文法レベルの知識は必要です。</p>					
連絡先					
<p>質問などがあれば、以下のアドレスまで問い合わせてください。 tomonori@ipcku.kansai-u.ac.jp</p>					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011224014
開設科目名	フランス語学演習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	武本 雅嗣			区分	
授業の概要					
今年度は、Le gerondif en francais を読んでいく。					
授業の一般目標					
フランス語で書かれた論文を読むことによって、フランス語学の知識を深めるだけでなく、論文の書き方や議論の展開の仕方も学んでいく。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 論文を正確に読める。					
思考・判断の観点: 疑問点を解決する					
関心・意欲の観点: 議論に参加できる。					
成績評価方法(総合)					
レポート:60%					
授業内発表:40%					
教科書					
参考書					
メッセージ					
毎回予習してくること。					
連絡先					
人文612 研究室					
オフィスアワー					
火曜日 16:10～17:40					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011224015
開設科目名	フランス文学特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	井上 三朗			区分	
授業の概要					
<p>講義題目を、「ジュリアン・グリーン」の青春時代とし、フランソワ・モーリアックとともに、20世紀フランスのカトリックの代表的な作家である、ジュリアン・グリーン</p> <p>の青春時代を概観する。はじめに、グリーンの子ども時代、思春期および留学時代をごく簡単に説明したあと、1922年7月から1924年11月までの、彼の青春時代を検討する。まず外的・表面的な生をたどり、次に感情生活、それから肉体生活、そして信仰生活を瞥見したい。そうすることによって、ひとりの人間が青春時代をどのように生きたのかを、具体的に知りたい。</p>					
授業の一般目標					
<p>この授業は、ひとりの作家の生涯の一時期に焦点を合わせたものであり、評伝の一環をなす。伝記研究は、文学研究のひとつの方法である。作家の生涯と作品との関連を明らかにすることによって、文学研究の参考材料を提供することができれば幸いである。また、ひとりの人間が青春時代をどのように生きたかを、具体的に知ることによって、生きる指針を得ることができれば幸いである。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:キリスト教(カトリック)文学がいかなるものであるのかを、知ることができる。</p> <p>思考・判断の観点:ひとりの人間として生きるとは何であるのかを、考えることができる。</p> <p>関心・意欲の観点:自伝の文学に関心を持つことができる。</p>					
成績評価方法(総合)					
試験の点数と平常点との総合。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
授業への積極的な参加を望む。					
連絡先					
613研究室。					
オフィスアワー					
14時30分～16時00分。					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011224016
開設科目名	フランス語講読			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	武本 雅嗣			区分	
授業の概要					
この授業は、ヨーロッパ言語・文学コースに入った、フランス語未履修の2年生のための半年間のクラスである。					
授業の一般目標					
半年でフランス語の基本文法を体系的に習得することを目標とする。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: フランス語の基本的な文法事項を体系的に習得する。					
思考・判断の観点: 初歩的なフランス語運用能力を身につける。					
関心・意欲の観点: フランス語を「話す」ことや「読む」ことへの意欲が向上する。					
技能・表現の観点: 様々な言い回しを憶えることで、簡単な会話ができるようになる。多種多様なテキストが読めるようになる。					
成績評価方法(総合)					
期末試験の点数(70点)と平常点(30点)との合計。					
教科書					
参考書					
プログレッシブ仏和辞典 / 大賀正喜他:小学館, 2008					
クラウン仏和辞典 / 天羽均:三省堂, 2006					
プチ・ロワイヤル仏和辞典 / 倉方秀憲他:旺文社, 2003					
メッセージ					
毎回新しい文法事項を学んでいくので休まず出席すること。					
小テストはほぼ毎回行う。					
連絡先					
人文学部612研究室					
オフィスアワー					
火曜日 16:10～17:40					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011224017
開設科目名	フランス語講読			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	井上 三朗			区分	
授業の概要					
20世紀の小説家・批評家である、アンドレ・モロワの短編小説『捕虜の帰還』と『雪の中の少女』とをテキストとして用いる。これらの作品を味読・精読することで、小説を読むことによるよこびを味わいたい。授業では、発音の練習と文法の説明を徹底的におこなう。また、時間的余裕があれば、作品の分析もおこないたいと思っている。					
授業の一般目標					
小説のフランス語に慣れるとともに、フランス語の読解力の養成を目指す。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 小説のフランス語の読解力を養うことができる。アンドレ・モロワの作品世界を知ることができる。					
思考・判断の観点: 短編小説の作り方について考えることができる。					
関心・意欲の観点: 小説を読むよこびを味わうことによって、文学に興味を持つことができる。					
成績評価方法(総合)					
定期試験の点数(50点)と平常点(50点)との総合。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
授業への積極的な参加を望む。					
連絡先					
613研究室。					
オフィスアワー					
14時30分～16時00分。					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011224018
開設科目名	フランス語講読			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	井上 三朗			区分	
授業の概要					
比較的平易なフランス語で書かれたテキストを教科書として用い、最新の社会背景や文化問題など、フランスで起こったさまざまな時事問題を学ぶ。現代のフランス事情を知り、現代フランスがかかえている諸問題について考える。授業では、発音の練習や文法の復習・説明を徹底的におこなう。					
授業の一般目標					
時事フランス語の読解力の養成を目指す。現代のフランス事情への関心を高めることも目指す。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 時事フランス語の読解力を養うことができる。現代のフランス事情を知ることができる。					
思考・判断の観点: 異文化に触れることによって、相対的・批判的な視点を持つことができる。					
関心・意欲の観点: 日本人の価値観とは異なった価値観に対して興味を持つことができる。					
成績評価方法(総合)					
定期試験の点数(50点)と平常点(50点)との総合。					
教科書					
ヴァリエテ・フランセーズ2009 / クリスチャン・ボームルー : 朝日出版社, 2009					
参考書					
メッセージ					
授業への積極的な参加と毎回の予習とを望む。					
連絡先					
613研究室。					
オフィスアワー					
14時30分～16時00分。					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011224019
開設科目名	フランス語会話			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	Beausir Jean Claude			区分	
授業の概要					
このコースは初級フランス語を総合的にレベルアップさせ、フランス語での基礎的なコミュニケーションに積極的に参加できるような理解力と表現力を習得することを目標にしています。					
授業の一般目標					
この講座は、フランス語を学ぶ学生のために簡単な挨拶や日常会話を取り入れながら、初級～中級フランス語を習得して伝達力を伸ばすことを目指します。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 漠然とした曖昧な知識ではなくフランス語自体の仕組み、文法を芯から理解することを目標としています。					
関心・意欲の観点: フランス語以外のこと(文化、歴史、音楽、雑学)などにも自分から興味を持ち視野を広げ柔軟性のある思考力を養います。					
成績評価方法(総合)					
一回の会話定期考査と平均点(授業態度、出席状況など)を総合的に評価します。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011224020
開設科目名	フランス語作文			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	平山 豊			区分	
授業の概要					
動詞の直説法、条件法、接続法のさまざまな時制に基づく文例を、単純な文型から順次複雑な文型へと進める。更には平叙文、疑問文、否定文、命令文など文の種類も授業ごとの基軸単位になる。またニュアンス表現や語法にも留意しながら作文をする。					
授業の一般目標					
日本語の文を出発点に、一語一語の逐語訳ではなく、フランス語の文法規則を踏まえた、自然なフランス語を作る練習をする。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 動詞の活用、慣用表現、慣用語法の習得。					
思考・判断の観点: 異なった視点による物事の把握					
技能・表現の観点: 正確な表現の実現。					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
仏作文のキー・ポイント / 戸部松美:三修社, 2008					
フランス語作文の基礎 / 中原俊夫:白水社, 2008					
1からはじめるフランス語作文 / 山田博志、フランク・ヴィラン:白水社, 2008					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011225001
開設科目名	一般言語学			単位	2単位
対象学生				学年	1～3
担当教員	乾 秀行			区分	
授業の概要					
<p>「一般言語学」とは、日本語や英語などの個別言語に特化されることなく、人間の言語一般に当てはまる「ことば」について考える学問です。この授業では、具体的な言語現象(主に日本語)を取り上げながら、言語学では言語というものをどのように扱っているかを、できるだけわかりやすく説明します。皆さんは大なり小なり「ことば」に関心があると思いますが、言語学を勉強することで、ことばのしくみについての理解が深まるでしょうし、今まで間違っていた理解がたぶん見つかるはずですよ。ことばについての新たな発見の旅をはじめませんか? 「一般言語学」では、言語学の歴史、音のしくみ(一般音声学および音韻論)、形態のしくみ(形態論)、文法のしくみ(統語論)について、その研究方法を概説します。</p>					
授業の一般目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 言語学とはどういう学問であるかを理解する。 2. 言語学の主要分野についての理解を深める。 3. 言語の多様性を理解する。 					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
出席点、課題、期末テスト。					
教科書					
言語学 第2版 / 風間喜代三他: 東京大学出版会, 2004					
参考書					
メッセージ					
授業はブログを使ってやります。毎回ノートパソコンを持ってきてください。					
連絡先					
f1566@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011225002
開設科目名	言語類型論特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	乾 秀行			区分	
授業の概要					
日本語の系統をめぐる問題は、明治以来日本語に関する最も大きな問題の一つとして言語学者の間だけでなく広く一般の関心を集めてきました。それは日本文化の発祥や日本民族の起源という、多くの人にとって興味のある問題と密接に関連しているからです。そこで本講義では、従来の日本語系統論の議論を検証するため、前期は比較言語学的観点および言語類型論的観点からこの問題に迫ってみることにします。					
授業の一般目標					
1. 今までの日本語系統論について整理する。 2. 比較言語学について理解を深める。 3. 言語類型論について理解を深める。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
出席点、小レポート、期末レポート。					
教科書					
世界言語のなかの日本語－日本語系統論の新たな地平 / 松本克己: 三省堂, 2007					
参考書					
メッセージ					
ノートパソコンを使用します。					
連絡先					
f1566@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011225003
開設科目名	言語情報学特殊講義			単位	2 単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	PHILLIPS JOHN DAVID			区分	
授業の概要					
<p>This is a course in Machine Translation - making a computer translate from one language into another.</p> <p>Concentrating on the linguistic aspects of the problem, we will look at how to describe English and Japanese grammar in a form which a computer can use, and at how a computer can translate using these descriptions.</p>					
授業の一般目標					
An understanding of the basic problems and techniques of Machine Translation from a linguist's point of view.					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
Written examination.					
教科書					
参考書					
「自然言語処理の基礎」 / 吉村賢治:サイエンス社 , 200 An introduction to machine translation / W.J Hutchins & H.L. Somers: Academic Press , 1992					
メッセージ					
授業では英語をよく使う。					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011225004
開設科目名	言語情報学特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	PHILLIPS JOHN DAVID			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011225005
開設科目名	言語類型論演習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	本田 義昭			区分	
授業の概要					
基本的には1年次でドイツ語を履修していない学生のためのドイツ語速習コースですが、1年次でドイツ語を学んだ学生も初級文法の復習のために受講して構いません。ただし、受講できるのは2年生のみです。					
授業の一般目標					
ドイツ語の基礎力を養成するとともに、ドイツ語やドイツ語圏の国々の文化に関心を持つこと。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: ドイツ語の初歩を理解する。					
関心・意欲の観点: ドイツ語やドイツ語圏の国々の文化に強い関心を持つ。					
技能・表現の観点: ドイツ語の基本的な表現ができるようになる。					
成績評価方法(総合)					
平素の学習、特に授業への積極的参加を重視します。次のいずれかの場合は失格とします。1)最初の6回中3回欠席, 2)連続3回欠席, 3)通算4回欠席。					
教科書					
明るく楽しくドイツ語を！[三訂版] / 在間進 / 納屋昌宏 / 清野智昭:三修社					
参考書					
メッセージ					
自ら問題意識を持って授業に臨むと、進歩も速いです。授業への積極的な参加を期待しています。					
連絡先					
honda@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011225006
開設科目名	言語類型論演習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	乾 秀行			区分	
授業の概要					
<p>エチオピアで話されている言語の言語特徴を見ていくことを通して、言語の多様性を理解することを目的とします。言語が音声、形態、文法、意味に関してどのような構造や体系を作り上げているかを一緒に考えてみましょう。</p> <p>また、言語はその話されている地域の文化から言語構造だけを切り離して独立して存在できません。言語と文化の関係を正しく理解することも言語学の立派な勉強になります。</p>					
授業の一般目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 言語の多様性について理解を深める。 2. 構造と体系について考える。 3. エチオピアの文化を理解する。 					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
出席点、課題、期末テスト。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
f1566@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011225007
開設科目名	言語理論演習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	乾 秀行			区分	
授業の概要					
卒業論文を書くためのゼミ生(3,4年)対象のゼミ演習です。言語学の論文を演習発表形式で読むことを通して、データの集め方、論文の書き方などについて、指導をします。					
授業の一般目標					
1. 言語データの取り扱い方について学習する。 2. 論文の書き方について学習する。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
出席点、発表、期末レポート。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
ゼミ生は必ず履修してください。					
連絡先					
オフィスアワー					
f1566@yamaguchi-u.ac.jp					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011225008
開設科目名	言語情報学演習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	PHILLIPS JOHN DAVID			区分	
授業の概要					
<p>初心者向けのプログラミングの授業。基礎からプログラミングを学ぶ。</p> <p>Prolog is a programming language based on formal logic. Programming consists of entering data. Running the program consists of asking Prolog whether a statement can be proven given the data. Because of its basis in logic, Prolog is particularly suitable for work in syntax and semantics.</p>					
授業の一般目標					
「プロログ」というプログラミング言語で、プログラミングを基礎から応用までを学ぶ。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
一週間おきに実施するプログラミングの宿題で判定する。					
教科書					
「Introduction to Prolog Prolog 入門」 / 岡田朋子: 授業で配布します。					
参考書					
「PROLOG を楽しむ」 / 松田紀之: オーム社 , 平成 5 年 「楽しいプログラミング II」 / 上田和紀: 岩波新書, 1992 「Prolog 入門」 / 古川康一: オーム社 , 1986 「Prolog のソフトウェア作法」 / 黒川利明: 岩波新書, 1989					
メッセージ					
授業では英語をよく使う。					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011225009
開設科目名	言語情報学演習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	PHILLIPS JOHN DAVID			区分	
授業の概要					
<p>プロログプログラミング(上級) Advanced programming in Prolog 英語新聞記事の言語処理</p> <p>基本英語を必要とするが、上手である必要はない。 初級プロログを必要とする。</p>					
授業の一般目標					
<p>一年分の新聞記事からなされる大きい文書の中で単語や文法等を捜したり数えたりして、 受講者が実際の文書での英語の使い方を調査する。</p>					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
<p>一週間おきに実施するプログラミングの宿題で判定する。</p>					
教科書					
参考書					
メッセージ					
<p>基本英語を必要とするが、上手である必要はない。 初級プロログを必要とする。</p>					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011225010
開設科目名	言語情報学演習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	乾 秀行			区分	
授業の概要					
言語情報学コースの学生対象の授業です。TeXによる言語学の論文の書き方を演習形式で習得していきます。					
授業の一般目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. TeXで言語学の論文を書けるようになる。 2. コンピュータに強くなる。 3. 論理的な思考ができるようになる。 					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
出席点、課題、期末レポート。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
毎回ノートパソコンを使います。					
連絡先					
f1566@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011225011
開設科目名	フィールド言語学演習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	乾 秀行			区分	
授業の概要					
<p>世界言語の様々な音声を音声分析ソフトを使って分析する授業です。日本語の母音の数は5つですが、もっとたくさんの母音を持つ言語を話す人々は、それらの音を区別しています。また、日本人には難しい英語の「r」と「l」の違いなどもよく耳にする話です。中国語や朝鮮語には有気音と呼ばれる強い息を伴う閉鎖音があります。このように、それぞれの言語には、音に関して様々な特徴があります。この授業では一般音声学的視点に立って、人間の言語音すべてを対象に、まず調音音声学的観点から言語音の出し方をマスターし、つぎにその言語音の違いを音響音声学的に調べてみましょう。</p>					
授業の一般目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 一般音声学の知識を身につける。 2. 音声分析ソフトを使って分析する。 3. 世界の言語の多様性を理解する。 					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
出席点、発表、期末レポート。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
ノートパソコンを使います。					
連絡先					
f1566@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011501001
開設科目名	法学概論			単位	2単位
対象学生				学年	2～4
担当教員	道廣 泰倫			区分	
授業の概要					
まず、法とは何であるかという法の基礎理論を学び、次いで法体系の各法である憲法、行政法、刑法、訴訟法、民法、商法、労働法、社会保障法および国際法を概論的に学ぶ。					
授業の一般目標					
学生諸君が、一般社会人として必要な法的知識と法的なものの考え方を身につけて、法的に対応できる社会人・職業人となることを目標とする。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
試験の成績に出席を加味する。(全授業の3分の2以上の出席を要する。)					
教科書					
現代法学(第2版) / 道廣泰倫:法律文化社, 2002					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011501003
開設科目名	政治史			単位	2単位
対象学生				学年	2～4
担当教員	織藤 厚			区分	
授業の概要					
日本近現代政治・軍事史に関する基礎的知識と、資料・文献を解析する力を養成する。					
授業の一般目標					
歴史を再構成・再認識する視座の確立を目指す。					
授業の到達目標					
思考・判断の観点: 歴史を「現代としての過去」という視点から捉える方法を獲得する。					
成績評価方法(総合)					
論述試験と出席点で評価する。					
教科書					
侵略戦争 / 織藤厚: 筑摩書房, 1999					
日本海軍の終戦工作 / 織藤厚: 中央公論社, 1996					
近代日本政軍関係史の研究 / 織藤厚: 岩波書店, 2005					
帝国日本の原型とその再登場 / 織藤厚: 凱風書房, 2009					
日本陸軍の総力戦政策 / 織藤厚: 大学教育出版, 1987					
参考書					
近代日本政軍関係史の研究 / 織藤厚: 岩波書店, 2005					
メッセージ					
歴史を遡って現代を見直す					
連絡先					
koketsu@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
Wed.AM10:00-12:00					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011501004
開設科目名	人文地理学			単位	2単位
対象学生				学年	2～4
担当教員	川村 博忠			区分	
授業の概要					
16世紀中頃日本人がはじめて西洋人と接触して以来、長い鎖国の時代を経て、19世紀後半に門戸を開くまで約300年間における日本人の海外知識の進展過程を世界地理書の著述および世界地図の刊行などを主軸にして考える。					
授業の一般目標					
鎖国という情報の閉ざされた環境のもと、ときには封建社会の迫害を受けながらも世界知識の摂取に尽力して近世における世界地理学(興地学)の発展に寄与した近世日本人の知識潮流の系列を理解したい。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
試験成績と出席状況を重視して評価する。					
教科書					
近世日本の世界像 / 川村博忠: ぺりかん社, 2003					
参考書					
世界古地図コレクション / 三好唯義: 河出書房新社, 1999					
メッセージ					
受講中は私語をつつしんで欲しい。 受講には「世界地図」を持参されることを希望する。					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011501006
開設科目名	地誌			単位	2単位
対象学生				学年	2～4
担当教員	藤井 宏志			区分	
授業の概要					
<p>国際化の進んだ現在、日本は世界中の国々と国際関係をもち、日常的に交流するようになった。偏見なしに豊かな交流を行うには、これらの国々の自然、政治、経済、文化、社会など総合地誌として正確な理解が必要である。ここでは、正確な情報の得にくい途上国の地誌を中心に学ぶ。</p>					
授業の一般目標					
途上国の地誌を学び、正確な情報を理解し、わが国や私達の果たすべき役割を考察する。					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 各国の地誌情報を分析し、理解する。</p> <p>思考・判断の観点: 各国の現状と将来について論理的に説明できる。</p> <p>関心・意欲の観点: 途上国について関心を広げ、問題意識を高めることができる。</p> <p>態度の観点: 日常の情報の中で途上国を主体的に考えることができる。</p>					
成績評価方法(総合)					
出席状況を重視する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
各国の人々と各国の地球上の位置が頭に浮かぶように					
連絡先					
082 - 878 - 8112					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011501007
開設科目名	ギリシア語			単位	4単位
対象学生				学年	2～4
担当教員	筒井 明子			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011501010
開設科目名	博物館概論			単位	2単位
対象学生				学年	2～4
担当教員	坪郷 英彦			区分	
授業の概要					
学芸員資格を目指す学生のために博物館の歴史、政策、仕事を概説する。市民参加型博物館の意味を理解し、自ら活動するための方向性を把握する。また、展示の基本的考え方を学ぶ。					
授業の一般目標					
博物館は資料を収集・保管・展示し、一般の人々への利用に供し、調査研究するところと考え、具体的な内容について人文系博物館を中心に示していきます。大は国立の博物館のシステム、小さいところでは市町村立、私立の博物館・資料館のシステムまで様々ありますが、具体的事例を示しながら学芸員の役割について明らかにします。各博物館や文部科学省のホームページにアクセスしながらより理解を深めたいと思います。最終レポートとして展示の課題を課します。そのための方法を授業内で学びます。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 博物館に関する基本的項目の説明ができる。					
思考・判断の観点: 法律、制度の基本を理解し行動や判断の基本とすることができる。					
関心・意欲の観点: 博物館活動の社会的役割を理解し、自らの専門との関連性を認識することができる。					
態度の観点: 学芸員社会的役割を理解し自らの行動と結びつけることができる。					
技能・表現の観点: 自らの企画を的確に表現できる。					
展示企画の考えと方法を理解する。					
成績評価方法(総合)					
出席を重視する。					
中間と期末の2回のレポートを予定。この評点と出席によって総合的評価をする。					
出席率70%以下は評価の対象とならない。					
教科書					
博物館学概論 / 中村たかを編:源流社, 1996					
参考書					
メッセージ					
これからは学芸員に専門的能力とともに企画力、表現力、情報処理能力が求められています。積極的な授業態度を期待します。授業でインターネット検索を行うので各自コンピュータを用意してください。学内 LAN の接続に慣れておいてください。					
連絡先					
Email hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp 電話 5239、研究室 213					
オフィスアワー					
木曜日 12:00～14:00					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011501011
開設科目名	博物館学各論			単位	2単位
対象学生				学年	2～4
担当教員	渡辺 一雄			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011501012
開設科目名	図書館概論			単位	2単位
対象学生				学年	2～4
担当教員	加藤 宏文			区分	
授業の概要					
<p>新しい「学習指導要領」が示され、「生きる力」としての真の「学力」が、改めて問い直されようとしている。中で、その中核には、「総合的な時間」の設定に代表される「問題解決的学習」への指向が、顕著である。たとえば、環境問題・国際理解・福祉などを、学習者の主体的な活動を通して達成することが求められている。これらは、図書館、とりわけ学校図書館が、他館とのネットワークのもと、「司書」の専門性を保証することを抜きには、考えられない。「学校図書館」に「司書」の孕み持つ問題を考え合っていく。</p>					
授業の一般目標					
<p>「情報化社会」における光と影とを総合的に認識することを前提にして、「教育改革」の混迷の中で、学校経営や教育課程の改変が、学校図書館の本質に、どのような影響を与えようとしているのかを、まず理解する。その上で、「図書館の自由に関する宣言」・「学校図書館法」・「倫理綱領」等を踏まえて、「司書」の抱える具体的な問題点を整理し、学習者が主体的に展望を持つことを求める。</p>					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
<p>随時「理解」と展望との成果を「表現」することを求め、「評価」を重ね、後半3次に亘り、論述を求める。</p> <p>遅刻者の入室は許可しない。</p>					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011501013
開設科目名	図書館資料論			単位	2単位
対象学生				学年	2～4
担当教員	加藤 宏文			区分	
授業の概要					
<p>情報化・国際化社会の「進歩」につれて、私たちは、分量と種類と速さにおいて、未曾有の「情報」(資料)にとり囲まれている。これらを収集・提供する側に立って、図書館には、どのような変革が求められているのか。その組織化を前提として、収集および提供には、どのような問題が生じつつあるのか。「IT革命」の実際を吟味する中で、人と人との関係から考察をする。</p>					
授業の一般目標					
<p>資料(情報)の歴史的なあり方を大観した上で、収集の実際に即してその構築の仕方、評価のあり方を理解する。その上で、提供とのかかわりにおいて、「図書館の自由」は現在、どのような現実と直面しているかを吟味し、出版・流通界の激変にも対応できる理念と方法を獲得する。</p>					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
<p>随時「理解」と展望との成果を「表現」することを求め、「評価」を重ね、後半、数次に亘り、論述を求める。</p> <p>遅刻者の入室は、許可しない。</p>					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011501014
開設科目名	生涯学習概論			単位	2単位
対象学生				学年	2～4
担当教員	北川 健			区分	
授業の概要					
生涯学習体系の論理と意義、その導入と体系化の経緯、進展状況などを概観する。また生涯学習の公的支援を前提に、それに必要な知識・方法、社会教育の基本を学ぶ。					
授業の一般目標					
(1)生涯学習の論理と意義を理解する。 (2)生涯学習体系の導入と展開を知る。 (3)生涯学習展開の日本的特質を承知する。 (4)生涯学習支援に必要な基本知識を備える。 (5)社会教育の基本を知り、これに則した判断を培う。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 生涯学習の基本的な事項について説明できる。					
思考・判断の観点: 生涯学習の理念や体系に則した思考と判断ができる。					
関心・意欲の観点: 生涯学習の支援にみずから関心と意欲を培う。					
態度の観点: 生涯学習の意義を理解し、学習支援の姿勢を持つ。					
技能・表現の観点: 生涯学習支援の基本に則して能力を発揮できる。					
成績評価方法(総合)					
(1)毎回小テストを行い、出席を確認するとともに、理解度を把握する。					
(2)時に課題を出して自主レポート提出の機会を設けることもある。					
(3)期末試験の成績を基本に、(1)(2)を斟酌して総合的に評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011501015
開設科目名	博物館学各論			単位	2単位
対象学生				学年	2～4
担当教員	北川 健			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011501016
開設科目名	情報機器論			単位	2単位
対象学生				学年	2～4
担当教員	杉井 学			区分	
授業の概要					
<p>コンピュータおよびマルチメディア機器の仕組みをはじめ、それら機器をIT社会で活用するために必要なセキュリティやモラル、マナーなどについても解説する。また、学芸員やデジタルアーキビストに必要とされるさまざまな情報機器(ハードウェア)、およびそれらに不可欠なソフトウェア(マルチメディアファイルなど)技術についても理解を深め、Webシステムやeラーニングシステムの事例を見ながら、さまざまな情報機器を活用したマルチメディア情報の利活用について考える</p>					
授業の一般目標					
<p>IT技術を安全に使いこなす知識と技術を身につけ、身近な課題の解決策をIT技術の中から模索できる能力を習得する。また、近年の情報機器に関する幅広い知識を習得し、より実践的で応用分野に利用されるIT技術について理解する。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:コンピュータや情報システム、携帯電話、ICカードなど現代の情報機器の仕組みと実用例、またIT社会で守るべき基本的セキュリティ、モラル、マナー、法律などを理解する。</p> <p>思考・判断の観点:近年の情報機器を用いたマルチメディア技術から、新たな通信方法やプレゼンテーション機能の創造などIT技術を組み合わせた課題実現のための思考力・想像力を習得する。</p> <p>関心・意欲の観点:めまぐるしく発展し進化する情報機器について、自ら調査し仕組みを理解しようとし、また理解できる基礎知識を習得する。</p> <p>態度の観点:身近に存在する情報機器の利用方法を見つめなおし、新しい利用方法や利用アイデアを検討する姿勢を身につける。</p> <p>技能・表現の観点:獲得した知識と技術を持って、自らの持つ研究課題の解決に情報機器の適応を考え、活用できるようになる。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>中間・期末試験の結果と授業で課す課題を総合的に評価する。評価には、身近な課題の設定、IT技術を用いた課題解決方法、結果などをまとめたレポート提出を加える。</p>					
教科書					
参考書					
<p>入門マルチメディア - ITで変わるライフスタイル - / 西原 清一 (監修): 株式会社インプレスコミュニケーションズ, 2006</p>					
メッセージ					
<p>コンピュータを始めとするマルチメディア機器やネットワークなどを、理論だけではなく「どう使うべきか」「どう使えるのか」を考えながら理解を深める講義にします。</p>					
連絡先					
<p>manabu@yamaguchi-u.ac.jp</p>					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011501017
開設科目名	生涯学習施設経営論			単位	2単位
対象学生				学年	2～4
担当教員	大森 善一			区分	
授業の概要					
生涯学習の振興、図書館サービスの充実を図る視点から図書館経営に係る組織、管理運営、予算、事業計画等企画立案ができるよう専門的な知識習得について解説する。					
授業の一般目標					
図書館司書としての自覚と教養を高め、卒業後、図書館界において活躍できる人材を養成したい。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
期末試験及び出席日数によって評価する。 出席が所定の日数に満たない者は不合格とする。					
教科書					
図書館経営論 / 竹内紀吉:東京書籍					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011501018
開設科目名	図書館サービス論			単位	2単位
対象学生				学年	2～4
担当教員	大森 善一			区分	
授業の概要					
利用者と直接関わる図書館サービスの意義、その役割と活動状況の認識、資料の選択・収集・整理・提供のシステム等、図書館サービスの充実を図るため、その専門的な知識の習得について解説する。					
授業の一般目標					
図書館司書としての自覚と教養を高め、卒業後、図書館界において活躍できる人材を養成したい。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
期末試験及び出席日数によって評価する。 出席が所定の日数に満たない者は不合格とする。					
教科書					
図書館サービス論 / 前園主計編著: 東京書籍					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011501019
開設科目名	情報サービス概説			単位	2単位
対象学生				学年	2～4
担当教員	吉光 紀行 [YOSHIMITSU Noriyuki]			区分	
授業の概要					
図書館における情報サービスの意義とあり方について、特に近年の電子図書館化による多様な情報ニーズへの対応に主眼をおき、情報サービスの理論と情報検索の実際を解説する。					
授業の一般目標					
図書館をはじめとする情報機関における情報サービスのあり方とレファレンスワーク理論を習得する。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
出席とレポート及び試験により総合的に評価する。なお、試験は1回、レポートは1回以上を予定。					
教科書					
情報サービス 概説とレファレンスサービス演習 第3版 / 谷本達哉ほか: 学芸図書株式会社, 2007					
参考書					
情報源と情報サービス / 木本幸子: 大学教育出版, 2007					
図書館ハンドブック 第6版 / 図書館ハンドブック編集委員会編: 日本図書館協会, 2005					
情報源としてのレファレンスブックス / 長澤雅男ほか: 日本図書館協会, 2006					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1011501020
開設科目名	レファレンスサービス演習			単位	2単位
対象学生				学年	2～4
担当教員	阿部 憲孝			区分	
授業の概要					
図書館利用者の情報要求に対する情報もしくは情報源の提供について、特に近年の電子図書館化による多様な情報ニーズへの対応を主眼に、課題演習によりレファレンスサービスの意義とあり方を実践する。					
授業の一般目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・レファレンスツールの理解とその活用方法を習得する。 ・課題演習をもとにレファレンスワークを実践し、レファレンスプロセスを学習する。 					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
出席とレポートと授業の参加度により総合的に評価する。					
教科書					
参考書					
新版情報源としてのレファレンスブック / 長澤雅男、石黒祐子: 日本図書館協会, 2006 情報サービス 概説とレファレンスサービス演習 / 谷本達哉ほか: 学芸図書株式会社, 2007					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011501021
開設科目名	情報検索演習			単位	2単位
対象学生				学年	2～4
担当教員	村田 孝子			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1011501022
開設科目名	専門資料論			単位	2単位
対象学生				学年	2～4
担当教員	松岡 孝史			区分	
授業の概要					
<p>人文科学、社会科学、自然科学・技術の各分野における知識の構造と情報・資料との関係についての理解を深めるために、それぞれの分野の情報・資料の特性と代表的な資料について解説する。</p> <p>授業内容も、専門資料論の基礎部分と各分野の情報・資料論とで構成し、各分野毎に情報・資料の種類と特性を説明し、一次資料・二次資料を紹介する。</p>					
授業の一般目標					
<p>情報技術が進展している現在、専門資料に関する断片的な知識を積み重ねるだけでなく、専門資料の背景を構造的、組織的に理解することが重要である。</p> <p>また、自らの専攻する分野を意識して、その分野における研究領域や研究対象を把握し、研究方法、プロセスを習得することによって、他の分野の特性と専門資料についての理解を深める。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:各分野の専門資料・情報についての特性と種類を理解する。</p> <p>思考・判断の観点:各分野の専門資料・情報へのアクセス・利用スキルを修得する。</p> <p>関心・意欲の観点:各分野の専門資料・情報の背景や構造への関心を深める。</p> <p>態度の観点:授業外学習への取り組みにより、授業内容への理解を深め、発展させる。</p>					
成績評価方法(総合)					
授業内レポート、授業外レポートにより授業成果を評価するとともに、授業態度、出席状況も評価の対象として総合的に評価する。					
教科書					
専門資料論 / 三浦逸雄、野末俊比古: 日本図書館協会, 2008					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012111001
開設科目名	哲学概論			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	脇條 靖弘			区分	
授業の概要					
この講義では西洋哲学の基本問題のいくつかを取り上げ、それぞれの問題において一体何が問われているのか、それに対して哲学者たちがどのような答えをしてきたのかを学びます。					
授業の一般目標					
最終的には受講生が各自でそれぞれの問題に関心を持ち、それに解決を与えようと努力すること、つまり「哲学すること」に向けての基盤作りができればと考えています。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 西洋哲学の基本問題を理解する。					
思考・判断の観点: 哲学的な思考ができるようになる。					
成績評価方法(総合)					
試験による。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
yasu@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012111002
開設科目名	西洋哲学特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	入不二 基義			区分	
授業の概要					
運命論(起ることはすべて必然的である)という考え方を、特に時間様相(過去・現在・未来)との関連において考察する。素材としては、アリストテレスの「明日の開戦」の運命論、M.ダメットの「ロンドン空襲」の運命論、R.テイラーの「開戦命令」の運命論と「オズモの物語」などを予定している。					
授業の一般目標					
「運命論と時間」というテーマをめぐる哲学的考察を追体験してもらうこと、さらにその体験を受講者自らの哲学的考察へと接続してもらうことが目標である。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: アリストテレス、ダメット、テイラーの議論を理解する。					
思考・判断の観点: アリストテレス、ダメット、テイラーの議論を比較し、批判的に検討する。					
成績評価方法(総合)					
出席が2/3以上という最低条件を満たしている者のみについて、期末レポートによって成績を判断する(すなわち、出席は欠格条件としてのみ使用し、出席点という扱いはしない)。					
期末レポートは、授業内で扱った議論をまとめること(知識・理解)が30%、その議論に対して自分なりの考察が展開できているか(思考・判断)が50%、的確な論理展開と表現方法によって記述できているか(技能・表現)が20%で判断する。					
教科書					
参考書					
『時間と絶対と相対と -- 運命論から何を読み取るべきか』 / 入不二基義: 勁草書房					
『足の裏に影はあるか? ないか? -- 哲学随想 --』 / 入不二基義: 朝日出版社					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012111003
開設科目名	西洋哲学演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	脇條 靖弘			区分	
授業の概要					
プラトン、アリストテレスなど、古代ギリシア哲学の主要な文献を読みます。					
授業の一般目標					
古代ギリシアの哲学者の議論を綿密に追うことで、その思索の筋道を理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 取り上げた哲学的議論を理解する。					
思考・判断の観点: 取り上げた問題について哲学的考察を加える。					
成績評価方法(総合)					
授業中の発表、あるいは、レポートによる。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
yasu@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012111004
開設科目名	倫理学概論			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	古庄 真敬			区分	
授業の概要					
「善と悪」「幸福」「正義」「義務・責任」「自然と社会」「自由」「人格」等々の概念をめぐって展開された西洋哲学・倫理思想史上の諸考察の要点を批判的に明らかにしながら、われわれの素朴な「道徳的」思考は、突き詰めると、どのような壁や謎に突き当たらざるをえないのか、じっくり考えていきます。					
授業の一般目標					
「共生」にともなう「倫理」をめぐるわれわれの日常的・理解の反省的かつ歴史的検討。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 西洋倫理思想史に関する基礎知識の習得。					
思考・判断の観点: 「倫理」の基底に関する原理的な思考をみずから反省的に展開すること。					
成績評価方法(総合)					
期末試験および授業内レポートで評価します。					
教科書					
『入門講義 倫理学の視座』 / 新田孝彦: 世界思想社, 2008					
参考書					
メッセージ					
教科書の予習が必須です。					
連絡先					
furusho[a]yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
毎週水曜日 12:50 ~ 14:20					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012111005
開設科目名	倫理学原理論			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	古荘 真敬			区分	
授業の概要					
<p>「私が生きている」とは、一体どういうことなのでしょうか。いや、そもそも、「今ここ」に生きているのは本当に「私」なのでしょうか。「私の生」は、「私」なるものの思考や想念、意志とは独立に「常に既に持続してきているもの」として「私」に触れてきては、「私」を、「私」自身の由来と行方の定めがたさをめぐる思いへと時として誘うものであることでしょう。この不可思議な事態の本質について、「生命・主体・時間・感情」といった概念を(主として西洋哲学・倫理思想史上のテキストとの対話を通じて)あらためて耕しながら、考察することを試みます。</p>					
授業の一般目標					
西洋哲学・倫理思想史上の幾つかのテキストとの対話を通じ、「生命・主体・時間・感情」について原理的に考察すること。					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:当該の主題に関連する西洋哲学・倫理思想史上の諸論考の要点を理解すること。</p> <p>思考・判断の観点:当該主題について、みずから問いを見出し、原理的な思考を展開すること。</p>					
成績評価方法(総合)					
期末レポートによって評価します。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
furusho[a]yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
水曜日 12:50 から 14:20					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012111006
開設科目名	倫理学講読			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	古荘 真敬			区分	
授業の概要					
ヘーゲルの『精神現象学』を読みます。ドイツ語原文ならびに各種の日本語訳を参照しつつ、その一字一句の意味を検討しながら、読み進めていきます。					
授業の一般目標					
ヘーゲル『精神現象学』の精密な読解を通じて、人間存在の本質をめぐる考察を深めること。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
授業内での発表報告によって評価します。					
教科書					
“Phaenomenologie des Geistes” / G.W.Hegel : Suhrkamp , 1986					
『精神の現象学』 / ヘーゲル(金子武蔵訳) : 岩波書店, 2002					
『精神現象学』 / ヘーゲル(長谷川宏訳) : 作品社, 2000					
参考書					
『ヘーゲルの精神現象学』 / 金子武蔵: 筑摩書房, 1996					
『ヘーゲル『精神現象学』入門』 / 加藤尚武編: 有斐閣, 1996					
『ヘーゲル 否定的なものの不安』 / ナンシー(大河内・西山・村田訳) : 現代企画室, 2003					
メッセージ					
連絡先					
furusho[a]yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
水曜日 12:50 から 14:20					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012111007
開設科目名	西洋倫理学演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	古庄 真敬			区分	
授業の概要					
哲学・思想コース(人間論コース)の哲学・倫理学専攻学生のためのコロキウムを行います。卒業論文の執筆に向けて、毎週、担当者が、研究・考察の途中経過を報告。質疑応答の対話を通じて自らの思考を深化させていきます。					
授業の一般目標					
哲学的討論の場において各自が自身の思考を錬磨することを通じ、より良い論文を仕上げるための準備を重ねること。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: よく調べる。					
思考・判断の観点: よく考える。					
関心・意欲の観点: 他人の議論に耳を傾ける。 「自分には関係ない」などと無関心を決め込まない。 素朴さや無知を恥じることなく、正直に質問する。					
態度の観点: 問題の急所を、恐れることなく掘り進む。 冷笑的な態度をとらない。					
技能・表現の観点: 独善的な単なる「ひとりごと」ではない、他者との対話の場にかかれた論証を構成していく。					
成績評価方法(総合)					
研究考察の授業内報告と討論への貢献度、および上記授業計画欄に記した「小レポート」の提出回数などを、総合的に評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
哲学・倫理学専攻の学生は、毎回必ず出席してください。					
連絡先					
furusho[a]yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
毎週水曜日 12:50～14:20					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012111008
開設科目名	中国思想史論			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	高木 智見			区分	
授業の概要					
<p>思想史を科学として進める立場では、なるべく自分の主観をまじえないようにして、客観的実証的であると要求される。しかし同時に、研究の主体は現代に生きる自分であるから、古い思想を研究していても、それと自分との関わりを考察するというのも、一つの重要な問題となる。従って、講義では中国思想の特色として重要だと思ふものと、江戸時代以降、日本の理解の持つ意味を究明することとする。</p>					
授業の一般目標					
<p>中国思想の特色の一つは、その歴史的な流れにおいて、伝統の断絶が殆どなかったことにある。いまひとつは、東アジア漢字文化圏の人々が、それを共有して、近代に至ったと言うところにある。日本においても、中国の思想は、日中共有の教養であったのである。講義では、中国思想史の変遷と日本の理解を究明する。</p>					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
成績評価は出席状況(60%)、期末レポート(40%)に基づいて行う。					
教科書					
参考書					
<p>日本開化小史 / 田口卯吉: 岩波文庫 徳川思想小史 / 源了圓: 中公新書 中国思想を考える / 金谷治: 中公新書 明治の漢学者たち / 町田三郎: 研文出版 京大東洋学の百年 / 礪波護編: 京都大学学術出版会</p>					
メッセージ					
連絡先					
lien@nagasaki-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012111009
開設科目名	中国思想史論			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	黄 晓芬			区分	
授業の概要					
<p>古代中国における都城と陵墓の造営は、明確な思想的背景をもち、自然景観との調和を注意深くはかり、計画性の高い設計に基づいたものである。本授業は、考古学資料を素材に文献の考察に加えて、陰陽死生を表象する二つの神聖空間を具体的に解析し、古代中国人の世界観と創造力を探究しようとするものである。</p> <p>後期の授業科目は膨大な古代陵墓の発掘資料を総合的に考察・分析し、中国葬送儀礼の伝統と変革を史的展開を探り、中国人の他界観を考える。</p>					
授業の一般目標					
中国思想史の面白さと奥深さを認識することができる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 中国思想史の基礎知識と概念を伝授し、モノ(遺跡・遺物)を通して理解することができる。					
思考・判断の観点: 人間の思想と社会を深く理解するため、歴史的感覚が不可欠であることを説明することができる。					
関心・意欲の観点: 現代における新日の社会問題を考える時、なにかよいヒントを提供することができる。					
技能・表現の観点: 問題意識や物事の洞察力などを少しずつ身につけることができる。					
成績評価方法(総合)					
前期と同じ					
教科書					
参考書					
中国古代陵寝制度史研究 / 楊寬:上海古籍出版社, 1985					
中国古代葬制の伝統と変革 / 黄晓芬: 勉誠社, 2000					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012111010
開設科目名	中国思想史論			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	高木 智見			区分	
授業の概要					
前期に同じ					
授業の一般目標					
前期に同じ					
授業の到達目標					
知識・理解の観点:前期に同じ					
思考・判断の観点:前期に同じ					
関心・意欲の観点:前期に同じ					
成績評価方法(総合)					
前期に同じ					
教科書					
参考書					
メッセージ					
前期に同じ					
連絡先					
前期に同じ					
オフィスアワー					
前期に同じ					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012111011
開設科目名	中国思想史料講読			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	高木 智見			区分	
授業の概要					
前期に同じ					
授業の一般目標					
前期に同じ					
授業の到達目標					
知識・理解の観点:前期に同じ					
思考・判断の観点:前期に同じ					
関心・意欲の観点:前期に同じ					
成績評価方法(総合)					
前期に同じ					
教科書					
参考書					
メッセージ					
前期に同じ					
連絡先					
前期に同じ					
オフィスアワー					
前期に同じ					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012111012
開設科目名	中国思想演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	高木 智見			区分	
授業の概要					
前期に同じ					
授業の一般目標					
前期に同じ					
授業の到達目標					
知識・理解の観点:前期に同じ					
思考・判断の観点:前期に同じ					
関心・意欲の観点:前期に同じ					
成績評価方法(総合)					
前期に同じ					
教科書					
参考書					
メッセージ					
前期に同じ					
連絡先					
人文棟五階510研究室					
オフィスアワー					
火曜日十六時から十七時					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012111013
開設科目名	日本倫理思想史			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	柏木 寧子			区分	
授業の概要					
<p>神をめぐる思想を考える 昨年度は同じ教科書『日本倫理思想史』の「第二章 仏法をめぐる思想」を探り上げました。今年度は「第一章 神をめぐる思想」を扱います。日本古代における原初神道の思想について、倫理学・倫理思想史の視点から考えていきます。具体的には、例として挙げられている神話や説話（『古事記』『風土記』『日本霊異記』など）をそのつど参照しつつ、教科書でいわれるところのもの 神や たま 神とはいかなるものであるか、理解できるようにすることを目指します。</p>					
授業の一般目標					
<p>倫理学・倫理思想史という学問について基本的な問題関心を知ること。神話や説話の形で伝えられる原初神道の諸相に触れ、古代日本倫理思想の一端について関心・理解をもつこと。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 倫理学・倫理思想史という学問が何を問おうとしているのか、基本的問題関心を理解することができるようになる。古代日本の人々が「神」という観念により何を追求しようとしたのか、その発想の根幹を理解することができるようになる。</p> <p>思考・判断の観点: 『古事記』等の文献が、その表現の背後あるいは基底にどのような思考を支えとして持っているか、あえて抽象度の高い次元に踏み込んで、読解・解明を試みることができるようになる。さしあたっては、教科書に示される解釈の理路をたどり直すことができるようになる。</p> <p>関心・意欲の観点: 共感にせよ反発にせよ、少なくともどこか一箇所、受講者自身の問題関心に触れる（かする）点を発見し、『古事記』等と対話する意欲をもつことができるようになる。</p> <p>態度の観点: なじみないテーマや文章や方法論であっても、投げ出さず、恣意的裁断をひかえ、ねばりづよく取り組む態度をもてるようになる。</p> <p>技能・表現の観点: 自らの思考を、筋道立てて文章表現することができるようになる。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>(1)授業内の小レポート(論理的な思考と文章表現、および、自発的に問いを見出し追求する姿勢を求めます)。(2)期末試験(基本的なことがらについての知識と理解を求めます)。なお、出席が所定の回数に満たない場合は期末試験を受けることができません。</p>					
教科書					
『日本倫理思想史』/ 佐藤正英: 東京大学出版会, 2003					
参考書					
『古事記』(新潮日本古典集成)/ 西宮一民校注: 新潮社, 1979					
『風土記』(新編日本古典文学全集5)/ 植垣節也校注・訳: 小学館, 1997					
メッセージ					
<p>授業でも触れますが、日本倫理思想史は倫理学の一部をなす学問です。『古事記』をはじめとする幾つかのテキストを、ひたすら内在的に読み解くことにより、その思想に接近しよう目指します。一般的な「日本史」のイメージを予想して受講されると、かなり予想と異なる内容になるかもしれません。</p>					
連絡先					
kashiwg@yamaguchi-u.ac.jp 人文学部4階410 研究室					
オフィスアワー					
水曜 13:00-14:00 ほかの曜日・時間帯でも可能ですので、あらかじめメール等で面会の希望をお知らせください。					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012111014
開設科目名	日本思想論			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	豊澤 一			区分	
授業の概要					
近世の陽明学派と言われる人々を考察の対象とします。中江藤樹(1608～48)、熊沢蕃山(1619～91)をはじめとして、乱を起こした大塩中斎、「楊朱陰王」と言われる佐藤一斎(1772～1859)等を考察します。まず、王陽明(1472～1528)の解説を試みます。					
授業の一般目標					
明治以後においても依然として思想的影響力の強い陽明学の系譜をたどる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 朱子学に対する陽明学の特色を理解し、また近世日本の陽明学派と言われる儒者たちの思想内容を内面的に理解する。					
思考・判断の観点: 「満街の人、皆聖人」「無善無悪」といったスローガン					
関心・意欲の観点: 自己自身の思想とは異なる思想に興味を持ち、その意味を考える。					
態度の観点: 異質な物の存在に敬意を払い、自己との同異を考える。					
成績評価方法(総合)					
授業の最後の10分間ほどで疑問・考察などを書いていただきます。また期末試験を実施するか、またはレポート提出を求めるかいたします。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
人文学部棟 409号研究室 TEL: (内線: 5218) e-mail: toyosawa@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
木曜日 12:50～14:20					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012111015
開設科目名	日本思想文献講読			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	豊澤 一			区分	
授業の概要					
近世の陽明学派と言われる人々を考察の対象とします。中江藤樹(1608～48)、熊沢蕃山(1619～91)をはじめとして、乱を起こした大塩中斎、「楊朱陰王」と言われる佐藤一斎(1772～1859)等を考察します。まず、王陽明(1472～1528)の解説を試みます。					
授業の一般目標					
明治以後においても依然として思想的影響力の強い陽明学の系譜をたどる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 朱子学に対する陽明学の特色を理解し、また近世日本の陽明学派と言われる儒者たちの思想内容を内在的に理解する。					
思考・判断の観点: 「満街の人、皆聖人」「無善無悪」といったスローガン					
関心・意欲の観点: 自己自身の思想とは異なる思想に興味を持ち、その意味を考える。					
態度の観点: 異質な物の存在に敬意を払い、自己との同異を考える。					
成績評価方法(総合)					
授業の最後の10分間ほどで疑問・考察などを書いていただきます。また期末試験を実施するか、またはレポート提出を求めるかいたします。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
人文学部棟 409号研究室 TEL: (内線: 5218) e-mail: toyosawa@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
木曜日 12:50～14:20					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012111016
開設科目名	日本思想文献講読			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	柏木 寧子			区分	
授業の概要					
<p>小林秀雄『感想』を読む 小林秀雄(1902-1983)の未完のベルグソン論を読みます。1958年から5年にわたって連載され、第56回で中断した『感想』と題する論考です。連載第1回で小林は、母の死の数日後の「妙な経験」、また、そのしばらく後の「忘れ難い経験」を語り、それらの余韻の中でベルグソンと改めて出会ったことを語っています。小林が「事実の直接的経験」と呼ぶものが何か、ベルグソンの哲学の中に分け入りながら小林が追究したかったものとは何か、考えていきたいと思ひます。なお、前期は前半(『感想(上)』)、後期は後半(『感想(下)』)を読みます。</p>					
授業の一般目標					
<p>恣意を排し、かつ主体的にテキストを読む姿勢・素養を涵養すること。小林が要約するベルグソンの哲学自体について、この授業で問題にすることはできませんが、少なくとも、ベルグソンに依りつつ小林が展開する議論について、その理路をたどれるようになること。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: テキストの著者が何を問おうとしているのか、基本的な問いのありかを理解し、説明できるようになる。</p> <p>思考・判断の観点: 上記の問いをめくりテキストがどのような議論を展開しているか、思考の理路を自らたどり直すことができるようになる。</p> <p>関心・意欲の観点: 共感にせよ反発にせよ、少なくともどこか一箇所、受講者の問題関心に触れる(かする)点を発見し、テキストと対話する意欲をもつことができるようになる。</p> <p>態度の観点: なじみないテーマや文章であっても、投げ出さず、恣意的判断をひかえ、しばし著者の議論につき合うねばりつよさをもつことができるようになる。知らない言葉があったら辞書をひき、一読してわからなければ再読三読し、理路が見えにくければ図解化を試みるなど、手間・工夫をいとわず読み通すことができるようになる。</p> <p>技能・表現の観点: 自らの思考を、筋道立てて文章表現することができるようになる。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>(1)授業内の報告(テキストの精読、自分なりの視点を定めて問いを発見する姿勢、および論理的な思考と文章表現を求めます)。(2)宿題とそれをふまえての授業参加。(3)期末レポート(ただし、授業内の報告を所定の回数以上行った場合は課しません)。なお、出席が所定の回数に満たない場合は単位を取得できません。</p>					
教科書					
『小林秀雄全作品 別巻1 感想(上)』/小林秀雄:新潮社,2005					
参考書					
『時間と自由』(岩波文庫)/ベルクソン著、中村文郎訳:岩波書店,2001					
『思想と動くもの』(岩波文庫)/ベルクソン著、河野与一訳:岩波書店,1998					
『精神のエネルギー』(レグルス文庫)/ベルクソン著、宇波章彦訳:第三文明社,1992					
『物質と記憶』(ちくま学芸文庫)/ベルクソン著、合田正人・松本力訳:筑摩書房,2007					
『意識に直接与えられたものについての試論』(ちくま学芸文庫)/ベルクソン著、合田正人・平井靖史訳:筑摩書房,2002					
メッセージ					
<p>初回授業には必ず出席して下さい。報告者の順番を割り振ります。やむを得ず欠席した場合は、二回目の授業以前に受講意思を告げに来て下さい(テキストを入手し、予習の上授業に臨んで下さい)。</p> <p>無断欠席はしないで下さい。</p> <p>授業の進め方、一回の講読分量、レジュメの作成の仕方など、要望・意見・質問はいつでも遠慮なくお寄せ下さい。</p>					
連絡先					
kashiwg@yamaguchi-u.ac.jp 人文学部4階410研究室					
オフィスアワー					
水曜13:00-14:00 ほかの曜日・時間帯でも可能ですので、あらかじめメール等で面会の希望をお知らせください。					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012111017
開設科目名	日本思想論演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	豊澤 一			区分	
授業の概要					
古来、『論語』の注釈書は汗牛充棟もたならぬものがあります。その中から朱熹の『集注』、伊藤仁斎の『古義』、荻生徂徠の『徴』を比較しながら読みます。					
授業の一般目標					
どの注釈が正しいかを問題にするなら、後世に生まれた者が断然有利である。ここでは、それを措いて、それぞれの思想家がどのような思いを抱きながら注釈の作業に従事したのかを探る。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 『論語』を独力で読むための素養を身につける。					
思考・判断の観点: 微妙な違いが、思想大系の違いに由来するかも知れないことに思いを致すようになる。					
関心・意欲の観点: 『論語』の興味深さを知る。					
態度の観点: 『論語』を、多くのハウツーものとは違って、学問的態度を持って読むようになる。					
成績評価方法(総合)					
予習は必須です。また学期末にはレポート提出を求めます。両者を総合して評価します。					
教科書					
『論語徴』(1)(東洋文庫(575))/荻生徂徠(小川環樹編):平凡社 論語 上 中国古典選(朝日選書)/吉川幸次郎:朝日新聞社					
参考書					
現代人の論語(文春文庫)/呉智英:文藝春秋社					
メッセージ					
連絡先					
人文学部棟409号研究室 TEL:(内線:5218) e-mail:toyosawa@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
木曜日 12:50～14:20					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012111019
開設科目名	日本思想論演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	柏木 寧子			区分	
授業の概要					
卒業論文演習 日本思想に関わるテーマで卒業論文を執筆する3・4年次生を対象として、各自の研究を具体的に指導します。受講生には、数週間毎に研究の途中経過を口頭報告すること、当番の回以外にも出席して議論に参加すること、を課します。時には受講生同士、互いの期末レポートを読み合い、質疑応答を行う機会も設けます。					
授業の一般目標					
2年間で各自の卒業論文を仕上げるために必要・十分なもろもろの過程を積み重ねること。柔軟な発想、精密な推論、広い視野、有機的な関心、明晰な文章、等々を獲得すること。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 受講者自身の問題関心を自覚するとともに、論文とはいかなる文章であるかを知り、卒業論文で取り組むべきテーマを適切に設定することができるようになる。また、論文執筆のための具体的手順を知り、自らに与えられた時間を適切に各手順に割り当て、計画を立てることができるようになる。					
思考・判断の観点: 論文執筆のために必須の(かつ中心的な)一手順である、各人のテキスト読解を、より広く深く精密なものへと鍛え上げるべく、受講者間の相互批評や教員による助言も活用しつつ、地道に努力することができるようになる。					
関心・意欲の観点: この思想史研究、この論文執筆が自身の現在および未来にどのような意味をもち得るかを知り(研究を職とするわけでもなくとも、皆さんの現在・未来に何かしら意味をもつものであってほしいと思います)、主体性をもって取り組むことができるようになる。					
態度の観点: 論文執筆の諸作業の中に不得手のものがあったり、また、まとまった時間をとるのに苦心する状況にあっても、投げ出さず、最後まで努力を続けることができるようになる。					
技能・表現の観点: 論文執筆の作法に従って論文を完成できるようになる。					
成績評価方法(総合)					
(1)授業中の口頭発表。(2)期末レポート(3000字程度)。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
無断欠席はしないで下さい。研究上の疑問等は授業時間外でも随時相談に来て下さい。教員からの連絡(メール等)を受け取れる状態にしておいて下さい。					
連絡先					
kashiwg@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
水曜 13:00-14:00 ほかの曜日・時間帯でも可能ですので、あらかじめメール等で面会の希望をお知らせください。					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012111020
開設科目名	宗教学概論			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	ALAM DJUMALI			区分	
授業の概要					
<p>「宗教学の古典理論と現代的応用」をテーマとする。</p> <p>全体として、次のようなテーマを扱う。「呪術」「シャーマニズム」「宗教経験」「宗教心理」「社会現象として見る宗教(デュールケーム宗教論)」「構造主義から見た宗教」「聖なるものとして見る宗教(エリアード宗教論)」「社会的行為として見る宗教(ウェーバー宗教論)」</p> <p>宗教学における基礎理論と主要なテーマを知ることからはじめ、宗教的な現象と表象の「理解」とそのための「方法」について考察する。宗教に特有かつ普遍的な事象を、宗教学および関連領域(宗教社会学、宗教心理学、宗教人類学など)の古典的な理論と方法論の視点から分析し、人間が全体としてどのようにして自らの宗教的行為、宗教的観念、宗教の様式、宗教的規範、宗教的経験などを構成したり位置付けたり認知したり具体化したりしているのかについて体系的・本質的に考察する。</p> <p>毎回の授業は、おおよそ次の段取りで行う。 小テスト/小レポート(約10分)。 講義(約45分)。 グループディスカッション+代表者発言+解説・総括(約30分)。</p> <p>テキスト/教科書は用いないが、各テーマについて毎回、レジュメ(ときには参考資料のコピー)を事前に配布し、予習を促す。</p>					
授業の一般目標					
宗教学という学問分野と宗教とは何かという課題について、一定の図式と枠組みを身につけ、個々の宗教現象を一定の視点をもって捉えたり分析したりできるようになることを目指す。					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:宗教学に関する主要な課題について一定の理解と知識を身につけること。</p> <p>思考・判断の観点:個々の宗教現象について、一定の視点から分析できるようになること。</p> <p>関心・意欲の観点:日常生活における身近な宗教現象について関心を抱くこと。</p> <p>態度の観点:授業中の良識ある態度(私語しないこと、遅刻と途中退室しないこと、居眠りしないこと、など)。</p> <p>技能・表現の観点:レポートによる記述力と表現力。</p> <p>その他の観点:宗教現象を捉える感性と感受性を磨くこと。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>* 授業内小レポート/小テストを12回課す。</p> <p>* 中間レポートと最終レポートをそれぞれ1回課す。</p> <p>* 中間レポートと最終レポートは、「文章を中心とするレポート」と「描写・描画を中心とするレポート」のいずれかを選択できるようにする。</p> <p>* 参加者は一学期を通して、何回の授業・レポート/小テストに参加する必要があるのかについては、最初の授業のときに知らせる(一定の余裕がある)。</p>					
教科書					
参考書					
メッセージ					
授業はできるだけ体系的にわかりやすく、範囲を限定して行う。授業に出ることによって参加者が、毎回または全体として、宗教学に関する一定の内容と枠組みを身につけることを目指す。そのためには、参加者のほうも、毎回の授業に出席し、多少の復習をする必要がある。					
連絡先					
<p>ジユマリ・アラム / 電子メール:djumali@yamaguchi-u.ac.jp / ホームページ:http://alam.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/ / 電話(研究室):083-933-5220 / 研究室:人文学部413号室</p>					
オフィスアワー					

隨時

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012111021
開設科目名	比較宗教論・特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	ALAM DJUMALI			区分	
授業の概要 後期の宗教学特殊講義は「宗教と芸術」をテーマとする。 次のような問いを出発点とする。「およそすべての宗教的現象には芸術の要素が含まれ、またおよそすべての芸術には宗教的な要素が含まれるのはなぜなのか?」「宗教も芸術も、人間の心に内在する本性として、何か隠れた共通点をもっているのではないか?」「それは機能なのか、実体なのか?」「各地の宗教と芸術はどのように、なぜ、何のために結びついているのか?」 全体として、次のようなテーマを扱う。「宗教と芸術の結晶としての祭り」「宗教と芸術における「様式・媒体」と「文脈」」「アボリジニの宗教と芸術」「造形芸術における宗教性」「ロシア正教会におけるイコン」「デザイン芸術における宗教性」「ケルトの宗教と芸術」「パリの宗教と芸術」「ジャワのワヤン劇における宗教性」「歌舞伎における宗教性」「舞台芸術と放浪芸における宗教性」「現代アニメの宗教性」 毎回の授業は、おおよそ次の段取りで行う。 小テスト/小レポート(約10分)。 講義(約45分、映像資料を交える場合が多い)。 講義(約30分、解説・総括)、またはグループディスカッション+代表者発言+解説・総括(約30分)。 テキスト/教科書は用いないが、各テーマについて毎回、レジュメ(ときには参考資料のコピー)を事前に配布し、予習を促す。					
授業の一般目標 「宗教と芸術」の課題について、資料的な情報を知って考えるだけでなく、深く想像して顧みながら、その本質の体系化を試みる。最終的には、宗教学という学問分野から見た「宗教」と「芸術」とは何か、という課題について、一定の図式と枠組みを身につけ、個々の宗教と芸術現象を一定の視点をもって捉えたり分析したりできるようになることを目指す。					
授業の到達目標 知識・理解の観点: 宗教学と「宗教学から見た芸術」に関する主要な課題について一定の理解と知識を身につけること。 思考・判断の観点: 個々の宗教と芸術現象について、一定の視点から分析できるようになること。 関心・意欲の観点: 日常生活における身近な宗教と芸術現象について関心を抱くこと。 態度の観点: 授業中の良識ある態度(私語しないこと、遅刻と途中退室しないこと、居眠りしないこと、など)。 技能・表現の観点: 宗教と芸術現象に関する記述力を養うこと。 その他の観点: 宗教と芸術現象を捉える感性を磨くこと。					
成績評価方法(総合) * 授業内小レポート/小テストを12回課す。 * 中間レポートと最終レポートをそれぞれ1回課す。 * 中間レポートと最終レポートは、「文章を中心とするレポート」と「描写・描画を中心とするレポート」のいずれかを選択できるようにする。 * 参加者は一学期を通して、何回の授業・レポート/小テストに参加する必要があるのかについては、最初の授業のときに知らせる(一定の余裕がある)。					
教科書					
参考書					
メッセージ 授業はできるだけ体系的にわかりやすく、範囲を限定して行う。授業に出ることによって参加者が、毎回または全体として、宗教学に関する一定の内容と枠組みを身につけることを目指す。そのためには、参加者のほうも、毎回の授業に出席し、多少の復習をする必要がある。					
連絡先 ジュマリア・アラム / 電子メール:djumali@yamaguchi-u.ac.jp / ホームページ:http://alam.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/ / 電話(研究室):083-933-5220 / 研究室:人文学部413号室					

オフィスアワー
随時

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012111022
開設科目名	宗教学文献講読			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	ALAM DJUMALI			区分	
授業の概要					
この授業で扱う資料は、文献資料と映像資料の両方である。					
文献資料のほうは、現代日本の成立宗教と民俗宗教(民間信仰)に焦点を絞る。					
映像資料のほうは、現代日本の生活の中の宗教(都会の暮らし、農村の暮らし、教育・学校の問題、女性・ジェンダー問題、少数民族、差別問題、科学と倫理の問題、絵画・舞踊・演劇・お笑い、スポーツ・格闘技・レジャー、など)に焦点を絞る。					
こうした二つの宗教的領域について、資料を通して捉え、宗教学的な「解釈」「読み」「分析」を行い、「宗教とは何か?」という究極的な課題に対して、その本質とメカニズムを、動的に、また自らの生活に顧みて共感しながら、一定の理解を試みる。					
毎回の授業は、おおよそ次の段取りで行う。					
一定の問いに対する小グループディスカッション。					
代表者・参加者からの発言。					
フリーディスカッションと解説。					
翌週の資料の配布または説明					
映像資料の場合は、演習室(人文412号室)に共同視聴用のDVDを一枚おくので、学生は時間を選んで当日までその部屋で視聴して予習するという方式になる。					
授業の一般目標					
宗教が人間と社会の生活にいかに深く浸透し、不可避的に伴うものであり、また根源的な役割を果たしているということを、一定の分析的な体系と枠組みをもって捉えらるようになること。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 宗教学のアプローチと枠組みを身につけること。					
思考・判断の観点: 個々の宗教現象について、一定の視点から分析できるようになること。					
関心・意欲の観点: 日常生活における身近な宗教現象について関心を抱くこと。					
態度の観点: 授業中の良識ある態度(私語しないこと、遅刻と途中退室しないこと、居眠りしないこと、など)。					
技能・表現の観点: 宗教学の理論・学説および宗教現象に関する記述力を養うこと。					
その他の観点: 宗教現象を捉える感性を磨くこと。					
成績評価方法(総合)					
* 中間レポートと最終レポートをそれぞれ1回課す。					
* 中間レポートと最終レポートは、「文章を中心とするレポート」と「描写・描画を中心とするレポート」のいずれかを選択できるようにする。					
* 参加者は一学期を通して、何回の授業・レポート/小テストに参加する必要があるのかについては、最初の授業のときに知らせる(一定の余裕がある)。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
授業はできるだけ体系的にわかりやすく、範囲を限定して行う。授業に出ることによって参加者が、毎回または全体として、宗教学に関する一定の内容と枠組みを身につけることを目指す。そのためには、参加者のほうも、毎回の授業に出席し、多少の復習をする必要がある。					
連絡先					
ジュマリ・アラム / 電子メール: djumali@yamaguchi-u.ac.jp / ホームページ: http://alam.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/ / 電話(研究室): 083-933-5220 / 研究室: 人文学部413号室					
オフィスアワー					
随時					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012111023
開設科目名	西洋哲学演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	青山 拓央			区分	
授業の概要					
言語と可能性についての哲学的問題を扱います。テキストは『言語哲学大全』第三巻などを予定していますが、出席者と相談の上、他の文献を読む場合もあります。					
授業の一般目標					
言語と可能性について哲学の諸説を学ぶとともに、ディスカッションの能力を養います。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 言語と可能性についての哲学的問題を、解説・検討します。					
思考・判断の観点: 活発なディスカッションへの参加を期待します。					
関心・意欲の観点: 活発なディスカッションへの参加を期待します。					
態度の観点: 活発なディスカッションへの参加を期待します。					
成績評価方法(総合)					
出席点が中心となります。ディスカッションへの参加意欲も評価の参考材料とします。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012111024
開設科目名	比較宗教論(特殊講義)			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	ALAM DJUMALI			区分	
授業の概要					
<p>「現代日本、パリ、ジャワ、アボリジニに見る宗教的(精神的)世界」をテーマとする。この4地域の宗教について、それぞれ、3回から4回の授業を行う。</p> <p>これらの具体的な宗教事例を通して、宗教とは何か、そのメカニズムと捉え方について、考えていく。世界宗教として知られる制度化した宗教というより、民間信仰や自然宗教、そして「文化としての宗教」や「生活の中の宗教」の存在、役割、諸側面のほうに注目する。全体として宗教現象には、人間の行為、思考、生活様式、観念、規範などに関する、どのようなパターン・傾向・枠組みがあるのかを探っていく。</p> <p>毎回の授業は、おおよそ次の段取りで行う。</p> <p>小テスト/小レポート(約10分)。 講義(約45分)。 グループディスカッション+代表者発言+解説・総括(約30分)。</p> <p>テキスト/教科書は用いないが、各テーマについて毎回、レジュメ(ときには参考資料のコピー)を事前に配布し、予習を促す。</p>					
授業の一般目標					
<p>宗教という言葉が、いろいろな側面、定義、解釈、見方があって理解しにくくなったいま、宗教を、一方では人間にとつての普遍的な心の機能・メカニズムとして位置づけ、他方では個々の固有な文化現象として捉え、ダイナミックかつ包括的・本質的な枠組みと視点に親しむこと。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:宗教学に関する主要な課題について一定の理解と知識を身につけること。</p> <p>思考・判断の観点:個々の宗教現象について、一定の視点から分析できるようになること。</p> <p>関心・意欲の観点:授業中の良識ある態度(私語しないこと、遅刻と途中退室しないこと、居眠りしないこと、など)。</p> <p>態度の観点:授業中の良識ある態度(私語しないこと、遅刻と途中退室しないこと、居眠りしないこと、など)。</p> <p>技能・表現の観点:レポートによる記述力と表現力。</p> <p>その他の観点:宗教現象を捉える感性と感受性を磨くこと。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>* 授業内小レポート/小テストを12回課す。</p> <p>* 中間レポートと最終レポートをそれぞれ1回課す。</p> <p>* 中間レポートと最終レポートは、「文章を中心とするレポート」と「描写・描画を中心とするレポート」のいずれかを選択できるようにする。</p> <p>* 参加者は一学期を通して、何回の授業・レポート/小テストに参加する必要があるのかについては、最初の授業のときに知らせる(一定の余裕がある)。</p>					
教科書					
参考書					
メッセージ					
<p>授業はできるだけ体系的にわかりやすく、範囲を限定して行う。授業に出ることによって参加者が、毎回または全体として、宗教学に関する一定の内容と枠組みを身につけることを目指す。そのためには、参加者のほうも、毎回の授業に出席し、多少の復習をする必要がある。</p>					
連絡先					
<p>ジュマリアラム / 電子メール:djumali@yamaguchi-u.ac.jp / ホームページ:http://alam.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/ / 電話(研究室):083-933-5220 / 研究室:人文学部413号室</p>					
オフィスアワー					
<p>随時</p>					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012112001
開設科目名	美術史・芸術論演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	田中 均			区分	
授業の概要					
この授業では、二つのことを行います。 受講者の卒業論文の研究について、構想の報告、先行研究の批判的紹介、論文の一部の発表を行います。 最近の美学の重要な文献として、ニコラ・ブリオー『関係性の美学』の英訳を講読します。 注意: には、担当教員が指導する学生だけが参加できますが、 にはそれ以外の学生も参加できます。					
授業の一般目標					
卒業論文を書くために必要な諸段階について理解する。 英語で文献を読むことの意義について考える。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 『関係性の美学』のいくつかの論点を説明することができる。					
思考・判断の観点: 先行研究を踏まえて自らの研究の独自性を判断することができる。					
技能・表現の観点: 自らの研究成果を論文として適切に表現することができる。					
成績評価方法(総合)					
受講者の報告内容に従って採点します。					
教科書					
参考書					
レポート・論文の書き方 上級 改訂版 / 櫻井雅夫:慶應義塾大学出版会, 2003 レポート・論文の書き方入門 第三版 / 河野哲也:慶應義塾大学出版会, 2002 新版 論理トレーニング / 野矢茂樹:産業図書, 2006					
メッセージ					
連絡先					
tanakahi@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
木曜 12:50～14:20(事前に連絡して下さい)					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012112002
開設科目名	日本史概論			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	真木 隆行			区分	
授業の概要					
日本中世史を専攻する立場から、日本史研究に関する諸問題についてお話しする。					
授業の一般目標					
(1)歴史学の研究方法の一端を理解する。 (2)中世日本の捉え方をめぐって考究する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 日本史研究に関する基本的な事実関係について説明できる。 中世日本の捉え方をめぐる諸論点について理解する。					
思考・判断の観点: 史料・先行研究・通説を独自の視点で捉え直し、自分なりの見解を導き出す。					
関心・意欲の観点: 関心あるテーマに即してとことん問題を掘り下げる。					
技能・表現の観点: 自分なりの見解を論理的にとりまとめて論述できる。					
成績評価方法(総合)					
出席点、授業内レポートの内容、定期試験、以上から総合的見地に立って評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					
木曜日の放課後、または金曜日の放課後 真木研究室は、人文学部棟4階(415号室)。					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012112003
開設科目名	古文書・古記録			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	橋本 義則			区分	
授業の概要					
<p>この授業では平安時代の貴族が記した日記を翻刻されたテキストに従いつつ読み進めていきます。撰録時代に活躍した藤原実資の日記『小右記』を読んでいます。この授業は史料講読に準ずる内容のものであり、それと同様に受講者が分担して史料を読み、それに基づく解説を行います。担当した箇所についてはレジュメの作成が必須です。また、レジュメの作成に当たっては当時の貴族の世界を詳しく知るために図面や系図、あるいは儀式書や法制書などからの引用が必要になってきます。授業では受講生全員が担当の有無に関わりなく、毎回十分な下調べをした上で出席することが必要で、しばしば指名して意見を求めます。</p>					
授業の一般目標					
平安時代の標準的史料である貴族の日記を読解する力を養成する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 平安時代の貴族の日記を読みこなすための基礎的知識を獲得する。					
思考・判断の観点: 様々な史料を用いて日記の内容を論理的に解釈する力を身につける。					
関心・意欲の観点: 古代貴族の日常生活に関心・興味を抱く。					
態度の観点: 学問上の常識や通説を疑う姿勢を養う。					
技能・表現の観点: 1,古代の典型的漢文史料を正しく訓読・読み下し及び解釈できる。2,正しい日本語(書き言葉)で自分の意見を論理的に表現できる。					
成績評価方法(総合)					
1,学期末試験期間に試験を実施する。2,出席が所定の回数に満たないものには試験を受ける資格を与えない。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
本授業では授業時に受講生全員がパソコンを持ち込み、使用することが期待される。毎回の担当者はあらかじめワードを用いて報告に必要な配布資料を作成し、授業時に参加者全員にワードのファイルで配布することが義務づけられる。また資料の作成に当たってはスキャナーなどの周辺機器の活用も必要とされる。					
連絡先					
y-hasi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室:人文学部3階					
オフィスアワー					
時間のあるときはいつでも					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012112004
開設科目名	古文書・古記録			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	真木 隆行			区分	
授業の概要					
<p>題目: 中世の古文書(後期)</p> <p>概要: 中世文書の写真コピーを使い、文書様式の基礎も踏まえながら読解を行う。</p>					
授業の一般目標					
<p>(1)中世の古文書について、くずし字判読能力を養う。</p> <p>(2)中世の古文書について、内容解釈力を養う。</p> <p>(3)中世の文書様式の基礎を学ぶ。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:(1)中世のくずし字をある程度判読できる。</p> <p>(2)中世の古文書を読解するために必要な知識を得る。</p> <p>思考・判断の観点:より深く、より興味深い内容解釈ができるよう努める。</p> <p>技能・表現の観点:古文書の釈文を正確に記し、読点・返り点・送り仮名を適切に付すことができる。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>定期試験において、3通の古文書を出題する。</p> <p>そのうち1通目と2通目は、授業時間内に検討済みのものからそのまま出題する(片方は、くずし字を楷書体に改めるのみ、もう片方は、楷書体に改めた上で、それに読点・返り点・送り仮名をつける)。3通目は、未検討の古文書から出題し、楷書体に改める。採点は減点方式とし、80点以上を優、70～79点を良、60～69点を可、59点以下を不可とする。</p>					
教科書					
参考書					
<p>『くずし字用例辞典』(厚くて、漢和辞典タイプのもの) / 児玉幸多:東京堂出版</p> <p>『くずし字解読辞典』(薄くて、入筆形検索タイプのもの) / 児玉幸多:東京堂出版</p>					
メッセージ					
はじめは慣れないかもしれませんが、復習を繰り返せば、確実に読めるようになります。					
連絡先					
オフィスアワー					
<p>木曜日の放課後、または金曜日の放課後。</p> <p>真木研究室は、人文学部棟4階(415号室)。</p>					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012112005
開設科目名	古文書・古記録			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	田中 誠二			区分	
授業の概要					
前期よりも高度な訓練をするが、基本的な内容は前期と同じである。					
授業の一般目標					
前期と同じである。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: くずし字の読解能力を養う。					
関心・意欲の観点: 自分で読めるようになるということが大切である。					
成績評価方法(総合)					
定期試験によって成績評価を行う。減点法による足きりがあるのは、前期と同様である。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012112006
開設科目名	日本政治・社会史論			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	田中 誠二			区分	
授業の概要					
萩藩後期の藩財政について、馳走米と家臣団財政、和市変動、財政システムといった観点から説明する。					
授業の一般目標					
日本近世社会の基本骨格が理解できるようにする。あわせて萩藩財政の特質を理解できるようにする。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 日本近世社会の基本的骨格が理解できるようにする。					
思考・判断の観点: 歴史事象の普遍性と固有性を理解し、研究法についても参考になるようにする。					
成績評価方法(総合)					
レポートを提出し、その内容によって成績評価をする。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					
月曜と金曜の昼休み。					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012112007
開設科目名	日本政治・社会史論			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	橋本 義則			区分	
授業の概要					
<p>日本古代の喪葬儀礼や喪葬に関わる制度については、考古学や民族学の調査・研究成果を踏まえつつ、主として所謂大化前代を対象に研究が行われ、多くの成果を上げてきました。しかし律令を基本とした古代国家が成立した8世紀以降の喪葬に関する研究はまだ少なく、またそれらの研究は極めて不十分なものでしかないと思われます。本講義では、このような研究の現状に鑑み、まず8世紀の喪葬の具体的な様相について貴族階級を対象を置いてできる限り明かにし、次いで律令国家の喪葬政策やそれをめぐる政治・社会状況を考えることにしたいと思います。そしてこれらの検討を通じて律令国家の喪葬に対する政策の意図やその変化、さらにそれを推し進め、貴族社会の変化などについても考えてみたいと思っています。昨年度は喪葬のうち「葬」について話しました。本年度は引き続き「葬」について話します。</p>					
授業の一般目標					
日本古代の喪葬儀礼や喪葬に関わる制度とその成立の経緯を理解することを通じて、日本古代の貴族社会について理解を深める。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 古代の喪葬制度とその背景にある政治・社会状況を説明できる。					
思考・判断の観点: 史料や資料を用いて、古代貴族社会の実態を論理的に解釈する能力を身につける。					
関心・意欲の観点: 古代貴族社会に関心・興味を抱く。					
態度の観点: 学問上の常識や通説を疑う姿勢を養う。					
技能・表現の観点: 1, 古代の史料・資料を博捜し、正しく解釈できる。2, 正しい日本語(書き言葉)で自分の意見を論理的に表現できる。					
成績評価方法(総合)					
学期末のレポートによって評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
日本史概説を受講し、飛鳥・奈良・平安の各時代についてやや詳しい知識をもっていることが望ましい。また講義レジュメのダウンロードと受講のためにノートパソコンが必携である。					
連絡先					
オフィスアワー					
時間のあるときはいつでも。					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012112008
開設科目名	日本政治・社会史論			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	橋本 義則			区分	
授業の概要					
<p>古代国家の東北辺境支配</p> <p>古代東北地方の辺境には蝦夷とよばれる未服属の民が居住していた。7世紀中 - 9世紀初めの150年間に古代国家はこの辺境地域に版図拡大の政策を展開する。この辺境政策は、古代国家が東日本の人と物資をつぎ込んで取り組んだ大プロジェクトであり、大和政権以来、畿内政権が進めてきた古代国家形成の最終章に当たる。本講では、蝦夷とは何だったのか、古代国家の辺境支配の構造、版図拡大の過程、辺境支配の変容、古代国家における辺境支配の歴史的意義などについて明らかにする。</p>					
授業の一般目標					
7世紀 - 10世紀の東北地方の歴史を、古代国家との関係で理解する。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
出席と定期試験による。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
Mail address:takao@sal.tohoku.ac.jp Tel :022-795-6062					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012112009
開設科目名	日本史史料講読			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	田中 誠二			区分	
授業の概要					
秋藩政治史史料を精読する。基本的用語の読み・意味を正確に身につけさせ、時代背景・権力機構の特質を読み取っていく。					
授業の一般目標					
1. 秋藩政治史史料を精読し、近世政治権力の機構・実態を理解する。 2. 近世の基本的用語の読み・意味を知り、近世史料を用いて研究・考察する力を培う。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1. 近世の基本的用語の読み・意味を正確に理解する。 2. 近世政治史の課題について理解を深める。					
思考・判断の観点: 1. 近世政治史史料に現れる一定の法則性・連関を把握し、それを論理的に説明する力を養う。					
成績評価方法(総合)					
定期試験によって成績評価を行う。減点法による足りがある。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					
月曜・金曜の昼休み。					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012112010
開設科目名	日本史史料講読			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	篠原 厚			区分	
授業の概要					
日本近現代史を学ぶに必要な基本的資料の読解力を養成する					
授業の一般目標					
日本近現代史の関連資料を自在に読みこなせる力を養成する。					
授業の到達目標					
関心・意欲の観点: 日本近現代史に関する歴史事実への関心と歴史研究の可能性への期待値を上げることを目指す。					
成績評価方法(総合)					
資料読解力をテスト形式で評価する					
教科書					
外交資料 近代日本の膨張と侵略 / 山田朗篇・解説: 新日本出版社, 1997					
参考書					
メッセージ					
資料読解の楽しさを感じよう!					
連絡先					
koketsu@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
Wed.AM10:00-12:00					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012112011
開設科目名	日本史史料講読			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	橋本 義則			区分	
授業の概要					
<p>古代の史料を正確に読み解く力を身につけるために、その代表的な史料、つまり典型的な漢文史料を選んで読み進めてゆきます。この授業では『類聚三代格』を読んでいます。授業で『類聚三代格』を取り上げた理由は、それが奈良時代から平安時代に出された諸種多様な法令を集大成したものであり、また奈良・平安時代の最も典型的な漢文史料であることにあります。授業では受講者が分担して史料解読の報告を行い、解読の正否を含めて検討を加えます。本授業の受講生は、全員が3～4回程度報告することになります。報告に当たっては丹念な史料収集を行った上でのレジュメの作成が義務づけられます。また授業では報告者を含めた受講生全員に積極的に発言を求めたり、あるいは指名して意見を求めたりします。従って受講生は担当の有無に関わりなく、毎回十分な下調べをした上で出席することが必要となります。なお、この授業は外国語の授業と同じ、所謂語学の授業でもありますから、史料を読解する力を養うため根気強く辞書を引くことが必須となります。</p>					
授業の一般目標					
典型的な漢文史料を読解する力を養成する。					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 奈良時代・平安時代の法制史料(法律)を正確に解釈するための基礎的知識を獲得する。 思考・判断の観点: 様々な史料を用いて法制史料(法律)の内容を論理的に解釈する力を身につける。 関心・意欲の観点: 古代法制書の世界、政治制度の変遷に関心・興味を抱く。 態度の観点: 学問上の常識や通説を疑う姿勢を養う。 技能・表現の観点: 1,古代の典型的漢文史料を正しく訓読・読み下し及び解釈できる。2,正しい日本語(書き言葉)で自分の意見を論理的に表現できる。</p>					
成績評価方法(総合)					
1, 学期末試験期間に試験を実施する。2, 出席が所定の回数に満たないものには試験を受ける資格を与えない。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
<p>本授業では授業時に受講生全員がパソコンを持ち込み、使用することが期待される。毎回の担当者はあらかじめワードを用いて報告に必要な配布資料を作成し、授業時に参加者全員にワードのファイルで配布することが義務づけられる。また資料の作成に当たってはスキャナーなどの周辺機器の活用も必要とされる</p>					
連絡先					
y-hasi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室:人文学部3階					
オフィスアワー					
時間のあるときはいつでも					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012112012
開設科目名	日本史史料講読			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	真木 隆行			区分	
授業の概要					
<p>題目：貴族日記『勘仲記』を読む(17)</p> <p>概要：『勘仲記』の輪読をおこなう。前期にひきつづき、弘安7(1284)8月以降の記事を検討する予定。</p> <p>『勘仲記』は、鎌倉後期中流貴族、勘解由小路兼仲(1244～1308)の日記であり、質量共に鎌倉時代を代表する記録史料の一つである。兼仲は、摂関家の家司をつとめ、朝廷では蔵人・弁官を歴任し、やがて公卿となって権中納言まで昇進する。今回対象とする弘安7年には、兼仲は五位蔵人に昇進している。したがって後宇多天皇の周辺にもたらされた情報や、院政をおこなっている龜山院や、関白鷹司兼平との交渉など、国家の中枢に関する情報を窺い知ることができる。</p> <p>テキストには史料大成本を使用するとともに、兼仲の自筆本の写真版コピーで校訂を行いながら輪読する。</p>					
授業の一般目標					
<p>(1)史料の読解力を養う。</p> <p>(2)日本中世史の研究方法の一端を学ぶ。</p> <p>(3)関心ある論点を見つけ、とことん問題を掘り下げる。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:(1)中世の史料を読解できる。</p> <p>(2)中世の史料を読解するために必要な知識を得る。</p> <p>思考・判断の観点:より深く、より興味深い内容解釈ができるよう努める。</p> <p>関心・意欲の観点:関心ある論点を見つけて十分に調査し、とことん問題を掘り下げる。</p> <p>技能・表現の観点:漢文体史料の書き下し文や内容解釈文を適切に書く。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>定期試験を実施する。</p> <p>授業時間内に検討した史料を抜粋し、それに基づき出題する。</p>					
教科書					
参考書					
メッセージ					
ゼミナール形式で行います。基本的事項の説明にとどまるのではなく、なんらかの検討課題を独自に発見し、深く掘り下げられた報告を求めます。					
連絡先					
オフィスアワー					
<p>木曜日の放課後、または金曜日の放課後</p> <p>真木研究室は、人文学部棟4階(415号室)。</p>					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012112013
開設科目名	日本史演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	田中 誠二			区分	
授業の概要					
前期と同様					
授業の一般目標					
前期と同様					
授業の到達目標					
知識・理解の観点:前期と同じ。					
思考・判断の観点:前期と同じ。					
技能・表現の観点:前期と同じ。					
成績評価方法(総合)					
前期と同じ。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					
月曜と金曜の昼休み。					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012112014
開設科目名	日本史演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	橋本 義則			区分	
授業の概要					
受講生は自らが関心を持つ日本古代史上の種々のテーマについて、具体的な史料を用いながら調査・研究を進め、毎々その成果を報告してもらいます。報告終了後、まず提示された史料解釈の妥当性を中心にして検討を行い、さらにその研究史上における問題や論理の展開などについて討議、検討を加えます。この過程を通じてよりよい卒業論文の作成を目指したいと考えています。					
授業の一般目標					
受講生は自らが関心を持つ日本古代史上の種々のテーマについて、具体的な史料を用いながら調査・研究を進め、毎々その成果を報告してもらいます。報告終了後、まず提示された史料解釈の妥当性を中心にして検討を行い、さらにその研究史上における問題や論理の展開などについて討議、検討を加えます。この過程を通じてよりよい卒業論文の作成を目指したいと考えています。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 卒業論文作成に必要な日本古代史に関する知識を獲得する。					
思考・判断の観点: 卒業論文作成に必要な論理的考察力を獲得する。					
関心・意欲の観点: 卒業論文作成に当たり、自らの興味・関心に基づいて、問題を設定する力をつける。					
態度の観点: 卒業論文の作成を通じて、自ら学問上の常識や通説を疑い、解決しようとする姿勢を養う。					
技能・表現の観点: 1.論文作成に必要な史料を正確に解釈できる。2.正しい日本語(書き言葉)で自分の意見を論理的に表現できる。					
成績評価方法(総合)					
1.学期末に半期かかって報告した研究内容についてレポートを提出する。2.レポートの分量については別途指示する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
本授業では授業時に受講生全員がパソコンを持ち込み、使用することが必須とされる。また毎回の研究報告発表者はあらかじめワープロソフト(ワード)を用いて報告に必要な配布資料を作成し、授業時に教官および受講生全員に資料をワードのファイルで配布することが義務付けられます。また資料の作成に当たってはスキャナーなどの周辺機器の活用も必要とされる。					
連絡先					
y-hasi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室:人文学部3階					
オフィスアワー					
時間のあるときはいつでも					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012112015
開設科目名	日本史演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	真木 隆行			区分	
授業の概要					
日本中世史を専攻する3回生と4回生を対象とし、卒業論文の作成に向けた指導を行う。報告担当者は各自の関心を深めて、充実した研究報告を行う。報告担当者以外の参加者も、報告内容をめぐって活発に議論し、中世史の諸問題を掘り下げていてもらいたい。					
授業の一般目標					
卒業論文作成につながるような研究成果を重ねる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: (1)関係史料や先行研究について把握する。					
(2)関心ある事象の時代背景を把握する。					
思考・判断の観点: 史料・先行研究・通説などを独自の視点で捉え直し、自分なりの見解を導き出す。					
関心・意欲の観点: 関心あるテーマを見つけ、とことん問題を掘り下げる。					
態度の観点: 一研究者としての専門家意識を育む。					
技能・表現の観点: 自分なりの見解を論理的にとりまとめ、よりよい報告や論述ができる。					
成績評価方法(総合)					
3回生に関しては、演習時間内の報告内容と、提出レポートで評価する。					
4回生に関しては、随時に設定する報告とゼミ中間発表の内容で評価する。					
下記の【観点別】は、3回生用の評価方法					
教科書					
参考書					
メッセージ					
いい卒業論文を読ませてください。					
連絡先					
連絡先の電話やE-mailは、今年度の研究室名簿参照					
なお、ゼミの無断欠席が厳禁であることは、全国的な常識 やむを得ず欠席すべき所用がある場合には、本人が直接に事前連絡すること。但し、緊急事態の場合はやむを得ないが、その場合にもきちんと事後報告すること。					
オフィスアワー					
ご来訪ご質問は、不在時以外は基本的にいつでも歓迎する。					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012112016
開設科目名	東洋史概説			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	滝野 正二郎			区分	
授業の概要					
中国前近代社会崩壊の大きな画期となった嘉慶白蓮教叛乱以後の中国近代史を講義する。					
授業の一般目標					
近代中国における伝統的世界秩序の崩壊と再編、伝統社会の崩壊と再生への模索を理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 近代中国における伝統的世界秩序の崩壊と再編、伝統社会の崩壊と再生への模索を理解する。					
思考・判断の観点: 歴史をその深層から思考し、判断する。					
関心・意欲の観点: 前近代社会の結果としての近代社会に関心を持つ。					
態度の観点: 歴史をその深層から理解しようとする態度を持つ。					
技能・表現の観点: 自分の得た知識、認識を論理的な文章で表現できる。					
成績評価方法(総合)					
論説による筆記試験により成績を評価する。					
教科書					
参考書					
中国の歴史 8 近代中国 / 佐伯有一: 講談社, 1974					
世界の歴史 19 中華帝国の危機 / 並木頼寿・井上裕正: 中央公論社, 1997					
中国の歴史 10 ラストエンペラーと近代中国 / 菊池秀明: 講談社, 2005					
メッセージ					
連絡先					
研究室: 人文学部 517 号室, 電話: 内線 5229, E-mail: stakino@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
月曜日 9・10 時限					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012112017
開設科目名	中国社会 経済史論			単位	2 単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	馬 彪			区分	
授業の概要					
出土文字史料から伝来文献史料を直して、補足して中国史を紹介する。					
授業の一般目標					
秦の始皇帝の実像への解明や中国古代史の原資料の読み方や史料による史的な研究仕方などを具体的な出土新史料から分かりやすく学生たちの歴史、特に古代史への興味を喚起する目標である。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 中国古代史の知識と理解を一層深める。					
思考・判断の観点: 史的な思考や判断力を養成。					
関心・意欲の観点: 現代中国をより深く理解するために古代中国の人物(始皇帝など)・事件などへの関心を喚起。					
態度の観点: 歴史の真実を追究しながら現代人の人生態度への啓発を指摘。					
成績評価方法(総合)					
レポート+ 出席					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012112018
開設科目名	中国社会・経済史論			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	滝野 正二郎			区分	
授業の概要					
本授業は、担当教員自らの研究の成果を学生に講義する場である。今回は、清代常関をめぐる商品流通を分析し、常関という機関が設置されたことによる流通上の影響について明らかにする。					
授業の一般目標					
(1) 清代の商品流通について一応の知識を得る。					
(2) 清代常関による商品流通の阻害作用と「促進」作用を理解する。					
(3) 清代常関をめぐる商人・民衆の動きを知ることによって制度と民衆のせめぎ合いを理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 清代の商品流通について一応の知識を得る。					
思考・判断の観点: 制度とは上から押しつけられて終いではなく、それを使用するものの対応によって内実が変質していくものであり、そうした生きたものとして思考する。					
関心・意欲の観点: 制度とは上から押しつけられて終いではなく、それを使用するものの対応によって内実が変質していくものであり、そうした生きたものとして関心をもつ。					
態度の観点: 制度を基底から考えるのではなく、利用の実態から解明する態度をもつ。					
技能・表現の観点: 自らが知り得たこと、認識したことを論理的な文章で表現する技能をもつ。					
成績評価方法(総合)					
学期末に提出するレポートによって評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
漢文史料を紹介しつつ授業を進めるので、漢文史料に興味のある学生の聴講を望む。					
連絡先					
研究室: 人文学部 517、					
電話: 内線 5229、					
E-mail: stakino@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
月曜日 9・10 時限					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012112019
開設科目名	中国社会 経済史論			単位	2 単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	馬 彪			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012112020
開設科目名	東洋史史料講読			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	滝野 正二郎			区分	
授業の概要					
<p>本授業は、漢籍の点校本を受講学生が中心となって読み、担当教官がそれに解説を加えるという形式で授業を進めていく。</p> <p>本年度は葉夢珠撰「閩世編」を取り上げる。葉夢珠は清初(この書を著したのは1690年頃)江蘇省上海県の人。その伝記は不詳であるが、明の遺民的な立場でこの書を著しており、清初江南社会に関する貴重な叙述を残すとともに、明極末期の主要な問題についても言及している。本年度はその中の「水利」・「災祥」・「田産」の部分を読み、明清時代漢文史料の基礎的な読解能力を涵養するとともに、当時の江南士大夫社会の諸問題について検討する。</p>					
授業の一般目標					
<p>(1)漢文史料の基礎的読解力を涵養する。</p> <p>(2)明清時代史料の基礎的な収集・操作力を涵養する。</p> <p>(3)明清時代地域社会の基本的な視点について理解する。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:明清時代の地域社会および史料読解に必要な知識・理解力をもつ。</p> <p>思考・判断の観点:史料から歴史的事実を思考し、判断して抜き出す能力をもつ。</p> <p>関心・意欲の観点:原史料に関心を持つ。</p> <p>態度の観点:原史料を自分の力で読んでいこうとする態度をもつ。</p> <p>技能・表現の観点:漢文史料を読解する技能をもつ。</p>					
成績評価方法(総合)					
期末試験と分担部分に関する発表によって評価する。					
教科書					
閩世編 / 葉夢珠撰 來新夏点校: 上海古籍出版社, 1981					
参考書					
清国行政法 / 織田萬編: 大安, 1965					
清実録: 中華書局, 1985					
光緒欽定大清会典・会典事例 / 崑岡等: 中華書局, 1963					
嘉慶松江府志					
同治上海県志					
メッセージ					
<p>歴史学の基礎は正確な史料読解、史料操作である。この史料講読という授業はその能力を養成する授業である。歴史学コースの東洋史分野を専攻しようとする学生にとって本授業は必須である。積極的な参加を期待する。</p> <p>上述のように、本分野を専攻しようとする学生にとって不可欠であり、また、予め分担を決め、学生が中心となって授業を進めていくので、欠席・中途脱落は厳に慎むこと。</p>					
連絡先					
研究室: 人文学部 517,					
内線 5229,					
E-mail: stakino@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
月曜日 9・10 時限					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012112021
開設科目名	東洋史史料講読			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	滝野 正二郎			区分	
授業の概要					
<p>本授業は、漢籍の点校本を受講学生が中心となって読み、担当教官がそれに解説を加えるという形式で授業を進めていく。</p> <p>この授業では司馬光撰『資治通鑑』を取り上げる。本書は中国の歴史書の中で編年体の代表的な作品とされる。ここではその三国時代の部分を読み、正史『三国志』と対照しながら読解を進めていく。</p>					
授業の一般目標					
漢文史料(標点本正史レベル)の基礎的読解力を涵養する。					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:中国史史料の読解に必要な初歩的知識をもつ。</p> <p>思考・判断の観点:史料から歴史的事実を思考し、判断して抜き出す。</p> <p>関心・意欲の観点:原史料に関心を持つ。</p> <p>態度の観点:原史料を自分の力で読んでいこうとする態度をもつ。</p> <p>技能・表現の観点:漢文史料を読解する初歩的技能をもつ。</p>					
成績評価方法(総合)					
期末試験と分担部分に関する発表によって評価する。					
教科書					
資治通鑑 / 司馬光撰: 中華書局, 1956					
参考書					
三国志 / 陳寿: 中華書局, 1982					
メッセージ					
<p>歴史学の基礎は正確な史料読解、史料操作である。この史料講読という授業はその能力を養成する授業である。歴史学コースの東洋史分野を専攻しようとする学生にとって本授業は必須である。積極的な参加を期待している。</p> <p>上述のように、本分野を専攻しようとする学生にとって不可欠であり、また、予め分担を決め、学生が中心となって授業を進めていくので、欠席・中途脱落は厳に慎むこと。</p>					
連絡先					
<p>研究室: 人文学部 517、</p> <p>電話: 内線 5229、</p> <p>E-mail: stakino@yamaguchi-u.ac.jp</p>					
オフィスアワー					
月曜日 9・10 時限					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012112022
開設科目名	中国史演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	滝野 正二郎			区分	
授業の概要					
清代行政文書の研究。清代の行政文書「奏摺」を読み、そこから清代中期の時代像を構築する。					
授業の一般目標					
清朝の行政文書を読み、その基礎的読解力を獲得するとともに、中国清代の社会の性質、社会と国家の関係について理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 清朝の行政文書に関する基礎的知識を獲得する。					
清代の社会の性質、社会と国家の関係について理解する。					
思考・判断の観点: 中国清代の社会の性質、社会と国家の関係について考える。					
関心・意欲の観点: 清代の社会、行政、社会と国家の関係に関心を持つ。					
態度の観点: 行政文書から社会を見通す態度をもつ。					
技能・表現の観点: 1. 清朝の行政文書を扱う基礎的スキルを獲得する。					
2. 自らの考えを論理的に表明するスキルを持つ。					
3. 自らの考えを論理的に文章にするスキルを持つ。					
成績評価方法(総合)					
授業中の発表と期末レポートで評価する。					
教科書					
宮中档乾隆朝奏摺 / 国立故宫博物院: 国立故宫博物院, 1982					
参考書					
清国行政法 / 織田萬編: 大安, 1965					
清実録: 中華書局, 1985					
光緒欽定大清会典・会典事例 / 崑岡等: 中華書局, 1963					
乾隆朝軍機処随手登記档 / 中国第一歴史档案館編: 広西師範大学出版社, 2000					
メッセージ					
受講生諸君の積極的な史料調査、発表、議論参加が必須である。					
連絡先					
研究室: 人文学部 517、					
内線 5229、					
E-mail: stakino@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
月曜日 9・10 時限					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012112023
開設科目名	西洋史概説			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	尼川 創二			区分	
授業の概要					
<p>後期の授業で扱うのは、教会と文化の問題である。この時代は、神中心のヨーロッパ中世文化がやや相貌を変え、近代的人間観の確立を促すルネサンスの出現を見る。不況の泥沼のなかで、なぜルネサンスの花が開くのか。その理由を明らかにしなければならない。また、イタリア、フランス、イングランド等に見られる世俗性に重きを置いた自国語文学の出現を、力をこめて論じたい。美術の発展についても詳述する。さらに、いま一つの重要な精神運動である宗教改革についても時間の許す限り考察してみたい。</p>					
授業の一般目標					
<p>外見上神に束縛された人間が、やがて神以外の価値あるもの - 人間性とか自然 - にうすうす気がつき始めたのがこの頃の時代精神だった、といえはそれで簡単なのだが、厄介なことにルネサンスとは反対の宗教改革(信仰の内面化と大衆への浸透)という事実がある。これをどう理解すべきか。歴史は実に難しい、そして面白い。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 授業の概要と一般目標で触れた点に知識を持ち、理解する。 思考・判断の観点: 授業の概要と一般目標で触れた点を、自分で深く考える。 関心・意欲の観点: ヨーロッパの信仰と理性の転変について、強い関心を持つ。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>期末試験を行なう。100点満点。ノートなどの持込は不可。無断欠席はマイナス5点。遅刻はマイナス2点。</p>					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
<p>人文学部4階407号室 amak@yamaguchi-u.ac.jp</p>					
オフィスアワー					
<p>月14:10 - 16:10</p>					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012112024
開設科目名	ヨーロッパ史			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	尼川 創二			区分	
授業の概要					
<p>【ロシア革命の考察】19世紀の末に人民主義に代わってマルクス主義がロシアの革命的インテリゲンツィアの心を捉え始めたのはなぜなのか。1902年にレーニンが提起した党組織論はどのような問題点を孕んでいたか。社会主義革命が、資本主義の発達した西欧においてではなく、発展途上国ロシアで達成されたのはなぜなのか。そもそも西欧で社会主義革命を目指す大きな動きが生じなかったのはなぜだろう。レーニンに率いられたボリシェヴィキ党(共産党の前身)がロシアの革命勢力の中心になりえたのはなぜか。同党とロシアの労働者、農民、少数民族との関係はどのようなであったか。同党が革命体制移行過程で逢着した問題はなんであったのか。その革命体制はのちに出現するスターリンの強権的政治体制とどの点でつながり、どの点で断絶しているのか。こうした問題を考えてみたい。</p>					
授業の一般目標					
概要に記したような諸問題の考察を通じて、ロシア革命についての理解を深める。					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:ロシア革命について知識を得、理解を深める。 思考・判断の観点:ロシア革命の原因・経過・結果について自分で考えてみる。 関心・意欲の観点:ロシアとヨーロッパの歴史に強い関心をもつ。</p>					
成績評価方法(総合)					
授業外レポート100点、無断欠席1回につきマイナス5点、遅刻1回につきマイナス2点					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
人文学部4階407号室 amak@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
月14:10 - 16:10					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012112025
開設科目名	アメリカ史			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	藤永 康政			区分	
授業の概要					
1960年代のアメリカ黒人の運動に関して、史料をもとに考察を深めていく。また多くの映像史料と映画での表象を比較や、現代のアメリカ文化やアメリカ社会への理解を深めながら、「60年代」が今日においていかなる意味をもつのかについて考えていく。					
授業の一般目標					
(1)史料を論理的に且つイマジネーション豊かに解釈していく力を学ぶ					
(2)現代史特有の問題点に関し理解を含める					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 運動の年代記だけでなく、その社会政治経済的背景への理解を深める					
思考・判断の観点: 既存の学説にとらわれることなく斬新的な解釈をする力を身につける					
関心・意欲の観点: 現代社会の諸事情と現代史の関係について理解を深める					
態度の観点: 積極的に発言し、意見を交換することが「知」を拡大するものだという「思考法」を身につける					
成績評価方法(総合)					
毎回課題の読書箇所を指示し、それに基づいて発言をしてもらう。その発言の内容がもっとも重視される。					
史料を予め読んでこなくて当然質問に答えられるはずがなく、単なる出席は評価しない。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
質問などがあれば気楽にメールで連絡してください。(ただし、冒頭に学年所属氏名を明記すること)					
連絡先					
yfujinag@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012112026
開設科目名	西洋史学講読			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	藤永 康政			区分	
授業の概要					
アメリカ史関係の論文や学術書の書評誌 Reviews in American History に掲載されたものの中から、授業参加者の研究関心に適した英語論文を選択し、精読を行う。					
授業の一般目標					
(1)英語を英語で理解し、速読ができるようになる (2)史料と論文の読み方の違いを体得する					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 論文の主な論点を早くつかめるようになる。					
思考・判断の観点: 論文の構造、論理を理解できるようになる					
成績評価方法(総合)					
授業での発言を何よりも重視する。したがって、予習なしに出席し、質問・問いかけに答えられない場合、出席とはみなさないし、単なる「出席点」は与えない。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
質問などがあれば気楽にメールで連絡しください。(ただし、冒頭に学年所属氏名を明記すること)					
連絡先					
yfujinag@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012112027
開設科目名	西洋史学講読			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	尼川 創二			区分	
授業の概要					
前期と同じ。					
授業の一般目標					
前期と同じ。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 前期と同じ。					
思考・判断の観点: 前期と同じ。					
関心・意欲の観点: 前期と同じ。					
成績評価方法(総合)					
期末試験と出席点(無断欠席1回に着きマイナス5点、遅刻1回につきマイナス2点)。					
教科書					
Zeiten und Menschen.Europa und die Welt. Das 20. Jahrhundert, / R.H.Tenbrock,K.Kluxen und H.E.Stier					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
人文学部4階409号室 amak@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
月14:10 - 16:10					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012112028
開設科目名	西洋史学講読			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	尼川 創二			区分	
授業の概要					
前期と同じ。					
授業の一般目標					
前期と同じ。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 前期と同じ。					
思考・判断の観点: 前期と同じ。					
関心・意欲の観点: 前期と同じ。					
成績評価方法(総合)					
期末試験と出席点(無断欠席1回につきマイナス5点、遅刻1回につきマイナス2点)。					
教科書					
Histoire Seconde. / Jean-Michel Lambin: Hachette					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
人文学部4階409号室 amak@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
月14:10 - 16:10					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012112029
開設科目名	西洋史演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	尼川 創二			区分	
授業の概要					
前期と同じ。					
授業の一般目標					
前期と同じ。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 各自の発表テーマについての知識・理解が充分であること。					
思考・判断の観点: 問題点を見出すことができ、それについて深く考え、的確な判断をくだせること。					
関心・意欲の観点: 研究対象に強い関心をもっていること。					
態度の観点: 適切な発表の仕方を心得ていること。					
成績評価方法(総合)					
前期と同じ。ただし、4年生については学期末のレポートを免除する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
人文学部4階409号室 amak@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
月14:10 - 16:10					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012112030
開設科目名	西洋史演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	藤永 康政			区分	
授業の概要					
3,4年生を対象(それ以外の学年でも、単位は与えないが、傍聴は歓迎する)とし、演習を行う。3年生は、現在最先端の歴史学認識を把握することを目的に、学術論文を精読する。4年生は、卒業論文の研究報告を行う。なお講義論文は、参加者の関心にしたがって決定する					
授業の一般目標					
(1)歴史学諸理論の把握 (2)早く良い先行研究を見つける方法を会得し、良い「問い」のたてかたを学ぶ (3)理解した理論をいかに展開していくかを学ぶ					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 現代思想と歴史議論、現代社会と歴史学との関係について理解を深める					
思考・判断の観点: 歴史学理論の展開の仕方を会得し、それに則った論理的思考を身につける					
成績評価方法(総合)					
授業での報告、ならびに参加者の報告に対する議論等々、積極的な授業参加を求め、そのみを評価基準とする。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
質問などがあれば気楽にメールで連絡してください。(ただし、冒頭に学年所属氏名を明記すること)					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012112031
開設科目名	日本政治・社会史論			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	篠原 厚			区分	
授業の概要					
<p>近年、政治、メディア、研究においてヨーロッパの地域統合のみならず東アジアの地域統合と地域主義、すなわち東アジア共同体論もますます注目されつつある。2007年、中国の前駐日大使王毅は講演で「新しいアジア主義を模索していく」必要があると宣言し、「100年前のアジア主義」を1955年のバンドン会議、1980年代の「大平総理の環太平洋経済圏」などに直結させた。日本でも「東アジア共同体」、「アジア・コモン・ハウス」などを提唱する学者、評論家、政治家が増えつつある。このように、歴史にルーツを探るアジア統合論の代表的な例を取り上げながら、歴史的なアジア連帯論・アジア主義と現在のアジア統合論の相互関係が研究者によっていかに論じられているかについて考える。</p>					
授業の一般目標					
<p>近年の「東アジア共同体論」などの歴史的背景を理解し、東アジア連帯論の問題点について複数の観点から考え、現在の議論をより適切に理解できることを目指す。</p>					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
授業での積極的参加、報告、レポート提出					
教科書					
Pan-Asianism in Modern Japanese History. / Sven Saaler and J. Victor Koschmann (eds): New York and London: Routledge, 2007					
Pan-Asianism. A Documentary History. / Sven Saaler and Christopher W. A. Szpilman (eds): Unpublished collection (will be distributed to the students)					
参考書					
『アジア / 日本』(思考のフロンティア II) / 米谷匡史: 岩波書店, 2007					
『アジア主義』 / 竹内好編: 筑摩書房, 1963					
メッセージ					
プレゼンテーションのテーマを決めるために、かならず授業開始の前、メールにて連絡ください。					
連絡先					
saaler@sophia.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012112032
開設科目名	中国社会・経済史論			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	馬 彪			区分	
授業の概要					
「中国古代国家論 - 日本にとっての中国とは何か - -」					
1. 歴史学の新動向を鑑みつつ、「国家論の復権」の意義について説明する。					
2. 行程支配の成立と構造の理解が、中国史研究の出発点であったことを説明する。					
3. 中国の権力構造の特質について、新たな観点から説明する。					
授業の一般目標					
(1) 皇帝支配について、学説史を顧みながら、問題点を指摘し、新たな課題を提起する。					
(2) 中国を中国たらしめた個性豊かな処分(特質)を、従来にない方法論で解明する。					
(3) 旧来の中国国家論を批判し、現代につながる特異な支配の仕組みを提示する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1. 「公」権としての国家がいかんにして構築されたかの理解を求める。					
思考・判断の観点: 1. 中国を含む東アジア世界を「家族国家」として理解してきた過去の鋼材を指摘する。					
関心・意欲の観点: 1. 「超大国」中国への特段の関心を持つべきことを喚起する。					
態度の観点: 1. 通説は、隠された史実の発掘によって超えられるべきことを確認する。					
成績評価方法(総合)					
段階を追って計画的に講義を行うので、断片的受講では内容の理解は困難である。理解度(批判を含めて)はレポートで評価するが、出席点を重視する。					
教科書					
参考書					
中国古代国家の「家」と国家 / 尾形勇: 岩波書店, 1979					
東アジアの世界帝国 / 尾形勇: 講談社, 1985					
中華文明の誕生 / 尾形勇・平勢隆郎共著: 中央公論新社, 1998					
中国史 / 尾形勇・岸本美緒共編: 山川出版社, 1998					
中国の歴史(第12巻「日本にとって中国とは何か」) / 尾形勇等共編, 2005					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012113001
開設科目名	社会学概論			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	小谷 典子			区分	
授業の概要					
社会学とは何か、社会学の方法としての社会調査とは何かを、現代社会の社会問題を考えながら学んでいく					
授業の一般目標					
社会学とはどのような学問であるか、社会学の基礎知識を身につける。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 社会学、社会調査の知識を身につける					
思考・判断の観点: 社会的ものの味方ができる					
関心・意欲の観点: 社会問題に関心を持つ					
態度の観点: 身の回りに起こっていることに対して好奇心を持つ					
成績評価方法(総合)					
授業の進捗段階ごとに行う小レポートと、出席、試験を総合的にみて評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
前期の社会学概論 も履修して欲しい 社会調査士資格認定科目					
連絡先					
5236					
オフィスアワー					
月曜日 14時～15時					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012113002
開設科目名	現代社会論			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	小谷 典子			区分	
授業の概要					
産業都市における企業の社会貢献活動とまちづくりに関する日本各地の事例をみながら、住みよいまちづくりを考える					
授業の一般目標					
産業都市の諸問題について考え、身近な都市のまちづくりにたいして、自分なりの考えをもつ					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 産業都市の変化と現状に関する知識を身につける					
思考・判断の観点: 企業組織の実態についての確に判断する					
関心・意欲の観点: 身近な産業都市の現状について関心を持つ					
成績評価方法(総合)					
授業中に実施する小レポート、出席、最終試験を総合して評価する					
教科書					
企業の社会貢献とコミュニティ / 三浦典子:ミネルヴァ書房, 2004					
参考書					
メッセージ					
できれば前期・後期続けて受講してください					
連絡先					
5236					
オフィスアワー					
月曜日 14時 15時					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012113003
開設科目名	現代政治社会論			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	縹織 厚			区分	
授業の概要					
戦前期日本と戦後期日本の連続性に係わる論点を中心に講義を進める。					
授業の一般目標					
官僚制・天皇制・政党制という三つの日本型システムの解析を通して日本近現代史を立体的に捉える視点を養う。					
授業の到達目標					
思考・判断の観点: 客観的かつ正確な資料や文献に触れながら、歴史を現代的な視点から再構成する力を養成する。					
成績評価方法(総合)					
論述試験で評価する。					
教科書					
帝国日本の原型とその再登場 / 縹織厚: 凱風社, 2009					
侵略戦争 / 縹織厚: 筑摩書房, 1999					
総力戦体制研究 / 縹織厚: 三一書房, 1981					
日本海軍の終戦工作 / 縹織厚: 中央公論社, 1996					
近代日本政軍関係史の研究 / 縹織厚: 岩波書店, 2005					
参考書					
メッセージ					
既成の歴史観から抜け出そう!					
連絡先					
kloketsu@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
Wed.10:00-12:00					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012113004
開設科目名	社会学演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	小谷 典子			区分	
授業の概要					
社会学の理論や研究方法を学び、現代社会が抱える諸問題について、テキストに基づき、各自レポートし、それぞれの研究課題について議論しながら、現代社会に関する関心を深める。					
授業の一般目標					
現代社会の構造と変動を、都市社会に視点を置いて理解する。そこから派生する関心ある社会問題を見つけ出し、社会学的な分析方法を身につける					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 現代社会の研究に関する知識と理解を深める					
思考・判断の観点: 現代社会の現状を判断する					
関心・意欲の観点: 現代社会に関する関心を深める					
研究テーマを明確化する					
成績評価方法(総合)					
出席、課題報告、最終レポートで総合的に評価する					
教科書					
参考書					
メッセージ					
小谷を指導教員とする4年生は必ず受講すること					
連絡先					
5236					
オフィスアワー					
月曜日 14時 15時					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012113005
開設科目名	社会学演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	横田 尚俊			区分	
授業の概要					
本演習では、4年生の卒業論文作成に向けた指導を行う。					
授業の一般目標					
受講生が、自分自身で設定した研究課題にしたがって、卒業論文を執筆できるようにする。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
報告 100%					
教科書					
参考書					
メッセージ					
受講生の卒業論文提出のスケジュールに鑑みて、正規の演習は12月初旬で終了し、以降は各自の進度に応じた個別指導を実施する。					
連絡先					
メール・アドレス n.y@yamaguchi-u.ac.jp					
研究室 人文棟3階307室					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012113006
開設科目名	社会学演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	横田 尚俊			区分	
授業の概要					
福祉ボランティアの展開と機能・組織の特質、およびその可能性と課題について、地域福祉政策の動向や公共性論とかがわからせながら考察していく。福祉ボランティア論のテキストを読みながら、受講生自身による報告と質疑、討論によって授業を進めていく。また、3年生には、卒業論文作成に備えて、各自の研究テーマに沿った研究報告もしてもらう。					
授業の一般目標					
1 福祉ボランティアの概念と歴史の変遷、機能、および組織の特質などについて、社会学の視点から理解を深める。 2 福祉ボランティアの可能性と課題を、現代の地域福祉政策・制度の動向、公共性問題などとの関連で、考察できるようにする。 3 各自の研究テーマを深め、卒業論文作成の準備を進める。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
出席 40% 報告・授業への参加度 40% 課題レポート(必須) 20%					
教科書					
福祉ボランティア論 / 三本松政之ほか: 有斐閣, 2007					
参考書					
福祉社会事典 / 庄司洋子ほか: 弘文堂, 1999					
メッセージ					
初回の授業で、テキストの入手方法や授業の進め方などについて説明するので、必ず初回に出席すること。					
連絡先					
メール・アドレス n.y@yamaguchi-u.ac.jp 研究室 人文棟3階307室					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012113007
開設科目名	現代政治社会学演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	篠崎 厚			区分	
授業の概要					
受講者の卒論に関連する報告を中心に進める。					
授業の一般目標					
問題意識を確実に論述で表現できる力を養う。					
授業の到達目標					
思考・判断の観点: 自らの問題関心を明らかにし、これについて自ら主体的に問題対象に取り組む姿勢を身につける。					
成績評価方法(総合)					
報告内容で評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
歴史課題への取り組みは現代社会への取り組みに通ずる					
連絡先					
koketsu@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
Wed.AM10:00-12:00					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012113008
開設科目名	社会学調査実習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	横田 尚俊			区分	
授業の概要					
<p>具体的な調査テーマを設定し、社会調査の方法にしたがって、調査を実施する。調査テーマの設定、テーマにかかわる資料収集と事前学習、調査手法の検討、調査票の設計、ラポール、調査によるデータの収集と整理・分析、調査報告書の執筆、という一連のプロセスを、実習形式で修得していく。取り上げるテーマは、「環境問題と住民活動」、「災害と地域社会」、「市民活動と地域社会」、「まちづくりとコミュニティ再生」のいずれかを予定している。調査手法としては、主に聞き取り調査を採用する予定である(テーマについてはあくまで予定であり、変更する場合もある)。</p>					
授業の一般目標					
社会調査の方法を学習し、受講生自身が、グループで協力しあいながら、社会調査を企画・実践できるようにする。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
授業への参加度(調査のプロセス・作業への参加) 50%					
授業内での発表 20%					
調査レポート 30%					
教科書					
参考書					
社会学小辞典 / 浜嶋朗ほか: 有斐閣, 1997					
社会調査へのアプローチ(第2版) / 大谷信介ほか: ミネルヴァ書房, 2005					
「あたりまえ」を疑う社会学 質的調査のセンス / 好井裕明: 光文社, 2006					
メッセージ					
調査実施期間中は、正規の授業時間以外にもある程度の時間を費やさなければならない。受講生には、あらかじめこの点を了解してほしい。					
連絡先					
メール・アドレス n.y@yamaguchi-u.ac.jp					
研究室 人文棟3階307室					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012113009
開設科目名	社会心理学概論			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	辻 正二			区分	
授業の概要					
社会心理学においては、社会調査はきわめて重要な意味を持っている。本講義では、社会調査に必要な理論と技法について学ぶ。					
授業の一般目標					
1)社会心理学に必要な社会調査の方法についての知識、技法について学ぶ。 (2)社会調査を実施するまでの基本的知識、調査票の作成方法、サンプリング方法などの知識、技法を修得する					
授業計画(概要・授業の目標(予定))					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
社会心理学の調査法の知識を理解し、判断能力があるかどうかを評価の対象とします。					
教科書					
社会調査へのアプローチ / 大谷信介他:ミネルヴァ書房, 2005					
参考書					
メッセージ					
社会心理学の基礎となる調査法の授業です。テキストは、必ず入手してください。配付資料だけでは足りないと思います。					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012113010
開設科目名	現代社会意識論			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	辻 正二			区分	
授業の概要					
<p>現代の社会は、グローバル化や情報化等の進行により、産業社会構造そのものが大きく変化して、人間の時間意識の変化を余儀なくされている。現代社会は、社会的時間レベルで見ると、車やパソコンのモデルチェンジにみられるように、生産と消費のスピードがますます加速化しており、人間はそれに適応しなければならないが、実際にはそのなかでますますストレスを背負い、その結果いろいろな病理現象を生みつつある。その一方現代社会は、成熟社会や高齢社会になるにつれ、青年期や高齢期の時間帯が長期化して、青年の中には大人になることを「延長化」し、高齢者は平均寿命の伸びによって高齢期の「延長化」を迎えて、いままで経験しなかったを抱えている。</p> <p>この講義では、現代社会が抱える問題を「時間社会学」のレベルから迫り、今後、時間の視点から現代社会が直面する問題、人間の時間意識の問題について今後どのような方向づけが必要かを考えてみたい。</p> <p>授業の一般目標</p>					
授業の一般目標					
<p>(1)現代社会の変化を時間学のレベルから研究する視点を学ぶ。</p> <p>(2)青年期と高齢期の対照的な時間帯に共通する時間の長期化を通して現代人が直面する問題が何なのかを学ぶ。</p> <p>(3)時間して視点からの時間政策の方策について考える姿勢を学ぶ。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:現代社会の時間学的見方に関する知識を学び、時間学のアプローチについて理解することができる。</p> <p>思考・判断の観点:自ら進んで社会的時間や現代社会における時間的思考や判断が出来ること。</p> <p>関心・意欲の観点:生活の中で社会的時間に関心を持ち、その現象的理解とともに問題点を意欲的に取り組むことができる。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>社会学的な想像力を養えることができると考えています。</p>					
教科書					
参考書					
<p>時間学概論 / 辻正二監修・恒星社厚生閣, 2008</p> <p>ケアを問いなおす / 広井良典・筑摩書房</p> <p>やわらかな生命の時間 / 井上慎一・秀和システム, 2006</p>					
メッセージ					
<p>授業は、資料を使って進行しますが、参考書は最低2冊以上は読むようにしてください。</p>					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012113011
開設科目名	現代社会意識論			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	辻 正二			区分	
授業の概要					
<p>現代の社会は、グローバル化や情報化等の進行により、産業社会構造そのものが大きく変化して、人間の時間意識の変化を余儀なくされている。現代社会は、社会的時間レベルで見ると、車やパソコンのモデルチェンジにみられるように、生産と消費のスピードがますます加速化しており、人間はそれに適応しなければならないが、実際にはそのなかでますますストレスを背負い、その結果いろいろな病理現象を生みつつある。その一方現代社会は、成熟社会や高齢社会になるにつれ、青年期や高齢期の時間帯が長期化して、青年の中には大人になることを「延長化」し、高齢者は平均寿命の伸びによって高齢期の「延長化」を迎えて、いままで経験しなかったを抱えている。</p> <p>この講義では、現代社会が抱える問題を「時間社会学」のレベルから迫り、今後、時間の視点から現代社会が直面する問題、人間の時間意識の問題について今後どのような方向づけが必要かを考えてみたい。</p> <p>授業の一般目標</p>					
授業の一般目標					
<p>(1)現代社会の変化を時間学のレベルから研究する視点を学ぶ。</p> <p>(2)青年期と高齢期の対照的な時間帯に共通する時間の長期化を通して現代人が直面する問題が何なのかを学ぶ。</p> <p>(3)時間して視点からの時間政策の方策について考える姿勢を学ぶ。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:現代社会の時間学的見方に関する知識を学び、時間学のアプローチについて理解することができる。</p> <p>思考・判断の観点:自ら進んで社会的時間や現代社会における時間的思考や判断が出来ること。</p> <p>関心・意欲の観点:生活の中で社会的時間に関心を持ち、その現象的理解とともに問題点を意欲的に取り組むことができる。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>社会学的な想像力を養えることができると考えています。</p>					
教科書					
参考書					
<p>時間学概論 / 辻正二監修・恒星社厚生閣, 2008</p> <p>ケアを問いなおす / 広井良典・筑摩書房</p> <p>やわらかな生命の時間 / 井上慎一・秀和システム, 2006</p>					
メッセージ					
<p>授業は、資料を使って進行しますが、参考書は最低2冊以上は読むようにしてください。</p>					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012113012
開設科目名	社会心理学演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	辻 正二			区分	
授業の概要					
<p>3年生と4年生を対象にした演習形態の授業です。授業では、3年生は、各自研究したいと思う関心領域をレポートしながら、卒論のテーマを見つける作業をしていただきます。4年生は、自分の卒論の進行状況を報告する形で、卒論を仕上げで戴きます。</p> <p>3年生と4年生がともに違った作業を通して社会心理学の知識や研究方法を深めてもらいます。</p>					
授業の一般目標					
<p>(1)レポートの課題を通して専門的な知識を学ぶとともに解釈の仕方やプレゼンテーションの方法について学ぶ。</p> <p>(2)専門的な知識を深めるとともに議論に参加し、自分の見解を述べる姿勢を身につける。</p>					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
演習の課題を受けて、レポート発表の資料を作成すること、発表にあたってのプレゼンテーション、演習での議論の参加度などを総合的に評価します。					
教科書					
, 1993					
, 1963					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012113013
開設科目名	社会心理学演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	高橋 征仁			区分	
授業の概要					
夏休みの間に自分の研究テーマを見つけ、それに関する基本的文献を収集し、精読していく。これによって、先行研究の概要を把握し、自分の卒業研究のための土台を構築する。					
授業の一般目標					
1)必要な文献や資料を収集し、情報を整理していく技法を身につける。 2)問題や論点を整理し、議論を方向づける能力を身につける。 3)自分の卒業研究のための大まかな見取り図を作成する。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
授業での研究発表20点、討論や質疑20点、学期末レポート60点にて評価する					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					
金曜日5・6時限					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012113014
開設科目名	社会心理学調査実習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	高橋 征仁			区分	
授業の概要					
<p>量的な社会調査を念頭に、調査の企画から報告書の作成まで、社会調査の全過程を一通り体験的に学習することで、学生が自ら調査を企画し、実施していく能力とその際に必要な倫理観とを養う。とくにこの後期の授業においては、具体的なデータの入力から加工、集計・分析、報告のプロセスに学習の重点を置くことで、有意義な調査企画・調査票作成が可能になるようにフィードバックしていく学習を目指す。</p>					
授業の一般目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 実際に調査を企画し、実施し、報告書を作成するまでのプロセスを体験することによって、自らが調査を実施していく能力を身につける。 2. 調査データの性質や意味を十分考慮し、公平かつ客観的に現象を記述する態度を身につける。 3. 社会心理学の理論と調査研究とを相互に往復する思考様式を身につける。 					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
授業中のプレゼン40点と期末レポート60点の総合点によって評価する。					
教科書					
参考書					
社会調査へのアプローチ / 大谷信介ほか: ミネルヴァ書房, 1999					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					
金曜日 5・6 時限					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012113015
開設科目名	社会調査データ解析法			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	高橋 征仁			区分	
授業の概要					
<p>社会調査におけるデータは、はじめから「客観性」を保証されているわけではない。調査項目やサンプリングの方法、質問文の表現や回答法、データの分析技法やその解釈等々によって、巨大な「ウソ」が作られることは、決して珍しいことではない。日本社会においては、予算や補助金獲得のために、または問題隠蔽や責任回避のために、あるいはイデオロギーの補強のために、連日のように「ウソ」が量産されているのが実情である。授業では、そうしたデータの産出を批判的に吟味するとともに、調査データに関する基本的な取り扱い方法について学ぶ。</p>					
授業の一般目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 官庁統計や簡単な調査報告書・フィールドワーク論文が読めるための基礎的知識を習得する。 2. 度数分布やクロス集計、相関係数などについて、それらの計算や図表作成を実際に行う技能を身につける。 3. 調査データに対する、社会学者としての倫理観、責任感を養う。 					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:カイ2乗検定を電卓で行うことができる。相関係数と回帰分析の論理と手順を理解している。</p> <p>思考・判断の観点:エラボレーションによって関連性の真偽を検討することができる。</p> <p>関心・意欲の観点:常識的な因果関係を疑うとともに、新しい因果関係を構想し、積極的にテストする。</p> <p>態度の観点:社会調査によるデータ収集や処理・分析に対する倫理観を養う。</p>					
成績評価方法(総合)					
毎週の課題40点と期末試験60点の総合点による評価					
教科書					
社会統計学 / 片瀬一男: 日本放送出版協会, 2009					
参考書					
社会統計学 / ボーンシュテット&ノーク: ハーベスト社, 1990					
「社会調査」のウソ / 谷岡一郎: 文藝春秋, 2000					
メッセージ					
たとえ数学が苦手でも、四則演算さえできれば、この授業はマスターできます。					
連絡先					
オフィスアワー					
金曜日 5・6時限					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012113016
開設科目名	質的調査データ解析法			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	横田 尚俊			区分	
授業の概要					
<p>社会調査のうち、質的調査(qualitative survey)によるデータ収集・解析の手法について、基本的な知識を学ぶ。質的調査の方法的特徴、データ収集の技法、調査方法としてのメリットと留意点、データから知見を導き出す手法(分析方法)、などについて、社会学における先行研究の事例を参照しながら、学習していく。特に、調査実習や卒業論文の作成などにおいて最も利用価値が大いと考えられる聞き取り調査の方法について、技術的な諸点も含め、詳しく講義する。</p>					
授業の一般目標					
社会調査における質的調査の特徴やデータ収集・解析の方法について、基本的な知識を身につける。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
<p>授業への出席および参加度 40%</p> <p>定期試験 30%</p> <p>授業内小レポート及び課題レポート 30%</p>					
教科書					
社会調査へのアプローチ(第2版) / 大谷信介ほか:ミネルヴァ書房, 2005					
参考書					
<p>新版 ライフヒストリーを学ぶ人のために / 谷富夫ほか:世界思想社, 2008</p> <p>「あたりまえ」を疑う社会学 質的調査のセンス / 好井裕明:光文社, 2006</p>					
メッセージ					
連絡先					
<p>メール・アドレス n.y@yamaguchi-u.ac.jp</p> <p>研究室 人文棟3階307室</p>					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012113017
開設科目名	比較社会文化論			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	湯川 洋司			区分	
授業の概要					
日本の各地に行なわれている行事や祭り、それに伴う芸能やそこに現れる神の姿などを事例に取り上げ、日本各地の暮らしの多様性を発見し、それらを比較しながら、社会や文化の理解における比較の役割の重要性を確認する。					
授業の一般目標					
日本の社会や文化が単一的なものではなく多様性に富むことを、種々の民俗を手がかりに比較しながら具体的に理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 各地の行事や祭りの実態や内容について、説明できる。					
思考・判断の観点: 各地の行事や祭りを比較してそれぞれの特徴や違い、共通性について説明できる。					
成績評価方法(総合)					
毎回実施する小テストと授業外レポート、期末試験により評価します。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
まずは、日本各地の民俗を知ってみてください。					
連絡先					
yukawa@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
研究室:人文学部棟2階210号室、いつでも訪ねてください。事前にメールで連絡くだされば助かります。					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012113018
開設科目名	アジア比較社会論			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	山本 真弓			区分	
授業の概要					
通常、入手しにくいアジア映画を鑑賞し、その背景や内容分析を行いながら、アジアという多様な世界に生きる人々の社会文化を考察する。					
授業の一般目標					
ヨーロッパ近代もしくは日本の映画技法とは異なった技法で撮影された映画を見ることで、日本およびヨーロッパ近代を相対化すること。異なる複数のアジア映画を鑑賞することで、アジアの多様性を認識すること。アジアという用語への理解と考察を深めること。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: ストーリーを理解すること。わからないところについては、積極的に調べること。					
思考・判断の観点: 見慣れない情景、聞きなれない言葉、知らない風習について、拒絶するのではなく、興味をもってその意味を考察すること。					
成績評価方法(総合)					
授業内に課するレポートで行なう。欠席は基本的に認めない(忌引き、病気、公共交通の遅滞等については、この限りではない)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012113019
開設科目名	生活文化論			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	坪郷 英彦			区分	
授業の概要					
人間の暮らしをものの視点から考察する。文化人類学の物質文化研究、民俗学の民具研究の諸成果を示し、さらに現代の視点からの検討を加えながら授業を進めていきます。今年のテーマとしては生活学・考現学の理論と方法を取りあげる。					
授業の一般目標					
人間が作り出した様々なものを社会的、システムの、技術的に読み解く力を養う。ものを通して現代社会を分析するための目標と方法を理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 基本的理論、用語の説明ができる。					
思考・判断の観点: 日常を機能・システムの視点から読み解くことができる。					
関心・意欲の観点: 消費社会の表層と本質的な部分を読み分けることができる。					
態度の観点: 日常のもの・ことに新たな視点で接することができる。					
技能・表現の観点: 自分の考えを正確に論述できる。					
成績評価方法(総合)					
出席と期末レポート及び授業内レポートにより評価します。特に出席と期末レポートを重視します。 出席率が70%以下の場合は評価対象となりません。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
映像やスライドなど画像情報を用いてわかりやすく授業を行います。考現学を体験してみましょう。日常に対する眼が開かれます。					
連絡先					
Email hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp 電話 5239、研究室 213					
オフィスアワー					
木曜日 12:00～14:00					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012113021
開設科目名	文化人類学演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	坪郷 英彦			区分	
授業の概要					
文化的ひとともの関係について考える内容です。この授業ではものとひとの基本的関係を知るための方法を学び、基本的関係について考察していきます。きっかけとして都市について文化人類学の視点・方法から一緒に学んでいきます。					
授業の一般目標					
文化人類学の基本を理解すること。文化人類学的ひとの見方を把握すること。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 各自が設定したテーマについて基本的内容、用語の説明ができる。					
思考・判断の観点: 各自が設定したテーマについて、自分の問題として理解し、次の行動を起こすことができる。					
関心・意欲の観点: 自ら積極的に関連文献を探して読むことができる。					
態度の観点: 自分の考えをまとめて発表できる。議論の中で自分の考えを組み立てていくことができる。					
技能・表現の観点: 効果的な発表手法の基本を理解する。					
成績評価方法(総合)					
出席と授業への積極的態度によって評価します。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
3年生は卒論へ向けて自分の関心がまとまっていくことを期待します。2年生の受講を歓迎します。プレゼンテーションはコンピュータを用いて行います。					
連絡先					
E-mail hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp 電話 5239 研究室 213					
オフィスアワー					
木曜日 10:00～12:00					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012113022
開設科目名	文化人類学演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	坪郷 英彦			区分	
授業の概要					
各自の卒業論文の内容に沿ってアドバイスをを行います。					
授業の一般目標					
卒業論文完成に向けて、客観的な資料解釈及び処理ができる。論理的な論文構成ができることが目標です。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
一つの問題を見つけ、それに対しての自分の回答をもつことが卒業論文の大きな目的です。卒論完成に向けての思考・意欲・態度を総合的に判断します。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
主体的に関わる授業だと理解してください。					
連絡先					
Email hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp 電話 5239、研究室 213					
オフィスアワー					
木曜日 12:00～14:00					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012113023
開設科目名	現代政治社会学演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	山本 真弓			区分	
授業の概要					
3年生対象。卒論執筆のために論文の書き方を学ぶ。実際のテーマ選びと方法論の決定、目次作成などを通して、各自が自らの論の構成を披露し、参加者が質問するなどして詰めて行く。					
授業の一般目標					
卒業論文のたたき台になるようなレポート作成を目標とする。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 自らの論の背景となる一般的知識を獲得し、理解していること。					
思考・判断の観点: 論理的思考ができること。					
関心・意欲の観点: 論理的思考ができること。					
態度の観点: 自らの研究だけでなく、他人の研究発表にも積極的に関与し、意見を述べること。					
技能・表現の観点: 社会科学用語が使いこなせていて、かつ論理的な文章表現ができること。					
成績評価方法(総合)					
出席と発表					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012113024
開設科目名	現代政治社会学演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	山本 真弓			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012113025
開設科目名	民俗学演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	湯川 洋司			区分	
授業の概要					
<p>民俗学の基本的問題を理解し、民俗学に対する自らの関心を深め強める一助とする。</p> <p>民俗学の特定テーマを編集したテキストを、受講者と相談のうえ決める。受講者は順次、担当した文章の内容を整理して発表する。受講者はその内容について討論をしながら理解を深める。テキストは毎回、全員が読んで来る。</p>					
授業の一般目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 民俗学の扱う領域、課題を知る。 2. 民俗学のテーマを編集した文献を読むことで、民俗学の思考法を理解する。 3. 受講生との討論を通じて、相互に啓発しあう人間(友人)関係を築く。 					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 民俗学の基本的概念について説明できる。</p> <p>思考・判断の観点: 民俗学上の特定テーマを基本的概念や用語を用いて説明できる。</p> <p>態度の観点: 他者の発表をよく聞いて、積極的に発言することができる。</p> <p>技能・表現の観点: 民俗学の概念や用語を用いて、民俗学的内容を論じた文章が作成できる。</p>					
成績評価方法(総合)					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 他の受講生の発表を聞いたり、自ら発表したりする態度や状況を重視する。 2. 発表当番の責任を十分に果たしたどうか。 3. 内容や表現のしっかりしたレジュメやレポートを作成し提出できたか。 					
教科書					
参考書					
メッセージ					
授業時間外の予習と復習が大事です。自ら知る、探るという精神をぜひ発揮してください。					
連絡先					
yukawa@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
必要があればいつでも研究室を訪ねてください					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012113026
開設科目名	民俗調査実習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	坪郷 英彦			区分	
授業の概要					
民俗調査で得たデータを処理し報告文としてまとめる能力を養成します。聞き、スケッチ、写真撮影により収集されたデータをどのように処理すればよいか、チームによる調査で得られた多量のデータをどうまとめていくかについて、その方法を理解し実践します。最終的に報告文の形でまとめること、報告書作りのための編集を具体的に行います。					
授業の一般目標					
1, 文字情報、画像情報のデジタル化の方法を習得します。 2, 集められた多くのデータをグルーピング等によってまとめる方法を習得します。 3, 自分の考えをまとめ、文章・図表・画像等で表すことを行います。 4, 報告書としてまとめるための編集技術を習得します。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: デジタル化、データの集約、表現方法、編集技術に関する基本的方法を説明できる。報告書作りのための作業全体の手順、関連性を把握する。					
思考・判断の観点: 多量のデータの内容を判断し体系的分類ができる。					
関心・意欲の観点: 自らテーマを設定し、明らかになったことを報告文としてまとめる。全体をまとめることで一地域総体の民俗理解に寄与できる。					
態度の観点: 表現し、まとめるために積極的な授業参加となる。					
技能・表現の観点: コンピュータによるデジタル処理ができる。個別的なデータをまとめテーマに沿った文章表現ができる。文章、図、表の表現手段を的確に選択し、表現ができる。					
成績評価方法(総合)					
様々なレベルの手法を学ぶ授業なので出席を重視します。また、各自の報告文を作成するために2回の間接報告を義務づけて、表現力を評価します。また、グループ作業なので積極的な参加態度を重視します。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
授業ではコンピュータを多用します。各自のパソコンを持ってきてください。所持していない人はコースから借りることができます。ワード、エクセルなどに慣れておくことが望ましい。					
連絡先					
Email hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp 電話 5239 研究室 213					
オフィスアワー					
木曜日 12:00～14:00					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012114001
開設科目名	宗教学演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	ALAM DJUMALI			区分	
授業の概要					
<p>参加者各自が研究したい、または関心のある宗教現象を取り上げ、宗教学的な考察と分析を行う。宗教学の領域範囲内の自由発表形式となるが、宗教学的な視点・枠組み・理論・方法論が十分に活かされるように、プレゼンテーションの準備段階または初回のプレゼンテーションで、個別的な指導やアドバイスをを行い、実際のプレゼンテーションや次回のプレゼンテーションにおいて反映されるようにする。</p>					
授業の一般目標					
<p>宗教が人間と社会の生活にいかに深く浸透し、不可避的に伴うものであり、一方では人間生活にとって根源的な役割を果たしているが、他方では形骸化に陥ったり社会・文化的な問題をもたらしたりする場合がある、ということを一定の分析的な体系と枠組みをもって捉えらるようになること。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:宗教学のアプローチと枠組みを身につけること。 思考・判断の観点:個々の宗教現象について、一定の視点から分析できるようになること。 関心・意欲の観点:日常生活における身近な宗教現象について関心を抱くこと。 態度の観点:宗教に関するいろいろな課題について積極的に知ろうとすること。また授業中はできるだけ気楽に、明るく、元気に、積極的に参加すること。 技能・表現の観点:宗教学の理論・学説および宗教現象に関する記述力を養うこと。 その他の観点:宗教現象を捉える感性を磨くこと。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>最終レポートを課す。最終レポートは、「文章を中心とするレポート」と「描写・描画を中心とするレポート」のいずれかを選択できるようにする。</p>					
教科書					
参考書					
メッセージ					
<p>日常生活のあらゆる場面を「様式と媒体」の次元として見て、その背後にある精神的な世界とのつながりを語る事ができたら、それだけで、それは立派な宗教学的考察になります。</p>					
連絡先					
<p>ジュマリ・アラム / 電子メール: djumali@yamaguchi-u.ac.jp / ホームページ: http://alam.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/ / 電話(研究室): 083-933-5220 / 研究室: 人文学部 413 号室</p>					
オフィスアワー					
<p>随時</p>					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012114002
開設科目名	芸術論概説			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	田中 均			区分	
授業の概要					
<p>制度としての「芸術」の誕生</p> <p>芸術家は、なぜあるときは反社会的であると非難され、あるときは天才として崇拝されるのでしょうか。この授業では、近代ヨーロッパにおいて「芸術」という制度が成立した過程について説明します。</p> <p>授業の枠内で展覧会ないし舞台公演を見学する可能性があります。その場合は積極的に参加して下さい。</p> <p>注意:この科目は「美学」の概論です。「美術史」の概論ではありません。</p> <p>前期の美学・美術史概論(芸術論概説)と内容上の関係はありません。</p> <p>また美学・美術史概論(芸術論概説) ないし をすでに履修している必要はありません。</p>					
授業の一般目標					
芸術が哲学的な考察の対象であることを理解する。					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:芸術についてのいくつかの思想を説明することができる。</p> <p>思考・判断の観点:芸術をめぐるいくつかの議論を読んで、立場の違いを区別することができる。</p> <p>技能・表現の観点:芸術についての自らの考えを表現することができる。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>学期末の試験を受験すること、授業に50%以上出席することが単位認定の必要条件です。</p> <p>また、毎回の予習・復習の提出も重視します。</p>					
教科書					
芸術崇拝の思想 / 松宮秀治:白水社,2008					
参考書					
ミュージアムの思想 / 松宮秀治:白水社,2003					
メッセージ					
講義をよく理解するため、「哲学」・「倫理学」・「宗教学」のいずれかに関する授業をあわせて受講することを勧めます。					
連絡先					
tanakahi@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
木曜 12:50～14:20(事前に連絡して下さい)					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012114003
開設科目名	芸術論特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	藤川 哲			区分	
授業の概要					
この講義では、2009年度開催の展覧会を紹介し、特に、企画趣旨や出品作品、作家について解説します。					
授業の一般目標					
一、幅広い分野の作品に親しむ。 二、各展覧会の企画趣旨について理解する。 三、美術展や美術館の制度と背景について理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 一、基礎的な美術史の用語を理解し、それをを用いて作品を説明できる。 二、企画展、常設展、公募展、巡回展、回顧展、テーマ展などの展覧会を区別できる。					
思考・判断の観点: 展覧会の企画趣旨を読み解き、それに対する自らの考えを述べることができる。					
関心・意欲の観点: 一、国内で開催されている展覧会情報をチェックし、心の琴線に触れた展覧会には実際に出掛けてみる。 二、海外旅行に出掛ける際には、旅先の美術館や美術展を訪れる。					
成績評価方法(総合)					
期末試験の成績を基礎として、中間レポートの提出の有無や出席点などを加えて総合的に評価します。詳しくは講義最初のオリエンテーションで説明します。					
教科書					
参考書					
五感で恋する名画鑑賞術 / 西岡文彦:講談社, 2003 なにも見ていない / ダニエル・アラス:白水社, 2002 現代美術館学 / 並木誠士ほか編:昭和堂, 1998 なぜ、これがアートなの? / アメリア・アレナス:淡交社, 1998 増補版 美の裏方 / 朝日新聞マリオン編集部編:ペリかん社, 1993					
メッセージ					
特殊講義ですが、普通講義並みにわかりやすい内容を心がけています。これまであまり美術館に足を運んだことがなかった、という人こそ、受講してみてください。美術展を見るのが楽しくなります。					
連絡先					
fujikawa@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
人文学部の研究室 417 にて水曜日午後					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012114004
開設科目名	芸術論特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	田中 均			区分	
授業の概要					
<p>デイドロの美学</p> <p>ドニ・デイドロ(Deni Diderot: 1713-1784)は、『百科全書』の編集・執筆者、美術批評の創始者、近代演劇の提唱者、唯物論哲学者、といった多様な面を持つ思想家です。</p> <p>この授業では、彼の美学に注目し、そこにどのような現代的な意義があるのかを探ります。</p> <p>注意:この科目は「美学」の授業であり、「美術史」の授業ではありません。</p>					
授業の一般目標					
デイドロの美学の基本的な特徴を理解する。					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:デイドロの美学のいくつかの特徴を挙げることができる。</p> <p>思考・判断の観点:デイドロやその他の思想家のいくつかの議論を読んで、立場の違いを判断できる。</p> <p>技能・表現の観点:デイドロの美学について自らの思考を表現することができる。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>中間試験を受験すること、学期末のレポート(下記参照)を提出すること、授業に50%以上出席することが単位認定の必要条件です。</p> <p>レポート題目(予定):美学・芸術学に関する書物、あるいは芸術現象の一つ以上とりあげ、簡潔に紹介した上で、問題提起・批判・補足など、独自の考察を加えること。ただし、その考察を、授業において取りあげた哲学者一人以上と関連づけること。</p> <p>分量:2000字程度</p> <p>注意:レポートは「感想文」や大学入試の「小論文」とは異なります。授業用のハンドアウトだけを読んで思いついたことを書くのではなく、論じたい対象について、自ら本・論文などの資料にあたって調べ、それをもとに論理的・批判的な議論を展開することが必要です。</p> <p>(レポートの添削を希望する場合は、最終週の授業の前後(詳しくは授業中に指定します)までに提出して下さい。一週間以内に添削して返却しますので、修正のうえ、再提出して下さい)</p>					
教科書					
参考書					
<p>デイドロ著作集/デイドロ:法政大学出版局,1976</p> <p>絵画について/デイドロ:岩波書店,2005</p>					
メッセージ					
フランス語の知識は前提としませんが、ある方が望ましいことは言うまでもありません。					
連絡先					
tanakahi@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
木曜 12:50～14:20(事前に連絡して下さい)					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012114005
開設科目名	美術史実習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	藤川 哲			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012114006
開設科目名	美術史実習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	田中 均			区分	
授業の概要					
<p>芸術と空間</p> <p>芸術作品が展示 / 上演される場所は美術館や劇場だけではなく、現在日本各地で都市の名前を冠した「アート・プロジェクト」が開催され、都市自体がインスタレーションの空間として活用されています。こうした現象はどのような意味を持つのでしょうか。この授業では、空間をめぐる哲学的・社会的・美学的文献を講読して、芸術と空間の関係について考察します。</p> <p>注意:この科目は「美学」の授業であり、「美術史」の授業ではありません。 (下のメッセージも読んで下さい)</p>					
授業の一般目標					
芸術にとって空間が重要な要素であることを理解する。					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:空間について理論のいくつかを説明することができる。</p> <p>思考・判断の観点:空間についていくつかの議論を読み、その立場の違いを区別することができる。</p> <p>技能・表現の観点:芸術と空間との関係について、自らの思考を表現することができる。</p>					
成績評価方法(総合)					
授業中の報告と学期末のレポートによって評価します。					
教科書					
参考書					
<p>日常実践のポイエティック / ミシェル・ド・セルトー : 国文社, 1987</p> <p>空間の生産 / アンリ・ルフェーブル: 青木書店, 2000</p> <p>都市の詩学 / 田中純: 東京大学出版会, 2008</p> <p>空間の詩学 / ガストン・バシュラール: 筑摩書房, 2002</p>					
メッセージ					
講読という授業の性格上、受講者には積極的な議論への参加と十分な予習を求めます。					
連絡先					
tanakahi@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
木曜 12:50 ~ 14:20 (事前に連絡して下さい)					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012114007
開設科目名	美術史・芸術論演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	藤川 哲			区分	
授業の概要					
受講者の研究テーマによる発表と、発表に対する質問、討論を中心とした演習です。後期では、4年生は卒業論文の完成に向けて、3年生はテーマをさらに深められるよう指導します。					
授業の一般目標					
一、自分の考えを持ち、それを人にわかりやすく発表できる。 二、人の発表を聞いて、建設的な発言、討議ができる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 自らの研究テーマについて幅広く知識を身につける。					
思考・判断の観点: 他の受講生の研究テーマも含めた美学・美術史の全体像の中に、自らの研究テーマを位置づける。					
関心・意欲の観点: 自分の関心の所在を見定め、必要な文献を収集し、研究の進行過程を文章で記録する。					
成績評価方法(総合)					
発表内容、期末レポート、討論での発言や授業の参加度などにより総合的に判断します。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
まず、なるべくたくさんの論文を読みましょう。それから、自分の研究課題にあった論文が探し出せるようになります。そして、自分で調べたことをきちんと文章化したり、発表できるようになります。					
連絡先					
fujikawa@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
人文学部の研究室 417 にて水曜日午後					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012114008
開設科目名	考古学概説			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	中村 友博			区分	
授業の概要					
日本列島の原始文化である弥生文化について、一般的な知識を習得する。					
授業の一般目標					
日本列島の原始文化について基礎的な知識を身につけるとともに、現代文化との相違についても関心を払う。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 考古学独自の専門用語について基礎的な知識を得るとともに、弥生文化とその周辺の文化との共通性や相違点を認識する。					
思考・判断の観点: 考古学的方法の長所と短所について考えを巡らす。					
関心・意欲の観点: 日本の原始文化にかんじて興味をいだき、関心を持つ。					
成績評価方法(総合)					
日本の原始文化について関心があるか、基礎的な知識があるかどうかを、試験によって判定する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
tomo@yamaguchi-u.ac.jp、研究室:人文学部3階					
オフィスアワー					
月曜日;16時10分～17時40分。					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012114009
開設科目名	東アジア考古学			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	村田 裕一			区分	
授業の概要					
<p>授業は、講義と演習を取り混ぜた運営スタイルにより構成する。</p> <p>縄文時代から弥生時代への転換過程は、大陸からもたらされた文化要素を様々な形で受容することで成し遂げられる。講義では、特に石器と鉄器という物質文化に注目し、弥生社会の形成過程を概観する。具体的には、日本列島内における大陸系磨製石器の成立とその生産・流通、鉄器の流入と生産、石器から鉄器への転換過程といった問題について探求する。新来の要素の影響下に形成された弥生時代社会の一側面を描き出す。本講義は、上記の総合的テーマで複数年次にわたり継続的に取り組んでいるものであるが、取り扱う個別のテーマ(考古資料および地域)は、毎年・開講学期毎に異なる。</p>					
授業の一般目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 考古学の基礎の一つであるところの実測図に盛り込まれた情報を正確に読みとることができる力を養う。 2. 遺物および遺構のデータの基礎的な操作方法、すなわち考古学の方法論の基礎について習得する。 3. 学術論文を批判的に読解する力を養う。 4. 石器と鉄器を軸に描き出した弥生時代社会について学ぶ。 					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:A. 実測図に盛り込まれた情報を正確に読みとることができる。</p> <p>B. 石器と鉄器を軸に描き出した弥生時代社会の事例を説明できる。</p> <p>思考・判断の観点:A. 学術論文を批判的に読解し問題点を抽出できる。</p> <p>B. 遺物および遺構のデータの基礎的な操作方法、すなわち考古学の方法論を、自分の選んだ考古学的題材に適用できる。</p> <p>関心・意欲の観点:A. 自分が関心を持つ考古資料をあげることができる。</p>					
成績評価方法(総合)					
小テスト・授業内レポート20%、宿題・授業外レポート60%、授業中の発表・資料操作の成果20%。					
教科書					
参考書					
<p>石器入門事典 - 先土器 - - 縄文 - / 加藤晋平・鶴丸俊明・鈴木道之助: 柏書房, 1991</p> <p>倭人と鉄の考古学 / 村上恭通: 青木書店, 1998</p> <p>考古資料大観 第9巻 弥生・古墳時代 石器・石製品・骨角器 / 北条芳隆・禰宜田佳男監修: 小学館, 2002</p>					
メッセージ					
<p>石器や鉄器などの、個別の遺物について詳細に解説する場合や、あるいは統計学的手法の解説を行ったりする場合には、講義内容がやや難しくなることもあるかもしれませんが。解説のわかりにくいところ、あるいは意図のわかりにくいところなどは、講義時間の内外に関わらずどんどん質問してください。</p>					
連絡先					
E-mail: h-murata@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
水曜日7・8時限					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012114010
開設科目名	比較考古学			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	中村 友博			区分	
授業の概要					
おもに2年生と3年生を対象にして、歴史学のなかで考古学をこれから学習するのに必要な専門的な情報環境である遺跡の発掘調査報告書について学習する。					
授業の一般目標					
1. 遺跡の発掘によって、何が明らかになったのか、理解できる。 2. 発掘調査はどのように遂行するのか、自分なりに理解する。 3. 考古学における表現方法の特性を理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 考古学の専門用語を理解する。考古学の用語は難解であるから、まず独特の言葉を覚える。					
思考・判断の観点: 具体を抽象化することを学ぶ。同じものであるということは、どういことなのか、根本をまず理解する。					
関心・意欲の観点: 多様な遺跡・遺物の形態に興味を持つ。					
態度の観点: 問題点を共有化できる。					
技能・表現の観点: 遺跡・遺物の提示方法を理解する。					
その他の観点: 発掘調査報告書を読みこなせる。					
成績評価方法(総合)					
演習中の平常と課題のレポートで評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
tomo@yamaguchi-u.ac.jp、研究室:人文学部3階					
オフィスアワー					
月曜日;16時10分～17時40分。					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012114011
開設科目名	考古学演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	中村 友博			区分	
授業の概要					
この演習は、卒業論文作成のための演習である。毎回、発表者を決めて、卒論の主題について研究の進展を報告しながら、討議する。					
授業の一般目標					
卒業論文を完成させる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 従来の学説や論説を理解する。					
思考・判断の観点: 問題点を設定し、解決方法を模索する。					
関心・意欲の観点: 興味をもって調査できる。					
態度の観点: 問題点を公共化できる。					
技能・表現の観点: 資料を適切にまとめ上げ、表示できる。					
成績評価方法(総合)					
演習中の平常時の力量を評価する。すなわち、発表能力の基盤になる研究能力を判定する。文章のほうは卒論で判定するから、プレゼンテーションの課題はこなす必要がある。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
受講生は4年生で、中村ゼミに限る。					
連絡先					
tomo@yamaguchi-u.ac.jp、研究室:人文学部3階					
オフィスアワー					
月曜日;16時10分～17時40分。					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012114012
開設科目名	考古学演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	村田 裕一			区分	
授業の概要					
卒業論文作成に向けての演習である。卒業論文では、自らが設定したテーマにそって研究を進め、論理を展開する必要がある。膨大な考古資料の中から、特定の資料を検索・抽出し、適切で正確かつ効果的な資料操作を行い、自説を構築しなければならない。授業では、受講生の研究の進捗状況を確認するとともに、考古学的方法論の指導、具体的な資料操作方法についての指導を行うことで、よりよい卒業論文をなすための手助けを行う。					
授業の一般目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 卒業論文作成に必要な基礎研究を積み重ねる。 2. 受講生全員による討議を行うことで、問題抽出能力、問題解決能力、資料解釈における多角的な視点の形成を行う。 3. 積極的に討議に参加することで、発表者以外も、討議の成果を自分の研究に反映する。 					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: A. 発表内容について討議できる。					
技能・表現の観点: A. 論旨構築に必要な考古資料を抽出できる。					
B. 抽出した考古資料を、適切に資料操作できる。資料操作は、考古学的手法・統計学的手法・理化学的手法などによる資料分析のことである。					
C. 資料操作の過程、結果を図版・分析表などを効果的に使って説明できる。					
D. 資料操作の結果に基づいて論旨を構築・発表できる。					
成績評価方法(総合)					
授業態度・授業への参加度 10%、受講者の発表(プレゼン)・授業内での制作作品 90%。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
大学内外所蔵の遺跡発掘調査報告書を基本文献として、研究を開始することになります。研究の進展にしたい、学外の調査研究機関に資料調査に行く必要も生じます。研究は一朝一夕に進展するものではなく、各自の日頃の取り組みが重要なので地道に努力することが大切です。途中何度も突き当たる壁を自ら乗り越えてゆく気概が必要ですが、教官の助言が有効な場合もあります。相談は随時受け付けます。研究発表は十分な準備を行い、全力で行ってください。授業の性格上、無断欠席はしないでください。					
連絡先					
E-mail: h-murata@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
水曜日7・8時限					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012114013
開設科目名	考古学実習			単位	4単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	村田 裕一			区分	
授業の概要					
<p>考古学の基礎的技術である考古資料の取り扱いについて指導する。考古学の研究対象は過去の時代のモノ(遺構・遺物)である。その際、実物を取り扱うことが基本ではあるが、研究の大部分の段階では、二次的に加工された資料を取り扱うことが多い。この二次資料の代表的なものは図面や写真である。この授業では、考古学的な資料の取り扱いのための基礎的技術に習熟することを目的とする。この技術とは、下の一般目標に示す3項目であるが、2および3は表裏一体のものである。これらの技術はそれぞれ非常に高度な専門的技術であるため、その習得には受講生の多大な研鑽が必要とされるのは言うまでもない。考古学実習ではこれらの技術を習得するための初歩的な手ほどきを行うことで、考古遺物に対する理解を深める。</p>					
授業の一般目標					
<ol style="list-style-type: none"> 壊れやすく貴重な実物そのものを実際に取り扱うための技術を習得する。 実物の資料化(実物から二次資料への変換)のための技術の初歩を習得する。 二次資料(実測図・写真・拓本)に込められた情報を判読する技術を習得する。 					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:A. 遺物取り扱いの留意点を状況に応じて具体的に指摘できる。 B. 遺物整理から報告書作成までの作業のアウトラインを説明できる。</p> <p>思考・判断の観点:A. 遺物の解説を書くことができる。 B. 報告書を作成することができる。</p> <p>技能・表現の観点:A. 遺物の実測図を作成することができる。 B. 遺物の写真を撮影することができる。 C. 遺物の拓本を採取することができる。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>宿題・授業外レポート50%、受講者の発表(プレゼン)・授業内での制作作品50%。</p> <p>基本的には、授業中に所定の技術水準を習得することを目標とするので、出席が所定の回数に満たない受講生には単位を与えない。出席が重要な成績評価基準になる。</p> <p>欠席が多いと不可になる。また決められた課題を提出しないと評価が著しく低下する。</p>					
教科書					
参考書					
メッセージ					
<p>考古学に必要とされる基本的な技術の習得を目的として開講する授業科目である。目的達成のためには非常に修練が必要であり、率直に言って設定時間内だけで完全に習得することは不可能である。そのため、時間外での受講生の積極的な取り組みが必要となる。宿題もしばしば課される。</p>					
連絡先					
E-mail:h-murata@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
水曜日7・8時限					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012121001
開設科目名	哲学概論			単位	2単位
対象学生				学年	1～3
担当教員	脇條 靖弘			区分	
授業の概要					
この講義では西洋哲学の基本問題のいくつかを取り上げ、それぞれの問題において一体何が問われているのか、それに対して哲学者たちがどのような答えをしてきたのかを学びます。					
授業の一般目標					
最終的には受講生が各自でそれぞれの問題に関心を持ち、それに解決を与えようと努力すること、つまり「哲学すること」に向けての基盤作りができればと考えています。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 西洋哲学の基本問題を理解する。					
思考・判断の観点: 哲学的な思考ができるようになる。					
成績評価方法(総合)					
試験による。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
yasu@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012121002
開設科目名	西洋哲学特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	入不二 基義			区分	
授業の概要					
運命論(起ることはすべて必然的である)という考え方を、特に時間様相(過去・現在・未来)との関連において考察する。素材としては、アリストテレスの「明日の開戦」の運命論、M.ダメットの「ロンドン空襲」の運命論、R.テイラーの「開戦命令」の運命論と「オズモの物語」などを予定している。					
授業の一般目標					
「運命論と時間」というテーマをめぐる哲学的考察を追体験してもらうこと、さらにその体験を受講者自らの哲学的考察へと接続してもらうことが目標である。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: アリストテレス、ダメット、テイラーの議論を理解する。					
思考・判断の観点: アリストテレス、ダメット、テイラーの議論を比較し、批判的に検討する。					
成績評価方法(総合)					
出席が2/3以上という最低条件を満たしている者のみについて、期末レポートによって成績を判断する(すなわち、出席は欠格条件としてのみ使用し、出席点という扱いはしない)。					
期末レポートは、授業内で扱った議論をまとめること(知識・理解)が30%、その議論に対して自分なりの考察が展開できているか(思考・判断)が50%、的確な論理展開と表現方法によって記述できているか(技能・表現)が20%で判断する。					
教科書					
参考書					
『時間と絶対と相対と -- 運命論から何を読み取るべきか』 / 入不二基義: 勁草書房					
『足の裏に影はあるか? ないか? -- 哲学随想 --』 / 入不二基義: 朝日出版社					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012121003
開設科目名	西洋哲学演習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	脇條 靖弘			区分	
授業の概要					
プラトン、アリストテレスなど、古代ギリシア哲学の主要な文献を読みます。					
授業の一般目標					
古代ギリシアの哲学者の議論を綿密に追うことで、その思索の筋道を理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 取り上げた哲学的議論を理解する。					
思考・判断の観点: 取り上げた問題について哲学的考察を加える。					
成績評価方法(総合)					
授業中の発表、あるいは、レポートによる。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
yasu@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012121004
開設科目名	倫理学概論			単位	
対象学生				学年	2～3
担当教員	古庄 真敬			区分	
授業の概要					
「善と悪」「幸福」「正義」「義務・責任」「自然と社会」「自由」「人格」等々の概念をめぐって展開された西洋哲学・倫理思想史上の諸考察の要点を批判的に明らかにしながら、われわれの素朴な「道徳的」思考は、突き詰めると、どのような壁や謎に突き当たらざるをえないのか、じっくり考えていきます。					
授業の一般目標					
「共生」にともなう「倫理」をめぐるわれわれの日常的・理解の反省的かつ歴史的検討。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 西洋倫理思想史に関する基礎知識の習得。					
思考・判断の観点: 「倫理」の基底に関する原理的な思考をみずから反省的に展開すること。					
成績評価方法(総合)					
期末試験および授業内レポートで評価します。					
教科書					
『入門講義 倫理学の視座』 / 新田孝彦: 世界思想社, 2008					
参考書					
メッセージ					
教科書の予習が必須です。					
連絡先					
furusho[a]yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
毎週水曜日 12:50 ~ 14:20					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012121005
開設科目名	西洋倫理学特許講義			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	古荘 真敬			区分	
授業の概要					
<p>「私が生きている」とは、一体どういうことなのでしょうか。いや、そもそも、「今ここ」に生きているのは本当に「私」なのでしょうか。「私の生」は、「私」なるものの思考や想念、意志とは独立に「常に既に持続してきているもの」として「私」に触れてきては、「私」を、「私」自身の由来と行方の定めがたさをめぐる思いへと時として誘うものであることでしょう。この不可思議な事態の本質について、「生命・主体・時間・感情」といった概念を(主として西洋哲学・倫理思想史上のテキストとの対話を通じて)あらためて耕しながら、考察することを試みます。</p>					
授業の一般目標					
西洋哲学・倫理思想史上の幾つかのテキストとの対話を通じ、「生命・主体・時間・感情」について原理的に考察すること。					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:当該の主題に関連する西洋哲学・倫理思想史上の諸論考の要点を理解すること。</p> <p>思考・判断の観点:当該主題について、みずから問いを見出し、原理的な思考を展開すること。</p>					
成績評価方法(総合)					
期末レポートによって評価します。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
furusho[a]yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
水曜日 12:50 から 14:20					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012121006
開設科目名	西洋倫理学講読			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	古荘 真敬			区分	
授業の概要					
ヘーゲルの『精神現象学』を読みます。ドイツ語原文ならびに各種の日本語訳を参照しつつ、その一字一句の意味を検討しながら、読み進めていきます。					
授業の一般目標					
ヘーゲル『精神現象学』の精密な読解を通じて、人間存在の本質をめぐる考察を深めること。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
授業内での発表報告によって評価します。					
教科書					
“Phaenomenologie des Geistes” / G.W.Hegel : Suhrkamp , 1986					
『精神の現象学』 / ヘーゲル(金子武蔵訳) : 岩波書店, 2002					
『精神現象学』 / ヘーゲル(長谷川宏訳) : 作品社, 2000					
参考書					
『ヘーゲルの精神現象学』 / 金子武蔵: 筑摩書房, 1996					
『ヘーゲル『精神現象学』入門』 / 加藤尚武編: 有斐閣, 1996					
『ヘーゲル 否定的なものの不安』 / ナンシー(大河内・西山・村田訳) : 現代企画室, 2003					
メッセージ					
連絡先					
furusho[a]yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
水曜日 12:50 から 14:20					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012121007
開設科目名	西洋倫理学演習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	古荘 真敬			区分	
授業の概要					
哲学・思想コース(人間論コース)の哲学・倫理学専攻学生のためのコロキウムを行います。卒業論文の執筆に向けて、毎週、担当者が、研究・考察の途中経過を報告。質疑応答の対話を通じて自らの思考を深化させていきます。					
授業の一般目標					
哲学的討論の場において各自が自身の思考を錬磨することを通じ、より良い論文を仕上げるための準備を重ねること。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: よく調べる。					
思考・判断の観点: よく考える。					
関心・意欲の観点: 他人の議論に耳を傾ける。 「自分には関係ない」などと無関心を決め込まない。 素朴さや無知を恥じることなく、正直に質問する。					
態度の観点: 問題の急所を、恐れることなく掘り進む。 冷笑的な態度をとらない。					
技能・表現の観点: 独善的な単なる「ひとりごと」ではない、他者との対話の場にかかれた論証を構成していく。					
成績評価方法(総合)					
研究考察の授業内報告と討論への貢献度、および上記授業計画欄に記した「小レポート」の提出回数などを、総合的に評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
哲学・倫理学専攻の学生は、毎回必ず出席してください。					
連絡先					
furusho[a]yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
毎週水曜日 12:50～14:20					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012121008
開設科目名	中国思想史特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	高木 智見			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012121009
開設科目名	中国思想史特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	黄 晓芬			区分	
授業の概要					
<p>古代中国における都城と陵墓の造営は、明確な思想的背景をもち、自然景観との調和を注意深くはかり、計画性の高い設計に基づいたものである。本授業は、考古学資料を素材に文献の考察に加えて、陰陽死生を表象する二つの神聖空間を具体的に解析し、古代中国人の世界観と創造力を探究しようとするものである。</p> <p>前期の授業科目は、国家形成期における大型環壕・城郭集落から周、秦、漢、唐時代の都城建設に至るまで、史的な考察に焦点をしぼり、中国古代都城の特質を考える。</p>					
授業の一般目標					
中国思想史の面白さと奥深さを認識することができる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 中国思想史の基礎知識と概念を伝授し、モノ(遺跡・遺物)を通して理解することができる。					
思考・判断の観点: 人間の思想と社会を深く理解するため、歴史的感覚が不可欠であることを説明することができる。					
関心・意欲の観点: 現代における新日の社会問題を考える時、なにかよいヒントを提供することができる。					
技能・表現の観点: 問題意識や物事の洞察力などを少しずつ身につけることができる。					
成績評価方法(総合)					
レポート提出: 問題意識、思考力、文章力を見て総合的に判断する。					
教科書					
参考書					
中国古代制度史研究 / 楊寬: 上海古籍出版社, 1993					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012121010
開設科目名	中国思想史特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	高木 智見			区分	
授業の概要					
<p>思想史を科学として進める立場では、なるべく自分の主観をまじえないようにして、客観的実証的であると要求される。しかし同時に、研究の主体は現代に生きる自分であるから、古い思想を研究していても、それと自分との関わりを考察するというのも、一つの重要な問題となる。従って、講義では中国思想の特色として重要だと思ふものと、江戸時代以降、日本の理解の持つ意味を究明することとする。</p>					
授業の一般目標					
<p>中国思想の特色の一つは、その歴史的な流れにおいて、伝統の断絶が殆どなかったことにある。いまひとつは、東アジア漢字文化圏の人々が、それを共有して、近代に至ったと言うところにある。日本においても、中国の思想は、日中共有の教養であったのである。講義では、中国思想史の変遷と日本の理解を究明する。</p>					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
成績評価は出席状況(60%)、期末レポート(40%)に基づいて行う。					
教科書					
参考書					
<p>日本開化小史 / 田口卯吉: 岩波文庫 徳川思想小史 / 源了圓: 中公新書 中国思想を考える / 金谷治: 中公新書 明治の漢学者たち / 町田三郎: 研文出版 京大東洋学の百年 / 礪波護編: 京都大学学術出版会</p>					
メッセージ					
連絡先					
lien@nagasaki-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012121011
開設科目名	中国思想史講読			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	高木 智見			区分	
授業の概要					
前期に同じ					
授業の一般目標					
前期に同じ					
授業の到達目標					
知識・理解の観点:前期に同じ					
思考・判断の観点:前期に同じ					
関心・意欲の観点:前期に同じ					
成績評価方法(総合)					
前期に同じ					
教科書					
参考書					
メッセージ					
前期に同じ					
連絡先					
人文棟五階510研究室					
オフィスアワー					
火曜日十六時から十七時					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012121012
開設科目名	中国思想史演習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	高木 智見			区分	
授業の概要					
前期に同じ					
授業の一般目標					
前期に同じ					
授業の到達目標					
知識・理解の観点:前期に同じ					
思考・判断の観点:前期に同じ					
関心・意欲の観点:前期に同じ					
成績評価方法(総合)					
前期に同じ					
教科書					
参考書					
メッセージ					
前期に同じ					
連絡先					
人文棟五階510研究室					
オフィスアワー					
火曜日十六時から十七時					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012121013
開設科目名	日本倫理思想史			単位	
対象学生				学年	2～3
担当教員	柏木 寧子			区分	
授業の概要					
<p>神をめぐる思想を考える 昨年度は同じ教科書『日本倫理思想史』の「第二章 仏法をめぐる思想」を探り上げました。今年度は「第一章 神をめぐる思想」を扱います。日本古代における原初神道の思想について、倫理学・倫理思想史の視点から考えていきます。具体的には、例として挙げられている神話や説話（『古事記』『風土記』『日本霊異記』など）をそのつど参照しつつ、教科書でいわれるところのもの 神や たま 神とはいかなるものであるか、理解できるようにすることを目指します。</p>					
授業の一般目標					
<p>倫理学・倫理思想史という学問について基本的な問題関心を知ること。神話や説話の形で伝えられる原初神道の諸相に触れ、古代日本倫理思想の一端について関心・理解をもつこと。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 倫理学・倫理思想史という学問が何を問おうとしているのか、基本的問題関心を理解することができるようになる。古代日本の人々が「神」という観念により何を追求しようとしたのか、その発想の根幹を理解することができるようになる。</p> <p>思考・判断の観点: 『古事記』等の文献が、その表現の背後あるいは基底にどのような思考を支えとして持っているか、あえて抽象度の高い次元に踏み込んで、読解・解明を試みることができるようになる。さしあたっては、教科書に示される解釈の理路をたどり直すことができるようになる。</p> <p>関心・意欲の観点: 共感にせよ反発にせよ、少なくともどこか一箇所、受講者自身の問題関心に触れる（かする）点を発見し、『古事記』等と対話する意欲をもつことができるようになる。</p> <p>態度の観点: なじみないテーマや文章や方法論であっても、投げ出さず、恣意的裁断をひかえ、ねばりよく取り組む態度をもてるようになる。</p> <p>技能・表現の観点: 自らの思考を、筋道立てて文章表現することができるようになる。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>(1)授業内の小レポート(論理的な思考と文章表現、および、自発的に問いを見出し追求する姿勢を求めます)。(2)期末試験(基本的なことからについての知識と理解を求めます)。なお、出席が所定の回数に満たない場合は期末試験を受けることができません。</p>					
教科書					
『日本倫理思想史』/ 佐藤正英: 東京大学出版会, 2003					
参考書					
『古事記』(新潮日本古典集成)/ 西宮一民校注: 新潮社, 1979					
『風土記』(新編日本古典文学全集5)/ 植垣節也校注・訳: 小学館, 1997					
メッセージ					
<p>授業でも触れますが、日本倫理思想史は倫理学の一部をなす学問です。『古事記』をはじめとする幾つかのテキストを、ひたすら内在的に読み解くことにより、その思想に接近しよう目指します。一般的な「日本史」のイメージを予想して受講されると、かなり予想と異なる内容になるかもしれません。</p>					
連絡先					
kashiwg@yamaguchi-u.ac.jp 人文学部4階410 研究室					
オフィスアワー					
水曜 13:00-14:00 ほかの曜日・時間帯でも可能ですので、あらかじめメール等で面会の希望をお知らせください。					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012121014
開設科目名	日本思想史特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	豊澤 一			区分	
授業の概要					
近世の陽明学派と言われる人々を考察の対象とします。中江藤樹(1608～48)、熊沢蕃山(1619～91)をはじめとして、乱を起こした大塩中斎、「楊朱陰王」と言われる佐藤一斎(1772～1859)等を考察します。まず、王陽明(1472～1528)の解説を試みます。					
授業の一般目標					
明治以後においても依然として思想的影響力の強い陽明学の系譜をたどる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 朱子学に対する陽明学の特色を理解し、また近世日本の陽明学派と言われる儒者たちの思想内容を内在的に理解する。					
思考・判断の観点: 「満街の人、皆聖人」「無善無悪」といったスローガン					
関心・意欲の観点: 自己自身の思想とは異なる思想に興味を持ち、その意味を考える。					
態度の観点: 異質な物の存在に敬意を払い、自己との同異を考える。					
成績評価方法(総合)					
授業の最後の10分間ほどで疑問・考察などを書いていただきます。また期末試験を実施するか、またはレポート提出を求めるかいたします。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
人文学部棟 409号研究室 TEL: (内線: 5218) e-mail: toyosawa@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
木曜日 12:50～14:20					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012121015
開設科目名	日本思想史講読			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	豊澤 一			区分	
授業の概要					
前期に引き続き、日本思想大系・日本儒林叢書等に載っている 17 世紀の儒学者の比較的短い文章を読みます。惺窩・羅山から浅見綱斎、太宰春台等まで、彼らがどのような問題と取り組み、どう解答したかを内在的に読み取っていきます。					
授業の一般目標					
藤樹・闇斎、祖考、仁斎、徂徠等は、いわば大思想家ですが、それより少し劣るかに扱われる諸思想家の著作を読みます。むしろこちらの方が当時の常識、先入主を露わに示していて、後世のわたくしたちとの共通点が見えやすいでしょう。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 近世儒者の多様な思想を内在的に理解し、他の人に説明できる。					
思考・判断の観点: 近世儒者の発想と現在の我々のそれとの異同を考え、自己理解を深めることができる。					
関心・意欲の観点: 自己自身の思想とは異なる思想に興味を持ち、その意味を考える					
態度の観点: 異質な物の存在に敬意を払い、自己との同異を考える。					
成績評価方法(総合)					
レポーター、司会者の担当を決めます。学期末にはレポートの提出を求めます。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
人文学部棟 409 号研究室 TEL: (内線:5218) e-mail: toyosawa@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
木曜日 12:50 ~ 14:20					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012121016
開設科目名	日本思想史講読			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	柏木 寧子			区分	
授業の概要					
小林秀雄『感想』を読む 前期に引き続き、小林秀雄(1902-1983)の未完のベルクソン論を読みます。1958年から5年にわたって連載され、第56回で中断した『感想』と題する論考です。前期シラバスを参照して下さい。後期は後半(『感想(下)』)を読みます。					
授業の一般目標					
恣意を排し、かつ主体的にテキストを読む姿勢・素養を涵養すること。小林が要約するベルクソンの哲学自体について、この授業で問題にすることはできませんが、少なくとも、ベルクソンに依りつつ小林が展開する議論について、その理路をたどれるようになること。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: テキストの著者が何を問おうとしているのか、基本的な問いのありかを理解し、説明できるようになる。					
思考・判断の観点: 上記の問いをめぐるテキストがどのような議論を展開しているか、思考の理路を自らたどり直すことができるようになる。					
関心・意欲の観点: 共感にせよ反発にせよ、少なくともどこか一箇所、受講者の問題関心に触れる(かする)点を発見し、テキストと対話する意欲をもつことができるようになる。					
態度の観点: なじみないテーマや文章であっても、投げ出さず、恣意的判断をひかえ、しばし著者の議論につき合うねばりつよさをもつことができるようになる。知らない言葉があったら辞書をひき、一読してわからなければ再読三読し、理路が見えにくければ図解化を試みるなど、手間・工夫をいとわず読み通すことができるようになる。					
技能・表現の観点: 自らの思考を、筋道立てて文章表現することができるようになる。					
成績評価方法(総合)					
(1)授業内の報告(テキストの精読、自分なりの視点を定めて問いを発見する姿勢、および論理的な思考と文章表現を求めます)。(2)宿題とそれをふまえての授業参加。(3)期末レポート(ただし、授業内の報告を所定の回数以上行った場合は課しません)。なお、出席が所定の回数に満たない場合は単位を取得できません。					
教科書					
『小林秀雄全作品 別巻2 感想(下)』/小林秀雄:新潮社,2005					
参考書					
『時間と自由』(岩波文庫)/ベルクソン著、中村文郎訳:岩波書店,2001					
『思想と動くもの』(岩波文庫)/ベルクソン著、河野与一訳:岩波書店,1998					
『精神のエネルギー』(レグルス文庫)/ベルクソン著、宇波章彦訳:第三文明社,1992					
『物質と記憶』(ちくま学芸文庫)/ベルクソン著、合田正人・松本力訳:筑摩書房,2007					
『意識に直接与えられたものについての試論』(ちくま学芸文庫)/ベルクソン著、合田正人・平井靖史訳:筑摩書房,2002					
メッセージ					
初回授業には必ず出席して下さい。報告者の順番を割り振ります。やむを得ず欠席した場合は、二回目の授業以前に受講意思を告げに来て下さい(テキストを入手し、予習の上授業に臨んで下さい)。 無断欠席はしないで下さい。 授業の進め方、一回の講読分量、レジュメの作成の仕方など、要望・意見・質問はいつでも遠慮なくお寄せ下さい。					
連絡先					
kashiwg@yamaguchi-u.ac.jp 人文学部4階410研究室					
オフィスアワー					
水曜 13:00-14:00 ほかの曜日・時間帯でも可能ですので、あらかじめメール等で面会の希望をお知らせください。					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012121017
開設科目名	日本思想史演習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	豊澤 一			区分	
授業の概要					
古来、『論語』の注釈書は汗牛充棟もただならぬものがあります。その中から朱熹の『集注』、伊藤仁斎の『古義』、荻生徂徠の『徴』を比較しながら読みます。					
授業の一般目標					
どの注釈が正しいかを問題にするなら、後世に生まれた者が断然有利である。ここでは、それを措いて、それぞれの思想家がどのような思いを抱きながら注釈の作業に従事したのかを探る。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 『論語』を独力で読むための素養を身につける。					
思考・判断の観点: 微妙な違いが、思想大系の違いに由来するかも知れないことに思いを致すようになる。					
関心・意欲の観点: 『論語』の興味深さを知る。					
態度の観点: 『論語』を、多くのハウツーものとは違って、学問的態度を持って読むようになる。					
成績評価方法(総合)					
予習は必須です。また学期末にはレポート提出を求めます。両者を総合して評価します。					
教科書					
『論語徴』(1)(東洋文庫(575))/荻生徂徠(小川環樹編):平凡社 論語 上 中国古典選(朝日選書)/吉川幸次郎:朝日新聞社					
参考書					
現代人の論語(文春文庫)/呉智英:文藝春秋社					
メッセージ					
連絡先					
人文学部棟409号研究室 TEL:(内線:5218) e-mail:toyosawa@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
木曜日 12:50～14:20					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012121018
開設科目名	日本思想史演習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	豊澤 一			区分	
授業の概要					
前期と同じ。日本思想を卒業論文のテーマとする3、4年生を対象として、研究を具体的に指導します。受講生は、各自のテーマについて定期的に発表します。他の受講生は、その発表を聴いて知見を共有するとともに、そのテーマについて討論します。また、期末レポートを相互に批評します。					
授業の一般目標					
前期と同じ。					
論文執筆の作法を身につけることを目指します。					
日本思想に関する知見を広め、幅広い考え方ができることを目指します。					
学友の前で研究の成果を発表し、質疑応答の場を経験することによって、他者に開かれたより柔軟な態度を涵養することを目指します。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
前期と同じ。					
各自のテーマに応じた研究成果発表を課します。					
その成果を文章化する期末レポートを課します。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
テキストを内在的に理解するのが基本です。					
連絡先					
409号研究室					
TEL:(内線)5218					
e-mail:toyosawa@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
木曜日 12:50～14:20					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012121019
開設科目名	日本思想史演習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	柏木 寧子			区分	
授業の概要					
卒業論文演習 日本思想に関わるテーマで卒業論文を執筆する3・4年次生を対象として、各自の研究を具体的に指導します。受講生には、数週間毎に研究の途中経過を口頭報告すること、当番の回以外にも出席して議論に参加すること、を課します。時には受講生同士、互いの期末レポートを読み合い、質疑応答を行う機会も設けます。					
授業の一般目標					
2年間で各自の卒業論文を仕上げるために必要・十分なもろもろの過程を積み重ねること。柔軟な発想、精密な推論、広い視野、有機的な関心、明晰な文章、等々を獲得すること。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 受講者自身の問題関心を自覚するとともに、論文とはいかなる文章であるかを知り、卒業論文で取り組むべきテーマを適切に設定することができるようになる。また、論文執筆のための具体的手順を知り、自らに与えられた時間を適切に各手順に割り当て、計画を立てることができるようになる。					
思考・判断の観点: 論文執筆のために必須の(かつ中心的な)一手順である、各人のテキスト読解を、より広く深く精密なものへと鍛え上げるべく、受講者間の相互批評や教員による助言も活用しつつ、地道に努力することができるようになる。					
関心・意欲の観点: この思想史研究、この論文執筆が自身の現在および未来にどのような意味をもち得るかを知り(研究を職とするわけでもなくとも、皆さんの現在・未来に何かしら意味をもつものであってほしいと思います)、主体性をもって取り組むことができるようになる。					
態度の観点: 論文執筆の諸作業の中に不得手のものがあったり、また、まとまった時間をとるのに苦心する状況にあっても、投げ出さず、最後まで努力を続けることができるようになる。					
技能・表現の観点: 論文執筆の作法に従って論文を完成できるようになる。					
成績評価方法(総合)					
(1)授業中の口頭発表。(2)期末レポート(3000字程度)。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
無断欠席はしないで下さい。研究上の疑問等は授業時間外でも随時相談に来て下さい。教員からの連絡(メール等)を受け取れる状態にしておいて下さい。					
連絡先					
kashiwg@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
水曜 13:00-14:00 ほかの曜日・時間帯でも可能ですので、あらかじめメール等で面会の希望をお知らせください。					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012121020
開設科目名	宗教学概論			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	ALAM DJUMALI			区分	
<p>授業の概要</p> <p>「宗教学の古典理論と現代的応用」をテーマとする。</p> <p>全体として、次のようなテーマを扱う。「呪術」「シャーマニズム」「宗教経験」「宗教心理」「社会現象として見る宗教(デュールケーム宗教論)」「構造主義から見た宗教」「聖なるものとして見る宗教(エリアード宗教論)」「社会的行為として見る宗教(ウェーバー宗教論)」</p> <p>宗教学における基礎理論と主要なテーマを知ることからはじめ、宗教的な現象と表象の「理解」とそのための「方法」について考察する。宗教に特有かつ普遍的な事象を、宗教学および関連領域(宗教社会学、宗教心理学、宗教人類学など)の古典的な理論と方法論の視点から分析し、人間が全体としてどのようにして自らの宗教的行為、宗教的観念、宗教的様式、宗教的規範、宗教的経験などを構成したり位置付けたり認知したり具体化したりしているのかについて体系的・本質的に考察する。</p> <p>毎回の授業は、おおよそ次の段取りで行う。</p> <p>小テスト/小レポート(約10分)。</p> <p>講義(約45分)。</p> <p>グループディスカッション+代表者発言+解説・総括(約30分)。</p> <p>テキスト/教科書は用いないが、各テーマについて毎回、レジュメ(ときには参考資料のコピー)を事前に配布し、予習を促す。</p>					
<p>授業の一般目標</p> <p>宗教学という学問分野と宗教とは何かという課題について、一定の図式と枠組みを身につけ、個々の宗教現象を一定の視点をもって捉えたり分析したりできるようにすることを旨とする。</p>					
<p>授業の到達目標</p> <p>知識・理解の観点:宗教学に関する主要な課題について一定の理解と知識を身につけること。</p> <p>思考・判断の観点:個々の宗教現象について、一定の視点から分析できるようになること。</p> <p>関心・意欲の観点:日常生活における身近な宗教現象について関心を抱くこと。</p> <p>態度の観点:授業中の良識ある態度(私語しないこと、遅刻と途中退室しないこと、居眠りしないこと、など)。</p> <p>技能・表現の観点:レポートによる記述力と表現力。</p> <p>その他の観点:宗教現象を捉える感性と感受性を磨くこと。</p>					
<p>成績評価方法(総合)</p> <p>* 授業内小レポート/小テストを12回課す。</p> <p>* 中間レポートと最終レポートをそれぞれ1回課す。</p> <p>* 中間レポートと最終レポートは、「文章を中心とするレポート」と「描写・描画を中心とするレポート」のいずれかを選択できるようにする。</p> <p>* 参加者は一学期を通して、何回の授業・レポート/小テストに参加する必要があるのかについては、最初の授業のときに知らせる(一定の余裕がある)。</p>					
教科書					
参考書					
メッセージ					
<p>授業はできるだけ体系的にわかりやすく、範囲を限定して行う。授業に出ることによって参加者が、毎回または全体として、宗教学に関する一定の内容と枠組みを身につけることを目指す。そのためには、参加者のほうも、毎回の授業に出席し、多少の復習をする必要がある。</p>					
連絡先					
<p>ジユマリ・アラム / 電子メール: djumali@yamaguchi-u.ac.jp / ホームページ: http://alam.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/ / 電話(研究室): 083-933-5220 / 研究室: 人文学部 413 号室</p>					
オフィスアワー					

隨時

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012121021
開設科目名	宗教学特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	ALAM DJUMALI			区分	
<p>授業の概要</p> <p>後期の宗教学特殊講義は「宗教と芸術」をテーマとする。</p> <p>次のような問いを出発点とする。「およそすべての宗教的現象には芸術の要素が含まれ、またおよそすべての芸術には宗教的な要素が含まれるのはなぜなのか?」「宗教も芸術も、人間の心に内在する本性として、何か隠れた共通点をもっているのではないか?」「それは機能なのか、実体なのか?」「各地の宗教と芸術はどのように、なぜ、何のために結びついているのか?」</p> <p>全体として、次のようなテーマを扱う。「宗教と芸術の結晶としての祭り」「宗教と芸術における「様式・媒体」と「文脈」」「アボリジニの宗教と芸術」「造形芸術における宗教性」「ロシア正教会におけるイコン」「デザイン芸術における宗教性」「ケルトの宗教と芸術」「パリの宗教と芸術」「ジャワのワヤン劇における宗教性」「歌舞伎における宗教性」「舞台芸術と放浪芸における宗教性」「現代アニメの宗教性」</p> <p>毎回の授業は、おおよそ次の段取りで行う。</p> <p>小テスト/小レポート(約10分)。</p> <p>講義(約45分、映像資料を交える場合が多い)。</p> <p>講義(約30分、解説・総括)、またはグループディスカッション+代表者発言+解説・総括(約30分)。</p> <p>テキスト/教科書は用いないが、各テーマについて毎回、レジュメ(ときには参考資料のコピー)を事前に配布し、予習を促す。</p>					
<p>授業の一般目標</p> <p>「宗教と芸術」の課題について、資料的な情報を知って考えるだけでなく、深く想像して顧みながら、その本質の体系化を試みる。最終的には、宗教学という学問分野から見た「宗教」と「芸術」とは何か、という課題について、一定の図式と枠組みを身につけ、個々の宗教と芸術現象を一定の視点をもって捉えたり分析したりできるようになることを目指す。</p>					
<p>授業の到達目標</p> <p>知識・理解の観点:宗教学と「宗教学から見た芸術」に関する主要な課題について一定の理解と知識を身につけること。</p> <p>思考・判断の観点:個々の宗教と芸術現象について、一定の視点から分析できるようになること。</p> <p>関心・意欲の観点:日常生活における身近な宗教と芸術現象について関心を抱くこと。</p> <p>態度の観点:授業中の良識ある態度(私語しないこと、遅刻と途中退室しないこと、居眠りしないこと、など)。</p> <p>技能・表現の観点:宗教と芸術現象に関する記述力を養うこと。</p> <p>その他の観点:宗教と芸術現象を捉える感性を磨くこと。</p>					
<p>成績評価方法(総合)</p> <p>* 授業内小レポート/小テストを12回課す。</p> <p>* 中間レポートと最終レポートをそれぞれ1回課す。</p> <p>* 中間レポートと最終レポートは、「文章を中心とするレポート」と「描写・描画を中心とするレポート」のいずれかを選択できるようにする。</p> <p>* 参加者は一学期を通して、何回の授業・レポート/小テストに参加する必要があるのかについては、最初の授業のときに知らせる(一定の余裕がある)。</p>					
教科書					
参考書					
<p>メッセージ</p> <p>授業はできるだけ体系的にわかりやすく、範囲を限定して行う。授業に出ることによって参加者が、毎回または全体として、宗教学に関する一定の内容と枠組みを身につけることを目指す。そのためには、参加者のほうも、毎回の授業に出席し、多少の復習をする必要がある。</p>					
<p>連絡先</p> <p>ジュマリア・アラム / 電子メール:djumali@yamaguchi-u.ac.jp / ホームページ:http://alam.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/ / 電話(研究室):083-933-5220 / 研究室:人文学部413号室</p>					

オフィスアワー
随時

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012121022
開設科目名	宗教学講読			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	ALAM DJUMALI			区分	
授業の概要					
この授業で扱う資料は、文献資料と映像資料の両方である。					
文献資料のほうは、現代日本の成立宗教と民俗宗教(民間信仰)に焦点を絞る。					
映像資料のほうは、現代日本の生活の中の宗教(都会の暮らし、農村の暮らし、教育・学校の問題、女性・ジェンダー問題、少数民族、差別問題、科学と倫理の問題、絵画・舞踊・演劇・お笑い、スポーツ・格闘技・レジャー、など)に焦点を絞る。					
こうした二つの宗教的領域について、資料を通して捉え、宗教学的な「解釈」「読み」「分析」を行い、「宗教とは何か?」という究極的な課題に対して、その本質とメカニズムを、動的に、また自らの生活に顧みて共感しながら、一定の理解を試みる。					
毎回の授業は、おおよそ次の段取りで行う。					
一定の問いに対する小グループディスカッション。					
代表者・参加者からの発言。					
フリーディスカッションと解説。					
翌週の資料の配布または説明					
映像資料の場合は、演習室(人文412号室)に共同視聴用のDVDを一枚おくので、学生は時間を選んで当日までその部屋で視聴して予習するという方式になる。					
授業の一般目標					
宗教が人間と社会の生活にいかに深く浸透し、不可避的に伴うものであり、また根源的な役割を果たしているということを、一定の分析的な体系と枠組みをもって捉えらるようになること。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 宗教学のアプローチと枠組みを身につけること。					
思考・判断の観点: 個々の宗教現象について、一定の視点から分析できるようになること。					
関心・意欲の観点: 日常生活における身近な宗教現象について関心を抱くこと。					
態度の観点: 授業中の良識ある態度(私語しないこと、遅刻と途中退室しないこと、居眠りしないこと、など)。					
技能・表現の観点: 宗教学の理論・学説および宗教現象に関する記述力を養うこと。					
その他の観点: 宗教現象を捉える感性を磨くこと。					
成績評価方法(総合)					
* 中間レポートと最終レポートをそれぞれ1回課す。					
* 中間レポートと最終レポートは、「文章を中心とするレポート」と「描写・描画を中心とするレポート」のいずれかを選択できるようにする。					
* 参加者は一学期を通して、何回の授業・レポート/小テストに参加する必要があるのかについては、最初の授業のときに知らせる(一定の余裕がある)。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
授業はできるだけ体系的にわかりやすく、範囲を限定して行う。授業に出ることによって参加者が、毎回または全体として、宗教学に関する一定の内容と枠組みを身につけることを目指す。そのためには、参加者のほうも、毎回の授業に出席し、多少の復習をする必要がある。					
連絡先					
ジュマリ・アラム / 電子メール: djumali@yamaguchi-u.ac.jp / ホームページ: http://alam.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/ / 電話(研究室): 083-933-5220 / 研究室: 人文学部413号室					
オフィスアワー					
随時					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012121023
開設科目名	宗教学演習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	ALAM DJUMALI			区分	
授業の概要					
参加者各自が研究したい、または関心のある宗教現象を取り上げ、宗教学的な考察と分析を行う。宗教学の領域範囲内の自由発表形式となるが、宗教学的な視点・枠組み・理論・方法論が十分に活かされるように、プレゼンテーションの準備段階または初回のプレゼンテーションで、個別的な指導やアドバイスをを行い、実際のプレゼンテーションや次回のプレゼンテーションにおいて反映されるようにする。					
授業の一般目標					
宗教が人間と社会の生活にいかにか深く浸透し、不可避的に伴うものであり、一方では人間生活にとって根源的な役割を果たしているが、他方では形骸化に陥ったり社会・文化的な問題をもたらしたりする場合がある、ということを一定の分析的な体系と枠組みをもって捉えらるようになること。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 宗教学のアプローチと枠組みを身につけること。					
思考・判断の観点: 個々の宗教現象について、一定の視点から分析できるようになること。					
関心・意欲の観点: 日常生活における身近な宗教現象について関心を抱くこと。					
態度の観点: 宗教に関するいろいろな課題について積極的に知ろうとすること。また授業中はできるだけ気楽に、明るく、元気に、積極的に参加すること。					
技能・表現の観点: 宗教学の理論・学説および宗教現象に関する記述力を養うこと。					
その他の観点: 宗教現象を捉える感性を磨くこと。					
成績評価方法(総合)					
最終レポートを課す。最終レポートは、「文章を中心とするレポート」と「描写・描画を中心とするレポート」のいずれかを選択できるようにする。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
日常生活のあらゆる場面を「様式と媒体」の次元として見て、その背後にある精神的な世界とのつながりを語る事ができれば、それだけで、それは立派な宗教学的考察になります。					
連絡先					
ジュマリ・アラム / 電子メール: djumali@yamaguchi-u.ac.jp / ホームページ: http://alam.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/ / 電話(研究室): 083-933-5220 / 研究室: 人文学部 413 号室					
オフィスアワー					
随時					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012121024
開設科目名	美学・美術史概論			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	田中 均			区分	
授業の概要					
<p>制度としての「芸術」の誕生</p> <p>芸術家は、なぜあるときは反社会的であると非難され、あるときは天才として崇拝されるのでしょうか。この授業では、近代ヨーロッパにおいて「芸術」という制度が成立した過程について説明します。</p> <p>授業の枠内で展覧会ないし舞台公演を見学する可能性があります。その場合は積極的に参加して下さい。</p> <p>注意:この科目は「美学」の概論です。「美術史」の概論ではありません。</p> <p>前期の美学・美術史概論(芸術論概説)と内容上の関係はありません。</p> <p>また美学・美術史概論(芸術論概説) ないし をすでに履修している必要はありません。</p>					
授業の一般目標					
芸術が哲学的な考察の対象であることを理解する。					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:芸術についてのいくつかの思想を説明することができる。</p> <p>思考・判断の観点:芸術をめぐるいくつかの議論を読んで、立場の違いを区別することができる。</p> <p>技能・表現の観点:芸術についての自らの考えを表現することができる。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>学期末の試験を受験すること、授業に50%以上出席することが単位認定の必要条件です。</p> <p>また、毎回の予習・復習の提出も重視します。</p>					
教科書					
芸術崇拝の思想 / 松宮秀治:白水社,2008					
参考書					
ミュージアムの思想 / 松宮秀治:白水社,2003					
メッセージ					
講義をよく理解するため、「哲学」・「倫理学」・「宗教学」のいずれかに関する授業をあわせて受講することを勧めます。					
連絡先					
tanakahi@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
木曜 12:50～14:20(事前に連絡して下さい)					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012121025
開設科目名	美学・美術史特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	藤川 哲			区分	
授業の概要					
この講義では、2009年度開催の展覧会を紹介し、特に、企画趣旨や出品作品、作家について解説します。					
授業の一般目標					
一、幅広い分野の作品に親しむ。 二、各展覧会の企画趣旨について理解する。 三、美術展や美術館の制度と背景について理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 一、基礎的な美術史の用語を理解し、それをを用いて作品を説明できる。 二、企画展、常設展、公募展、巡回展、回顧展、テーマ展などの展覧会を区別できる。					
思考・判断の観点: 展覧会の企画趣旨を読み解き、それに対する自らの考えを述べることができる。					
関心・意欲の観点: 一、国内で開催されている展覧会情報をチェックし、心の琴線に触れた展覧会には実際に出掛けてみる。 二、海外旅行に出掛ける際には、旅先の美術館や美術展を訪れる。					
成績評価方法(総合)					
期末試験の成績を基礎として、中間レポートの提出の有無や出席点などを加えて総合的に評価します。詳しくは講義最初のオリエンテーションで説明します。					
教科書					
参考書					
五感で恋する名画鑑賞術 / 西岡文彦: 講談社, 2003 なにも見ていない / ダニエル・アラス: 白水社, 2002 現代美術館学 / 並木誠士ほか編: 昭和堂, 1998 なぜ、これがアートなの? / アメリア・アレナス: 淡交社, 1998 増補版 美の裏方 / 朝日新聞マリオン編集部編: ぺりかん社, 1993					
メッセージ					
特殊講義ですが、普通講義並みにわかりやすい内容を心がけています。これまであまり美術館に足を運んだことがなかった、という人こそ、受講してみてください。美術展を見るのが楽しくなります。					
連絡先					
fujikawa@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
人文学部の研究室 417 にて水曜日午後					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012121026
開設科目名	美学・美術史特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	田中 均			区分	
授業の概要					
<p>デイドロの美学</p> <p>ドニ・デイドロ(Deni Diderot: 1713-1784)は、『百科全書』の編集・執筆者、美術批評の創始者、近代演劇の提唱者、唯物論哲学者、といった多様な面を持つ思想家です。</p> <p>この授業では、彼の美学に注目し、そこにどのような現代的な意義があるのかを探ります。</p> <p>注意:この科目は「美学」の授業であり、「美術史」の授業ではありません。</p>					
授業の一般目標					
デイドロの美学の基本的な特徴を理解する。					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:デイドロの美学のいくつかの特徴を挙げることができる。</p> <p>思考・判断の観点:デイドロやその他の思想家のいくつかの議論を読んで、立場の違いを判断できる。</p> <p>技能・表現の観点:デイドロの美学について自らの思考を表現することができる。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>中間試験を受験すること、学期末のレポート(下記参照)を提出すること、授業に50%以上出席することが単位認定の必要条件です。</p> <p>レポート題目(予定):美学・芸術学に関する書物、あるいは芸術現象の一つ以上とりあげ、簡潔に紹介した上で、問題提起・批判・補足など、独自の考察を加えること。ただし、その考察を、授業において取りあげた哲学者一人以上と関連づけること。</p> <p>分量:2000字程度</p> <p>注意:レポートは「感想文」や大学入試の「小論文」とは異なります。授業用のハンドアウトだけを読んで思いついたことを書くのではなく、論じたい対象について、自ら本・論文などの資料にあたって調べ、それをもとに論理的・批判的な議論を展開することが必要です。</p> <p>(レポートの添削を希望する場合は、最終週の授業の前後(詳しくは授業中に指定します)までに提出して下さい。一週間以内に添削して返却しますので、修正のうえ、再提出して下さい)</p>					
教科書					
参考書					
<p>デイドロ著作集/デイドロ:法政大学出版局,1976</p> <p>絵画について/デイドロ:岩波書店,2005</p>					
メッセージ					
フランス語の知識は前提としませんが、ある方が望ましいことは言うまでもありません。					
連絡先					
tanakahi@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
木曜12:50～14:20(事前に連絡して下さい)					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012121027
開設科目名	美学・美術史講読			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	藤川 哲			区分	
授業の概要					
日本美術交流史に関する本を読みます。毎週1章ずつ全員が読んできて、意見交換を行います。					
授業の一般目標					
一、日本美術交流史について基本的な人名、事項名を理解する。 二、日本美術交流史における問題系を把握し、各自の課題を発見する。 三、日本美術交流史データベースの構築					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 基本的な人名、事項名について説明できる。					
思考・判断の観点: 日本美術交流史における問題系を理解した上で、独自の課題を設定できる。					
関心・意欲の観点: 自ら設定した課題について探究し、調べた結果を報告できる。					
成績評価方法(総合)					
1.各担当回における発表内容、2.その他の回における議論への参加度、3.日本美術交流史データベース構築への貢献度、によって総合的に評価します。					
教科書					
参考書					
西洋絵画の到来 日本人を魅了したモネ、ルノワール、セザンヌなど / 宮崎克己:日本経済新聞社, 2007 日本美術 誕生 近代日本の「ことば」と戦略 / 佐藤道信:講談社, 1996 眼の神殿 「美術」受容史ノート / 北沢憲昭:美術出版社, 1989 ジャポニスム 幻想の日本(新装版) / 馬淵明子:ブリュッケ, 2004 日本美術の流出 / 瀬木慎一:駸々堂出版, 1985					
メッセージ					
近代日本における西洋美術との接触について探究します。現在の私たちの美術をめぐって、さまざまな点で見直すきっかけになると思います。					
連絡先					
fujikawa@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
人文学部の研究室 417 にて水曜日午後					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012121028
開設科目名	美学・美術史講読			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	田中 均			区分	
授業の概要					
<p>芸術と空間</p> <p>芸術作品が展示 / 上演される場所は美術館や劇場だけではなく、現在日本各地で都市の名前を冠した「アート・プロジェクト」が開催され、都市自体がインスタレーションの空間として活用されています。こうした現象はどのような意味を持つのでしょうか。この授業では、空間をめぐる哲学的・社会的・美学的文献を講読して、芸術と空間の関係について考察します。</p> <p>注意: この科目は「美学」の授業であり、「美術史」の授業ではありません。 (下のメッセージも読んで下さい)</p>					
授業の一般目標					
芸術にとって空間が重要な要素であることを理解する。					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 空間について理論のいくつかを説明することができる。</p> <p>思考・判断の観点: 空間についていくつかの議論を読み、その立場の違いを区別することができる。</p> <p>技能・表現の観点: 芸術と空間との関係について、自らの思考を表現することができる。</p>					
成績評価方法(総合)					
授業中の報告と学期末のレポートによって評価します。					
教科書					
参考書					
<p>日常実践のポイエティック / ミシェル・ド・セルトー : 国文社, 1987</p> <p>空間の生産 / アンリ・ルフェーブル: 青木書店, 2000</p> <p>都市の詩学 / 田中純: 東京大学出版会, 2008</p> <p>空間の詩学 / ガストン・バシュラール: 筑摩書房, 2002</p>					
メッセージ					
講読という授業の性格上、受講者には積極的な議論への参加と十分な予習を求めます。					
連絡先					
tanakahi@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
木曜 12:50 ~ 14:20 (事前に連絡して下さい)					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012121029
開設科目名	美学・美術史演習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	藤川 哲			区分	
授業の概要					
受講者の研究テーマによる発表と、発表に対する質問、討論を中心とした演習です。後期では、4年生は卒業論文の完成に向けて、3年生はテーマをさらに深められるよう指導します。					
授業の一般目標					
一、自分の考えを持ち、それを人にわかりやすく発表できる。 二、人の発表を聞いて、建設的な発言、討議ができる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 自らの研究テーマについて幅広く知識を身につける。					
思考・判断の観点: 他の受講生の研究テーマも含めた美学・美術史の全体像の中に、自らの研究テーマを位置づける。					
関心・意欲の観点: 自分の関心の所在を見定め、必要な文献を収集し、研究の進行過程を文章で記録する。					
成績評価方法(総合)					
発表内容、期末レポート、討論での発言や授業の参加度などにより総合的に判断します。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
まず、なるべくたくさんの論文を読みましょ。それから、自分の研究課題にあった論文が探し出せるようになります。そして、自分で調べたことをきちんと文章化したり、発表できるようになります。					
連絡先					
fujikawa@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
人文学部の研究室 417 にて水曜日午後					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012121030
開設科目名	美学・美術史演習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	田中 均			区分	
授業の概要					
この授業では、二つのことを行います。 受講者の卒業論文の研究について、構想の報告、先行研究の批判的紹介、論文の一部の発表を行います。 最近の美学の重要な文献として、ニコラ・ブリオ『関係性の美学』の英訳を講読します。 注意: には、担当教員が指導する学生だけが参加できますが、 にはそれ以外の学生も参加できます。					
授業の一般目標					
卒業論文を書くために必要な諸段階について理解する。 英語で文献を読むことの意義について考える。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 『関係性の美学』のいくつかの論点を説明することができる。					
思考・判断の観点: 先行研究を踏まえて自らの研究の独自性を判断することができる。					
技能・表現の観点: 自らの研究成果を論文として適切に表現することができる。					
成績評価方法(総合)					
受講者の報告内容に従って採点します。					
教科書					
参考書					
レポート・論文の書き方 上級 改訂版 / 櫻井雅夫:慶應義塾大学出版会, 2003					
レポート・論文の書き方入門 第三版 / 河野哲也:慶應義塾大学出版会, 2002					
新版 論理トレーニング / 野矢茂樹:産業図書, 2006					
メッセージ					
連絡先					
tanakahi@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
木曜 12:50～14:20(事前に連絡して下さい)					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012121031
開設科目名	西洋哲学演習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	青山 拓央			区分	
授業の概要					
言語と可能性についての哲学的問題を扱います。テキストは『言語哲学大全』第三巻などを予定していますが、出席者と相談の上、他の文献を読む場合もあります。					
授業の一般目標					
言語と可能性について哲学の諸説を学ぶとともに、ディスカッションの能力を養います。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 言語と可能性についての哲学的問題を、解説・検討します。					
思考・判断の観点: 活発なディスカッションへの参加を期待します。					
関心・意欲の観点: 活発なディスカッションへの参加を期待します。					
態度の観点: 活発なディスカッションへの参加を期待します。					
成績評価方法(総合)					
出席点が中心となります。ディスカッションへの参加意欲も評価の参考材料とします。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012121032
開設科目名	宗教学特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	ALAM DJUMALI			区分	
授業の概要					
<p>「現代日本、パリ、ジャワ、アボリジニに見る宗教的(精神的)世界」をテーマとする。この4地域の宗教について、それぞれ、3回から4回の授業を行う。</p> <p>これらの具体的な宗教事例を通して、宗教とは何か、そのメカニズムと捉え方について、考えていく。世界宗教として知られる制度化した宗教というより、民間信仰や自然宗教、そして「文化としての宗教」や「生活の中の宗教」の存在、役割、諸側面のほうに注目する。全体として宗教現象には、人間の行為、思考、生活様式、観念、規範などに関する、どのようなパターン・傾向・枠組みがあるのかを探っていく。</p> <p>毎回の授業は、おおよそ次の段取りで行う。</p> <p>小テスト/小レポート(約10分)。</p> <p>講義(約45分)。</p> <p>グループディスカッション+代表者発言+解説・総括(約30分)。</p> <p>テキスト/教科書は用いないが、各テーマについて毎回、レジュメ(ときには参考資料のコピー)を事前に配布し、予習を促す。</p>					
授業の一般目標					
<p>宗教という言葉が、いろいろな側面、定義、解釈、見方があって理解しにくくなったいま、宗教を、一方では人間にとつての普遍的な心の機能・メカニズムとして位置づけ、他方では個々の固有な文化現象として捉え、ダイナミックかつ包括的・本質的な枠組みと視点に親しむこと。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:宗教学に関する主要な課題について一定の理解と知識を身につけること。</p> <p>思考・判断の観点:個々の宗教現象について、一定の視点から分析できるようになること。</p> <p>関心・意欲の観点:授業中の良識ある態度(私語しないこと、遅刻と途中退室しないこと、居眠りしないこと、など)。</p> <p>態度の観点:授業中の良識ある態度(私語しないこと、遅刻と途中退室しないこと、居眠りしないこと、など)。</p> <p>技能・表現の観点:レポートによる記述力と表現力。</p> <p>その他の観点:宗教現象を捉える感性と感受性を磨くこと。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>* 授業内小レポート/小テストを12回課す。</p> <p>* 中間レポートと最終レポートをそれぞれ1回課す。</p> <p>* 中間レポートと最終レポートは、「文章を中心とするレポート」と「描写・描画を中心とするレポート」のいずれかを選択できるようにする。</p> <p>* 参加者は一学期を通して、何回の授業・レポート/小テストに参加する必要があるのかについては、最初の授業のときに知らせる(一定の余裕がある)。</p>					
教科書					
参考書					
メッセージ					
<p>授業はできるだけ体系的にわかりやすく、範囲を限定して行う。授業に出ることによって参加者が、毎回または全体として、宗教学に関する一定の内容と枠組みを身につけることを目指す。そのためには、参加者のほうも、毎回の授業に出席し、多少の復習をする必要がある。</p>					
連絡先					
<p>ジュマリアラム / 電子メール:djumali@yamaguchi-u.ac.jp / ホームページ:http://alam.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/ / 電話(研究室):083-933-5220 / 研究室:人文学部413号室</p>					
オフィスアワー					
<p>随時</p>					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012122001
開設科目名	日本史概論			単位	
対象学生				学年	2～3
担当教員	真木 隆行			区分	
授業の概要					
日本中世史を専攻する立場から、日本史研究に関する諸問題についてお話しする。					
授業の一般目標					
(1)歴史学の研究方法の一端を理解する。 (2)中世日本の捉え方をめぐって考究する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 日本史研究に関する基本的な事実関係について説明できる。 中世日本の捉え方をめぐる諸論点について理解する。					
思考・判断の観点: 史料・先行研究・通説を独自の視点で捉え直し、自分なりの見解を導き出す。					
関心・意欲の観点: 関心あるテーマに即してとことん問題を掘り下げる。					
技能・表現の観点: 自分なりの見解を論理的にとりまとめて論述できる。					
成績評価方法(総合)					
出席点、授業内レポートの内容、定期試験、以上から総合的見地に立って評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					
木曜日の放課後、または金曜日の放課後 真木研究室は、人文学部棟4階(415号室)。					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012122002
開設科目名	古文書・古記録			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	橋本 義則			区分	
授業の概要					
<p>この授業では平安時代の貴族が記した日記を翻刻されたテキストに従いつつ読み進めていきます。撰録時代に活躍した藤原実資の日記『小右記』を読んでいます。この授業は史料講読に準ずる内容のものであり、それと同様に受講者が分担して史料を読み、それに基づく解説を行います。担当した箇所についてはレジュメの作成が必須です。また、レジュメの作成に当たっては当時の貴族の世界を詳しく知るために図面や系図、あるいは儀式書や法制書などからの引用が必要になってきます。授業では受講生全員が担当の有無に関わりなく、毎回十分な下調べをした上で出席することが必要で、しばしば指名して意見を求めます。</p>					
授業の一般目標					
平安時代の標準的史料である貴族の日記を読解する力を養成する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 平安時代の貴族の日記を読みこなすための基礎的知識を獲得する。					
思考・判断の観点: 様々な史料を用いて日記の内容を論理的に解釈する力を身につける。					
関心・意欲の観点: 古代貴族の日常生活に関心・興味を抱く。					
態度の観点: 学問上の常識や通説を疑う姿勢を養う。					
技能・表現の観点: 1,古代の典型的漢文史料を正しく訓読・読み下し及び解釈できる。2,正しい日本語(書き言葉)で自分の意見を論理的に表現できる。					
成績評価方法(総合)					
1,学期末試験期間に試験を実施する。2,出席が所定の回数に満たないものには試験を受ける資格を与えない。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
本授業では授業時に受講生全員がパソコンを持ち込み、使用することが期待される。毎回の担当者はあらかじめワードを用いて報告に必要な配布資料を作成し、授業時に参加者全員にワードのファイルで配布することが義務づけられる。また資料の作成に当たってはスキャナーなどの周辺機器の活用も必要とされる。					
連絡先					
y-hasi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室:人文学部3階					
オフィスアワー					
時間のあるときはいつでも					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012122003
開設科目名	古文書・古記録			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	真木 隆行			区分	
授業の概要					
<p>題目: 中世の古文書(後期)</p> <p>概要: 中世文書の写真コピーを使い、文書様式の基礎も踏まえながら読解を行う。</p>					
授業の一般目標					
<p>(1)中世の古文書について、くずし字判読能力を養う。</p> <p>(2)中世の古文書について、内容解釈力を養う。</p> <p>(3)中世の文書様式の基礎を学ぶ。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:(1)中世のくずし字をある程度判読できる。</p> <p>(2)中世の古文書を読解するために必要な知識を得る。</p> <p>思考・判断の観点:より深く、より興味深い内容解釈ができるよう努める。</p> <p>技能・表現の観点:古文書の釈文を正確に記し、読点・返り点・送り仮名を適切に付すことができる。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>定期試験において、3通の古文書を出題する。</p> <p>そのうち1通目と2通目は、授業時間内に検討済みのものからそのまま出題する(片方は、くずし字を楷書体に改めるのみ、もう片方は、楷書体に改めた上で、それに読点・返り点・送り仮名をつける)。3通目は、未検討の古文書から出題し、楷書体に改める。採点は減点方式とし、80点以上を優、70～79点を良、60～69点を可、59点以下を不可とする。</p>					
教科書					
参考書					
<p>『くずし字用例辞典』(厚くて、漢和辞典タイプのもの) / 児玉幸多:東京堂出版</p> <p>『くずし字解読辞典』(薄くて、入筆形検索タイプのもの) / 児玉幸多:東京堂出版</p>					
メッセージ					
はじめは慣れないかもしれませんが、復習を繰り返せば、確実に読めるようになります。					
連絡先					
オフィスアワー					
<p>木曜日の放課後、または金曜日の放課後。</p> <p>真木研究室は、人文学部棟4階(415号室)。</p>					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012122004
開設科目名	古文書・古記録			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	田中 誠二			区分	
授業の概要					
前期よりも高度な訓練をするが、基本的な内容は前期と同じである。					
授業の一般目標					
前期と同じである。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: くずし字の読解能力を養う。					
関心・意欲の観点: 自分で読めるようになるということが大切である。					
成績評価方法(総合)					
定期試験によって成績評価を行う。減点法による足きりがあるのは、前期と同様である。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012122005
開設科目名	古文書・古記録			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	田中 誠二, 織織 厚, 橋本 義則, 真木 隆行			区分	
授業の概要					
上級生の演習や学習に参加し、史料の発掘方法や問題選択の方法を学び、自身の研究法や問題設定の参考にする。					
授業の一般目標					
歴史学研究、とりわけ日本史の研究法や問題設定の仕方を学ぶ。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
レポートを提出し、その内容で成績を評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					
月曜と金曜の昼休み。					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012122006
開設科目名	日本史特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	田中 誠二			区分	
授業の概要					
萩藩後期の藩財政について、馳走米と家臣団財政、和市変動、財政システムといった観点から解明する。					
授業の一般目標					
日本近世社会の基本骨格が理解できるようにする。あわせて萩藩財政の特質を理解できるようにする。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 日本近世社会の基本的骨格が理解できるようにする。					
思考・判断の観点: 歴史事象の普遍性と固有性を理解し、研究法についても参考になるようにする。					
成績評価方法(総合)					
レポートを提出し、その内容によって成績評価をする。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					
月曜と金曜の昼休み。					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012122007
開設科目名	日本史特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	縹織 厚			区分	
授業の概要					
戦前期日本と戦後期日本の連続性に係わる論点を中心に講義を進める。					
授業の一般目標					
官僚制・天皇制・政党制という三つの日本型システムの解析を通して日本近現代史を立体的に捉える視点を養う。					
授業の到達目標					
思考・判断の観点: 客観的かつ正確な資料や文献に触れながら、歴史を現代的な視点から再構成する力を養成する。					
成績評価方法(総合)					
論述試験で評価する。					
教科書					
帝国日本の原型とその再登場 / 縹織厚: 凱風社, 2009					
侵略戦争 / 縹織厚: 筑摩書房, 1999					
総力戦体制研究 / 縹織厚: 三一書房, 1981					
日本海軍の終戦工作 / 縹織厚: 中央公論社, 1996					
近代日本政軍関係史の研究 / 縹織厚: 岩波書店, 2005					
参考書					
メッセージ					
既成の歴史観から抜け出そう!					
連絡先					
kloketsu@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
Wed.10:00-12:00					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012122008
開設科目名	日本史特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	橋本 義則			区分	
授業の概要					
<p>日本古代の喪葬儀礼や喪葬に関わる制度については、考古学や民族学の調査・研究成果を踏まえつつ、主として所謂大化前代を対象に研究が行われ、多くの成果を上げてきました。しかし律令を基本とした古代国家が成立した8世紀以降の喪葬に関する研究はまだ少なく、またそれらの研究は極めて不十分なものではないと思われます。本講義では、このような研究の現状に鑑み、まず8世紀の喪葬の具体的な様相について貴族階級を対象を置いてできる限り明かにし、次いで律令国家の喪葬政策やそれをめぐる政治・社会状況を考えることにしたいと思います。そしてこれらの検討を通じて律令国家の喪葬に対する政策の意図やその変化、さらにそれを推し進め、貴族社会の変化などについても考えてみたいと思っています。昨年度は喪葬のうち「葬」について話しました。本年度は引き続き「葬」について話します。</p>					
授業の一般目標					
日本古代の喪葬儀礼や喪葬に関わる制度とその成立の経緯を理解することを通じて、日本古代の貴族社会について理解を深める。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 古代の喪葬制度とその背景にある政治・社会状況を説明できる。					
思考・判断の観点: 史料や資料を用いて、古代貴族社会の実態を論理的に解釈する能力を身につける。					
関心・意欲の観点: 古代貴族社会に関心・興味を抱く。					
態度の観点: 学問上の常識や通説を疑う姿勢を養う。					
技能・表現の観点: 1, 古代の史料・資料を博捜し、正しく解釈できる。2, 正しい日本語(書き言葉)で自分の意見を論理的に表現できる。					
成績評価方法(総合)					
学期末のレポートによって評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
日本史概説を受講し、飛鳥・奈良・平安の各時代についてやや詳しい知識をもっていることが望ましい。また講義レジュメのダウンロードと受講のためにノートパソコンが必携である。					
連絡先					
オフィスアワー					
時間のあるときはいつでも。					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012122009
開設科目名	日本史特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	橋本 義則			区分	
授業の概要					
<p>古代国家の東北辺境支配</p> <p>古代東北地方の辺境には蝦夷とよばれる未服属の民が居住していた。7世紀中 - 9世紀初めの150年間に古代国家はこの辺境地域に版図拡大の政策を展開する。この辺境政策は、古代国家が東日本の人と物資をつぎ込んで取り組んだ大プロジェクトであり、大和政権以来、畿内政権が進めてきた古代国家形成の最終章に当たる。本講では、蝦夷とは何だったのか、古代国家の辺境支配の構造、版図拡大の過程、辺境支配の変容、古代国家における辺境支配の歴史的意義などについて明らかにする。</p>					
授業の一般目標					
7世紀 - 10世紀の東北地方の歴史を、古代国家との関係で理解する。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
出席と定期試験による。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
Mail address:takao@sal.tohoku.ac.jp Tel :022-795-6062					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012122010
開設科目名	日本史史料講読			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	田中 誠二			区分	
授業の概要					
秋藩政治史史料を精読する。基本的用語の読み・意味を正確に身につけさせ、時代背景・権力機構の特質を読み取っていく。					
授業の一般目標					
1. 秋藩政治史史料を精読し、近世政治権力の機構・実態を理解する。					
2. 近世の基本的用語の読み・意味を知り、近世史料を用いて研究・考察する力を培う。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1. 近世の基本的用語の読み・意味を正確に理解する。					
2. 近世政治史の課題について理解を深める。					
思考・判断の観点: 1. 近世政治史史料に現れる一定の法則性・連関を把握し、それを論理的に説明する力を養う。					
成績評価方法(総合)					
定期試験によって成績評価を行う。減点法による足りがある。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					
月曜・金曜の昼休み。					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012122011
開設科目名	日本史史料講読			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	篠原 厚			区分	
授業の概要					
日本近現代史を学ぶに必要な基本的資料の読解力を養成する					
授業の一般目標					
日本近現代史の関連資料を自在に読みこなせる力を養成する。					
授業の到達目標					
関心・意欲の観点: 日本近現代史に関する歴史事実への関心と歴史研究の可能性への期待値を上げることを目指す。					
成績評価方法(総合)					
資料読解力をテスト形式で評価する					
教科書					
外交資料 近代日本の膨張と侵略 / 山田朗篇・解説: 新日本出版社, 1997					
参考書					
メッセージ					
資料読解の楽しさを感じよう!					
連絡先					
koketsu@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
Wed.AM10:00-12:00					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012122012
開設科目名	日本史史料講読			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	橋本 義則			区分	
授業の概要					
<p>古代の史料を正確に読み解く力を身につけるために、その代表的な史料、つまり典型的な漢文史料を選んで読み進めてゆきます。この授業では『類聚三代格』を読んでいます。授業で『類聚三代格』を取り上げた理由は、それが奈良時代から平安時代に出された諸種多様な法令を集大成したものであり、また奈良・平安時代の最も典型的な漢文史料であることにあります。授業では受講者が分担して史料解読の報告を行い、解読の正否を含めて検討を加えます。本授業の受講生は、全員が3～4回程度報告することになります。報告に当たっては丹念な史料収集を行った上でのレジュメの作成が義務づけられます。また授業では報告者を含めた受講生全員に積極的に発言を求めたり、あるいは指名して意見を求めたりします。従って受講生は担当の有無に関わりなく、毎回十分な下調べをした上で出席することが必要となります。なお、この授業は外国語の授業と同じ、所謂語学の授業でもありますから、史料を読解する力を養うため根気強く辞書を引くことが必須となります。</p>					
授業の一般目標					
典型的な漢文史料を読解する力を養成する。					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 奈良時代・平安時代の法制史料(法律)を正確に解釈するための基礎的知識を獲得する。 思考・判断の観点: 様々な史料を用いて法制史料(法律)の内容を論理的に解釈する力を身につける。 関心・意欲の観点: 古代法制書の世界、政治制度の変遷に関心・興味を抱く。 態度の観点: 学問上の常識や通説を疑う姿勢を養う。 技能・表現の観点: 1,古代の典型的漢文史料を正しく訓読・読み下し及び解釈できる。2,正しい日本語(書き言葉)で自分の意見を論理的に表現できる。</p>					
成績評価方法(総合)					
1, 学期末試験期間に試験を実施する。2, 出席が所定の回数に満たないものには試験を受ける資格を与えない。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
<p>本授業では授業時に受講生全員がパソコンを持ち込み、使用することが期待される。毎回の担当者はあらかじめワードを用いて報告に必要な配布資料を作成し、授業時に参加者全員にワードのファイルで配布することが義務づけられる。また資料の作成に当たってはスキャナーなどの周辺機器の活用も必要とされる</p>					
連絡先					
y-hasi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室:人文学部3階					
オフィスアワー					
時間のあるときはいつでも					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012122013
開設科目名	日本史史料講読			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	真木 隆行			区分	
授業の概要					
<p>題目：貴族日記『勘仲記』を読む(17)</p> <p>概要：『勘仲記』の輪読をおこなう。前期にひきつづき、弘安7(1284)8月以降の記事を検討する予定。</p> <p>『勘仲記』は、鎌倉後期中流貴族、勘解由小路兼仲(1244～1308)の日記であり、質量共に鎌倉時代を代表する記録史料の一つである。兼仲は、摂関家の家司をつとめ、朝廷では藏人・弁官を歴任し、やがて公卿となって権中納言まで昇進する。今回対象とする弘安7年には、兼仲は五位藏人に昇進している。したがって後宇多天皇の周辺にもたらされた情報や、院政をおこなっている龜山院や、関白鷹司兼平との交渉など、国家の中枢に関する情報を窺い知ることができる。</p> <p>テキストには史料大成本を使用するとともに、兼仲の自筆本の写真版コピーで校訂を行いながら輪読する。</p>					
授業の一般目標					
<p>(1)史料の読解力を養う。</p> <p>(2)日本中世史の研究方法の一端を学ぶ。</p> <p>(3)関心ある論点を見つけ、とことん問題を掘り下げる。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点：(1)中世の史料を読解できる。</p> <p>(2)中世の史料を読解するために必要な知識を得る。</p> <p>思考・判断の観点：より深く、より興味深い内容解釈ができるよう努める。</p> <p>関心・意欲の観点：関心ある論点を見つけて十分に調査し、とことん問題を掘り下げる。</p> <p>技能・表現の観点：漢文体史料の書き下し文や内容解釈文を適切に書く。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>定期試験を実施する。</p> <p>授業時間内に検討した史料を抜粋し、それに基づき出題する。</p>					
教科書					
参考書					
メッセージ					
ゼミナール形式で行います。基本的事項の説明にとどまるのではなく、なんらかの検討課題を独自に発見し、深く掘り下げられた報告を求めます。					
連絡先					
オフィスアワー					
<p>木曜日の放課後、または金曜日の放課後</p> <p>真木研究室は、人文学部棟4階(415号室)。</p>					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012122014
開設科目名	日本史演習			単位	
対象学生				学年	3～3
担当教員	田中 誠二			区分	
授業の概要					
前期と同様					
授業の一般目標					
前期と同様					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 前期と同じ。					
思考・判断の観点: 前期と同じ。					
技能・表現の観点: 前期と同じ。					
成績評価方法(総合)					
前期と同じ。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					
月曜と金曜の昼休み。					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012122015
開設科目名	日本史演習			単位	
対象学生				学年	3～3
担当教員	篠崎 厚			区分	
授業の概要					
受講者の卒論に関連する報告を中心に進める。					
授業の一般目標					
問題意識を確実に論述で表現できる力を養う。					
授業の到達目標					
思考・判断の観点: 自らの問題関心を明らかにし、これについて自ら主体的に問題対象に取り組む姿勢を身につける。					
成績評価方法(総合)					
報告内容で評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
歴史課題への取り組みは現代社会への取り組みに通ずる					
連絡先					
koketsu@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
Wed.AM10:00-12:00					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012122016
開設科目名	日本史演習			単位	
対象学生				学年	3～3
担当教員	橋本 義則			区分	
授業の概要					
受講生は自らが関心を持つ日本古代史上の種々のテーマについて、具体的な史料を用いながら調査・研究を進め、毎々その成果を報告してもらいます。報告終了後、まず提示された史料解釈の妥当性を中心にして検討を行い、さらにその研究史上における問題や論理の展開などについて討議、検討を加えます。この過程を通じてよりよい卒業論文の作成を目指したいと考えています。					
授業の一般目標					
受講生は自らが関心を持つ日本古代史上の種々のテーマについて、具体的な史料を用いながら調査・研究を進め、毎々その成果を報告してもらいます。報告終了後、まず提示された史料解釈の妥当性を中心にして検討を行い、さらにその研究史上における問題や論理の展開などについて討議、検討を加えます。この過程を通じてよりよい卒業論文の作成を目指したいと考えています。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 卒業論文作成に必要な日本古代史に関する知識を獲得する。					
思考・判断の観点: 卒業論文作成に必要な論理的考察力を獲得する。					
関心・意欲の観点: 卒業論文作成に当たり、自らの興味・関心に基づいて、問題を設定する力をつける。					
態度の観点: 卒業論文の作成を通じて、自ら学問上の常識や通説を疑い、解決しようとする姿勢を養う。					
技能・表現の観点: 1. 論文作成に必要な史料を正確に解釈できる。2. 正しい日本語(書き言葉)で自分の意見を論理的に表現できる。					
成績評価方法(総合)					
1. 学期末に半期かかって報告した研究内容についてレポートを提出する。2. レポートの分量については別途指示する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
本授業では授業時に受講生全員がパソコンを持ち込み、使用することが必須とされる。また毎回の研究報告発表者はあらかじめワープロソフト(ワード)を用いて報告に必要な配布資料を作成し、授業時に教官および受講生全員に資料をワードのファイルで配布することが義務付けられます。また資料の作成に当たってはスキャナーなどの周辺機器の活用も必要とされる。					
連絡先					
y-hasi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室:人文学部3階					
オフィスアワー					
時間のあるときはいつでも					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012122017
開設科目名	日本史演習			単位	
対象学生				学年	3～3
担当教員	真木 隆行			区分	
授業の概要					
日本中世史を専攻する3回生と4回生を対象とし、卒業論文の作成に向けた指導を行う。報告担当者は各自の関心を深めて、充実した研究報告を行う。報告担当者以外の参加者も、報告内容をめぐって活発に議論し、中世史の諸問題を掘り下げていってもらいたい。					
授業の一般目標					
卒業論文作成につながるような研究成果を重ねる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: (1)関係史料や先行研究について把握する。					
(2)関心ある事象の時代背景を把握する。					
思考・判断の観点: 史料・先行研究・通説などを独自の視点で捉え直し、自分なりの見解を導き出す。					
関心・意欲の観点: 関心あるテーマを見つけ、とことん問題を掘り下げる。					
態度の観点: 一研究者としての専門家意識を育む。					
技能・表現の観点: 自分なりの見解を論理的にとりまとめ、よりよい報告や論述ができる。					
成績評価方法(総合)					
3回生に関しては、演習時間内の報告内容と、提出レポートで評価する。					
4回生に関しては、随時に設定する報告とゼミ中間発表の内容で評価する。					
下記の【観点別】は、3回生用の評価方法					
教科書					
参考書					
メッセージ					
いい卒業論文を読ませてください。					
連絡先					
連絡先の電話やE-mailは、今年度の研究室名簿参照					
なお、ゼミの無断欠席が厳禁であることは、全国的な常識 やむを得ず欠席すべき所用がある場合には、本人が直接に事前連絡すること。但し、緊急事態の場合はやむを得ないが、その場合にもきちんと事後報告すること。					
オフィスアワー					
ご来訪ご質問は、不在時以外は基本的にいつでも歓迎する。					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012122018
開設科目名	日本史実習			単位	
対象学生				学年	3～3
担当教員	田中 誠二, 織織 厚, 橋本 義則, 真木 隆行			区分	
授業の概要					
古文書合宿・研究室史跡見学旅行・ゼミ史跡見学旅行などを、計画立案・史跡調査・古文書閲覧にわたって主体的に参加し、レポートにまとめる。					
授業の一般目標					
原典・原史料・現地にあたるという人文学部の学問の方法を実地で学ぶ。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1. みずから調べる、どう調べる、ということを実地に体験する。					
思考・判断の観点: 1. 具体的に実証的に確かめるということの意味を理解する。					
成績評価方法(総合)					
レポートを提出し、その内容によって、成績評価をする。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					
月曜日と金曜日の昼休み。					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012122019
開設科目名	東洋史概論			単位	
対象学生				学年	1～3
担当教員	滝野 正二郎			区分	
授業の概要					
中国前近代社会崩壊の大きな画期となった嘉慶白蓮教叛乱以後の中国近代史を講義する。					
授業の一般目標					
近代中国における伝統的世界秩序の崩壊と再編、伝統社会の崩壊と再生への模索を理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 近代中国における伝統的世界秩序の崩壊と再編、伝統社会の崩壊と再生への模索を理解する。					
思考・判断の観点: 歴史をその深層から思考し、判断する。					
関心・意欲の観点: 前近代社会の結果としての近代社会に関心を持つ。					
態度の観点: 歴史をその深層から理解しようとする態度を持つ。					
技能・表現の観点: 自分の得た知識、認識を論理的な文章で表現できる。					
成績評価方法(総合)					
論説による筆記試験により成績を評価する。					
教科書					
参考書					
中国の歴史 8 近代中国 / 佐伯有一: 講談社, 1974					
世界の歴史 19 中華帝国の危機 / 並木頼寿・井上裕正: 中央公論社, 1997					
中国の歴史 10 ラストエンペラーと近代中国 / 菊池秀明: 講談社, 2005					
メッセージ					
連絡先					
研究室: 人文学部 517 号室, 電話: 内線 5229, E-mail: stakino@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
月曜日 9・10 時限					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012122020
開設科目名	東洋史特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	馬 彪			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012122021
開設科目名	東洋史特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	滝野 正二郎			区分	
授業の概要					
本授業は、担当教員自らの研究の成果を学生に講義する場である。今回は、清代常関をめぐる商品流通を分析し、常関という機関が設置されたことによる流通上の影響について明らかにする。					
授業の一般目標					
(1) 清代の商品流通について一応の知識を得る。					
(2) 清代常関による商品流通の阻害作用と「促進」作用を理解する。					
(3) 清代常関をめぐる商人・民衆の動きを知ることによって制度と民衆のせめぎ合いを理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 清代の商品流通について一応の知識を得る。					
思考・判断の観点: 制度とは上から押しつけられて終いではなく、それを使用するものの対応によって内実が変質していくものであり、そうした生きたものとして思考する。					
関心・意欲の観点: 制度とは上から押しつけられて終いではなく、それを使用するものの対応によって内実が変質していくものであり、そうした生きたものとして関心をもつ。					
態度の観点: 制度を基底から考えるのではなく、利用の実態から解明する態度をもつ。					
技能・表現の観点: 自らが知り得たこと、認識したことを論理的な文章で表現する技能をもつ。					
成績評価方法(総合)					
学期末に提出するレポートによって評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
漢文史料を紹介しつつ授業を進めるので、漢文史料に興味のある学生の聴講を望む。					
連絡先					
研究室: 人文学部 517、					
電話: 内線 5229、					
E-mail: stakino@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
月曜日 9・10 時限					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012122023
開設科目名	東洋史史料講読			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	滝野 正二郎			区分	
授業の概要					
<p>本授業は、漢籍の点校本を受講学生が中心となって読み、担当教官がそれに解説を加えるという形式で授業を進めていく。</p> <p>本年度は葉夢珠撰「閩世編」を取り上げる。葉夢珠は清初(この書を著したのは1690年頃)江蘇省上海県の人。その伝記は不詳であるが、明の遺民的な立場でこの書を著しており、清初江南社会に関する貴重な叙述を残すとともに、明極末期の主要な問題についても言及している。本年度はその中の「水利」・「災祥」・「田産」の部分を読み、明清時代漢文史料の基礎的な読解能力を涵養するとともに、当時の江南士大夫社会の諸問題について検討する。</p>					
授業の一般目標					
<p>(1)漢文史料の基礎的読解力を涵養する。</p> <p>(2)明清時代史料の基礎的な収集・操作力を涵養する。</p> <p>(3)明清時代地域社会の基本的な視点について理解する。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 明清時代の地域社会および史料読解に必要な知識・理解力をもつ。</p> <p>思考・判断の観点: 史料から歴史的事実を思考し、判断して抜き出す能力をもつ。</p> <p>関心・意欲の観点: 原史料に関心を持つ。</p> <p>態度の観点: 原史料を自分の力で読んでいこうとする態度をもつ。</p> <p>技能・表現の観点: 漢文史料を読解する技能をもつ。</p>					
成績評価方法(総合)					
期末試験と分担部分に関する発表によって評価する。					
教科書					
閩世編 / 葉夢珠撰 來新夏点校: 上海古籍出版社, 1981					
参考書					
清国行政法 / 織田萬編: 大安, 1965					
清実録: 中華書局, 1985					
光緒欽定大清会典・会典事例 / 崑岡等: 中華書局, 1963					
嘉慶松江府志					
同治上海県志					
メッセージ					
<p>歴史学の基礎は正確な史料読解、史料操作である。この史料講読という授業はその能力を養成する授業である。歴史学コースの東洋史分野を専攻しようとする学生にとって本授業は必須である。積極的な参加を期待する。</p> <p>上述のように、本分野を専攻しようとする学生にとって不可欠であり、また、予め分担を決め、学生が中心となって授業を進めていくので、欠席・中途脱落は厳に慎むこと。</p>					
連絡先					
研究室: 人文学部 517,					
内線 5229,					
E-mail: stakino@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
月曜日 9・10 時限					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012122024
開設科目名	東洋史史料講読			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	滝野 正二郎			区分	
授業の概要					
<p>本授業は、漢籍の点校本を受講学生が中心となって読み、担当教官がそれに解説を加えるという形式で授業を進めていく。</p> <p>この授業では司馬光撰『資治通鑑』を取り上げる。本書は中国の歴史書の中で編年体の代表的な作品とされる。ここではその三国時代の部分を読み、正史『三国志』と対照しながら読解を進めていく。</p>					
授業の一般目標					
漢文史料(標点本正史レベル)の基礎的読解力を涵養する。					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:中国史史料の読解に必要な初歩的知識をもつ。</p> <p>思考・判断の観点:史料から歴史的事実を思考し、判断して抜き出す。</p> <p>関心・意欲の観点:原史料に関心を持つ。</p> <p>態度の観点:原史料を自分の力で読んでいこうとする態度をもつ。</p> <p>技能・表現の観点:漢文史料を読解する初歩的技能をもつ。</p>					
成績評価方法(総合)					
期末試験と分担部分に関する発表によって評価する。					
教科書					
資治通鑑 / 司馬光撰: 中華書局, 1956					
参考書					
三国志 / 陳寿: 中華書局, 1982					
メッセージ					
<p>歴史学の基礎は正確な史料読解、史料操作である。この史料講読という授業はその能力を養成する授業である。歴史学コースの東洋史分野を専攻しようとする学生にとって本授業は必須である。積極的な参加を期待している。</p> <p>上述のように、本分野を専攻しようとする学生にとって不可欠であり、また、予め分担を決め、学生が中心となって授業を進めていくので、欠席・中途脱落は厳に慎むこと。</p>					
連絡先					
<p>研究室: 人文学部 517、</p> <p>電話: 内線 5229、</p> <p>E-mail: stakino@yamaguchi-u.ac.jp</p>					
オフィスアワー					
月曜日 9・10 時限					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012122025
開設科目名	東洋史演習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	滝野 正二郎			区分	
授業の概要					
清代行政文書の研究。清代の行政文書「奏摺」を読み、そこから清代中期の時代像を構築する。					
授業の一般目標					
清朝の行政文書を読み、その基礎的読解力を獲得するとともに、中国清代の社会の性質、社会と国家の関係について理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 清朝の行政文書に関する基礎的知識を獲得する。					
清代の社会の性質、社会と国家の関係について理解する。					
思考・判断の観点: 中国清代の社会の性質、社会と国家の関係について考える。					
関心・意欲の観点: 清代の社会、行政、社会と国家の関係に関心を持つ。					
態度の観点: 行政文書から社会を見通す態度をもつ。					
技能・表現の観点: 1. 清朝の行政文書を扱う基礎的技能を獲得する。					
2. 自らの考えを論理的に表明する技能を持つ。					
3. 自らの考えを論理的に文章にする技能を持つ。					
成績評価方法(総合)					
授業中の発表と期末レポートで評価する。					
教科書					
宮中档乾隆朝奏摺 / 国立故宫博物院: 国立故宫博物院, 1982					
参考書					
清国行政法 / 織田萬編: 大安, 1965					
清実録: 中華書局, 1985					
光緒欽定大清会典・会典事例 / 崑岡等: 中華書局, 1963					
乾隆朝軍機処随手登記档 / 中国第一歴史档案館編: 広西師範大学出版社, 2000					
メッセージ					
受講生諸君の積極的な史料調査、発表、議論参加が必須である。					
連絡先					
研究室: 人文学部 517、					
内線 5229、					
E-mail: stakino@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
月曜日 9・10 時限					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012122026
開設科目名	西洋史概論			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	尼川 創二			区分	
授業の概要					
<p>後期の授業で扱うのは、教会と文化の問題である。この時代は、神中心のヨーロッパ中世文化がやや相貌を変え、近代的人間観の確立を促すルネサンスの出現を見る。不況の泥沼のなかで、なぜルネサンスの花が開くのか。その理由を明らかにしなければならない。また、イタリア、フランス、イングランド等に見られる世俗性に重きを置いた自国語文学の出現を、力をこめて論じたい。美術の発展についても詳述する。さらに、いま一つの重要な精神運動である宗教改革についても時間の許す限り考察してみたい。</p>					
授業の一般目標					
<p>外見上神に束縛された人間が、やがて神以外の価値あるもの - 人間性とか自然 - にうすうす気がつき始めたのがこの頃の時代精神だった、といえはそれで簡単なのだが、厄介なことにルネサンスとは反対の宗教改革(信仰の内面化と大衆への浸透)という事実がある。これをどう理解すべきか。歴史は実に難しい、そして面白い。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 授業の概要と一般目標で触れた点に知識を持ち、理解する。 思考・判断の観点: 授業の概要と一般目標で触れた点を、自分で深く考える。 関心・意欲の観点: ヨーロッパの信仰と理性の転変について、強い関心を持つ。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>期末試験を行なう。100点満点。ノートなどの持込は不可。無断欠席はマイナス5点。遅刻はマイナス2点。</p>					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
<p>人文学部4階407号室 amak@yamaguchi-u.ac.jp</p>					
オフィスアワー					
<p>月14:10 - 16:10</p>					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012122027
開設科目名	西洋史特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	尼川 創二			区分	
授業の概要					
<p>【ロシア革命の考察】19世紀の末に人民主義に代わってマルクス主義がロシアの革命的インテリゲンツィアの心を捉え始めたのはなぜなのか。1902年にレーニンが提起した党組織論はどのような問題点を孕んでいたか。社会主義革命が、資本主義の発達した西欧においてではなく、発展途上国ロシアで達成されたのはなぜなのか。そもそも西欧で社会主義革命を目指す大きな動きが生じなかったのはなぜだろう。レーニンに率いられたボリシェヴィキ党(共産党の前身)がロシアの革命勢力の中心になりえたのはなぜか。同党とロシアの労働者、農民、少数民族との関係はどのようなであったか。同党が革命体制移行過程で逢着した問題はなんであったのか。その革命体制はのちに出現するスターリンの強権的政治体制とどの点でつながり、どの点で断絶しているのか。こうした問題を考えてみたい。</p>					
授業の一般目標					
概要に記したような諸問題の考察を通じて、ロシア革命についての理解を深める。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: ロシア革命について知識を得、理解を深める。					
思考・判断の観点: ロシア革命の原因・経過・結果について自分で考えてみる。					
関心・意欲の観点: ロシアとヨーロッパの歴史に強い関心をもつ。					
成績評価方法(総合)					
授業外レポート100点、無断欠席1回につきマイナス5点、遅刻1回につきマイナス2点					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
人文学部4階407号室 amak@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
月14:10 - 16:10					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012122028
開設科目名	西洋史特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	藤永 康政			区分	
授業の概要					
1960年代のアメリカ黒人の運動に関して、史料をもとに考察を深めていく。また多くの映像史料と映画での表象を比較や、現代のアメリカ文化やアメリカ社会への理解を深めながら、「60年代」が今日においていかなる意味をもつのかについて考えていく。					
授業の一般目標					
(1)史料を論理的に且つイマジネーション豊かに解釈していく力を学ぶ					
(2)現代史特有の問題点に関し理解を含める					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 運動の年代記だけでなく、その社会政治経済的背景への理解を深める					
思考・判断の観点: 既存の学説にとらわれることなく斬新的な解釈をする力を身につける					
関心・意欲の観点: 現代社会の諸事情と現代史の関係について理解を深める					
態度の観点: 積極的に発言し、意見を交換することが「知」を拡大するものだという「思考法」を身につける					
成績評価方法(総合)					
毎回課題の読書箇所を指示し、それに基づいて発言をしてもらう。その発言の内容がもっとも重視される。					
史料を予め読んでこなくて当然質問に答えられるはずがなく、単なる出席は評価しない。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
質問などがあれば気楽にメールで連絡してください。(ただし、冒頭に学年所属氏名を明記すること)					
連絡先					
yfujinag@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012122029
開設科目名	西洋史学講読			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	藤永 康政			区分	
授業の概要					
アメリカ史関係の論文や学術書の書評誌 Reviews in American History に掲載されたものの中から、授業参加者の研究関心に適した英語論文を選択し、精読を行う。					
授業の一般目標					
(1)英語を英語で理解し、速読ができるようになる (2)史料と論文の読み方の違いを体得する					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 論文の主な論点を早くつかめるようになる。					
思考・判断の観点: 論文の構造、論理を理解できるようになる					
成績評価方法(総合)					
授業での発言を何よりも重視する。したがって、予習なしに出席し、質問・問いかけに答えられない場合、出席とはみなさないし、単なる「出席点」は与えない。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
質問などがあれば気楽にメールで連絡しください。(ただし、冒頭に学年所属氏名を明記すること)					
連絡先					
yfujinag@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012122030
開設科目名	西洋史学講読			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	尼川 創二			区分	
授業の概要					
前期と同じ。					
授業の一般目標					
前期と同じ。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点:前期と同じ。					
思考・判断の観点:前期と同じ。					
関心・意欲の観点:前期と同じ。					
成績評価方法(総合)					
期末試験と出席点(無断欠席1回に着きマイナス5点、遅刻1回につきマイナス2点)。					
教科書					
Zeiten und Menschen.Europa und die Welt. Das 20. Jahrhundert, / R.H.Tenbrock,K.Kluxen und H.E.Stier					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
人文学部4階409号室 amak@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
月14:10 - 16:10					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012122031
開設科目名	西洋史学講読			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	尼川 創二			区分	
授業の概要					
前期と同じ。					
授業の一般目標					
前期と同じ。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 前期と同じ。					
思考・判断の観点: 前期と同じ。					
関心・意欲の観点: 前期と同じ。					
成績評価方法(総合)					
期末試験と出席点(無断欠席1回につきマイナス5点、遅刻1回につきマイナス2点)。					
教科書					
Histoire Seconde. / Jean-Michel Lambin: Hachette					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
人文学部4階409号室 amak@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
月14:10 - 16:10					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012122032
開設科目名	西洋史演習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	尼川 創二			区分	
授業の概要					
前期と同じ。					
授業の一般目標					
前期と同じ。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 各自の発表テーマについての知識・理解が充分であること。					
思考・判断の観点: 問題点を見出すことができ、それについて深く考え、的確な判断をくだせること。					
関心・意欲の観点: 研究対象に強い関心をもっていること。					
態度の観点: 適切な発表の仕方を心得ていること。					
成績評価方法(総合)					
前期と同じ。ただし、4年生については学期末のレポートを免除する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
人文学部4階409号室 amak@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
月14:10 - 16:10					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012122033
開設科目名	西洋史演習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	藤永 康政			区分	
授業の概要					
3,4年生を対象(それ以外の学年でも、単位は与えないが、傍聴は歓迎する)とし、演習を行う。3年生は、現在最先端の歴史学認識を把握することを目的に、学術論文を精読する。4年生は、卒業論文の研究報告を行う。なお講読論文は、参加者の関心にしたがって決定する					
授業の一般目標					
(1)歴史学諸理論の把握 (2)早く良い先行研究を見つける方法を会得し、良い「問い」のたてかたを学ぶ (3)理解した理論をいかに展開していくかを学ぶ					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 現代思想と歴史議論、現代社会と歴史学との関係について理解を深める					
思考・判断の観点: 歴史学理論の展開の仕方を会得し、それに則った論理的思考を身につける					
成績評価方法(総合)					
授業での報告、ならびに参加者の報告に対する議論等々、積極的な授業参加を求め、そのみを評価基準とする。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
質問などがあれば気楽にメールで連絡してください。(ただし、冒頭に学年所属氏名を明記すること)					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012122034
開設科目名	考古学概論			単位	
対象学生				学年	2～3
担当教員	中村 友博			区分	
授業の概要					
日本列島の原始文化である弥生文化について、一般的な知識を習得する。					
授業の一般目標					
日本列島の原始文化について基礎的な知識を身につけるとともに、現代文化との相違についても関心を払う。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 考古学独自の専門用語について基礎的な知識を得るとともに、弥生文化とその周辺の文化との共通性や相違点を認識する。					
思考・判断の観点: 考古学的方法の長所と短所について考えを巡らす。					
関心・意欲の観点: 日本の原始文化にかんじて興味をいだき、関心を持つ。					
成績評価方法(総合)					
日本の原始文化について関心があるか、基礎的な知識があるかどうかを、試験によって判定する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
tomo@yamaguchi-u.ac.jp、研究室; 人文学部3階					
オフィスアワー					
月曜日; 16時10分～17時40分。					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012122035
開設科目名	考古学特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	村田 裕一			区分	
授業の概要					
<p>授業は、講義と演習を取り混ぜた運営スタイルにより構成する。</p> <p>縄文時代から弥生時代への転換過程は、大陸からもたらされた文化要素を様々な形で受容することで成し遂げられる。講義では、特に石器と鉄器という物質文化に注目し、弥生社会の形成過程を概観する。具体的には、日本列島内における大陸系磨製石器の成立とその生産・流通、鉄器の流入と生産、石器から鉄器への転換過程といった問題について探求する。新来の要素の影響下に形成された弥生時代社会の一側面を描き出す。本講義は、上記の総合的テーマで複数年次にわたり継続的に取り組んでいるものであるが、取り扱う個別のテーマ(考古資料および地域)は、毎年・開講学期毎に異なる。</p>					
授業の一般目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 考古学の基礎の一つであるところの実測図に盛り込まれた情報を正確に読みとることができる力を養う。 2. 遺物および遺構のデータの基礎的な操作方法、すなわち考古学の方法論の基礎について習得する。 3. 学術論文を批判的に読解する力を養う。 4. 石器と鉄器を軸に描き出した弥生時代社会について学ぶ。 					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:A. 実測図に盛り込まれた情報を正確に読みとることができる。</p> <p>B. 石器と鉄器を軸に描き出した弥生時代社会の事例を説明できる。</p> <p>思考・判断の観点:A. 学術論文を批判的に読解し問題点を抽出できる。</p> <p>B. 遺物および遺構のデータの基礎的な操作方法、すなわち考古学の方法論を、自分の選んだ考古学的題材に適用できる。</p> <p>関心・意欲の観点:A. 自分が関心を持つ考古資料をあげることができる。</p>					
成績評価方法(総合)					
小テスト・授業内レポート20%、宿題・授業外レポート60%、授業中の発表・資料操作の成果20%。					
教科書					
参考書					
<p>石器入門事典 - 先土器 - - 縄文 - / 加藤晋平・鶴丸俊明・鈴木道之助: 柏書房, 1991</p> <p>倭人と鉄の考古学 / 村上恭通: 青木書店, 1998</p> <p>考古資料大観 第9巻 弥生・古墳時代 石器・石製品・骨角器 / 北条芳隆・禰宜田佳男監修: 小学館, 2002</p>					
メッセージ					
<p>石器や鉄器などの、個別の遺物について詳細に解説する場合や、あるいは統計学的手法の解説を行ったりする場合には、講義内容がやや難しくなることもあるかもしれませんが。解説のわかりにくいところ、あるいは意図のわかりにくいところなどは、講義時間の内外に関わらずどんどん質問してください。</p>					
連絡先					
E-mail: h-murata@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
水曜日7・8時限					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012122036
開設科目名	考古学演習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	中村 友博			区分	
授業の概要					
おもに2年生と3年生を対象にして、歴史学のなかで考古学をこれから学習するのに必要な専門的な情報環境である遺跡の発掘調査報告書について学習する。					
授業の一般目標					
1. 遺跡の発掘によって、何が明らかになったのか、理解できる。 2. 発掘調査はどのように遂行するのか、自分なりに理解する。 3. 考古学における表現方法の特性を理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 考古学の専門用語を理解する。考古学の用語は難解であるから、まず独特の言葉を覚える。					
思考・判断の観点: 具体を抽象化することを学ぶ。同じものであるということは、どういことなのか、根本をまず理解する。					
関心・意欲の観点: 多様な遺跡・遺物の形態に興味を持つ。					
態度の観点: 問題点を共有化できる。					
技能・表現の観点: 遺跡・遺物の提示方法を理解する。					
その他の観点: 発掘調査報告書を読みこなせる。					
成績評価方法(総合)					
演習中の平常と課題のレポートで評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
tomo@yamaguchi-u.ac.jp、研究室:人文学部3階					
オフィスアワー					
月曜日;16時10分～17時40分。					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012122037
開設科目名	考古学実習			単位	4単位
対象学生				学年	3～3
担当教員	村田 裕一			区分	
授業の概要					
<p>考古学の基礎的技術である考古資料の取り扱いについて指導する。考古学の研究対象は過去の時代のモノ(遺構・遺物)である。その際、実物を取り扱うことが基本ではあるが、研究の大部分の段階では、二次的に加工された資料を取り扱うことが多い。この二次資料の代表的なものは図面や写真である。この授業では、考古学的な資料の取り扱いのための基礎的技術に習熟することを目的とする。この技術とは、下の一般目標に示す3項目であるが、2および3は表裏一体のものである。これらの技術はそれぞれ非常に高度な専門的技術であるため、その習得には受講生の多大な研鑽が必要とされるのは言うまでもない。考古学実習ではこれらの技術を習得するための初歩的な手ほどきを行うことで、考古遺物に対する理解を深める。</p>					
授業の一般目標					
<ol style="list-style-type: none"> 壊れやすく貴重な実物そのものを実際に取り扱うための技術を習得する。 実物の資料化(実物から二次資料への変換)のための技術の初歩を習得する。 二次資料(実測図・写真・拓本)に込められた情報を判読する技術を習得する。 					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:A. 遺物取り扱いの留意点を状況に応じて具体的に指摘できる。 B. 遺物整理から報告書作成までの作業のアウトラインを説明できる。</p> <p>思考・判断の観点:A. 遺物の解説を書くことができる。 B. 報告書を作成することができる。</p> <p>技能・表現の観点:A. 遺物の実測図を作成することができる。 B. 遺物の写真を撮影することができる。 C. 遺物の拓本を採取することができる。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>宿題・授業外レポート50%、受講者の発表(プレゼン)・授業内での制作作品50%。</p> <p>基本的には、授業中に所定の技術水準を習得することを目標とするので、出席が所定の回数に満たない受講生には単位を与えない。出席が重要な成績評価基準になる。</p> <p>欠席が多いと不可になる。また決められた課題を提出しないと評価が著しく低下する。</p>					
教科書					
参考書					
メッセージ					
<p>考古学に必要とされる基本的な技術の習得を目的として開講する授業科目である。目的達成のためには非常な修練が必要であり、率直に言って設定時間内だけで完全に習得することは不可能である。そのため、時間外での受講生の積極的な取り組みが必要となる。宿題もしばしば課される。</p>					
連絡先					
E-mail:h-murata@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
水曜日7・8時限					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012122038
開設科目名	日本史特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	篠原 厚			区分	
授業の概要					
<p>近年、政治、メディア、研究においてヨーロッパの地域統合のみならず東アジアの地域統合と地域主義、すなわち東アジア共同体論もますます注目されつつある。2007年、中国の前駐日大使王毅は講演で「新しいアジア主義を模索していく」必要があると宣言し、「100年前のアジア主義」を1955年のバンドン会議、1980年代の「大平総理の環太平洋経済圏」などに直結させた。日本でも「東アジア共同体」、「アジア・コモン・ハウス」などを提唱する学者、評論家、政治家が増えつつある。このように、歴史にルーツを探るアジア統合論の代表的な例を取り上げながら、歴史的なアジア連帯論・アジア主義と現在のアジア統合論の相互関係が研究者によっていかに論じられているかについて考える。</p>					
授業の一般目標					
<p>近年の「東アジア共同体論」などの歴史的背景を理解し、東アジア連帯論の問題点について複数の観点から考え、現在の議論をより適切に理解できることを目指す。</p>					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
授業での積極的参加、報告、レポート提出					
教科書					
Pan-Asianism in Modern Japanese History. / Sven Saaler and J. Victor Koschmann (eds): New York and London: Routledge, 2007					
Pan-Asianism. A Documentary History. / Sven Saaler and Christopher W. A. Szpilman (eds): Unpublished collection (will be distributed to the students)					
参考書					
『アジア / 日本』(思考のフロンティアII) / 米谷匡史: 岩波書店, 2007					
『アジア主義』 / 竹内好編: 筑摩書房, 1963					
メッセージ					
プレゼンテーションのテーマを決めるために、かならず授業開始の前、メールにて連絡ください。					
連絡先					
saaler@sophia.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012122039
開設科目名	東洋史特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	馬 彪			区分	
授業の概要					
「中国古代国家論 - 日本にとっての中国とは何か - -」					
1. 歴史学の新動向を鑑みつつ、「国家論の復権」の意義について説明する。					
2. 行程支配の成立と構造の理解が、中国史研究の出発点であったことを説明する。					
3. 中国の権力構造の特質について、新たな観点から説明する。					
授業の一般目標					
(1) 皇帝支配について、学説史を顧みながら、問題点を指摘し、新たな課題を提起する。					
(2) 中国を中国たらしめた個性豊かな処分(特質)を、従来にない方法論で解明する。					
(3) 旧来の中国国家論を批判し、現代につながる特異な支配の仕組みを提示する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1. 「公」権としての国家がいかんにして構築されたかの理解を求める。					
思考・判断の観点: 1. 中国を含む東アジア世界を「家族国家」として理解してきた過去の鋼材を指摘する。					
関心・意欲の観点: 1. 「超大国」中国への特段の関心を持つべきことを喚起する。					
態度の観点: 1. 通説は、隠された史実の発掘によって超えられるべきことを確認する。					
成績評価方法(総合)					
段階を追って計画的に講義を行うので、断片的受講では内容の理解は困難である。理解度(批判を含めて)はレポートで評価するが、出席点を重視する。					
教科書					
参考書					
中国古代国家の「家」と国家 / 尾形勇: 岩波書店, 1979					
東アジアの世界帝国 / 尾形勇: 講談社, 1985					
中華文明の誕生 / 尾形勇・平勢隆郎共著: 中央公論新社, 1998					
中国史 / 尾形勇・岸本美緒共編: 山川出版社, 1998					
中国の歴史(第12巻「日本にとって中国とは何か」) / 尾形勇等共編, 2005					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012123001
開設科目名	社会学概論			単位	2単位
対象学生				学年	1～3
担当教員	小谷 典子			区分	
授業の概要					
社会学とは何か、社会学の方法としての社会調査とは何かを、現代社会の社会問題を考えながら学んでいく					
授業の一般目標					
社会学とはどのような学問であるか、社会学の基礎知識を身につける。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 社会学、社会調査の知識を身につける					
思考・判断の観点: 社会的ものの味方ができる					
関心・意欲の観点: 社会問題に関心を持つ					
態度の観点: 身の回りに起こっていることに対して好奇心を持つ					
成績評価方法(総合)					
授業の進捗段階ごとに行う小レポートと、出席、試験を総合的にみて評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
前期の社会学概論 も履修して欲しい 社会調査士資格認定科目					
連絡先					
5236					
オフィスアワー					
月曜日 14時～15時					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012123002
開設科目名	現代社会論			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	小谷 典子			区分	
授業の概要					
産業都市における企業の社会貢献活動とまちづくりに関する日本各地の事例をみながら、住みよいまちづくりを考える					
授業の一般目標					
産業都市の諸問題について考え、身近な都市のまちづくりにたいして、自分なりの考えをもつ					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 産業都市の変化と現状に関する知識を身につける					
思考・判断の観点: 企業組織の実態についての確に判断する					
関心・意欲の観点: 身近な産業都市の現状について関心を持つ					
成績評価方法(総合)					
授業中に実施する小レポート、出席、最終試験を総合して評価する					
教科書					
企業の社会貢献とコミュニティ / 三浦典子:ミネルヴァ書房, 2004					
参考書					
メッセージ					
できれば前期・後期続けて受講してください					
連絡先					
5236					
オフィスアワー					
月曜日 14時 15時					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012123003
開設科目名	社会学演習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	小谷 典子			区分	
授業の概要					
社会学の理論や研究方法を学び、現代社会が抱える諸問題について、テキストに基づき、各自レポートし、それぞれの研究課題について議論しながら、現代社会に関する関心を深める。					
授業の一般目標					
現代社会の構造と変動を、都市社会に視点を置いて理解する。そこから派生する関心ある社会問題を見つけ出し、社会学的な分析方法を身につける					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 現代社会の研究に関する知識と理解を深める					
思考・判断の観点: 現代社会の現状を判断する					
関心・意欲の観点: 現代社会に関する関心を深める					
研究テーマを明確化する					
成績評価方法(総合)					
出席、課題報告、最終レポートで総合的に評価する					
教科書					
参考書					
メッセージ					
小谷を指導教員とする4年生は必ず受講すること					
連絡先					
5236					
オフィスアワー					
月曜日 14時 15時					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012123004
開設科目名	社会学演習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	横田 尚俊			区分	
授業の概要					
本演習では、4年生の卒業論文作成に向けた指導を行う。					
授業の一般目標					
受講生が、自分自身で設定した研究課題にしたがって、卒業論文を執筆できるようにする。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
報告 100%					
教科書					
参考書					
メッセージ					
受講生の卒業論文提出のスケジュールに鑑みて、正規の演習は12月初旬で終了し、以降は各自の進度に応じた個別指導を実施する。					
連絡先					
メール・アドレス n.y@yamaguchi-u.ac.jp 研究室 人文棟3階307室					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012123005
開設科目名	社会学調査実習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	横田 尚俊			区分	
授業の概要					
<p>具体的な調査テーマを設定し、社会調査の方法にしたがって、調査を実施する。調査テーマの設定、テーマにかかわる資料収集と事前学習、調査手法の検討、調査票の設計、ラポール、調査によるデータの収集と整理・分析、調査報告書の執筆、という一連のプロセスを、実習形式で修得していく。取り上げるテーマは、「環境問題と住民活動」、「災害と地域社会」、「市民活動と地域社会」、「まちづくりとコミュニティ再生」のいずれかを予定している。調査手法としては、主に聞き取り調査を採用する予定である(テーマについてはあくまで予定であり、変更する場合もある)。</p>					
授業の一般目標					
社会調査の方法を学習し、受講生自身が、グループで協力しあいながら、社会調査を企画・実践できるようにする。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
授業への参加度(調査のプロセス・作業への参加) 50%					
授業内での発表 20%					
調査レポート 30%					
教科書					
参考書					
社会学小辞典 / 浜嶋朗ほか: 有斐閣, 1997					
社会調査へのアプローチ(第2版) / 大谷信介ほか: ミネルヴァ書房, 2005					
「あたりまえ」を疑う社会学 質的調査のセンス / 好井裕明: 光文社, 2006					
メッセージ					
調査実施期間中は、正規の授業時間以外にもある程度の時間を費やさなければならない。受講生には、あらかじめこの点を了解してほしい。					
連絡先					
メール・アドレス n.y@yamaguchi-u.ac.jp					
研究室 人文棟3階307室					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012123006
開設科目名	社会心理学概論			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	辻 正二			区分	
授業の概要					
社会心理学においては、社会調査はきわめて重要な意味を持っている。本講義では、社会調査に必要な理論と技法について学ぶ。					
授業の一般目標					
1)社会心理学に必要な社会調査の方法についての知識、技法について学ぶ。 (2)社会調査を実施するまでの基本的知識、調査票の作成方法、サンプリング方法などの知識、技法を修得する					
授業計画(概要・授業の目標(予定))					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
社会心理学の調査法の知識を理解し、判断能力があるかどうかを評価の対象とします。					
教科書					
社会調査へのアプローチ / 大谷信介他:ミネルヴァ書房, 2005					
参考書					
メッセージ					
社会心理学の基礎となる調査法の授業です。テキストは、必ず入手してください。配付資料だけでは足りないと思います。					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012123007
開設科目名	現代社会意識論			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	辻 正二			区分	
授業の概要					
<p>少年犯罪、いじめ、ひきこもり、リストカットなどの青少年の諸問題を糸口に、ケータイ依存、トラウマ、キャラ志向といった近年の特徴を考慮に入れつつ、現代の人間関係の特徴とそれがもたらす現代に特有の「生きづらさ」について考察する。とくに、公共圏に対する意識の変化、再帰的近代化の進行、社会の心理学化といった知見を取り入れながら、逸脱論の観点から社会学的に考察を進める。</p>					
授業の一般目標					
<p>青少年をめぐる近年の諸問題から見てくるのは、親密な人間関係の過剰な重さである。従来からのいじめ事件においてだけでなく、普段から親友と呼んでいたほど仲のよかった友だち同士が加害者と被害者の関係へと突然に転じてしまった事件にも、あるいはオヤジ狩りのように友だち同士でつるんで大人を襲うといった諸事件にも、その様子はうかがえる。</p> <p>近年の青少年は、友だちや家族など親密圏の人間関係に異様なほど配慮しあっている。そして、その傷つきやすい人間関係をマネージメントしていくことに何よりも優先性を認め、莫大なエネルギーをそこに注ぎ込んでいる。しかし、その危うい関係の維持運営に腐心するあまり、親密圏の外部にいる人間に対してはほとんど無関心となっているようにも見受けられる。また、本来ならそこに生じる軋轢を無理に抑え込んだ関係の不安定さが、暴発的な破綻となって表われている場合も見受けられる。</p> <p>では、近年の青少年たちの親密圏がかくも重いものへと変質してしまったのはなぜだろうか。親密な他者との関係を相対化できず、対立を認めない言わば「優しい関係」の専制に追いつめられているのはなぜだろうか。このような傾向は、きわめて内閉的に「個性的な自分」を希求するという近年の彼らのメンタリティの特徴と、一見は正反対の動きのように見えるものの、じつは大いに関係しあっているのではないだろうか。本授業の中心的なテーマはこの両者の関連を解明することにある。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:現代社会を分析するための社会学的な知識を習得する。</p> <p>思考・判断の観点:現代社会を考えるための社会学的な思考の訓練を行なう。</p>					
成績評価方法(総合)					
集中講義ですので、理解と関心度などを評価したいと思います。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012123008
開設科目名	現代社会意識論			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	辻 正二			区分	
授業の概要					
<p>少年犯罪、いじめ、ひきこもり、リストカットなどの青少年の諸問題を糸口に、ケータイ依存、トラウマ、キャラ志向といった近年の特徴を考慮に入れつつ、現代の人間関係の特徴とそれがもたらす現代に特有の「生きづらさ」について考察する。とくに、公共圏に対する意識の変化、再帰的近代化の進行、社会の心理学化といった知見を取り入れながら、逸脱論の観点から社会的に考察を進める。</p>					
授業の一般目標					
<p>青少年をめぐる近年の諸問題から見えてくるのは、親密な人間関係の過剰な重さである。従来からのいじめ事件においてだけでなく、普段から親友と呼んでいたほど仲のよかった友だち同士が加害者と被害者の関係へと突然に転じてしまった事件にも、あるいはオヤジ狩りのように友だち同士でつるんで大人を襲うといった諸事件にも、その様子はうかがえる。</p> <p>近年の青少年は、友だちや家族など親密圏の人間関係に異様なほど配慮している。そして、その傷つきやすい人間関係をマネージメントしていくことに何よりも優先性を認め、莫大なエネルギーをそこに注ぎ込んでいる。しかし、その危うい関係の維持運営に腐心するあまり、親密圏の外部にいる人間に対してはほとんど無関心となっているようにも見受けられる。また、本来ならそこに生じる軋轢を無理に抑え込んだ関係の不安定さが、暴発的な破綻となって表われている場合も見受けられる。</p> <p>では、近年の青少年たちの親密圏がかくも重いものへと変質してしまったのはなぜだろうか。親密な他者との関係を相対化できず、対立を認めない言わば「優しい関係」の専制に追いつめられているのはなぜだろうか。このような傾向は、きわめて内閉的に「個性的な自分」を希求するという近年の彼らのメンタリティの特徴と、一見は正反対の動きのように見えるものの、じつは大いに関係しているのではないだろうか。本授業の中心的なテーマはこの両者の関連を解明することにある。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:現代社会を分析するための社会的な知識を習得する。</p> <p>思考・判断の観点:現代社会を考えるための社会的な思考の訓練を行なう。</p>					
成績評価方法(総合)					
集中講義ですので、理解と関心度などを評価したいと思います。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012123009
開設科目名	社会心理学演習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	辻 正二			区分	
授業の概要					
<p>3年生と4年生を対象にした演習形態の授業です。授業では、3年生は、各自研究したいと思う関心領域をレポートしながら、卒論のテーマを見つける作業をしていただきます。4年生は、自分の卒論の進行状況を報告する形で、卒論を仕上げで戴きます。</p> <p>3年生と4年生がともに違った作業を通して社会心理学の知識や研究方法を深めてもらいます。</p>					
授業の一般目標					
<p>(1)レポートの課題を通して専門的な知識を学ぶとともに解釈の仕方やプレゼンテーションの方法について学ぶ。</p> <p>(2)専門的な知識を深めるとともに議論に参加し、自分の見解を述べる姿勢を身につける。</p>					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
演習の課題を受けて、レポート発表の資料を作成すること、発表にあたってのプレゼンテーション、演習での議論の参加度などを総合的に評価します。					
教科書					
, 1993					
, 1963					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012123010
開設科目名	社会心理学演習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	高橋 征仁			区分	
授業の概要					
夏休みの間に自分の研究テーマを見つけ、それに関する基本的文献を収集し、精読していく。これによって、先行研究の概要を把握し、自分の卒業研究のための土台を構築する。					
授業の一般目標					
1)必要な文献や資料を収集し、情報を整理していく技法を身につける。 2)問題や論点を整理し、議論を方向づける能力を身につける。 3)自分の卒業研究のための大まかな見取り図を作成する。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
授業での研究発表20点、討論や質疑20点、学期末レポート60点にて評価する					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					
金曜日5・6時限					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012123011
開設科目名	社会心理学調査実習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	高橋 征仁			区分	
授業の概要					
<p>量的な社会調査を念頭に、調査の企画から報告書の作成まで、社会調査の全過程を一通り体験的に学習することで、学生が自ら調査を企画し、実施していく能力とその際に必要な倫理観とを養う。とくにこの後期の授業においては、具体的なデータの入力から加工、集計・分析、報告のプロセスに学習の重点を置くことで、有意義な調査企画・調査票作成が可能になるようにフィードバックしていく学習を目指す。</p>					
授業の一般目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 実際に調査を企画し、実施し、報告書を作成するまでのプロセスを体験することによって、自らが調査を実施していく能力を身につける。 2. 調査データの性質や意味を十分考慮し、公平かつ客観的に現象を記述する態度を身につける。 3. 社会心理学の理論と調査研究とを相互に往復する思考様式を身につける。 					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
授業中のプレゼン40点と期末レポート60点の総合点によって評価する。					
教科書					
参考書					
社会調査へのアプローチ / 大谷信介ほか: ミネルヴァ書房, 1999					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					
金曜日 5・6 時限					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012123012
開設科目名	社会調査データ解析法			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	高橋 征仁			区分	
授業の概要					
<p>社会調査におけるデータは、はじめから「客観性」を保証されているわけではない。調査項目やサンプリングの方法、質問文の表現や回答法、データの分析技法やその解釈等々によって、巨大な「ウソ」が作られることは、決して珍しいことではない。日本社会においては、予算や補助金獲得のために、または問題隠蔽や責任回避のために、あるいはイデオロギーの補強のために、連日のように「ウソ」が量産されているのが実情である。授業では、そうしたデータの産出を批判的に吟味するとともに、調査データに関する基本的な取り扱い方法について学ぶ。</p>					
授業の一般目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 官庁統計や簡単な調査報告書・フィールドワーク論文が読めるための基礎的知識を習得する。 2. 度数分布やクロス集計、相関係数などについて、それらの計算や図表作成を実際に行う技能を身につける。 3. 調査データに対する、社会学者としての倫理観、責任感を養う。 					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:カイ2乗検定を電卓で行うことができる。相関係数と回帰分析の論理と手順を理解している。</p> <p>思考・判断の観点:エラボレーションによって関連性の真偽を検討することができる。</p> <p>関心・意欲の観点:常識的な因果関係を疑うとともに、新しい因果関係を構想し、積極的にテストする。</p> <p>態度の観点:社会調査によるデータ収集や処理・分析に対する倫理観を養う。</p>					
成績評価方法(総合)					
毎週の課題40点と期末試験60点の総合点による評価					
教科書					
社会統計学 / 片瀬一男: 日本放送出版協会, 2009					
参考書					
社会統計学 / ボーンシュテット&ノーク: ハーベスト社, 1990					
「社会調査」のウソ / 谷岡一郎: 文藝春秋, 2000					
メッセージ					
たとえ数学が苦手でも、四則演算さえできれば、この授業はマスターできます。					
連絡先					
オフィスアワー					
金曜日 5・6時限					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012123013
開設科目名	質的調査データ解析法			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	横田 尚俊			区分	
授業の概要					
<p>社会調査のうち、質的調査(qualitative survey)によるデータ収集・解析の手法について、基本的な知識を学ぶ。質的調査の方法的特徴、データ収集の技法、調査方法としてのメリットと留意点、データから知見を導き出す手法(分析方法)、などについて、社会学における先行研究の事例を参照しながら、学習していく。特に、調査実習や卒業論文の作成などにおいて最も利用価値が大いと考えられる聞き取り調査の方法について、技術的な諸点も含め、詳しく講義する。</p>					
授業の一般目標					
社会調査における質的調査の特徴やデータ収集・解析の方法について、基本的な知識を身につける。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
<p>授業への出席および参加度 40%</p> <p>定期試験 30%</p> <p>授業内小レポート及び課題レポート 30%</p>					
教科書					
社会調査へのアプローチ(第2版) / 大谷信介ほか:ミネルヴァ書房, 2005					
参考書					
<p>新版 ライフヒストリーを学ぶ人のために / 谷富夫ほか:世界思想社, 2008</p> <p>「あたりまえ」を疑う社会学 質的調査のセンス / 好井裕明:光文社, 2006</p>					
メッセージ					
連絡先					
<p>メール・アドレス n.y@yamaguchi-u.ac.jp</p> <p>研究室 人文棟3階307室</p>					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012123014
開設科目名	比較社会文化論			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	湯川 洋司			区分	
授業の概要					
日本の各地に行なわれている行事や祭り、それに伴う芸能やそこに現れる神の姿などを事例に取り上げ、日本各地の暮らしの多様性を発見し、それらを比較しながら、社会や文化の理解における比較の役割の重要性を確認する。					
授業の一般目標					
日本の社会や文化が単一的なものではなく多様性に富むことを、種々の民俗を手がかりに比較しながら具体的に理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 各地の行事や祭りの実態や内容について、説明できる。					
思考・判断の観点: 各地の行事や祭りを比較してそれぞれの特徴や違い、共通性について説明できる。					
成績評価方法(総合)					
毎回実施する小テストと授業外レポート、期末試験により評価します。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
まずは、日本各地の民俗を知っててください。					
連絡先					
yukawa@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
研究室:人文学部棟2階210号室、いつでも訪ねてください。事前にメールで連絡くだされば助かります。					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012123015
開設科目名	アジア比較社会論			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	山本 真弓			区分	
授業の概要					
通常、入手しにくいアジア映画を鑑賞し、その背景や内容分析を行いながら、アジアという多様な世界に生きる人々の社会文化を考察する。					
授業の一般目標					
ヨーロッパ近代もしくは日本の映画技法とは異なった技法で撮影された映画を見ることで、日本およびヨーロッパ近代を相対化すること。異なる複数のアジア映画を鑑賞することで、アジアの多様性を認識すること。アジアという用語への理解と考察を深めること。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: ストーリーを理解すること。わからないところについては、積極的に調べること。					
思考・判断の観点: 見慣れない情景、聞きなれない言葉、知らない風習について、拒絶するのではなく、興味をもってその意味を考察すること。					
成績評価方法(総合)					
授業内に課するレポートで行なう。欠席は基本的に認めない(忌引き、病気、公共交通の遅滞等については、この限りではない)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012123016
開設科目名	生活文化論			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	坪郷 英彦			区分	
授業の概要					
人間の暮らしをものの視点から考察する。文化人類学の物質文化研究、民俗学の民具研究の諸成果を示し、さらに現代の視点からの検討を加えながら授業を進めていきます。今年のテーマとしては生活学・考現学の理論と方法を取りあげる。					
授業の一般目標					
人間が作り出した様々なものを社会的、システムの、技術的に読み解く力を養う。ものを通して現代社会を分析するための目標と方法を理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 基本的理論、用語の説明ができる。					
思考・判断の観点: 日常を機能・システムの視点から読み解くことができる。					
関心・意欲の観点: 消費社会の表層と本質的な部分を読み分けることができる。					
態度の観点: 日常のもの・ことに新たな視点で接することができる。					
技能・表現の観点: 自分の考えを正確に論述できる。					
成績評価方法(総合)					
出席と期末レポート及び授業内レポートにより評価します。特に出席と期末レポートを重視します。 出席率が70%以下の場合は評価対象となりません。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
映像やスライドなど画像情報を用いてわかりやすく授業を行います。考現学を体験してみましょう。日常に対する眼が開かれます。					
連絡先					
Email hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp 電話 5239、研究室 213					
オフィスアワー					
木曜日 12:00～14:00					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012123018
開設科目名	文化人類学演習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	坪郷 英彦			区分	
授業の概要					
文化的ひとともの関係について考える内容です。この授業ではものとひとの基本的関係を知るための方法を学び、基本的関係について考察していきます。きっかけとして都市について文化人類学の視点・方法から一緒に学んでいきます。					
授業の一般目標					
文化人類学の基本を理解すること。文化人類学的ひとの見方を把握すること。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 各自が設定したテーマについて基本的内容、用語の説明ができる。					
思考・判断の観点: 各自が設定したテーマについて、自分の問題として理解し、次の行動を起こすことができる。					
関心・意欲の観点: 自ら積極的に関連文献を探して読むことができる。					
態度の観点: 自分の考えをまとめて発表できる。議論の中で自分の考えを組み立てていくことができる。					
技能・表現の観点: 効果的な発表手法の基本を理解する。					
成績評価方法(総合)					
出席と授業への積極的態度によって評価します。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
3年生は卒論へ向けて自分の関心がまとまっていくことを期待します。2年生の受講を歓迎します。プレゼンテーションはコンピュータを用いて行います。					
連絡先					
E-mail hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp 電話 5239 研究室 213					
オフィスアワー					
木曜日 10:00～12:00					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012123019
開設科目名	文化人類学演習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	山本 真弓			区分	
授業の概要					
3年生対象。卒論執筆のために論文の書き方を学ぶ。実際のテーマ選びと方法論の決定、目次作成などを通して、各自が自らの論の構成を披露し、参加者が質問するなどして詰めて行く。					
授業の一般目標					
卒業論文のたたき台になるようなレポート作成を目標とする。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 自らの論の背景となる一般的知識を獲得し、理解していること。					
思考・判断の観点: 論理的思考ができること。					
関心・意欲の観点: 論理的思考ができること。					
態度の観点: 自らの研究だけでなく、他人の研究発表にも積極的に関与し、意見を述べること。					
技能・表現の観点: 社会科学用語が使いこなせていて、かつ論理的文章表現ができること。					
成績評価方法(総合)					
出席と発表					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012123020
開設科目名	民俗学演習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	湯川 洋司			区分	
授業の概要					
<p>民俗学の基本的問題を理解し、民俗学に対する自らの関心を深め強める一助とする。</p> <p>民俗学の特定テーマを編集したテキストを、受講者と相談のうえ決める。受講者は順次、担当した文章の内容を整理して発表する。受講者はその内容について討論をしながら理解を深める。テキストは毎回、全員が読んで来る。</p>					
授業の一般目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 民俗学の扱う領域、課題を知る。 2. 民俗学のテーマを編集した文献を読むことで、民俗学の思考法を理解する。 3. 受講生との討論を通じて、相互に啓発しあう人間(友人)関係を築く。 					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 民俗学の基本的概念について説明できる。</p> <p>思考・判断の観点: 民俗学上の特定テーマを基本的概念や用語を用いて説明できる。</p> <p>態度の観点: 他者の発表をよく聞いて、積極的に発言することができる。</p> <p>技能・表現の観点: 民俗学の概念や用語を用いて、民俗学的内容を論じた文章が作成できる。</p>					
成績評価方法(総合)					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 他の受講生の発表を聞いたり、自ら発表したりする態度や状況を重視する。 2. 発表当番の責任を十分に果たしたどうか。 3. 内容や表現のしっかりしたレジュメやレポートを作成し提出できたか。 					
教科書					
参考書					
メッセージ					
授業時間外の予習と復習が大事です。自ら知る、探るという精神をぜひ発揮してください。					
連絡先					
yukawa@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
必要があればいつでも研究室を訪ねてください					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012123021
開設科目名	民俗調査実習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	坪郷 英彦			区分	
授業の概要					
民俗調査で得たデータを処理し報告文としてまとめる能力を養成します。聞き、スケッチ、写真撮影により収集されたデータをどのように処理すればよいか、チームによる調査で得られた多量のデータをどうまとめていくかについて、その方法を理解し実践します。最終的に報告文の形でまとめること、報告書作りのための編集を具体的に行います。					
授業の一般目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1, 文字情報、画像情報のデジタル化の方法を習得します。 2, 集められた多くのデータをグルーピング等によってまとめる方法を習得します。 3, 自分の考えをまとめ、文章・図表・画像等で表すことを行います。 4, 報告書としてまとめるための編集技術を習得します。 					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: デジタル化、データの集約、表現方法、編集技術に関する基本的方法を説明できる。報告書作りのための作業全体の手順、関連性を把握する。					
思考・判断の観点: 多量のデータの内容を判断し体系的分類ができる。					
関心・意欲の観点: 自らテーマを設定し、明らかになったことを報告文としてまとめる。全体をまとめることで一地域総体の民俗理解に寄与できる。					
態度の観点: 表現し、まとめるために積極的な授業参加となる。					
技能・表現の観点: コンピュータによるデジタル処理ができる。個別的なデータをまとめテーマに沿った文章表現ができる。文章、図、表の表現手段を的確に選択し、表現ができる。					
成績評価方法(総合)					
様々なレベルの手法を学ぶ授業なので出席を重視します。また、各自の報告文を作成するために2回の中間報告を義務づけて、表現力を評価します。また、グループ作業なので積極的な参加態度を重視します。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
授業ではコンピュータを多用します。各自のパソコンを持ってきてください。所持していない人はコースから借りることができます。ワード、エクセルなどに慣れておくことが望ましい。					
連絡先					
Email hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp 電話 5239 研究室 213					
オフィスアワー					
木曜日 12:00～14:00					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012210001
開設科目名	日本語学			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	磯部 佳宏			区分	
授業の概要					
<p>本授業は日本語を論理的に分析し、理解を深めることを目的とする。まず、日本語の特徴を諸外国語と対照させて把握し、日本語とは何かを考える。次に日本語資料を通史的に見て、日本語の歴史の変遷や、先人たちが作り上げた表記上の工夫の足跡を辿る。さらに近年話題になっている「ことばの乱れ」について科学的に分析することで、ことばが抱える問題の本質に迫る。新語の発生においても歴史を遡って例を挙げ、発生のメカニズムを探る。以上のことを通して、時代とともに歩んできたことばの変遷に対する理解を深める。</p>					
授業の一般目標					
<p>外国語と対照し、日本語の特徴の概略を把握する。古代語から近代語までの、日本語の変遷のポイントをつかむ。ことばの変化の仕組みやその要因について理解する。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:日本語の辿ってきた変化の歴史について理解を深める。 思考・判断の観点:現代語の現状や流行語などの変遷について観察し、変化の理由を考察する。 関心・意欲の観点:ことばの変化について関心を持ち、日本語史資料から現代語との違いや変化の道筋を知ろうとする態度を育てる。 態度の観点:問題意識を持って授業に取り組むことができる。 技能・表現の観点:簡単な変体仮名の読み方を身につけ、考察したことを文章に表現できる。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>学期末に行う試験で判定するとともに、授業中の短いレポートも加味する。</p>					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012210002
開設科目名	日本語史			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	磯部 佳宏			区分	
授業の概要					
～ 語彙史～ 日本語の「語彙」について、その歴史について考える。					
授業の一般目標					
日本語の語彙を通史的に概観することにより、その本質的な特徴や問題点を考察する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 日本語の語彙に関する基本的な知識が身に付いているかを判断する。					
思考・判断の観点: 日本語の語彙に関する基本的な知識を使って、思考力を判断する。					
関心・意欲の観点: 授業に対する取り組みを判断する。					
成績評価方法(総合)					
期末試験を主たる評価の対象とする。 毎回、授業時に用紙を配布し、出席の確認を兼ねて、指示する内容について記入してもらう。					
教科書					
日本語史 / 沖森卓也: おうふう, 1989					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012210003
開設科目名	日本語学特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	林 伸一			区分	
授業の概要					
<p>前期授業に準ずる。ただし、構成的グループ・エンカウンターを次の点で応用することを検討する。留学生支援の可能性、異文化間理解の可能性、キャリア教育の可能性などについても追求する。日本語教師・国語教師としての自己理解、他者理解、相互理解のためのエクササイズ開発の可能性についても検討する。ソーシャル・スキル・トレーニングと構成的グループエンカウンターの違いについても考える。</p>					
授業の一般目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1、異文化間理解に役立つエンカウンター・エクササイズを実施し、検討する。 2、キャリア教育に役立つエンカウンター・エクササイズを実施し、検討する。 3、ソーシャル・スキル・トレーニングとエンカウンター・エクササイズの違いを理解する。 4、ペアワークの可能性とインタビューにおける質問力について検討する。 5、その他 					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 知識・理解の観点:					
<ol style="list-style-type: none"> 1、内なる異文化・地域差、男女差、年齢差などについて理解する。 2、生涯発達論の観点から、キャリア・デザインを考える。 					
思考・判断の観点: 思考・判断の観点:					
<ol style="list-style-type: none"> 1、類義語や類似表現について違いを考える。 2、言葉について、その意味・用法を考える。 					
関心・意欲の観点: 関心・意欲の観点:					
<ol style="list-style-type: none"> 1、身の回りの日本語表現についての関心を高める。 2、微妙なニュアンスの違いなどについて、調べてみる意欲をもつ。 					
態度の観点: 態度の観点:					
<ol style="list-style-type: none"> 1、わからないことをそのまましておかないで、積極的に調べたり、聞いたりする態度を形成する。 2、授業内容に集中する態度を形成する。 					
技能・表現の観点: 技能・表現の観点:					
<ol style="list-style-type: none"> 1、他者理解のための質問力を身につける。 2、他者の立場を尊重しながらも、自己主張できるようにする。 					
その他の観点: その他の観点:					
外国人留学生と日本人学生の交流を促進する					
成績評価方法(総合)					
成績評価方法(総合)					
出席、レポートを重視し、テストは行なわない。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
<p>メッセージ 日本語教師志望者、留学生の参加を歓迎する。</p> <p>他学科、他コースの学生の参加を歓迎する。</p>					
連絡先					

E-mail: hayashix@yamaguchi-u.ac.jp

携帯: 090-6415-8203

オフィスアワー

連絡先: オフィスアワー 研究室: 人文学部2階 210-2 号室 オフィスアワー: 木曜 11 時 ~ 12 時

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012210004
開設科目名	日本語学講読			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	林 伸一			区分	

授業の概要

日本語教育を異文化コミュニケーションの現場としてとらえ直すことによって、他者とのかかわり方や自分自身のコミュニケーションスタイルなどについての「自己」への気づきを促す。

知識・理解 思考・判断 関心・意欲 態度 技能・表現 その他 評価割合(%) JABEE 収集資料

定期試験(中間・期末試験)	評価に加えず	
小テスト・授業内レポート	20%	
宿題・授業外レポート	10%	
授業態度・授業への参加度	10%	
受講者の発表(プレゼン)・授業内での制作作品		20%
演習	20%	
出席	20%	
その他	評価に加えず	
合計	100%	0%

授業の一般目標

- 1、異文化とは何か考える。
- 2、自分とは何かを考える。
- 3、イメージとステレオタイプについて考える。
- 4、人と出会うということについて考える。
- 5、人とコミュニケーションするということについて考える。
- 6、非言語コミュニケーションについて考える。
- 7、価値観の相違を考える。

授業の到達目標

知識・理解の観点: 1、文化とは何か、異文化とは何かについて理解する

2、ジョハリの窓について知識と理解を深める

思考・判断の観点: 思考・判断の観点:

1、ステレオタイプを崩していく

2、出会いと人生のドラマ

関心・意欲の観点: 関心・意欲の観点:

1、言語的コミュニケーションへの関心と意欲

2、非言語コミュニケーションへの関心と意欲

態度の観点: 態度の観点:

1、価値観が違う者への態度

2、多文化共生社会への態度

技能・表現の観点: 技能・表現の観点:

1、自己開示、自己表現、自己主張能力

2、質問力

成績評価方法(総合)

成績評価方法(総合)

出席、発表、レポートを重視し、テストは行なわない。

教科書

参考書

メッセージ

メッセージ 日本語教師志望者・国語教師志望者・海外派遣留学生・外国人留学生歓迎

連絡先

E-mail: hayashix@yamaguchi-u.ac.jp

携帯: 090 - 6415 - 8203

オフィスアワー

研究室: 人文学部2階210-2号室、オフィスアワー: 木曜11時~12時

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012210005
開設科目名	日本語学講読			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	磯部 佳宏			区分	
授業の概要					
～古文の文法～ 主として高校生や大学教養向けに執筆された古典文法のテキストの、「助動脩司」について説明された箇所を演習形式で講読する。					
授業の一般目標					
古典語の「助動脩司」について、テキストの記述を基に、自発的に問題点を見つけ、調査を行い、結果を資料にまとめて発表する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 問題点の設定と取り組み。					
思考・判断の観点: 発表資料のまとめ方。					
関心・意欲の観点: 質疑応答への参加度。					
技能・表現の観点: 口頭発表における技術・表現。					
成績評価方法(総合)					
授業時の口頭発表 質疑応答への参加度。テキストの例文の現代語訳 期末レポート。					
教科書					
古文の文法 / 馬淵和夫: 武蔵野書院, 1963					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012210006
開設科目名	日本語学演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	林 伸一			区分	
授業の概要					
授業の概要					
前期の概要に準ずるが、その発展として、卒業論文の内容の吟味に入り、文章記述に一貫性、整合性、説得力があるか否かを検討する。参加者も傍観的に見るのではなく、もし自分が書き手だったら、どう考え、どう書くか主体的に関わるようにする。					
知識・理解 思考・判断 関心・意欲 態度 技能・表現 その他 評価割合(%) JABEE 収集資料					
定期試験(中間・期末試験) 評価に加えず					
小テスト・授業内レポート 20%					
宿題・授業外レポート 20%					
授業態度・授業への参加度 20%					
受講者の発表(プレゼン)・授業内での制作作品 20%					
演習 10%					
出席 10%					
その他 評価に加えず					
合計 100% 0%					
授業の一般目標					
授業の一般目標					
1、文章記述に一貫性、整合性、説得力があるかという視点から検討する。					
2、文章記述に無駄や重複がないか、簡潔に書かれているかを検討する。					
3、文章記述にわかりやすい適切な具体例が示されているか否かを検討する。					
4、気づいたこと、感じたこと、考えたことを書き留める習慣を形成する。					
5、参加者の前で資料に基づいて発表する力:プレゼンテーション能力をつける。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 前期に同じ					
思考・判断の観点: 前期に同じ					
関心・意欲の観点: 前期に同じ					
態度の観点: 前期に同じ					
技能・表現の観点: 前期に同じ					
成績評価方法(総合)					
前期に同じ					
教科書					
参考書					
メッセージ					
メッセージ 興味、関心を形にする。					
連絡先					
連絡先: オフィスアワー hayashix@yamaguchi-u.ac.jp 携帯 090 - 6415-8203					
オフィスアワー					

連絡先・オフィスアワー hayashix@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー:木曜 11-12時
携帯 090 - 6415-8203

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012210007
開設科目名	日本語学演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	磯部 佳宏			区分	
授業の概要					
～中世日記文学の語法・語彙～ 中世の女流日記文学『とはずがたり』を演習形式で講読し、その語法・語彙について考察する。					
授業の一般目標					
中世日記文学の語法・語彙について、自発的に問題点を探し、調査を行い、資料を作成して発表を行う。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 問題点の設定と取り組み。					
思考・判断の観点: 発表資料のまとめ方。					
関心・意欲の観点: 質疑応答への参加度。					
技能・表現の観点: 口頭発表における技術・表現。					
成績評価方法(総合)					
授業時の口頭発表 質疑応答への参加度。テキストの現代語訳 期末レポート。					
教科書					
とはずがたり<四> / 伊地知鉄男:笠間書院, 1972					
参考書					
とはずがたり(新日本古典文学大系) / 三角洋一:岩波書店, 1994					
とはずがたり(新潮日本古典集成) / 福田秀一:新潮社, 1988					
とはずがたり(新編日本古典文学全集) / 久保田淳:小学館, 1999					
とはずがたり総索引 / 辻村俊樹:笠間書院, 1992					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012210008
開設科目名	日本語学演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	磯部 佳宏			区分	
授業の概要					
卒業論文作成のための演習。					
授業の一般目標					
学生各自のテーマにより、卒業論文を作成する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 日本語学に関する基本的な知識の確認。					
思考・判断の観点: 問題への取り組み方法。					
関心・意欲の観点: 自発的な研究意欲。					
技能・表現の観点: 資料の取り扱い方、参考文献の検索方法。					
成績評価方法(総合)					
卒業論文に対する取り組みを評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012210009
開設科目名	日本文学概論			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	平野 芳信			区分	
授業の概要					
日本文学をその起源としての和歌に求め、言語を表現媒体とする時間芸術としての文学(小説が中心になるとは思われますが、)について述語を中心に講述します。					
授業の一般目標					
各項目(述語)に即して具体的な作品を分析しますが、あくまでも日本文学における伝達媒体としての言語の本質を明らかにすることを最終的な目標としています。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
定期試験(中間・期末試験) 100%					
出席 欠格条件					
教科書					
参考書					
メッセージ					
講義でふれた具体的な作品を実際に読むことを希望します。					
連絡先					
個人研究室電話番号:933 - 5262 Eメールアドレス:y-hirano@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
追って、指示します。					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012210010
開設科目名	日本文学史			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	尾崎 千佳			区分	
授業の概要					
[近世文学の諸相とその展開] 徳川政権下約三百年間の文芸を、時代環境や作品・作家の性格に即したトピックごとに講じます。近世という時代は、広範な作者と読者の層に支えられて、多種多様な文芸作品を生み出しました。それらの抱え込む、伝統と革新／雅と俗／人情と義理といった、相反する命題の諸相について、代表的作品を読み解きつつ、考えてゆきたいと思います。					
授業の一般目標					
近世文学史上の代表的作家と作品について、基礎知識の習得を目指します。あわせて、文学史が時代の場合や思潮と絡み合いながら展開することを学び、古典作品研究のあり方とその意義について、各自の考察を促します。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 近世前期小説史上の主要作家・作品について基礎知識を習得する。					
思考・判断の観点: 近世前期文学の展開を促した諸条件について理解する。					
関心・意欲の観点: 自らの課題を持ち積極的能動的に授業に参加することができる。					
成績評価方法(総合)					
期末試験 80%、アンケート票記入による授業態度 20%、出欠は欠格条件(4回の無断欠席で期末試験受験資格失効)					
教科書					
年表資料近世文学史 / 松崎仁・白石梯三・谷脇理史:笠間書院, 1977					
参考書					
日本文学新史(近世) / 松田修編:至文堂, 1990					
近世の日本文学 / 長島弘明・清登典子:放送大学教育振興会, 2003					
メッセージ					
連絡先					
研究室: 人文 508 電話: 083-933-5257 E-mail: ozaki@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012210011
開設科目名	日本文学特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	平野 芳信			区分	
授業の概要					
村上春樹について、その作家像と作品を絡めて、講述します。					
授業の一般目標					
ノーベル賞の呼び声も高い日本を代表する小説家村上春樹の1980年代の活動を中心に論述することになるかと思えます。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
定期試験(中間・期末試験) 80%					
出席 20%					
教科書					
参考書					
メッセージ					
極力、春樹の作品を読んで下さい。					
連絡先					
個人研究室 933 - 5262					
y-hirano@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
追って、指示します。					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012210012
開設科目名	日本文学特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	尾崎 千佳			区分	
授業の概要					
<p>[連歌師の紀行文 西山宗因『奥州塩竈記』を読む]近世前期を代表する連歌師・俳諧師 西山宗因の紀行文を精読する。『奥州塩竈記』は、五十八歳の宗因が、寛文二年(1662)七月、奥州岩城平藩主・内藤忠興の城下を訪ね、そのまま江戸に出て越年するまでの、約半年間の動静を綴った作品である。本作には宗因自筆本(もしくはその忠実な写本)が五本も存在し、しかもひとつとして同じ本文ではない。諸本の検討を経て、古典引用のあり方に留意しながら作品世界を読み解き、『奥の細道』に約三十年先だって成立した本作の到達点を把握してみたい。</p>					
授業の一般目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1.連歌師 / 俳諧師の文章の型と主題を理解する。 2.諸本研究の意義を理解する。 3.近世文学における古典引用の意義を理解する。 4.研究上の問題設定と論証のあり方の例に触れ、みずからの卒業論文への備えとする。 					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:1.本文を校合し校異について考察することができる。</p> <p>2.近世文学作品における古典引用について指摘することができる。</p> <p>思考・判断の観点:1.連歌師 / 俳諧師の文章について、示される解釈に沿って精読することができる。</p> <p>2.研究上の問題設定と論証のあり方を習得する。</p>					
成績評価方法(総合)					
各人がみずからの課題を設定して論述する形式の期末テストによって評価する。4回の無断欠席でその受験資格を失う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
研究室: 人文 508 電話: 933-5257 E-mail: ozaki@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012210013
開設科目名	日本文学特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	中原 豊			区分	
授業の概要					
日本の近代詩を代表する詩人である中原中也の詩を、近代詩の歴史の中で捉える。					
授業の一般目標					
詩の本質と表現の特徴を理解し、日本の近代詩の歴史の概略をふまえた上で、中原中也の詩のもつ特質を理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 詩の表現、日本の近代詩、および中原中也の詩の特質を理解する。					
思考・判断の観点: 言葉によって形成されるイメージについて自覚的になり、さらにそれを拡充していく。					
関心・意欲の観点: 進んで講義で扱う詩人および他の詩人の詩を読もうとする。					
技能・表現の観点: 自身の抱くイメージを自分なりの言葉で表現できる。					
成績評価方法(総合)					
小レポートの内容および期末試験の得点から総合的に判断する。					
教科書					
中原中也全詩集:角川ソフィア文庫, 2007					
参考書					
詩とは何か / 嶋岡農:新潮社, 1998					
メッセージ					
講義で取り上げる詩を読んでおいてください。					
連絡先					
オフィスアワー					
中原中也記念館(山口市湯田温泉 1-11-21 083-932-6430)					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012210014
開設科目名	日本文学講読			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	平野 芳信			区分	
授業の概要					
森絵都の『永遠の出口』を精読します。					
授業の一般目標					
『永遠の出口』は児童文学者であった森絵都が、その殻を破って大人の読者に向けて発表した最初の作品です。主人公の10歳から18歳までの9年間で描かれていて、児童文学であって、児童文学ではない不思議なテイストを味わいながら読みたいと思います					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
宿題・授業外レポート 40%					
授業態度・授業への参加度 10%					
受講者の発表(プレゼン)・授業内での制作作品 40%					
出席 10%					
教科書					
文庫 永遠の出口 / 森絵都:集英社					
参考書					
メッセージ					
講読日誌を作成していただきますので、ノートを1冊準備しておくように。					
連絡先					
個人研究室 933 - 5262					
y-hirano@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
追って、指示します。					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012210015
開設科目名	日本文学講読			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	森野 正弘			区分	
授業の概要					
『枕草子』の講読					
授業の一般目標					
古典文学を読解する力を身につける。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 古典文学作品に書かれた内容を正確に読み取るための知識を得ることができる。					
思考・判断の観点: 古典文学作品に書かれた内容を通じて多面的な物の見方・考え方ができるようになる。					
関心・意欲の観点: 古典文学作品に関連する歴史的文化的事項について自発的に調べることができるようになる。					
成績評価方法(総合)					
発表内容とレポートによる。					
教科書					
新編日本古典文学全集『枕草子』 / 松尾聰・永井和子: 小学館, 1997					
参考書					
角川ソフィア文庫『新版枕草子・付現代語訳(上・下巻)』 / 石田穰二・訳注: 角川書店, 2005					
枕草子大事典 / 枕草子研究会: 勉誠出版, 2001					
新日本古典文学大系『枕草子』 / 渡辺実・校注: 岩波書店, 1991					
枕草子解環(全5冊) / 萩谷朴: 同朋舎, 1981					
新潮日本古典集成『枕草子』(上・下) / 萩谷朴: 新潮社, 1977					
メッセージ					
出席状況80%未満の者は欠格とする。					
連絡先					
morino@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
水曜日 5・6時限					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012210016
開設科目名	日本文学講読			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	尾崎 千佳			区分	
授業の概要					
<p>〔西鶴『世間胸算用』を読む〕元禄五年(1692)刊『世間胸算用』は、西鶴生存中最後に出版された小説で、多彩な語り口と緻密な構成によって、その傑作のひとつに数えられる作品である。話の舞台は大晦日、話の形式はオムニバス。最も劇的な一日をやり過ごす町人たちの、したたかで明るく、ほんの少し悲しい姿が、巧みに描き出されている。後期は、巻五 三「平太郎段」を精読したい。</p>					
授業の一般目標					
<p>1.西鶴浮世草子作品を通して、近世文学読解の基本的あり方を習得する。 2.西鶴浮世草子作品を通して、中古中世文学の咀嚼の上になる近世文学の醍醐味を感得する。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:近世文学読解のための文献調査法の基礎を習得する。 思考・判断の観点:作品の主題を的確に把握できる。 態度の観点:他の参加者の解釈について積極的に意見を述べることができる。 技能・表現の観点:調査結果に基づいたみずからの解釈について適切に発表することができる。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>担当の発表資料と発表内容を最重視し、期末レポートとして発表資料の修正版を課す。試験は行わない。授業時の質疑も評価に加える。</p>					
教科書					
<p>西鶴錦印叢刊『世間胸算用』 / 西島孜哉編; 和泉書院, 1998 対訳西鶴全集 13『世間胸算用』 / 麻生磯次・富士昭雄校注; 明治書院, 1984</p>					
参考書					
<p>大晦日を笑う『世間胸算用』 / 広嶋進; 清文堂出版, 2005</p>					
メッセージ					
<p>西鶴の小説には現代劇にもよく通じる面白さがあり、そのリアルな語り口と息もつかせぬ急展開が魅力です。</p>					
連絡先					
<p>研究室: 人文 508 電話: 933-5257 E-mail: ozaki@yamaguchi-u.ac.jp</p>					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012210017
開設科目名	日本文学演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	平野 芳信			区分	
授業の概要					
卒業論文作成の直接的な指導、助言を行うための演習を実施します。					
授業の一般目標					
この演習を通して、ゼミ構成員各自が、卒業論文作成のための具体的な方法を体得していただきたい。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
授業態度・授業への参加度 30%					
受講者の発表(プレゼン)・授業内での制作作品 30%					
演習 30%					
出席 10%					
教科書					
参考書					
メッセージ					
発表の順番はあくまでも予定です。就職活動等々によって、変更があることを承知しておいてください。					
なお、4年生用の時間ですので、2、3年生は受講しないように。					
連絡先					
個人研究室 933 - 5262					
y-hirano@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
追って、指示します。					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012210018
開設科目名	日本文学演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	平野 芳信			区分	
授業の概要					
<p>明治以降の近代小説の代表的作品について、一種の共同研究・共同作業を行います。分担を決め、各自に作品それぞれの個性に応じて、テクスチュアル・クリティシズム、作家論、背景論、作品論、テキスト論等々を発表していただきます。</p>					
授業の一般目標					
<p>端的にいえば、このゼミナールにおけるいろいろな作業を通じて、将来の卒業論文作成の具体的方法を体得していただくことを目標としています。</p>					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
宿題・授業外レポート 50%					
授業態度・授業への参加度 10%					
受講者の発表(プレゼン)・授業内での制作作品 30%					
出席 10%					
教科書					
参考書					
メッセージ					
個人研究室 933 - 5262					
y-hirano@yamaguchi-u.ac.jp					
連絡先					
オフィスアワー					
オフィス・アワー: 追って指示します。					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012210019
開設科目名	日本文学演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	森野 正弘			区分	
授業の概要					
『源氏物語』の研究					
授業の一般目標					
古典文学の研究を進めていくうえで必要な基礎知識の習得、及び分析力・論理的思考力を身につける。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 古典文学作品に書かれた内容を正確に読み取るための知識を得ることができる。					
思考・判断の観点: 古典文学作品に書かれた内容や研究論文を通じて多面的な物の見方・考え方ができるようになる。					
関心・意欲の観点: 自発的に古典文学作品を読み進め、関連する事項について調査することができるようになる。					
態度の観点: 古典文学作品に提起されている問題を主体的に考え、自ら探究することができるようになる。					
技能・表現の観点: 考察した結果を文章や口頭で適切に表現できるようになる。					
成績評価方法(総合)					
発表内容とレポートによる。					
教科書					
新編日本古典文学全集『源氏物語』(全6冊) / 阿部秋生ほか: 小学館, 1994					
新日本古典文学大系『源氏物語』(全5冊) / 柳井滋ほか: 岩波書店, 1993					
参考書					
新日本古典文学大系別巻『源氏物語索引』 / 柳井滋ほか: 岩波書店, 1999					
源氏物語事典 / 林田孝和ほか: 大和書房, 2002					
人物で読む源氏物語(全20巻) / 上原作和・編集: 勉誠出版, 2005					
源氏物語の鑑賞と基礎知識(全43冊) / 鈴木一雄・監修: 至文堂, 1998					
別冊国文学『新・源氏物語必携』 / 秋山虔・編: 学燈社, 1997					
メッセージ					
『源氏物語』の「何について」考察したいのか、各自あらかじめ考えてきたうえで第1回目の授業に臨んでください。八割以上出席すること。					
連絡先					
morino@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
水曜日 5・6 時限					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012210020
開設科目名	日本文学演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	森野 正弘			区分	
授業の概要					
中古文学を研究対象としている4年生のための演習					
授業の一般目標					
中古文学の研究を進めていくうえで必要な知識・方法を習得する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 中古文学を研究するための知識を得ることができる。					
思考・判断の観点: 中古文学の研究を通じて多面的な物の見方・考え方ができるようになる。					
関心・意欲の観点: 自発的に中古文学の研究を進め、関連する事項について調査することができるようになる。					
態度の観点: 中古文学に内在している問題を主体的に考え、自ら探究することができるようになる。					
技能・表現の観点: 考察した結果を文章や口頭で適切に表現できるようになる。					
成績評価方法(総合)					
発表内容と作成資料による。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
morino@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
水曜日 5・6時限					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012210021
開設科目名	日本文学演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	尾崎 千佳			区分	
授業の概要					
<p>【『大坂独吟集』重安独吟百韻註釈】延宝三年(1675)刊『大坂独吟集』は、談林俳諧の盟主・西山宗因が評語を付し点をかけた百韻十巻を集める、談林俳諧の代表的作品である。謡曲の文句取りを駆使した軽妙な表現と、古典作品の大胆なパロディが生む笑いを精読して、談林俳諧の意義と達成につき考察を深めたい。後期は、下巻所収の重安独吟「薬喰や」百韻の二折裏から三折裏をとりあげる。連句と評語が織りなす、師弟のコラボレーションにも注目したい。また、実作にもチャレンジして、連歌・俳諧の精神や作法を実践的に習得しよう。</p>					
授業の一般目標					
<p>1.近世文学の読解に必要な、文献調査法の習得から、古典註釈の基礎を学ぶ。 2.詠作と鑑賞が同時に繰り返される「座」の文芸＝俳諧連句の作法と精神を知り、談林俳諧の意義と達成につき、考察を深める。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:1.近世文学読解のために必要な文献調査の方法を習得する。 2.古典文学註釈の基礎を習得する。 思考・判断の観点:1.俳諧連句の作法と精神を理解する。 2.中古中世文学との比較を通して、近世文学の到達点を理解する。 態度の観点:1.他の参加者の解釈について、積極的に意見を述べることができる。 技能・表現の観点:1.調査結果に基づいたみずからの解釈について、適切に発表することができる。 2.意欲的に実作に参加し、連歌・俳諧の精神や作法を実践的に会得することができる。</p>					
成績評価方法(総合)					
発表時の資料と内容を最重視し、期末レポートとして発表資料の修正版提出を課す。試験は行わない。授業時の質疑応答も評価に加える。					
教科書					
近世文学資料類従古俳諧編 29『大坂独吟集』 / 乾裕幸他解説: 勉誠社, 1976					
参考書					
新日本古典文学大系 69『初期俳諧集』 / 乾裕幸他校注: 岩波書店, 1991 新版連句への招待 / 乾裕幸・白石悌三: 和泉書院, 1989					
メッセージ					
俳諧は、さまざまな読みの試みが可能な文芸です。多くの方にとっては未知の分野でしょうが、初心者でも十分対応できますので、臆せず受講してください。頭が柔らかくなります。					
連絡先					
研究室: 人文 508 電話: 933-5257 E-mail: ozaki@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012210022
開設科目名	日本文学演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	尾崎 千佳			区分	
授業の概要					
卒業論文完成にむけ、論文テーマの確立・論文の構成について、個別に指導する。					
授業の一般目標					
卒業論文の完成を目指す。					
授業の到達目標					
思考・判断の観点: 1.論文テーマについて多角的に考察することができる。 2.論文の構成をみずから設定することができる。					
態度の観点: 1.論文テーマについて異見を受容することができる。 2.論文の構成について異見を受容することができる。					
技能・表現の観点: 1.論文テーマについて適切に説明することができる。 2.論文の構成について適切に説明することができる。					
成績評価方法(総合)					
中間発表と論文草稿の内容と取り組みの姿勢により評価する。試験は行わない。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
研究室: 人文 508 電話: 933-5257 E-mail: ozaki@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012211001
開設科目名	中国語学概説			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	富平 美波			区分	
授業の概要					
<p>中国で生まれた漢字は、発音を直接には表示せず、互いに意味の異なる語を表示仕分ける働きを持つ。そういう特殊な文字体系は、漢字で書かれる書面語に、中国語が内包する多様な方言差を覆い隠す「目で見える共通語」としての役割を与え、更に、外国語の表記手段としても取り入れられて、所謂「漢字文化圏」を形成した。</p> <p>本講義では、漢字の持つ性質と、中国におけるその発達・使用の歴史について、入門的な知識を概説する。</p> <p>1)漢字の字形は、中国語のどの部分を単位として、それをどのように区別しようとして、形作られてきたのか (2)現代に至るまでの書体の変遷 (3)漢字研究の歴史 (4)現代中国における漢字の簡略化の概要 等について、略述する予定である。</p>					
授業の一般目標					
<p>(1)漢字の性質について基本的な考え方を理解させる。 (2)漢字研究の歴史について、基礎的知識を持たせる。 (3)近代中国における漢字の簡略化について、基礎的知識を持たせる。 (4)中国語学の諸問題について主体的に学習・考察する態度を養成する。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:(1)漢字の性質について簡単な説明ができる。 (2)漢字研究の歴史について簡単な説明ができる。 (3)近代中国における漢字の簡略化について簡単な説明ができる。</p> <p>関心・意欲の観点:中国語の諸特徴について問題意識を持ち、関心を持ったテーマについて主体的に学習・考察することができる。</p> <p>技能・表現の観点:関心を持ったテーマについて主体的に学習・考察して成果を、文章にまとめることができる。正しいレポートの体裁とはどのようなものか、基本的知識を身に付ける。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>おしまいに、授業内容に関連を持つテーマを選んでレポートしてもらい、また、授業中に設問に答えてもらうほか、随時、感想や質問を自由に書いてもらう機会を作る。これらにより授業への理解度と主体的学習への意欲を評価する。なお、出席が3分の2に満たない者には単位を与えない。</p>					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
<p>人文学部5階515室 tel:933-5251</p>					
オフィスアワー					
<p>月曜日:12:50～14:20</p>					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012211002
開設科目名	中国語学特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	更科 慎一			区分	
授業の概要					
中国語(漢語)は話者人口が多い上に分布地域も広く、その内部は差異がたいへんに大きい。本講義では、中国語の方言の区分、発音上の特徴などを概観してその多様性の一端に触れつつ、それほど多様な言語群がなぜ一つの言語の方言と見做されているのかを考える。					
授業の一般目標					
1.ふいだん勉強している標準中国語の背景にある諸方言の多様性を理解する。 2.中国語方言学研究的意義を理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 中国語の方言区分について理解する。 各方言グループの音韻的特徴について理解する。					
思考・判断の観点: 中国語の諸方言間に見られる音韻対応がどのような現象の結果であるか、説明できる。 中国語の諸方言を話す人々が一つに結ばれている要因を考えることができる。					
態度の観点: 中国語方言学研究的意義について、主体的に考えることができる。					
成績評価方法(総合)					
学期末に提出させるレポートによるほか、授業への参加度も一定程度考慮する。					
教科書					
参考書					
現代漢語方言音庫:上海教育出版社 漢語方音字彙:文字改革出版社 現代漢語方言概論 / 侯精一[主編]:上海教育出版社, 2002 中国の諸言語 / S.R.ラムゼイ:大修館書店, 1990					
メッセージ					
本講義に対する理解をより良いものとするために、本年度に開講される佐藤昭先生の集中講義を履修しておくことを、強く勧めます。					
連絡先					
更科慎一 研究室:人文516、電話:933-5250					
オフィスアワー					
月曜日 12:50-16:00					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012211003
開設科目名	中国語学講読			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	更科 慎一			区分	
授業の概要					
周振鶴、游汝傑著「方言与中国文化」を読む。					
授業の一般目標					
(1)中国語の方言の形成史と、その文化的背景について理解を深める。 (2)現代中国語の論文文体に慣れ、読解と翻訳の実力を増強する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1.中国語の方言の特徴について言語学的に述べるができる。 2.中国語の方言の成立に文化的諸要素がどのように関わったかを説明することができる。 3.中国語学の基本的用語を理解することができる。					
技能・表現の観点: 1.現代中国語文を正しい発音で音読することができる。 2.現代中国語文を的確に日本語に訳すことができる。 3.中国語学や中国文化に特有の事物について、必要な文献を検索し、参照することができる。					
成績評価方法(総合)					
レポート(上記「授業計画」を参照)の提出を課する。 いわゆる出席点はない。全体の2/3以上出席しない学生には、単位を与えない。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
なるべく多くの漢字の発音を覚え、また語彙を増やすよう心がけてください。地理や歴史に対する関心を持つことも大事です。					
連絡先					
研究室 人文研究棟516室 電話 083-933-5250					
オフィスアワー					
月曜日 12:50-16:00					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012211004
開設科目名	中国語学演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	富平 美波			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012211005
開設科目名	中国語学演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	富平 美波			区分	
授業の概要					
4年生を対象とする授業である。受講者は、各自、前学期に選んだ研究テーマについて、引き続き調査・研究を行い、互いに研究の進行状況と成果を発表し合い、討論を交わす。					
授業の一般目標					
中国語学に関して、独自に課題を発見し、学習・調査を行い、考察を加え、報告を行う力を養う。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 自分の選んだ研究領域に関する基礎知識をマスターし、それについて説明することができる。					
思考・判断の観点: 自分の選んだ研究テーマに関連する先行研究の論点を把握し、内容の中で理解できなかった点を指摘し、疑問の解決法を考えることができる。					
関心・意欲の観点: 中国語に関して、問題意識を持ち、主体的な調査・研究を行う姿勢が身に付いている。					
態度の観点: 1. 常時少しずつでも、自分の選んだ研究テーマに関して調査・研究を進める。 2. 他人の報告を熱心に聞き、問題を提起できる。					
技能・表現の観点: 自分の選んだ研究テーマについて、わかりやすい研究報告ができる。					
成績評価方法(総合)					
授業中に行う研究発表と、他の受講者の発表に対する発言、及び毎回の研究進捗報告により評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
人文学部5階515 tel:933-5251					
オフィスアワー					
月曜日:12:50～14:20					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012211006
開設科目名	中国語学演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	更科 慎一			区分	
授業の概要					
卒業論文演習である。卒業論文を執筆する受講者を指導する。					
授業の一般目標					
前期に決定したテーマに沿って、引き続き先行研究文献の検索・収集・消化を行うとともに、研究資料を分析し、検討する。その過程で得られた成果につき、他の受講者や担当教員を対象に報告を行うと同時に、他の受講者の報告に対し適切な意見と助言を提示する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1.決定したテーマに関連した先行研究を踏まえて、テーマの研究状況について説明することができる。					
2.学術論文執筆の基本的ルールを身につける。					
思考・判断の観点: 1.テーマにおける問題のありかを指摘することができる。					
2.論理的な思考様式によって問題を処理することができる。					
関心・意欲の観点: 1.科学の趣旨を理解し、学問に敬意を払う。					
態度の観点: 1.テーマに関する研究史の中に自分の研究を位置づけることができる。					
技能・表現の観点: 1.必要な文献を検索し、適切に引用することができる。					
成績評価方法(総合)					
(1)研究の進捗状況を報告するためのレジュメと口頭発表					
(2)討論への参加態度による。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
研究室 人文研究棟 516 室 電話 083-933-5250					
オフィスアワー					
月曜日 12:50-16:00					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012211007
開設科目名	中国文学史			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	根ヶ山 徹			区分	
授業の概要					
「中国文学史」に引き続き、中国古代理から清朝まで(民国以前)の文学について概観する。					
授業の一般目標					
中国の各時代の作家と文学作品に関して、基本的知識を身につけ、個々の作品の読解を通じて、中国文化に対する理解を深めることを目標とする。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 中国古典文学の主要なジャンルと作品、また特質について説明できる。					
思考・判断の観点: 中国古典文学の歴史的展開を説明できる。					
関心・意欲の観点: 中国古典文学を通して、ひろく中国の文化について関心を抱く。					
態度の観点: 授業で紹介した参考文献に目を通す。					
技能・表現の観点: 中国古典文学の読解が可能になる。					
成績評価方法(総合)					
期末試験の成績により評価する。					
教科書					
中国文学概論 / 岩城秀夫:朋友書店, 1995					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012211008
開設科目名	中国文学特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	阿部 泰記			区分	
授業の概要					
包拯伝説の歴史的展開について講じる。包拯は北宋時代の官吏で、毅然とした態度で奸臣に立ち向かいその野望を挫いたため、民衆に慕われてその業績が文学に取材されて伝説的な人物となり、現代中国でも「包公」と言えば知らない人はいないし、崇拜の対象ともなっている。本講義ではこうした文学を媒体とした包拯の伝説を具体的に紹介していくとともに、関連した伝説、信仰、民俗について受講者が自主的に研究する方法を伝授する。					
授業の一般目標					
1.中国の政治と文学の関係について理解を深める。 2.伝説が文学を媒体として拡散することを理解する。 3.伝説が事実として認識される事象について理解する。 4.中国の物語のジャンルについて知る。 5.伝説と信仰との関係について考える。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1.包拯という人物の業績について知る。 2.包拯の伝説に取材した文学を知る。 3.包拯を祀った廟の分布を知る。					
思考・判断の観点: 1.民衆がなぜ包拯を慕うのかを考える。 2.民衆にとって文学とは何かを考える。					
関心・意欲の観点: 1.包拯について図書館で文献を調べてみる。 2.インターネットで包拯に取材した文学や包公廟について検索してみる。					
態度の観点: 1.授業を真剣に聞く態度をやしなう。 2.授業の内容をノートする態度をやしなう。					
技能・表現の観点: 1.手際よくノートする訓練をする。 2.中国のインターネットを検索する能力を身につける。					
成績評価方法(総合)					
1.出席・レポート提出ができない者は評価の対象外である。 2.どれだけ授業を理解できたかを評価の基準とする。					
教科書					
参考書					
包公伝説の形成と展開 / 阿部泰記: 東京: 汲古書院, 2004 中国の公案小説 / 莊司格一: 東京: 研文出版, 1988					
メッセージ					
連絡先					
abey@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012211009
開設科目名	中国文学講読			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	根ヶ山 徹			区分	
授業の概要					
湯頭祖の『牡丹亭還魂記』を、兪為民校注本によって読む。					
授業の一般目標					
古代漢語で書かれた原文を読解し、分析する能力を養うことを目標とする。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 中国戯曲演劇史のなかでの、『牡丹亭還魂記』の位置づけを理解する。					
思考・判断の観点: 作品の主題を的確に把握できる。					
関心・意欲の観点: 明代の白話文学の特質について関心をいだく。					
態度の観点: 出典などについて、適切に調べることができる。					
技能・表現の観点: 本文・注釈についての解釈を、適切に発表することができる。					
成績評価方法(総合)					
教科書					
牡丹亭 / 湯頭祖撰・兪為民導読・黄山書社, 2001					
参考書					
戯曲集(下) / 田中謙二編・平凡社, 1970					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012211010
開設科目名	中国文学演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	阿部 泰記			区分	
授業の概要					
本演習では、受講者が選定した研究テーマに関する研究方法を学習する。					
授業の一般目標					
1.物語の媒体となる文学の形式を理解する。 2.物語の主題を考察する。 3.物語の現代的意義を考察する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1.物語文学の代表的な作品を知る。 2.物語文学の文体を知る。					
思考・判断の観点: 1.物語文学の主題を考える。 2.物語文学の歴史を考える。					
関心・意欲の観点: 1.物語文学のおもしろさを感じる。 2.物語文学をすすんで読むようになる。					
態度の観点: 1.物語文学の読解につとめる。 2.辞書を丹念に調べる。					
技能・表現の観点: 1.流暢な日本語に翻訳できる。 2.中国語と日本語の表現に注意する。					
成績評価方法(総合)					
予習による評価					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
abey@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012211011
開設科目名	中国文学演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	阿部 泰記			区分	
授業の概要					
中国の物語文学を講解する。中国の物語は語り物や演劇で上演された。本演習では、古代から現代にいたる間の代表的な物語文学を取り上げて、その研究方法を学習する。					
授業の一般目標					
1.物語の媒体となる文学の形式を理解する。 2.物語の主題を考察する。 3.物語の現代的意義を考察する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1.物語文学の代表的な作品を知る。 2.物語文学の文体を知る。					
思考・判断の観点: 1.物語文学の主題を考える。 2.物語文学の歴史を考える。					
関心・意欲の観点: 1.物語文学のおもしろさを感じる。 2.物語文学をすすんで読むようになる。					
態度の観点: 1.物語文学の講解につとめる。 2.辞書を丹念に調べる。					
技能・表現の観点: 1.流暢な日本語に翻訳できる。 2.中国語と日本語の表現に注意する。					
成績評価方法(総合)					
予習による評価 ノート提出					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
abey@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012211012
開設科目名	中国文学演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	根ヶ山 徹			区分	
授業の概要					
本授業は卒業論文指導。					
授業の一般目標					
一年間を通じて着実に研究を進め、「論文」の名に値するレベルに到達することを目標とする。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 自らの研究テーマについて幅広い知識を身につける。					
思考・判断の観点: 中国文学史の中に、自らの研究テーマを位置づける。					
関心・意欲の観点: 研究テーマについて、問題の所在を見だし、必要な文献を収集する。					
態度の観点: 先行研究を踏まえて、論点を定める。					
技能・表現の観点: 第三者を納得させることができるように論証する。					
成績評価方法(総合)					
報告内容により判断する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012211013
開設科目名	中国語演習(会話)			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	田 梅			区分	
授業の概要					
前期の授業に引き続き、応用会話能力を高めることを目指す。発音、語彙、文法など共通教育で習得した項目の確認、整理と拡充をしながら、具体的な場面を設定した対話を繰り返し読んで、暗誦して、それからグループ或はペアの形式で発表する。					
授業の一般目標					
1. 基本的な会話が流暢にする。 2. よく使う慣用型、文型を身につけて、状況に応じて正しいコミュニケーションの方法、技法を習得する。 3. 関心することについて質問と答えの方法など十分理解し、運用できる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 慣用型、文型を身につけて、正しいコミュニケーションの方法、技法ができる。					
思考・判断の観点: 中国と日本、中国語と日本語の異なる発想、規則、習慣など判断、区別、運用できる。					
関心・意欲の観点: 中国語の言葉の背景や中国の文化、事情に理解、関心を抱く。					
態度の観点: 授業中の勉強だけでなく、授業外の予習、復習も自発的に勉強できる					
技能・表現の観点: 関心することについての質問、答えの方法が運用できる。日常生活についての会話が流暢に話せる。					
成績評価方法(総合)					
授業外の宿題と授業中の小テスト、板書を評価する。 受講態度と予習発表の正しさを評価する。 期末に試験を実施する。 出席が3分の2に満たない者には単位が与えない。					
教科書					
実用中国語10課 2 / 劉愛莉・王桂紅ら:白帝社, 2008					
参考書					
メッセージ					
中国語初級1・2A/Bを習得した者に限り。 中国語演(作文)も履修する者が望ましい					
連絡先					
共通教育本棟3階 田研究室 内 線:5591 E-mail: tian@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
月曜日:16:00～18:00 火曜日:16:00～18:00					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012211014
開設科目名	中国語演習(作文)			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	田 梅			区分	
授業の概要					
前期に引き続き、中国のセンテンスをどう組み立てるのか勉強して、和文中訳、中文和訳、誤文訂正など多くの練習をして、短文、作文及び表現能力を高めることを目指す。					
授業の一般目標					
1常用単文の組み立て。					
2常用複文の組み立て。					
3常用虚詞のくみため。					
4作文で正確の表現能力を習得する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 慣用型、文型を身につけて、訳文、短文の方法、形式を運用できる。					
思考・判断の観点: 中国と日本、中国語と日本語の異なる発想、規則、習慣など判断、区別、運用できる。					
関心・意欲の観点: 中国、中国語、中国事情に理解、関心を持つ。					
態度の観点: 授業中の勉強だけでなく、授業外の予習、復習も自発的に勉強できる。					
技能・表現の観点: 自分の考え、感心することなど正しく表現できる短文、作文をできる。					
成績評価方法(総合)					
授業外の宿題と授業中の小テスト、板書を評価する。					
受講態度と予習発表の正しさを評価する。					
期末に試験を実施する。					
出席が3分の2に満たない者には単位が与えない。					
教科書					
大学生のための現代化中国語 12話 / 杉野元子、黄漢青:白帝社, 2007					
参考書					
メッセージ					
中国語初級1・2A/Bを習得した者に限り。					
中国語演(会話)も履修する者が望ましい。					
連絡先					
共通教育本棟3階 田研究室					
内 線:5591					
E-mail:tian@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
月曜日:16:00～18:00					
火曜日:16:00～18:00					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012211015
開設科目名	中国事情			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	林 宇萍			区分	
授業の概要					
中国の風俗・習慣などについて概説する。					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
中華文化概要 / 李道湘 于銘松: 上海三聯書店, 2007					
中国節日 / 韋黎明: 五洲伝播出版社, 2005					
中国文化への誘い / 桂小蘭等: 郁文堂, 2007					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012212001
開設科目名	現代英米語概説			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	太田 聡			区分	
授業の概要					
英語の発音に関する正しい知識を伝授した上で、英語の音声や語形成に関する原則や制約を、日本語のそれらとも対照させながら、説明する。また、音節などの韻律単位が言語文化にどのような影響を与えているのかを考える時間にもしたい。					
授業の一般目標					
日英語の発音や語形成に関する法則を比較し、言語の個性と普遍性を考える。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 日本語と英語のアクセントの法則の共通性に気づく。新しい語を生み出す法則を知る。					
思考・判断の観点: 知らない語句のアクセントを予測したり、可能な語と不可能な語の区別ができるようになる。					
関心・意欲の観点: 広く人間言語のアクセントの法則に興味を持つ。					
態度の観点: 「語とそのアクセント(発音)は暗記するもの」という考え方を捨て去る。					
成績評価方法(総合)					
期末筆記試験で評価する。なお、出席も重視し、欠席1回につき期末試験から5点ずつ減点する。					
教科書					
音韻構造とアクセント / 窪園晴夫・太田聡: 研究社, 1998					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
ohta@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012212002
開設科目名	英語史			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	赤羽 仁志			区分	
授業の概要					
英語の歴史的な発達過程について概説する。					
授業の一般目標					
大学で英語を専門に学ぶ者にとって必須とも言える英語の歴史や英語の仕組みについての基礎知識を身に付ける。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 英語がどのような経緯を辿って今日のような姿になり、現在、どのように世界中で使用されているのか、また、比較的最近、英語圏で言葉がどのような社会的問題となっているのか理解する。					
思考・判断の観点: 英語の仕組みについて歴史的に考察できる。					
関心・意欲の観点: 英語について、あるいは言語について、更なる好奇心・問題意識を持つ。					
態度の観点: 英語史の学習を通して国際的な視点・態度を身に付ける。					
成績評価方法(総合)					
評価は期末試験と古英語・中英語のテキスト音読、宿題によるが、出席状況も加味することがある。					
教科書					
図説 英語史入門 / 中尾俊夫、寺島迪子:大修館書店, 1988					
参考書					
英語の歴史 過去から未来への物語 / 寺澤盾:中央公論新社, 2008					
ベーシック英語史 / 家人葉子:ひつじ書房, 2007					
英語の歴史 / 小川浩、児馬修、本名信行、小倉美知子、浦田和幸、松浪有:大修館書店, 1995					
英語史 / 松浪有:大修館書店, 1986					
講談 英語の歴史 / 渡部昇一:PHP 研究所, 2001					
メッセージ					
連絡先					
akahane@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
特に設けず、アポイントメントによる。					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012212003
開設科目名	英語学特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	太田 聡			区分	
授業の概要					
日英語の語形成・形態論に関連したトピックスを論じていきます。「語は暗記するもの」と思われがちですが、暗記していなくても、一定の法則に従って新語を生み出していくことができるものです。そうした語形成の法則について学びましょう。					
授業の一般目標					
語形成に関する法則や制約を知り、そららを使って、可能な語と不可能な語の区別や説明ができるようになる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 語形成に関する法則や制約を知る。					
思考・判断の観点: 可能な語と不可能な語の区別ができるようになる。					
関心・意欲の観点: 暗記していたわけではない語の容認可能性や適格性について述べるようになる。					
成績評価方法(総合)					
各トピックの説明が終わるごとに小テスト、または、宿題・課題を出し、その出来具合によって評価する。欠席は1回につき5点減点とする。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
ohta@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012212004
開設科目名	英語学演習(文法と意味)			単位	2単位
対象学生				学年	4~4
担当教員	赤羽 仁志			区分	
授業の概要					
前期に引き続き、英語で書かれたテキストの講読を行いながら、「ミニマリスト・プログラム」と呼ばれる生成文法の最近の枠組みを理解し、それをベースに英語の統語現象について考える基礎を養う。					
授業の一般目標					
英語の専門文献を読む力を養う。 統語論の議論の仕方を理解する。 英語の統語現象について説明ができるようになる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 演算子移動 主語 項移動 VP 殻 一致投射について理解する。					
思考・判断の観点: 統語現象がどのような仕組みにより生ずるのか(生じないのか)説明できる。					
技能・表現の観点: 専門的内容を分かり易く説明できる。					
成績評価方法(総合)					
授業への貢献(発表を含む)と期末レポートにより評価する。					
教科書					
Syntax: A minimalist introduction / Andrew Radford: Cambridge University Press, 1997					
参考書					
English Syntax: An Introduction / Jong-Bok Kim, Peter Sells: Stanford Univ Center for the Study					
Analysing English Sentences: A Minimalist Approach / Andrew Radford: Cambridge Univ Pr, 2009					
An Introduction to English Sentence Structure / Andrew Radford: Cambridge Univ Pr, 2009					
チョムスキー 理論辞典 / 原口庄輔 中村捷編: 研究社					
English Syntax: An introduction / Andrew Radford: Cambridge University Press, 2004					
メッセージ					
連絡先					
akahane@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
特に設けず、アポイントメントによる。					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012212005
開設科目名	英語学演習(形態と音声)			単位	2単位
対象学生				学年	4~4
担当教員	太田 聡			区分	
授業の概要					
日本語の音声・音韻の諸特徴を詳しく学び、同時に、英語の音声・音韻との違いや類似点を考えます。					
授業の一般目標					
普段なにげなく発話している母語には、どのような音声特徴と、それに関係する法則が備わっているのかが分かるようになる。そしてそれらを、英語の音声特徴とも比較して、日英語の音声・音韻上の相違点や共通点ををきちんと説明でき、ひいては、英語の音声指導にも役立てることができるようになる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 日本語の音声・音韻の諸特徴を知る。そして、英語のそれらと比較・分析できるようになる。					
思考・判断の観点: 日英語の音声上の諸特徴の相違点と共通点を理解して、説明できるようになる。					
関心・意欲の観点: 表面的・印象的には随分異なる日英語の音声の中に、どのような類似性があるのかを考察するようにする。					
態度の観点: 積極的に質問をする。					
技能・表現の観点: 自分の担当箇所を、出席者全員が理解できるように、分かりやすく解説することができる。					
成績評価方法(総合)					
授業内での発表や小テスト、および、課題レポートの出来具合などによって総合的に評価する。出席を重視し、欠席1回につき期末評点から5点ずつ減点する。					
教科書					
日本語音声学入門(改定版) / 斎藤純男:三省堂, 2006					
参考書					
A Comprehensive Grammar of the English Language / Quirk, R. et al.: Longman, 1985					
メッセージ					
連絡先					
ohta@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012212006
開設科目名	英語学講読			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	岩部 浩三			区分	
授業の概要					
英語学の専門論文を読み、内容を解説します。					
授業の一般目標					
英語で書かれた専門論文に慣れ、自分で読めるようになる。あわせて、意味論・語用論の研究内容に触れ、関心を持つ。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 英語で書かれた論文の内容を把握して、用例を用いて日本語で説明できる。					
思考・判断の観点: 論文の一部分だけではなく、全体の主張を正しく把握して妥当性を判断できる。					
関心・意欲の観点: 疑問点を明確にし、質問できる。					
技能・表現の観点: 英語の専門論文になれ、内容を日本語で表現することができる。					
成績評価方法(総合)					
期末試験が90パーセント、授業時の演習10パーセントの割合で評価します。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
iwabe@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
金曜日 12:50-14:20 メールで事前にご連絡ください					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012212007
開設科目名	英文学史			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	池園 宏			区分	
授業の概要					
<p>英文学の歴史を時代の流れに沿って体系的に講義する。作家や作品の単なる羅列に止まらず、具体的な作品の読み方や文学用語などを広く解説する英文学概論の性格を持った授業である。配布プリント等によりできるだけ多くの作品の原典に触れる機会を提供しながら、各々の時代の文学思潮や文人たちの具体的な創作活動について説明する。</p>					
授業の一般目標					
<p>英文学の包括的内容を習得し、英文学研究の基礎固めを行う。同時に、様々な文学作品の内容やその時代的背景を学ぶことにより、広い意味での異文化理解を深める。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 英文学史の具体的な流れ、及び主要な作家や作品について説明できる。</p> <p>思考・判断の観点: 作家や作品がどのような歴史的背景の中に位置づけられるかを論理的に思考できる。</p> <p>関心・意欲の観点: 英文学に対する積極的な関心を持つ。</p> <p>態度の観点: 常に問題意識を持って議論に参加できる。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>(1) 授業の中で小テストを複数回実施する。</p> <p>(2) 学期末に試験を1回実施する。</p> <p>(3) 出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。</p>					
教科書					
イギリス文学史 / 川崎寿彦: 成美堂, 1988					
参考書					
メッセージ					
<p>(1) 英語学・英米文学コース2年生、及び同コース3年生で英米文学専攻の学生は前後期を通じて受講すること。</p> <p>(2) 毎回出欠確認をするので、欠席や遅刻をしないこと。</p>					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012212008
開設科目名	英米文学特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	宮原 一成			区分	
授業の概要					
20世紀、特にその後半の英語圏文学において、とみに急増した「現在時制の語り」を用いた作品について、その文体的効果を、個別的そして包括的に考えていきます。					
授業の一般目標					
文章の内容ばかりでなく、その文体にも目配りすることで、文学というコミュニケーションのあり方や背景的状况について深く考察できるようになる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 現行の基本的な時間論、文体論、及び現代英文学作品の基礎知識を把握している。					
思考・判断の観点: 文体の効果について理論を立て、もしくは先行研究を適切に取舍選択し、自分なりの一貫した思考を紡ぐことができる。					
態度の観点: 継続して課題に取り組む姿勢をもつ。					
技能・表現の観点: 思考結果を、首尾一貫した日本語論説文形式で表現できる。					
成績評価方法(総合)					
数回の小レポートと、学期末筆記試験。無断欠席が三回を超えると、単位は出さない。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
miyahara@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
初回授業時に知らせます。					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012212009
開設科目名	英米文学特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	皆尾 麻弥			区分	
授業の概要					
Nathaniel Hawthorne(1804-1864)の短編を読む。					
授業の一般目標					
『緋文字』等の長編小説が有名である Hawthorne であるが、その短編もまた、同時代の作家であるメルヴィルやポーによって高く評価された。格調高い文章の凝縮した彼の短編を丹念に読むことによって、彼が生涯持ち続けたテーマ、彼の作品の特徴などを、考察する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 作品の具体的内容を理解する。					
思考・判断の観点: 作家が一つ一つの言葉にこめた思いを正確に捉える。文章の裏に隠された意味を考えて読む。					
関心・意欲の観点: Hawthorne の作品を積極的に読む。					
成績評価方法(総合)					
学期末にレポートを提出					
教科書					
Selected Tales and Sketches / Nathaniel Hawthorne: Penguin					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012212010
開設科目名	英米文学演習(小説)			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	池園 宏			区分	
授業の概要					
18世紀イギリスの文人 Oliver Goldsmith の小説 The Vicar of Wakefield を読む。作品の解釈や分析のみならず、英文法や発音など総合的な英語力の養成も行う。					
授業の一般目標					
(1)テキストを丹念に解釈することにより、Goldsmith の作家像及び 18 世紀英文学における位置づけを理解する。					
(2)英文法力や英文解釈力を身につける。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 作家や作品の具体的内容を説明できる。					
思考・判断の観点: 作品に盛り込まれた諸テーマを分析できる。					
関心・意欲の観点: 小説を読み解く行為に関心を持つ。					
態度の観点: 常に問題意識を持って議論に参加できる。					
成績評価方法(総合)					
(1)試験は学期末に1回実施する。					
(2)出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。					
教科書					
The Vicar of Wakefield / Oliver Goldsmith: Penguin, 1982					
参考書					
メッセージ					
(1)一年間を通して一人の作家に取り組むため、前後期を通して受講すること。					
(2)毎回出欠確認をするので、欠席や遅刻をしないこと。					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012212011
開設科目名	英米文学演習(劇)			単位	2単位
対象学生				学年	4~4
担当教員	田中 晋			区分	
授業の概要					
英詩入門コース。チャオサーから現代に至るイギリスの名詩を、自然、愛、美、宗教、思想、その他の分野に亘って精しく鑑賞する。					
授業の一般目標					
英詩の世界に親しみその諸相を知り、言葉の魅力に触れて、英文学理解の上での基礎的必要知識を備える。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 英詩の語法を理解し、名詩の本質を知る。					
思考・判断の観点: 自分の解釈をもって教室に出る。					
関心・意欲の観点: 自ら多くの詩に親しむ。					
態度の観点: 積極的に授業に参加する。					
技能・表現の観点: はっきりした声で発表ができる。					
成績評価方法(総合)					
期末試験の結果に平常点(出席、受講態度等)を加味する。					
教科書					
Seasonal Poems of England / Peter Milward 編・川崎寿彦注: 南雲堂					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012212012
開設科目名	英米文学講読			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	宮原 一成			区分	
授業の概要					
英語文学作品をきちんと訳読し、鑑賞します。作品の持つテーマについて各自考察してもらいます。題材は、現代英国人作家5人の作品を収めた短篇集を使用します。					
授業の一般目標					
文化背景と感情・思考・会話の流れという、各種の文脈がすべてそろった文芸作品という絶好の読解教材を読みこなすことを通じて、真の読解力を錬成する。					
英語小説を読むための技法をいくつか習得する。					
作品世界やテーマについて、自分なりの所見を持つ。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 丹念に調べて、英文の意味を、流れの中で正確に理解できる。					
思考・判断の観点: 作品に込められたテーマについて、自分なりの所見を言語化できる。					
態度の観点: 自分の所見を積極的に発表し、議論に寄与できる。					
技能・表現の観点: 効果的・機能的な翻訳ができる。					
成績評価方法(総合)					
毎回の試読の出来と発表内容、及び他人の発表に対する建設的なコメントの3点から評価する。学期末試験は実施しない。無断欠席が3回を超えたら「不合格」とする。					
教科書					
『過去・夢・現実 イギリス短編小説五編』 / K. Ishiguro 他: 南雲堂, 1990					
参考書					
メッセージ					
まずは、構文理解と文法知識の再確認を優先しますが、内容テーマに関わる意見発表は大歓迎です。					
連絡先					
miyahara@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
初回授業時に知らせます。					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012212013
開設科目名	英米文学講読			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	皆尾 麻弥			区分	
授業の概要					
Henry James(1843 - 1916) の中篇 The Aspern Papers(1888)を読む					
授業の一般目標					
James の文章の魅力・特徴・表現の手法等にも注目しながら、正確に読む。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: テキストを正確に読むことができる					
思考・判断の観点: 難解な表現や文章を、知識と想像力によって解釈することができる					
関心・意欲の観点: James の作品に好奇心を持つ					
成績評価方法(総合)					
学期末にレポートを提出。普段の授業への取り組みも評価の対象になります。					
教科書					
The Aspern Papers and the Turn of the Screw / Henry James: Penguin					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012212014
開設科目名	英語演習(会話)			単位	2単位
対象学生				学年	4~4
担当教員	EDWARDS NATHANIEL TYLER			区分	
授業の概要					
<p>1) Students will work together in pairs and groups to complete a variety of fun and interesting English activities.</p> <p>2) Students will increase their vocabulary on different useful topics.</p> <p>3) Students will learn and practice new study techniques.</p> <p>4) Students will ask and answer questions, using their own opinions.</p> <p>5) Students will use English to make plans, and to give short presentations.</p> <p>6) Students will learn how to use word and sentence stress.</p> <p>7) Students will write and perform role plays in different situations, and use gestures.</p>					
授業の一般目標					
This course is for students who wish to improve their English speaking, listening, communication, and presentation skills.					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
Final Written and Oral Exam: 30% of Final Grade.					
Homework and Reports: 30%					
Attitude and Participation: 20%					
Presentations: 20%					
教科書					
New Survival English / Peter Viney : MacMillan Language House , 2004					
参考書					
メッセージ					
Bring your dictionary and textbook to every class.					
連絡先					
ca72@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
14:30 16:00 (木)					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012212015
開設科目名	英語演習(会話)			単位	2単位
対象学生				学年	4~4
担当教員	EDWARDS NATHANIEL TYLER			区分	
授業の概要					
<p>1) Students will work together in pairs and groups to complete a variety of fun and interesting English activities.</p> <p>2) Students will increase their vocabulary on different useful topics.</p> <p>3) Students will learn and practice new study techniques.</p> <p>4) Students will ask and answer questions, using their own opinions.</p> <p>5) Students will use English to make plans, and to give short presentations.</p> <p>6) Students will learn how to use word and sentence stress.</p> <p>7) Students will write and perform role plays in different situations, and use gestures.</p>					
授業の一般目標					
This course is for students who wish to improve their English speaking, listening, communication, and presentation skills.					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
Final Written and Oral Exam: 30% of Final Grade.					
Homework and Reports: 30%					
Attitude and Participation: 20%					
Presentations: 20%					
教科書					
New Survival English / Peter Viney : MacMillan Language House , 2004					
参考書					
メッセージ					
Bring your dictionary and textbook to every class.					
連絡先					
ca72@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
14:30 16:00 (木)					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012212016
開設科目名	英語演習(会話)			単位	2単位
対象学生				学年	4~4
担当教員	EDWARDS NATHANIEL TYLER			区分	
授業の概要					
<p>1) Students will work together in pairs and groups to complete a variety of fun and interesting English activities.</p> <p>2) Students will increase their vocabulary on different useful topics.</p> <p>3) Students will learn and practice new study techniques.</p> <p>4) Students will ask and answer questions, using their own opinions.</p> <p>5) Students will use English to make plans, and to give short presentations.</p> <p>6) Students will learn how to use word and sentence stress.</p> <p>7) Students will write and perform role plays in different situations, and use gestures.</p>					
授業の一般目標					
This course is for students who wish to improve their English speaking, listening, communication, and presentation skills.					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
Final Written and Oral Exam: 30% of Final Grade.					
Homework and Reports: 30%					
Attitude and Participation: 20%					
Presentations: 20%					
教科書					
Impact Issues 1 / Richard R. Day: Pearson Longman , 2009					
参考書					
メッセージ					
Bring your dictionary and textbook to every class.					
連絡先					
ca72@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
14:30 16:00 (木)					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012212017
開設科目名	英語演習(作文)			単位	2単位
対象学生				学年	4~4
担当教員	EDWARDS NATHANIEL TYLER			区分	
授業の概要					
<p>1) Students will read many different types of English writing as models for their own writing.</p> <p>2) Useful writing skills and strategies will be reviewed and practiced.</p> <p>3) Key grammar points will be reviewed and practiced.</p> <p>4) Students will increase their vocabulary on a variety of topics.</p> <p>5) Students will learn and use new study techniques.</p> <p>6) Students will also practice some speaking and listening by discussing their writing in pairs and small groups.</p>					
授業の一般目標					
This course is for students who wish to improve their English writing and reading skills, using a variety of different types of writing.					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
Final Written Exam: 20% of Final Grade.					
Homework and Reports: 60%					
Attitude and Participation: 20%					
教科書					
Reading Challenge 3 / Casey Malarcher, Andrea Janzen : Compass Publishing , 2005					
参考書					
メッセージ					
Bring your dictionary and textbook to every class.					
連絡先					
ca72@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
14:30 16:00 (木)					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012212018
開設科目名	英語演習(時事英語)			単位	2単位
対象学生				学年	4~4
担当教員	EDWARDS NATHANIEL TYLER			区分	
授業の概要					
<p>1) Students will improve their listening skills by listening to current news stories, and watching short, current news videos on the BBC website.</p> <p>2) Students will learn and practice new study techniques.</p> <p>3) Students will ask and answer questions, using their own opinions.</p> <p>4) Students will increase their vocabulary on a variety of current news topics.</p> <p>5) Students will work together in groups to complete discussion activities.</p> <p>6) Students will improve their English presentation skills.</p> <p>7) Students will also improve their reading by reading current news articles.</p>					
授業の一般目標					
This course is for students who wish to improve their speaking and listening skills, and to increase their vocabulary on a variety of current news topics. There will also be reading assignments for homework.					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
Final Written Exam: 30% of Final Grade. Homework and Reports: 50% Attitude and Participation: 20%					
教科書					
ABC World News 11 / Shigeru Yamane, Kathleen Yamane: Kinseido, 2009					
参考書					
メッセージ					
Bring your dictionary to every class.					
連絡先					
ca72@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
14:30 16:00 (木)					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012213001
開設科目名	現代ドイツ語概説			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	本田 義昭			区分	
授業の概要					
現代ドイツ語の諸相について概説します。後期は、「ドイツ語における性差」、「外来語」、「慣用句」、「言葉から見たドイツの社会変化」などのテーマを扱う予定です。					
授業の一般目標					
現代ドイツ語についての基礎的知識を養う。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 現代ドイツ語についての基礎的知識を養う。					
思考・判断の観点: 言語が異なることが思考形式の違いにも影響を及ぼしていることを認識する。					
関心・意欲の観点: 言語と文化との関係を学ぶことで、異文化への関心を深める。					
成績評価方法(総合)					
平素の学習、特に授業への積極的参加を重視します。次のいずれかの場合は失格とします。1)最初の6回中3回欠席, 2)連続3回欠席, 3)通算4回欠席。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
共通教育で習うドイツ語を、別の観点から眺めてみませんか？					
連絡先					
honda@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012213002
開設科目名	ドイツ語学特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	下寄 正利			区分	
授業の概要					
ドイツ語の特徴を、英語と比較しつつ、様々な観点から論じてゆく。					
授業の一般目標					
ドイツ語の特徴について理解しているとともに、ドイツ語学の基本的なところがある程度身に付いている。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: ドイツ語の特徴について理解しているとともに、ドイツ語学の基本的なところがある程度身に付いている。					
成績評価方法(総合)					
期末テストにより評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012213003
開設科目名	ドイツ語学演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	本田 義昭			区分	
授業の概要					
ドイツ語学の専門文献を批判的に読んで行きます。					
授業の一般目標					
将来ドイツ語学に関する卒業論文を書く可能性がある学生を対象に、ドイツ語学の専門文献を批判的に読みこなす力をつけることを目指します。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: ドイツ語学の専門的知識を習得する。					
思考・判断の観点: 論の展開の仕方を学ぶ。					
関心・意欲の観点: 広く言語現象への関心を深める。					
技能・表現の観点: ドイツ語学の専門文献を読む力を養う。					
成績評価方法(総合)					
平素の学習、特に授業への積極的参加を重視します。次のいずれかの場合は失格とします。1)最初の6回中3回欠席, 2)連続3回欠席, 3)通算4回欠席。 「演習」の観点は「授業態度・授業への参加度」および「受講者の発表(プレゼン)・授業内での制作作品」で評価します。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
授業への積極的な参加を期待しています。					
連絡先					
honda@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012213004
開設科目名	ドイツ文学特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	HINTEREDER EMDE FRANZ			区分	
授業の概要					
宮崎駿の『アルプスの少女ハイジ』は、日本人なら誰でも知っているし、世界的に有名なアニメ作品です。原作の『ハイジの修業時代と遍歴時代』(1880年)は、典型的な児童文学の作品ですが、スイスのドイツ語文学としては殆ど意識されていません。原作のタイトルは、ドイツの文豪ゲーテの代表作『ヴィルヘルム・マイスターの遍歴時代』と意識したものです。そうすると、『ハイジ』はある意味においては、教養小説の伝統をついでいる作品でもあります。					
授業の一般目標					
この講義では、アニメの映像(さらに可能なら他のものも含めて)も取り入れて、原作と比較しながら、「スイス」という文化的なイメージと現実のドイツ語圏の文化空間について話します。勿論、他のスイスの作家達(ケラ、フリッシュ、ヴァルザーなど)の作品にも触れることがあります。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 19世紀や世紀末の中央ヨーロッパの文化的な背景を把握することができる。					
思考・判断の観点: 原文や周辺資料の解読によって、その時代や文化的な実体を理解する。					
関心・意欲の観点: スイスやドイツ語圏の文学への関心をもって、文化的なイメージや文化の現状について学ぶ。					
成績評価方法(総合)					
授業ないレポート(感想文):30%、宿題・授業外のレポート:50%、参加や出席:20%					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
電話 933 - 5687					
mail emde@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
月曜日 12:50～14:20					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012213005
開設科目名	ドイツ文学演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	坂本 貴志			区分	
授業の概要					
ドイツ文学、ヨーロッパ文化に関して様々なテーマを学ぶ。					
授業の一般目標					
ドイツ文学、ヨーロッパ文化に関して参加者が自らテーマを選び、これについて考察した内容をレポートし、検討を加える。テーマの選び方、文献の読解方法、考察の仕方など、人文科学における基本的な素養・手法を学ぶ。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
授業内レポートと期末のレポートによる。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012213006
開設科目名	ドイツ文学講読(小説)			単位	2単位
対象学生				学年	4~4
担当教員	HINTEREDER EMDE FRANZ			区分	
授業の概要					
参加者は、自ら選んだドイツ文化圏の文学作品を和訳で読んで、全体の作品を授業で紹介します。そして、触りの箇所をドイツ語で皆で読んでいきます。					
授業の一般目標					
ドイツ文学やその背景の基本的な知識を身につくことと文学の歴史的な文脈を理解すること。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 具体的な作品を通じて、ドイツ文学の歴史と特徴を把握する。					
関心・意欲の観点: ドイツ文学への関心を持って、数々の作品の読書に取り組むこと					
技能・表現の観点: 文学作品について文章・口頭表現ができる					
成績評価方法(総合)					
発表:40%、レポート:40%、参加や態度:20%					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
電話 933 - 5687					
mail emde@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
月曜日 12:50 ~ 14:20					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012213007
開設科目名	ドイツ文学講読(詩・戯曲)			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	坂本 貴志			区分	
授業の概要					
<p>フリードリヒ二世に関するドイツ語のテキストを読む。フリードリヒ二世(1194-1250)はドイツとイタリアを縦につなぐ一つの軸であり、シュタウフェン王朝最後の神聖ローマ帝国皇帝はドイツ国王であってシチリアのパレルモに宮廷をもった。彼はパレルモに世界初の動植物園を作り、鷹狩りを人類最高の学問と見なし、イタリアのプーリアの山の上に不可思議な八角形の城を建て、また教皇にせつかれて行った十字軍遠征で、聖地を外交的対話によって平和に回復した。時代の水準を遙かに超越した教養人、政治家、コスモポリタンについて、ドイツ語で学ぶ。</p>					
授業の一般目標					
ドイツ語の基本的な読解力を涵養することを第一の目的としている。文法的知識の点検が必要となる。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
出席状況と期末レポートによる。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012213008
開設科目名	ドイツ語演習(会話)			単位	2単位
対象学生				学年	4~4
担当教員	DOBRA FELICITAS VIKTORIA			区分	
授業の概要					
コミュニケーション手段としてのドイツ語を勉強します。2年次に学習したドイツ語文法をふまえて会話の練習を主にします。文法も学習しますが、これはほとんど2年次の復習です。					
授業の一般目標					
ドイツ語会話の基礎的能力をふまえ、より高いレベルでの会話技術を身につけることを目標とします。					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:教科書には聴解と発音の訓練用のCDが付属している。音声練習が学生の理解を助け、聴解力を鍛えるであろう。自分自身が話すときにはなまりがあるにしても、大きな声ではっきりと話すように努めるべきである。</p> <p>思考・判断の観点:学生は語彙を増やし、会話文の構造を習得し、自分の生活の中から取り出した情報を会話文型の中に組み入れることができるようにならなければならない。</p> <p>一学期終わったところで、教科書の会話文をお手本にして自分自身の文章を作って、コミュニケーションを行うことができるようになる。パートナー練習は、授業の一つの構成要素である。宿題は学習効果を高め、一步一步段階的にコミュニケーション・テストの会話構成部分を習得させる。多くの自主性が要求される。</p> <p>関心・意欲の観点:学生と教師は、感情を通わせ会って話すように努める。緊張は、楽しい練習プリントや歌および自由会話練習(プリント無し)によって緩和されるであろう。授業は学生と教師双方によって楽しいものに形成されていくべきである。</p> <p>態度の観点:班別のチームワークでは学生同士でお互いに協力し政局的に授業参加すること。</p> <p>技能・表現の観点:学生は、コミュニケーションにとって重要な表現を表情豊かに話すことを学ぶ。</p> <p>その他の観点:本授業を履修する以上、規則正しい出席と教科書の購入は必須である。</p>					
成績評価方法(総合)					
会話テスト / 出席 / レポート / 授業の態度					
教科書					
Modelle 3 モデル3 問題発見のドイツ語 / 平高史也 / アンドレアスリースランド / 藁谷郁美 木村クリストフ ごろうマルコラインデル:三修者, 2006					
参考書					
メッセージ					
辞書をか電子辞書を持って来て下さい。ただ会話が一番です。					
連絡先					
dobra@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
山口吉田 研究室 ドーブラ 共通教育 3F 水曜日 12:30~13:30					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012213009
開設科目名	ドイツ語演習(作文)			単位	2単位
対象学生				学年	4~4
担当教員	下寄 正利			区分	
授業の概要					
ドイツ語作文の教科書を用いて、ドイツ語作文の訓練を行う。そのほか、数回、何らかのテーマを与え、それについて自由に作文を書いてもらう予定でいる。教科書は、受講者のドイツ語力を勘案して決める。					
授業の一般目標					
ドイツ語作文力の向上。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: ドイツ語の初級文法をしっかりと身に付けている。					
技能・表現の観点: きちんとしたドイツ語を書くことができるのはもちろんのこと、より高度なドイツ語表現ができる。					
成績評価方法(総合)					
授業中に行う練習問題の解答、レポート、期末試験による。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012213010
開設科目名	フランス語史			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	武本 雅嗣			区分	
授業の概要					
今年度は「フランス語史」の講義を行う。半年間で、インド・ヨーロッパ祖語からラテン語を経て現代フランス語が成立するまでの流れを概観する。					
授業の一般目標					
古フランス語、中期フランス語、近代フランス語、現代フランス語の特徴を理解し、とくに近代フランス語が正確に読めるようになる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 現代フランス語が成立するまでの流れを把握する。					
思考・判断の観点: 古フランス語、中期フランス語、近代フランス語、現代フランス語の特徴を指摘できる。					
関心・意欲の観点: 文献の講読に参加する。					
技能・表現の観点: 古フランス語、中期フランス語、近代フランス語の文献の読解ができる。					
成績評価方法(総合)					
授業への参加:40%					
レポート:60%					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
人文612研究室					
オフィスアワー					
火曜日 16:10-17:40					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012213011
開設科目名	フランス語学演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	武本 雅嗣			区分	
授業の概要					
前期に続いて後期も、Le gerondif en francais を読んでいく。					
授業の一般目標					
フランス語で書かれた論文を読むことによって、フランス語学の知識を深めるだけでなく、論文の書き方や議論の展開の仕方をも学んでいく。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 論文を正確に読める。					
思考・判断の観点: 疑問点を解決する					
関心・意欲の観点: 議論に参加できる。					
成績評価方法(総合)					
レポート:60%					
授業内発表:40%					
教科書					
参考書					
メッセージ					
毎回予習してくること。					
連絡先					
人文612研究室					
オフィスアワー					
火曜日 16:10～17:40					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012213012
開設科目名	フランス文学史			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	井上 三朗			区分	
授業の概要					
19世紀・20世紀フランスの、3人の偉大な小説家の作品を取り上げ、紹介・解説する。すなわちバルザックの『ゴリオ爺さん』(『人間喜劇』)、プルーストの『失われた時を求めて』、アンドレ・ジイドの『贖金づかい』である。これらの作品を読解・分析することをとおして、フランス文学の具体的なかたちを知るとともに、19世紀以後のフランス小説のおおざっぱな流れを把握したい。					
授業の一般目標					
数は少ないが、フランス文学の代表的作品を具体的に取り上げることによって、文学の流れの理解を目指す。歴史を前面に出すと、話が退屈になる傾向があるので、作品を個別的に紹介しつつ、歴史に言及したい。また、この授業は入門の授業であるが、作品を論じることになるので、文学研究の際の参考になれば幸いである。さらに、作品を具体的に知ってもらうことによって、興味が湧けば、実際に読んでもらいたいと願っている。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: フランス文学の代表的作品を具体的に知り、合わせて、フランス小説の流れを把握することができる。					
思考・判断の観点: 作品の読み方、文学研究のしかたにかんして、一定程度示唆を得ることができる。人間とは何か、生きるとは何か、について考えることができる。					
関心・意欲の観点: フランス文学への積極的な関心を持つことができる。授業で取り上げる作品を実際に読むことができる。					
成績評価方法(総合)					
定期試験の点数(70点)と平常点(30点)との総合。					
教科書					
参考書					
フランス文学案内 / 渡辺一夫他:岩波文庫 フランス文学史 / 響庭孝男他:白水社					
メッセージ					
授業への積極的な参加を望む。授業で取り上げる作品をできるだけ読んでほしいと願っている。					
連絡先					
613研究室。					
オフィスアワー					
14時30分～16時00分。					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012213013
開設科目名	フランス文学演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	井上 三朗			区分	
授業の概要					
サルトルとともに、20世紀の実存主義の思想家としても知られる、アルベール・カミュの小説「異邦人」をテキストに用いる。この作品をテキストに用いることで、カミュの作品世界をかいま見たい。単に訳読に終始することなく、作品の分析をこころみること、文学作品の研究のしかた、論じ方を学ぶことができれば願っている。					
授業の一般目標					
比較的平易な小説のフランス語を読むことによって、フランス語の読解力を養成することを目指すのはもちろんである。と同時に、作品の分析をこころみることによって、文学作品の分析能力を身につけることができれば願っている。概要のところでも述べたように、文学研究の際になんらかの参考になれば幸いである。また、思考力、論理を展開する能力が養えれば願っている。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 小説のフランス語の読解力の向上。					
思考・判断の観点: 文学作品の分析能力の養成。					
関心・意欲の観点: カミュの文学世界への関心。					
技能・表現の観点: 論理的思考の養成。					
成績評価方法(総合)					
平常点を重視する。授業は受講者に順番に当てて、訳読と分析をしてもらうので、発表の際の成績がかなり成績評価の比重を占めることになる。また、学期の終わりには、レポートを提出してもらうことを考えている。					
教科書					
参考書					
異邦人 / アルベール・カミュ: 新潮文庫					
メッセージ					
授業への積極的な参加が望まれる。自分の考えていることを、自由に発表することが期待される。					
連絡先					
613研究室。					
オフィスアワー					
月曜日14時30分～16時00分。					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012213014
開設科目名	フランス文学講読(小説)			単位	2単位
対象学生				学年	4~4
担当教員	井上 三朗			区分	
授業の概要					
20世紀の小説家、アンドレ・ドートルの短編小説『不思議な蝶』と『銀のボール』をテキストとして用いる。これらの作品を味読・精読することで、小説を読むことのよこびを味わいたい。授業では、発音の練習や文法の説明もおこなう。時間的余裕があれば、作品の分析もおこないたいと思っている。					
授業の一般目標					
小説のフランス語に慣れるとともに、フランス語の読解力の養成を目指す。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 小説のフランス語の読解力を養うことができる。アンドレ・ドートルの文学世界を知ることができる。					
思考・判断の観点: 短編小説の作り方について考えることができる。					
関心・意欲の観点: 小説を読むよこびを味わうことによって、文学に興味を持つことができる。					
成績評価方法(総合)					
定期試験の点数(50点)と平常点(50点)との総合で評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
授業への積極的な参加を望む。					
連絡先					
613研究室					
オフィスアワー					
月曜日14時30分~16時00分。					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012213015
開設科目名	フランス語演習(時事フランス語・フランス事情)			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	武本 雅嗣			区分	
授業の概要					
社会学的な見地からパリについて書かれた文献を読んでいく。					
授業の一般目標					
パリおよびフランスの様々な側面を理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: パリの歴史と現状を把握し、フランスの様々な側面を理解する。					
思考・判断の観点: 相対的・複眼的な視点を持てるようになる。					
成績評価方法(総合)					
レポート:60%					
授業態度や授業への参加度:40%					
教科書					
参考書					
メッセージ					
毎回予習してくること。					
連絡先					
人文612研究室					
オフィスアワー					
火曜日 16:10～17:40					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012213016
開設科目名	フランス語演習(会話)			単位	2単位
対象学生				学年	4~4
担当教員	Beausir Jean Claude			区分	
授業の概要					
このコースは初級フランス語を総合的にレベルアップさせ、フランス語での基礎的なコミュニケーションに積極的に参加できるような理解力と表現力を習得することを目標にしています。					
授業の一般目標					
この講座は、フランス語を学ぶ学生のために簡単な挨拶や日常会話を取り入れながら、初級～中級フランス語を習得して伝達力を伸ばすことを目指します。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 漠然とした曖昧な知識ではなくフランス語自体の仕組み、文法を芯から理解することを目標としています。					
関心・意欲の観点: フランス語以外のこと(文化、歴史、音楽、雑学)などにも自分から興味を持ち視野を広げ柔軟性のある思考力を養います。					
成績評価方法(総合)					
一回の会話定期考査と平均点(授業態度、出席状況など)を総合的に評価します。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012213017
開設科目名	フランス語演習(作文)			単位	2単位
対象学生				学年	4~4
担当教員	平山 豊			区分	
授業の概要					
動詞の直説法、条件法、接続法のさまざまな時制に基づく文例を、単純な文型から順次複雑な文型へと進める。更には平叙文、疑問文、否定文、命令文など文の種類も授業ごとの基軸単位になる。またニュアンス表現や語法にも留意しながら作文をする。					
授業の一般目標					
日本語の文を出発点に、一語一語の逐語訳ではなく、フランス語の文法規則を踏まえた、自然なフランス語を作る練習をする。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 動詞の活用、慣用表現、慣用語法の習得。					
思考・判断の観点: 異なった視点による物事の把握					
技能・表現の観点: 正確な表現の実現。					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
中級仏作文 / 小林 路易:白水社, 2008					
フランス語作文の基礎 / 中原俊夫:白水社, 2008					
フランス語の手紙 / 市川 慎一:白水社, 2008					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012214001
開設科目名	言語学概論			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	平野 尊識			区分	
授業の概要					
<p>「ことば」が科学の対象になることを先ず理解してもらおう。具体的な内容は、鹿児島市、都城市、東京都、京都市のアクセントを取り上げ、それらの違いは決してバラバラではないことを理解してもらおう。つまり、同系の言語内の相違は、異質なものであることを明らかにする。講義には、講師が集めた録音資料を使用する。</p>					
授業の一般目標					
<p>言語学概論は一年生から受講可能である。従って、一番の目標は「ことば」に対する興味を喚起することである。それも科学的観点からの興味である。私達に身近な方言が科学的研究の対象になることを理解してもらえようような講義にしたい。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 毎回の内容を、言語学的観点から理解しているか。 思考・判断の観点: データを科学的観点から分析できるか。 関心・意欲の観点: 講義前に、予習をしてきているか。 態度の観点: 興味を持って講義に参加しているか。 技能・表現の観点: 考えたことを、分かりやすく簡潔に説明できるか。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>定期試験を重視する。また理解度を見るために、授業外のレポート課すことがある。</p>					
教科書					
参考書					
メッセージ					
<p>数学的な思考が必要である。</p>					
連絡先					
<p>人文617研究室 mail-address:hirano01@yamaguchi-u.ac.jp</p>					
オフィスアワー					
<p>未定</p>					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012214002
開設科目名	言語学特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	平野 尊識			区分	
授業の概要					
後期は、連体修飾構造について言語横断的に考察する。この構造の形成と認識には、二つのタイプが観察される。統語論に基づくタイプと語用論に基づくタイプである。英語は前者のタイプであり、日本語は両方のタイプを持つ。これらのタイプの具体例に基づき整理し、理解を図る。更に、後者の連体修飾構造の本質を明らかにし、その形式化をこころみる。					
授業の一般目標					
連体修飾構造の背後に、どのような規則性やその構成をコントロールする原則がひそんでいるか、それを明らかにする能力を養うことが最終目標である。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: テキストを読んで、理解できること。					
思考・判断の観点: 数学的、論理的思考が出来るか。					
関心・意欲の観点: 日本語、英語だけでなく、その他の言語の連体修飾構造にも興味を示せるか。					
態度の観点: 積極的に参加し、自分の意見を述べる事ができるか。					
技能・表現の観点: 第三者に分かり易く説明できるか。					
成績評価方法(総合)					
学期末試験を中心に、授業外レポートの成績を加味しながら評価する。					
教科書					
日本語の分析と言語類型 / 影山太郎 岸本秀樹(編) : くろしお出版, 2004					
参考書					
メッセージ					
言語学は外国語に興味がない人が来るところではありません。英語の論文を読みますので、そのつもりで受講してください。					
連絡先					
人文617研究室 mail-address:hirano01@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
未定					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012214003
開設科目名	言語学特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	角田 太作			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012214004
開設科目名	言語学演習(意味と統語)			単位	2単位
対象学生				学年	4~4
担当教員	平野 尊識			区分	
授業の概要					
Radford, et. al. 1999. Linguistics: An introduction. この文献の中のパート3、Sentences を演習に使う。文の構造と性質について理解するためである。					
授業の一般目標					
英文で書かれた言語学の概説書を読むことにより、言語学を日本語を介さずに理解すること。特に、文の構造について理解を図る。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 文の構造と性質の理解					
思考・判断の観点: 説明を図式化する。					
関心・意欲の観点: 言語学の色々な領域にも関心を持つ。					
態度の観点: 予習をしてくる。					
技能・表現の観点: 内容を分かりやすく説明する。					
成績評価方法(総合)					
試験を中心に評価する。					
教科書					
Linguistics: An introduction. / Radford, Atkinson, Britain. Clahsen & Spencer: Cambrige Univ. Press., 1999					
参考書					
メッセージ					
必ず予習をして、演習に参加すること。					
連絡先					
人文617研究室 mail-address:hirano01@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
未定					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012214005
開設科目名	言語学演習(言語理論)			単位	2単位
対象学生				学年	4~4
担当教員	平野 尊識			区分	
授業の概要					
この演習の主目的は卒論作成のためのものである。従って受講者は4年生に限定される。後期は、卒論に関連した問題点の発見とその解決そして卒論の完成に重きを置く。					
授業の一般目標					
前期で培った言語学的思考法、問題解決能力を基にして、実際に論文を完成させる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 言語学の方法を理解しているか。					
思考・判断の観点: 問題点を理論的に解明する能力。					
関心・意欲の観点: 一つのテーマに継続して取り組むこと。					
態度の観点: 主体的に取り組んでいるか。					
技能・表現の観点: 第三者に対して分かりやすく説明する。					
その他の観点: オリジナリティー認められるか。					
成績評価方法(総合)					
毎回の演習への参加、態度、内容の理解などを参考に総合的に評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
卒論は受講者が自分で作り上げるとことを認識しておくこと。					
連絡先					
人文6階617研究室 mail-address:hirano01@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
未定					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012214006
開設科目名	個別言語演習(アジア地域)			単位	2単位
対象学生				学年	4~4
担当教員	平野 尊識			区分	
授業の概要					
CD付きの教科書を使って、ロシア語を学習する。ロシア語は文字に特徴があるので、文字を読めて、書けるようになるだけでも進歩である。ロシア語は、言語学的には印欧語であるが、話される地域は広い。アジア地域もその領域であるので、演習にロシア語を取り入れた。					
授業の一般目標					
ロシア語の文字が読めるようになること、書けるようになること。簡単な文をロシア語らしく発音できること。ロシア語の文法を理解すること。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: ロシア語の文法、文字、発音の理解。					
思考・判断の観点: 文法に関して言語学的に考察。					
関心・意欲の観点: 新しい言語に興味を持てるかどうか。					
態度の観点: 予習復習はできているか。					
成績評価方法(総合)					
予習復習を含めて、演習への取り組み方、時々行う小テスト。					
教科書					
ことたびロシア語 / 佐々木精治:白水社, 2003					
参考書					
メッセージ					
ロシア語の文字を覚えるの楽しい。いわゆるローマ字とは異なるので、秘密のメッセージとかに使うことも出来る。新しいことに挑戦する気持ちが大事です。					
連絡先					
人文617研究室 mail-address:hirano01@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
未定					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012214007
開設科目名	言語学特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	乾 秀行			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012214008
開設科目名	言語情報処理学特殊講義			単位	2 単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	PHILLIPS JOHN DAVID			区分	
授業の概要					
<p>This is a course in Machine Translation - making a computer translate from one language into another.</p> <p>Concentrating on the linguistic aspects of the problem, we will look at how to describe English and Japanese grammar in a form which a computer can use, and at how a computer can translate using these descriptions.</p>					
授業の一般目標					
An understanding of the basic problems and techniques of Machine Translation from a linguist's point of view.					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
期末試験					
教科書					
参考書					
「自然言語処理の基礎」 / 吉村賢治:サイエンス社,平成 12					
メッセージ					
授業では英語をよく使う。					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012214009
開設科目名	個別言語演習(その他の地域)			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	乾 秀行			区分	
授業の概要					
<p>エチオピアで話されている言語の言語特徴を見ていくことを通して、言語の多様性を理解することを目的とします。言語が音声、形態、文法、意味に関してどのような構造や体系を作り上げているかを一緒に考えてみましょう。</p> <p>また、言語はその話されている地域の文化から言語構造だけを切り離して独立して存在できません。言語と文化の関係を正しく理解することも言語学の立派な勉強になります。</p>					
授業の一般目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 言語の多様性について理解を深める。 2. 構造と体系について考える。 3. エチオピアの文化を理解する。 					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
出席点、課題、期末テスト。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
f1566@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012214010
開設科目名	対照言語学演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	PHILLIPS JOHN DAVID			区分	
授業の概要					
<p>Students will investigate aspects of the grammar and phonology of various languages, so as to understand the range of variation to be found in languages of the world.</p> <p>世界の言語の構造の多様性を理解するために、学生が様々な言語の文法や音韻を調査する。</p>					
授業の一般目標					
<p>Students will learn how to find information about a language and present that information. They will learn some ways in which languages differ.</p> <p>学生は言語についての情報を探し出しその情報を発表する方法を学ぶ。文法の幅広い多様性について学ぶ。</p>					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
<p>the content of presentations and accompanying materials.</p> <p>授業内口頭発表の内容および伴う資料(トステ無し)。</p>					
教科書					
参考書					
メッセージ					
授業では英語をよく使う。					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012214011
開設科目名	言語学演習(言語理論)			単位	2単位
対象学生				学年	4~4
担当教員	乾 秀行			区分	
授業の概要					
卒業論文を書くためのゼミ生(3,4年)対象のゼミ演習です。言語学の論文を演習発表形式で読むことを通して、データの集め方、論文の書き方などについて、指導をします。					
授業の一般目標					
1. 言語データの取り扱い方について学習する。 2. 論文の書き方について学習する。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
出席点、発表、期末レポート。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
ゼミ生は必ず履修してください。					
連絡先					
オフィスアワー					
f1566@yamaguchi-u.ac.jp					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012214012
開設科目名	言語情報処理学演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	PHILLIPS JOHN DAVID			区分	
授業の概要					
<p>プロログプログラミング(中級) Advanced programming in Prolog</p> <p>プロログで自然言語処理を応用する (NOT for beginners 初級プロログを必要とする。)</p>					
授業の一般目標					
自然言語処理の基礎から応用までを学ぶ。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
一週間おきに実施するプログラミングの宿題で判定する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
授業では英語をよく使う。					
連絡先					
初級プロログプログラミング					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012214013
開設科目名	言語学演習(音声と音韻)			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	乾 秀行			区分	
授業の概要					
<p>世界言語の様々な音声を音声分析ソフトを使って分析する授業です。日本語の母音の数は5つですが、もっとたくさんの母音を持つ言語を話す人々は、それらの音を区別しています。また、日本人には難しい英語の「r」と「l」の違いなどもよく耳にする話です。中国語や朝鮮語には有気音と呼ばれる強い息を伴う閉鎖音があります。このように、それぞれの言語には、音に関して様々な特徴があります。この授業では一般音声学的視点に立って、人間の言語音すべてを対象に、まず調音音声学的観点から言語音の出し方をマスターし、つぎにその言語音の違いを音響音声学的に調べてみましょう。</p>					
授業の一般目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 一般音声学の知識を身につける。 2. 音声分析ソフトを使って分析する。 3. 世界の言語の多様性を理解する。 					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
出席点、発表、期末レポート。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
ノートパソコンを使います。					
連絡先					
f1566@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012214014
開設科目名	対照言語学演習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	PHILLIPS JOHN DAVID			区分	
授業の概要					
Students will define writing, study how writing developed and spread, and how writing relates to spoken language.					
授業の一般目標					
In weekly classes students will demonstrate basic understanding of key concepts through in-class and outside-of-class assignments and class participation.					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
In-class assignments and homework:40%					
Project:40%					
Final exam:20%					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
jimreb@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012220001
開設科目名	日本語学			単位	2単位
対象学生				学年	1～3
担当教員	磯部 佳宏			区分	
授業の概要					
<p>本授業は日本語を論理的に分析し、理解を深めることを目的とする。まず、日本語の特徴を諸外国語と対照させて把握し、日本語とは何かを考える。次に日本語資料を通史的に見て、日本語の歴史の変遷や、先人たちが作り上げた表記上の工夫の足跡を辿る。さらに近年話題になっている「ことばの乱れ」について科学的に分析することで、ことばが抱える問題の本質に迫る。新語の発生においても歴史を遡って例を挙げ、発生のメカニズムを探る。以上のことを通して、時代とともに歩んできたことばの変遷に対する理解を深める。</p>					
授業の一般目標					
<p>外国語と対照し、日本語の特徴の概略を把握する。古代語から近代語までの、日本語の変遷のポイントをつかむ。ことばの変化の仕組みやその要因について理解する。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:日本語の辿ってきた変化の歴史について理解を深める。 思考・判断の観点:現代語の現状や流行語などの変遷について観察し、変化の理由を考察する。 関心・意欲の観点:ことばの変化について関心を持ち、日本語史資料から現代語との違いや変化の道筋を知ろうとする態度を育てる。 態度の観点:問題意識を持って授業に取り組むことができる。 技能・表現の観点:簡単な変体仮名の読み方を身につけ、考察したことを文章に表現できる。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>学期末に行う試験で判定するとともに、授業中の短いレポートも加味する。</p>					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012220002
開設科目名	日本語史			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	磯部 佳宏			区分	
授業の概要					
～ 語彙史～ 日本語の「語彙」について、その歴史について考える。					
授業の一般目標					
日本語の語彙を通史的に概観することにより、その本質的な特徴や問題点を考察する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 日本語の語彙に関する基本的な知識が身に付いているかを判断する。					
思考・判断の観点: 日本語の語彙に関する基本的な知識を使って、思考力を判断する。					
関心・意欲の観点: 授業に対する取り組みを判断する。					
成績評価方法(総合)					
期末試験を主たる評価の対象とする。 毎回、授業時に用紙を配布し、出席の確認を兼ねて、指示する内容について記入してもらう。					
教科書					
日本語史 / 沖森卓也: おうふう, 1989					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012220003
開設科目名	日本語学特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	林 伸一			区分	
授業の概要					
<p>前期授業に準ずる。ただし、構成的グループ・エンカウンターを次の点で応用することを検討する。留学生支援の可能性、異文化間理解の可能性、キャリア教育の可能性などについても追求する。日本語教師・国語教師としての自己理解、他者理解、相互理解のためのエクササイズ開発の可能性についても検討する。ソーシャル・スキル・トレーニングと構成的グループエンカウンターの違いについても考える。</p>					
授業の一般目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1、異文化間理解に役立つエンカウンター・エクササイズを実施し、検討する。 2、キャリア教育に役立つエンカウンター・エクササイズを実施し、検討する。 3、ソーシャル・スキル・トレーニングとエンカウンター・エクササイズの違いを理解する。 4、ペアワークの可能性とインタビューにおける質問力について検討する。 5、その他 					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 知識・理解の観点:					
<ol style="list-style-type: none"> 1、内なる異文化・地域差、男女差、年齢差などについて理解する。 2、生涯発達論の観点から、キャリア・デザインを考える。 					
思考・判断の観点: 思考・判断の観点:					
<ol style="list-style-type: none"> 1、類義語や類似表現について違いを考える。 2、言葉について、その意味・用法を考える。 					
関心・意欲の観点: 関心・意欲の観点:					
<ol style="list-style-type: none"> 1、身の回りの日本語表現についての関心を高める。 2、微妙なニュアンスの違いなどについて、調べてみる意欲をもつ。 					
態度の観点: 態度の観点:					
<ol style="list-style-type: none"> 1、わからないことをそのまましておかないで、積極的に調べたり、聞いたりする態度を形成する。 2、授業内容に集中する態度を形成する。 					
技能・表現の観点: 技能・表現の観点:					
<ol style="list-style-type: none"> 1、他者理解のための質問力を身につける。 2、他者の立場を尊重しながらも、自己主張できるようにする。 					
その他の観点: その他の観点:					
外国人留学生と日本人学生の交流を促進する					
成績評価方法(総合)					
成績評価方法(総合)					
出席、レポートを重視し、テストは行なわない。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
<p>メッセージ 日本語教師志望者、留学生の参加を歓迎する。</p> <p>他学科、他コースの学生の参加を歓迎する。</p>					
連絡先					

E-mail: hayashix@yamaguchi-u.ac.jp

携帯: 090-6415-8203

オフィスアワー

連絡先: オフィスアワー 研究室: 人文学部2階 210-2 号室 オフィスアワー: 木曜 11 時 ~ 12 時

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012220004
開設科目名	日本語学講読			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	林 伸一			区分	

授業の概要

日本語教育を異文化コミュニケーションの現場としてとらえ直すことによって、他者とのかかわり方や自分自身のコミュニケーションスタイルなどについての「自己」への気づきを促す。

知識・理解 思考・判断 関心・意欲 態度 技能・表現 その他 評価割合(%) JABEE 収集資料

定期試験(中間・期末試験)	評価に加えず	
小テスト・授業内レポート	20%	
宿題・授業外レポート	10%	
授業態度・授業への参加度	10%	
受講者の発表(プレゼン)・授業内での制作作品		20%
演習	20%	
出席	20%	
その他	評価に加えず	
合計	100%	0%

授業の一般目標

- 1、異文化とは何か考える。
- 2、自分とは何かを考える。
- 3、イメージとステレオタイプについて考える。
- 4、人と出会うということについて考える。
- 5、人とコミュニケーションするということについて考える。
- 6、非言語コミュニケーションについて考える。
- 7、価値観の相違を考える。

授業の到達目標

知識・理解の観点: 1、文化とは何か、異文化とは何かについて理解する

2、ジョハリの窓について知識と理解を深める

思考・判断の観点: 思考・判断の観点:

1、ステレオタイプを崩していく

2、出会いと人生のドラマ

関心・意欲の観点: 関心・意欲の観点:

1、言語的コミュニケーションへの関心と意欲

2、非言語コミュニケーションへの関心と意欲

態度の観点: 態度の観点:

1、価値観が違う者への態度

2、多文化共生社会への態度

技能・表現の観点: 技能・表現の観点:

1、自己開示、自己表現、自己主張能力

2、質問力

成績評価方法(総合)

成績評価方法(総合)

出席、発表、レポートを重視し、テストは行なわない。

教科書

参考書

メッセージ

メッセージ 日本語教師志望者・国語教師志望者・海外派遣留学生・外国人留学生歓迎

連絡先

E-mail: hayashix@yamaguchi-u.ac.jp

携帯: 090 - 6415 - 8203

オフィスアワー

研究室: 人文学部2階210-2号室、オフィスアワー: 木曜11時~12時

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012220005
開設科目名	日本語学講読			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	磯部 佳宏			区分	
授業の概要					
～古文の文法～ 主として高校生や大学教養向けに執筆された古典文法のテキストの、「助動脩詞」について説明された箇所を演習形式で講読する。					
授業の一般目標					
古典語の「助動脩詞」について、テキストの記述を基に、自発的に問題点を見つけ、調査を行い、結果を資料にまとめて発表する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 問題点の設定と取り組み。					
思考・判断の観点: 発表資料のまとめ方。					
関心・意欲の観点: 質疑応答への参加度。					
技能・表現の観点: 口頭発表における技術・表現。					
成績評価方法(総合)					
授業時の口頭発表 質疑応答への参加度。テキストの例文の現代語訳 期末レポート。					
教科書					
古文の文法 / 馬淵和夫: 武蔵野書院, 1963					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012220006
開設科目名	日本語学演習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	林 伸一			区分	
授業の概要					
授業の概要					
前期の概要に準ずるが、その発展として、卒業論文の内容の吟味に入り、文章記述に一貫性、整合性、説得力があるか否かを検討する。参加者も傍観的に見るのではなく、もし自分が書き手だったら、どう考え、どう書くか主体的に関わるようにする。					
知識・理解 思考・判断 関心・意欲 態度 技能・表現 その他 評価割合(%) JABEE 収集資料					
定期試験(中間・期末試験) 評価に加えず					
小テスト・授業内レポート 20%					
宿題・授業外レポート 20%					
授業態度・授業への参加度 20%					
受講者の発表(プレゼン)・授業内での制作作品 20%					
演習 10%					
出席 10%					
その他 評価に加えず					
合計 100% 0%					
授業の一般目標					
授業の一般目標					
1、文章記述に一貫性、整合性、説得力があるかという視点から検討する。					
2、文章記述に無駄や重複がないか、簡潔に書かれているかを検討する。					
3、文章記述にわかりやすい適切な具体例が示されているか否かを検討する。					
4、気づいたこと、感じたこと、考えたことを書き留める習慣を形成する。					
5、参加者の前で資料に基づいて発表する力:プレゼンテーション能力をつける。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 前期に同じ					
思考・判断の観点: 前期に同じ					
関心・意欲の観点: 前期に同じ					
態度の観点: 前期に同じ					
技能・表現の観点: 前期に同じ					
成績評価方法(総合)					
前期に同じ					
教科書					
参考書					
メッセージ					
メッセージ 興味、関心を形にする。					
連絡先					
連絡先: オフィスアワー hayashix@yamaguchi-u.ac.jp 携帯 090 - 6415-8203					
オフィスアワー					

連絡先・オフィスアワー hayashix@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー:木曜 11-12時
携帯 090 - 6415-8203

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012220007
開設科目名	日本語学演習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	磯部 佳宏			区分	
授業の概要					
～中世日記文学の語法・語彙～ 中世の女流日記文学『とはずがたり』を演習形式で講読し、その語法・語彙について考察する。					
授業の一般目標					
中世日記文学の語法・語彙について、自発的に問題点を探し、調査を行い、資料を作成して発表を行う。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 問題点の設定と取り組み。					
思考・判断の観点: 発表資料のまとめ方。					
関心・意欲の観点: 質疑応答への参加度。					
技能・表現の観点: 口頭発表における技術・表現。					
成績評価方法(総合)					
授業時の口頭発表 質疑応答への参加度。テキストの現代語訳 期末レポート。					
教科書					
とはずがたり<四> / 伊地知鉄男:笠間書院, 1972					
参考書					
とはずがたり(新日本古典文学大系) / 三角洋一:岩波書店, 1994					
とはずがたり(新潮日本古典集成) / 福田秀一:新潮社, 1988					
とはずがたり(新編日本古典文学全集) / 久保田淳:小学館, 1999					
とはずがたり総索引 / 辻村俊樹:笠間書院, 1992					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012220008
開設科目名	日本文学概論			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	平野 芳信			区分	
授業の概要					
日本文学をその起源としての和歌に求め、言語を表現媒体とする時間芸術としての文学(小説が中心になると思われますが、)について述語を中心に講述します。					
授業の一般目標					
各項目(述語)に即して具体的な作品を分析しますが、あくまでも日本文学における伝達媒体としての言語の本質を明らかにすることを最終的な目標としています。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
定期試験(中間・期末試験) 100%					
出席 欠格条件					
教科書					
参考書					
メッセージ					
講義でふれた具体的な作品を実際に読むことを希望します。					
連絡先					
個人研究室電話番号:933 - 5262 Eメールアドレス:y-hirano@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
追って、指示します。					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012220009
開設科目名	日本文学史			単位	
対象学生				学年	1～3
担当教員	尾崎 千佳			区分	
授業の概要					
[近世文学の諸相とその展開] 徳川政権下約三百年間の文芸を、時代環境や作品・作家の性格に即したトピックごとに講じます。近世という時代は、広範な作者と読者の層に支えられて、多種多様な文芸作品を生み出しました。それらの抱え込む、伝統と革新／雅と俗／人情と義理といった、相反する命題の諸相について、代表的作品を読み解きつつ、考えてゆきたいと思います。					
授業の一般目標					
近世文学史上の代表的作家と作品について、基礎知識の習得を目指します。あわせて、文学史が時代の状況や思潮と絡み合いながら展開することを学び、古典作品研究のあり方とその意義について、各自の考察を促します。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 近世前期小説史上の主要作家・作品について基礎知識を習得する。					
思考・判断の観点: 近世前期文学の展開を促した諸条件について理解する。					
関心・意欲の観点: 自らの課題を持ち積極的能動的に授業に参加することができる。					
成績評価方法(総合)					
期末試験 80%、アンケート票記入による授業態度 20%、出欠は欠格条件(4回の無断欠席で期末試験受験資格失効)					
教科書					
年表資料近世文学史 / 松崎仁・白石梯三・谷脇理史:笠間書院, 1977					
参考書					
日本文学新史(近世) / 松田修編:至文堂, 1990					
近世の日本文学 / 長島弘明・清登典子:放送大学教育振興会, 2003					
メッセージ					
連絡先					
研究室: 人文 508 電話: 083-933-5257 E-mail: ozaki@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012220010
開設科目名	日本文学特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	平野 芳信			区分	
授業の概要					
村上春樹について、その作家像と作品を絡めて、講述します。					
授業の一般目標					
ノーベル賞の呼び声も高い日本を代表する小説家村上春樹の1980年代の活動を中心に論述することになるかと思ひます。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
定期試験(中間・期末試験) 80%					
出席 20%					
教科書					
参考書					
メッセージ					
極力、春樹の作品を読んで下さい。					
連絡先					
個人研究室 933 - 5262					
y-hirano@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
追って、指示します。					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012220011
開設科目名	日本文学特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	尾崎 千佳			区分	
授業の概要					
<p>[連歌師の紀行文 西山宗因『奥州塩竈記』を読む]近世前期を代表する連歌師・俳諧師 西山宗因の紀行文を精読する。『奥州塩竈記』は、五十八歳の宗因が、寛文二年(1662)七月、奥州岩城平藩主・内藤忠興の城下を訪ね、そのまま江戸に出て越年するまでの、約半年間の動静を綴った作品である。本作には宗因自筆本(もしくはその忠実な写本)が五本も存在し、しかもひとつとして同じ本文ではない。諸本の検討を経て、古典引用のあり方に留意しながら作品世界を読み解き、『奥の細道』に約三十年先だって成立した本作の到達点を把握してみたい。</p>					
授業の一般目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1.連歌師 / 俳諧師の文章の型と主題を理解する。 2.諸本研究の意義を理解する。 3.近世文学における古典引用の意義を理解する。 4.研究上の問題設定と論証のあり方の例に触れ、みずからの卒業論文への備えとする。 					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:1.本文を校合し校異について考察することができる。</p> <p>2.近世文学作品における古典引用について指摘することができる。</p> <p>思考・判断の観点:1.連歌師 / 俳諧師の文章について、示される解釈に沿って精読することができる。</p> <p>2.研究上の問題設定と論証のあり方を習得する。</p>					
成績評価方法(総合)					
各人がみずからの課題を設定して論述する形式の期末テストによって評価する。4回の無断欠席でその受験資格を失う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
研究室: 人文 508 電話: 933-5257 E-mail: ozaki@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012220012
開設科目名	日本文学特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	中原 豊			区分	
授業の概要					
日本の近代詩を代表する詩人である中原中也の詩を、近代詩の歴史の中で捉える。					
授業の一般目標					
詩の本質と表現の特徴を理解し、日本の近代詩の歴史の概略をふまえた上で、中原中也の詩のもつ特質を理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 詩の表現、日本の近代詩、および中原中也の詩の特質を理解する。					
思考・判断の観点: 言葉によって形成されるイメージについて自覚的になり、さらにそれを拡充していく。					
関心・意欲の観点: 進んで講義で扱う詩人および他の詩人の詩を読もうとする。					
技能・表現の観点: 自身の抱くイメージを自分なりの言葉で表現できる。					
成績評価方法(総合)					
小レポートの内容および期末試験の得点から総合的に判断する。					
教科書					
中原中也全詩集:角川ソフィア文庫,2007					
参考書					
詩とは何か / 嶋岡農:新潮社,1998					
メッセージ					
講義で取り上げる詩を読んでおいてください。					
連絡先					
オフィスアワー					
中原中也記念館(山口市湯田温泉 1-11-21 083-932-6430)					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012220013
開設科目名	日本文学講読			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	平野 芳信			区分	
授業の概要					
森絵都の『永遠の出口』を精読します。					
授業の一般目標					
『永遠の出口』は児童文学者であった森絵都が、その殻を破って大人の読者に向けて発表した最初の作品です。主人公の10歳から18歳までの9年間で描かれていて、児童文学であって、児童文学ではない不思議なテイストを味わいながら読みたいと思います					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
宿題・授業外レポート 40%					
授業態度・授業への参加度 10%					
受講者の発表(プレゼン)・授業内での制作作品 40%					
出席 10%					
教科書					
文庫 永遠の出口 / 森絵都:集英社					
参考書					
メッセージ					
講読日誌を作成していただきますので、ノートを1冊準備しておくように。					
連絡先					
個人研究室 933 - 5262					
y-hirano@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
追って、指示します。					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012220014
開設科目名	日本文学講読			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	森野 正弘			区分	
授業の概要					
『枕草子』の講読					
授業の一般目標					
古典文学を読解する力を身につける。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 古典文学作品に書かれた内容を正確に読み取るための知識を得ることができる。					
思考・判断の観点: 古典文学作品に書かれた内容を通じて多面的な物の見方・考え方ができるようになる。					
関心・意欲の観点: 古典文学作品に関連する歴史的文化的事項について自発的に調べることができるようになる。					
成績評価方法(総合)					
発表内容とレポートによる。					
教科書					
新編日本古典文学全集『枕草子』 / 松尾聰・永井和子: 小学館, 1997					
参考書					
角川ソフィア文庫『新版枕草子・付現代語訳(上・下巻)』 / 石田穰二・訳注: 角川書店, 2005					
枕草子大事典 / 枕草子研究会: 勉誠出版, 2001					
新日本古典文学大系『枕草子』 / 渡辺実・校注: 岩波書店, 1991					
枕草子解環(全5冊) / 萩谷朴: 同朋舎, 1981					
新潮日本古典集成『枕草子』(上・下) / 萩谷朴: 新潮社, 1977					
メッセージ					
出席状況80%未満の者は欠格とする。					
連絡先					
morino@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
水曜日 5・6時限					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012220015
開設科目名	日本文学講読			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	尾崎 千佳			区分	
授業の概要					
<p>〔西鶴『世間胸算用』を読む〕元禄五年(1692)刊『世間胸算用』は、西鶴生存中最後に出版された小説で、多彩な語り口と緻密な構成によって、その傑作のひとつに数えられる作品である。話の舞台は大晦日、話の形式はオムニバス。最も劇的な一日をやり過ごす町人たちの、したたかで明るく、ほんの少し悲しい姿が、巧みに描き出されている。後期は、巻五 三「平太郎殿」を精読したい。</p>					
授業の一般目標					
<p>1. 西鶴浮世草子作品を通して、近世文学読解の基本的あり方を習得する。 2. 西鶴浮世草子作品を通して、中古中世文学の咀嚼の上になる近世文学の醍醐味を感得する。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:近世文学読解のための文献調査法の基礎を習得する。 思考・判断の観点:作品の主題を的確に把握できる。 態度の観点:他の参加者の解釈について積極的に意見を述べることができる。 技能・表現の観点:調査結果に基づいたみずからの解釈について適切に発表することができる。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>担当の発表資料と発表内容を最重視し、期末レポートとして発表資料の修正版を課す。試験は行わない。授業時の質疑も評価に加える。</p>					
教科書					
<p>西鶴錦印叢刊『世間胸算用』 / 西島孜哉編; 和泉書院, 1998 対訳西鶴全集 13『世間胸算用』 / 麻生磯次・富士昭雄校注; 明治書院, 1984</p>					
参考書					
<p>大晦日を笑う『世間胸算用』 / 広嶋進; 清文堂出版, 2005</p>					
メッセージ					
<p>西鶴の小説には現代劇にもよく通じる面白さがあり、そのリアルな語り口と息もつかせぬ急展開が魅力です。</p>					
連絡先					
<p>研究室: 人文 508 電話: 933-5257 E-mail: ozaki@yamaguchi-u.ac.jp</p>					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012220016
開設科目名	日本文学演習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	平野 芳信			区分	
授業の概要					
卒業論文作成の直接的な指導、助言を行うための演習を実施します。					
授業の一般目標					
この演習を通して、ゼミ構成員各自が、卒業論文作成のための具体的な方法を体得していただきたい。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
授業態度・授業への参加度 30%					
受講者の発表(プレゼン)・授業内での制作作品 30%					
演習 30%					
出席 10%					
教科書					
参考書					
メッセージ					
発表の順番はあくまでも予定です。就職活動等々によって、変更があることを承知しておいてください。					
なお、4年生用の時間ですので、2、3年生は受講しないように。					
連絡先					
個人研究室 933 - 5262					
y-hirano@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
追って、指示します。					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012220017
開設科目名	日本文学演習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	森野 正弘			区分	
授業の概要					
『源氏物語』の研究					
授業の一般目標					
古典文学の研究を進めていくうえで必要な基礎知識の習得、及び分析力・論理的思考力を身につける。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 古典文学作品に書かれた内容を正確に読み取るための知識を得ることができる。					
思考・判断の観点: 古典文学作品に書かれた内容や研究論文を通じて多面的な物の見方・考え方ができるようになる。					
関心・意欲の観点: 自発的に古典文学作品を読み進め、関連する事項について調査することができるようになる。					
態度の観点: 古典文学作品に提起されている問題を主体的に考え、自ら探究することができるようになる。					
技能・表現の観点: 考察した結果を文章や口頭で適切に表現できるようになる。					
成績評価方法(総合)					
発表内容とレポートによる。					
教科書					
新編日本古典文学全集『源氏物語』(全6冊) / 阿部秋生ほか: 小学館, 1994					
新日本古典文学大系『源氏物語』(全5冊) / 柳井滋ほか: 岩波書店, 1993					
参考書					
新日本古典文学大系別巻『源氏物語索引』 / 柳井滋ほか: 岩波書店, 1999					
源氏物語事典 / 林田孝和ほか: 大和書房, 2002					
人物で読む源氏物語(全20巻) / 上原作和・編集: 勉誠出版, 2005					
源氏物語の鑑賞と基礎知識(全43冊) / 鈴木一雄・監修: 至文堂, 1998					
別冊国文学『新・源氏物語必携』 / 秋山虔・編: 学燈社, 1997					
メッセージ					
『源氏物語』の「何について」考察したいのか、各自あらかじめ考えてきたうえで第1回目の授業に臨んでください。八割以上出席すること。					
連絡先					
morino@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
水曜日 5・6 時限					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012220018
開設科目名	日本文学演習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	尾崎 千佳			区分	
授業の概要					
<p>【『大坂独吟集』重安独吟百韻註釈】延宝三年(1675)刊『大坂独吟集』は、談林俳諧の盟主・西山宗因が評語を付し点をかけた百韻十巻を集める、談林俳諧の代表的作品である。謡曲の文句取りを駆使した軽妙な表現と、古典作品の大胆なパロディが生む笑いを精読して、談林俳諧の意義と達成につき考察を深めたい。後期は、下巻所収の重安独吟「薬喰や」百韻の二折裏から三折裏をとりあげる。連句と評語が織りなす、師弟のコラボレーションにも注目したい。また、実作にもチャレンジして、連歌・俳諧の精神や作法を実践的に習得しよう。</p>					
授業の一般目標					
<p>1.近世文学の読解に必要な、文献調査法の習得から、古典註釈の基礎を学ぶ。 2.詠作と鑑賞が同時に繰り返される「座」の文芸＝俳諧連句の作法と精神を知り、談林俳諧の意義と達成につき、考察を深める。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:1.近世文学読解のために必要な文献調査の方法を習得する。 2.古典文学註釈の基礎を習得する。 思考・判断の観点:1.俳諧連句の作法と精神を理解する。 2.中古中世文学との比較を通して、近世文学の到達点を理解する。 態度の観点:1.他の参加者の解釈について、積極的に意見を述べることができる。 技能・表現の観点:1.調査結果に基づいたみずからの解釈について、適切に発表することができる。 2.意欲的に実作に参加し、連歌・俳諧の精神や作法を実践的に会得することができる。</p>					
成績評価方法(総合)					
発表時の資料と内容を最重視し、期末レポートとして発表資料の修正版提出を課す。試験は行わない。授業時の質疑応答も評価に加える。					
教科書					
近世文学資料類従古俳諧編 29『大坂独吟集』 / 乾裕幸他解説: 勉誠社, 1976					
参考書					
新日本古典文学大系 69『初期俳諧集』 / 乾裕幸他校注: 岩波書店, 1991 新版連句への招待 / 乾裕幸・白石悌三: 和泉書院, 1989					
メッセージ					
俳諧は、さまざまな読みの試みが可能な文芸です。多くの方にとっては未知の分野でしょうが、初心者でも十分対応できますので、臆せず受講してください。頭が柔らかくなります。					
連絡先					
研究室: 人文 508 電話: 933-5257 E-mail: ozaki@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012221001
開設科目名	中国語学概説			単位	
対象学生				学年	2～3
担当教員	富平 美波			区分	
授業の概要					
<p>中国で生まれた漢字は、発音を直接には表示せず、互いに意味の異なる語を表示仕分ける働きを持つ。そういう特殊な文字体系は、漢字で書かれる書面語に、中国語が内包する多様な方言差を覆い隠す「目で見える共通語」としての役割を与え、更に、外国語の表記手段としても取り入れられて、所謂「漢字文化圏」を形成した。</p> <p>本講義では、漢字の持つ性質と、中国におけるその発達・使用の歴史について、入門的な知識を概説する。</p> <p>1)漢字の字形は、中国語のどの部分を単位として、それをどのように区別しようとして、形作られてきたのか</p> <p>(2)現代に至るまでの書体の変遷</p> <p>(3)漢字研究の歴史</p> <p>(4)現代中国における漢字の簡略化の概要</p> <p>等について、略述する予定である。</p>					
授業の一般目標					
<p>(1)漢字の性質について基本的な考え方を理解させる。</p> <p>(2)漢字研究の歴史について、基礎的知識を持たせる。</p> <p>(3)近代中国における漢字の簡略化について、基礎的知識を持たせる。</p> <p>(4)中国語学の諸問題について主体的に学習・考察する態度を養成する。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:(1)漢字の性質について簡単な説明ができる。</p> <p>(2)漢字研究の歴史について簡単な説明ができる。</p> <p>(3)近代中国における漢字の簡略化について簡単な説明ができる。</p> <p>関心・意欲の観点:中国語の諸特徴について問題意識を持ち、関心を持ったテーマについて主体的に学習・考察することができる。</p> <p>技能・表現の観点:関心を持ったテーマについて主体的に学習・考察して成果を、文章にまとめることができる。正しいレポートの体裁とはどのようなものか、基本的知識を身に付ける。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>おしまいに、授業内容に関連を持つテーマを選んでレポートしてもらい、また、授業中に設問に答えてもらうほか、随時、感想や質問を自由に書いてもらう機会を作る。これらにより授業への理解度と主体的学習への意欲を評価する。なお、出席が3分の2に満たない者には単位を与えない。</p>					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
<p>人文学部5階515室 tel:933-5251</p>					
オフィスアワー					
<p>月曜日:12:50～14:20</p>					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012221002
開設科目名	中国語学特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	更科 慎一			区分	
授業の概要					
中国語(漢語)は話者人口が多い上に分布地域も広く、その内部は差異がたいへんに大きい。本講義では、中国語の方言の区分、発音上の特徴などを概観してその多様性の一端に触れつつ、それほど多様な言語群がなぜ一つの言語の方言と見做されているのかを考える。					
授業の一般目標					
1.ふいだん勉強している標準中国語の背景にある諸方言の多様性を理解する。 2.中国語方言学研究的意義を理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 中国語の方言区分について理解する。 各方言グループの音韻的特徴について理解する。					
思考・判断の観点: 中国語の諸方言間に見られる音韻対応がどのような現象の結果であるか、説明できる。 中国語の諸方言を話す人々が一つに結ばれている要因を考えることができる。					
態度の観点: 中国語方言学研究的意義について、主体的に考えることができる。					
成績評価方法(総合)					
学期末に提出させるレポートによるほか、授業への参加度も一定程度考慮する。					
教科書					
参考書					
現代漢語方言音庫:上海教育出版社 漢語方音字彙:文字改革出版社 現代漢語方言概論 / 侯精一[主編]:上海教育出版社, 2002 中国の諸言語 / S.R.ラムゼイ:大修館書店, 1990					
メッセージ					
本講義に対する理解をより良いものとするために、本年度に開講される佐藤昭先生の集中講義を履修しておくことを、強く勧めます。					
連絡先					
更科慎一 研究室:人文516、電話:933-5250					
オフィスアワー					
月曜日 12:50-16:00					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012221003
開設科目名	中国語学講読			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	更科 慎一			区分	
授業の概要					
周振鶴、游汝傑著「方言与中国文化」を読む。					
授業の一般目標					
(1)中国語の方言の形成史と、その文化的背景について理解を深める。 (2)現代中国語の論文文体に慣れ、読解と翻訳の実力を増強する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1.中国語の方言の特徴について言語学的に述べるができる。 2.中国語の方言の成立に文化的諸要素がどのように関わったかを説明することができる。 3.中国語学の基本的用語を理解することができる。					
技能・表現の観点: 1.現代中国語文を正しい発音で音読することができる。 2.現代中国語文を的確に日本語に訳すことができる。 3.中国語学や中国文化に特有の事物について、必要な文献を検索し、参照することができる。					
成績評価方法(総合)					
レポート(上記「授業計画」を参照)の提出を課する。 いわゆる出席点はない。全体の2/3以上出席しない学生には、単位を与えない。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
なるべく多くの漢字の発音を覚え、また語彙を増やすよう心がけてください。地理や歴史に対する関心を持つことも大事です。					
連絡先					
研究室 人文研究棟516室 電話 083-933-5250					
オフィスアワー					
月曜日 12:50-16:00					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012221004
開設科目名	中国語学演習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	富平 美波			区分	
授業の概要					
前期の授業に引き続き、中国語の文法と特徴ある表現について文献を読解しつつ学ぶ。中国語を学ぶ外国人を対象に現代中国で編集された教科書類からふさわしい部分を選んで講読し、中国語文法に関する知識を身につけるとともに、現代中国語の読解能力を高める。					
授業の一般目標					
中国語の文法及び特徴的表現形式について一定の理解を得させ、あわせて現代中国語で書かれた語学関係の文献の読解能力を養う。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 中国語文法の特徴及び特徴ある表現形式のいくつかを知る。					
初級レベルでは学ばない現代中国語の表現形式のいくつかをマスターする。					
思考・判断の観点: 現代中国語の文章が読解できる。					
関心・意欲の観点: 中国語文法について関心を持ち、自主的に学習できる。					
成績評価方法(総合)					
毎回の授業における課題の達成度と学期末のレポートにより、授業内容に対する理解度と主体的学習態度を評価する。なお、出席が3分の2に満たない者には単位を与えない。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
中国語辞典を持参してください。					
連絡先					
研究室: 人文学部5階515室 tel: 933-5251					
オフィスアワー					
月曜日 12:50 ~ 14:20					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012221005
開設科目名	中国文学史			単位	2単位
対象学生				学年	1～3
担当教員	根ヶ山 徹			区分	
授業の概要					
「中国文学史Ⅰ」に引き続き、中国古代から清朝まで(民国以前)の文学について概観する。					
授業の一般目標					
中国の各時代の作家と文学作品に関して、基本的知識を身につけ、個々の作品の読解を通じて、中国文化に対する理解を深めることを目標とする。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 中国古典文学の主要なジャンルと作品、また特質について説明できる。					
思考・判断の観点: 中国古典文学の歴史的展開を説明できる。					
関心・意欲の観点: 中国古典文学を通して、ひろく中国の文化について関心を抱く。					
態度の観点: 授業で紹介した参考文献に目を通す。					
技能・表現の観点: 中国古典文学の読解が可能になる。					
成績評価方法(総合)					
期末試験の成績により評価する。					
教科書					
中国文学概論 / 岩城秀夫:朋友書店, 1995					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012221006
開設科目名	中国文学特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	阿部 泰記			区分	
授業の概要					
<p>包拯伝説の歴史的展開について講じる。包拯は北宋時代の官吏で、毅然とした態度で奸臣に立ち向かいその野望を挫いたため、民衆に慕われてその業績が文学に取材されて伝説的な人物となり、現代中国でも「包公」と言えば知らない人はいないし、崇拜の対象ともなっている。本講義ではこうした文学を媒体とした包拯の伝説を具体的に紹介していくとともに、関連した伝説、信仰、民俗について受講者が自主的に研究する方法を伝授する。</p>					
授業の一般目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1.中国の政治と文学の関係について理解を深める。 2.伝説が文学を媒体として拡散することを理解する。 3.伝説が事実として認識される事象について理解する。 4.中国の物語のジャンルについて知る。 5.伝説と信仰との関係について考える。 					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:1.包拯という人物の業績について知る。 2.包拯の伝説に取材した文学を知る。 3.包拯を祀った廟の分布を知る。</p> <p>思考・判断の観点:1.民衆がなぜ包拯を慕うのかを考える。 2.民衆にとって文学とは何かを考える。</p> <p>関心・意欲の観点:1.包拯について図書館で文献を調べてみる。 2.インターネットで包拯に取材した文学や包公廟について検索してみる。</p> <p>態度の観点:1.授業を真剣に聞く態度をやしなう。 2.授業の内容をノートする態度をやしなう。</p> <p>技能・表現の観点:1.手際よくノートする訓練をする。 2.中国のインターネットを検索する能力を身につける。</p>					
成績評価方法(総合)					
<ol style="list-style-type: none"> 1.出席・レポート提出ができない者は評価の対象外である。 2.どれだけ授業を理解できたかを評価の基準とする。 					
教科書					
参考書					
<p>包公伝説の形成と展開 / 阿部泰記: 東京: 汲古書院, 2004</p> <p>中国の公案小説 / 莊司格一: 東京: 研文出版, 1988</p>					
メッセージ					
連絡先					
abey@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012221007
開設科目名	中国文学講読			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	根ヶ山 徹			区分	
授業の概要					
湯頭祖の『牡丹亭還魂記』を、兪為民校注本によって読む。					
授業の一般目標					
古代漢語で書かれた原文を読解し、分析する能力を養うことを目標とする。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 中国戯曲演劇史のなかでの、『牡丹亭還魂記』の位置づけを理解する。					
思考・判断の観点: 作品の主題を的確に把握できる。					
関心・意欲の観点: 明代の白話文学の特質について関心をいだく。					
態度の観点: 出典などについて、適切に調べることができる。					
技能・表現の観点: 本文・注釈についての解釈を、適切に発表することができる。					
成績評価方法(総合)					
教科書					
牡丹亭 / 湯頭祖撰・兪為民導読・黄山書社, 2001					
参考書					
戯曲集(下) / 田中謙二編・平凡社, 1970					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012221008
開設科目名	中国文学演習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	阿部 泰記			区分	
授業の概要					
本演習では、受講者が選定した研究テーマに関する研究方法を学習する。					
授業の一般目標					
1.物語の媒体となる文学の形式を理解する。 2.物語の主題を考察する。 3.物語の現代的意義を考察する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1.物語文学の代表的な作品を知る。 2.物語文学の文体を知る。					
思考・判断の観点: 1.物語文学の主題を考える。 2.物語文学の歴史を考える。					
関心・意欲の観点: 1.物語文学のおもしろさを感じる。 2.物語文学をすすんで読むようになる。					
態度の観点: 1.物語文学の読解につとめる。 2.辞書を丹念に調べる。					
技能・表現の観点: 1.流暢な日本語に翻訳できる。 2.中国語と日本語の表現に注意する。					
成績評価方法(総合)					
予習による評価					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
abey@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012221009
開設科目名	中国語演習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	田 梅			区分	
授業の概要					
前期の授業に引き続き、応用会話能力を高めることを目指す。発音、語彙、文法など共通教育で習得した項目の確認、整理と拡充をしながら、具体的な場面を設定した対話を繰り返し読んで、暗誦して、それからグループ或はペアの形式で発表する。					
授業の一般目標					
1. 基本的な会話が流暢にする。 2. よく使う慣用型、文型を身につけて、状況に応じて正しいコミュニケーションの方法、技法を習得する。 3. 関心することについて質問と答えの方法など十分理解し、運用できる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 慣用型、文型を身につけて、正しいコミュニケーションの方法、技法ができる。					
思考・判断の観点: 中国と日本、中国語と日本語の異なる発想、規則、習慣など判断、区別、運用できる。					
関心・意欲の観点: 中国語の言葉の背景や中国の文化、事情に理解、関心を抱く。					
態度の観点: 授業中の勉強だけでなく、授業外の予習、復習も自発的に勉強できる					
技能・表現の観点: 関心することについての質問、答えの方法が運用できる。日常生活についての会話が流暢に話せる。					
成績評価方法(総合)					
授業外の宿題と授業中の小テスト、板書を評価する。 受講態度と予習発表の正しさを評価する。 期末に試験を実施する。 出席が3分の2に満たない者には単位が与えない。					
教科書					
実用中国語10課 2 / 劉愛莉・王桂紅ら:白帝社, 2008					
参考書					
メッセージ					
中国語初級1・2A/Bを習得した者に限り。 中国語演(作文)も履修する者が望ましい					
連絡先					
共通教育本棟3階 田研究室 内 線:5591 E-mail: tian@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
月曜日:16:00～18:00 火曜日:16:00～18:00					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012221010
開設科目名	中国語演習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	田 梅			区分	
授業の概要					
前期に引き続き、中国のセンテンスをどう組み立てるのか勉強して、和文中訳、中文和訳、誤文訂正など多くの練習をして、短文、作文及び表現能力を高めることを目指す。					
授業の一般目標					
1常用単文の組み立て。 2常用複文の組み立て。 3常用虚詞のくみため。 4作文で正確の表現能力を習得する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 慣用型、文型を身につけて、訳文、短文の方法、形式を運用できる。					
思考・判断の観点: 中国と日本、中国語と日本語の異なる発想、規則、習慣など判断、区別、運用できる。					
関心・意欲の観点: 中国、中国語、中国事情に理解、関心を持つ。					
態度の観点: 授業中の勉強だけでなく、授業外の予習、復習も自発的に勉強できる。					
技能・表現の観点: 自分の考え、感心することなど正しく表現できる短文、作文をできる。					
成績評価方法(総合)					
授業外の宿題と授業中の小テスト、板書を評価する。 受講態度と予習発表の正しさを評価する。 期末に試験を実施する。 出席が3分の2に満たない者には単位が与えない。					
教科書					
大学生のための現代化中国語 12話 / 杉野元子、黄漢青: 白帝社, 2007					
参考書					
メッセージ					
中国語初級1・2A/Bを習得した者に限り。 中国語演(会話)も履修する者が望ましい。					
連絡先					
共通教育本棟3階 田研究室 内 線: 5591 E-mail: tian@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
月曜日: 16:00～18:00 火曜日: 16:00～18:00					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012221011
開設科目名	中国事情			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	林 宇萍			区分	
授業の概要					
中国の風俗・習慣などについて概説する。					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
中華文化概要 / 李道湘 于銘松: 上海三聯書店, 2007					
中国節日 / 章黎明: 五洲伝播出版社, 2005					
中国文化への誘い / 桂小蘭等: 郁文堂, 2007					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012222001
開設科目名	言語学概論			単位	2単位
対象学生				学年	1～3
担当教員	平野 尊誠			区分	
授業の概要					
<p>「ことば」が科学の対象になることを先ず理解してもらおう。具体的な内容は、鹿児島市、都城市、東京都、京都市のアクセントを取り上げ、それらの違いは決してバラバラではないことを理解してもらおう。つまり、同系の言語内の相違は、異質なものであることを明らかにする。講義には、講師が集めた録音資料を使用する。</p>					
授業の一般目標					
<p>言語学概論は一年生から受講可能である。従って、一番の目標は「ことば」に対する興味を喚起することである。それも科学的観点からの興味である。私達に身近な方言が科学的研究の対象になることを理解してもらえようような講義にしたい。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 毎回の内容を、言語学的観点から理解しているか。 思考・判断の観点: データを科学的観点から分析できるか。 関心・意欲の観点: 講義前に、予習をしてきているか。 態度の観点: 興味を持って講義に参加しているか。 技能・表現の観点: 考えたことを、分かりやすく簡潔に説明できるか。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>定期試験を重視する。また理解度を見るために、授業外のレポート課すことがある。</p>					
教科書					
参考書					
メッセージ					
<p>数学的な思考が必要である。</p>					
連絡先					
<p>人文617研究室 mail-address:hirano01@yamaguchi-u.ac.jp</p>					
オフィスアワー					
<p>未定</p>					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012222002
開設科目名	言語学特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	平野 尊識			区分	
授業の概要					
日本語を言語類型論の観点から考察する。即ち、日本語を英語など世界の諸言語と比較して、日本語の性質、世界の諸言語の類似する点、相違する点などを考察する。					
授業の一般目標					
この講義の目標は、主に以下の二つである。					
目標1. 言語類型論の観点から日本語を考察すること。又、この考察の結果を言語教育に応用する方法も検討すること。考察・検討する項目は以下の通りである。(i) 語順 (ii) 格 (iii) Silverstein の名詞句階層 (iv) 他動性 (v) 二項述語階層 (vi) 所有傾斜 (vii) 主語、主格、主題、動作者: 文法分析の四つのレベル (viii) 日本語は特殊な言語ではない。しかし、英語は特殊な言語だ。(ix) 言語教育への提案。この授業は言語類型論の入門も兼ねる。					
目標2. 文法研究の方法を検討すること。この検討の結果を用いて、日本語文法を考察する。この授業は文法研究方法論の入門も兼ねる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1. 世界の諸言語の似ている点と異なる点。					
2. 日本語が世界の諸言語の似ている点と異なる点。					
3. 文法研究の方法。					
4. 言語教育への応用。					
思考・判断の観点: 日本語や英語などに関する先入観を排除すること。					
関心・意欲の観点: 本語や英語だけでなく、様々な言語に関心を持つこと。					
態度の観点: 授業で、積極的に質問、討論を行うこと。					
技能・表現の観点: 自分が考えたことを正確に、簡潔に表現すること。					
成績評価方法(総合)					
宿題 授業外レポートによる。ただし、知識・理解、思考・判断、関心・意欲、態度、技能・表現の観点を各20点で採点し、合計100点とする。					
教科書					
『世界の言語と日本語(改訂版)』 / 角田太作: くらしお出版, 2009					
参考書					
Language universals and linguistic typology (Second edition). / Comrie, Bernard: The University of Chicago Press., 1989					
メッセージ					
言葉の研究は楽しいです!!!一緒に勉強しましょう。					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012222003
開設科目名	言語学特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	角田 太作			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012222004
開設科目名	言語学特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	林 伸一			区分	
授業の概要					
<p>前期授業に準ずる。ただし、構成的グループ・エンカウンターを次の点で応用することを検討する。留学生支援の可能性、異文化間理解の可能性、キャリア教育の可能性などについても追求する。日本語教師・国語教師としての自己理解、他者理解、相互理解のためのエクササイズ開発の可能性についても検討する。ソーシャル・スキル・トレーニングと構成的グループエンカウンターの違いについても考える。</p>					
授業の一般目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1、異文化間理解に役立つエンカウンター・エクササイズを実施し、検討する。 2、キャリア教育に役立つエンカウンター・エクササイズを実施し、検討する。 3、ソーシャル・スキル・トレーニングとエンカウンター・エクササイズの違いを理解する。 4、ペアワークの可能性とインタビューにおける質問力について検討する。 5、その他 					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 知識・理解の観点:					
<ol style="list-style-type: none"> 1、内なる異文化・地域差、男女差、年齢差などについて理解する。 2、生涯発達論の観点から、キャリア・デザインを考える。 					
思考・判断の観点: 思考・判断の観点:					
<ol style="list-style-type: none"> 1、類義語や類似表現について違いを考える。 2、る言葉について、その意味・用法を考える。 					
関心・意欲の観点: 関心・意欲の観点:					
<ol style="list-style-type: none"> 1、身の回りの日本語表現についての関心を高める。 2、微妙なニュアンスの違いなどについて、調べてみる意欲をもつ。 					
態度の観点: 態度の観点:					
<ol style="list-style-type: none"> 1、わからないことをそのまましておかないで、積極的に調べたり、聞いたりする態度を形成する。 2、授業内容に集中する態度を形成する。 					
技能・表現の観点: 技能・表現の観点:					
<ol style="list-style-type: none"> 1、他者理解のための質問力を身につける。 2、他者の立場を尊重しながらも、自己主張できるようにする。 					
その他の観点: その他の観点:					
外国人留学生と日本人学生の交流を促進する					
成績評価方法(総合)					
成績評価方法(総合)					
出席、レポートを重視し、テストは行なわない。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
<p>メッセージ 日本語教師志望者、留学生の参加を歓迎する。</p> <p>他学科、他コースの学生の参加を歓迎する。</p>					
連絡先					

E-mail: hayashix@yamaguchi-u.ac.jp

携帯: 090-6415-8203

オフィスアワー

連絡先: オフィスアワー 研究室: 人文学部2階 210-2 号室 オフィスアワー: 木曜 11 時 ~ 12 時

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012222005
開設科目名	言語学特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	更科 慎一			区分	
授業の概要					
中国語(漢語)は話者人口が多い上に分布地域も広く、その内部は差異がたいへんに大きい。本講義では、中国語の方言の区分、発音上の特徴などを概観してその多様性の一端に触れつつ、それほど多様な言語群がなぜ一つの言語の方言と見做されているのかを考える。					
授業の一般目標					
1.ふいだん勉強している標準中国語の背景にある諸方言の多様性を理解する。 2.中国語方言学研究的意義を理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 中国語の方言区分について理解する。 各方言グループの音韻的特徴について理解する。					
思考・判断の観点: 中国語の諸方言間に見られる音韻対応がどのような現象の結果であるか、説明できる。 中国語の諸方言を話す人々が一つに結ばれている要因を考えることができる。					
態度の観点: 中国語方言学研究的意義について、主体的に考えることができる。					
成績評価方法(総合)					
学期末に提出させるレポートによるほか、授業への参加度も一定程度考慮する。					
教科書					
参考書					
現代漢語方言音庫:上海教育出版社 漢語方音字彙:文字改革出版社 現代漢語方言概論 / 侯精一[主編]:上海教育出版社, 2002 中国の諸言語 / S.R.ラムゼイ:大修館書店, 1990					
メッセージ					
本講義に対する理解をより良いものとするために、本年度に開講される佐藤昭先生の集中講義を履修しておくことを、強く勧めます。					
連絡先					
更科慎一 研究室:人文516、電話:933-5250					
オフィスアワー					
月曜日 12:50-16:00					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012222006
開設科目名	言語学演習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	平野 尊識			区分	
授業の概要					
Radford, et. al. 1999. Linguistics: An introduction. この文献の中のパート3、Sentences を演習に使う。文の構造と性質について理解するためである。					
授業の一般目標					
英文で書かれた言語学の概説書を読むことにより、言語学を日本語を介さずに理解すること。特に、文の構造について理解を図る。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 文の構造と性質の理解					
思考・判断の観点: 説明を図式化する。					
関心・意欲の観点: 言語学の色々な領域にも関心を持つ。					
態度の観点: 予習をしてくる。					
技能・表現の観点: 内容を分かりやすく説明する。					
成績評価方法(総合)					
試験を中心に評価する。					
教科書					
Linguistics: An introduction. / Radford, Atkinson, Britain. Clahsen & Spencer: Cambridge Univ. Press., 1999					
参考書					
メッセージ					
必ず予習をして、演習に参加すること。					
連絡先					
人文617研究室 mail-address:hirano01@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
未定					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012222007
開設科目名	言語学演習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	赤羽 仁志			区分	
授業の概要					
前期に引き続き、英語で書かれたテキストの講読を行いながら、「ミニマリスト・プログラム」と呼ばれる生成文法の最近の枠組みを理解し、それをベースに英語の統語現象について考える基礎を養う。					
授業の一般目標					
英語の専門文献を読む力を養う。統語論の議論の仕方を理解する。英語の統語現象について説明ができるようになる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 演算子移動 主語 項移動 VP 殻 一致投射について理解する。					
思考・判断の観点: 統語現象がどのような仕組みにより生ずるのか(生じないのか)説明できる。					
技能・表現の観点: 専門的内容を分かり易く説明できる。					
成績評価方法(総合)					
授業への貢献(発表を含む)と期末レポートにより評価する。					
教科書					
Syntax: A minimalist introduction / Andrew Radford: Cambridge University Press, 1997					
参考書					
English Syntax: An Introduction / Jong-Bok Kim, Peter Sells: Stanford Univ Center for the Study					
Analysing English Sentences: A Minimalist Approach / Andrew Radford: Cambridge Univ Pr, 2009					
An Introduction to English Sentence Structure / Andrew Radford: Cambridge Univ Pr, 2009					
チョムスキー 理論辞典 / 原口庄輔 中村捷編: 研究社					
English Syntax: An introduction / Andrew Radford: Cambridge University Press, 2004					
メッセージ					
連絡先					
akahane@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
特に設けず、アポイントメントによる。					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012222008
開設科目名	言語学演習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	磯部 佳宏			区分	
授業の概要					
～中世日記文学の語法・語彙～ 中世の女流日記文学『とはずがたり』を演習形式で講読し、その語法・語彙について考察する。					
授業の一般目標					
中世日記文学の語法・語彙について、自発的に問題点を探し、調査を行い、資料を作成して発表を行う。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 問題点の設定と取り組み。					
思考・判断の観点: 発表資料のまとめ方。					
関心・意欲の観点: 質疑応答への参加度。					
技能・表現の観点: 口頭発表における技術・表現。					
成績評価方法(総合)					
授業時の口頭発表 質疑応答への参加度。テキストの現代語訳 期末レポート。					
教科書					
とはずがたり<四> / 伊地知鉄男:笠間書院, 1972					
参考書					
とはずがたり(新日本古典文学大系) / 三角洋一:岩波書店, 1994					
とはずがたり(新潮日本古典集成) / 福田秀一:新潮社, 1988					
とはずがたり(新編日本古典文学全集) / 久保田淳:小学館, 1999					
とはずがたり総索引 / 辻村俊樹:笠間書院, 1992					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012222009
開設科目名	個別言語演習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	平野 尊識			区分	
授業の概要					
CD付きの教科書を使って、ロシア語を学習する。ロシア語は文字に特徴があるので、文字を読めて、書けるようになるだけでも進歩である。ロシア語は、言語学的には印欧語であるが、話される地域は広い。アジア地域もその領域であるので、演習にロシア語を取り入れた。					
授業の一般目標					
ロシア語の文字が読めるようになること、書けるようになること。簡単な文をロシア語らしく発音できること。ロシア語の文法を理解すること。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: ロシア語の文法、文字、発音の理解。					
思考・判断の観点: 文法に関して言語学的に考察。					
関心・意欲の観点: 新しい言語に興味を持てるかどうか。					
態度の観点: 予習復習はできているか。					
成績評価方法(総合)					
予習復習を含めて、演習への取り組み方、時々行う小テスト。					
教科書					
ことたびロシア語 / 佐々木精治:白水社, 2003					
参考書					
メッセージ					
ロシア語の文字を覚えるの楽しい。いわゆるローマ字とは異なるので、秘密のメッセージとかに使うことも出来る。新しいことに挑戦する気持ちが大事です。					
連絡先					
人文617研究室 mail-address:hirano01@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
未定					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012223001
開設科目名	現代英米語概説			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	太田 聡			区分	
授業の概要					
英語の発音に関する正しい知識を伝授した上で、英語の音声や語形成に関する原則や制約を、日本語のそれらとも対照させながら、説明する。また、音節などの韻律単位が言語文化にどのような影響を与えうるのかを考える時間にもしたい。					
授業の一般目標					
日英語の発音や語形成に関する法則を比較し、言語の個性と普遍性を考える。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 日本語と英語のアクセントの法則の共通性に気づく。新しい語を生み出す法則を知る。					
思考・判断の観点: 知らない語句のアクセントを予測したり、可能な語と不可能な語の区別ができるようになる。					
関心・意欲の観点: 広く人間言語のアクセントの法則に興味を持つ。					
態度の観点: 「語とそのアクセント(発音)は暗記するもの」という考え方を捨て去る。					
成績評価方法(総合)					
期末筆記試験で評価する。なお、出席も重視し、欠席1回につき期末試験から5点ずつ減点する。					
教科書					
音韻構造とアクセント / 窪園晴夫・太田聡: 研究社, 1998					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
ohta@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012223002
開設科目名	英語史			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	赤羽 仁志			区分	
授業の概要					
英語の歴史的な発達過程について概説する。					
授業の一般目標					
大学で英語を専門に学ぶ者にとって必須とも言える英語の歴史や英語の仕組みについての基礎知識を身に付ける。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 英語がどのような経緯を辿って今日のような姿になり、現在、どのように世界中で使用されているのか、また、比較的最近、英語圏で言葉がどのような社会的問題となっているのか理解する。					
思考・判断の観点: 英語の仕組みについて歴史的に考察できる。					
関心・意欲の観点: 英語について、あるいは言語について、更なる好奇心・問題意識を持つ。					
態度の観点: 英語史の学習を通して国際的な視点・態度を身に付ける。					
成績評価方法(総合)					
評価は期末試験と古英語・中英語のテキスト音読、宿題によるが、出席状況も加味することがある。					
教科書					
図説 英語史入門 / 中尾俊夫、寺島迪子:大修館書店, 1988					
参考書					
英語の歴史 過去から未来への物語 / 寺澤盾:中央公論新社, 2008					
ベーシック英語史 / 家人葉子:ひつじ書房, 2007					
英語の歴史 / 小川浩、児馬修、本名信行、小倉美知子、浦田和幸、松浪有:大修館書店, 1995					
英語史 / 松浪有:大修館書店, 1986					
講談 英語の歴史 / 渡部昇一:PHP 研究所, 2001					
メッセージ					
連絡先					
akahane@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
特に設けず、アポイントメントによる。					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012223003
開設科目名	英語学特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	太田 聡			区分	
授業の概要					
日英語の語形成・形態論に関連したトピックスを論じていきます。「語は暗記するもの」と思われがちですが、暗記していなくても、一定の法則に従って新語を生み出していくことができるものです。そうした語形成の法則について学びましょう。					
授業の一般目標					
語形成に関する法則や制約を知り、そららを使って、可能な語と不可能な語の区別や説明ができるようになる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 語形成に関する法則や制約を知る。					
思考・判断の観点: 可能な語と不可能な語の区別ができるようになる。					
関心・意欲の観点: 暗記していたわけではない語の容認可能性や適格性について述べるようになる。					
成績評価方法(総合)					
各トピックの説明が終わるごとに小テスト、または、宿題・課題を出し、その出来具合によって評価する。欠席は1回につき5点減点とする。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
ohta@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012223004
開設科目名	英語学演習(文法と意味)			単位	2単位
対象学生				学年	2~3
担当教員	赤羽 仁志			区分	
授業の概要					
前期に引き続き、英語で書かれたテキストの講読を行いながら、「ミニマリスト・プログラム」と呼ばれる生成文法の最近の枠組みを理解し、それをベースに英語の統語現象について考える基礎を養う。					
授業の一般目標					
英語の専門文献を読む力を養う。 統語論の議論の仕方を理解する。 英語の統語現象について説明ができるようになる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 演算子移動 主語 項移動 VP 殻 一致投射について理解する。					
思考・判断の観点: 統語現象がどのような仕組みにより生ずるのか(生じないのか)説明できる。					
技能・表現の観点: 専門的内容を分かり易く説明できる。					
成績評価方法(総合)					
授業への貢献(発表を含む)と期末レポートにより評価する。					
教科書					
Syntax: A minimalist introduction / Andrew Radford: Cambridge University Press, 1997					
参考書					
English Syntax: An Introduction / Jong-Bok Kim, Peter Sells: Stanford Univ Center for the Study					
Analysing English Sentences: A Minimalist Approach / Andrew Radford: Cambridge Univ Pr, 2009					
An Introduction to English Sentence Structure / Andrew Radford: Cambridge Univ Pr, 2009					
チョムスキー 理論辞典 / 原口庄輔 中村捷編: 研究社					
English Syntax: An introduction / Andrew Radford: Cambridge University Press, 2004					
メッセージ					
連絡先					
akahane@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
特に設けず、アポイントメントによる。					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012223005
開設科目名	英語学演習(形態と音声)			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	太田 聡			区分	
授業の概要					
日本語の音声・音韻の諸特徴を詳しく学び、同時に、英語の音声・音韻との違いや類似点を考えます。					
授業の一般目標					
普段なにげなく発話している母語には、どのような音声特徴と、それに関係する法則が備わっているのかが分かるようになる。そしてそれらを、英語の音声特徴とも比較して、日英語の音声・音韻上の相違点や共通点ををきちんと説明でき、ひいては、英語の音声指導にも役立てることができるようになる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 日本語の音声・音韻の諸特徴を知る。そして、英語のそれらと比較・分析できるようになる。					
思考・判断の観点: 日英語の音声上の諸特徴の相違点と共通点を理解して、説明できるようになる。					
関心・意欲の観点: 表面的・印象的には随分異なる日英語の音声の中に、どのような類似性があるのかを考察するようにする。					
態度の観点: 積極的に質問をする。					
技能・表現の観点: 自分の担当箇所を、出席者全員が理解できるように、分かりやすく解説することができる。					
成績評価方法(総合)					
授業内での発表や小テスト、および、課題レポートの出来具合などによって総合的に評価する。出席を重視し、欠席1回につき期末評点から5点ずつ減点する。					
教科書					
日本語音声学入門(改定版) / 斎藤純男:三省堂, 2006					
参考書					
A Comprehensive Grammar of the English Language / Quirk, R. et al.: Longman, 1985					
メッセージ					
連絡先					
ohta@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012223006
開設科目名	英語学講読			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	岩部 浩三			区分	
授業の概要					
英語学の専門論文を読み、内容を解説します。					
授業の一般目標					
英語で書かれた専門論文に慣れ、自分で読めるようになる。あわせて、意味論・語用論の研究内容に触れ、関心を持つ。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 英語で書かれた論文の内容を把握して、用例を用いて日本語で説明できる。					
思考・判断の観点: 論文の一部分だけではなく、全体の主張を正しく把握して妥当性を判断できる。					
関心・意欲の観点: 疑問点を明確にし、質問できる。					
技能・表現の観点: 英語の専門論文になれ、内容を日本語で表現することができる。					
成績評価方法(総合)					
期末試験が90パーセント、授業時の演習10パーセントの割合で評価します。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
iwabe@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
金曜日 12:50-14:20 メールで事前にご連絡ください					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012223007
開設科目名	英文学史			単位	
対象学生				学年	2～3
担当教員	池園 宏			区分	
授業の概要					
<p>英文学の歴史を時代の流れに沿って体系的に講義する。作家や作品の単なる羅列に止まらず、具体的な作品の読み方や文学用語などを広く解説する英文学概論の性格を持った授業である。配布プリント等によりできるだけ多くの作品の原典に触れる機会を提供しながら、各々の時代の文学思潮や文人たちの具体的な創作活動について説明する。</p>					
授業の一般目標					
<p>英文学の包括的内容を習得し、英文学研究の基礎固めを行う。同時に、様々な文学作品の内容やその時代的背景を学ぶことにより、広い意味での異文化理解を深める。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 英文学史の具体的な流れ、及び主要な作家や作品について説明できる。</p> <p>思考・判断の観点: 作家や作品がどのような歴史的背景の中に位置づけられるかを論理的に思考できる。</p> <p>関心・意欲の観点: 英文学に対する積極的な関心を持つ。</p> <p>態度の観点: 常に問題意識を持って議論に参加できる。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>(1) 授業の中で小テストを複数回実施する。</p> <p>(2) 学期末に試験を1回実施する。</p> <p>(3) 出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。</p>					
教科書					
イギリス文学史 / 川崎寿彦: 成美堂, 1988					
参考書					
メッセージ					
<p>(1) 英語学・英米文学コース2年生、及び同コース3年生で英米文学専攻の学生は前後期を通じて受講すること。</p> <p>(2) 毎回出欠確認をするので、欠席や遅刻をしないこと。</p>					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012223008
開設科目名	英米文学特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	宮原 一成			区分	
授業の概要					
20世紀、特にその後半の英語圏文学において、とみに急増した「現在時制の語り」を用いた作品について、その文体的効果を、個別的そして包括的に考えていきます。					
授業の一般目標					
文章の内容ばかりでなく、その文体にも目配りすることで、文学というコミュニケーションのあり方や背景的状况について深く考察できるようになる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 現行の基本的な時間論、文体論、及び現代英文学作品の基礎知識を把握している。					
思考・判断の観点: 文体の効果について理論を立て、もしくは先行研究を適切に取舍選択し、自分なりの一貫した思考を紡ぐことができる。					
態度の観点: 継続して課題に取り組む姿勢をもつ。					
技能・表現の観点: 思考結果を、首尾一貫した日本語論説文形式で表現できる。					
成績評価方法(総合)					
数回の小レポートと、学期末筆記試験。無断欠席が三回を超えると、単位は出さない。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
miyahara@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
初回授業時に知らせます。					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012223009
開設科目名	英米文学特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	皆尾 麻弥			区分	
授業の概要					
Nathaniel Hawthorne(1804-1864)の短編を読む。					
授業の一般目標					
『緋文字』等の長編小説が有名である Hawthorne であるが、その短編もまた、同時代の作家であるメルヴィルやポーによって高く評価された。格調高い文章の凝縮した彼の短編を丹念に読むことによって、彼が生涯持ち続けたテーマ、彼の作品の特徴などを、考察する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 作品の具体的内容を理解する。					
思考・判断の観点: 作家が一つ一つの言葉にこめた思いを正確に捉える。文章の裏に隠された意味を考えて読む。					
関心・意欲の観点: Hawthorne の作品を積極的に読む。					
成績評価方法(総合)					
学期末にレポートを提出					
教科書					
Selected Tales and Sketches / Nathaniel Hawthorne: Penguin					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012223010
開設科目名	英米文学演習(小説)			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	池園 宏			区分	
授業の概要					
18世紀イギリスの文人 Oliver Goldsmith の小説 The Vicar of Wakefield を読む。作品の解釈や分析のみならず、英文法や発音など総合的な英語力の養成も行う。					
授業の一般目標					
(1)テキストを丹念に解釈することにより、Goldsmith の作家像及び 18 世紀英文学における位置づけを理解する。					
(2)英文法力や英文解釈力を身につける。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 作家や作品の具体的内容を説明できる。					
思考・判断の観点: 作品に盛り込まれた諸テーマを分析できる。					
関心・意欲の観点: 小説を読み解く行為に関心を持つ。					
態度の観点: 常に問題意識を持って議論に参加できる。					
成績評価方法(総合)					
(1)試験は学期末に1回実施する。					
(2)出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。					
教科書					
The Vicar of Wakefield / Oliver Goldsmith : Penguin , 1982					
参考書					
メッセージ					
(1)一年間を通して一人の作家に取り組むため、前後期を通して受講すること。					
(2)毎回出欠確認をするので、欠席や遅刻をしないこと。					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012223011
開設科目名	英米文学演習(詩・劇)			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	田中 晋			区分	
授業の概要					
英詩入門コース。チャオサーから現代に至るイギリスの名詩を、自然、愛、美、宗教、思想、その他の分野に亘って精しく鑑賞する。					
授業の一般目標					
英詩の世界に親しみその諸相を知り、言葉の魅力に触れて、英文学理解の上での基礎的必要知識を備える。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 英詩の語法を理解し、名詩の本質を知る。					
思考・判断の観点: 自分の解釈をもって教室に出る。					
関心・意欲の観点: 自ら多くの詩に親しむ。					
態度の観点: 積極的に授業に参加する。					
技能・表現の観点: はっきりした声で発表ができる。					
成績評価方法(総合)					
期末試験の結果に平常点(出席、受講態度等)を加味する。					
教科書					
Seasonal Poems of England / Peter Milward 編・川崎寿彦注: 南雲堂					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012223012
開設科目名	英米文学講読			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	宮原 一成			区分	
授業の概要					
英語文学作品をきちんと訳読し、鑑賞します。作品の持つテーマについて各自考察してもらいます。題材は、現代英国人作家5人の作品を収めた短篇集を使用します。					
授業の一般目標					
文化背景と感情・思考・会話の流れという、各種の文脈がすべてそろった文芸作品という絶好の読解教材を読みこなすことを通じて、真の読解力を錬成する。					
英語小説を読むための技法をいくつか習得する。					
作品世界やテーマについて、自分なりの所見を持つ。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 丹念に調べて、英文の意味を、流れの中で正確に理解できる。					
思考・判断の観点: 作品に込められたテーマについて、自分なりの所見を言語化できる。					
態度の観点: 自分の所見を積極的に発表し、議論に寄与できる。					
技能・表現の観点: 効果的・機能的な翻訳ができる。					
成績評価方法(総合)					
毎回の試読の出来と発表内容、及び他人の発表に対する建設的なコメントの3点から評価する。学期末試験は実施しない。無断欠席が3回を超えたら「不合格」とする。					
教科書					
『過去・夢・現実 イギリス短編小説五編』 / K. Ishiguro 他: 南雲堂, 1990					
参考書					
メッセージ					
まずは、構文理解と文法知識の再確認を優先しますが、内容テーマに関わる意見発表は大歓迎です。					
連絡先					
miyahara@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
初回授業時に知らせます。					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012223013
開設科目名	英米文学講読			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	皆尾 麻弥			区分	
授業の概要					
Henry James(1843 - 1916) の中篇 The Aspern Papers(1888)を読む					
授業の一般目標					
James の文章の魅力・特徴・表現の手法等にも注目しながら、正確に読む。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: テキストを正確に読むことができる					
思考・判断の観点: 難解な表現や文章を、知識と想像力によって解釈することができる					
関心・意欲の観点: James の作品に好奇心を持つ					
成績評価方法(総合)					
学期末にレポートを提出。普段の授業への取り組みも評価の対象になります。					
教科書					
The Aspern Papers and the Turn of the Screw / Henry James: Penguin					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012223014
開設科目名	英会話			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	EDWARDS NATHANIEL TYLER			区分	
授業の概要					
<p>1) Students will work together in pairs and groups to complete a variety of fun and interesting English activities.</p> <p>2) Students will increase their vocabulary on different useful topics.</p> <p>3) Students will learn and practice new study techniques.</p> <p>4) Students will ask and answer questions, using their own opinions.</p> <p>5) Students will use English to make plans, and to give short presentations.</p> <p>6) Students will learn how to use word and sentence stress.</p> <p>7) Students will write and perform role plays in different situations, and use gestures.</p>					
授業の一般目標					
This course is for students who wish to improve their English speaking, listening, communication, and presentation skills.					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
<p>Final Written and Oral Exam: 30% of Final Grade.</p> <p>Homework and Reports: 30%</p> <p>Attitude and Participation: 20%</p> <p>Presentations: 20%</p>					
教科書					
Impact Issues 1 / Richard R. Day: Pearson Longman , 2009					
参考書					
メッセージ					
Bring your dictionary and textbook to every class.					
連絡先					
ca72@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
14:30 16:00 (木)					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012223015
開設科目名	英会話			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	EDWARDS NATHANIEL TYLER			区分	
授業の概要					
<p>1) Students will work together in pairs and groups to complete a variety of fun and interesting English activities.</p> <p>2) Students will increase their vocabulary on different useful topics.</p> <p>3) Students will learn and practice new study techniques.</p> <p>4) Students will ask and answer questions, using their own opinions.</p> <p>5) Students will use English to make plans, and to give short presentations.</p> <p>6) Students will learn how to use word and sentence stress.</p> <p>7) Students will write and perform role plays in different situations, and use gestures.</p>					
授業の一般目標					
This course is for students who wish to improve their English speaking, listening, communication, and presentation skills.					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
Final Written and Oral Exam: 30% of Final Grade.					
Homework and Reports: 30%					
Attitude and Participation: 20%					
Presentations: 20%					
教科書					
New Survival English / Peter Viney : MacMillan Language House , 2004					
参考書					
メッセージ					
Bring your dictionary and textbook to every class.					
連絡先					
ca72@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
14:30 16:00 (木)					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012223016
開設科目名	英会話			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	EDWARDS NATHANIEL TYLER			区分	
授業の概要					
<p>1) Students will work together in pairs and groups to complete a variety of fun and interesting English activities.</p> <p>2) Students will increase their vocabulary on different useful topics.</p> <p>3) Students will learn and practice new study techniques.</p> <p>4) Students will ask and answer questions, using their own opinions.</p> <p>5) Students will use English to make plans, and to give short presentations.</p> <p>6) Students will learn how to use word and sentence stress.</p> <p>7) Students will write and perform role plays in different situations, and use gestures.</p>					
授業の一般目標					
This course is for students who wish to improve their English speaking, listening, communication, and presentation skills.					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
<p>Final Written and Oral Exam: 30% of Final Grade.</p> <p>Homework and Reports: 30%</p> <p>Attitude and Participation: 20%</p> <p>Presentations: 20%</p>					
教科書					
Impact Issues 1 / Richard R. Day: Pearson Longman , 2009					
参考書					
メッセージ					
Bring your dictionary and textbook to every class.					
連絡先					
ca72@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
14:30 16:00 (木)					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012223017
開設科目名	英作文			単位	2 単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	EDWARDS NATHANIEL TYLER			区分	
授業の概要					
<p>1) Students will read many different types of English writing as models for their own writing.</p> <p>2) Useful writing skills and strategies will be reviewed and practiced.</p> <p>3) Key grammar points will be reviewed and practiced.</p> <p>4) Students will increase their vocabulary on a variety of topics.</p> <p>5) Students will learn and use new study techniques.</p> <p>6) Students will also practice some speaking and listening by discussing their writing in pairs and small groups.</p>					
授業の一般目標					
This course is for students who wish to improve their English writing and reading skills, using a variety of different types of writing.					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
Final Written Exam: 20% of Final Grade.					
Homework and Reports: 60%					
Attitude and Participation: 20%					
教科書					
Reading Challenge 3 / Casey Malarcher, Andrea Janzen : Compass Publishing , 2005					
参考書					
メッセージ					
Bring your dictionary and textbook to every class.					
連絡先					
ca72@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
14:30 16:00 (木)					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012223018
開設科目名	時事英語			単位	2 単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	EDWARDS NATHANIEL TYLER			区分	
授業の概要					
<p>1) Students will improve their listening skills by listening to current news stories, and watching short, current news videos on the BBC website.</p> <p>2) Students will learn and practice new study techniques.</p> <p>3) Students will ask and answer questions, using their own opinions.</p> <p>4) Students will increase their vocabulary on a variety of current news topics.</p> <p>5) Students will work together in groups to complete discussion activities.</p> <p>6) Students will improve their English presentation skills.</p> <p>7) Students will also improve their reading by reading current news articles.</p>					
授業の一般目標					
This course is for students who wish to improve their speaking and listening skills, and to increase their vocabulary on a variety of current news topics. There will also be reading assignments for homework.					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
Final Written Exam: 30% of Final Grade. Homework and Reports: 50% Attitude and Participation: 20%					
教科書					
ABC World News 11 / Shigeru Yamane, Kathleen Yamane: Kinseido, 2009					
参考書					
メッセージ					
Bring your dictionary to every class.					
連絡先					
ca72@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
14:30 16:00 (木)					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012224001
開設科目名	ヨーロッパ言語概説(ドイツ)			単位	2単位
対象学生				学年	1～3
担当教員	本田 義昭			区分	
授業の概要					
現代ドイツ語の諸相について概説します。後期は、「ドイツ語における性差」、「外来語」、「慣用句」、「言葉から見たドイツの社会変化」などのテーマを扱う予定です。					
授業の一般目標					
現代ドイツ語についての基礎的知識を養う。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 現代ドイツ語についての基礎的知識を養う。					
思考・判断の観点: 言語が異なることが思考形式の違いにも影響を及ぼしていることを認識する。					
関心・意欲の観点: 言語と文化との関係を学ぶことで、異文化への関心を深める。					
成績評価方法(総合)					
平素の学習、特に授業への積極的参加を重視します。次のいずれかの場合は失格とします。1)最初の6回中3回欠席, 2)連続3回欠席, 3)通算4回欠席。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
共通教育で習うドイツ語を、別の観点から眺めてみませんか？					
連絡先					
honda@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012224002
開設科目名	ドイツ語学特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	下寄 正利			区分	
授業の概要					
ドイツ語の特徴を、英語と比較しつつ、様々な観点から論じてゆく。					
授業の一般目標					
ドイツ語の特徴について理解しているとともに、ドイツ語学の基本的なところがある程度身に付いている。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: ドイツ語の特徴について理解しているとともに、ドイツ語学の基本的なところがある程度身に付いている。					
成績評価方法(総合)					
期末テストにより評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012224003
開設科目名	ドイツ語学演習			単位	
対象学生				学年	2～3
担当教員	本田 義昭			区分	
授業の概要					
ドイツ語学の専門文献を批判的に読んで行きます。					
授業の一般目標					
将来ドイツ語学に関する卒業論文を書く可能性がある学生を対象に、ドイツ語学の専門文献を批判的に読みこなす力をつけることを目指します。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: ドイツ語学の専門的知識を習得する。					
思考・判断の観点: 論の展開の仕方を学ぶ。					
関心・意欲の観点: 広く言語現象への関心を深める。					
技能・表現の観点: ドイツ語学の専門文献を読む力を養う。					
成績評価方法(総合)					
平素の学習、特に授業への積極的参加を重視します。次のいずれかの場合は失格とします。1)最初の6回中3回欠席, 2)連続3回欠席, 3)通算4回欠席。 「演習」の観点は「授業態度・授業への参加度」および「受講者の発表(プレゼン)・授業内での制作作品」で評価します。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
授業への積極的な参加を期待しています。					
連絡先					
honda@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012224004
開設科目名	ドイツ文学特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	2~3
担当教員	HINTEREDER EMDE FRANZ			区分	
授業の概要					
宮崎駿の『アルプスの少女ハイジ』は、日本人なら誰でも知っているし、世界的に有名なアニメ作品です。原作の『ハイジの修業時代と遍歴時代』(1880年)は、典型的な児童文学の作品ですが、スイスのドイツ語文学としては殆ど意識されていません。原作のタイトルは、ドイツの文豪ゲーテの代表作『ヴィルヘルム・マイスターの遍歴時代』と意識したものです。そうすると、『ハイジ』はある意味においては、教養小説の伝統をついでいる作品でもあります。					
授業の一般目標					
この講義では、アニメの映像(さらに可能なら他のものも含めて)も取り入れて、原作と比較しながら、「スイス」という文化的なイメージと現実のドイツ語圏の文化空間について話します。勿論、他のスイスの作家達(ケラ、フリッシュ、ヴァルザーなど)の作品にも触れることがあります。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 19世紀や世紀末の中央ヨーロッパの文化的な背景を把握することができる。					
思考・判断の観点: 原文や周辺資料の解読によって、その時代や文化的な実体を理解する。					
関心・意欲の観点: スイスやドイツ語圏の文学への関心をもって、文化的なイメージや文化の現状について学ぶ。					
成績評価方法(総合)					
授業ないレポート(感想文):30%、宿題・授業外のレポート:50%、参加や出席:20%					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
電話 933 - 5687 mail emde@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
月曜日 12:50 ~ 14:20					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012224005
開設科目名	ドイツ文学演習			単位	
対象学生				学年	2～3
担当教員	坂本 貴志			区分	
授業の概要					
ドイツ文学、ヨーロッパ文化に関して様々なテーマを学ぶ。					
授業の一般目標					
ドイツ文学、ヨーロッパ文化に関して参加者が自らテーマを選び、これについて考察した内容をレポートし、検討を加える。テーマの選び方、文献の読解方法、考察の仕方など、人文科学における基本的な素養・手法を学ぶ。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
授業内レポートと期末のレポートによる。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012224006
開設科目名	ドイツ語講読			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	HINTEREDER EMDE FRANZ			区分	
授業の概要					
参加者は、自ら選んだドイツ文化圏の文学作品を和訳で読んで、全体の作品を授業で紹介します。そして、触りの箇所をドイツ語で皆で読んでいきます。					
授業の一般目標					
ドイツ文学やその背景の基本的な知識を身につくことと文学の歴史的な文脈を理解すること。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 具体的な作品を通じて、ドイツ文学の歴史と特徴を把握する。					
関心・意欲の観点: ドイツ文学への関心を持って、数々の作品の読書に取り組むこと					
技能・表現の観点: 文学作品について文章・口頭表現ができる					
成績評価方法(総合)					
発表:40%、レポート:40%、参加や態度:20%					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
電話 933 - 5687					
mail emde@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
月曜日 12:50 ~ 14:20					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012224007
開設科目名	ドイツ語講読			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	坂本 貴志			区分	
授業の概要					
<p>フリードリヒ二世に関するドイツ語のテキストを読む。フリードリヒ二世(1194-1250)はドイツとイタリアを縦につなぐ一つの軸であり、シュタウフェン王朝最後の神聖ローマ帝国皇帝はドイツ国王であってシチリアのパレルモに宮廷をもった。彼はパレルモに世界初の動植物園を作り、鷹狩りを人類最高の学問と見なし、イタリアのプーリアの山の上に不可思議な八角形の城を建て、また教皇にせつかれて行った十字軍遠征で、聖地を外交的対話によって平和に回復した。時代の水準を遙かに超越した教養人、政治家、コスモポリタンについて、ドイツ語で学ぶ。</p>					
授業の一般目標					
ドイツ語の基本的な読解力を涵養することを第一の目的としている。文法的知識の点検が必要となる。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
出席状況と期末レポートによる。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012224008
開設科目名	ドイツ語会話			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	DOBRA FELICITAS VIKTORIA			区分	

授業の概要

本授業は、まず第一に基礎的なコミュニケーション能力を身につけさせる、言い換えれば、一年目に学んだことを復習し、確かなものにするを目的とする。文型は、より意識的に応用されなければならない。これらの文型は、学生によってパートナー練習やグループ練習の中で練習され、学生の生活やさまざまなコミュニケーションの状況に関連する文例によって補強される。教科書の文章は、ドイツ事情を伝える内容である。各課の終わりに、日本語による文法の説明がある。

授業の一般目標

学生は提示された文型に従って、簡単な会話を行える程度の知識を習得することができる。話すことと発音練習がこの授業の重点である。文法は授業の目的ではないが、目標に到達するために通らねばならぬ道である。したがって、各課の文法も教授され、習得されたかどうか吟味される。文法は、コミュニカティブに有意な練習を通じて伝えられる。学生は教科書の中に描写されたいくつかのシチュエーションによって、文化間の相違を確認することができる。授業の重点は、教科書の題名に示唆されている「問題発見」にある。学生は、これまでに学んできたことを思い出しながら、世界についての自己の知識を活用して、比較的最近に学んだ新しい言語で言い表すことができる。

授業の到達目標

知識・理解の観点:教科書には聴解と発音の訓練用のCDが付属している。音声練習が学生の理解を助け、聴解力を鍛えるであろう。自分自身が話すときにはなまりがあるにしても、大きな声ではっきりと話すように努めるべきである。

思考・判断の観点:教科書には聴解と発音の訓練用のCDが付属している。音声練習が学生の理解を助け、聴解力を鍛えるであろう。自分自身が話すときにはなまりがあるにしても、大きな声ではっきりと話すように努めるべきである。

関心・意欲の観点:学生と教師は、感情を合わせ会って話すように努める。緊張は、楽しい練習プリントや歌および自由会話練習(プリント無し)によって緩和されるであろう。授業は学生と教師双方によって楽しいものに形成されていくべきである。

技能・表現の観点:

学生は、コミュニケーションにとって重要な表現を表情豊かに話すことを学ぶ。

態度の観点:学生は語彙を増やし、会話文の構造を習得し、自分の生活の中から取り出した情報を会話文型の中に組み入れることができるようにならなければならない。一学期終わったところで、教科書の会話文をお手本にして自分自身の文章を作って、コミュニケーションを行うことができるようになる。パートナー練習は、授業の一つの構成要素である。宿題は学習効果を高め、一步一步段階的にコミュニケーション・テストの会話構成部分を習得させる。多くの自主性が要求される。

技能・表現の観点:学生は、コミュニケーションにとって重要な表現を表情豊かに話すことを学ぶ。

その他の観点:本授業を履修する以上、規則正しい出席と教科書の購入は必須である。

成績評価方法(総合)

定期試験:筆記試験(45分)、会話試験(定期試験期間中に実施)レポート

教科書

Modelle 2 モデル2問題発見のドイツ語 / アンドレアスリースランド藁谷郁美村クリストフごろう平高史也:三修者, 2005

参考書**メッセージ**

辞書をでも電子辞書を持って来て下さい。しかし会話が一番です。

連絡先

dobra@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

山口吉田研究室

水曜日12:30 ~ 13:30

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012224009
開設科目名	ドイツ語会話			単位	2単位
対象学生				学年	2~3
担当教員	DOBRA FELICITAS VIKTORIA			区分	
授業の概要					
コミュニケーション手段としてのドイツ語を勉強します。2年次に学習したドイツ語文法をふまえて会話の練習を主にします。文法も学習しますが、これはほとんど2年次の復習です。					
授業の一般目標					
ドイツ語会話の基礎的能力をふまえ、より高いレベルでの会話技術を身につけることを目標とします。					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:教科書には聴解と発音の訓練用のCDが付属している。音声練習が学生の理解を助け、聴解力を鍛えるであろう。自分自身が話すときにはなまりがあるにしても、大きな声ではっきりと話すように努めるべきである。</p> <p>思考・判断の観点:学生は語彙を増やし、会話文の構造を習得し、自分の生活の中から取り出した情報を会話文型の中に組み入れることができるようにならなければならない。</p> <p>一学期終わったところで、教科書の会話文をお手本にして自分自身の文章を作って、コミュニケーションを行うことができるようになる。パートナー練習は、授業の一つの構成要素である。宿題は学習効果を高め、一步一步段階的にコミュニケーション・テストの会話構成部分を習得させる。多くの自主性が要求される。</p> <p>関心・意欲の観点:学生と教師は、感情を合わせ会って話すように努める。緊張は、楽しい練習プリントや歌および自由会話練習(プリント無し)によって緩和されるであろう。授業は学生と教師双方によって楽しいものに形成されていくべきである。</p> <p>態度の観点:班別のチームワークでは学生同士でお互いに協力し政局的に授業参加すること。</p> <p>技能・表現の観点:学生は、コミュニケーションにとって重要な表現を表情豊かに話すことを学ぶ。</p> <p>その他の観点:本授業を履修する以上、規則正しい出席と教科書の購入は必須である。</p>					
成績評価方法(総合)					
会話テスト / 出席 / レポート / 授業の態度					
教科書					
Modelle 3 モデル3 問題発見のドイツ語 / 平高史也 / アンドレアスリースランド / 藁谷郁美木村クリストフごろうマルコラインデル:三修者, 2006					
参考書					
メッセージ					
辞書をか電子辞書を持って来て下さい。ただ会話が一番です。					
連絡先					
dobra@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
山口吉田 研究室 ドーブラ 共通教育 3F 水曜日 12:30~13:30					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012224010
開設科目名	ドイツ語作文			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	下寄 正利			区分	
授業の概要					
ドイツ語作文の教科書を用いて、ドイツ語作文の訓練を行う。そのほか、数回、何らかのテーマを与え、それについて自由に作文を書いてもらう予定でいる。教科書は、受講者のドイツ語力を勘案して決める。					
授業の一般目標					
ドイツ語作文力の向上。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: ドイツ語の初級文法をしっかりと身に付けている。					
技能・表現の観点: きちんとしたドイツ語を書くことができるのはもちろんのこと、より高度なドイツ語表現ができる。					
成績評価方法(総合)					
授業中に行う練習問題の解答、レポート、期末試験による。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012224011
開設科目名	フランス語学特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	武本 雅嗣			区分	
授業の概要					
今年度は「フランス語史」の講義を行う。半年間で、インド・ヨーロッパ祖語からラテン語を経て現代フランス語が成立するまでの流れを概観する。					
授業の一般目標					
古フランス語、中期フランス語、近代フランス語、現代フランス語の特徴を理解し、とくに近代フランス語が正確に読めるようになる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 現代フランス語が成立するまでの流れを把握する。					
思考・判断の観点: 古フランス語、中期フランス語、近代フランス語、現代フランス語の特徴を指摘できる。					
関心・意欲の観点: 文献の講読に参加する。					
技能・表現の観点: 古フランス語、中期フランス語、近代フランス語の文献の読解ができる。					
成績評価方法(総合)					
授業への参加:40%					
レポート:60%					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
人文612研究室					
オフィスアワー					
火曜日 16:10-17:40					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012224012
開設科目名	フランス語学演習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	武本 雅嗣			区分	
授業の概要					
前期に続いて後期も、Le gerondif en francais を読んでいく。					
授業の一般目標					
フランス語で書かれた論文を読むことによって、フランス語学の知識を深めるだけでなく、論文の書き方や議論の展開の仕方をも学んでいく。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 論文を正確に読める。					
思考・判断の観点: 疑問点を解決する					
関心・意欲の観点: 議論に参加できる。					
成績評価方法(総合)					
レポート:60%					
授業内発表:40%					
教科書					
参考書					
メッセージ					
毎回予習しておくこと。					
連絡先					
人文612研究室					
オフィスアワー					
火曜日 16:10～17:40					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012224013
開設科目名	ヨーロッパ文学入門(フランス)			単位	2単位
対象学生				学年	1～3
担当教員	井上 三朗			区分	
授業の概要					
19世紀・20世紀フランスの、3人の偉大な小説家の作品を取り上げ、紹介・解説する。すなわちバルザックの『ゴリオ爺さん』(『人間喜劇』)、プルーストの『失われた時を求めて』、アンドレ・ジイドの『贖金づかい』である。これらの作品を読解・分析することをとおして、フランス文学の具体的なかたちを知るとともに、19世紀以後のフランス小説のおおざっぱな流れを把握したい。					
授業の一般目標					
数は少ないが、フランス文学の代表的作品を具体的に取り上げることによって、文学の流れの理解を目指す。歴史を前面に出すと、話が退屈になる傾向があるので、作品を個別的に紹介しつつ、歴史に言及したい。また、この授業は入門の授業であるが、作品を論じることになるので、文学研究の際の参考になれば幸いである。さらに、作品を具体的に知ってもらうことによって、興味が湧けば、実際に読んでもらいたいと願っている。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: フランス文学の代表的作品を具体的に知り、合わせて、フランス小説の流れを把握することができる。					
思考・判断の観点: 作品の読み方、文学研究のしかたにかんして、一定程度示唆を得ることができる。人間とは何か、生きるとは何か、について考えることができる。					
関心・意欲の観点: フランス文学への積極的な関心を持つことができる。授業で取り上げる作品を実際に読むことができる。					
成績評価方法(総合)					
定期試験の点数(70点)と平常点(30点)との総合。					
教科書					
参考書					
フランス文学案内 / 渡辺一夫他:岩波文庫 フランス文学史 / 響庭孝男他:白水社					
メッセージ					
授業への積極的な参加を望む。授業で取り上げる作品をできるだけ読んでほしいと願っている。					
連絡先					
613研究室。					
オフィスアワー					
14時30分～16時00分。					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012224014
開設科目名	フランス文学演習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	井上 三朗			区分	
授業の概要					
サルトルとともに、20世紀の実存主義の思想家としても知られる、アルベール・カミュの小説「異邦人」をテキストに用いる。この作品をテキストに用いることで、カミュの作品世界をかいま見たい。単に訳読に終始することなく、作品の分析をこころみること、文学作品の研究のしかた、論じ方を学ぶことができると願っている。					
授業の一般目標					
比較的平易な小説のフランス語を読むことによって、フランス語の読解力を養成することを目指すのはもちろんである。と同時に、作品の分析をこころみることによって、文学作品の分析能力を身につけることができると願っている。概要のところでも述べたように、文学研究の際になんらかの参考になれば幸いである。また、思考力、論理を展開する能力が養えればと願っている。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 小説のフランス語の読解力の向上。					
思考・判断の観点: 文学作品の分析能力の養成。					
関心・意欲の観点: カミュの文学世界への関心。					
技能・表現の観点: 論理的思考の養成。					
成績評価方法(総合)					
平常点を重視する。授業は受講者に順番に当てて、訳読と分析をしてもらうので、発表の際の成績がかなり成績評価の比重を占めることになる。また、学期の終わりには、レポートを提出してもらうことを考えている。					
教科書					
参考書					
異邦人 / アルベール・カミュ: 新潮文庫					
メッセージ					
授業への積極的な参加が望まれる。自分の考えていることを、自由に発表することが期待される。					
連絡先					
613研究室。					
オフィスアワー					
月曜日14時30分～16時00分。					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012224015
開設科目名	フランス語講読			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	井上 三朗			区分	
授業の概要					
20世紀の小説家、アンドレ・ドートルの短編小説『不思議な蝶』と『銀のボール』をテキストとして用いる。これらの作品を味読・精読することで、小説を読むことのよこびを味わいたい。授業では、発音の練習や文法の説明もおこなう。時間的余裕があれば、作品の分析もおこないたいと思っている。					
授業の一般目標					
小説のフランス語に慣れるとともに、フランス語の読解力の養成を目指す。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 小説のフランス語の読解力を養うことができる。アンドレ・ドートルの文学世界を知ることができる。					
思考・判断の観点: 短編小説の作り方について考えることができる。					
関心・意欲の観点: 小説を読むよこびを味わうことによって、文学に興味を持つことができる。					
成績評価方法(総合)					
定期試験の点数(50点)と平常点(50点)との総合で評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
授業への積極的な参加を望む。					
連絡先					
613研究室					
オフィスアワー					
月曜日14時30分～16時00分。					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012224016
開設科目名	フランス語講読			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	武本 雅嗣			区分	
授業の概要					
社会学的な見地からパリについて書かれた文献を読んでいく。					
授業の一般目標					
パリおよびフランスの様々な側面を理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: パリの歴史と現状を把握し、フランスの様々な側面を理解する。					
思考・判断の観点: 相対的・複眼的な視点を持てるようになる。					
成績評価方法(総合)					
レポート:60%					
授業態度や授業への参加度:40%					
教科書					
参考書					
メッセージ					
毎回予習してくること。					
連絡先					
人文612研究室					
オフィスアワー					
火曜日 16:10～17:40					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012224017
開設科目名	フランス語会話			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	Beausir Jean Claude			区分	
授業の概要					
このコースは初級フランス語を総合的にレベルアップさせ、フランス語での基礎的なコミュニケーションに積極的に参加できるような理解力と表現力を習得することを目標にしています。					
授業の一般目標					
この講座は、フランス語を学ぶ学生のために簡単な挨拶や日常会話を取り入れながら、初級～中級フランス語を習得して伝達力を伸ばすことを目指します。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 漠然とした曖昧な知識ではなくフランス語自体の仕組み、文法を芯から理解することを目標としています。					
関心・意欲の観点: フランス語以外のこと(文化、歴史、音楽、雑学)などにも自分から興味を持ち視野を広げ柔軟性のある思考力を養います。					
成績評価方法(総合)					
一回の会話定期考査と平均点(授業態度、出席状況など)を総合的に評価します。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012224018
開設科目名	フランス語作文			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	平山 豊			区分	
授業の概要					
動詞の直説法、条件法、接続法のさまざまな時制に基づく文例を、単純な文型から順次複雑な文型へと進める。更には平叙文、疑問文、否定文、命令文など文の種類も授業ごとの基軸単位になる。またニュアンス表現や語法にも留意しながら作文をする。					
授業の一般目標					
日本語の文を出発点に、一語一語の逐語訳ではなく、フランス語の文法規則を踏まえた、自然なフランス語を作る練習をする。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 動詞の活用、慣用表現、慣用語法の習得。					
思考・判断の観点: 異なった視点による物事の把握					
技能・表現の観点: 正確な表現の実現。					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
中級仏作文 / 小林 路易:白水社, 2008					
フランス語作文の基礎 / 中原俊夫:白水社, 2008					
フランス語の手紙 / 市川 慎一:白水社, 2008					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012225001
開設科目名	一般言語学			単位	2単位
対象学生				学年	1～3
担当教員	乾 秀行			区分	
授業の概要					
<p>「一般言語学」とは、日本語や英語などの個別言語に特化されることなく、人間の言語一般に当てはまる「ことば」について考える学問です。この授業では、具体的な言語現象(主に日本語)を取り上げながら、言語学では言語というものをどのように扱っているかを、できるだけわかりやすく説明します。皆さんは大なり小なり「ことば」に関心があると思いますが、言語学を勉強することで、ことばのしくみについての理解が深まるでしょうし、今まで間違っていた理解がたぶん見つかるはず。ことばについての新たな発見の旅をはじめませんか? 「一般言語学」では、語の意味・文の意味(意味論)、言語の多様性と類型(類型論)について、その研究方法を概説します。</p>					
授業の一般目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 言語学とはどういう学問であるかを理解する。 2. 言語学の主要分野についての理解を深める。 3. 言語の多様性を理解する。 					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
出席点、課題、期末テスト。					
教科書					
言語学 第2版 / 風間喜代三他、東京大学出版会、2004					
参考書					
メッセージ					
授業はブログを使ってやります。毎回ノートパソコンを持ってきてください。					
連絡先					
f1566@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012225002
開設科目名	言語類型論特殊講義			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	乾 秀行			区分	
授業の概要					
日本語の系統をめぐる問題は、明治以来日本語に関する最も大きな問題の一つとして言語学者の間だけでなく広く一般の関心を集めてきました。それは日本文化の発祥や日本民族の起源という、多くの人にとって興味のある問題と密接に関連しているからです。そこで本講義では、従来の日本語系統論の議論を検証するため、後期は全く新しい切り口として言語類型地理論的観点からこの問題に迫ってみることにします。					
授業の一般目標					
言語類型地理論について理解を深める。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
出席点、小レポート、期末レポート。					
教科書					
世界言語のなかの日本語－日本語系統論の新たな地平 / 松本克己: 三省堂, 2007					
参考書					
メッセージ					
ノートパソコンを使用します。					
連絡先					
f1566@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012225003
開設科目名	歴史言語学特殊講義			単位	
対象学生				学年	2～3
担当教員	下寄 正利			区分	
授業の概要					
比較言語学・歴史言語学がどのようなものかについて、またその方法論について概説する。授業は、主にヨーロッパの言語の例を用いて進めてゆく。					
授業の一般目標					
比較言語学・歴史言語学がどのようなものかについて、またその方法論について凡そのところを理解している。言語の歴史に関心を持っている。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 比較言語学・歴史言語学がどのようなものかについて、またその方法論について凡そのところを理解している。					
関心・意欲の観点: 言語の歴史に関心を持っている。					
成績評価方法(総合)					
成績は、レポートによってつける。出席は、欠格条件として扱い、全授業の3分の2以上の出席が求められる。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012225004
開設科目名	言語情報学特許講義			単位	2 単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	PHILLIPS JOHN DAVID			区分	
授業の概要					
<p>This is a course in Machine Translation - making a computer translate from one language into another.</p> <p>Concentrating on the linguistic aspects of the problem, we will look at how to describe English and Japanese grammar in a form which a computer can use, and at how a computer can translate using these descriptions.</p> <p>中級程度の授業なので私の特殊講義(どれでも)の前期を必要とする。</p>					
授業の一般目標					
An understanding of the basic problems and techniques of Machine Translation from a linguist's point of view.					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
期末試験					
教科書					
参考書					
メッセージ					
授業では英語をよく使う。					
連絡先					
オフィシアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012225005
開設科目名	言語類型論演習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	乾 秀行			区分	
授業の概要					
<p>エチオピアで話されている言語の言語特徴を見ていくことを通して、言語の多様性を理解することを目的とします。言語が音声、形態、文法、意味に関してどのような構造や体系を作り上げているかを一緒に考えてみましょう。</p> <p>また、言語はその話されている地域の文化から言語構造だけを切り離して独立して存在できません。言語と文化の関係を正しく理解することも言語学の立派な勉強になります。</p>					
授業の一般目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 言語の多様性について理解を深める。 2. 構造と体系について考える。 3. エチオピアの文化を理解する。 					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
出席点、課題、期末テスト。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
f1566@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012225006
開設科目名	言語類型論演習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	PHILLIPS JOHN DAVID			区分	
授業の概要					
<p>Students will investigate aspects of the grammar and phonology of various languages, so as to understand the range of variation to be found in languages of the world.</p> <p>世界の言語の構造の多様性を理解するために、学生が様々な言語の文法や音韻を調査する。</p>					
授業の一般目標					
<p>Students will learn how to find information about a language and present that information. They will learn some ways in which languages differ.</p> <p>学生は言語についての情報を捜し出しその情報を発表する方法を学ぶ。文法の幅広い多様性について学ぶ。</p>					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
<p>the content of presentations and accompanying materials.</p> <p>授業内口頭発表の内容および伴う資料(トステ無し)。</p>					
教科書					
参考書					
メッセージ					
授業では英語をよく使う。					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012225007
開設科目名	言語理論演習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	武本 雅嗣			区分	
授業の概要					
この授業では、半年間、英語で書かれた認知言語学の論文を読んでいく。最初に認知言語学の立場の言語観について概説したうえで、Langacker の Subjectification (主体化) について学ぶ。					
授業の一般目標					
認知言語学的観点から書かれた論文を読むことによって、人間の認知の営みが反映された言語現象の分析方法を学ぶ。さらに、自分の専攻する個別言語における同様の現象について考察する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 認知言語学の言語観・方法論を深く知る。					
思考・判断の観点: 論文を批判的に読むことができる。					
関心・意欲の観点: 専攻する言語の現象を認知言語学的に分析できる。					
成績評価方法(総合)					
レポート: 70%					
授業への参加度: 30%					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
人文612研究室					
オフィスアワー					
火曜日 16:10～17:40					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012225008
開設科目名	言語理論演習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	乾 秀行			区分	
授業の概要					
卒業論文を書くためのゼミ生(3,4年)対象のゼミ演習です。言語学の論文を演習発表形式で読むことを通して、データの集め方、論文の書き方などについて、指導をします。					
授業の一般目標					
1. 言語データの取り扱い方について学習する。 2. 論文の書き方について学習する。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
出席点、発表、期末レポート。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
ゼミ生は必ず履修してください。					
連絡先					
オフィスアワー					
f1566@yamaguchi-u.ac.jp					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012225009
開設科目名	言語情報学演習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	PHILLIPS JOHN DAVID			区分	
授業の概要					
<p>プロログプログラミング(中級)</p> <p>Advanced programming in Prolog</p> <p>プロログで自然言語処理を応用する (NOT for beginners 初級プロログを必要とする。)</p>					
授業の一般目標					
自然言語処理の基礎から応用までを学ぶ。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
一週間おきに実施するプログラミングの宿題で判定する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
授業では英語をよく使う。					
連絡先					
初級プロログプログラミング					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012225010
開設科目名	フィールド言語学演習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	乾 秀行			区分	
授業の概要					
<p>世界言語の様々な音声を音声分析ソフトを使って分析する授業です。日本語の母音の数は5つですが、もっとたくさんの母音を持つ言語を話す人々は、それらの音を区別しています。また、日本人には難しい英語のrとlの違いなどもよく耳にする話です。中国語や朝鮮語には有気音と呼ばれる強い息を伴う閉鎖音があります。このように、それぞれの言語には、音に関して様々な特徴があります。この授業では一般音声学的視点に立って、人間の言語音すべてを対象に、まず調音音声学的観点から言語音の出し方をマスターし、つぎにその言語音の違いを音響音声学的に調べてみましょう。</p>					
授業の一般目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 一般音声学の知識を身につける。 2. 音声分析ソフトを使って分析する。 3. 世界の言語の多様性を理解する。 					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
出席点、発表、期末レポート。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
ノートパソコンを使います。					
連絡先					
f1566@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012225011
開設科目名	言語類型論演習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	PHILLIPS JOHN DAVID			区分	
授業の概要					
Students will define writing, study how writing developed and spread, and how writing relates to spoken language.					
授業の一般目標					
In weekly classes students will demonstrate basic understanding of key concepts through in-class and outside-of-class assignments and class participation.					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
In-class assignments and homework:40%					
Project:40%					
Final exam:20%					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
jimreb@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012501001
開設科目名	現代法(国際法を含む。)			単位	2単位
対象学生				学年	2～4
担当教員	道廣 泰倫			区分	
授業の概要					
<p>法は古代法から中世法、近代法および現代法へと発展してきているので、まず古代法、中世法および近代法の特徴について学び、次いで、とくに近代法との関係で、現代法の特徴を各法の基本原理をとおして学ぶ。</p>					
授業の一般目標					
<p>近代法の体系は私法と公法から成っていたが、現代法の体系は、さらに社会法が追加されている。なぜそうなったのかを理解することを目標とする。</p>					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
<p>試験の成績に出席を加味する。(全授業の3分の2以上の出席を要する。)</p>					
教科書					
<p>現代法学(第2版) / 道廣泰倫:法律文化社, 2002</p>					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012501002
開設科目名	自然地理学			単位	2単位
対象学生				学年	2~4
担当教員	貞方 昇			区分	
授業の概要					
日本人が目にしている自然環境と呼ばれるものが、どのようにして歴史的に形成されてきたかを知り、その意義を捉え直す。					
授業の一般目標					
歴史的に形成されてきた自然景観をおもに自然地理学的な切り口から考察し、地誌的な理解に接近する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 人間の歴史的な自然への働きかけを、その時代の技術や制度の仕組みとともに整理して理解できるようにする。					
思考・判断の観点: 大縮尺地図に描出されている歴史的な人間活動の証拠を見出し、その意味を類推し、応用できるか。					
関心・意欲の観点: 「自然景観」に潜む歴史的な人間の営みに地図等を用いてアプローチすることに知的な関心を有するか。					
技能・表現の観点: 授業の中での地図作業により、説明しようとする事柄を他の人に示せるように表現できるか。					
成績評価方法(総合)					
授業中の地図作業や課題発表、期末試験等を複合して評価する。					
教科書					
参考書					
土地に刻まれた歴史(岩波新書)/古島敏雄:岩波書店,1967					
歴史時代の地形環境/日下雅義編:古今書院,1980					
中国地方における鉄穴流しによる地形環境変貌/貞方 昇:溪水社,1996					
平野の環境考古学/高橋 学:古今書院,2003					
遺跡の環境考古学/外山秀一:古今書院,2006					
メッセージ					
私たちが「自然」と思っている身の回りの景観が、人間による長い間の自然への働きかけの結果であることの意義を大縮尺地図を用いて、また大学周辺の土地景観を実際に見て回ることにより、具体的に考えてゆきたい。					
連絡先					
sadakata@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
火曜日 11:50~12:50					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012501003
開設科目名	博物館学各論			単位	2単位
対象学生				学年	2～4
担当教員	渡辺 一雄			区分	
授業の概要					
<p>学芸員資格取得に必要な必修科目のひとつである「博物館資料論」を中心に講義する。</p> <p>「博物館資料論」は、博物館資料の収集・整理保管・展示等に関する知識・技術の習得を図るもので、講義では、併せて、博物館資料としての文化財を取りあげ、文化財保護のしくみやその取り扱いについてもふれる。</p>					
授業の一般目標					
博物館資料の取り扱いに関する知識・技術の習得を図る。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
期末試験および授業態度(出席など)で評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
watanabe@baiko.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012501004
開設科目名	博物館学各論			単位	2単位
対象学生				学年	2～4
担当教員	北川 健			区分	
授業の概要					
博物館「経営論」の立場から、(1)教育普及活動、(2)組織・職員、(3)マネジメント論、(4)行財政制度、(5)情報化について、その基本と課題を学習し、それぞれの実際の状況と動向をOHP映像で概観する。					
授業の一般目標					
(1)博物館「経営論」「情報論」登場の意義を理解する。					
(2)博物館教育の普及進展について理解する。					
(3)博物館の経営形態とそのマネジメントを知る。					
(4)外国博物館の社会的基盤についても知る。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 博物館の経営や情報の基本的事項について知っている。					
思考・判断の観点: 博物館について経営論や情報論と関連づけて考えることができる。					
関心・意欲の観点: 博物館関係の情報や動向に関心を持ち、博物館への問題意識を持つ。					
態度の観点: 展覧会を観覧したり、博物館でのボランティアも体験したりしている。					
技能・表現の観点: センスある短文やイラスト表現を伴った広報案などが企画できる。					
成績評価方法(総合)					
(1)毎回小テストを行うことで、出席確認をするとともに理解度を把握する。					
(2)時に「課題」を出し、「自主レポート」を提出する機会を与えることがある。					
(3)期末テストを行い、その成績に即して、また(1)(2)を斟酌して評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012501005
開設科目名	生涯学習施設経営論			単位	2単位
対象学生				学年	2～4
担当教員	大森 善一			区分	
授業の概要					
生涯学習の振興、図書館サービスの充実を図る視点から図書館経営に係る組織、管理運営、予算、事業計画等企画立案ができるよう専門的な知識習得について解説する。					
授業の一般目標					
図書館司書としての自覚と教養を高め、卒業後、図書館界において活躍できる人材を養成したい。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
期末試験及び出席日数によって評価する。 出席が所定の日数に満たない者は不合格とする。					
教科書					
図書館経営論 / 竹内紀吉:東京書籍					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012501006
開設科目名	情報検索演習			単位	2単位
対象学生				学年	2～4
担当教員	村田 孝子			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012501007
開設科目名	資料組織概説			単位	2単位
対象学生				学年	2～4
担当教員	加藤 宏文			区分	
授業の概要					
<p>情報化・国際化社会の「進歩」につれて、私たちは分量と種類と速さにおいて、未曾有の「情報」にとりまかされている。この混迷の中で、地域や民族の独自性を尊重しつつ、かつグローバルな価値を追究するためには、「情報」にどう対処するか、その具体的なスタンスや方法が、厳しく問われている。図書館における収集と提供の「自由」を活かすための資料の「組織」法の具体を考え合う。</p>					
授業の一般目標					
<p>資料が「組織」されなければならない理由を理解した上で、その制御の具体的なあり方に触れ、標準化のもたらす長短を考察する。さらに、具体的に各人の主題意識を確認した上で、「組織」の実態に迫りつつ、検索・分類・キーワード・件名などの関係を吟味し、その改善方法を獲得し合う。</p>					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
<p>随時、「理解」と展望との成果を「表現」することを求め、「評価」を重ね、後半数時に亘って、「組織」の実際を工夫することを求める。 遅刻者の入室は許可しない。</p>					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012501008
開設科目名	児童サービス論			単位	2単位
対象学生				学年	2～4
担当教員	山本 安彦			区分	
授業の概要					
<p>公共図書館における児童を対象とする各種サービス、児童資料の概要、児童図書館の運営等について総合的に解説する。特に、できるだけ多くの資料を紹介しながら、ヤングアダルトサービスや2000年の「子ども読書年」以降の子ども読書活動動向進捗状況についても解説する。</p> <p>理解を助けるため適宜VTRを使用する。</p>					
授業の一般目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 児童サービスの基本理念と実際の業務・技術を学習することにより、公共図書館における「児童サービス」の位置付けや、基本的な事項を理解する。 2. 児童資料についての理解を深める。 					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 児童サービスの歴史と現状等について総合的に説明できる。</p> <p>思考・判断の観点: 児童資料の選択ができる。</p> <p>関心・意欲の観点: 各児童に適したサービスができる。</p> <p>態度の観点: 公共図書館における児童サービスについて主体的に考える。</p> <p>技能・表現の観点: 児童書の書評・紹介文が書ける。</p> <p>その他の観点: 自分の考えを文章化できる。</p>					
成績評価方法(総合)					
<ul style="list-style-type: none"> ・毎回、A5用紙に授業に関する事項について記述し、提出する。 ・最終授業時間にB4 1枚に記述式試験をする。 ・児童書に関するレポートを提出する。 <p>以上を総合的に評価する。</p> <p>なお、出席が所定の回数に満たない者には、単位を与えない。</p>					
教科書					
児童サービス論 新訂版 / 堀川照代 編著: 日本図書館協会, 2005					
参考書					
メッセージ					
児童サービスで扱う資料は、乳幼児向け絵本からヤングアダルトまで幅広い世界です。実際にできるだけたくさんの資料と出会い、児童書、児童サービスの魅力にふれてください。					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1012501009
開設科目名	資料特論			単位	2単位
対象学生				学年	2～4
担当教員	北川 健			区分	
授業の概要					
図書館など公的な資料保存施設での近世文献資料の取扱い業務を前提に、書誌学や古文書学の初歩を学ぶとともに、主として和本の読み方の基本を練習する。読み方は変体仮名を主範囲とし、『女(おんな)大学』を読み始められる程度までを目標とする。					
授業の一般目標					
1近世文献資料についての公的保存の役割を理解する。 2近世文献資料にかかわる書誌学の初歩知識を学ぶ。 3近世文献資料にかかわる古文書学の初歩知識を学ぶ。 4近世文献資料の読み方について初歩練習をする。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 和本や古文書の基本的な事項について説明できる。					
思考・判断の観点: 和本や古文書について基本的な扱い方があることをわかまえる。					
関心・意欲の観点: 近世文献資料の内容を少しでも理解しようと初歩的にも取り組むことができる。					
態度の観点: 近世文献資料の意義を理解し、これらを大切に扱おうとする態度をもつ。					
技能・表現の観点: 変体仮名の基礎的な読み方ができる。					
成績評価方法(総合)					
(1) 毎回小テストを行い、出席を確認するとともに、理解度を把握する。 (2) 時に課題を出して自主レポート提出の機会を与えることがある。 (3) 期末試験の成績を基本に(1)(2)を斟酌して総合的に評価する。					
評価割合備考: 期末試験は100～95%、小テストは場合により5%、出席は小テスト成績に含む。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	1013225001
開設科目名	言語類型論演習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	筒井 明子			区分	
授業の概要					
西洋文化の基底としてのギリシア語はキリスト教、中世を経て、近現代に迄、脈々と続いています。英語の theory は「観想」を意味するテオリアから、また psychology は「魂」を意味するプシュケーに由来しています。この例からも分かる通り、一度ギリシア語に触れておくことで意外な場面で、学習の成果が現れて、先々で役に立つことがあります。古典語としてのギリシア語は西洋文化の深層部分で作用しているのです。					
授業の一般目標					
前期					
ギリシア語初歩の基礎的な知識を獲得する。					
後期					
ギリシア語の基礎的な文法力を応用できるようにする。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
年間を通して、ギリシア語の基礎的文法力を理解できているか。					
年間を通して、ギリシア語の基礎的構文把握力が身についているか。					
作文、訳、試験、テキストの練習問題を訳させ、最終試験の結果を見て判断する。					
主として平素の努力を重視する。					
教科書					
ギリシア語入門(改訂版) / 田中美知太郎 松平千秋(共著) :岩波書店					
参考書					
A Greek-English Lexicon Oxford intermediate,,					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	1013225002
開設科目名	言語類型論演習			単位	2単位
対象学生				学年	2～3
担当教員	筒井 明子			区分	
授業の概要					
ラテン語は近現代のロマンス語の元であり、且つ英語などにも多大な影響を与えた言葉です。英語の語源を探っていくとそこにラテン語が介在していることがしばしばあります。またこの授業では触れませんが、病理学や化学などの専門用語としてその名残をとどめています。この様にラテン語は、一度学習すると将来に向けての様々な選択肢ができる可能性を秘めた言葉なのです。					
授業の一般目標					
前期 ラテン語の中級程度の文法力を身につける。					
後期 普通のラテン語が難なく読め、ラテン語が様々な語学に与えている影響を理解する。 中・上級者向けの構文把握力を身につける。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
前期 ラテン語の基礎的变化を身につけて、問題を訳させる。主として平素の努力を重視する。					
後期 テキストの練習問題を音読して、訳出する。後期末に最終試験を行う。 主として平素の努力を重視する。					
教科書					
新ラテン文法 / 松平千秋・国松吉之助(共著) : 東洋出版					
参考書					
羅和辞典(改訂新版) / 田中秀央編: 研究社, 1966					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	1013501001
開設科目名	ギリシア語			単位	4単位
対象学生				学年	2～4
担当教員	筒井 明子			区分	
授業の概要					
西洋文化の基底としてのギリシア語はキリスト教、中世を経て、近現代に迄、脈々と続いています。英語の theory は「観想」を意味するテオリアから、また psychology は「魂」を意味するプシュケーに由来しています。この例からも分かる通り、一度ギリシア語に触れておくと意外な場面で、学習の成果が現れて、先々で役に立つことがあります。古典語としてのギリシア語は西洋文化の深層部分で作用しているのです。					
授業の一般目標					
前期					
ギリシア語初歩の基礎的な知識を獲得する。					
後期					
ギリシア語の基礎的な文法力を応用できるようにする。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
年間を通して、ギリシア語の基礎的文法力を理解できているか。					
年間を通して、ギリシア語の基礎的構文把握力が身についているか。					
作文、訳、試験、テキストの練習問題を訳させ、最終試験の結果を見て判断する。					
主として平素の努力を重視する。					
教科書					
ギリシア語入門(改訂版) / 田中美知太郎 松平千秋(共著) :岩波書店					
参考書					
A Greek-English Lexicon Oxford intermediate,,					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	1013501002
開設科目名	ラテン語			単位	4単位
対象学生				学年	2～4
担当教員	筒井 明子			区分	
授業の概要					
ラテン語は近現代のロマンス語の元であり、且つ英語などにも多大な影響を与えた言葉です。英語の語源を探っていくとそこにラテン語が介在していることがしばしばあります。またこの授業では触れませんが、病理学や化学などの専門用語としてその名残をとどめています。この様にラテン語は、一度学習すると将来に向けての様々な選択肢ができる可能性を秘めた言葉なのです。					
授業の一般目標					
前期 ラテン語の中級程度の文法力を身につける。					
後期 普通のラテン語が難なく読め、ラテン語が様々な語学に与えている影響を理解する。 中・上級者向けの構文把握力を身につける。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
前期 ラテン語の基礎的変化を身につけて、問題を訳させる。主として平素の努力を重視する。					
後期 テキストの練習問題を音読して、訳出する。後期末に最終試験を行う。 主として平素の努力を重視する。					
教科書					
新ラテン文法 / 松平千秋・国松吉之助(共著) : 東洋出版					
参考書					
羅和辞典(改訂新版) / 田中秀央編: 研究社, 1966					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	1013501003
開設科目名	書道			単位	4単位
対象学生				学年	2～4
担当教員	佐貫 陸子			区分	
授業の概要					
本授業では実用書から芸術書まで応じられる書技を演習し、審美眼を養い、素質教育(一人一人の素質を高める)の有効な一手段として活用出来るようにする。					
授業の一般目標					
漢字五体(篆書・隸書・楷書・行書・草書)と仮名の美を学ぶ。 特に楷書・行書は指導者レベルまで書写能力を高める。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 書体の変遷と筆法を理解する。					
思考・判断の観点: 文字をデフォルメし、運筆のリズムを工夫して自分なりの表現を試みる。					
関心・意欲の観点: 1年もしくは半年、1つの古典を追求してみる。					
態度の観点: ふだんから創作に役立つ詩文(詩、短歌、俳句、小説、歌詞)を理解しておく。					
技能・表現の観点: 行書での部首の書き方を修得し、手本書きに応用する。					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
根気が大切です。上手、下手ではなく、懸命な努力が魅力あるものに変えていくことを考えなおさなくては意味がありません。安易に書いても進歩しません。書を通じて何ものかを掴んでくれることを期待します。					
通年なので、油断しないで頑張ってください。					
書道ノートを作成し、毎回の講義内容を記録、整理しておくこと。					
連絡先					
0836 - 58 - 5236					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	1013501004
開設科目名	資料組織演習			単位	4 単位
対象学生				学年	2～4
担当教員	松本 敬吉			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					